"孤高の天才対決"!! 田村潔司vs瀧本誠が渦を起こす!!

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

880 yen

WANIMAGAZINE MOOK

88
2005

狼のPRIDEは
連鎖する!!

狼魂伝承!!

幻想大国2005
ロシア現地徹底取材大特集

ロシア軍特殊部隊師弟対談
セルゲイ・ハリトーノフ
×
ヴォルク・ハン

"皇帝"がミルコを挑発三昧!
独占ロングインタビュー
エメリヤーエンコ・ヒョードル

全世界に先駆け本誌独占スクープ!
"リングスの殿堂"が
ロシアでついに完成!!

革命度加速!!
川田vsインリン様!
小川vs安田!!
ハッスル福岡&大阪に
衝撃の大激震!!

闘龍門8周年記念inアレナメヒコ
"伝説の虎"が27年ぶりにメキシコ飛来!
初代タイガーマスク
×
ウルティモ・ドラゴン

驚愕の"上井プロデュース"対談
柴田勝頼×掟ポルシェ

新生『PRIDE武士道』
いきなり大爆発!!
五味隆典
川尻達也
ヨアキム・ハンセン

7.6『HERO'S』に
"前田の兵隊"が続々出場!

オランダで"サイボーグ"と再会!
「日本で曙、角田と闘う!」
ディック・フライ

アブダビコンバット2005
カラー17P大特集!!

マット界に新たな論客
菊地成孔、本誌初登場!!

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZINE MOOK 2005 NO. 88

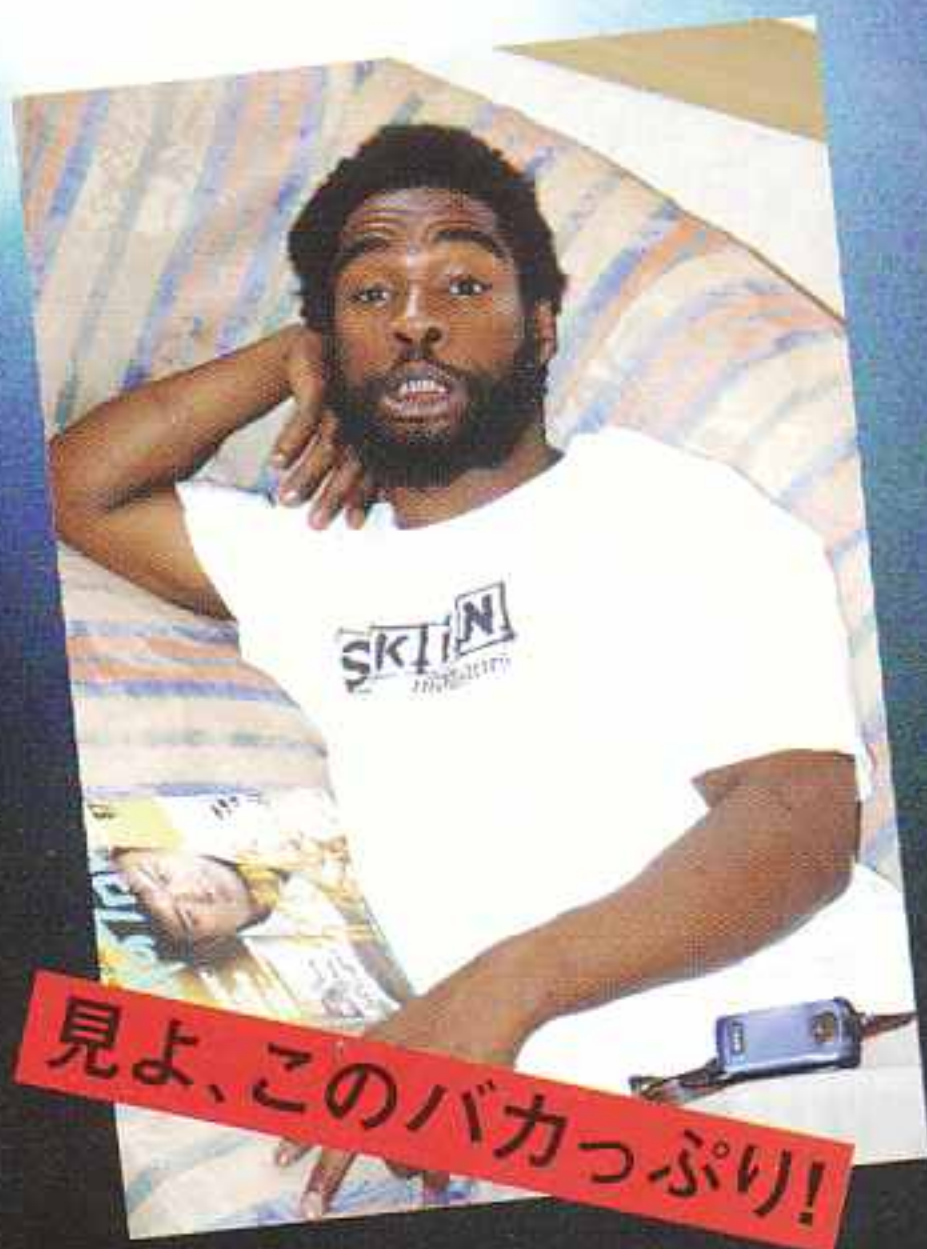
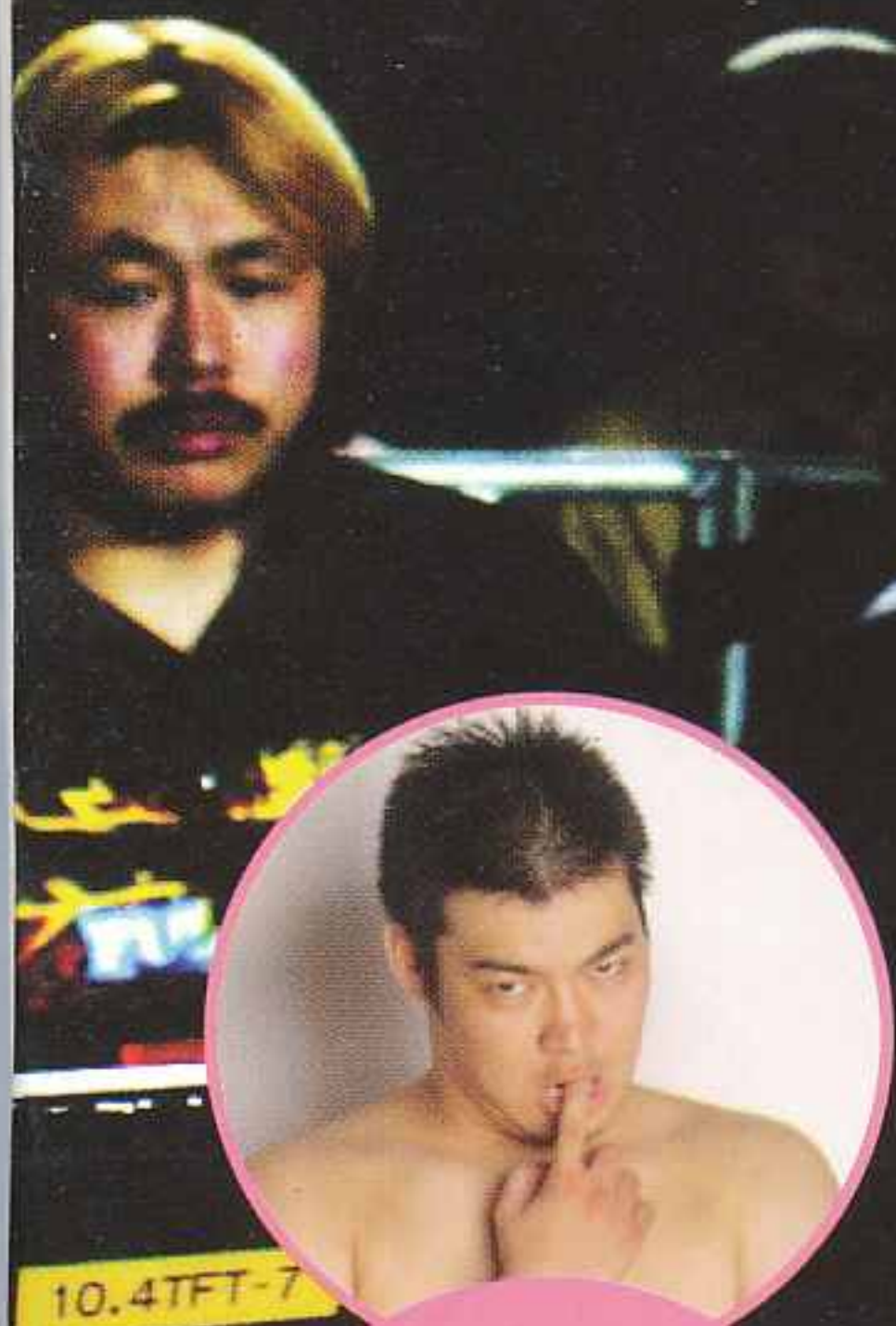
幻想大国2005 ロシア現地徹底取材大特集

平成17年7月20日発行 編集発行人／山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話／03-5368-1795
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

“馬鹿馬”

前田吉朗の連勝記録をストップさせた

チャールズ・“クレイジー・ホース”・ベネットが

金曜コラム「プロレスラー&格闘家へ50の質問」に登場!!

見よ、このバカっぷり!

男色ディーノの
魅惑の天下一Jr
巡業旅日記も
スタートよ♥

月額
315
円
(税込)

携帯サイト「紙のプロレスHand」への簡単アクセス方法

1
QRコードで
クイック・
アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/
を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.comへ空メールを送信

どの方法でもOKです!!

ユーザーとプロレスする携帯サイト

紙のプロレス
Hand

月曜コラムはＩ編集長が毎週激筆、木曜コラムはターザンが毎週激愛中!!

[お問い合わせ] (株)ダブルクロス 03-5368-1795

拝啓 ミルコ・クロコップ殿

私は逃げも隠れもしません。

エメリヤーエンコ・ヒョードルからの返答

ル

enko Fedor

運命のミルコ戦、8月に延期!
されど“皇帝”はキラー発言連発!!

ミルコは3番手の選手 私に逃げる理由はない

ヒョードルよ、またしてもミルコから逃げるのか!
右手人差し指のケガが完治せず、運命のミルコ戦がまたしても延期となり、
そんな声が日増しに強くなる中、本誌はロシア・サンクトペテルブルグへ飛び、
渦中のヒョードルを独占直撃! ケガの治りが遅れ、さぞかし焦っているかと思いきや、
皇帝は余裕の表情を浮かべ、逆にイラつくミルコをあざ笑うかのように、挑発的な発言を連発した!
この自信は一体なんなんだ!? ロシアでついにあらわになったヒョードルの本性を読め!

聞き手/橋本宗洋 撮影/乾晋也 構成/堀江ガンツ
designed by hisa (Two Three)

[サンクト・ペテルブルグ現地独占インタビュー]

Emelianen

エメリヤーエンコ・ヒョードル

幻想大国
RUSSIA
2005

——いや〜、こうしてロシアでヒョードル選手にインタビューできるとは感激です！

ヒョードル　わざわざ来ていただいて、私も嬉しいです（微笑）。

——昨夜は所属チームであるレッドデビルの会長、ワジム氏主催の船上パーティーだったんですが、エンジョイできました？

ヒョードル　ええ、楽しいパーティーでした。ワジム会長のパーティーには何度も来ているんですが、毎回派手で面白いですね。ただ、ああいう賑やかな場所にいると、やっぱり疲れますね。終わったらゆっくり休まないといけないです。

——普段は地元スタールイ・オスコルで活動しているヒョードル選手ですが、レッドデビルの本拠地である、ここサンクトペテルブルクにはどれくらいのペースで来ているんですか？

ヒョードル　けっこう頻繁に来ていますよ。月に一回くらいの間隔ですね。

——今回はどういった理由で来られたんですか？

ヒョードル　今回は自分のアパートを購入するために来たんですよ。これまではワジム会長が借りてくれていたんですが、そろそろ自分で買おうかなと。サンクトペテルブルグでは2軒目ですね。

——あ、もうすでに1軒持ってるんですか（笑）。別宅を2軒持つとは豪勢ですねぇ！

ヒョードル　（微笑）。

——サンクトペテルブルグでの生活や練習は、スタールイ・オスコルと比べてどんな違いがありますか？

ヒョードル　サンクトペテルブルグはスタールイ・オスコルよりもずっと都会ですが、歴史のある街なのでとても好きですね。気持ちが落ち着きます。ただ練習の面では、スタールイ・オスコルの方がいいでしょうね。練習する以外、他にすることがないですから（笑）。

——嫌でも練習に集中できる環境だと（笑）。それから、ここに来る前に温泉治療をしていたということですが？

ヒョードル　そうです。キスロボツクという保養地にあるサナトリウムに、3週間ほど家族と一緒に行っていました。そこの温泉の水が、とても体にいいと言われているんですよ。

——じゃあそこで治療兼休養を取って、いまはかなりリラックスできている感じですか？

ヒョードル　こちらとはちょっと気候が違うので慣れるのに時間が必要ですけど、いい休養が取れたのは間違いないですね。もう間もなく、本格的な練習に入ろうと思っています。

——いま、ヒョードル選手は映画の撮影もされているそうなんですが、これはどういった内容なんですか？

ヒョードル　これは私に関するドキュメンタリー映画で、ファイターとしてだけでなく家族も含めた私の生活すべてに深く入り込んだ内容になる予定です。いま撮影の途中なんですが、かなり面白いものになりそうですね。

——それは楽しみですねぇ。完成はいつ頃の予定ですか？

ヒョードル　これからもいろいろと撮影の予定は入っていて、まずオランダでの練習を撮ることになっています。それから日本にも撮影クルーが入って、試合も収録することになりますね。映画のクライマックスはミルコ戦になると思います。

——ミルコ戦がクライマックス！　となるとますます負けられないですね（笑）。それから、3月にヒョードル選手が市から表彰されたという話もうかがったんですが、これはどういうものだったんですか？

ヒョードル　スタールイ・オスコル市が属するベルゴロド州の州政50周年を記念した式典で、『ベルゴロド州の50年で最も重要な50の出来事』の中の一つとして、私が表彰されたんですよ。州の発展に寄与したということですね。

——州の歴史に名を残す英雄として表彰されたと。そんなヒョードル選手に関して、いま我々が一番気になっているのは拳のケガなんですが、治り具合はいかがですか？

ヒョードル　具合はかなりいいですし、これからもっと良くなっていくと思います。

——いま、練習はどんな感じですか？

ヒョードル　いまやっているのは、主にランニングですね。やはりケガをした箇所が箇所なので、まだ打撃の練習はできていないんです。組み技も本格的にはできないですね。焦って練習するよりも、いまは完全にケガを治すことに集中しようと。

——本格的な練習はいつ頃からスタートできそうですか？

ヒョードル　具体的には言えませんが、そう遠くはないと思いますし、できるだけ早く始めたいと思ってます。特に今度の試合はハードなものになりそうですから、しっかり練習しておかないといけないですね。

（右上）これがレッドデビル代表ワジム氏所有の船上レストラン。河の向こう岸にはエルミタージュ美術館が見える最高の立地だ。（右下）中で行われていたパーティはご覧のようにエキサイティング。ハンモックみたいなものの上で踊っている女の子はトップレス！（上）こういう場所にヒョードルがいるのが凄い。

オランダでは私がホースト選手に打撃を習うだけでなく、逆に寝技を彼に教える予定です。

Emelianenko Fedor

幻想大国
RUSSIA
2005

——その「今度の試合」なんですが、ミルコ選手とのヘビー級王座防衛戦になるわけですよね？

ヒョードル　その通りです。

——ズバリ、時期的にはいつ頃になりますか？

ヒョードル　8月ですね。ケガもありますが、それまでにできるだけ100％に近い状態にしておきたいと思います。

——ミルコ選手への対策は順調に進んでいますか？

ヒョードル　いろいろとやっています、とだけいっておきましょう（微笑）。

——なるほど（笑）。今度オランダに行くのも、その一環というわけですね。

ヒョードル　そうです。ヨハン・ボスさんのところで練習する予定でいます。

——ボスジム！　ということは、アーネスト・ホースト選手と一緒に練習することになるんでしょうね。

ヒョードル　そうするつもりでいます。前回オランダに行ったときは、ホースト選手と話はできたんですけど練習ができなかったので、今回はとても楽しみですね。

——ホースト選手やヨハン・ボス会長から、どんなことを学びたいと思っていますか？　まあ、ミルコ対策以外にはありえないと思うんですが（笑）。

ヒョードル　そういうことですね（微笑）。ただそれだけではなくて、ホーストという素晴らしいチャンピオンと、人間的ないい関係をこれから築いていきたいとも思っています。それから、私からホースト選手に寝技を教えることにもなると思いますよ。

——えっ!?　ホースト選手が総合に挑戦するんですか？

ヒョードル　どうなるかは分からないですが、お互い寝技の練習をしようと思っているのは確かですね。

——その辺の関係もまた面白いですねぇ。ミルコ選手に話を戻すと、彼は日本の雑誌上で「またしても逃げるのか！」というようなことを言っているんですよ。一昨年の対戦予定がヒョードル選手のケガで流れ、今回も対戦がなかなか決まらないことで、かなり怒っていると。

ヒョードル　私が逃げている？　そうですか……（タメ息）。まあ、そのことは気にしないでおけばいいと思います。2003年にしても今回にしても、私がケガをしているのは事実なんですから。もし必要であれば、ミルコのところにレントゲン写真を送ってもいい。いずれにしても、大事なのはミルコが何を言っているかではなくて、ファンの人たちがどう思っているかです。そしてファンの人たちに言っておきたいのは、私は決して逃げないということです。前回も逃げたわけではないし、今回も絶対に逃げません。

——ヒョードル選手への批判も含めて、言いたいことを言いまくるミルコ選手をどう思いますか？

ヒョードル　どうでしょうね。ミルコが何を言おうと自由ですが、私のことに関してはちょっと言いすぎなんじゃないですか。彼はノゲイラに負けているし、ランデルマンにも負けていますよね。そう考えると、彼の実力そのものを疑わざるをえない。

——確かに、ヒョードル選手はノゲイラ選手、ランデルマン選手に完勝しているわけですからね。自分のことをとやかく言うんなら、去年のヘビー級GPで決勝まで上がってくればよかったじゃないか、という感じですか。

ヒョードル　口でいろいろ言う前に、実力を見せてほしいですね。「オレは世界一だ！」というのは、言葉ではなくて結果で証明するものですよ。

——ただ、いま現在のミルコ選手は連勝を重ねていますよね。それに対してはどう見ていますか？

ヒョードル　確かに、調子はよさそうですね。私も彼のことを決してナメているわけではないですし。

——手強い相手なのは間違いないと。

ヒョードル　そうですね。強いか弱いかでいったら、それは彼は強いですよ。ただヘビー級の中では、彼はあくまで3番目のファイターです。

——3番目ですか！　というとまずはヒョードル選手がいて、その次が……。

セルゲイとは闘おうという気になれないんですよ
正直言って彼とはあまり関わりたくないですね

ヒョードル　ノゲイラでしょうね。そしてミルコはその次ですよ。これは私だけの意見ではなくて、インターネットや雑誌のランキングなどを見ても、それが現実だと思いますね。

——ヘビー級GPの決勝戦を争ったヒョードル選手とノゲイラ選手がトップの2人で、ミルコ選手はその次だと。つまり最強のチャレンジャーではないということになるわけですか……?

ヒョードル　最強のチャレンジャーというよりも、私が持っているベルトを一番ほしがっているファイター、という印象ですね。

——厳しい評価ですねぇ（笑）。

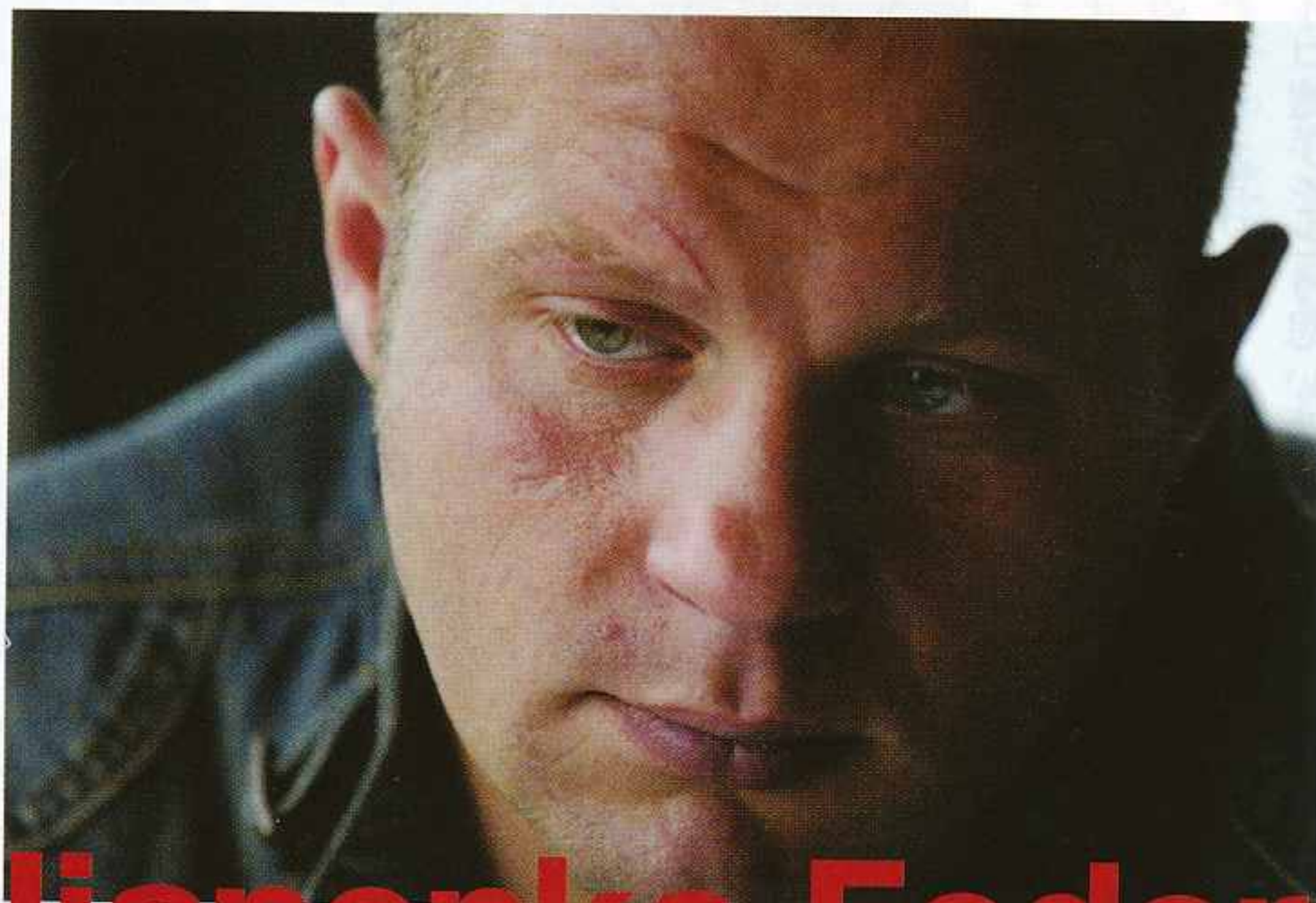
ヒョードル　私とノゲイラは、ヘビー級GPにエントリーし、厳しい試合を勝ち抜いて決勝戦に進出しました。だから私たちがトップと2番目であることは間違いないと思いますね。それに対してミルコは一回戦でランデルマンに負けているわけですから、やはり3番目でしょう。

——まあミルコ選手はランデルマン選手にリベンジを果たしてはいるんですが……。

ヒョードル　ランデルマンに負けているから3番目かどうかも怪しいですね（笑）。

——そこまで言いますか！（笑）。ということは、ミルコ戦よりも過去のノゲイラ戦の方がハードなものだろうと。それをヒョードル選手は見事にクリアしてきたわけですから……。

ヒョードル　いや、でも決してミルコを甘く見ているわけではないですよ。選手にはそれぞれ個性がありますから、一概に「ノゲイラ戦よりミルコ戦が楽」だとはいえないと思います。ミルコ戦もハードなことには変わりがないですね。私はそれに対して充分に準備をして臨むだけです。

——ミルコ選手は6月の『PRIDE』でも試合をする予定なんですが、彼に対して何かメッセージ、言いたいことはありますか？

Emelianenko Fedor

ヒョードル　そうですねぇ……。まあ「頑張ってください」と。そこで彼が100%の実力を見せてくれれば、それでいいですよ。それと、私のことはあまり言わないように（笑）。

——ダハハハ！

ヒョードル　私は絶対に逃げないですから。私のことを言うよりも、自分の試合に集中した方が彼のためでしょう。

——ケガでなかなか練習や試合ができないことは、ストレスになってませんか？　イライラしたり、不安になったり。

ヒョードル　それはないですね。ファイターにとって最大の敵は自分の心が揺らぐことですから。そういうことがないようにいつも努めています。ミルコが何を言おうと、いまはケガを治すことが最優先ですよ。まあミルコも拳をケガした状態だったら、いますぐに闘ってもいいですけど（笑）。

——互角の条件でやろうと（笑）。

ヒョードル　彼もいまの私と同じ状態だったら、絶対に試合は避けると思いますけどね。

——ミルコ選手は、ヒョードル選手を倒して『PRIDE』のベルトを巻いた後、さらにUFCのチャンピオンになるという野望を持っているようなんですが、ヒョードル選手もそういう気持ちはありますか？

ヒョードル　世界にはいろんな格闘技の大会がありますが、私は『PRIDE』が最高の舞台だと思ってますから。他の大会のことはあまり考えていないですね。いずれ機会があれば、そういうこともあるかもしれないですが。とりあえずミルコがUFCのチャンピオンになっておけばいいんじゃないですか（笑）。

——『PRIDE』のベルトは難しいけど、UFCならチャンピオンになれるだろうと（笑）。

ヒョードル　そうですね。まあ、彼にそれができればの話ですけど（笑）。

——それも怪しいんですか（笑）。

ヒョードル　なにしろランデルマンに負けた選手ですからねぇ。

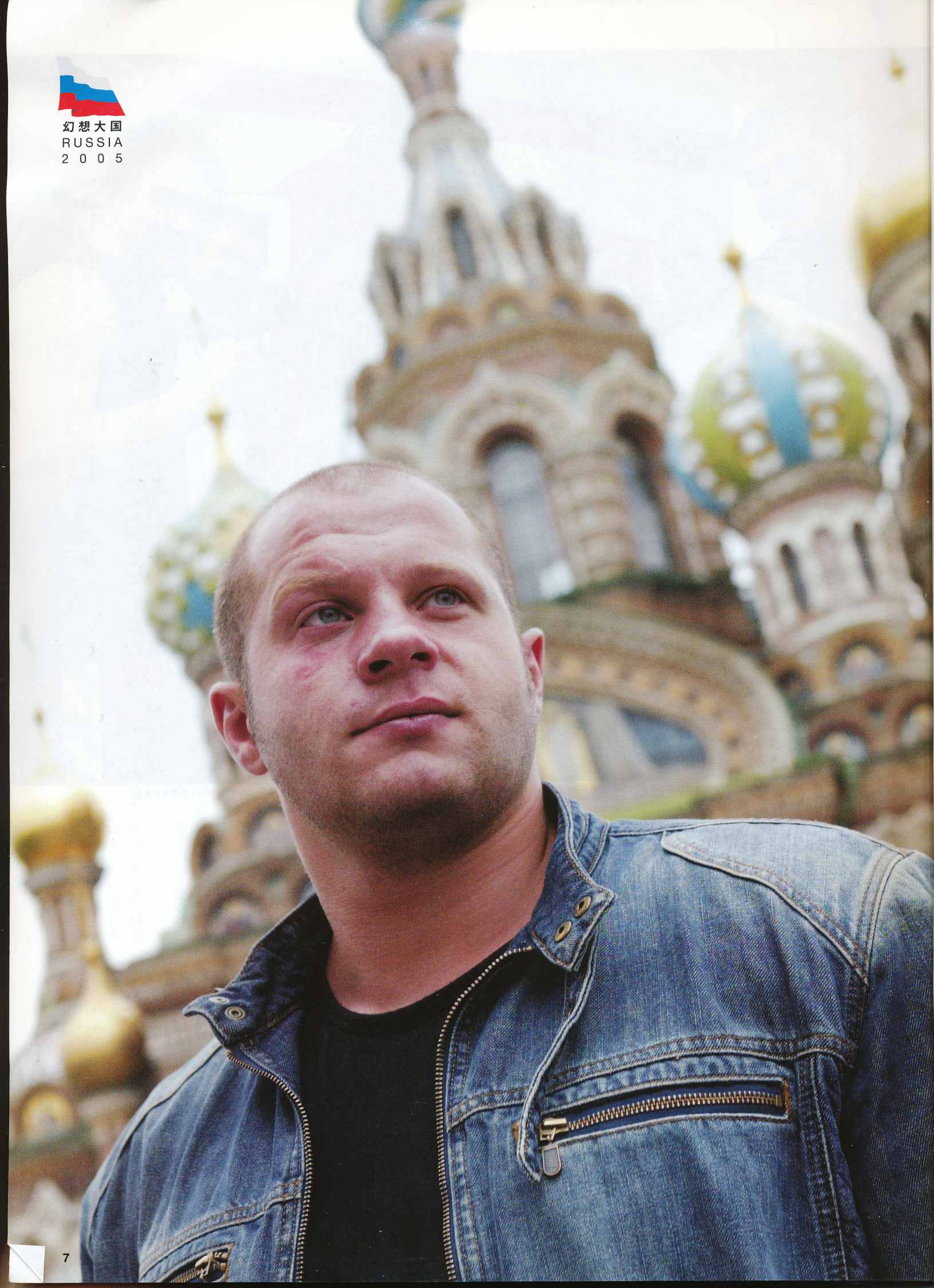
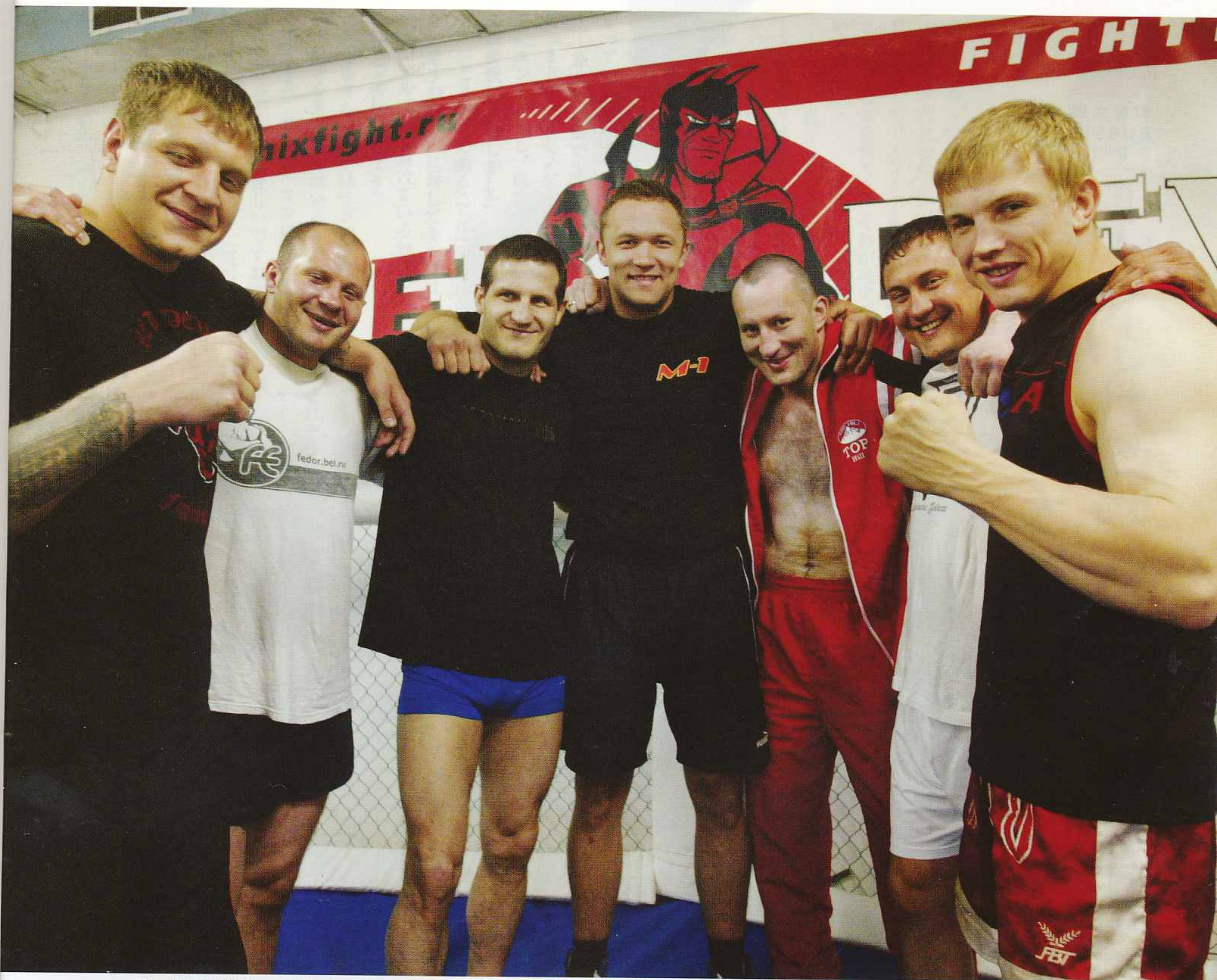
——ずいぶんそれを引っ張りますね（笑）。ところで、ヒョードル選手とミルコ選手が闘う8月の大会では、ハリトーノフ選手とマーク・ハント選手が次期挑戦者決定戦として対戦するプランが持ち上がっているらしいんですが、どちらが勝ち上がってくると思いますか？

ヒョードル　それは難しい質問ですね。寝技だったらハリトーノフが強いですし、立ち技ならハントが上でしょうから。得意の展開に持ち込んだ方が勝つとしかいえないですね。

——では、ヒョードル選手が闘いたいのはどっちの選手ですか？

ヒョードル　（即座に）ハントですね。

——それはどういう理由で？

ヒョードル　セルゲイ（ハリトーノフ）とは闘おうという気になれないんですよ。あ

チームワーク抜群のレッドデビルＡクラスのメンバー。このチームに移籍して１年半になるヒョードルもすっかり打ち解けていた。今後、彼らが『PRIDE』マットを席巻するか？

Emelianenko Fedor

まり関わりたくないというのが正直なところです。

——やっぱり元同門だけに、複雑な思いがあるんでしょうね……。

ヒョードル　私がロシアン・トップチームからレッドデビルに移籍したときに、セルゲイは私のことをあまり良く言っていなかったようなんですよ。それで彼が信じられなくなりましたね。いまは彼とは会いたくないです。

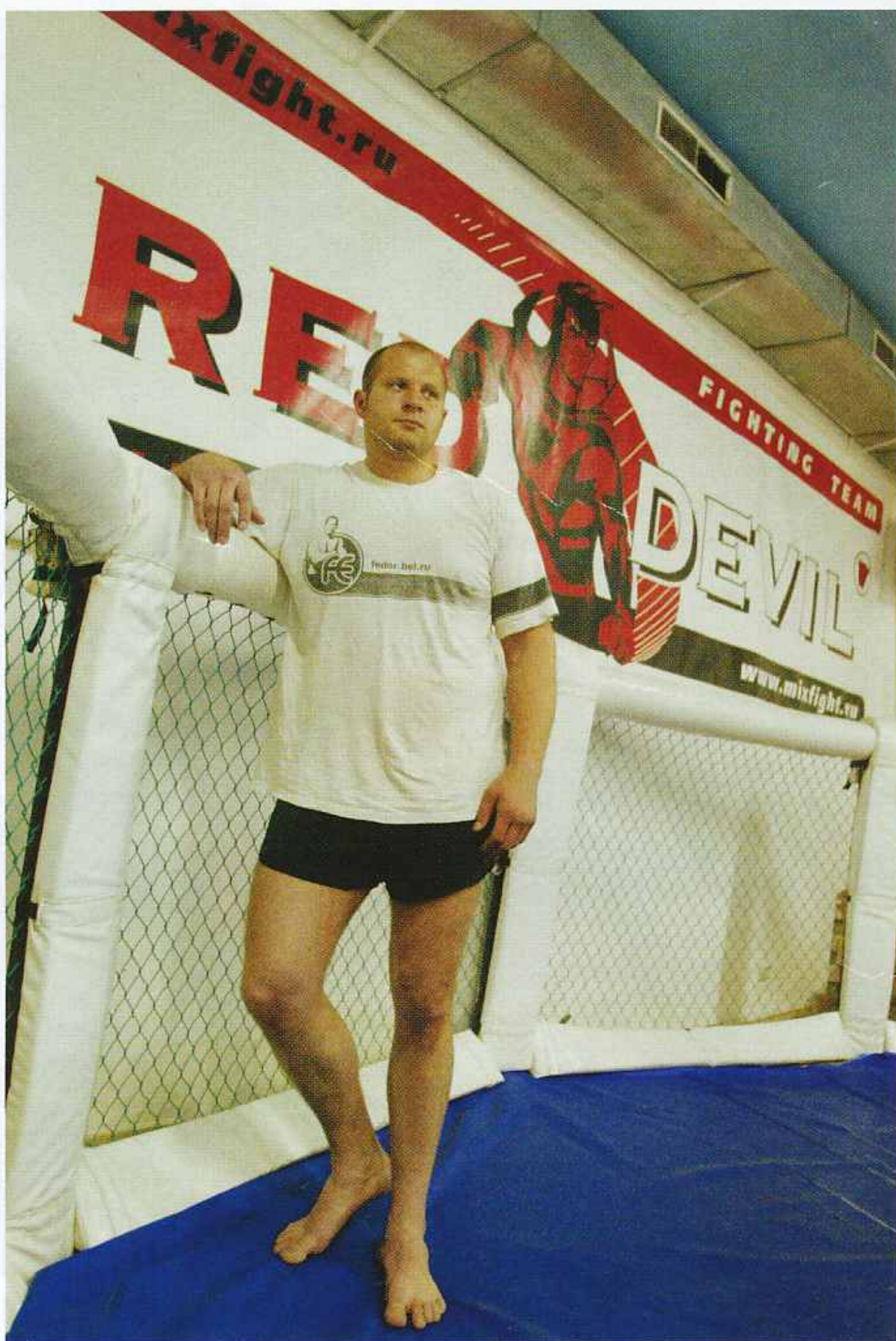
——ヒョードル選手は他人の批判はめったにしないんですが、ハリトーノフ選手にだけは手厳しいですよね。ＨＰでも彼に対して「マネージャーを変えるチャンス、もっと良い環境でトレーニングをするチャンスがあったのに。いまのままでは何も変わらない」と言っていましたし。

ヒョードル　そうですね。いまの彼のマネージメント、練習環境は決していいものとは思えない。とはいえ私はそれぞれの所属や練習環境が変わっても、彼との友情は変えたくないと思っていたんですけどね……。セルゲイの方から私を悪く言っているというのだから、付き合い方を考え直すしかなかった。

——昔の仲間として、より良い環境でもっと強くなってほしい、成長してほしいという気持ちは心のどこかにありますか？

ヒョードル　彼は彼で、自分が選んだ道を行けばいいと思いますね。好きにやってくれればいい。それより、いま私が成長してほしいと思っているのはレッドデビルの選手たちですよ。特に弟のアレキサンダーと、ロマン・ゼンツォフには高い可能性があると思います。

——もし今後ハリトーノフ選手と闘うことになったとして、ロシア人同士で試合をすることに抵抗はないですか？

ミルコはランデルマンに負けているようでは3番手であるかどうかさえ怪しいですね（笑）

ヒョードル　まったく問題はないですね。セルゲイには個人的な感情もありますが、マネージャーとプロモーターが試合を組めば自分は闘うだけです。

――しかし8月のミルコ戦に勝って、その次のハリトーノフvsハント戦の勝者も倒してしまったら、いよいよヒョードル選手の相手がいなくなってしまいますね。

ヒョードル　いや、そんなことはないでしょう。セルゲイとハントのどちらが勝つにしても、敗者にも今後、活躍する可能性はあります。それだけ強い選手ですから。他にもこれからスターになりそうな選手はたくさんいますよ。ヴァンダレイ・シウバだって、ヘビー級で充分にやれると思いますしね。

――シウバ選手との対戦も視野に入ってるんですか！

ヒョードル　強い選手であれば、誰とでも闘ってみたいですね。ヨシダ（吉田秀彦）もいい選手だと思います。あとは……やはり弟のアレキサンダーですね。今後、私の最強のチャレンジャーになるのはアレキサンダーじゃないかと思ってるんですよ。

――確かに、4月の『武士道』での試合（ヒカルド・モラエスを15秒でKO）を見る限り、その可能性は高そうですよね。あのパンチ連打には驚きましたよ。でも、ホントにアレキサンダー選手がチャレンジャーになったらどうします？（笑）。

ヒョードル　どうすればいいですかね（笑）。

――ねえ（笑）。

ヒョードル　面白い試合になるのは間違いないと思いますけどね。

――あ、やるのは全然問題ないと（笑）。

ヒョードル　サンボのトーナメントで対戦したこともありますし、大丈夫ですよ。もし私とアレキサンダーが『PRIDE』で闘うことになったら、美しい、いい試合になると思います。

――弟の顔面に思いっきりパンチできますか？（笑）。

ヒョードル　アレキサンダーが打ってきたら、私も遠慮しないですよ（微笑）。私とアレキサンダーが闘うということは、彼が最強のチャレンジャーなわけですから。そのときは精一杯闘わないといけない。アレキサンダーはそれだけ能力のある選手だということです。

――ヒョードル選手vsアレキサンダー選手の兄弟対決を楽しみといっていいのかどうかは分かりませんが（笑）、とにかくヒョードル選手の今後の試合を楽しみにしてます。

ヒョードル　ありがとうございます。まずは8月のミルコ戦に全力を傾けますので、日本のファンのみなさんも楽しみにしていてください。

――今日はホントにありがとうございました。次はまた東京で会いましょう。スパシーバ！

【05年5月29日／サンクトペテルブルグ・ワジムさん所有の船上レストランにて収録】

[次号予告／ロシア特集第2弾！]
ヒョードルが所属するレッドデビルを徹底リポート!!

高い取材費がかかってるロシア特集はまだまだ終わらない！　次号はヒョードルが所属するチーム『レッドデビル』を徹底取材リポート！ "ロシアの田中八郎" 大金持ちのオーナー、ワジム氏独占インタビュー他、アレキサンダー、ロマン・ゼンツォフらレッドデビル勢総登場。お楽しみに！

シュート部隊師弟対談

狼の魂は

Сергей Харитонов

幻想大国
RUSSIA
2005

ヴォルク・ハン×
セルゲイ・ハリトーノフ

まさに狼魂伝承！　正真正銘の師弟にして、同じロシア軍パラシュート部隊出身という肩書きを持つ、ヴォルク・ハンとハリトーノフの初対談がロシアでついに実現！　ロシアン・トップチームのエースとして、ヴォルク・ハンの後継者と呼ぶに相応しい闘いを見せるハリトーノフ。“ロシアの狼”ヴォルク・ハンの魂は、いまこの男に受け継がれる！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

ロシア軍パラシュート部

連鎖する

Волк ХаН

――さて、今日はファン待望のロシアン・トップチーム師弟対談が実現したわけですけど、ハンさんと一緒に取材というのはセルゲイ選手、いかがですか？

セルゲイ　ちょっと緊張しますね（笑）。

――もともとハンさんとセルゲイ選手が初めて出会ったのはいつなんですか？

セルゲイ　4年ぐらい前ですね。

ハン　私がトゥーラで道場をやっていて、ミーシャ、ヒョードル、アターエフ、ラバザノフらみんなそこに集まっていたんだが、その後、セルゲイもチームのメンバーとして入ってきたんだ。

――あ、セルゲイ選手も"ヴォルク・ハン格闘術"のメンバーだったんですね。チームに入るきっかけは何だったんですか？

ハン　アターエフがモスクワの小さな総合格闘技の大会に出たとき、私もセコンドとして同行していたんだが、セルゲイもたまたまその大会に出ていて強い勝ち方をしたんだ。そのとき「面白い選手だな」と思ったので、「トゥーラに来て我々と一緒に練習しないか？」と誘ったんだよ。

――ハンさんのスカウトだったわけですか！

ハン　そういうことだね。

――セルゲイ選手はその当時、ハンさんのことはすでにご存知だったんですか？

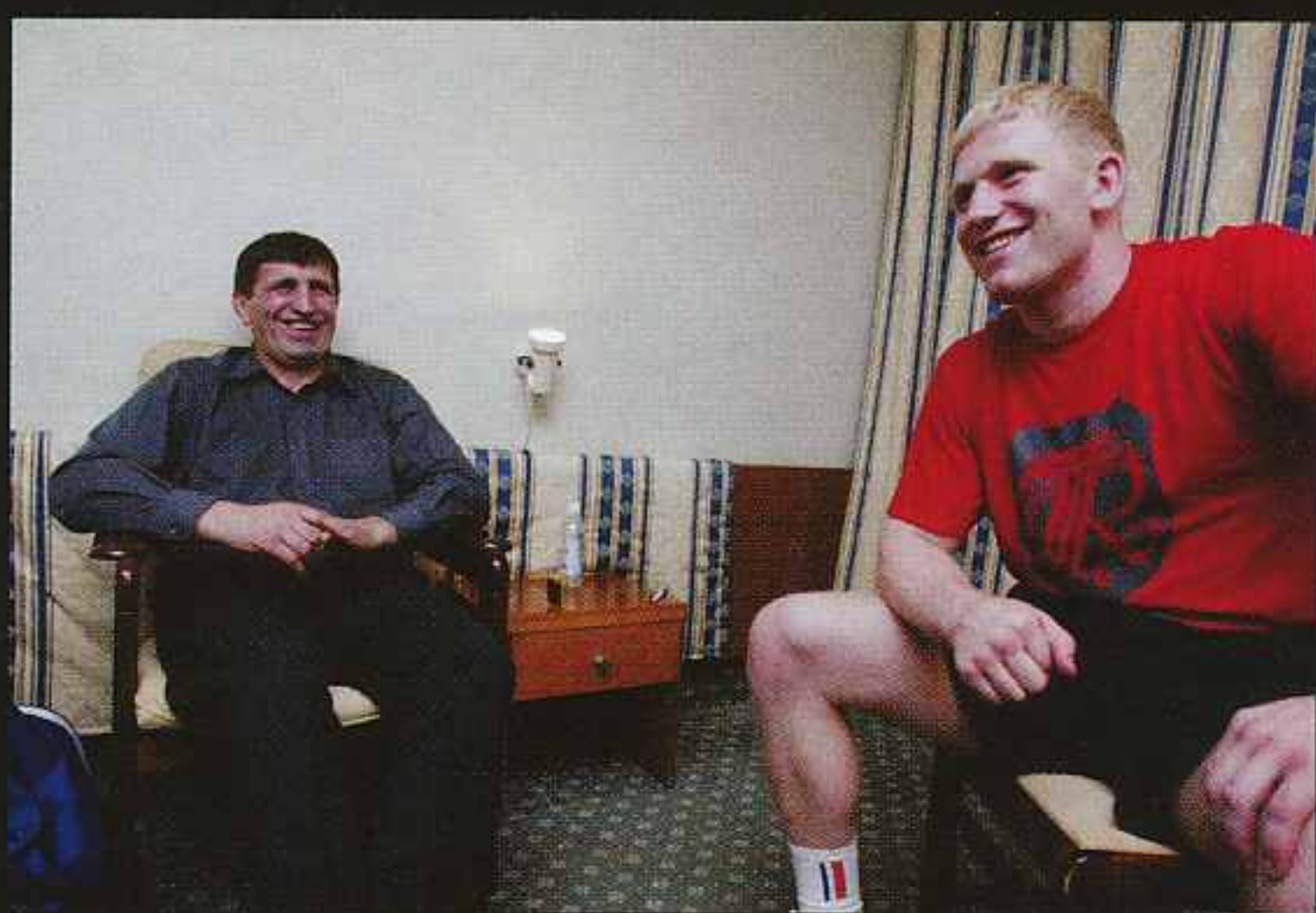
セルゲイ　もちろん。ボクはハンさんと実際にお会いする前から、リングスのビデオを見たことがあったんですけど、ハンさんこそ最強の戦士だと思っていましたから。そのころは、まさか自分がそのハンさんと一緒に練習するとは思ってませんでしたけどね（笑）。

――ある意味、あこがれの存在だったわけですか。

セルゲイ　そうですね。そして実際に会ってみて、まったく自分が思っていたとおりの強く、厳しい人だと思いましたね。

――ハンさんは第一印象でセルゲイ選手をどんな選手だと思いましたか？

ハン　セルゲイはまずフィジカル面で優れていると思ったよ。身体も大きいし、力も強い。簡単に言えば、並の選手とはモノが違う。それからセルゲイは動きがすごく早い。それはただフットワークに優れているということではなく、相手が次の動きを考えている間にセルゲイはもう身体が動いている。いま彼が『PRIDE』でいい結果を出しているのは対戦相手とそこで差が出ているのでしょう。そして我々と一緒に練習をスタートさせてすぐにセルゲイは格闘技のエリートぶりを発揮したので、スカウトした私自身驚いたんだ。

――セルゲイ選手は実際に"ヴォルク・ハン格闘術"のチームに入ってみて、どう感じましたか？

Волк ХаН × Сергей Харитонов

セルゲイ　最初、チームに入ったときは強い選手ばかりで驚きましたね。でも、彼らと練習を積むうちにだんだん自分の力が上がってきたことを感じて、そして日本でのデビューを掴んだんです。

――セルゲイ選手はプロになるにあたって、ハンさんからなにか心構えみたいなものは教えられましたか？

セルゲイ　う～ん、それは別にシークレットというわけではないんですけど、師匠と弟子の間で個人的に交わされた会話ですから、それは胸の奥にしまっておきたいですね。もちろん、ハンさんから教えられたことが、いまボクがプロ格闘家として闘う上での精神的な支えの一つとなっていることは確かです。

ハンさんこそ最強の戦士だとリングスのビデオを見て思っていたんですよ

セルゲイは並の選手とはモノが違う。それで私が直接スカウトしたんだよ

ハン　いろんなことをセルゲイには話しました。その中のひとつを紹介しましょう。簡単に言うと、成功するためには苦労しなければならない、我慢しなければならないということです。日本のリングに上がってもすぐにスターになれるわけではない、すぐにお金がたくさん稼げるようになるわけではない。若い選手の中には、それがわからずに、素質があるにもかかわらず途中で諦めてしまう選手がいる。だからセルゲイには「我慢をしなさい。素質があるのだから、必ず成功できる」と、それだけは言ってきかせたんだ。

――セルゲイ選手はそのハンさんの教えを忠実に守ってここまで来た感じですよね。

セルゲイ　そうですね。それはハンさん自身が勝利を得るための意志を持った、我慢ができる人だからですよ。だからボクはハンさんを人間として尊敬しています。

――セルゲイ選手はロシア軍のパラシュート部隊所属として知られていますけど、ハンさんも同じように、元ソ連軍のパラシュート部隊だったんですよね？

ハン　そう。私はトゥーラのパラシュート部隊所属で、当時はまさにソ連軍のエリート部隊だったんだ。我々の部隊はアフガニスタンの戦争に参加することが目的で、その部隊に所属していたときに、初めて軍隊用のサンボ、いわゆるコマンド・サンボを学んだんだよ。

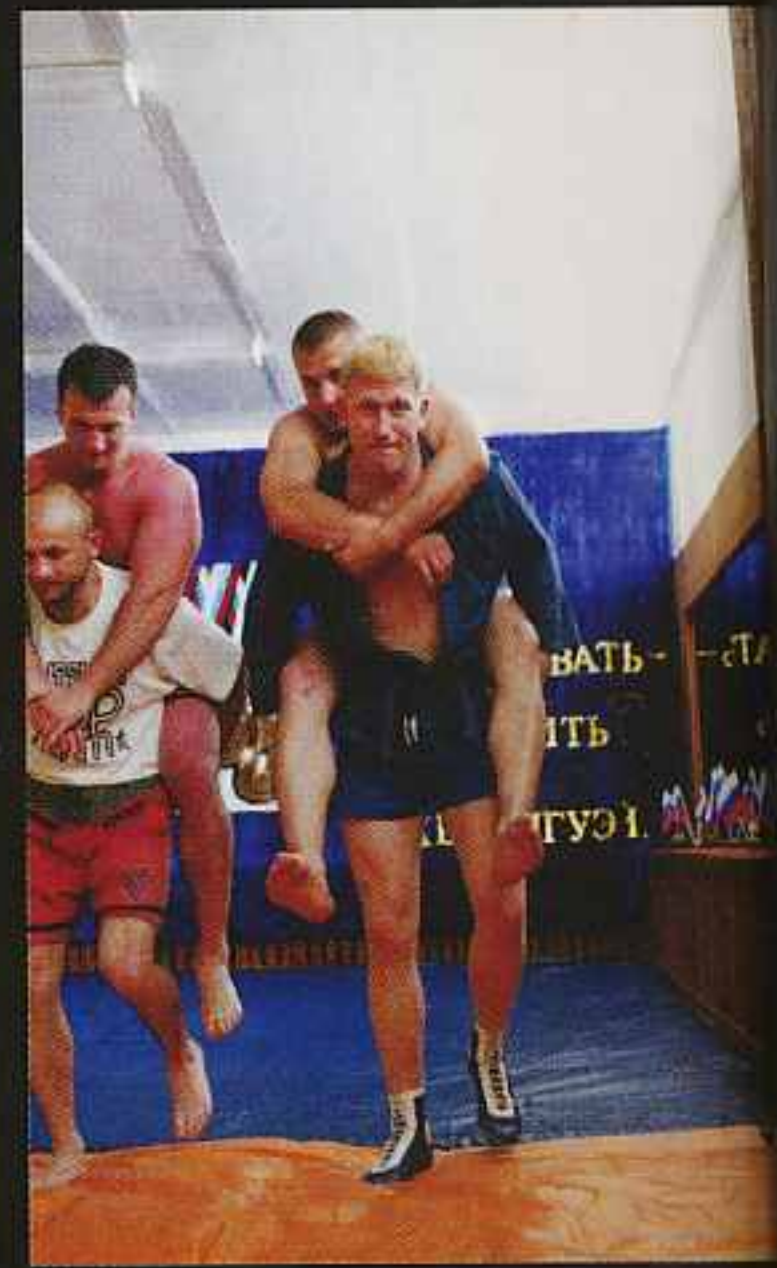
――それはもちろん白兵戦の実戦で使うためなんですよね？

ハン　もちろん。スポーツではなく、生きるか死ぬかの戦場へ行くために身につけるんだからね。

――そうなると訓練も相当厳しかったんでしょうね。

ハン　とても厳しかった！　ただ、同じパラシュート部隊でも、セルゲイが入隊したのはずっとあとの世代なので、我々ほど厳しくはなかったと思うがね（笑）。

セルゲイ　ボクらの部隊も厳しさには定評がありますけど、やはりハンさんの時代のパラシュート部隊と言えば、いまとは比べものにならないとは聞いていますね（笑）。

ハン　でも、セルゲイはそんな中でもすご

6・26『PRIDE』でのペドロ・ヒーゾ戦を前にハリトーノフは地元トゥーラで集中トレーニングに入っていた。彼の練習場所であるキリエフスク市立のサンボ練習場に入ると壁に大きく地元の英雄であるミーシャの絵が描かれていてビックリ。この日のハリトーノフの練習メニューは実戦スパーリングが中心。ミーシャを相手に確かめるように技を繰り出していた。そしてその後は。、PRIDEグローブをつけてのミット打ち。これが凄い迫力！　ヒーゾとの一戦は両者とも寝技のできるハードパンチャー同士なので、かなりタフな闘いになりそうだ。

くいい軍人だと思っている。いい教育を受けているし、強靭な精神をもった兵士だともっぱらの評判だからね。（軍学校の）授業の成績を見てもわかるように頭もいいし、力もあるし、軍人としても有望でしょう。もちろん格闘家としても有望であるのは言うまでもない。

――そうなると、ハンさんとセルゲイ選手は軍隊でも格闘技でも先輩後輩ということになるわけですね？

ハン そのとおり。同じ道を歩いていると言っていいでしょう。

――そういったこともあって、日本のファンはセルゲイ選手を〝ヴォルク・ハンの正統な後継者〟として期待しているんですけど、そういった見方についてセルゲイ選手自身はどう思いますか？

セルゲイ そう思ってもらえることは光栄ですし、自分こそがハンさんの後継者であり、これからのロシアン・トップチーム、そして国を背負って立つんだという自負は持ってます。

――ハンさんもセルゲイ選手をそのように期待していますか？

ハン セルゲイに対する我々の期待は非常に大きいです。ただ、セルゲイは一度だけ大きな〝期待はずれ〟をしでかしたことがあった。

――どういうことですか？

ハン もちろん去年、ノゲイラに負けたことだよ！ あの結果には本当にガッカリさせられた！ だから私は「負けた」と聞いてから1ヶ月以上セルゲイとは口もきかなかったんだ！

――ダハハハ！ ノゲイラに負けるような奴とは口きかない！（笑）。

セルゲイ あのときは本当に辛かったですね（苦笑）。

ハン 私はすでにセルゲイの力はトップクラスだと思っている。具体的に言えば、ノゲイラを倒す力は十分あると思っているんだ。それなのに、なぜ負けたのか。なぜだと思う？

――う〜ん、なぜでしょう？

ハン それは私がセコンドにつかなかったからだよ！

――ハンさんがいなかったから負けた（笑）。

ハン 私は8月に必ずセルゲイのセコンドとして日本に行きたい。私がコーナーで睨みを効かせて、激を飛ばせば、もっと力を出すだろうからね（笑）。

――それはゼヒ実現させてほしいですよ！ 6月の試合に勝ったら、8月にはK－1王者のマーク・ハントと闘うというプランもあるみたいですからね。

セルゲイ でも、そういったことを考えるのはまず6月の試合に勝ってからですね。いまは次の試合のために集中しています。

――6月の相手は決まってるんですか？

セルゲイ ブラジル人の選手とポーランドの柔道家という2人の候補を聞いていますが、まだ正式には聞いてません。まぁ、どちらが来ても私は勝つために闘うだけです。（その後、ペドロ・ヒーゾに正式決定）

――6月は当初アメリカでUFCの試合に出る予定だったと聞きましたが。これは事実ですか？

セルゲイ その情報で間違いありません。ボク自身、UFCで闘うつもりだったし、UFCのための準備も進めていたんです。ただ、ボクと闘うはずだったアメリカ人がボクと闘うことを嫌がったために話が流れてしまったんです。

――UFCに出場しようと思っていたということは、UFC王者になりたいという気持ちもあるわけですか？

Волк ХаН × Сергей Харитонов

セルゲイ もちろん。そのために出場するんです。

――UFCはリングではなくオクタゴンですけど、金網で闘うことに抵抗はありませんか？

セルゲイ まったくありませんね。実際、ボクはロシアで何度も金網の試合を経験していますし、『PRIDE』と同じように闘える自信があります。

――あ、ロシアで金網マッチは経験済みでしたか！

セルゲイ 正直言って『PRIDE』やUFCに比べたら出場している選手のレベルは全然低い大会ですけど、経験はあります。

――では、『PRIDE』とUFCのレベルを比べるとどう思いますか？

セルゲイ 『PRIDE』は世界最高レベルです。『PRIDE』のトップクラスで闘っている選手こそがトップなんです。それは世界中のファイターがみんなわかっていることだと思います。

――じゃあ、『PRIDE』のチャンピオンになる前にUFCのチャンピオンになってやろうというつもりだったんですか？

セルゲイ そのつもりでした。まぁ、相手が逃げてしまったので、少し遠のきましたけどね。

――じゃあ、アメリカに行く時はぜひハンさんもご一緒に（笑）。

ハン アメリカに限らず、セルゲイの重要な試合には必ず参加したい。特に日本に行きたい。リングス・ジャパンが活動をやめてから、ずいぶんと日本を留守にしてしまったからね。それから私の希望としては一度、私とセルゲイの2人で試合をしてみたいんだ。実際に闘ってみて、彼の本当の力を知りたいんだよ。

――ほぉ〜、ロシアン・トップチーム師弟対決ですか！ それメチャクチャ見たいですよ！ セルゲイ選手はこのプランいかがですか？

セルゲイ いや〜（苦笑）。

ハン （すかさず）「いつでもやってやる！ そして老いぼれに引導を渡してやる！」そうセルゲイが言ってると書いておいてくれ（笑）。

――ダハハハ！ わかりました（笑）。

セルゲイ それならボクは6月26日に試合が決まっているので、ハンさんとはその次に闘います（笑）。

ハン よぉ〜し、まだまだ力は衰えてないぞ（笑）。

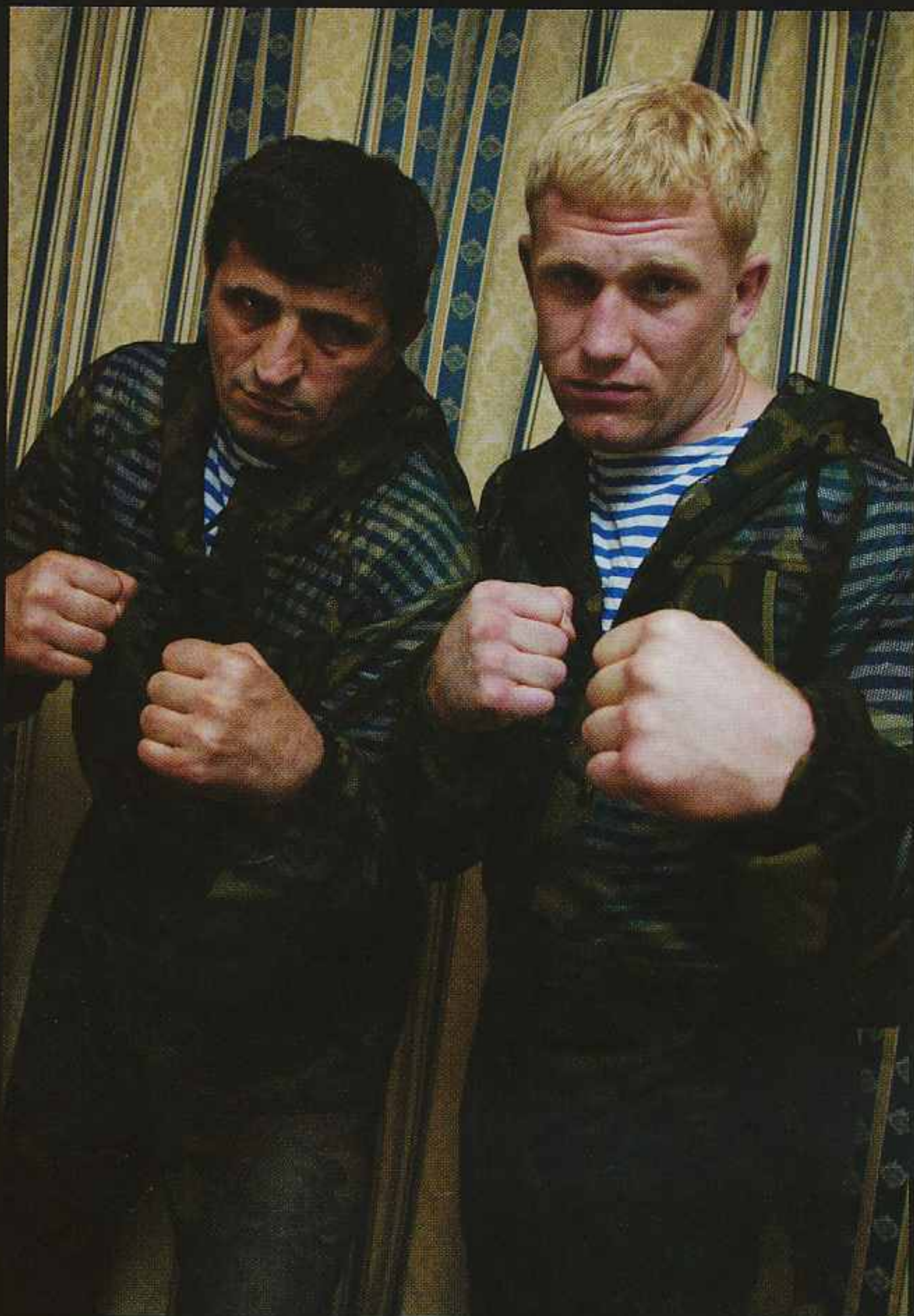
――実際に闘ってはいませんが、ハンさんはセルゲイ選手の現時点での実力をどのように評価していますか？

ハン 非常に成長しています。技術的なことで言えば、とくにボクシングが強い。そして柔道、サンボのチャンピオンでありながら、コマンドサンボでも優秀な成績を残している。だからノゲイラに負けたと聞いたときビックリしたんだ。何かの間違いじゃないかと思った。サンボでもボクシングでも、それから筋力でも負けていない。しかも私のように年をとってノゲイラと闘ったわけでなく、彼は若いのだから、負けたということが不思議で仕方がなかった。それでも負けてしまったのは、彼がファイトのときに自分の力を信用してなかったのかもしれない。彼がもう一歩踏み込んでパンチを打っていたら、結果は逆になっていたでしょう。

――そうかもしれませんね。

ハン だから、彼がこれからもう一回り大きくなるためには、まず自分の力を信用しなくてはならない。訓練を増やさなければ

トゥーラの練習場に来ていた、特殊部隊の仲間とハリトーノフ。今後もロシア軍から彼のようにプロ格闘家の道を歩む選手がでてくるだろう。

Волк ХаН × Сергей Харитонов

ならない。我慢強くなければならない。それから1回負けたら2回勝つ、そういうつもりで闘わなければならない。でも、それは私に言われなくてもセルゲイ自身、十分にわかっていることでしょう。彼は確固たる目的意識を持っているし、我慢強い男です。苦労している男です。すごくまじめに練習する男です。だからこそ私は彼の将来になんの心配もしていない。

セルゲイ （神妙に話を聞く）

ハン まぁ、彼がそういった自分の堅い性格をボクシングのロシア・ナショナル・チャンピオンシップに出場したときに見せたことがありました。そのときの彼はまだ若く経験も浅かったけれど、このトップレベルのボクサーが集まる大会で2位に食い込んだ。この大会はポチョムキンというオリンピック・チャンピオンこそ出ていなかったが、ロシアのトップクラスが揃っていた。そこで2位の成績を収められたのだから、これは彼にとって重要なポイントだったと思う。私はこのときの自信が、『PRIDE』での成功に繋がっていると思っているんだ。

――それだけの実力があるのだから、自信を持って闘えということですね。前回、2月の『PRIDE』でハンさんのインタビュー映像が会場で流れたとき、「ロシア人はロシア人が始末する」と言ったコメントがすごくインパクトがあったんですけど、いまのセルゲイ選手はチャンピオンのヒョードルを倒す力はあると思いますか？

ハン 実際にそう思っています。私はセルゲイだけでなく、ヒョードルのこともよく知っている。ヒョードルは彼がまだ総合格闘技をまったく知らないときに私の道場に来て、イチから育てた男だからね。そして名もない普通の格闘家から本当のトップクラスの選手になるまで、共に練習し同じときを過ごし、いま彼は本当に強いチャンピオンになったと思う。ただ、ヒョードルはもうチャンピオンになるという目的をはたしたから、いまはもう自分の地位を守る目的しかもっていないように思える。ミルコ・クロコップとなかなか試合をしようとしないことでも、それはわかるでしょう。それに対しセルゲイは、もっと高い段階にあがるという目的を持っている。そのためには、もっと激しく、もっと厳しくトレーニングしなければいけないこともわかっている。そういう意味で、セルゲイはかなり大きなチャンスを持っているんです。

自分こそがこれからの
ロシアを背負って立つ
という自負があります

セルゲイとヒョードルが
ベルトを賭けて闘う日を
私は楽しみに待っている

――なるほど。そうハンさんは言ってますけど、セルゲイ選手いかがですか？

セルゲイ 『PRIDE』のチャンピオンになりたい。それは間違いない。その目的を達成するために厳しいトレーニングをつんでいます。ただ、ボクは闘う前に、相手に勝つ前に口でいろいろ言うのは好きじゃないし、言うべきではないと思っているんです。ですからヒョードルについては何も言いません。もし闘うことになったときに、全力で叩き潰しにいくだけです。

――ハンさんもやはりヒョードルを倒す選手を育てたいという思いはありますか？

ハン 強い選手を育てるというのは私のライフワークなので、それは常に思っています。ただ、私は別にヒョードルが我々のチームから離れたことを怒っているわけじゃない。みんなと一緒にやったほうがいいとは思うけれど、一人前になった彼が自由にチームを選んだだけで、それはそんなに大きな問題じゃない。ただ、ひとつ言えることは、チャンピオンであるヒョードルがライバルチームに移ったことで、我々は打倒ヒョードルという目標を得て、より強くなるチャンスを得たということだ。もしヒョードルがまだロシアン・トップチームにいたら、セルゲイはいまでも彼の〝弟分〟にすぎなかったかもしれない。それがライバルチームに移ったことでセルゲイに自覚が芽生え、いまではすっかりチームのエースとなってくれた。ファンもヒョードルとセルゲイの闘いを待っていてくれるでしょう。私もその日が来るのを楽しみに待っています。

――わかりました。それではセルゲイ選手、それが実現するためにも、まずは6月26日の試合、圧勝を期待しています！

セルゲイ ありがとうございます。6月の試合は、今日ハンさんに言っていただいたアドバイスを胸に全力で闘い、必ず勝ちます！

――頑張って下さい！ 今日はわざわざトゥーラからモスクワまで来ていただいてありがとうございました。スパシーバ！

【05年5月25日／ロシア・モスクワ「ホテル・コスモス」にて収録】

Volk Han■1961年4月15日、ロシア・北コーカサス出身。91年にリングスに初来日、コマンド・サンボ旋風を巻き起こす。その後、ヒョードルらを育てるなど、コーチとしての手腕にも定評がある。再来日熱望！

Sergey Kharitonov■1980年8月18日、ロシア・アルハンゲリスク出身。"ロシア軍最強の男"の異名を持つRTTのエース。その任務を淡々と遂行するような情け容赦ない闘いぶりは、多くの対戦相手から恐れられている。

ハリトーノフとの対談に続き ハンに追加インタビュー!

「“眠っていた熊”がようやく目覚めたと聞いて私も安心したよ（笑）」

ヴォルク・ハン、前田日明を語る

――セルゲイ選手は先にトゥーラに帰りましたけど、ハンさんにはもう少しお話をうかがってもよろしいですか？

ハン　問題ない。なんでも答えるよ。

――では去年、ハンさんはリトアニアで引退試合が予定されていたと思うんですけど、結局、パスポートの不備で出国できなかったこともあって試合をやりませんでしたよね？

ハン　ああ、そんなこともあった気がするな（笑）。

――あった気がするですか（笑）。もしあのとき試合をしてたら、ホントに引退するつもりはあったんですか？

ハン　リトアニアから参戦のオファーがあったことは確かだし、「参戦します」と答えたことも確かだ。ただ、その際私は「自分のキャリアは日本でスタートしたから、最後も日本で闘い終えたい」と伝えたんだよ。

――つまり、“引退試合”は拒否したと（笑）。

ハン　だからリトアニアで引退したという事実はありません。ただ、主催者が観客を呼ぶためのテクニックで、そういったことをほのめかしたことはあるかもしれない（笑）。実際に7000枚のチケットが売れていたけれど、私が試合をしないとわかったら、半数の人間が払い戻しを要求したという話を聞いています（笑）。

――ウチの雑誌もハンさんが引退試合をやると聞いて、わざわざリトアニアまで記者を派遣したんですよ。

ハン　それはご苦労さん（笑）。

――すっかりだまされました（笑）。

ハン　それは私にだまされたというより、リトアニアの代表に一杯食わされたと言うべきでしょう（笑）。

――ドナタス代表に一杯食わされたと（笑）。

ハン　私は信用できる人間ですからね。ただ、今回のことは「ヴォルク・ハン」の名前を使って誰かがお金を儲けたということですね（笑）。

――実はそれとはまったく別に、日本の前田日明さんがハンさんの引退試合をプロデュースしたいと言っていたんですよ。

ハン　マエダさんのことは非常に尊敬しています。彼が私の引退試合をプロデュースしてくれるなら光栄ですね。私はマエダさんと一緒にプロのレスリングをスタートさせたんです。私がリングスで闘うようになって1年経ったとき、マエダさんはヒザの手術のために1年近くリングに上がれなくなりました。そのとき私はマエダさんの代わりを務めようと一生懸命頑張って、リングスのファンたちに満足してもらおうと毎月闘ったんです。それからロシアの選手たちはリングスのために一生懸命闘いました。我々はリングスの雰囲気が大好きだったんです。だから我々の戦績は直接マエダさんの名前とつながっています。

――ビジネスの関係は終わっても、ハートとハートはしっかりとつながっているんでしょうね。

ハン　そして彼と会うときいつも嬉しい気持ちになります。マエダさんがいま日本でどんな扱いを受けているのかわかりませんが、私とは心の暖かい感情を持っています。

――最近、前田さんはK-1と協力して、新しい『HERO'S』というイベントをスタートさせたんですけど、それはご存知ですか？

ハン　それについては少しだけ聞きました。でも、ディテールや具体的なことは何もしらないんだ。パコージンから「寝ていた熊がようやく起きたぞ」と聞いただけだよ（笑）。

――ダハハハハ！　危険な熊が起きちゃいましたか（笑）。

ハン　でも、そのニュースを聞いて安心しました。私はこの3年間、マエダさんについては一刻も早く釣りをやめて、ファイティングの世界に戻ってくるべきだと思っていたからね（笑）。

――釣り三昧の日々を抜け出しただけでもいいことだと（笑）。ちなみにこれが今の前田さんです。（と、雑誌をさしだす）

ハン　（眉を八の字にして）ア〜、こんなに太っちゃって。

――ダハハハ！　いまはもう少しまともになりましたけどね（笑）。ハンさんの元に連絡が来たりはしてないんですか？

ハン　すべての交渉はパコージンに任せているんです。でも私は7月以降は時間があるから、日本に行ってもいいし、日本でマエダさんと再会するのもいいと思う。

――ただですね、いま『HERO'S』というイベントにはハンさんやパコージンさんとは全く関係ない人たちが前田さんの許可を得て「リングス・ロシア」を名乗っているんですけど、それはご存知ですか？

ハン　そこまでの情報は持っていません。もしかしたらパコージンは知っているかもしれないけれど。

――それを聞いてどう思いましたか？

ハン　その質問を答える前に、なぜリングス・グルジアやリングス・ブルガリアの選手たちは日本で勝てなかったんですか？　その理由がわかりますか？

――う〜ん、やっぱり準備が足りなかったんでしょうかね。

ハン　彼らグルジア、ブルガリアの選手たちはオリンピックや世界選手権で優秀な成績を収めたトップアスリートばかりだ。でも、日本では負けてばかりだった。なぜかと言えば総合格闘技に対して研究や練習が足りなすぎたんだ。だから、もしマエダさんに会う機会があったら、選手の発掘というのは、現地の選手をただ呼ぶだけではダメだということを伝えたい。そうでないと、どんな優秀なアスリートと契約をしても、かつてのリングス・グルジアやリングス・ブルガリアのようになってしまうよ。

――なるほど。

ハン　私はリングス時代、グルジアやブルガリアの選手たちがリングスに対する特別な準備をなにもせずにリングに上がっている姿をいつも苦々しく思っていたんだ。特別な意識を持っていたのはグロム・ザザぐらいだろう。彼はヒカルド・モラエスと闘う前に、わざわざトゥーラまで来て、1ヶ月間我々と集中トレーニングを積んでいった。そういった姿勢があったからモラエスに勝てたんだ。

――やはり強い選手というのは簡単にできるもんじゃないんですね。では、最後の質問として、ハンさんの近い将来の希望はなんですか？

ハン　まず一番近い将来の希望は、これから1ヶ月間、子供たちと一緒にふるさとで休みたい。それから8月に必ず日本に行きます。そのときは子供たちも連れて行きたいね。

――では、日本で再会出ることを願ってます！

——さて、今日は〝格闘技界のカリスマ〟

ぜんぜんない。だって俺、リングを降りた

プロレスvs柔道“孤高の天才対決”実現!!
頑固者は何を企んでいるのか?

田村潔司

「柔道の練習をしてまで勝とうとは思わない」

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　助手／松下ミワ

designed by hisa (Two Three)

勝敗という部分に関してだけ〝柔道〟には借りがあるんで返したいと思ってますよ

――さて、今日は〝格闘技界のカリスマ〟田村潔司選手にお越しいただきました！

田村 〝カリスマ〟って、バカにしてんでしょ？ そうやって。

――いやいや、記者会見で瀧本選手も言ってましたからね。「この世界のカリスマ」だって。

田村 ……。

――ノーリアクションですか（笑）。

田村 だって、そんなこと言われて俺はなんて言えばいいの？ 「そーです。私が変なカリスマです！」って言えって？

――いや、どう感じたのかなと思いまして。ちなみに前田さんは「俺はカリスマやない。カリ高や！」って言ってましたけどね（笑）。

田村 カリダカってなに？

――チ○ポのカリ首が高いってことですね（笑）。

田村 あ、そう（笑）。

――田村さん自身はカリスマの意識はないんですか？

田村 まったく。

――じゃあ、瀧本選手に「カリスマ」って言われたときは、「また言ってるよ」って感じだったんですか？

田村 いや、相手の本心はよくわからないから。でも、自分がカリスマとかそういう意識はぜんぜんない。だって俺、リングを降りたら普段は調布のジムとかでセクハラ指導しているヤツだから（笑）。

――35歳のセクハラ指導員（笑）。

田村 そうそう（笑）。瀧本選手はそういう俺を知らないんだろうね。

――そりゃ知りませんよ（笑）。それにしても、あの記者会見は表面上はお互いを褒め合っているようでいて、なにか探り合いをしていたというか、牽制をし合ってるかんじでしたよね？

6月9日に行われた記者会見では、お互いを持ち上げ合う、腹の探り合いのような展開に。そして記念撮影時には両者ともに握手を拒否するなど、すでにここから闘いは始まっているかんじだった。

田村 ま、向こうの情報がないからね。情報がない者同士の探り合いになっちゃったかな。

――そんな情報がない相手とやろうと思ったのはどういう理由からですか？

田村 政治的な圧力！（キッパリ）

――ダハハハ！

田村 だって、本当のことだから。こんな病み上がりの選手をつかまえてさ。

――でも、最終的に決断したのはもちろん田村選手ですよね？

田村 言わば格闘技界のためですよ。

――格闘技界のため！ あの田村潔司の口からそんな言葉が出るとは思いもよりませんでした（笑）。やっぱりカリスマは違いますねぇ。

田村 （無視して）まぁ、自分を守りながら格闘技界を考えようと。あと残り少ない選手生活なんで、それをいかに濃い試合で埋めるかって思うと、政治的な圧力に屈してでもやる意味があるかなと。あと、吉田選手に借りがあるしね。吉田選手というより柔道に対してかな。

――やっぱり吉田選手や柔道に借りを返したいというのは、ご自分の中で前回の吉田戦は「もっとできたんじゃないか」という心残りがあるからですか？

田村 心残りというか、やり残したことは、白か黒かという次元の問題だね。試合自体は自分の思っているような動きができたから。あとは最後の勝敗だけ。結局あぁいう黒星がついたっていうことについては責任をかんじてるんで、どっかで返したいなと思ってますよ。

――そして、次にやったらその借りを返せるという思いも当然あるわけですよね？

田村 う〜ん。あのね、vs柔道って闘い方は単純でわかりやすいんだよ。相手を捕まえてテイクダウンを取るか、打撃でやるかっていうだけの話になるから。ホント異種格闘技戦だよね。だから見てる方もわかりやすいと思うんだけどな。

――やはり向こうに打撃がない分、崩しやすいっていうのもあるんですか？

田村 だって向こうは柔道を長年やってる人でしょ？ 総合での打撃の構えと柔道の構えとではぜんぜん違うから。だから本当の総合はちょっと難しいんじゃない？ まあ、柔道のスタンスが抜けて打撃のセンスとか備わってくると「総合で通用する選手になるのかな」っては思うんですけどね。

――逆に言うと、現時点では「まだ総合では通用しない選手」なわけですか？

田村 ……こうやっていつも俺を悪者にしようとするんだよね。

――いやいや（笑）。でも、瀧本選手は総合2戦目ですからね。それで完成されてたら、逆に怖いですもんね。

田村 うん。ただし、柔道という部分は突き抜けてる。なんと言ったってオリンピック金メダリストだからね。

――そうですよね。それに対して、いまの『PRIDE』は穴がない選手が多いじゃないですか。でも、「これだ！」っていう飛び抜けた武器をもっている人は意外と少ないですから、瀧本選手みたいな穴はあっても飛び抜けた部分がある選手は面白いですよね。

田村 そうそう。

――前回の吉田戦の試合後は「勝てると思ってた」と言ってましたけど、今回の瀧本戦も「勝てる」という自信のもとに試合を受けたんですか？

田村 う〜ん。自信はあるけど、不安も同じくらいあるね。俺にとってすごい未知の

技を出してきそうだから、それが怖い。エアポケットに入らないようにしないといけないっていう、そういう恐怖心もある。簡単に言うと、知らない技で来たらどうしようってかんじだからね。

——吉田選手に袖車でやられたときは、あれは知らない技だったんですか？

田村 知らない（キッパリ）。

——知りませんでしたか（笑）。

田村 だって、袖車って、袖を使って首を締めるっていう技でしょ？ そういうの反則だよね。

——タイガー・ジェット・シンがひもで首を絞めるようなもんですか？（笑）。

田村 でも、試合で道衣を着てるのが許されるっていうのが『PRIDE』の面白いところだよね。競技としては矛盾してると思うんだけど。

——その対策という意味でも、昨年大晦日の瀧本vs戦闘竜は、どうご覧になりました？

田村 う～ん。戦闘竜っていう選手もよく知らないけど、単純に体重差が30～40キロちがうんでしょ？ だからそういう選手と判定までいって、それで勝てたっていうのはすごいなと。

——「これは」というような動きはありました？

田村 最後のラウンドで戦闘竜をつり上げて足を刈ったでしょ？ ああいう大技を実戦で使えるというのは相当な技術がいるから、あれはすごいよね。

——同じ柔道家の吉田選手とは、なにか違いは感じましたか？

田村 う～ん。瀧本選手の方がちょっとカッコいい。

——そうですか!?（笑）。

田村 と俺は思う。あとは、ぜんぜんわかんないな。まだ瀧本選手の試合は一試合しか見てないから。しかも、その一試合も体重があんなにちがう選手とやってるから参考にならない。

——そうですか。ところで、瀧本選手は最近ずっとキックボクシングの練習してるらしいですよ？

田村 あ、そう。それは習ってた方がいいと思う。

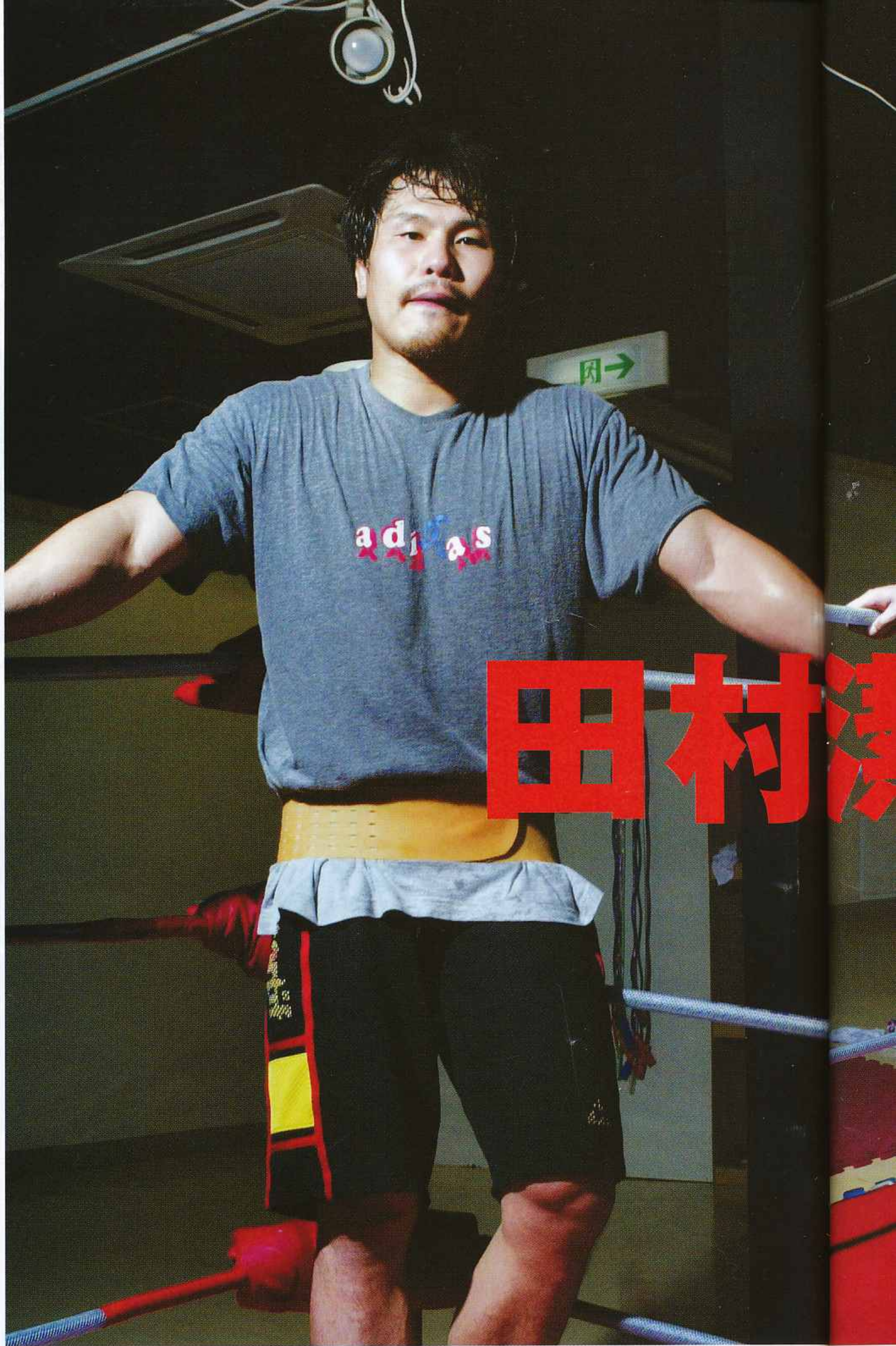
——習ってた方がいいっていうのは、田村さんにとって「いい」って意味ですか？

田村 そう。だって、練習してくれてた方が打撃の怖さがわかるから。

——怖さがわかると、田村さんにどんなメリットがあるんですか？

田村 例えば吉田選手の場合は打撃の怖さをあんまり知らないから、あんなにパンチを振り回しながら向かってこれたんだよね。打撃の怖さを知ってる人は、ちゃんと相手との間を考えてくるでしょ？ だから、がむしゃらには前に出てこない。よっぽどバカじゃない限り。そうすると、こっちの間合いで闘えるからいいよね。

——そういえば、そうですよね。ボブ・サップも格闘技を知らない頃はパンチを振り

2年前の吉田秀彦戦ではスタンドで間合いを制し、内股へのローキックで吉田の動きを止めた田村。瀧本戦もやはり、この間合いが勝負の行方を左右するか？

打撃を習ってきてくれた方がありがたい 怖さを知って前に出られなくなるから

回してホーストにまで勝ってましたけど、ちょっと練習したらまったく足が前に動かなくなりましたからね（笑）。

田村　それに、柔道の重心のかけ方と総合の打撃の重心のかけ方はちがうから、打撃を練習してるっていっても急には上手くなれないと思うんだよね。柔道を何十年もやってるから、そのクセはなかなか直らないよ。ボクサーの人が総合の試合をやると、ファーストコンタクトの時点で「打撃できるな」って感じるけど、柔道とかレスリングの人は重心のかけ方が未熟だからね。その辺りは総合やってる人から見たらすぐわかる。センスないなって。

——では、瀧本選手はセンスあると思います？

田村　いまはない。

——またはっきりいいますね（笑）。やっぱり立ち方からして柔道になってますか？

田村　うん。だから打撃だけで試合したら俺がボロ勝ちするよ。でも道衣着て組技だけやると、俺がボロ負け。だから面白い。

——田村さんは瀧本選手の知らないこと、できないことをやってやろうという考えなんですね？

田村　お互いそうだよね。俺も知らないから、柔道のこと。

——吉田選手に負けてから柔道を研究したりはしてないんですか？

田村　ない。防御の仕方がわかるようになるから本当はやった方がいいんだけど、そこまでして勝ちたくない。

——なんでそこまでして勝ちたくないんですか？

田村　何となくイヤなの！　負けたら負けたでいいじゃん。なんかその部分に関してはイヤなんだよね。拒否反応を起こすの。もし柔道の練習やったら、面白くなくなると思うし。だから知らない方がいい。

——あ！　そういえば、ぜんぜん聞き忘れてましたけど、拳の調子はどうなんですか？

田村　もう大丈夫。日常生活は問題ない。

——打撃はできるんですか？

田村　そっちはぜんぜんダメ。一応骨はくっついてるんだけど、まだ弱いから衝撃を与えるとまた折れちゃうんだよね。

——では、パンチはぶっつけ本番ってかんじですか？

田村　たぶんパンチは打てないだろうね。まあ、とっさに出るかもしれないけどさ。

——練習再開したのはいつからですか？

田村　そうだねぇ、2週間前とかそのくらい？

——2週間前!?

田村　だってできないんだもん。結構、もう開き直ってんだよね、いま。むかしは1日練習しないだけでイヤだったけど。ケガしちゃうと開き直っちゃった。焦りもぜんぜんないし。とりあえず完治させたいよ。無理しないように。

——試合するっていうのが一番無理してると思うんですけどね（笑）。

田村　それはもうしょうがない。政治的な圧力だから（笑）。

——（無視して）でも、今回のインタビューは試合前とは思えないくらいリラックスしてますね？

田村潔司

瀧本戦は自分がどれだけ通用するかの物差しになる

田村　そんなことないよ！　俺だって一歩外に出れば悩み事くらいあるんだから。

――あ、それは失礼しました。でもピリピリしたかんじはないですよね。「心・技・体」が充実してるってことですか？

田村　ぜんぜん。

――じゃあ気負いはないんですか？「絶対負けられない」っていう。

田村　絶対負けられないというか、やっぱ勝ちたいよね。

――「ここは勝っとかないと」っていうかんじですか？

田村　そういうプレッシャーをかけるようなことを言わないように。小心者なんだから。いま俺、胃の検査したら真っ赤だよ。

――でも、ここで勝つと負けるとでは今後の展開がちがってきますよ。

田村　もう、しょうがないじゃん！　開き直る歳なんだからさ。

――その方がいい結果が出るというかんじなんですか？

田村　わかんない。前回黒を付けられたという意味で少しこだわりはあるけれど、勝敗についてはそんなにこだわってない。この歳になると勝つときは勝つし負けるときは負けるって思えるんだよね。ただ、ひとりになって考えると、また胃がキリキリするんだけど。

――でも、これで勝ったら次の展開も見えてくるんじゃないですか？　例えば瀧本選手に勝って8月に吉田戦とかいったら、試合します？

田村　8月……。8月は短いかな。

――それは政治的圧力にも屈せず、受けないということですか？

田村　もうね、そうなったら海外に出ないとダメだね。

――海外⁉

田村　海外にでも飛ばないともう逃げ切れない（笑）。

――海外といえば、この間ロシアにいってきたんですよ。そしたらニコライ・ズーエフさんの巨大な施設がついにできてて。

田村　あ、ついにできたんだ。

――それで8月13日に旗揚げ戦があるんですけど、そこに「ぜひ田村潔司選手に出場してほしい」とロシアの記者会見で言ってましたよ。

田村　マジで？　それはやりたいよね。その試合はズーエフさんは出るの？

――ズーエフさんは日本でいう前田さんみたいな存在ですから、試合には出ないと思いますよ。

田村　そうなんだ。でも頭いいよね、あの人は。試合行きたいな。

――では8月はロシアになりそうですか？

田村　う〜ん。まあ、その前に瀧本戦だからね。それが終わってから考えます。

――田村さん的に、瀧本選手のあの性格はどう見てるんですか？

田村　性格？　そんなの知らないもん。なんで？

――いや、すごいひねくれた性格らしいんですけど。〝柔道界の田村潔司〟っていう話ですよ（笑）。

田村　じゃあ俺がひねくれてるってことじゃん！（怒）。

――と、関係者が言ってました（笑）。

田村　人のせいにして！

――一筋縄ではいかないもの同士の対決ってことですよ。

田村　でも、オリンピックで金メダルとる人なんて、普通の神経してないに決まってるよ。そうじゃないとできないもん。あんな練習。

――プレッシャーもすごいでしょうしね。

田村　そうそうそう。普通の人だったら精神的にやられちゃう。でも、ある意味ガンツも同じように頭おかしいけどね。

――そうですか？

田村　こんな世界でやってんだから（笑）。

――この世界は頭がおかしい人の集まりですか⁉（笑）

田村　その中でも一番おかしいのは大久保ちゃん（大久保一樹）だけど。

――ああ。でも、大久保ちゃんのおかしさは、もうちょっと根源的な部分じゃないかと思うんですが（笑）。

田村　そうかも（笑）。

――そのおかしな人に対して、田村さんはどんな試合をしたいですか？

田村　う〜ん、頭の中ではすごいイメージできてるけど、まあ今回はちょっとノーコメント。思い描いてる通りに試合を進められたらいいと思うから、どんな試合になるかというのはいまはちょっと言えない。試合終わってからね。

――柔道のアスリートとしてはトップだけど、プロの世界は違うというところをみせないとなっていう思いは？

田村　そういうのはない。やっぱり向こうもプレッシャーあると思うし。そういう頭がおかしい選手と試合をさせてもらえるというのは、自分がどれだけ通用するのか、物差しになるからいいよ。だからもう気分的にはチャレンジャーですよ〜！（ドゥ・ザ・ハッスルポーズしながら）。

――なんですか、そのポーズは（笑）。

田村　おたくの編集長（山口日昇）がやってたんで、そのマネ（笑）。

――でもそれ、ハッスルの島田二等兵のマネですよ。

田村　だから、そのマネのマネをしてるんだよ（笑）。

――では6月26日は瀧本戦でドゥ・ザ・ハッスルしてください！

【05年6月11日／U-FILE調布近くのカラオケボックスにて収録】

元WBF世界クルーザー級王者
西島洋介山改め

西島洋介 PRIDE参戦!

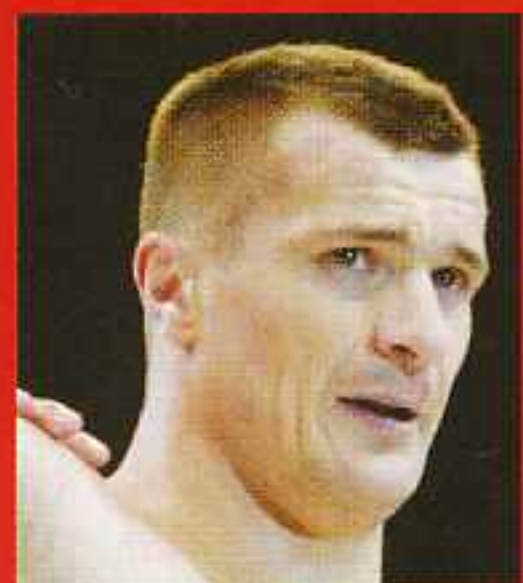
ビビった！　たじろいだ!!　かつて地下足袋シューズとスキンヘッド姿で話題を呼んだ、あの和製ヘビー級ボクサー“西島洋介山”改め“西島洋介”が『PRIDE』のリングにまさかの殴り込み！　本誌〆切りには間に合わなかったものの、6月15日の記者会見で『PRIDE』参戦を正式発表した模様だ。ボクシング時代は必殺“宇宙パンチ”で数々のKO劇を繰り広げ、NABOクルーザー級王座、OPBFクルーザー級王座、さらにWBF世界クルーザー級王座など多くのタイトルを総なめにしたが、その後所属ジムとのトラブルで98年に日本ボクシング協会からライセンスを剥奪。海外に活路を見いだしたがなかなか試合の機会に恵まれず、今回はそのうっぷん晴らすべく『PRIDE』の薄いグローブで何もかもボコボコにしてやろうと殴り込んできたのだ！　試合の日程は現段階ではまだ決まっていないようだが、本人は年内デビューを目指してすでに高田道場で特訓に入っているという。ボクシング界からの新たな刺客が、熱い『PRIDE』のリングをさらにヒートアップさせる!!

[戦績]
○vsローン・スミス（アメリカ）[6R KO] 92・3・26（プロデビュー戦）
○vsパブリック彰彦（日本）[4R KO] 92・10・29
○vsティミー・トーマス（アメリカ）[5R KO] 93・10・5
○vsデレック・エドワーズ（アメリカ）[3R KO] 93・8・3
●vsケニー・ミリガン（アメリカ）[4R 判定] 93・10・5
○vsデビッド・メンデス（メキシコ）[4R KO] 93・11・15
○vsジョン・カイザー（アメリカ）[12R 判定] 95・2・19（NABOクルーザー級王座挑戦・獲得）
○vsレオナルド・アギラル（メキシコ）[12R 判定] 95・10・9（NABOクルーザー級王座防衛1）
○vsピーター・キンセラ（オーストラリア）[3R KO] 96・10・5（OPBFクルーザー級王座挑戦・獲得）
○vsブライアン・ラスパダ（アメリカ）[12R 判定] 97・7・11（WBF世界クルーザー級王座挑戦・獲得）
●vsセシル・マッケンジー（アメリカ）[2R TKO] 03・7・10（カリフォルニア州クルーザー級王座挑戦・失）

写真提供／共同通信社

PRIDE GRAND PRIX 2005 2nd ROUND

スーパーファイト

ミルコ・クロコップ vs イブラヒム・マゴメドフ
パウエル・ナツラ vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
セルゲイ・ハリトーノフ vs ペドロ・ヒーゾ
田村潔司 vs 瀧本誠

またもやヒョードル戦延期！　この事態に怒髪天の超人ミルコは、ヒョードルの同門と仮想王者戦へ。“最終調整マッチ”は無傷で無事切り抜けたいところだ

国際321連勝の記録を持つ欧州柔道界の雄がノゲ兄戦でMMAデビュー。ジャケットマッチの要求は、心理戦を仕掛けたという噂もある。とにかく寝技に自信あり！

大みそかヒョードル戦以来の試合となるノゲイラ兄。勝って当たり前の雰囲気もある中でその闘いぶりは注目される。どんなプロの洗礼を浴びせるのか？

年内にUFC参戦を計画しているハリトーノフは金網の常連戦士で『PRIDE』初参戦のペドロ・ヒーゾと対戦。ジョシュもKOしたヒーゾの重い打撃は厄介だ

【日時】6月26日（日）　開場14:00／開始16:00
【会場】さいたまスーパーアリーナ
【チケット】VIP席（専用入場ゲートグッズ付き）￥100,000／RRS席￥30,000
スタンドS席 ￥17,000／サク&カズ応援シート（スタンドS・応援グッズ付き）￥17,000
スタンドA席￥7,000円
※応援シートはPRIDEオフィシャルサイト・PRIDE携帯オフィシャルサイトドリームステージのみで販売いたします。
【お問い合わせ】DSE TEL.03-5464-1531

PRIDEミドル級GP2回戦

桜庭和志 vs ヒカルド・アローナ

サクが“組技世界最強”の壁を切り崩せるか？　2回戦最大の注目カード。この試合結果・内容が大会の命運を握っているといってもいい

中村和裕 vs ヴァンダレイ・シウバ

再度のブラジル修行を経てさらに万能感を増したカズが師匠・吉田秀彦のリベンジへ。「死闘にしたい」というカズの気持ちは試合で爆発するか

マウリシオ・ショーグン vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ

『PRIDE』ミドル級次期エース候補の潰し合いは2回戦屈指の好カード。シュートボクセvsBTTのブラジル名門チーム対抗戦の一面も持っている

イゴール・ボブチャンチン vs アリスター・オーフレイム

ミドル級転向でリボーンしたボブも脅威だが、アリスターの成長も著しい。進化するストライカー同士の闘いだけに寝技決着も充分にありえるのだ

柔道家・瀧本誠は
“田村劇場”を
勝負論を超えたテーマ主義
どう切り崩すべきなのか？

これぞ『PRIDE』！
スポーツ的価値観を吹き飛ばす
異質カードが実現!!

6・22『PRIDE・GP』で実現する田村潔司vs瀧本誠は、謎解き・深読み・斜めから覗き込みたくなる魅力が詰まったカードだ。そんなただでさえ面白い一戦を、過剰かつ大袈裟に味付けさせたら宇宙一のターザン山本！がアイスティーをブチまけながら語りましたよぉぉぉ!!

聞き手／堀江ガンツ　designed by hisa (Two Three)

この男のクローンも製造不可能
ターザン山本！

——山本さん！ 6・26『PRIDE・GP』で田村潔司vs瀧本誠の一戦が決定しましたけど、これって他のカードと比べるとかなり異質なカードですよね。

ターザン　ボクらのような〝昭和プロレス〟の残党からするとさあ、とびきり異質で刺激的だよ！「例によってまたしてもあいかわらずの〝田村劇場〟が見られる！」という期待感をビンビンに感じるんだよねえ。

——それはやっぱりこの2人の人間性がそう感じさせるんですか？ 田村も瀧本選手も〝ひねくれ者〟のイメージがありますけど。

ターザン　いや、ボクはこのカード発表記者会見に行ったんだけど、じつは瀧本選手には〝ひねくれ者〟どころか淡泊な透明さを感じたんだよ。逆にあの田村潔司ときたら、灰色の雲がかかってまったく晴れそうにない憂鬱な梅雨空のイメージだったんだよねえ。

——この梅雨どきにピッタリな男、それが田村潔司（笑）。というと、瀧本選手と田村では、似ているようでカラーはまったく違うわけですか？

ターザン　違う！ たとえるならば、瀧本選手は大名のお抱えで将来を嘱望されている若き優な剣術家。清廉潔白のイメージがある。一方の田村はさぁ、町道場で鍛練を重ねてようやく師範代に上りつめた男で、もう泥まみれで埃（ほこり）まみれで垢まみれの〝叩き上げ〟の中の〝叩き上げ〟なんだよ！

——でも、瀧本選手も勝負論で成り立つアマチュアの〝叩き上げ〟じゃないですか？ 田村は田村で「瀧本は所詮アマチュア」という意識があるだろうし、瀧本は瀧本で「田村は所詮はプロレスラー」という気持ちが少なからずあると思うんですよ。

ターザン　つまり、〝アマチュアの修羅場〟と、〝プロの修羅場〟の勝負になるわけだよね。両方とも本当に過酷な世界だから、どっちが勝ってもボクらは納得するんだけどね。ただ、ひとつだけ言えることは、田村はあの会見で「背負っているものが違う」と言っていたけど、瀧本選手は柔道家なんだけど〝勝負論〟しか背負ってないわけ。それに対して田村はプロレスであるとかUWFを背負っているように見えて、じつは自分の生き方そのものを背負ってるんだよね。ほとんどバカ正直に自分の生き方を背負っているからこそ美しいんだよ！ だから極端にいえば、田村潔司という存在は、負けようが勝とうが永久不滅なんですよ！ 自分の生き方を貫けばその価値は絶対に失われることがないんだから。

——たしかに田村は吉田秀彦戦で負けましたけど、田村潔司という選手の存在価値はボンと跳ね上がりましたよね。

ターザン　あの田村vs吉田戦は、圧倒的に田村の勝ちですよぉぉぉ！ なぜそうなったかといえば、吉田秀彦も〝勝負論〟しか背負っていなかったんだよ。勝つことしか意味がない生き方。そうなると、自分の生き方を背負っている田村のほうがどうしても光ってしまうんだよなあ。

——いわゆる〝試合に負けて勝負に勝った〟と。この試合も勝敗以外の奥深さが問われることになりそうですね。

ターザン　やっぱりボクらはさぁ、スポーツのイメージが強い競技的な闘いよりも、ファイター同士による存在対存在、個人対個人の対立に酔ってしびれたいわけじゃない。そうした個の幻想がパンパンに膨れあがっているのが田村潔司なんだよね。言うなればフィクション作りの天才！ いまもっともプロレスラーとしての幻想を高いレベルで商品価値としているのは、この田村潔司だけですよ!!

——フィクションをつくるということは、プロレスラーとして自我をつくりあげるということですよね。

ターザン　つまり、それは状況に応じて、あらゆる応用性とクレバーな判断を憎らしいほど見事に自己演出しているということなんだよねえ。こは田村が聞いたら怒るかもしれないけど、今回の瀧本戦は、将棋の終盤に桂馬で王手飛車取りしてるようなもんですよ！

——今回の瀧本戦は〝桂馬の王手飛車取り〟！

ターザン　王手飛車取りですよぉぉぉ!! 『PRIDE』のリングで王や金の駒に値するのは、ヒョードルやシウバ、ミルコであったりするんだけど、田村潔司というファイターは、将棋の世界でいえば王でもないし金でもない。ましてや飛車や角でもないでしょ？

——『PRIDE』に戦績重視のランキングがあるとすれば、田村は上位ランカーではないですよね。

ターザン　しかし、決して侮れない曲者というかさあ、変則的な能力を発揮する桂馬なんだよ、田村は！ その桂馬がここぞというタイミングで王手飛車取りをまたまたビシッと決めたわけじゃない？

——直球カードのグランプリやヘビー級ワンマッチの試合が発表されたあとで、軌道がまったく読めない変化球のカードで勝負して注目を集める。美味しい展開ですよねえ（笑）。

ターザン　何回も言うけど、まさしく〝桂馬の王手飛車取り〟だよ！ それは意図的なのかどうかは判断しかねるけど、彼の行動は絶対的な〝テーマ主義〟から生まれてきてるんだよね。田村の闘いには勝敗以外の人間としてのドラマチックなテーマがしっかりと植え付けられているんだよね。（急に小声になって）じつは、ボクらの思い過ごしなのかもしれないんだけどぉ。

——ガハハハ！ 田村潔司にはそう感じさせてしまう〝何かがある〟ってことですよね。

ターザン　現実として〝田村劇場〟はボクらをしびれさせてくれたわけだからね。一番すごかった〝田村劇場〟は、やっぱり高田延彦の引退試合なんだけど、あの試合には問答無用的なテーマが張り付いていたじゃない？

——確執があった師匠の引退試合を真剣勝負で闘って、あの衝撃的な結末を見せつけたわけですよね。

ターザン　そこには闘う動機、意味性、

今回は瀧本選手を中心に見たほうが絶対に面白いんですよ！ なぜなら……

意義付け、理屈、そして結末に至るまでにすべてが詰まっていたんですよ!!（再び小声になって）最近のプロレスや格闘技でありがちな、見せかけで薄っぺらいテーマとはまったく違うわけですよぉ（笑）。田村潔司の場合は、勝負論の周辺にある勝負を超えたものを強烈に見せつけてくれるというか、そこには〝昭和のプロレス〟的な匂いが感じるんだよねえ。

——話をまとめると、この一戦は田村を中心に見たほうが面白いってことですか？

ターザン いや、ところが今回ばかりは瀧本選手を中心に見たほうが絶対に面白いんですよ！ それは彼が田村選手と闘うことは、オリンピック柔道で金メダルを取ることよりも100倍、意味があるとボクは思うからね。

——100倍も意味がありますか！

ターザン そりゃ100倍もあるよ！ 瀧本選手はいままでの人生で決して触れることがなかった〝比類なき黄金〟を手に取るようなものだからね。だってさ、金メダルを取ることは非常に難しいことだけど、つまり最終的には勝てばいいわけでしょ？

——いや、それが非常に難しいんですけど（笑）。

ターザン たしかに難しいことだけども、スポーツはスポーツでしかないないことはあらかじめわかっているし、選手にはちゃんとした勝利への目的意識しかない。でも、今回は〝テーマ主義〟の男と闘うわけだから、これは未知との遭遇であり、瀧本選手は未知の領域に足を踏み入れるわけですよ！ それにプロの田村にとって『PRIDE』はホームグラウンドというか、プロはどんな所に行ってもそのときの観客の気分と空気を読み取ってホームグラウンドにしてしまう術に長けている。そこで瀧本選手はアウェイという舞台でどう闘うか？ どうやってホームグラウンドにするのかも問われるんだよね。

——こないだの記者会見でもその主導権争いは勃発してましたよね。

ターザン かましていたねえ、田村は。怪我をした拳の状態や、現在の体調があまりよくないことをすべて会見で明かしていたんだけど、手の内を見せるということは、それすらもフェイントの可能性があるってことだよ。事実かもしれないし、嘘八百かもしれない。ホントのことかどうかは誰もわからない！ 田村は瀧本選手にすでに先手必勝で心理戦を仕掛けていることは事実なわけですよ!!

——そういう意味でも、デビューから半年経った瀧本選手がどう魅せてくるのかが楽しみでもありますね。

ターザン ボクらは〝金メダリスト〟という看板の向こうにある瀧本選手の人間的な部分を、まだほんの少ししか見てないからね。まだ見えていない彼の感情が露出したときに初めて瀧本選手の評価が上がる。それがこの一戦を見るうえでの最大のポイントですよ！

——吉田秀彦も田村との試合で初めて「コンチクショウ！」という感情を出して、プロとして一皮むけた印象がありましたからね。

ターザン ボクらは選手の本音の部分、地の感情が見たいわけだよ！ 田村潔司なんか地そのものじゃない。あの振る舞い、あの発言、あの格好、あの顔！ クゥ〜!!（苦虫を噛み潰したような表情で）。

——顔や格好まで田村潔司そのものを現している（笑）。

ターザン あんな地だけの男、見たことないし、もう二度と現れませんよ！ もっといえば、いまはクローンでいろいろな生物をつくれるそうだけど、田村潔司のクローンは絶対にできない！ いくら科学が進歩しても田村潔司のクローンだけは不可能ですよぉぉぉ！

——田村潔司の遺伝子情報は読み取れませんか（笑）。

ターザン それに田村潔司のクローンが世の中に氾濫したら、この社会は完璧に壊れますよぉぉぉ！ バン、バン!!（あまりの大炎上でアイスティーをテーブルや床にブチまける）。

——や、山本さん。おもいきりアイスティーをコボしていますけど（笑）。

ターザン た、た、た、田村潔司のせいでズボンが濡れちゃったよぉぉ!!

——ガハハハ！ もし山本さんのクローンもたくさん存在したら、世の中自体を破壊しそうですね（笑）。

ターザン （塗れたズボンも気にせずに）クローンでいえば、〝金メダリストでエリートである！〟という〝金メダルクローン〟な選手はたくさんいるわけじゃない。だからいまは金メダリストのインフレというか、まったく金メダルが印籠になってないところもあるわけ。その証拠に瀧本選手はスポーツ番付的には田村より格上なんだけど、あの記者会見が終わったときに記者たちが最初に囲んだのは田村のほうだよ！

——プロレス的にいえば、瀧本選手の最大のギミックが通用してないってことですよね。

ターザン 極端なことを言えば、〝飛んで火にいる金メダル〟！ 瀧本選手はなめられてるわけだよ!!

——〝飛んで火にいる金メダル〟！

ターザン だからこそ、ボクは「金メダルを捨てろ！」と瀧本選手に言いたい！ その金メダル的価値観をかなぐり捨てて、〝瀧本誠〟という地の部分で勝負したときに初めて〝田村潔司・ひとりぼっちの完全犯罪劇場〟を崩すことができるからね。そして瀧本選手には、その可能性が十分に秘められているんですよぉぉぉ!!

——瀧本選手はプロとしても超一流の素材であると。山本さんも当日は会場に行かれるんですよね？

ターザン 当たり前ですよ！ 瀧本選手の地の感情と、生き方を背負った田村の姿をしっかりと見届けてやりますよぉぉぉ!!

——その前にアイスティで汚れたズボンを拭きましょうか（笑）。

【05年6月10日／水道橋『ニューヨークカフェ』にて収録】

五味隆典

『PRIDE 武士道』と同化した男

Takanori GOMI

起死回生の中・軽量級大特化

5・22『PRIDE武士道・其の七』

聞き手／ジャン斉藤・松下ミワ
撮影／松本崇
試合写真／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

――『武士道－其の七－』のルイス・アゼレード戦の激闘から一週間が過ぎましたが、いまはゆっくり休まれているんですか？

五味　楽しく過ごしてますよ。あの試合を観ていた方には想像できないようなことばっかりして遊んでいましたし。

――想像できないようなこと！　ぜひ詳しく教えてください（笑）。

五味　言えないんだよな～、これが（笑）。まあ、試合前はいろんなことを我慢しないといけないじゃないですか？　そういうかんじで思いきり遊びましたね。

――とにかく遊んだということは、今回の試合内容の充実感はかなりあったわけですよね。

五味　そうですけど、今回に限っていえば仕上がり自体は良くなかったんですよね。モチベーションもちょい低かったですし。

――大晦日『男祭り』のジェンス・パルヴァー戦以来で試合期間も空いていましたし、試合に対するモチベーションを上げていく作業はかなり大変だったんじゃないですか？

五味　そうですね。体を休めていた時間が長かったから、なかなか思うように戦闘モードにスイッチが入らなくて、試合に対する良い意味での危機感というのがホント沸かなかったんですよね。もちろん試合の3週間ぐらい前から打撃の練習はビシッとやり始めたんですけど、レスリングに関してはほとんどやらなかったですから。

――そこが不安材料だったと？

五味　いや、レスリング（の練習）をやるつもりはもともとなかったんですけどね。ただ、不安という点でいえば、「試合になってみないとわからない！」というイチかバチかのところがあって。自分にツキがあれば勝ちに転ぶだろうぐらいの感覚でしたね。去年5連勝できたことも、自分の中では「なんで勝てたんだろう？」という疑問が少なからずあったんですよ。そういう感覚があったから、今年はどれくらい運が残っているのかな？　みたいな気持ちはありましたね。

――そんな精神状態であのルイス・アゼレードを完全KOするんだからホント凄いですよね。

五味　アゼレードは（ルイス・）ブスカペに勝っている強い選手ですし、蹴り技なんかはすごく練習してきてましたね。

――アゼレードのキックとワン・ツー攻撃は斬新というか、ちょっとビックリしましたね。

五味　でも、ボクは打たれ強いですし、打撃のスパーリングはかなりやり込んできてたんでね。ま、普通の人ですよね、アゼレードも。

――アゼレードは普通の人!!　それはなかなか言えることじゃないですね。

五味　どう思いました、試合を観て。

――いや、アゼレードはそうとう強いなって思いながら見てましたけど。でも、五味さんの力がアゼレードを上回った。猪木さんの「風車の理論」じゃないですけど、相手の力を9まで引き出して、五味さんが10の力で叩きのめしたというか。

五味　まあ、観たまんま感じてくれれば。はい。

――試合ももちろん凄かったんですが、そのあとの乱闘騒ぎもまた凄かったですよね。レフェリーの制止を振り切って倒れているアゼレードに五味さんが襲いかかって。

五味　絶対にやっちゃいけないことですけどね。ホント申しわけないです。試合が終わったあと「あれじゃ、そこらへんのケンカと変わらない！」というお叱りも受けま

中・軽量級の大舞台、新生『PRIDE 武士道』
5・22有明コロシアムで文句なしの大躍進!!
主役はやっぱりこの男

五味隆典は『武士道』エースの座を譲らなかった!!

難敵アゼレードを完全KO! 見たか、驚異の6連続1R一本勝ち!!

中・軽量級の闘いに特化した舞台として生まれ変わった『PRIDE 武士道』が5・22有明コロシアムで爆発した！　その象徴的な試合を繰り広げたのは、やはり『PRIDE 武士道』のエース五味隆典。シュートボクセからの刺客ルイス・アゼレードを相手に、五味が放った左フックは一瞬にして9千人の観衆を虜にした。『武士道』の新たなスタートに華を飾り、真の“エース”となった五味。試合後、彼の次に進む道について探った。

したよ。もちろん選手の安全もありますし、コミッションの方にも失礼な行為ですし。

―あの暴走の原因は五味さん自身はどのように分析してるんですか？

五味　やっぱり試合が半年間空いたということもありましたし、試合直前の各選手のコメントを聞いて、必要以上にプレッシャーを感じていたのかもしれないですね。

―どの選手も口を揃えて「五味と闘いたい！」と対戦要求していたことがプレッシャーになったと？

五味　きっとそれがイラつきになって、感情をコントロールできなかったんだと思うんですけど。そこは未熟なところでした。

―個人的には、対戦要求する選手への牽制的な行為なのかなって思ったんです。確信犯じゃなくて、迫りくるプレッシャーに突き動かされて無意識のうちに暴走してしまったんじゃないかと。

五味　う〜ん、そこまで瞬間的に考えてはないんだろうけど、感情はしっかりコントロールしなきゃいけないですよね。ボクの行動にガッカリしたファンの方も多かっただろうし、シュートボクセのチームの方も自分に手の届くところまで詰め寄ってきたんですね。向こうの方々も自分の大切な仲間を守るという強い気持ちがやっぱりあるわけですよ。家族以上の気持ちを持って選手のセコンドに付かれているんでしょうから。

―シュートボクセのフジマール会長もずいぶん激高していましたね。あと騒動とまったく関係ないチャールズ・"クレイジー・ホース"・ベネットも、ちゃっかりリングに上がって五味さんに対戦要求してました(笑)。

五味　いましたねえ(笑)。ボクはね、いままで世界中から狙われているという実感はまったくなかったんですよ。街を歩いててベネットや川尻(達也)選手が木の陰から俺のことを見てたりしたら、それは狙われている実感があると思うけど。

―そんなシチュエーションは『刃牙』死刑囚編の世界でしかありえないですね(笑)。

五味　だから、あの乱闘の場面にベネットがいることで、ようやく"俺は狙われてるんだ"って気付きましたね(笑)。

―あの"クレイジー・ホース"がきっかけになった(笑)。で、シュートボクセといえばヴァンダレイ・シウバもチーム意識が凄く高くて、シュートボクセの選手を倒した日本人を目の敵にしてますけど、今回の件で「ゴミとやらせろ！」とか復讐戦を要求してきそうですよね。

五味　そうですね。シウバとはいずれ闘いたいと思いますね。最近ね、いろんな選手が「五味と闘いたい！」とか言ってますけど、逆に俺がいま闘いたい相手は誰だろう？　って考えたら、それはシウバだって思ったんですよ。ボクはメチャクチャ強くなりたくて格闘技を始めて、すごい男になりたかったですから。いままではBJ・ペンが目標だったんですけど、彼は体重を上げちゃいましたし、どうせ階級が違うならシウバのほうが強いと思うんですよ。シウバに勝つほうが絶対的にすごいですからね。それが実現すれば俺は本気で闘うつもりだし、100％勝つつもりでいますから。

―それは見る方にとっては非常に興味深いテーマになりますけど、五味さんにとっては長く厳しい道のりになるだろうし、乗り越えるのはまた遙か高い壁になりますよね。

五味　やっぱり達成感が味わえることをやりたいから。ボクは修斗のウェルター級チャンピオンシップで(佐藤)ルミナさんとやるまで、デビューから3年間かかったんです。それまではマジメに練習してましたし、本当に神経質になって2ヶ月ぐらい前から慎重な生活をしてました。試合が終わったあとも偉大な選手に勝ったことで、肉体的にも精神的にもなかなか疲れもとれなくて。でも、そういう達成感が最近なくなってきてるんですよね。たとえば、対戦相手が怖くて夜も寝れないってこともない。試合への恐怖感みたいなものをもう一度、味わってもいいんじゃないかって。やっぱり「慣れ」というのは選手にとって一番よくないことだし。うん。

―五味さんには『武士道』というステージの底上げも要求されてきますよね。『武士道』は今回から中・軽量級に特化されたわけですが、五味さんは大会全体にどういう感想があるんでしょうか？

五味　う〜ん。やっぱりリニューアルや旗揚げの興行というのは、選手からすればイベントのテーマや雰囲気を掴むことはなかなか難しいと思うんですよ、一発目だか

Takanori GOMI

○五味隆典vsルイス・アゼレード×

(1R3分46秒／KO)

昨年の大晦日『PRIDE 男祭り』以来、半年ぶりの試合となった五味。試合開始直後、いきなり飛びひざ蹴りを仕掛けてきたアゼレードにペースを乱されるが、五味はステップを使いながら徐々に試合感を取り戻す。コーナーに詰まったアゼレードが右フックを出した瞬間に、五味は痛烈な左フックを合わせ、さらに右フックでとどめを刺した。この見事なKO劇に会場は大歓声。五味は"武士道のエース"の称号をほしいままにした。

いま闘いたい相手は誰だろう？って考えたら、それはシウバだって思った

ら。『HERO'S』のときもそれは感じましたけど、日本人選手の「やってやろう！」という気持ちが空回り気味になってしまって。逆に外国人選手はノリで楽しんじゃえ！　という気持ちが強いから、前半はその差が出たんじゃないですかね。ボクも前半戦を見て「ヤバイ！　日本人全敗しちゃうんじゃないかな～」って思いましたから。

——試合内容が悪かったわけじゃないですけど、日本人サイドには嫌な空気が流れていましたよね。

五味　で、マッハ選手が連敗を止めて、郷野（聡寛）選手や長南（亮）選手も勝ったけど、やっぱり俺がメインをキッチリ締めないと。あのままじゃお客さんは帰れないでしょ。また観に行こうと思わせる内容にしなくちゃダメだからね。

——そういう意味では、五味さんはメインイベンターとしてのハードルを完璧に飛び越えましたよね。それもその爆発は単なる点ではなくて、今後も線になって繋がるんだろうという期待感に溢れていて。

五味　まぁ、ボクは闘うために生まれてきたと思ってるからね（キッパリ）。

——闘うために生まれてきた！　先ほど五味さんは「運」という表現をされましたけど、特別な勝負運が宿っている感覚ってありますか？

五味　振り返ってみれば、去年は確実にありましたよね。「運」とか「ラッキー」とかさ、そんな言い方すんなって言う人もいるけど。でもね、俺はそんな言葉が大好きなんですよ。ただ運に任せるわけじゃなくて、やるときはやりますけどね、一生懸命。

——やっぱり運は日頃の鍛錬や実力が呼び込むものだったりしますからね。話は変わりますけど、今回の『武士道』には修斗ウエルター級王者の川尻選手が参戦されましたが、あの試合はご覧になりました？

五味　見ました。なんていうのかな。試合中なのに選手の血をレフェリーがタオルで拭いたのは驚きましたね。

——あれは不思議な光景でしたね（笑）。ガードポジションのキム（・インソク）選手の顔の血をぬぐっているという。

五味　流血はテレビ的に問題があったのかもしんないけど、かなりビックリした（笑）。

——試合後に五味さんがキム・インソクの風貌を「出前のあんちゃん」と評したこともビックリしたんですけど（笑）

五味　確かに言いましたが、選手はリスペクトしてますよ。うん。

——五味さんの中には、川尻さんが対戦要求するならもっと強い相手とやってからにしろ！　という気持ちがあったんですか？

五味　う～ん……知らない！

——え？　知らない？　五味選手の川尻選手に対する発言はかなりスリリングで面白いんですけどね。

五味　俺は何とも思ってないよ。侮辱しようだなんて思ってもないし。（川尻選手も）いい選手だし、一生懸命『武士道』を盛り上げてくれたからね。

——川尻さんの参戦が『武士道』のリニューアルの起爆剤のひとつになったとは思っているんですか？

五味　そういうことはよくわからないですけど、もちろん『武士道』を見にきたお客さんには、修斗のファンもいるだろうし、『PRIDE』が好きな人もいるだろうし。ファンが喜ぶ選手が出るってことはいいことだと思いますよ。

やっぱり俺がメインをキッチリ締めないと あのままじゃお客さん帰れないでしょ

——では、シウバ戦についてもう少しお話しをうかがいますが、日本人でシウバに勝つのは自分だという自信があるわけですか？

五味　なきゃ言わないですよ。シウバは打撃でグラつくときがあるし、ボクはパンチが得意ですし。体重差があるかもしれないですけど、シウバだって（マーク・）ハントと体重差40キロでやっているわけでしょ。ボクはボクシングに憧れて格闘技を始めてそれから修斗でやってきたので、ちょっとでも体重が違うのはイヤだという競技的な志向はずっとありましたけど。もういまの階級では特別意識する相手もいないし。まぁ、やるときはやるし、実際にやればコケちゃうこともあるかもしれないですけど、いまの自分に大切なことはもっと大きな目標を持って闘うことなんですよね。

——となると、『武士道』参戦が決定したヨアキム・ハンセンにも、そんなに興味はないんですか？　五味さんは以前、修斗のリングでハンセンに判定で負けていますけど。

五味　興味がないというか、やるときはやりますよ。ハンセンに勝てないとシウバにも勝てないもん。

——たしかに。以前に五味さんにインタビューしたときに、五味さんはハンセン戦の敗因のひとつとして、モチベーションの低下を挙げてましたよね。修斗の王者になったけど、その先の展開が見えずに煮詰まっていたというか。

五味　じつはあのときですね、ボクが17歳の頃からお世話になっていた木口道場がいろいろな事情で移転になりまして。やっぱり道場というのは自分の家みたいなもんでしたから。俺はこれからどこに行ったらいいんだろう？　どこで練習したらいいんだろう？　何のために頑張っているんだろう？　とかいろいろ暗いことを考えちゃったわけですよ。木口（宣昭）先生、オレを育てあげてくれたのはいいけど、ジムなくなっちゃったよ、どうしよう？　道場があんなことになって……ドウジヨウってかんじで。

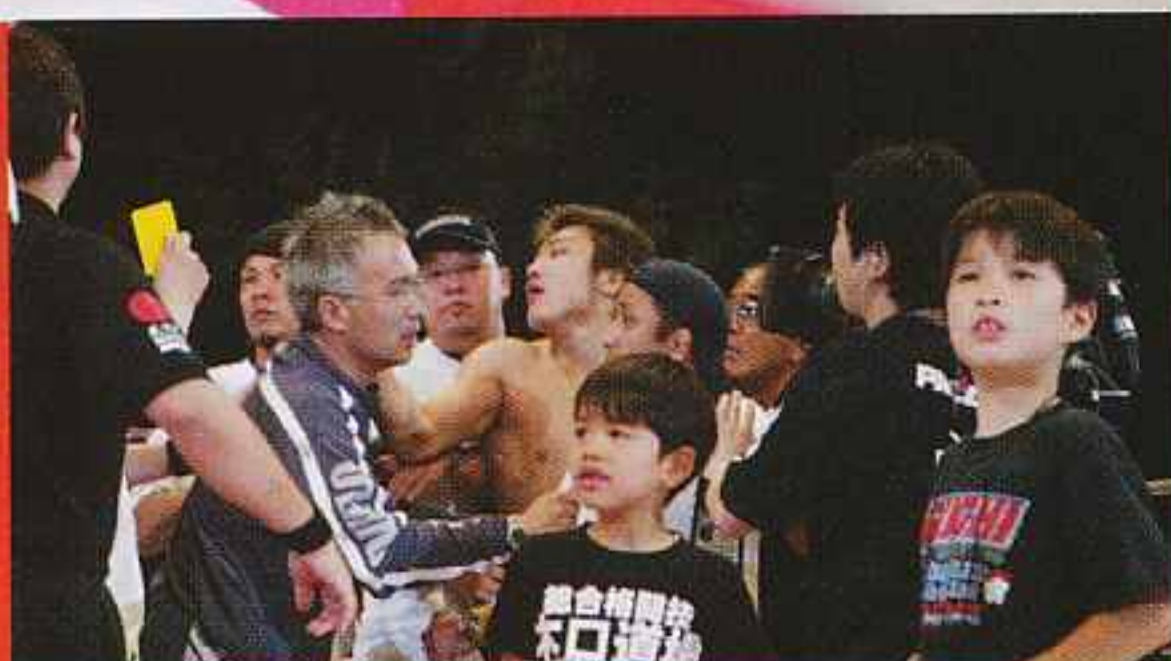
——……え、えっと、だからこそ五味さんは試合に集中できなかったんですねえ。

五味　あれ、いまわかんなかったですか？　ダジャレ。

——いや、たいへんよくわかりましたけど、ちょっと深刻な話の最中だから、突っ込んでいいものなのかどうかと（笑）。

五味　いいですよ、突っ込んで。

——そうですか。いや、その話にはホントに同情しますね……道場だけに！

久々の試合だったためか、過剰にエキサイトした五味はゴング後も意識が飛んだアゼレードに殴りかかっていく。レフェリーが止めに入るも五味はノンストップ状態。その行為に怒りをあらわにしたシュートボクセ陣営や大会関係者などがリング上になだれ込み、会場は一時騒然となった。

五味　（まったく無視して）そんなことがあったんですけど、『ＰＲＩＤＥ』さんからお話いただいて、みんながサポートしてくれてここまでこれたんだと思うんですよね。それで、このたび玉川学園にある木口道場をリニューアルできることになったんですよ。

――それはおめでとうございます！

五味　自分と帯谷（信弘）選手と西野トレーナーや仲間たちで、ジムをリニューアルして盛り上げていこうって。自分自身も玉川学園の近くに引っ越ししますし。

――本腰を据えて練習できる環境にもなるわけですね。

五味　これからはマジメにやろうかなって。前も言いましたけど、いまのボクの生活スタイルや練習環境を知ったら驚きますよ。よくこの世界でトップでいられるなと思いますよ、きっと。でも、そういう生活を変えようと思っているんです。よく「俺は遊んでるぜ！」とかパフォーマンスで言っている選手はいますけど、本当にすごい生活してますからね、ボク。

――これからストイックに格闘技に取り組むわけですね。

五味　うん。こないだボクは思ったんですよね。いまいろんなとこから注目されたり、好きなようにやらせてもらってますけど、最近ちょっと一生懸命頑張ることがバカらしくなっていたところがあったんですよね。「遊んでいても勝てるんだぜ！」みたいなスタイルがカッコイイかな〜なんて思っていたんですけど。

――ちょっと斜めに構えたかったというか。

『武士道』のエースっていう天下の称号があるんだからそれでいいんじゃない？

五味　で、こないだの試合が終わった一週間後に道場に行って気づいたんです。道場にいる中学生の子なんかは「マッハ選手、勝ってよかったね。ボク握手してもらったんだ」なんて言っていたんですが、誰もボクのことは褒めてくれないんですよ（笑）。

――そうだったんですか（笑）。

五味　やっぱり、いつも一緒にいるから特別な意識があまりないのかなって。だからボクは言ったんですよ。「俺が他のジムから出稽古で来ている選手だったら、カッコ良くてどうしようもなく憧れちゃうよ」って。でもね、「そんなこともない」って言うんです（笑）。

――ダハハハ！　しかし、すごい会話してますね（笑）。

五味　ま、顔を出したときはスンゲー二日酔いだったんですけど。

――もしかしたら、酒臭かったのが問題だったんじゃないですか？（笑）。

五味　でも、みんな「おかえり！」っていうかんじだったんですよね。その雰囲気にはウソがないと思うんですよ。いままではスペースの問題もあって子供たちと練習できなかったんですけど、夜遊びしている時間があるんなら、子供たちと練習していたほうが健康的だとも思ってね。これから一生懸命やろうと心を入れ替えましたね。

――すべてにおいて真剣に取り組もう！　と。その第一歩がジムのリニューアルだったりするんですね。

五味　いまボクは26歳ですから、30歳ぐらいまではクリーンな生活をして、そうすれば肉体も精神も長持ちすると思うんですよ。一生懸命やることにストレスをかんじてしまったら、そのときはちょっと息抜きすればいいですし……ちょっとだけ（笑）。

――五味さんの「ちょっと」はかなり怖いですね（笑）。

五味　あまりお酒は飲まないようにしようとね。やっぱり次の日の練習に備えたいし、もっとマジメにやったら、俺、もっとスッゲー強くなるから。それにシウバに勝とうと思ったらクリーンな生活しないとダメでしょ。うん。まだまだ強くなってシウバを倒しますよね。それが目標だから。

――目標でいえば、五味さんはよくＫ－１ ＭＡＸの存在を口にされてますよね。Ｋ－１には『武士道』と同じく中・軽量級の選手が中心になる『ＨＥＲＯ'Ｓ』という総合のステージもありますが、五味さんの中にはＭＡＸや『ＨＥＲＯ'Ｓ』にどんな意識があるんですか？

五味　とくにもう意識ないかな〜。俺には『ＰＲＩＤＥ武士道』のエースという天下

5・22『武士道 其の七』
有明コロシアム大会 DIGEST

×小見川道大vs アーロン・ライリー○
（1R 6分00秒／KO）

柔道界のエリート小見川の相手は、"立ってよし寝てよし"のアーロン・ライリー。序盤から打撃戦となり、ライリーのパンチが面白いように小見川の顔面にヒット。小見川はしぶとく応戦したが、最後はライリーの右ハイキックで崩れ落ちた。

×三島☆ド根性ノ助vs イーブス・エドワーズ○
（1R 4分36秒／腕ひしぎ逆十字固め）

UFCからの刺客イーブス・エドワーズは『武士道』初試合で三島と対戦。両者、上下を入れ替えながらグラウンドの攻防をつづけていたが、三島がパウンドからサイドに移ろうとした際にエドワーズが腕を取り、そのまま十字固めで一本勝ち。

×TAISHOvs ジェンス・パルヴァー○
（1R 1分00秒／KO）

『DEEP』を主戦場とするTAISHOを迎え撃つのは初代UFC王者ジェンス・パルヴァー。TAISHOはパルヴァーの打撃に応戦したが、TAISHOがサイドに回り込んで右フックを放った瞬間、それをかわしたパルヴァーの左フックがアゴにヒット！

×前田吉朗vs チャールズ・"クレイジー・ホース"・ベネット○
（1R 1分55秒／KO）

プロデビュー以降13連勝中、好調の前田は『武士道』初舞台で"暴れ馬"ベネットと対戦。持ち前の打撃で果敢に攻めた前田だったが打ち合いはベネットが一枚上。ベネットの鮮やかな右フックの前に前田は無惨にもリング上に崩れ落ちた。

の称号があるんだから。それでいいんじゃないかなと思って。だってさ、何を言ったってこっちは拳ひとつでやってるんだから、ゴチャゴチャ言うんだったら、この拳で話つけましょう！　って世界だからさ。

——シンプルでわかりやすい世界ではありますよね。

五味　無駄なことは考えたくない。いまは拳を振るだけでね、人気もお金も地位もあとからついてくるから。だって『武士道』のリングって、スッゲー大きな夢だと思うんですよね、みんなが思っている以上に。有明コロシアムという大きな会場で闘うわけですから、俺はそのリングにエネルギーを注ぎ込めばいいと思ってるんですけど、それとはまったく違う意味で、自分がやっていることに対する劣等感もすごく強いわけですよ。でもいまは「クソ！　いまに見てろよ！」という気持ちで格闘技やってるから。やっぱり、さっきの「運」や「ラッキー」の話じゃないけど、あれだけのお客さんの前でメインイベントを務めることは、何か運がなきゃできないことですし。大袈裟かもしれないけど、何億分の1の確率なんだから、自分はそういう機会や舞台を幸運にも与えられているわけですからね。余計なことを考えないでやるしかないですよね。

——五味選手は26歳とまだ若いですけど、17歳でひとり暮らしをしながら格闘技を始めたという長い道のりがあるだけに、格闘技にはいろいろと深い思い入れがあるように感じられるんです。

五味　ボクが高校時代にさ、ちょうど辰吉（丈一郎）選手と薬師寺（保栄）選手の素晴らしい試合が行われてたんですよね。それ見たら「俺も世界チャンピオンなりたい！」と思っちゃったんですよ。それでボクシングジムに入ったんだけど、ボクシングやる前からウエイトトレーニングは好きだったし、中学のときは野球をやってました。そんときはピッチャーだったんですよ。

——もしかしてピッチャーで4番だったりとか？

五味　いや、5番でしたね。いまも仲良くしている相棒が4番だったんですけど。……そういえば、その相棒と「オレたちって、モテるよね！」なんてバカな話をしてましたねえ（しみじみと）。

——あ、そんなにモテたんですか？

五味　じつはそれはとんでもない勘違いだったみたい（笑）。

——ダハハハ！　勘違いだと気付かされる衝撃的なことがあったわけですか（笑）。

五味　勘違いだった、結果的にいうと（笑）。よくそういう話をしてましたよ。「このコ、ワガママ言いそうだし面倒くさそうだから、野球の練習したほうがいいや〜」なんて言ってたんですけどね。でも、勘違いだったから笑っちゃいますよね。

——いまはどうなんですか？　やっぱりモテます？

五味　いまはね〜、なんだかわけわかんない。なんか方向性が間違ってきている。

——方向性が間違ってるというと？

五味　想像にお任せしますよ、そんなことはもう（笑）。

——ちなみに五味さんはどんなタイプが好みなんですか？

五味　ボクの好みのコはですね、頭が良くて、気遣いできて、気だてが良くて、明るくて……。

——ハードルがかなり高いですね、五味さんは!!

五味　う〜ん、あと料理が上手で、けじめのある人が大好きなんですよね。

——あ、まだ求めますか（笑）。

五味　……って言っとかないとね。タレントだったら誰ですかね？

——ちょっと難しいですねえ、その諸条件をクリアできるのは。

五味　う〜ん、やっぱりね、キレイなモデルさんが好き！

——ダハハハ！　今度はかなりシンプルな答えですね（笑）。

五味　そういうことにしておきます。なんだか変な話になってきてるから。

——そうですか（笑）。では、打倒ヴァンダレイ・シウバとキレイなモデルの獲得に向けて今後も頑張ってください！

五味　う〜ん。キレイなモデルってわけじゃないんだけど……なんだろな〜。ま、そこも知らないってことで（笑）。

【05年6月3日／青山DSE事務所にて収録】

Takanori GOMI

1978年9月22日生、神奈川県出身。173センチ、73キロ。第5代修斗ウェルター級王座。『武士道』では現在破竹の6連勝中、全試合1Rで決着をつけている。次回出場予定の7・17『武士道』名古屋大会では、さらなる連勝記録更新に挑む。

×美濃輪育久vs フィル・バローニ○
（2R 2分04秒／KO）

美濃輪の強烈な打撃にバローニは早くも出血。その後美濃輪がテイクダウンを仕掛け、一時はマウントを奪う場面も。しかし2Rに移ると形勢逆転。バローニのパンチラッシュに美濃輪が崩れ、とどめに顔面キックを放ったバローニがKO勝利を収めた。

○長南亮vs ニーノ・“エルビス”・シェンブリ×
（2R終了 判定3-0）

"殺戮のピラニア" 長南がエルビスに苦戦。コツコツとパンチを打ち合うも両者ともに攻め手がなく、試合は精彩を欠く展開に。結局、手数の多い長南が3-0で判定勝ちしたものの、長南にとっては持ち味を発揮しきれない試合となった。

○郷野聡寛vs クラウスレイ・グレイシー×
（2R終了 判定3-0）

得意のサブミッションでグラウンドに引き込もうとするクラウスレイだったが、郷野はあっさりこれをかわし、上からパンチ、踏みつけなどを仕掛けていく。クラウスレイも粘りを見せて試合を判定まで持ち込んだが、結果は3-0で郷野に軍配が上がった。

○桜井“マッハ”速人vs ミルトン・ヴィエイラ×
（2R終了 判定3-0）

体重をしぼって参戦したマッハが73キロ戦線で実力を発揮。ルタリーブリで活躍するミルトン・ヴィエイラを相手に、スタンドでのパンチからハイキック、テイクダウンと、終止試合をリード。試合は判定に持ち込まれたが3-0でマッハが圧勝した。

第八代修斗ウエルター級チャンピオン

川尻達也

Tatsuya KAWAJIRI

起死回生の中・軽量級大特化

5・22『PRIDE武士道・其の七』

聞き手／ジャン斉藤
撮影／松本崇
試合写真／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

修斗王者が狙うは打倒・五味!!
新生『武士道』のキーマンが、
いざもうひとつの頂へ！

「五味君の試合？あれくらいやってくれないとこっちもやりがいないから」

修斗王者の鉄の自信、炎の野望

五味隆典の劇的な勝利で幕を閉じた5・22『武士道・其の七』だが、修斗ウエルター級王者・川尻達也の存在なくして『武士道』は"中・軽量級特化"の看板を大きく掲げることはできなかったのではないだろうか？『武士道』デビュー戦となった今回は、格下のキム・インソクを軽く一蹴するにとどまったが、これまでの実績はもちろんのこと、風貌からみなぎるその自信は、五味を頂点とする『武士道』ライト級（73キロ以下級）に激烈なうねりを起こす気配に満ちているのだ。

昨年より"他団体出撃"を示唆していた"中・軽量級最後の大物"川尻達也が選択した戦場は、このたび中・軽量級の特化でリニューアルした5・22『PRIDE武士道・其の七』のリングだった！

もともと『武士道』登場を業界で囁かれていた川尻は、『武士道』参戦のほぼ一ヶ月前、4・26修斗福岡大会で欧州修斗王者にして「HERO'S」ミドル級トーナメント出場予定の実力者ヤニ・ラックスを『武士道』出陣の試し斬りとばかりに軽く撃破！　翌月に『武士道』参戦を電撃的に発表し、迫りくる中・軽量級特化のビッグウエーブに勢いよく飛び乗った。そして見事に勝利した『武士道』のリングで、快勝の勢い余ったのか高田本部長ばりのパフォーマンスも披露した！　なので、次戦で「お前ら男だよ！」「鳥肌立った！」と叫ぶのも時間の問題!!……なわけはないが、五味隆典をエースに擁する『武士道』ライト級（73キロ以下）のキーマンになるのは、これこそ時間の問題だろう。この川尻の参戦により、すでに『武士道』ライト級戦線にはピリピリしたムードも漂っているのだ。

特化した『武士道』を激化させる、この川尻達也とは何者なのか？　川尻の地元・土浦にあるチームTOPSジムで、鉄の自信の中にうごめく熱き野望を語ってもらった。

――本誌初登場の最初の質問はまったく格闘技とは関係ないですけど、川尻さんはモノマネが得意らしいですね。

川尻　え……？　そうなんですか？

――あれ、某格闘技専門誌の選手名鑑にそう書いてありましたけど。

川尻　そういえば、そんなことを書いたような……。う～ん、得意というわけじゃないですけどね。

――そうでしたか（笑）。川尻さんは先日の『武士道』で「7月の名古屋を見に来いや～っ！」と高田本部長ばりのパフォーマンスを披露しましたけど、あれってモノマネなんですか？

川尻　いや～、あれはモノマネじゃないです。

関（川尻マネージャー）　よくジムで（出てこいや～！の）練習してるよな（笑）。

川尻　いや、してない、してないです（笑）。あれは7・17『武士道』名古屋大会に「俺も出たい！」という意思表示ではありますね。

――なるほど。ボクは、修斗のチャンピオンが高田本部長のマネをするなんて凄い時代がやってきたなって驚いたんです（笑）。まさしく歴史的瞬間ですよ！

川尻　そうなんですか？（笑）。

――大袈裟な言い方はしちゃいましたけど、いままでの修斗と『PRIDE』の距離を考えると、眉をひそめる格闘技マスコミや関係者は確実にいるはずですよね。

川尻　ボクはあまり深く考えてないですからね～。いつだって自由にやらせてもらっていますし。ただ、（高田本部長に）怒られないか心配だっただけで。

――高田本部長は実況席で「恐れ入りました」と言ってました（笑）。

川尻　それは良かったです（笑）。

――で、今日は先日の『武士道』の話を中心に川尻さんの強さや人間性に迫りたいと思ってるんですが、今回、初めてTOPSのジムにおじゃまさせていただきましたけど、ここ茨城は何かしら誘惑が多い東京と違って、格闘技に打ち込めそうな環境ですね。

川尻　田舎で周りに何もないだけですけどね（笑）。

――当初は茨城で格闘技をやっていくこと

に不安はあったんですよね？

川尻　それはスッゴイありましたね、むかしは。指導者やトレーナーはいないし、自分たちがやっている練習が正しいのかどうかさえわからなかったですから。でも、マッハ（桜井“マッハ”速人）さんが目標としてそばにいたんで。あと隆多さん（桜井隆多、DEEPミドル級チャンピオン）の存在も心強かったです。2人の先輩がいなかったら、いまでもアマチュアでやっていたと思いますね。

――そんな川尻さんが格闘技を始めたきっかけは何だったんですか？

川尻　大学生のときにK-1を観に行ったんですけど、そのとき格闘家になりたいなと思って。総合格闘技の試合を初めて観たのは、中尾（受太郎）さんとマッハさんのタイトルマッチのときですね。

――7年前の修斗ミドル級王者決定戦が初観戦。TOPSに入門するまで格闘技歴はなかったんですよね？

川尻　そうですね。スポーツは高校のときに陸上やっていたぐらいで。小さい頃から妙な自信はあったんですよ。やれば俺、強いだろうなって。

――何か根拠はあったんでしょうか？

川尻　いや、根拠はないです。妄想癖だったというか（笑）。

――修斗王者は妄想癖！

川尻　そこまで大袈裟なもんじゃないですけど、根拠のない妙な自信はむかしからあったんですよ。でも、実際に格闘技をやってみたらボコボコにやられて、俺、チョー弱いなって。まぁ、ボクの格闘技人生は勘違いから始まってますよね。

――いまでもその自信は心の根っこに張り付いているんですか？

川尻　自分が一番強いと思ってます……って、いまは根拠がありますよ（笑）。

以前の熱気を修斗に取り戻したいんですよね
そのひとつの手段として、外のリングで俺が勝てばいいかなと

――ダハハハ。修斗王者になって、いまは現実として追いつけているわけですよね。

川尻　徐々に追いついています。

――格闘技を始めたころは、『PRIDE』にはどういう印象があったんですか？

川尻　ヘビー級のデカイ選手の集まり。地上最強を決めているリングだと思ってましたね。当時は自分が出ることになるなんて、まさか思ってなかったです。

――実際に『武士道』のリングに上がってみてどんな感想がありますか？

川尻　なんかね、良かったっスね。『PRIDE』の関係者が選手全員に優しいというか、対応がいいというか。選手をリスペクトして対応してくれるので。お客さんの反応も良かったし、ホント楽しかったです。

――試合内容に関していえば、試合後に「力み過ぎた」と言ってましたね。

川尻　それはもう一秒でも早く相手を倒さないといけないというプレッシャーが大きかったんで。

――それは『PRIDE』という舞台だからこそ意識した部分なんですか？

川尻　『PRIDE』は、よりアグレッシブさを求められるという意識があったので。

――とにかくインパクトがある勝ち方をしたかった！　と。川尻さんは『武士道』のほぼ一ヶ月前の4・22修斗福岡大会で、ヤニ・ラックスと対戦して1RKO勝利を飾ったわけですが、ラックスは欧州修斗王者でかなりの強敵。その時点で『武士道』参戦は発表していませんでしたが、川尻さんののちの発言を聞く限りでは連戦する覚悟だったようですけど、ラックス戦に不安はありませんでしたか？

川尻　そういう意味では（ヤニ・ラックスは）厳しい相手だなあとは思ったんですけど、やっぱりチャンピオンになって一発目の試合でしたからね。それに（ヨアキム・）ハンセンの同門じゃないですか？　いずれハンセンと闘うときのイメージ作りになると思ったし、そこは坂本（一弘、修斗協会会長）さんの親心だと思いましたね。

――その試合で川尻さんが拳を痛めたことで、『武士道』参戦の発表が遅れたという話を聞いたんですけど、多少の無理をしてでも参戦したかったわけですか？

川尻　やっぱり新生『武士道』の一発目だったし、今回は都内開催だったじゃないですか？　大きなアピールなると思ったので出ようと決めたんですけどね

――『武士道』出場はいつぐらいから意識されていたんですか？

川尻　去年の夏ぐらいからですね。中・軽量級の闘いがあるなら、自分も闘ってみたいなって。ボクは修斗でチャンピオンになることを目指してきたんですけど、その先を考えたときに修斗だけで闘っていちゃ、いずれ行き詰るだろうという考えがあったんですよ。で、行き詰らないためには、修斗とは違う舞台で闘えばモチベーションも出てくるだろうし、なによりチャレンジャーの立場で闘えると思っていたんです。

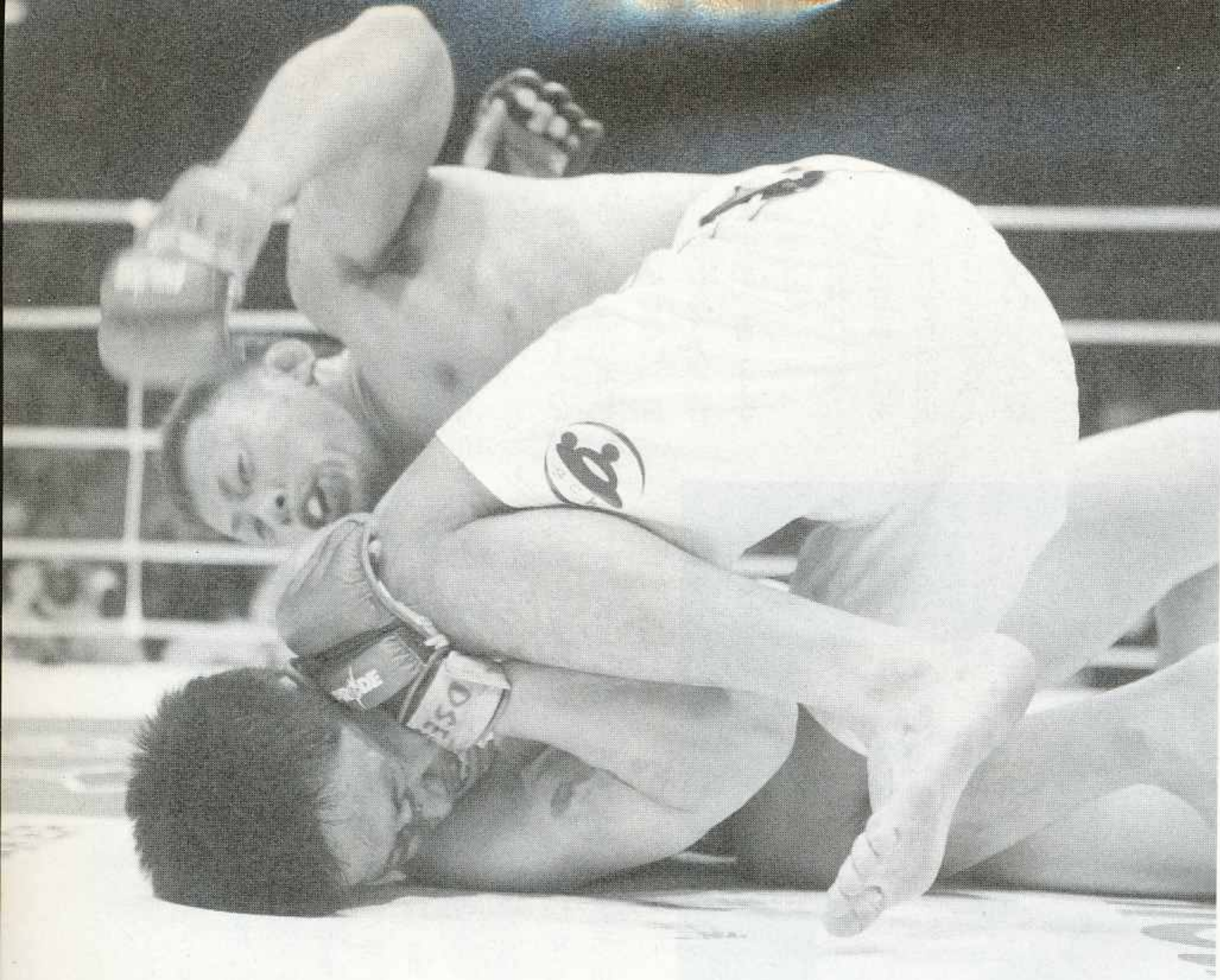
――いままで修斗には、川尻さんの言葉を借りると「行き詰まる」選手が多かったわけですよね。

川尻　そうですね。モチベーションの低下で負けるチャンピオンや、修斗から離れていった選手もいたし。だから、自分は行き詰ることを回避できる環境をつくりたかったんですよ。チャンピオンの自分がこういう行動を取れれば、修斗をやめない選手や、修斗に戻ってくる人も出てくると思ったので。革命という言い方は大それているかもしれないですけど、ボクは修斗内で意識改革をしたかった気持ちがあったんです。修斗の看板を背負ってもし負けたら、修斗ファンや関係者から叩かれるのはわかっていますけど、そこを気にして縮こまっていたらね、何もできないですから（キッパリ）。

――それでも修斗のチャンピオンのまま他のイベントに出るのは、修斗という競技や組織の理念上、難しい問題があったわけですよね、周りが想像している以上に。川尻さんが『武士道』に出場できたのは、修斗上層部の理解を得られたからなんですか？

川尻　やっぱりDSEさんと、坂本さん、ボクのマネージャーの関さんが誠意を持って対応してくれたおかげですね。そういう意味ではボクは恵まれてますよね。

関　川尻は「運がいい」とかいわれていますけど、それは違うんですよね。川尻は自分で自分の道をつくってきたと思うんですよ。それに川尻が外のリングに出ようと思えば、もっと早く出れたんです。でも、修斗でお世話になった関係者と揉めてまで『PRIDE』に出る気は川尻本人にはなくて。出場するにしても段階を踏んでいきたいと思っていたんですよ。

川尻　選手として良い条件を求めるのは当

たり前のことだと思いますけど、ボクは修斗に拘りを持ってやっているし、やっぱり修斗のチャンピオンなんで。

――王者として軽々しい行動は取れなかったということですね。『武士道』以外にも選択肢はあったと思うんですよ。たとえば『HERO'S』という選択もあったわけですよね。

川尻　そうですね。

――以前、K-1の谷川（貞治）さんが唐突に川尻さんの名前を出したときがあったんです。名前を出す以上は『HERO'S』出場の線で話が進んでいるのかなって思ったんですけど。K-1から具体的なオファーはあったんですか？

川尻　ボク個人にはなかったですね。でも、最初から何があっても『武士道』に出ると決めてました。それは『武士道』が最強を求めるリングで、何より闘いたい選手が『武士道』にいたから。

――闘いたい選手って、五味（隆典）さんのことですか？

川尻　はい。自分に正直になって誰と闘いたいかと考えたときに、やっぱり『武士道』しかないと思ったんです。

――『HERO'S』には以前、修斗で闘ったことがある宇野（薫）選手がいます。結果はドロー裁定でしたけど、宇野選手のことは意識してないんですか？

川尻　あんまりないですね。あの試合、ボクが勝ったと思ってますから。

――『HERO'S』には強敵がもうひとり。川尻さんが『武士道』参戦を発表した時点で、ヨアキム・ハンセンは『HERO'S』サイドという認識がファンや関係者にはありましたけど……。

川尻　（遮って）いや、ハンセンは『HERO'S』というより、ボクら修斗の選手ですよ。彼が『武士道』に来ることは知らなかったんですけど、俺、年末の修斗の（ウエルター級の）防衛戦は、ハンセンとやりたいんですよね。それくらい修斗の選手としてハンセンのことを意識しています。

――では、『武士道』でヨアキムとのマッチメイクをオファーされてもピンとこないわけですか？

川尻　できれば、修斗でベルトを賭けてやりたいですけどね。まあ、修斗の良さをアピールできればやってもいいですけど。

――川尻さんが『武士道』参戦を決めたのも、修斗をアピールしたい気持ちが強かったからなんですよね？

川尻　やっぱり、以前の熱気を修斗に取り戻したいんですよね。そのひとつの手段として、他のリングで俺が勝てばいいかなと。

――修斗のアピールが目的のひとつなら、プライムタイムでTV放映している『HERO'S』のほうが魅力的な舞台じゃないですか？

川尻　たしかにそうですけど、修斗にお客さんを持ち帰るという意味では、K-1を見ている層よりも、『武士道』のファン層のほうがいいと思ったんですよ。俺がやっていることをわかってくれるファンが『武士道』には多いだろうなって。

――そういえば、K-1MAXの観客層って、5、6割ぐらいは女性ファンらしいんですよ。

川尻　あ、そうなんですか。

――『武士道』では聞くことができない黄色い歓声が渦巻いているわけです（笑）。あんまり女性ファンは意識してないんですか？

川尻　いや、あったらあったでいいですよ、そりゃ（笑）。でも、ボクにとって一番大事なのは強さなので。そこを追い求めるなら、『武士道』だろうなって。自分は実力的にまだまだ初心者みたいなもんなんで。

――こんなに強い初心者は見たことないですけど（笑）。

川尻　いや、まだ格闘技を初めてそんな経ってないし。それに強さは終わりはないじゃないですか？

――キリがないところではありますね。川尻さんは強さを追い求めるあまり、修斗の雷暗暴（らいあん・ぼう）戦の直前は鬱状態になったみたいですけど。

川尻　ああ、ありました。練習しすぎで「俺、なんで格闘技をやってるんだろう？」「次の試合で引退しよう」とか風呂の中で考えちゃって（笑）。精神的に追いつめられていたんですよ。その前のイーブス・エドワーズ戦は勝ったけど膠着しちゃったので「次、ヘタな試合をしたら、オマエ終わ

Tatsuya KAWAJIRI

○川尻達也vsキム・インソク×

（1R3分28秒／TKO　※タオル投入）

何が起こるかわからないのが総合格闘技のリングではあるが、KPWF軽量級王者という触れ込みのキムを川尻がどう料理するかに試合の焦点は定まっていた。川尻は“クラッシャー”の異名どおり、強烈なパウンド&サイドからのヒザ攻撃でたたみ掛けるが、キムの驚異的な粘りの前にトドメは刺せず。とはいえ、川尻の磐石さに一瞬たりとも揺らぎはなく、ついにマウントを奪取したところでキム陣営からタオルが投入された

試合後マイクを握った川尻は、観客に修斗への来場を呼びかけ、そして「名古屋に見に来いや〜っ!!」と髙田本部長ばりに身体を仰け反って次回7・19『武士道』のデモンストレーションも。本家・髙田本部長のそれと比べると、声の張り、腰の角度、見得の切り方はまだ及ばないが、ぜひ修斗のリングでも仰け反ってもらいたいものである

りだから」ってマネージャーにも脅かされていたし。

――でも、修斗はランキングの争いがあるから、勝てばそれでいいという競技的な側面もあると思うんですよ。川尻さんは勝利以外にも、何かしらプラスアルファを追い求めていたわけですか？　たとえば、試合内容でお客さんを満足させたいとか。

川尻　そうですね。新人の頃からそこは意識していましたね。俺、もともと格闘技ファンだったから、ファンの気持ちはわかるつもりなんで。やっぱり楽しい試合をしないとお客さんは満足しない。自分が納得してお客さんも喜んでくれるのが一番ですからね。

――根っから身体に染みついているプロ意識ではあるんですね。昔からの川尻さんのインタビューを読んでみると、そういったプロ意識の他に、「憎しみ」という意味合いの言葉がたびたび出てきたりして、いつも相手に怒っている印象があるんですけど。

川尻　そうですか？（笑）。たしかに、一回負けた選手にはそういう感情はありますけど。

――いまは憎しみの感情を抱く選手っていますか？

川尻　いまはいないですね。

――たとえば、五味さんに対してもそういう感情はない？

川尻　ないです、ないです（笑）。お互い切磋琢磨して強くなりたいという気持ちはありますけど、憎しみはないですよ。

――でも、最近の五味さんとの誌（紙）面や会見での言葉のキャッチボールは、やけにヒリヒリするものがありますよね。公開練習のときに川尻さんが「五味君に挨拶したら無視された過去がある」とか言い出したりして、舌戦のベクトルがとんでもないところにいってるなと（笑）。

川尻　あ～（笑）。無視されたときは「なんだコイツ？」って頭にきたんですけど。いまになってみると、五味君は当時から俺のこと意識していたのかなってね。

――五味さんの口からも挑発的な発言が飛び出してますけど、川尻さんはどう思っているんですか？

川尻　いいんじゃないですか、どんどん俺のことを意識してくれれば。意識しすぎて好きになられても困りますけど。アハハハ！

――そ、そうですか（笑）。

川尻　いや、別にこっちは五味君に敵意はないですけど、なんだろな……？　思っていることをそのまま言っているだけで。

――某格闘技専門誌での五味さんの「俺と闘うのは5連勝してから」「川尻は10年早い」という発言は率直にどう思います？

川尻　5連勝はともかく、「10年早い」はねえ。10年後、37歳なんで。そこまでは待てないですね（笑）。だから、もっと『武士道』のリングで実績をつくれ！　ってことですよね。それは五味君に言われる前から思っていましたけどね。『ＰＲＩＤＥ』のファンが自分の強さを理解してくれてから闘った方が絶対に盛り上がるし、みんなが盛り上がれば、自分も盛り上がるし。やるんだったら究極の舞台がいいですから。みんなを巻き込むぐらいんｐパワーが付いて、たとえば、『男祭り』のメインを張るぐらい期待感が出れば最高ですね。

個人的には明日にでも五味君とやりたいですけど、プロとして筋は通しますよ

Tatsuya KAWAJIRI

【かわじり・たつや】1978年5月8日、茨城県稲敷郡出身。171cm、70kg。02年修斗ウエルター級新人王。04年12月にヴィトー"シャオリン"ヒベイロを倒して第八代修斗ウエルター級王者に就く。"クラッシャー"の異名を誇るパウンドが武器。

――メインといえば、今回の『武士道』を最高のかたちで締めた五味さんの闘い振りはいかがでしたか？

川尻　強かったですね。エースらしい勝ち方で。ま、あれぐらいやってくれないと、こっちもやりがいがないですから（ニヤリ）。

――川尻さん、面白いですね（笑）。

川尻　そうですか？　思ったことをそのまま言ってるだけなんですけどね（笑）。

――プロセスを必要としないなら、いますぐ闘いたい気持ちは当然あるんですよね。

川尻　個人的には明日にでもやりたいですよ。でも、やっぱりね、プロとしてお客さんを相手にしている商売だから、個人の考えだけを押し通すわけにもいかないので。ちゃんとそこは筋を通しますよ、五味君に言われなくても。

――次回は誰と闘ってみたいですか？

川尻　（ルイス・）ブスカペかな。

――個人的には、チャールズ・"クレイジー・ホース"・ベネットとの"修斗のチャンピオンvs馬鹿のチャンピオン"が見てみたいところはあるんですけど（笑）。

川尻　イロモノはちょっと……。お客さんが望むのであれば闘いますけどね。

――そういえば、今回の川尻さんの対戦相手を五味さんが「出前のアンちゃん」と言っていたことは知っていますか？

川尻　あ～、何かに書いてありましたね、それ（笑）。たしかに体格や技術的には、いままでボクが闘ってきた相手の中では下の方ですね。でも、普通は殴れば殴るほど相手の闘志が衰えていくのがわかるんですが、今回は目が死なないんですよ。精神的な強さにちょっと驚きました。

――精神的なことでいえば、川尻さんは出で立ちからして威風堂々としていて、相手に敬意を持ちつつも圧倒的な自信を見せつけている感じがするんですけど。

川尻　やっぱり一番生き残ることが厳しい修斗のチャンピオンですからね、ボクは。

――その自信が揺らぎそうになった瞬間ってありますか？

川尻　ないですね（キッパリ）。

――頼もしい（笑）。

川尻　でも、リングを降りたら揺らぎっぱなしですよ。普段は練習でボコボコにされているし、それにボクはデビュー戦（タクミに1R一本負け）で心を折られているんで。つぎに折れたら格闘家として終わりだと思っているし、相手の心を折るために闘ってますから。そう思って相手のこと殴ってますから。そういう覚悟があります。はい。

――誰が相手でも心を折る自信はあると？

川尻　ありますね。……あの、これは根拠のない妙な自信じゃないですよ（笑）。

――わかりました！（笑）。今後の川尻さんの活躍を期待しています！

【05年5月26日／茨城ＴＯＰＳジムにて収録】

五味の人生を変えた男が
7・17『武士道・其の八』に参戦決定！

「残忍なファイトを見せてやる」

北欧の残虐超人

ヨアキム・ハンセン

Joachim HANSEN

『HERO'S』から『武士道』へ！ 歴史は繰り返される "ハンセン電撃移籍"!!

中・軽量級の大物がまたひとり『武士道』へ！ 五味隆典の首を狙って、いや、返り討ちという表現のほうが正しいだろう。かつて修斗で五味を破ったヨアキム・ハンセンの『武士道』参戦が決定した。ハンセンといえば、『武士道』のライバル組織『HERO'S』に出場したばかりで、これはショッキングな移籍劇！ そう、それはあのスタン・ハンセン全日本電撃移籍のように——

起死回生の中・軽量級大特化
5・22『PRIDE武士道・其の七』

文／橋本宗洋
構成／ジャン斉藤
撮影／乾晋也
designed by matsu (TwoThree)

「ハンセンが来た!!」

5月22日、『PRIDE武士道・其の七』第3試合終了後。参戦決定選手としてヨアキム・ハンセンの姿がビジョンに映し出され、続いて本人が花道に登場したときの場内の反応にはただならぬものがあった。3月にはライバル大会『HERO'S』に出場していた男が、急転直下『武士道』のリングに上がる。その驚き、興奮はまるで昭和56年12月13日、全日本プロレス「世界最強タッグ決定リーグ戦決勝」の蔵前国技館に、新日本プロレスのエース外国人選手だったスタン・ハンセンが電撃的に登場した事件を彷彿させるものであった。

このエピソードを詳しくわからない人はおいてけぼりにするが、『武士道』における〝ハンセン登場〟も凄まじいインパクト。まあ傍らにいたのはブロディ・スヌーカ組ではなく、やはり参戦挨拶に立った『ZST』のエース小谷直之だったわけだが（これはこれで凄い〝事件〟である）。

いや、ハンセン登場の衝撃は、なにも『HERO'S』から『武士道』への電撃的乗り換えだけがもたらしたものではない。ハンセンがこれまでリング上で残してきた実績、ファンの前で見せ付けてきた実力こそが肝。この男、紛れもなく中量級世界屈指の強豪なのである。

ハンセンは1979年5月26日、ノルウェーはオスロ出身。北欧のファイターというと思い浮かぶのは、新日本プロレスで橋本真也との異種格闘技戦で名を馳せたトニー・ホームくらいのもので（それもどうかと思うが）、格闘技ファン的には完全ノーマークだった土地。そこに目を向けさせたのが、アブダビ・コンバットで活躍したユノラフ・エイネモと、このハンセンだった。

フィンランドの格闘技大会『フィンファイト』で注目を浴びたハンセンは、02年12月14日の修斗NKホール大会で初来日。減点2をもらいながらウェルター級ランカーのタクミを判定で下す。続く03年3月18日の後楽園大会では〝修斗のカリスマ〟佐藤ルミナに1R2分9秒でTKO勝ち。足関節を仕掛けたルミナを押し潰し、パウンドでメッタ打ちにしてのレフェリーストップだった。

五味に方向転換させたのがこのハンセンであり、ハンセン戦の敗北がなければいまの五味はなかったといえる

そして同年8月10日の横浜文体大会。修斗ウェルター級王座を保持していた五味隆典に挑戦したハンセンは、2-0の判定勝ちで王座を強奪する。この敗戦もあって、五味は新たな方向性を模索、翌年から『武士道』に参戦することになる。いわば五味に方向転換させたのがハンセンであり、ハンセン戦の敗北がなければいまの五味はなかったと考えると、ハンセンの『武士道』参戦には、なにやら運命的なものさえ感じてしまう。

一昨年12月、ヴィトー〝シャオリン〟ヒベイロに敗れたハンセンだが、今年3月には『HERO'S』に参戦。同じく修斗出身の宇野薫と大会ベストバウトともいえる激闘を展開してみせる。アグレッシブかつテクニカルなグラウンドの攻防、それに最後の最後で宇野を仕留めた飛びヒザ蹴り。この試合でハンセンは、コア層を飛び越えた認知度を獲得することとなった。

当然、次は『HERO'S』トーナメント参戦。そう思っていたファンは多かったはず。だがハンセンの選択は『武士道』だった。その真意を探るべく、参戦発表直後に有明コロシアム内でインタビュー。ごく短い取材時間の中、〝事件〟の渦中にいる男は、あくまでストレートに決意と覚悟、それに自信を語ってくれた。『プロレススーパースター列伝』における〝ハンセン移籍〟場面のセリフを借りるなら「新しい強敵を求めるのはおれたちお互いの性分」といったところか……。

——今日のハンセン選手の『武士道』参戦発表には、多くのファンや関係者が驚いています。リングに登場したときの観客のリアクションもホントに凄かったんですけど、耳に入りましたか？

「もちろん。あれだけ大きな歓声をもらったのは、正直嬉しかったな。だけどそれをプレッシャーに感じたのもたしかだ。期待してもらったら、それに応えなきゃならないからな。それがプロってもんだ」

——『武士道』参戦を決めた理由は何だったんですか？

「簡単だ。『武士道』がウェルター・ウェイトで世界最高の場だからさ。以前は『PRIDE』というとヘビー級、ミドル級の舞台で、こっちとしては見ることしかできないもんだった。でもいまは違う。オレたちの階級でも闘う場ができて、しかも最高の選手が揃ってる。だったら出たいと思うのは当然だろ？」

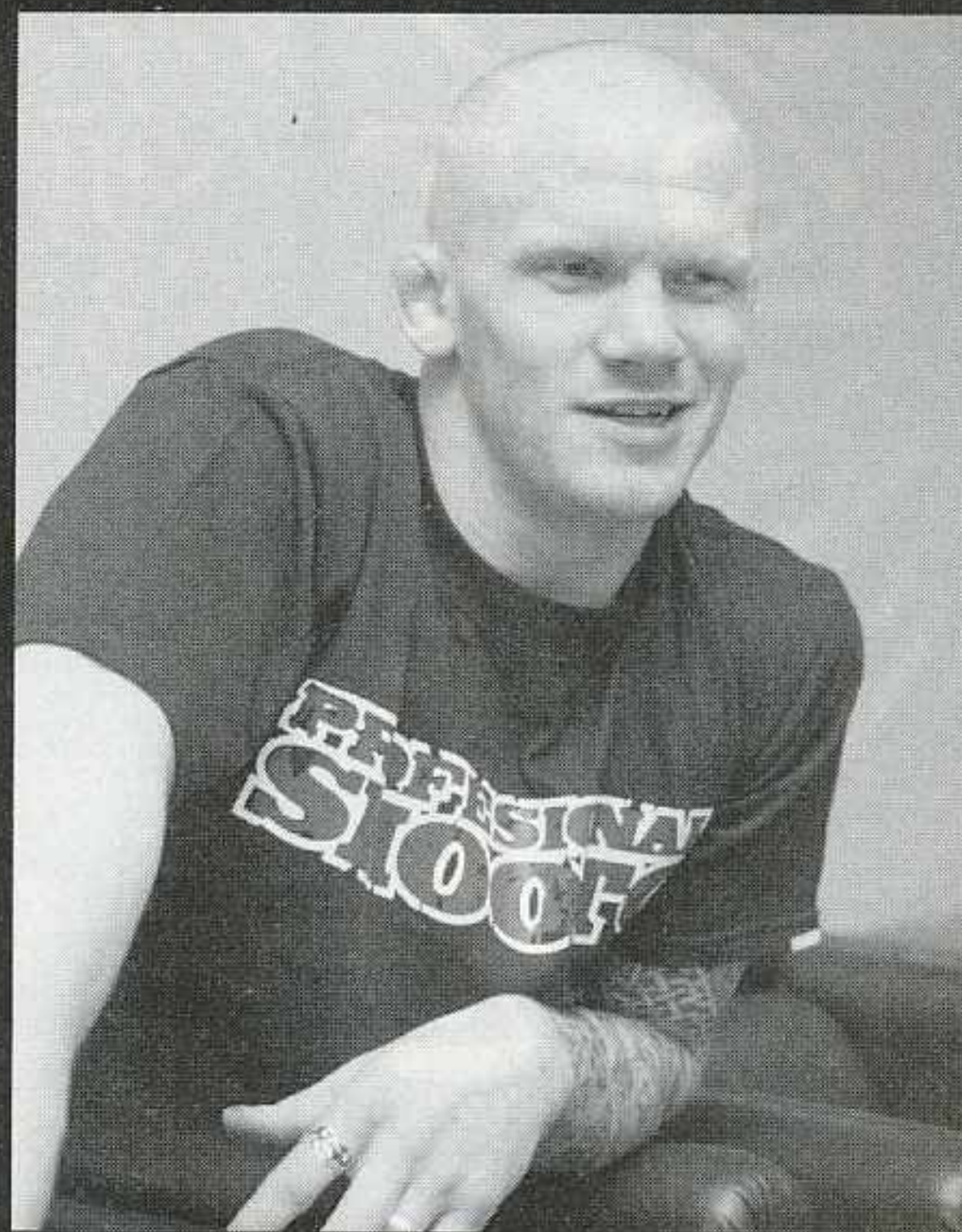
——とはいえハンセン選手は3月に『HERO'S』に出たばかりですから、みんな驚きますよ。『HERO'S』で宇野選手を倒したあとに「今後のことはわからない」というコメントを出していましたけど、そのときから『武士道』参戦も視野に入れていたんですか？

「いや、あのときは試合直後で疲れてたから〝わからない〟というのが正直な気持ちだったんだ。実際、試合のことはすべてマネージャーに任せてるしな。ただ、『PRIDE』が以前から憧れていたリングなのは間違いない。マネージャーから〝次は『PRIDE』に乗り込むぞ〟と言われたときは、やっと夢がかなったって気分だったよ」

——『HERO'S』でもトーナメントが開催されるんですが、そこで闘いたい選手はもういなかった？

「ゲンキ・スドー（須藤元気）とは闘ってみたかったな」

——けれども『武士道』のリングのほうが闘いたい選手が多かった、と。

「というよりも、とにかく『PRIDE』のリングに上がりたかったというのが正直なところだな。相手に関していえば、誰でもいい。誰とだって闘うのがオレのモット

5・22『武士道・其の七』で、すでに参戦発表されていたZSTのエース小谷直之が挨拶のためにリングインした直後——ヨアキムの『武士道』参戦がアナウンス！ 入場ゲートにヨアキムが姿を現すと、観客から大きなどよめきが起こった!!

ハンセンの真骨頂は全局面における打撃。よりルールに制限のない『PRIDE』のリングでさらなる猛威を振るうことは確実だ

ーだ」

——『武士道』では、ハンセン選手が修斗で勝ったことがある五味選手がエースとして活躍されています。そのことは意識していますか？

「ゴミは以前より強くなっていると思うね。基本的なファイトスタイルは変わっていないが、キレが増している感じだ。ゴミは才能もあるし、それに強くなるための努力も欠かしていない。いま『武士道』でナンバー1になっているのも当然だと思う」

——そのナンバー1の選手に、自分は勝っているんだという自信はありますか？

「もちろんある。それに、これから『武士道』のナンバー1になるのは自分だという自信もある」

——五味選手は、早くもハンセン選手との再戦を希望していて「今度やったら、ハンセンは今日のアゼレード（五味に一撃KO負け）みたいになる」と言っていますが……。

「いいんじゃないか。試合前ならなんとでも言えるって。いざ試合が始まったら、そんなことは言っていられなくなるんだから」

『HERO'S』のリングで宇野薫とベストバウトを繰り広げたことが記憶に新しいヨアキム。ルミナ、五味、宇野を下した恐るべき打撃は、7・17『武士道・其の八』で"足関十段"今成正和に向けられる。いきなりの大一番で『武士道』に血の雨を降らすか——!?

Joachim HANSEN

——五味選手、ハンセン選手に加えて、『武士道』には修斗ウェルター級の現王者・川尻達也選手も参戦しています。因縁深いこの3人が『武士道』で新たなストーリーを展開していくと思うとワクワクしますよ。

「オレとカワジリが出場することで『武士道』のリングがより面白くなるのは間違いないな。そして、この3人で誰が一番強いかもはっきりするだろう」

——参戦発表した今日のリング上や、インタビュースペースでの榊原代表との会見でも、修斗のTシャツを着ていましたよね。修斗の選手として『武士道』に参戦するという意識が強いんですか？

「修斗という舞台がなかったら、オレはこの場にはいないと思う。日本で闘うきっかけを与えてくれたのは修斗だし、オレの闘いの原点みたいなもんだ。だから今日も修斗を代表する気持ちで、このTシャツを着てきたんだ」

——ただ『PRIDE』ルールは修斗ルールとは違って、打撃に制約が少ないですよね。具体的にいうと、グラウンドでの蹴り技が許される。そのことはハンセン選手のファイトスタイルにも大きく影響すると思うんですが、いかがですか？

「影響はあるだろうな。もちろんいい意味で、だけど。PRIDEルールに合わせた練習も積んでるし、修斗での試合以上に"ブルータル"な自分を見せることができると思う」

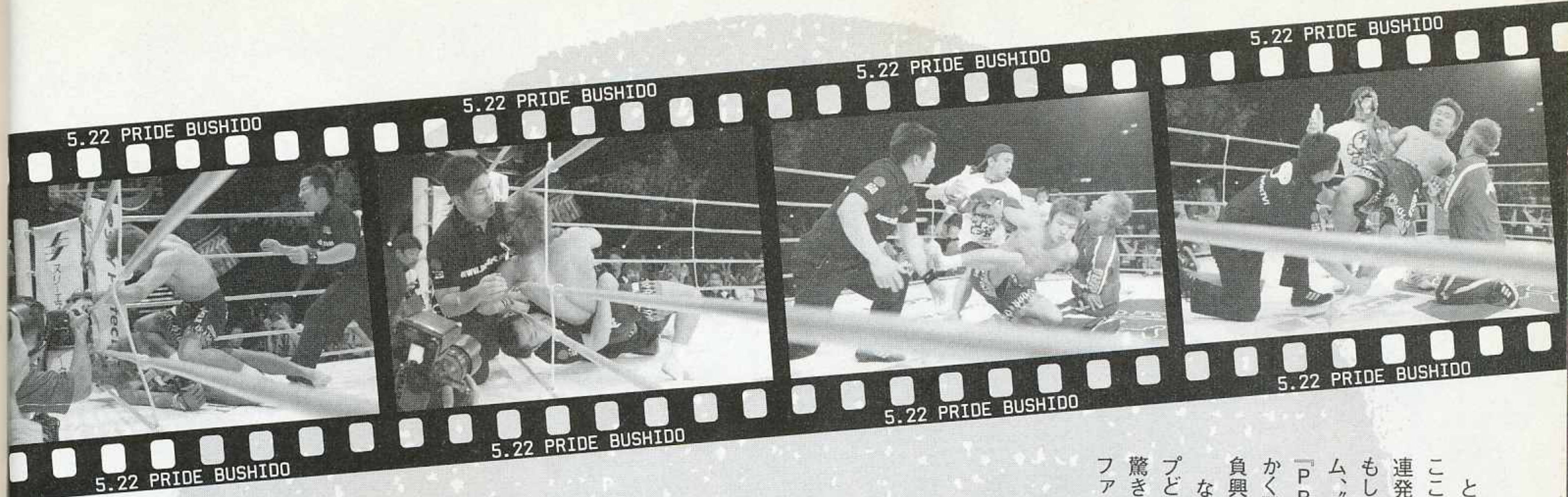
ここで、一つ付け加えておかなければいけないことがある。ハンセンのファイトスタイルについて、だ。一本勝ちも多く、五味戦や宇野戦でも巧みに足を効かせたガードポジションで相手を苦しめたハンセンだが、その真骨頂は全局面における打撃。スタンドで殴り、蹴り、グラウンドでも容赦なくパウンドを落とす。さらには下になった状態からでも積極的にパンチを繰り出し、しかもそれで確実にダメージを与えることができるのである。本人の言葉通りのブルータル＝残忍なファイト。

いったん攻撃が始まったら、まさにスタン・ハンセンさながらの"ブレーキの壊れたダンプカー"……というのはこじつけすぎにしても、その"いつ、いかなる場面でも殴る蹴る"な闘いぶりは、日本人ファイターの常識を軽く超えているといっていい。そして、ハンセンのそんなブルータル・ファイトは、より制限のないPRIDEルールでさらなる猛威を振るうことは確実。五味戦、宇野戦で見せた強さに、4ポイントのヒザや顔面ストンピングまで加わることになるのだから……。

「『武士道』のリングに、あなたより"ブルータル"な選手はいるか？」

インタビューの最後にこんな質問をすると、ハンセンは即座に「いないね」と断言した。この世界一残忍な男は、7・17『武士道』名古屋大会でデビューする！

1979年5月26日、ノルウェー出身。175cm、70kg。第六代修斗ウエルター級王者。02年12月の修斗NKホール大会が初来日。03年3月に佐藤ルミナを1RTKO勝利で破る。同年8月には第五代ウエルター級王者の五味隆典からベルトを奪い取った。ヒベイロ戦で王座陥落するも、『HERO,S』で宇野薫をヒザ蹴りでKO。宇野戦は2005年上半期ベストバウトという声も高い

5.22 PRIDE BUSHIDO

5・22『PRIDE武士道・其の七』

五味隆典は何と闘っていたのか

とんでもないイベントをやったものだ。ここ数年続く格闘技ビッグイベントの連発で感覚が麻痺している方もいるかもしれないが、5月22日有明コロシアム、"中・軽量級特化"を看板に掲げた『PRIDE武士道・其の七』は、とにかく恐ろしいほどの大実験にして、大勝負興行だったと思う。

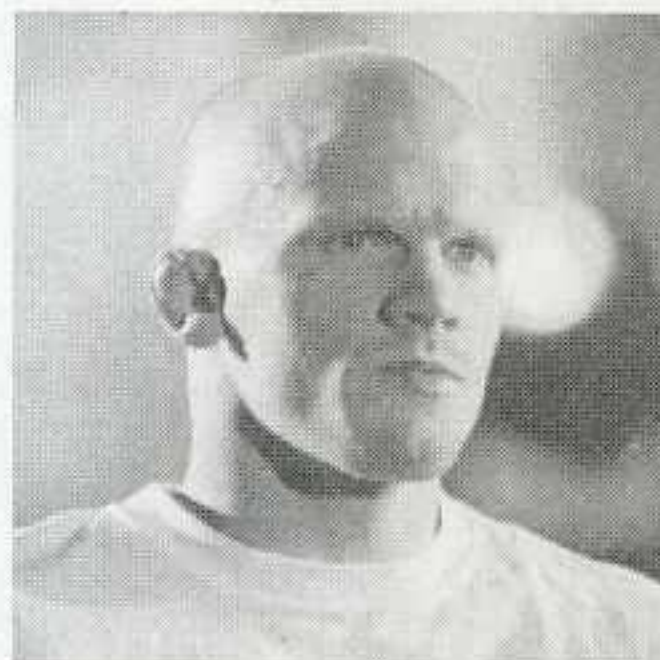
なにしろ、日本の中・軽量級のトップどころをズラリと並べたことも大きな驚きだったが、そこにやたら強い外国人ファイターたちをためらいもなくぶつける。日本人選手はあらためておのおのの実力を問われること（勝負論）になり、また、観客論や興行論という名のふるいに全員がかけられた。

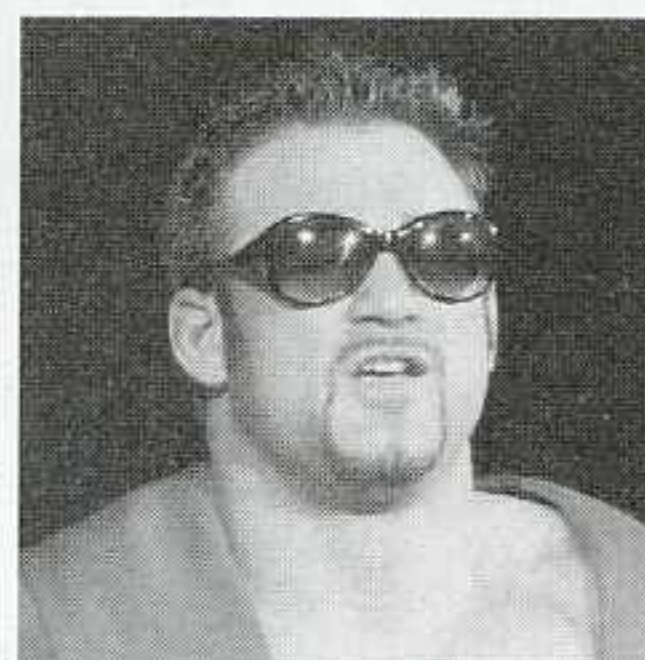
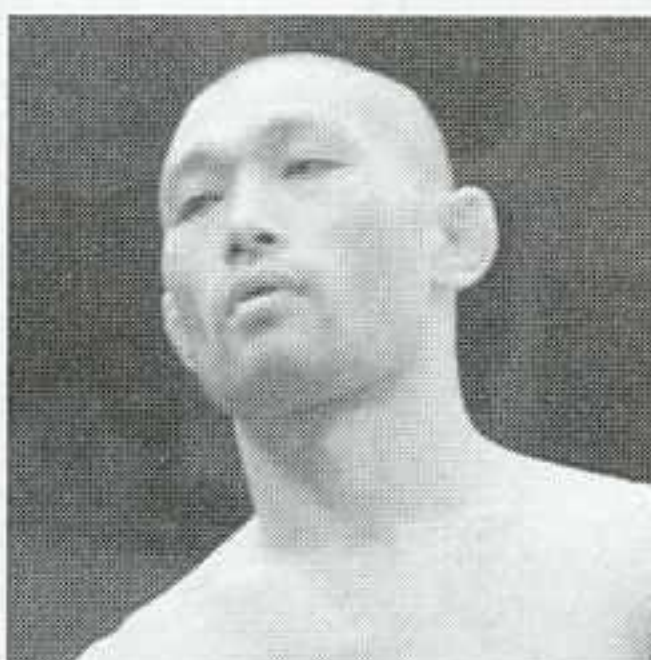
その3つのハードルをすべて飛び越えたのは、メインイベントでルイス・アゼレードを劇的にKOした、五味隆典だった。五味は本当に、凄くて面白い試合をやってくれた。

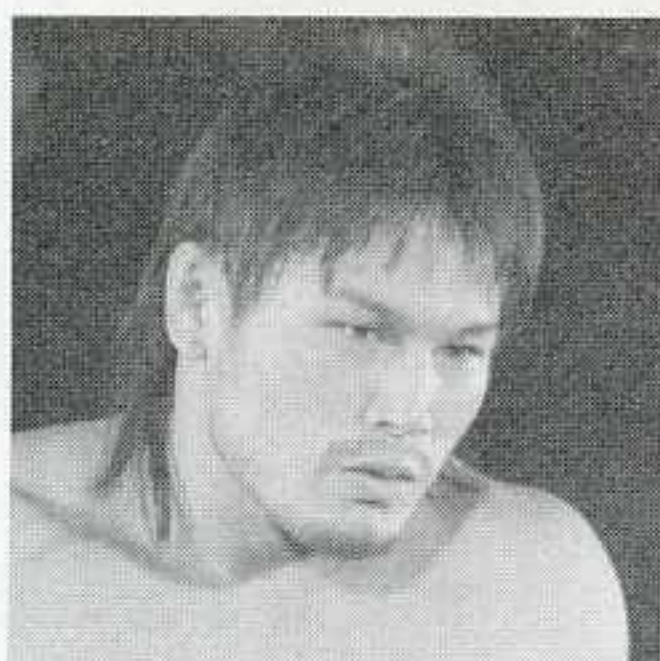
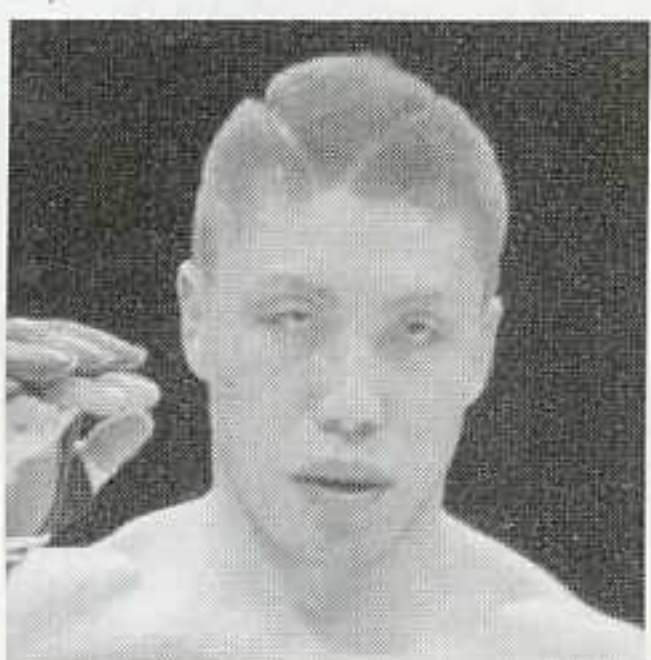
五味が面白かったのは、むしろ完璧なメインイベンターではなかったからだ。試合後、五味の暴挙を発端に勃発した乱闘寸前の騒ぎ。五味は本誌のインタビューで「周りの選手の存在がプレッシャーになったのかもしれない」という意味合いで語っていた。続々と対戦表明する挑戦者たちに対して燃えさかる五味個人の闘争本能、一方で『武士道』を背負わなければならない人間としての冷静な大局観。これらは相反するところもあるので同時に消化しようとするのは非常に困難な作業だが、五味は『武士道』のエースとして完璧を求めるがゆえにそれを背負い、それが重圧となって焦りや歪みが生み出されたように見えた。それこそが試合後の爆発だったのだろう。五味隆典という人間性が『武士道』で初めて剥き出しになった瞬間でもあった。

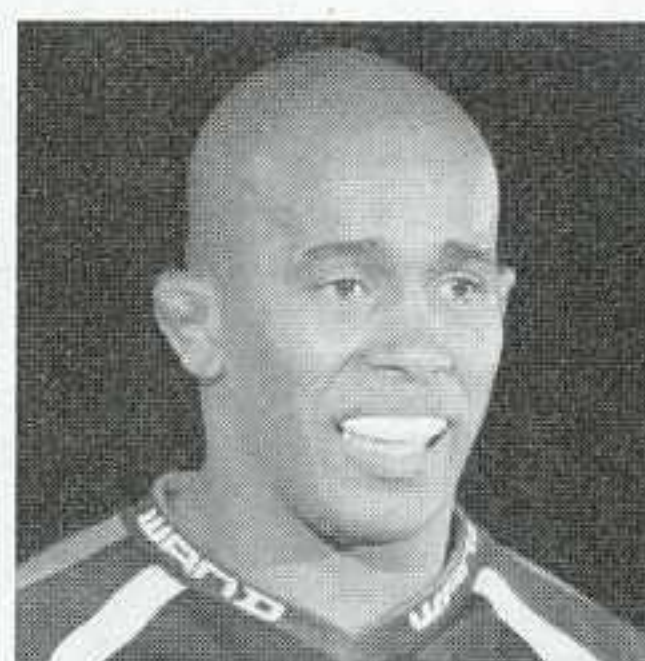
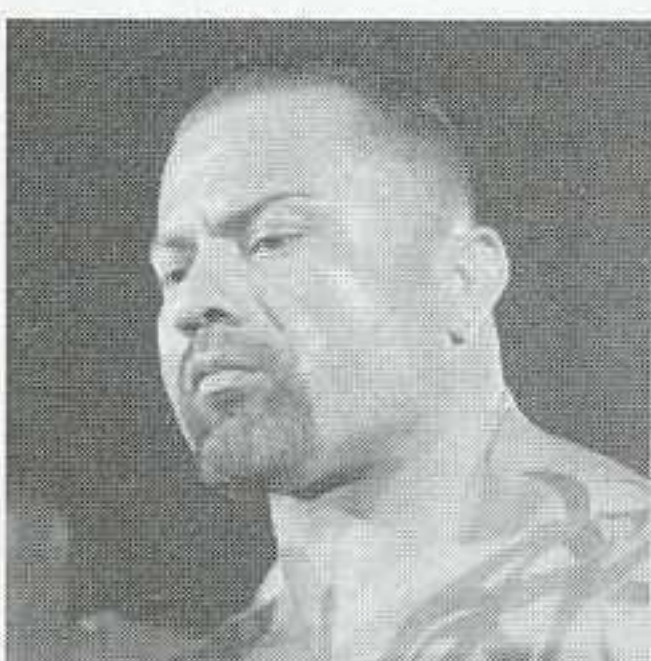
今回の『武士道』が内容的にも成功に終わったことで、このさきの未来は明るいと感じた人間が、あの会場にはたくさんいたはずだ。中・軽量級MMAイベントとしてのブランド、勝負論と観客論におけるハイレベルの安定感がいますぐにでも手に届きそうな大会だったからだ。それゆえに五味は、まだ掴むことができない明るい未来にもいらだちを感じているんだろう。あと一歩の行程の厳しさを、非情さを、容赦のなさを、五味は感覚的に知っている。そして、たとえ今回のように焦りや歪みが露わになろうともその現実と向き合い闘わなければならないことも、だ。

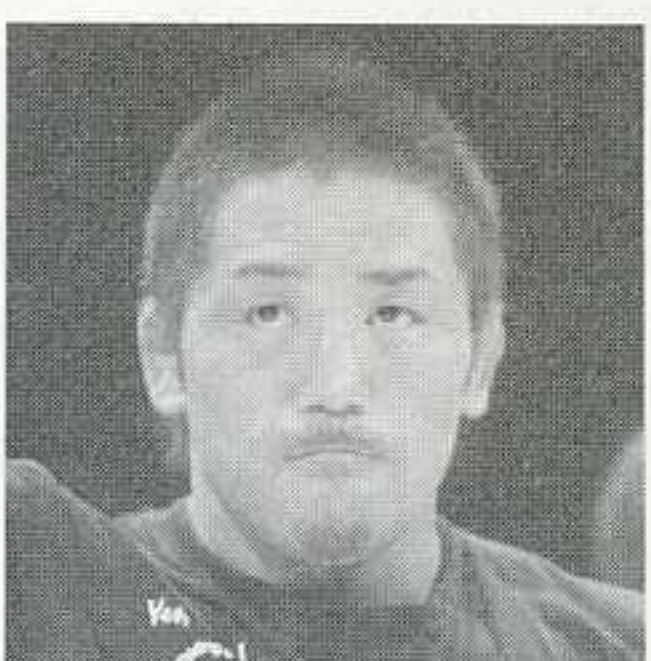
【ジャン斉藤】

中・軽量級特化はさらに加速する！ 7・17『PRIDE武士道・其の八』名古屋レインボーホール

ヨアキム・ハンセン vs今成正和

ヨアキムの『武士道』デビュー戦は"足関十段"!! ヨアキムは打撃、今成は関節、両者ともにどんな態勢からでも仕留められる必殺の技を持つ。今成は体重差が苦しいところだが、それを含めてのスリリングな一戦だ。

フィル・バローニ vs長南亮

長南亮は前回の『武士道』で美濃輪をぶっ飛ばした"ニューヨーク・バッド・アス"とタイマン勝負。ニーノには完勝するも不完全燃焼に終わった長南だけに溜まり溜まった怒りを筋肉オバケにぶつけたいところだ。

美濃輪育久 vsキモ

中・軽量級特化がテーマの『武士道』だが、美濃輪育久には"モンスター討伐"がよく似合う！ なんと相手はキモ！ 競技的側面から離れれば離れる試合ほど美濃輪は光り輝くのだ。ちなみにキモは『PRIDE.1』以来の『PRIDE』登場だ。

ダニエル・アカーシオ vs三崎和雄

独立GRABAKAから郷野に続く参戦は、83キロ以下での実力は1、2を争う三崎和雄だ。相手のアカーシオもこの階級ではシュートボクセの切り札的存在で、前戦は高瀬大樹を下している。実力者同士の一戦!

【日時】7月17日（日）15:00開場 16:00開始　【会場】名古屋市総合体育館レインボーホール
【チケット】VIP席（専用入場ゲートグッズ付き）¥50,000／RRS席 ¥23,000／スタンドS席 ¥13,000／スタンドA席 ¥6,000
【出場予定選手】五味隆典／桜井"マッハ"速人／川尻達也／小谷直之／中尾受太郎／マーカス・アウレリオ／ルイス・ブスカペ、他
【お問い合わせ】DSE:TEL.03-5464-1531

紙のプロレス RADICAL

『紙のプロレスRADICAL』とは、ハリトーノフとザ・デストロイヤーが一緒に載っているMMA&プロレスリングマガジンです

2005 NO.88

RUSSIA

格闘幻想大国2005

ロシア徹底大特集

MEXICO

BUSHIDO

ADCC

ZST

HUSTLE

RADICAL SPECIAL

SPECIAL TALK

PRIDE

Columns

※『金ちゃんのドンとやってみよう!』、佐山皇帝の「右流タン探訪記」はお休みなんです

Another

©DOUBLE CROSS 2005 本誌掲載の記事、写真等の無断転載、複写、複製、新日本社員が当編集部員をナンパすることを禁じます。

リングス・オランダの元エースが前田日明に全面協力宣言！

独占インタビュー

DICK VRIJ

ディック・フライ

クリス・ドールマンらとともに初期リングスを支えた男、ディック・フライ。現地オランダで前田日明と再会したニュースは日本でも報道されているが、このたび本誌はフライへの接触に成功！　あの“悪ガキ”ぶりは色あせていなかった——!!

現地取材／瀬戸川信明
構成／ジャン斎藤
design by さおとめの事務所

角田戦にも意欲！ K—1度120%のカードが続々と実現か!?

「K-1が俺と曙を闘わせたがっているらしいな」

バーの用心棒を通じて社交的になったんだよ

DICK VRIJ INTERVIEW

本誌85号で大好評だった〝リングス・オランダの首領〟クリス・ドールマン独占インタビュー。どれくらい反響があったかというと、当編集部に「もしもし、リングスですけど、ドールマンの連絡先を教えてくれませんか？」という不思議な問い合わせの電話が入るぐらい！（詳しくは『紙プロHand』の『紙プロ一週間』にアクセス）。そんなドールマンに続く「検証リングス・オランダ」第二弾は、リングス・オランダのエースとして大暴れしていた〝サイボーグ〟ディック・フライだ。

現在、オランダでスポーツジム経営に専念しているフライにインタビュー取材の約束を取り付けた直後、あの前田日明が渡欧。前田から連絡を待ちこがれていたドールマンや、フライと久しぶりに再会したというニュースが流れた。フライは前田日明とどんな会話を交わしたのだろうか？

取材約束の当日、アムステルダムから北上すること車で15分――取材陣は、フライが住んでいるオランダでは中都市と言えるBEVERWIJK（ベヴェルウェイク）という街に向かった。

ベヴェルウェイクの人口は、ほぼ10万人。アムスの喧噪から離れ、清楚でのんびりとしたイメージを持つこの街で、フライはスポーツジムを営んでいる。ジムは街の中心部にあるショッピングストリートの一角に位置していた。内部施設の充実振りは、ベヴェルウェイクという中都市には似つかわしくないほど豪華で立派なもの。リングスで格闘家として一時代を築いた格闘家は、いまはスポーツジムの成功で名声と地位を手に入れているわけだ。そのジムの戸を叩いた取材陣を、フライは息子のデュラン君と一緒に出迎えてくれた。

――フライさんがあの前田日明とオランダで久しぶりに会われたことが日本でもニュースになっているんですが、今日はその話題を含めて、フライさんの格闘サイボーグ人生を振り返りたいと思います。

フライ　OK！　俺流の人生成功の秘訣をたっぷりと教えてやるよ（ニヤリ）。

――よろしくお願いします！　まずは現況からおうかがいしたいんですが、現在リングから遠ざかっているフライさんは、フィットネスとエアロビクスのジム経営に専念しているみたいですね。

フライ　いまはファイターの育成も手掛けているんだけどな。1階は格闘技のジムで、2階はスポーツジムになっている。ファイティング・チームはTOP TEAM（トップチーム）、スポーツ総合ジムはDE MEER（デ・メール）という名前なんだ。会員は12000人もいるんだぜ。

“KID級”ならぬ“フライ級”の選手が続々来日!?　フライの格闘技ジム『TOP TEAM』から、『HERO'S』やK―1に未知の強豪が送り込まれるプランが浮上した。実現すれば、いずれの弟子たちもフライ譲りのバイオレンス・ファイトを披露してくれることだろう

――12000人！　それはすごい会員数ですね！

フライ　おいおい、それぐらいのことで驚かないでくれよ。俺はこの町でビッグネームなんだぞ。会員数が1万人を超えるなんて当たり前のことだよ。

――格闘家としての名声がいまの地位を築き上げたということですね。

フライ　そのとおりだ。俺はな、ガキの頃から親父の言うことも、先公の言うことなんかもまったく耳を貸さなかった。だって学校の成績なんて人生に関係ねえからな。俺が賢いことは俺が一番知っているし、俺はこの拳で自分の人生を切り開いてきたんだよ。

――フライさんのアイデンティティともいえる格闘技を始めたのは、どういうきっかけだったんですか？

フライ　もともと身体を鍛えることに興味があって、13歳の頃からウエートトレーニングを好んでやっていた。当時の俺はいまからは想像もつかないほど痩せっぽちだったからな。本格的に格闘技にのめり込んだのはキックボクシングからだ。18歳のときにやり始めて、6ヶ月間みっちりトレーニングを積んでデビューしたんだよ

――デビュー戦の結果は……。

フライ　（ギロリと睨んで）ああん？　俺にいちいち言わせるのかよ？

――す、すいません（汗）。当然のように勝利されたわけですよね？

フライ　そうだ（ニヤリ）。対戦相手を殴って蹴って、当然のようにリングのマットにキスさせてやったわけだ。

――でも、いくらフライさんがめっぽう強くても、当時は格闘技一本で生活できたわけじゃなかったんですよね？

フライ　そうだな。しょうがねえから、20歳のときにバウンサー（バーやクラブの用心棒）をやり始めたんだよ。恐れ知らずの俺にピッタリな職業だと思ったよ。

――やっぱり危ない目に遭ったことは多々あるんですか？

フライ　ナイフで斬りつけられることはよくあった（あっさりと）。まず手を刺されただろ。腹もだろ。あと首もバッサリ斬りつけられたな。かなり深い傷を負わされて、すぐに病院に担ぎ込まれたもんだよ……（楽しい思い出を語るかのように）。

――しかし、一歩間違えれば命を落としても不思議じゃない箇所ですよね。

フライ　だから、あとでたっぷり仕返しさせてもらったさ。

――やっぱりそうなりますか（笑）。

フライ　このディック・フライ様が転んでただで起きると思うか？　俺に唾を吐いたアホンダラはみんなぶっ飛ばしてやったぜ！　ガハハハ！

――さすがですね（笑）。そういうトラブルに巻き込まれることはイヤにならなかったんですか？

フライ　イヤだと思ったことは一度もねえよ。バウンサーを通して学んだこともいろいろあるしな。たとえば、他人をリスペクトするということもこの職業から学んだ。バウンサーとして毎晩多くのお客たちと出会うわけだし、彼らとの会話の中から学ぶことも多かったわけだ。俺もこの仕事に就くまでは非常にシャイな性格だったんだが、バウンサーを通じて社交的になったのはたしかだよ。

――つまり、アムスの夜の街が〝人生の学校〟だったわけですね。フライさんの良き相棒だったハンス・ナイマンと出会ったのもバウンサー業を通じて？

フライ　いや、それは違う。ナイマンはカラテの世界王者だったわけだが、彼はフリーファイトに興味を抱くようになって、ドールマンのジムによく来ていたんだ。当時オランダでフリーファイトを学ぶならドールマンのジムで！　というかんじだったからな。ナイマンとはそこで知り合ったのさ。

――そのリングス・オランダのボスであるクリス・ドールマンとはどうやって知り合った

リングスで一番強かったのは高阪剛だな

んですか？

フライ　クリス・ドールマンと知り合ったきっかけは、彼の知り合いのファイター（クレン〝ザ・マシーン〟ベルグ）が日本でフジワラ（藤原喜明）と闘う予定だったのが、体調不良でキャンセルになったときのことだ。その選手の代わりに俺にお声がかかったわけさ。

――それがフライさんの日本デビュー戦となった89年のU－COSMOS（UWF東京ドーム大会）だったわけですね。

フライ　その当時、俺はキックボクサーだったけど、フジワラ戦を機会に寝技をドールマンに習うようになったんだ。ドールマンとはそういう縁があったのさ。

――日本デビュー戦は異種格闘技戦というかたちでしたが、UWFというプロモーションにはどんな印象がありましたか？

フライ　UWF……？　なんだ、UWFって？　俺は聞いたことねえぞ。

――UWFを知らない⁉　藤原さんと闘ったリングがUWFなんですけど。

フライ　ちょっと待てよ。それってリングスじゃなかったのか？

――いや、リングスはそのUWFが解散したあとに前田日明がひとりで始めたプロモーションです。

フライ　そうだったのか。あんまり詳しく覚えてねえな、そのUWFってリングのことは。

――それだけリングスへの印象が強いわけですか？

フライ　リングスはベストなプロモーションだったからな。俺のファイトスタイル自体、リングスのルールに合っていたし。グラウンドがあまり得意でなかった俺にとっては、ロープエスケープがあるルールは戦略的にかなり助かったもんさ。

――リングスの旗揚げ戦のメインイベントは前田さんとフライさんの試合だったわけですが、前田日明というファイターはどう評価しているんですか？

フライ　マエダとの試合はどれもこれも印象的だったぜ。彼が俺のレベルに合った強力なファイターだったということもあるし、マエダとの試合はかならずメインイベントだった。ファンは誰もがマエダの勝利を信じていて、その雰囲気はオランダでの試合と違ってまた独特なんだ。あんな空気の中で試合をしたことは非常に楽しい思い出だよ。ファイターとしての特徴でいえば、マエダはグラウンドが強いファイターだった。スタンディングは俺の敵ではなかったけど。

――そんなフライさんがリングスで一番強いと思ったのは誰ですか？

フライ　そりゃコーサカ（高阪剛）に決まってんだろ！

――ああ、みんな口を揃えてそう言いますよね。そういう意味でも、高阪さんはリングスのポリスマン的存在だったというか。

フライ　コーサカはスタンディングでも、グラウンドでも優秀だったからな。彼はあらゆる意味で完成されたファイターだったし、現状に甘んじることなく、より高見を目指してトレーニングをして試合に臨んでいたんじゃないかな。

――高阪さん以外のリングス・ジャパンの選手たちにはどういう印象があったんですか？

フライ　テクニックという面ではキヨシ・タムラ（田村潔司）が一番だろう。彼は非常に優れたファイターだった。ただ、いかんせん体重が軽かったよな。ヤマモト（山本宜久）は、とにかく根性があった。どんなことがあってもギブアップをしなかった。相手が強かろうが、弱かろうが、ビッグネームだろうが、全力で立ち向かうその姿勢と、絶対にギブアップをしないその根性。あの精神こそ俺がヤマモトをリスペクトする理由の一番だ。

DICK VRIJ INTERVIEW

前田からの連絡をいまかいまかと待ちこがれていたクリス・ドールマンも前田と久しぶりの再会！　リングスの礎を築いた3人がガッチリ握手する姿が『HERO'S』のリングで見られるかもしれない

――では、リングス・オランダと並ぶ勢力だったリングス・ロシアのファイターたちはどうでしたか？

フライ　彼らも強かったのは間違いないことだが、彼らの強さはグラウンドだけだった。立ち技に関していえば一流とは言えない。彼らよりリングス・オランダのファイターの方が優勢だったのは、その打撃の実力にかなりの差があったんだと思う。

――フライさんのファイト・スタイルは本当に相手を殺しかねない勢いがあったわけですが、あのモチベーションはどこから湧き出てきたんですか？

フライ　自分が勝利するために闘うことはもちろんだが、やっぱり観客のために激しい試合をするということが俺の身上だったんだ。観客が俺たちファイターに何を求めているのかを考えたときに、あのような殺伐とした雰囲気を出すことが必要だったわけだ。

――それはプロフェッショナルとして一流の姿勢ですね！

フライ　俺がもともと血を好む冷酷無比なスタイルを好んでいることもあるんだけどな。それになによりも闘いに勝利するために自分自身を奮い立たせていたというわけだ。

――リングス・オランダ軍団は、リングを降りても凶暴だったとよく聞くんですけど。

フライ　たしかに凶暴なのは間違いなかったけど、別に意味もなく悪さをしでかすようなガキでもなかったぜ。

――でも、ドールマンは、リングス・オランダのファイターたちが夜の六本木などに繰り出すと「何かトラブルを起こすんじゃないかといつも冷や汗ものだった」と回想してましたよ（笑）。

フライ　オランダでは、そりゃ何度もストリート・ファイトはしたさ。売られた喧嘩はかならず買う。それが俺の定義だったからな（キッパリ）。だからといって、外国で問題を起こすほど馬鹿じゃなかったさ。日本では一度も喧嘩はしなかったよ。

――でも、ピーター・ウラとの試合では、判定負けに不服のフライさんがウラの控室に殴り込んだというエピソードは有名ですよね

フライ　ああ、そんなこともあったな。あのときはとにかく怒りが収まらなかったんだよ。それでやってやった！

――判定に対して何か怒りがあったんですか？

フライ　いやいや、思うように闘うことができなかった自分に対してだよ。

――それならウラを襲わなくたっていいじゃないですか！（笑）。

フライ　負けたまま家に帰るのはとにかく嫌だったんだよなー。だから奴の控え室まで押しかけた。そうしたらウラの奴はビックリしながら「ARE YOU CRAZY?」と聞いてきたよ。俺は「YEA, I AM CRAZY…」と言い返して殴ってやったんだ。ガハハハ！

――フライさんは狂ってましたか（笑）。あと前田さんとの試合でも物騒な事態になった

ときがあったじゃないですか？
フライ　あった、あった。マエダが試合後に倒れこんでいた俺の背中を踏みつけてきたんだよな。

――俗に言う「前田日明10年分キレた事件」ですよね。以前のフライさんのインタビューでは「顔面パンチやキックを思い切りいれたからマエダが怒ったんじゃないのか？」って語ってましたけど、どうして試合を壊してしまうかのような攻撃に出たんですか？

フライ　なにか俺の癇に障ることがあったんだな。詳しくは覚えてねえよ。俺はいつだって思ったように暴れてきたからよ。

――さすがですね（笑）。それでフライさんは99年を最後にリングスのマットから離れたわけですけど、それは何か理由があったんですか？

フライ　俺は家族と一緒に過ごす時間がほしかったし、そしてこのスポーツジムの運営を軌道に乗せたかった。そうしたらファイトするための準備期間なんて十分にとれるわけがねえ。

――しばらくしてから、ZERO―ONE運営のビッグイベント『真撃』に出場されたのはどういう経緯があったんですか？

フライ　経緯も何もZERO―ONEからのオファーが満足のいくものだったから受けただけさ。「リングで闘いたい」と思った時期と条件の良いオファーが重なったんだな。相手はマーク・ケアーというゴリラみたいな奴だったけど、強かったのはグランドだけだった。俺の打撃で奴の歯を折ってやったよ。ガハハハ！

――あのときも試合後に大乱闘になりましたよね。フライさんは試合中より元気な暴れっぷりで（笑）。で、フライさんがその『真撃』に出た2ヵ月後にリングスが休止することになるわけですが、そのニュースを聞いたときはどう思われました？

フライ　自分が闘ったリングだから寂しくないと言えば嘘になるが、それもまた運命さ。リングスという組織の中で一体何があったのかは知らないが……。マエダは十分賢い人間だし、新しいことをやるなら、それもまた成功するだろう。そしてマエダは真のファイターだ。ファイターたるものはかならず生き残る。その証拠にまたマエダは何か新しいことをしようとしている。

――いま前田さんはK―1の総合格闘技イベントである『HERO'S』の象徴として、選手発掘のために世界を飛び回っています。

フライ　K―1といえば、ミスター・イシイ（石井和義）は偉大な人物だ。ミスター・イシイとは何度か食事をご一緒したことがあるが、とても丁寧な紳士だし、非常に頭が切れる印象がある。その手腕でK―1をビッグビジネスにしたことを俺は最大限にリスペクトしているよ。

【でぃっく・ふらい】　1965年5月2日、オランダ出身。89年UWF東京ドーム大会の藤原喜明戦で日本デビュー。リングスでは旗揚げ戦のメインイベントを務めるなど、エースガイジンとして活躍。フライが抱きかかえているのは、息子のディラン君。社会勉強のためにバウンサー業に就かせる予定はいまのところない模様です

――K―1は先日パリ大会が開かれましたが、その足でオランダに寄られた前田さんと久しぶりにお会いになったそうですね。

前田が選手を探しているならヘルプするよ

フライ　そうだ。ピーター・アーツ、クリス・ドールマン、ジョン・ブルーミンも一緒に同席した。マエダとは昔の思い出話から始まって、お互いの現況も語ったし、これからのことも相談したよ。マエダは自分のジムでファイターを養成しているからな。お互いの利益になるんだったら、間違いなく強力なパートナーシップを結ぼうという話はした。

――すると、前田さんやフライさんのお眼鏡にかなった"山本KID級"のファイターたちが続々と『HERO'S』のリングに送り込まれることになるわけですね？

フライ　マエダが新しいファイターを探しているのなら、それは俺のできるかぎりのコネクションを使ってヘルプするつもりさ。それにファイターとしてのディック・フライをマエダが期待するなら、試合に向けてしっかり準備するぜ。日本のファンやマエダが求めている以上のデンジャラスなファイトを見せられるようにな。

――もしかしたらフライさんに試合のオファーがあったんですか？

フライ　そこまでの話はしていない。しかし、正式ではないが、一ヶ月前にあるジャーナリストから「K―1があなたとアケボノ（曙）を闘わせたがっている」と聞いた。ルールはK―1ルールと聞いているが……。

――ディック・フライvs曙!!　非常にK―1度が高いというか（笑）、その試合はぜひ見たいですよ！

フライ　「出すものを出すのなら問題はない！」って返答したけどな。もちろん金のことだ。

――ちなみに曙さんにはどのような印象があるんですか？

フライ　ファイト・スタイルに関してはコメントするものは何もねえな。彼はとてもビッグガイだし強い男であるのは間違いないと思ってるよ。

――それと、かつてリングスで闘ったことのある角田（信朗）さんもフライさんに対戦要求しているんですよ。

フライ　そのこともそのジャーナリストから聞いたよ。俺はいつでもOKだけど、それ相当の大金を用意してもらわないとな。俺はもう40歳だし、コンディションをつくるにも以前のように短期間で仕上げることは難しくなっている。それにいま俺はジム運営で大成功して、金に困っているわけではないからな。それ相応の対応してくれないとモチベーションだってあがらねえんだよ。

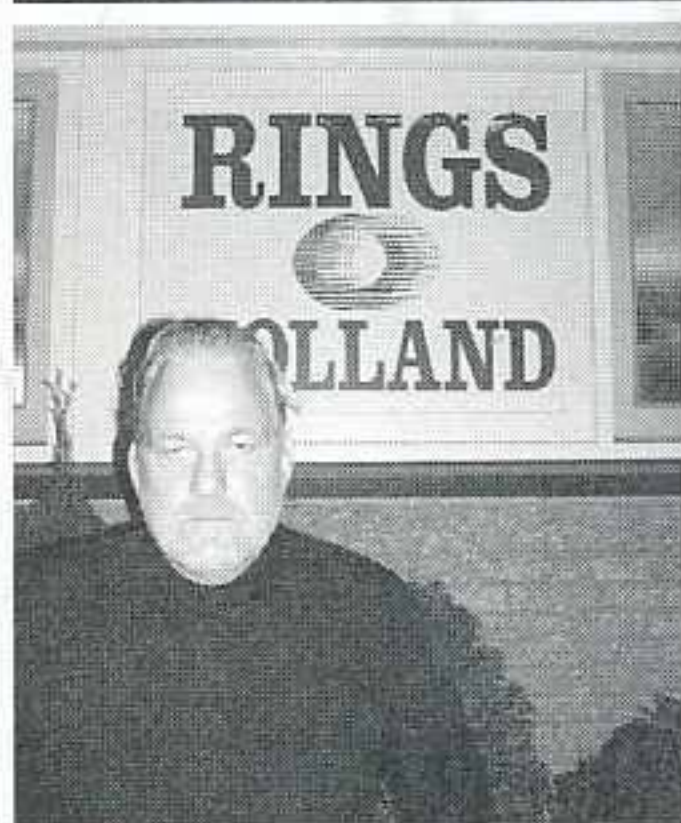
――怒られることは承知であえて聞きますが、曙さんと試合をしたら勝つ自信はあるんですよね？

フライ　このインタビューを通じてディック・フライという人間を多少なりとも知りえただろう？　それが答えだよ。

――よくわかりました（笑）。では、最後に日本のファンへメッセージをお願いします！

フライ　もし日本でアケボノやカクタと闘うことになったら、俺に声援を送ってくれよ。エキサイティングなファイトになることを約束する。いずれ日本で会おう！

【05年6月1日／オランダ・ベヴェルウェイクにて収録】

こちらも本誌独占！
前田日明とついに再会をはたしたドールマンの声は携帯サイト『紙プロHand』で読めます!!

「マエダから連絡はきたのだが……」

選手発掘のためにオランダに渡った前田日明と無事再会した"リングス・オランダの首領"クリス・ドールマンのインタビューを携帯サイト『紙プロHand』にアップしている。前田との会談内容、今後の協力体制、来日の予定……純度100％混じりっけなしのリングス者ならアクセスするしかないぜ！　スリー、ツー、ワン、発掘、発掘!!

ＺＳＴファイターが７月に大勝負!!

リングスの遺伝子に刮目せよ!!

7・6『HERO'S』で小ノゲイラと激突!!

7・17『PRIDE武士道・其の八』参戦決定！

ＺＳＴ最強の男

小谷直之

with

“前田の日本兵”

上原ZST広報

聞き手／堀江ガンツ　構成／ジャン斎藤　design by さおとめの事務所

リングス・ジャパンは02年2月25日を持ってその活動を休止してしまったが、それからもリングスの灯火は消えることはなかった。

ロシアではニコライ・ズーエフが〝リングスの殿堂〟として誇れる巨大複合施設を築き、リトアニアに目を向ければドナタス代表が優秀な中・軽量級戦士を育てあげ、オランダではクリス・ドールマンがその看板を守り抜き、アメリカではヒース・ヒーリングがリングス魂に突然覚醒（これは何か違うけど）。そして日本では――リングスKOKルールを基軸したZSTがその火を絶やすことはなかったのだ。

そのZSTの主力ファイターたちが揃って大舞台に出撃する。リングス末期の中軽量級戦線に出場していた小谷直之、所英男がついに大勝負に出るのだ。前田日明が復活し、その一挙手一投足に視線が集まっているが、そんな時期だからこそリングスの遺伝子たちの動向も見逃せないのである。

――今日はついに飛躍のときを迎えた小谷、所両選手に、きたる決戦に向けての意気込みをおうかがいしたいと思います！

所 はい……。

小谷 ……。

所 ……え〜っと、頑張ります！（意味もなく）。

小谷 そうですね（無表情で）。

上原 う〜ん。ダメだよ、二人とも。ちゃんと喋らないと！

――え〜、そんなお二人のサポート役として、ZST広報にして元リングス社員だった上原さんに今日の対談をリードしてもらいたいと思っております（笑）。

上原 よろしくお願いします。

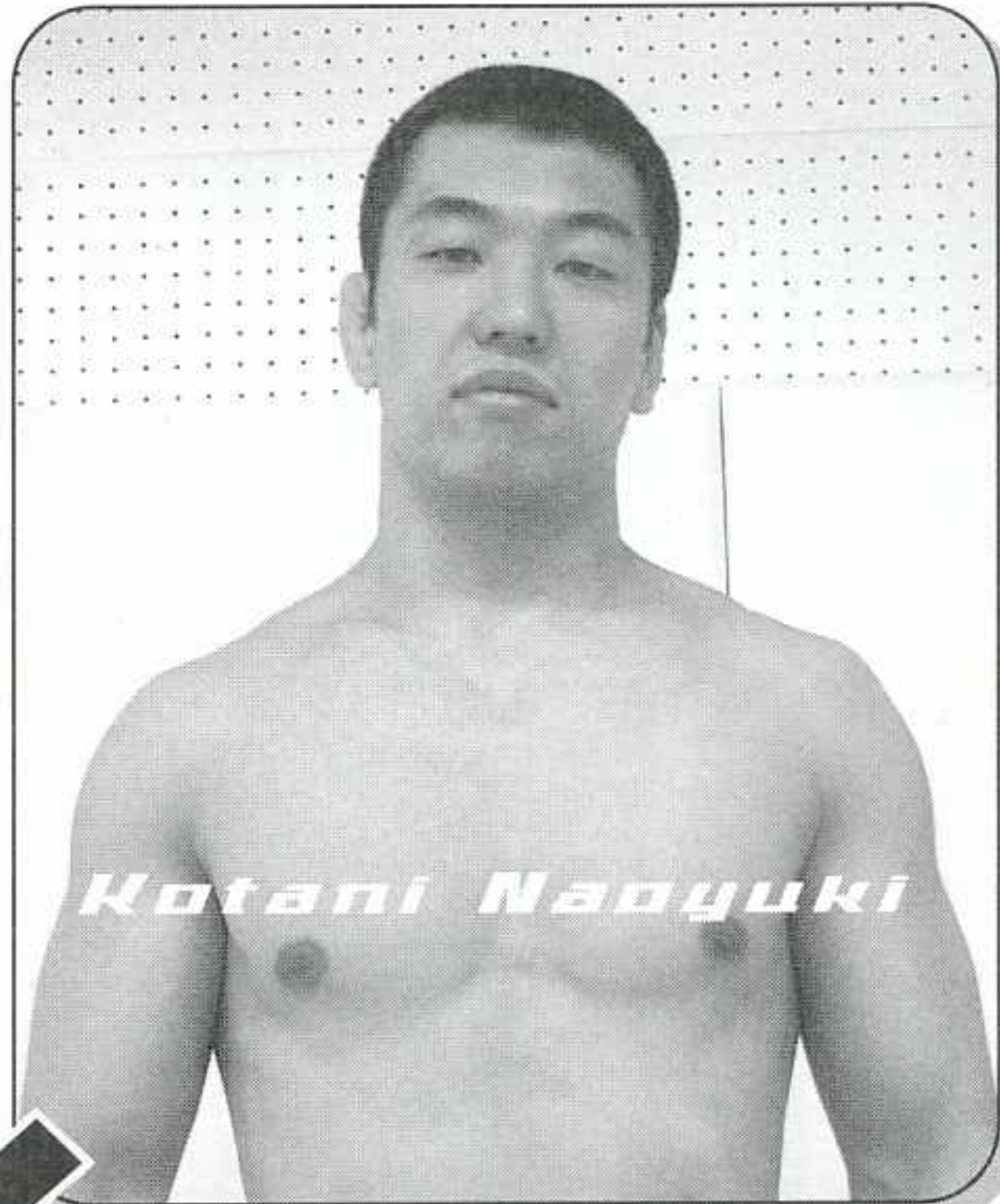
――さっそくですけど、上原さん！

上原 はい。なんでしょうか？

――小谷選手は7・17『武士道・其の八』出場決定で、所選手とレミギウス・モリカビュチスは7・6『HERO'S』に出場！ということで、ZSTにとっては大勝負の7月

寝技になったら自分は絶対に負けません

Kotani Naoyuki

Kotani Naoyuki

PROFILE
【こたに・なおゆき】1981年12月8日神奈川県横須賀市出身。ロデオスタイル所属。173cm、71kg。お菓子の専門学校出身の異色の格闘家。00年アマチュアリングス優勝、同年リングスデビュー。"リングス・ライト級最強"と呼ばれるほどの実績を残す。04年1月ZST・GPリッチ・クレメンティ戦まで無敗を誇っていた

前田さんに指導してもらった成果を出します

Hideo Tokoro

Hideo Tokoro

PROFILE
【ところ・ひでお】1977年8月22日、岐阜県揖斐郡出身。STAND所属。170cm、65kg。リングス「KOKリミテッド」など数々のアマチュア大会で優勝。ZSTには旗揚げ戦から参加。グラップリングルールで競われたZST GT-F優勝をはたした名勝負製造男。"小さなヴォルク・ハン"の異名はロシアン・トップチームのパコージン氏公認

×

ZST代表としてインパクトを残してほしい

Uehara

PROFILE
【うえはら・じょう】1975年11月26日東京都出身。99年リングス入社。02年ZST事務局広報に就任。埼玉栄高校レスリング部でインターハイ・国体出場歴あり。リングス社員時代、前田日明に「前田道場で鍛えれば、お前は佐藤ルミナに勝てる！」と言わしめたポテンシャルを持つ!!

所英男 小さなヴォルク・ハン ×

『武士道』には闘いたい選手がたくさんいる

ヒョードルリングス初登場となった00年後楽園大会でデビュー以来、ZSTに舞台を移してからも無敗ロードを歩んだ小谷。"小さなミルコ" レミギウスにも一本勝ちしているが、2004年の海外遠征で連敗。不本意な１年になってしまったが、『武士道』参戦は復調のきっかけになるか。写真左はアマチュアリングスのときのもの

になりそうですよね。

上原　まぁいきなり結論を言うと、この二人にはあんまり期待していただかないほうがいいんですよ。

――いきなり何を言うんですか！（笑）。

所　とくにボクは絶対にムリですねぇ（なぜか胸を張って）。

上原　（間髪入れずに）そんなこと自分から言ったら、前田さんのネックハンキング・ツリーを食らうよ！

――なぜネックハンキング・ツリー（笑）。所選手の相手は、あの修斗ライト級王者のアレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ（以下ノゲイラ）に決定しましたけど、これはじつにやりがいのある超強豪ですよね。

所　はい。楽しみでしょうがないんですよね。

上原　今成（正和）選手がやりたかった相手を倒せるチャンスだからね。

――所選手は大会場で闘う緊張感はないんですか？

所　いや、気持ち良さそうですよね～。

上原　田舎から出て来た少年みたいになっちゃいそうだね（笑）。ボクは二人のことをアマチュア時代から見てるんですけど、小谷選手は18歳のときに出た『アマチュア・リングス』で、所選手は『KOKリミテッド』でそれぞれズバ抜けた成績を残して優勝していますからね。何をしでかすかわからないという意外性も含めて、じつはかなりいけるんじゃないかと思っているんですよね。

――という期待を寄せられてますけど？

所　……『HERO'S』で二人ともコケたらZST的には最悪だから、やっぱり小谷君に頑張ってもらいたいですねぇ。

――なんでそんなに弱気なんですか！（笑）。所選手とレミギウスが続けて勝ったら、小谷選手はプレッシャーになりますか？

小谷　なりますね。でも、二人に良い試合をしてもらって「自分も負けられないな」って感じになればいいと思います。

上原　喋るねぇ～、最近は。小谷選手はよく喋るようになったんですよ。

――あ、これでよく喋るようになった（笑）。

上原　榊原代表も出席した『武士道』出場決定記者会見でもよく喋っていたし、写真撮影のときはなぜか裸にまでなってね（笑）。

小谷　いや……裸になった方がインパクトがあるかなと思って。

――ダハハ。そんな小谷選手は『武士道』で誰と闘いたいですか？

上原　小谷選手はイーブス・エドワーズやマーカス・アウレリオとやりたいんでしょ？前に負けたことがあるから。

小谷　そうですね。

上原　こないだの三島（☆ド根性ノ介）戦のイーブスはメチャクチャ強かったですよね。

小谷　そうですね。

――小谷選手は「そうですね」しか喋ってないですけど（笑）。

上原　また闘ったら勝てるの？　小谷選手は。

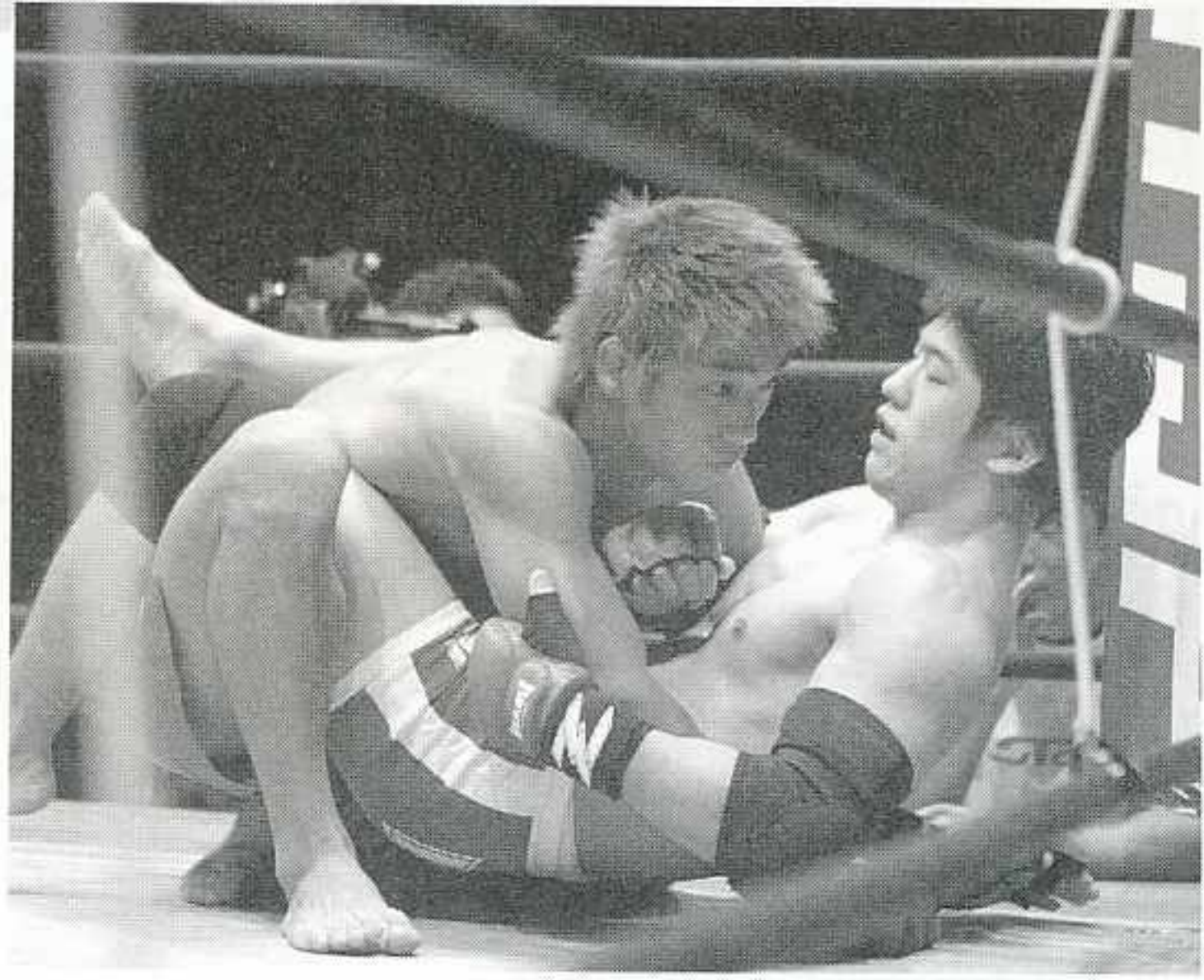
小谷　寝技になったら自分は絶対に負けないですから。

――凄い自信ですね。所選手はどうですか？ノゲイラの"伝家の宝刀"ギロチン・チョークはかなり脅威ですけど。

所　矢野（卓見）さんからアドバイスをもらいました。「とにかく下から蹴れ！　寝技を付き合うからダメなんだ」って。

上原　あとノゲイラに判定で勝ったことがある勝田（哲夫）選手に何か秘策を教えてもら

所vs小谷戦はリングス、ZSTのリングで二度実現（小谷の2勝）。初対決は01年9月21日リングス後楽園ホール大会の第一試合。同大会はヤノタク、伊藤博之、横井宏考、須藤元気、滑川康仁ら日本人選手が主軸となっており、リングスKOKの新たな未来が見えていたが……

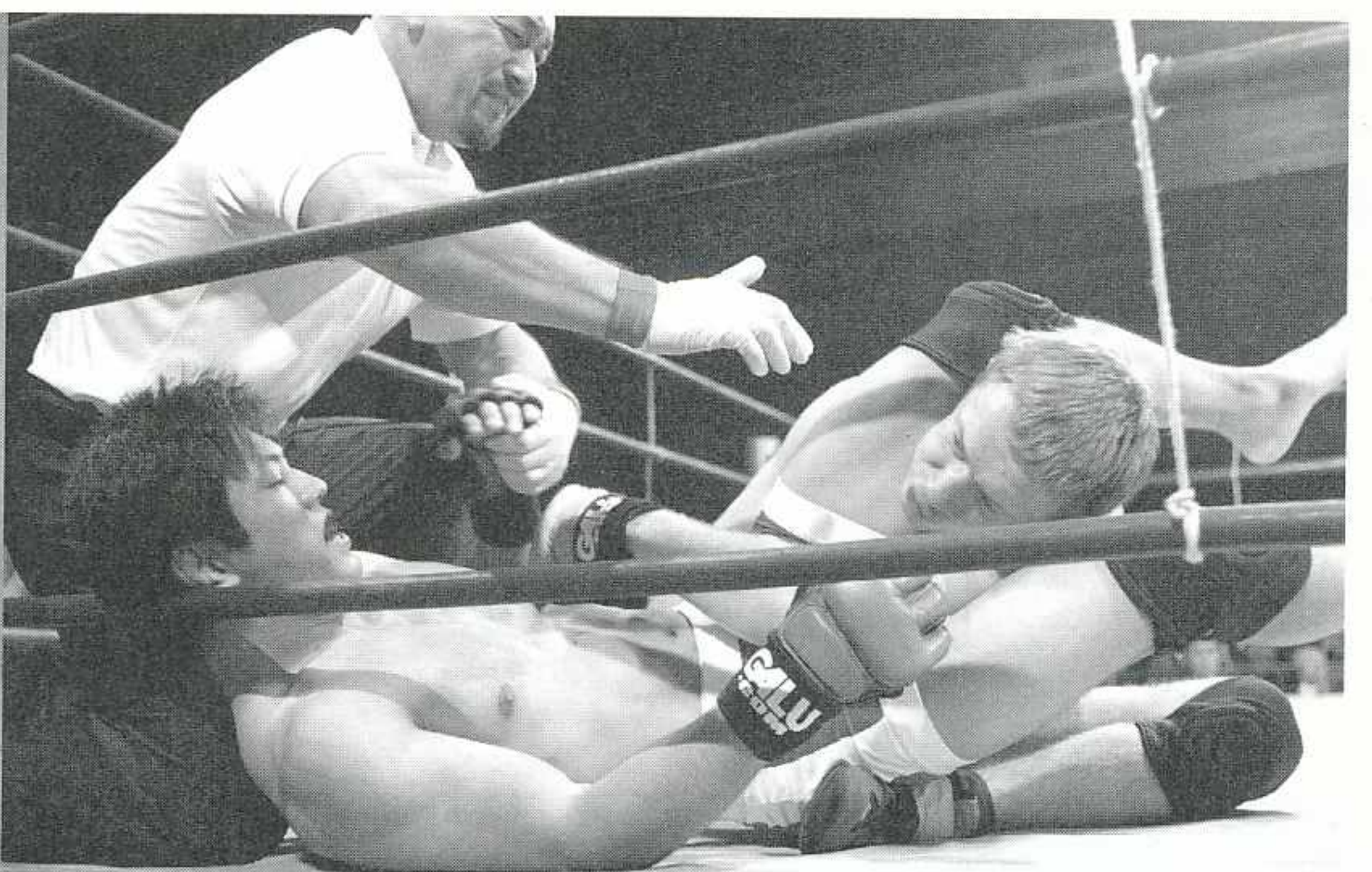
ったんでしょ？

所　ギロチン対策を教えてもらったんですよ。風呂に潜って上からフタをして、ギリギリまで我慢するという訓練を。でも問題があってうちには風呂がないんです（笑）。

――ダハハ！　ちなみに小谷選手は所選手が『HERO'S』参戦が決まったことに関しては、どう思ってるんですか？

小谷　所選手は『HERO'S』にキャラクター的な意味で向いていると思います。それにいい相手と試合もできるし。

上原　まぁ小谷選手は身体が大きいから73キロ以下の『武士道』に合っているし、65キロで試合をしている所選手は70キロ以下の『HERO'S』に合っていますよね。

――選手派遣をひとつの舞台に絞らなかったのはZSTの方針なんでしょうか？

上原　いや、たまたま別れたかんじですね。小谷選手は以前より『武士道』さんから声をかけていただいていたんですけども。先ほども言ったように彼（小谷）は体格が大きいで

リングス遺伝子に刮目!!

所英男×小谷直之

with 上原ZST広報

すし、過去に負けた選手（イーブス・エドワーズとマーカス・アウレリオ）が『武士道』にいるということが最終的なポイントになって。そうでしょ、小谷選手？

小谷　そうですね。『HERO.S』さんはまだどんな選手が出るのかわからない部分があったので、ちょっと（イベントのことを）まだ掴めてなかったというか。逆に『武士道』には対戦したい選手がたくさんいましたね。

――小谷選手が『武士道』に出ることは前田さんにお話はしていたんですか？

上原　ちゃんと話しをしていなければ、いまごろ前田さんからネックハンキング・ツリーをされていますよ（笑）。前田さんとは最終的にちゃんとお話はしました。

――でも、5・3ZSTのリング上で小谷選手は「前田さん、7月はよろしくお願いします！」って『HERO.S』参戦をアピールしてませんでしたっけ？（笑）。

小谷　してましたね（人ごとのように）。

上原　あのマイクはですね、ちょっと複雑で不可抗力な事情があるんですよね（笑）。最初から説明すると、あの大会に前田さんは「6時に行く」っておっしゃってたんですけど、6時の段階ではまだ自宅でシャワー浴びていたんですね。

――さすがですねえ（笑）。

上原　だからせめて、最後の試合（所&勝村周一朗vsエリカス・ペトライティス&レミギウス）だけでも間に合うようにと思って、休憩を長めに取って時間調整をしたんですよ。それでも前田さんは間に合いそうもなくて、試合が急遽なくなった小谷選手に欠場の挨拶を頼んだんです。そうしたら勝手に『HERO.S』出場をアピールしちゃったんですよね。しかも前田さんがいないのに（笑）。

――そういうことだったんですか（笑）。

上原　でも、それも彼の個性だし、仕方がないかなって。所選手に関しては、『HERO.S』に出場する予定も何もなかったんです。

――所選手も運が良かったですよね。あの素晴らしい試合を前田さんや谷川（貞治、K―1プロデューサー）さんに見てもらえて。

所　はい。本当に嬉しかったです。

上原　まあ、所選手の場合は実力や試合内容云々というよりは、ハレンチな話がきっかけで前田さんに気に入られて、『HERO.S』参戦が決まったかんじなんで。

――え？ 試合内容が決め手になったんじゃないんですか？

上原　いや、それはもちろんありましたけど、もともとは前田さんがリトアニアに行ったときに、ドナタス（リングス・リトアニア代表）が「トコロはプレーボーイだ」って前田さんに教えたことがきっかけなんです。それを聞いた瞬間、前田さんの顔色が変わりましたからね。葉巻くわえながら「え！ ウソ！ 所クンはあんな顔してそんなにプレイボーイなの？ ちょっと全部聞かせてよ」って。それでドナタスの奥さんも「そうよ。リトアニアでトコロはプレイボーイで有名なのよ」なんて言い出して（笑）。

――かつてのリトアニア夜の寝技修行をすべてバラしましたか（笑）。

上原　そうしたら前田さんが「なんやアイツ。そんなことしにリトアニアに来てるんやったら、ちょっと俺、シバかなアカンなぁ～」と。しまいには前田さんが、そのハレンチな行為を「所スタイル」と命名されてました（笑）。それから「所」「所」って言い出したんですよ。

――なんでも一生懸命、励むもんですねえ。まさか〝夜の寝技修行〟が『HERO.S』参戦の決め手になるんですから（笑）。

上原　先日の会見のときも、前田さんが「所クンはですね、毎回リトアニアに呼ばれる日本人で、彼は違ったところでも有名で……」って熱く語ってるんですよ。試合のこととはまったく関係ないことを（笑）。

――こうなったら所選手も前田さんがIWGPリーグ戦にヨーロッパ代表で出たみたいに「リトアニア代表」として出るべきですよ！

上原　そうだよ。リングス・リトアニア代表で出ればいいじゃん。

所　いや～、どうなんでしょう……。

上原　そういえば、テレビでは〝小さなヴォルク・ハン〟という所選手のキャッチフレーズが使えないそうなんです。

――きっと一般視聴者にはわかりづらいという理由があるんでしょうね。

所　どういうキャッチフレーズになるんだろう……？（不安そうに）。

――「リトアニアの寝技王」とかでいいんじゃないですか（笑）。所さんからすると、こんなビッグチャンスが舞い込んできたことにはどんな感想があるんですか？

所　いや～、前から「出たいな～」とは思ってたんですけどねぇ。会見前日の夕方に「試合決定で明日会見だよ！」という連絡を受けて、すぐ髪切りに行きました。

――とりあえず床屋へ直行したと（笑）。

所　次の日に会見場のホテルに行ったら、いきなり真っ黒な部屋に連れて行かれてインタビュー収録があって、ちょっとビビりました……。

――華やかな世界に来た人間の宿命というか、所選手もこれからは忙しくなりますね

所　……ボクには向いてないと思います。

――ダハハハ！ 早くも挫折ですか（笑）。

上原　あと前田さんが会見で、「所クンに技を教えないといけないな」っておっしゃってましたけど、じつは先日合同練習が行われたんです。

――あ、マスコミ非公開で行われたんですか！

上原　はい。非公開にしたぐらいなのであまり詳しく言えないのですが、何人かのヘビー級選手とA―SQUAREの宮川（博孝）選手などで行われました。所選手にとってはすごく良い経験になったと思います。

所　本当に良かったです。宮川さんも凄く喜んでいました。裏技的なテクニックからいままでに経験したことがないことまで、「UWF最強」だと改めて感じることができました！

上原　自分も前田さんの技術は断片的にしか見たことしかなかったのですが、教えていただいたいくつかの技術をまとめてやると、いわゆる〝回転体〟になるんです。

――もちろんスクワットなども？（笑）。

所　もちろんやりました、ジャンピングスクワットを……。

上原　最初は「それだけはできない」と言っていたのですが、いざやったら所選手はすべてこなしていましたから大したものですよ。途中前田さんの師匠でもあります元プロレスラーの○○○○さんも、お越しになったのでズルはできない状況になったので。

――あ、○○さんまで！（笑）。

所　はい。○○さんがお近くに住まれているみたいで、ビックリしました。

――○○さんからも指導を受けたんですか？

所　ちょうど二人きりになって、プロレスの

前田が見守る中、5・3 ZSTで勝村周一朗とのタッグでレミギウス&ペトライティスと対戦。“名勝負製造男”の本領をいかんなく発揮した所。リトアニア遠征でその寝技師ぶりをリング内外で認められ、『HERO'S』出場の切符を獲得！ 前田のお気に入りファイターに。これからは前田指導のもと、ジャンピング・スクワットに励む所の姿が見られそうだ!?

前田さんに試合を見てもらって嬉しいです

裏技を教えていただきました。「身体が小さいんだから、なめられちゃいけない」「相手がブラジル人だからって同じ人間なんだからどうってことない」とかも言ってくださって。教えていただいた技を今度の試合で試せればと思っています。

上原　来週も合同練習あるみたいだよ。

所　スクワットだけは勘弁していただきたいです……。

――ダハハハ！　そういえば、昔リングスの事務所に写真を借りに行ったら、リングス社員の皆さんがなぜかスーツ姿で汗だくになりながらスクワットやってましたよね（笑）。

上原　ありましたねえ（しみじみと）。あるときボクが事務所に帰ったら、社長室の曇りガラスに上下するスーツ姿が見え隠れしているんですよ。ビックリして見てみると、社員がスクワットをしているんです。もう部屋中に熱気に包まれてましたからね（笑）。

――凄い光景ですね、それは（笑）。

上原　所選手は試合に向けて特別な練習はしてないの？

所　このあいだ掌底を……。

――今回はグローブ付けなくちゃいけないのになぜ掌底を（笑）。

上原　シュートボクシングの森谷（吉博、広報）さんにお願いして、シーザージムに通わないと！　次の合同練習では前田さんに打撃を習わないけないね。俺だって前田さんに教わった、ショートフック習わないと。

所　……少しずつ勉強していきたいと思います。次は小谷君も一緒に行こうよぉ（捨てられた子犬ような表情で）。

小谷　いや、ボクはちゃんとした練習をやります（無表情で）。

――ダハハハ！　小谷選手はちゃんとした練習をやりたいと（笑）。

上原　でも、昔の選手はそういう練習をして強くなったんだよ。

――とくに精神的な強さは磨かれていきましたよね。あと前田さんはミドルキックの対処方もよく口にするじゃないですか。「ミドルきたらね、相手の右足つかんでね、こうやって足を捻ってね」って（笑）。

上原　ああ、それはロシアでサウナに入りながらバラチンスキー（・スレン）にも教えてましたね。

――サンボ世界王者に足関を！　いやあ、所選手への直接指導の結果が楽しみですねえ。

上原　ありがたいことですよ。そういう合同練習を企画されるってことは、前田さんは所選手をリングスの選手として見ているってことなんですから。こないだの会見のときにエレベーターで一緒になったときも、やっぱり他の選手より所選手と喋っていただいたし。それに前田さんが所選手の名前を覚えてくれたのは凄いことなんですよ。

――ああ、前田さんは選手の名前をなかなか覚えないですからね。

上原　小谷選手とはあんまり接触がなかったにもかかわらず、すぐ名前を覚えてくれましたね。小谷選手が最初にリングスに出場することになったのは、00年に行われた『BATTLE GENESIS』でやったWEF出場者決定トーナメントに出る選手が一人欠場になったのがきっかけなんですね。

――小谷選手が優勝した1DAYトーナメントですね。

上原　ボクは2000年7月に行われた『アマチュア・リングス』で優勝した小谷選手を出す形でいいんじゃないかと前田さんに提案したんですよ。それで小谷選手がいきなり優勝して、そのあともリングスに出るようになったんですけど。それでも覚えてくれるまで2年ぐらいかかりましたね。

――小谷選手はデビュー当時から天才肌のイメージがあるんですよね。打撃も最初から上手かったじゃないですか。

上原　小谷選手はシュートボクシングの現チャンピオン・宍戸（大樹）選手からもダウン奪ってましたからね。でも、小谷選手の打撃って我流だったんでしょ？

『リバーサル格闘技ジム（ACADEMIA reversal）』オープンのお知らせ

所英男が初めてインストラクターを務める『リバーサル格闘技ジム（ACADEMIA Rreversal）』が、2005年6月15日よりオープン。フィットネス感覚の初心者から選手を目指す本格派まで現役プロ選手の丁寧指導で楽しく上達。総合クラスは所英男、鶴屋浩、松根良太、柔術クラスは大内敬、弘中邦佳のトップ選手が指導。高品質60畳マット、シャワー＆更衣室完備。
入会金10,000円（女子は5,000円）。

●月謝
一般　10,000円　大学生　9,000円　高校生　8,000円　女子　5,000円
※6月中ご入会の方は入会金無料。さらに6月中ご入会先着30名様の方に柔術衣一着プレゼント！
無料ジム体験実施6/13（月）14（火）PM8：00～PM9：00

●週間スケジュール

月曜	鶴屋浩	18：30～21：30	火曜	大内敬	18：30～21：30
水曜	松根良太	18：30～21：30	木曜	弘中邦佳	18：30～21：30
金曜	所英男	18：30～21：30	土曜	松根良太	18：30～21：30

小田急線「代々木八幡駅」より徒歩7分小田急線「代々木上原駅」より徒歩8分
千代田線「代々木公園駅」より徒歩7分
お問い合わせ：『リバーサル格闘技ジム（ACADEMIAreversal）』
渋谷区富ヶ谷2－41-10 B1F　TEL 03-3481-6521　www.reversal.jp

『REVERSAL head shop rvddw（リバーサルヘッドショップ）』オープンのお知らせ

“所英男の実兄“が店長を務める、『REVERSAL head shop rvddw（リバーサルヘッドショップ）』が、『リバーサル格闘技ジム（ACADEMIA　reversal）』の1階に2005年7月1日よりオープン。
※6月中はショールームとしてPM12：00～19：00までオープン。
OPEN　月曜～金曜　12：00～19：00　CLOSE　土、日、祝日
お問い合わせ：『REVERSAL head shop rvddw』
渋谷区富ヶ谷2－41-10 1F　TEL 03-3467-8245　http://www.rvddw.com/

この二人が華やかな舞台に出るのは嬉しい

小谷　はい。いまは小野寺力会長の『RIKIX』で一から教えてもらっています。

――小谷選手は、ZST・GPでリッチ・クレメンティに負けたあたりからスランプになったように見えるんですけど。

小谷　そうですね。運に見放されていた感じでした。いままで運で勝ってきた部分があって、それで勝てなくなってきた。そのうち運が良くなっていくことを祈ってますけどね。でも、その間に実力の方は上がってます。あとは運が向いてくれば『武士道』でも勝っていけるんじゃないかと思っています。

上原　いまは身体も大きくなっているし、小谷選手もやってくれると思いますよ。小谷選手、五味（隆典）選手に勝てるよね？

小谷　そうですね。

上原　「そうですね」じゃないよ。「勝てる！」って言い切らないと！

小谷　勝てます（それでも覇気なく）。やっぱ（五味選手は）いま一番強い選手なんで。やるからには勝つぐらいの勢いでやらないと。このあいだの試合も凄かったですし。最初は苦戦してましたけど、徐々に自分のペースに持ち込んで最後は壮絶なKO勝ちで。

――たしかにあの勝ち方はすごかったですよね。

上原　五味選手は修斗時代といまとでは、“勝つ”ということに関して根本的に考えを変えていますよね。二人もドロドロした試合内容じゃなくてドカンと暴れてくれないとね。

――あと“小さいミルコ”ことレミギウスの暴れぶりも楽しみですよね。

上原　レミーガはいつも拷問みたいな試合をしますからね。ただ、不安なのはホントに（好・不調の）波が激しいんですよ。

――小谷選手にもスパッと一本負けをしたときもありましたね。

上原　ちょっと彼は精神的に不安定というか、こないだ試合の翌日なんかも大変で大変で。

――あ～、負けたことでかなり落ち込んでいましたね。

上原　帰りの飛行機に乗るまでも口を一切聞

リングス遺伝子に刮目!!

所英男×小谷直之

with 上原ZST広報

かなくて。レミーガはチャンピオンになってから天狗になっていて、練習も全くしてなかったんですね。だからドナタス（リングス・リトアニア代表）も怒っちゃって、夜の12時から朝の5時まで新宿や代々木の周辺を歩きながらずっと説教してたそうですから。

――ダハハハハ！　それは素晴らしい師弟関係ではありますね（笑）。

上原　まぁ、気持ちを入れ直したレミーガは怖いと思いますよ。『HERO'S』が本当に楽しみですね。対戦相手の日本人選手には本当に気の毒ですが。

――主力選手を外のリングで活躍することでZSTの大会自体にも良い影響を及ぼしてほしいですよね。

上原　結果的にウチの大会の盛り上がりに繋がれば最高ですよね。それにこの二人はZSTがスタートしたときから支えてくれたわけですし、個人的にはアマチュアのときから知っています。その二人がZSTファイターとして華やかな舞台に出れることはホントに嬉しいんですよ。

――いまをときめく須藤元気選手がトップで試合していたリングス中量級の大会の第一試合で二人は闘っていたわけですから、当時を知る人間にとっては感慨深いですよね。

上原　いまとなっては元気選手にしても面倒くさい相手だと思うんですよね。こっち（小谷）は何を考えているかわかんないし、こっち（所）は弱そうだけど、何かを見せてくる期待感があるわけですから。

――本当に大チャンスだと思うんですよ。『武士道』は五味選手が頭ひとつ抜けていますけど、あとは横一線に並んでいる状態ですし、所選手は下手したら〝おしゃれ格闘家〟としての第一歩が開けるわけですし（笑）。

上原　〝おしゃれ格闘家〟……（小谷を見ながら）小谷選手は、その中途半端なスポーツ刈りみたいなのはやめたほうがいいよ。

小谷　そうですか？

――どうしてスポーツ刈りにしたのか不思議だったんですけど（笑）。

上原　いや、彼は、負けが続いていたことを反省して坊主にしたわけですよ。どうせ坊主にするんだったらストーンコールドみたくすればいいのに。

所　それは見てみたい気もしますけど（笑）。

――WWEマニアの小谷選手だったらそうすべきですね。試合に勝ったらリング上でビールをガブ飲みして（笑）。

上原　そっちの方がいいよ！

小谷　じゃあ、考えておきます。

上原　まあ、とりあえず目指すは大晦日ですね。『武士道』のライト級トーナメントも、『HERO'S』のミドル級トーナメントも大晦日に決勝戦をやる予定みたいですから。

――『男祭り』、『Dinamaite!!』と舞台は違えど、ZST勢が揃い踏み！　と。

上原　……まぁ、期待はしないようにします。

――ダハハハ！　頑張ってもらいましょう。

所　頑張ります！

小谷　そうですね。

上原　リングスの遺伝子を持った3選手が、それぞれの大会で一番インパクトに残る試合をしてもらいたいですね。カッコイイ勝ち方をしたら、前田さんと朝5時から釣りに行けるかもしれないよ。ね、小谷選手？

小谷　朝5時集合なんて、電車が走ってないですよ。

上原　朝5時は開始、集合は3時！　矢野（卓見）さんなんかはバイクで来たんだから。

所　釣りも頑張ります！

小谷　そうですね（最後まで無表情で）。

――では、次回はぜひ試合と釣りの体験記をお聞きするということで（笑）。お二人のご活躍を期待しております！

【05年6月某日／リバーサル格闘技ジムにて収録】

『HERO'S2005』16人トーナメント開催!!

ミドル級（70kg級）世界最強王者は『HERO'S』が決める!!

誰よりも大きい前田日明スーパーバイザーと参戦選手たち。左から宮田和幸、山本KID、吉田幸治、高谷裕之、所英男。

70kg級の総合格闘技最強王者は、『HERO'S』が決める！　7月6日、国立代々木競技場で開催される『HERO'S』一部対戦カードおよび出場選手が、スーパーバイザー・前田日明より発表された。トーナメント参戦選手は全部で16名。日本人8人と外国人選手8名の〝日本vs海外対抗戦〟のような形で行われる。トーナメント初戦16人にはホイラー・グレイシー、リトアニアの〝前田日明の小さな恋人〟レミギウス・モリカビュチス、3月の『HERO'S』旗揚げ大会で宮田和幸に勝利したイアン・シャファーら、海外の強豪が名を連ねている。迎え撃つ日本人勢も、山本〝KID〟徳郁、宇野薫をはじめ、〝夜のリトアニア王〟所英男、03年修斗ライト級新人王で元・田中塾の高谷裕之といった期待のメンバー揃い。須藤元気の欠場が公式HP上で発表されたものの、注目のトーナメントであることは間違いない。前田日明は「ヘタしたら日本人全滅の可能性もある」と、日本人8名にとって厳しいトーナメントになることを示唆した。

中でも注目なのは〝小ノゲイラ〟もしくは〝ペケーニョ（ちび）〟のアダ名で知られる、身長166センチの現役修斗王者アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ。99年から6年間に渡り王座を防衛し、朝日昇、佐藤ルミナ、ジョン・ホーキらを下している超実力者相手に、所英男がどこまで渡り合えるか。同大会にはスーパーファイトとしてジェロム・レ・バンナ、キム・ミンス、秋山成勲の参戦が決定。大会の模様は当日夜、TBS系列でオンエアされる予定だ。

"Sammy Presents HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント開幕戦"

2005年7月6日(水)東京・国立代々木競技場第一体育館
開場・16:00　開始・17:00(予定)

[ミドル級世界最強王者決定トーナメント開幕戦・総合格闘技ルール/5分2R延長1R]

山本"KID"徳郁(日本／KILLER BEE) vs イアン・シャファー(オーストラリア／リングス・オーストラリア)
宮田和幸(日本／フリー) vs アースラン・マゴメドフ(ロシア／チヌックジム)
吉田幸治(日本／フリー)vs ホイラー・グレイシー(ブラジル／チーム・グレイシー柔術)
所　英男(日本／STAND) vs アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ(ブラジル／修斗ブラジル道場／修斗ライト級世界王者)
宇野　薫(日本／和術慧舟會東京本部／修斗ウェルター級世界7位) vs (未定)
高谷裕之(日本／フリー／修斗ライト級世界2位) vs (未定)
(未定・日本人選手) vs レミギウス・モリカビュチス(リトアニア／リングス・リトアニア)

◆ワンマッチ出場選手
ジェロム・レ・バンナ(フランス／レ・バンナ・エクストリーム・チーム)　ピーター・アーツ(オランダ／チーム・アーツ)
秋山成勲(日本／フリー)　ホドリゴ・グレイシー(ブラジル／チーム・グレイシー柔術)

<入場料金>
SRS席20,000円　S席12,000円　A席6,000円
選手応援シート12,000円(KID・宇野の2パターン。S席・特典付き)
◆チケットに関する問い合わせ：キョードー東京 TEL：03-3498-9999
◆大会に関する問い合わせ：HERO'S実行委員会 TEL：03-5775-5065

本誌 Back Number

no.08 '94.01
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！
50%OFF
700yen⇒350yen

no.14 '95.04
特集 神秘とは何か？
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
50%OFF
780yen⇒390yen

no.17 '95.07
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
50%OFF
780yen⇒390yen

no.13 '95.03
特集 道場破りとは何か？
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
50%OFF
780yen⇒390yen

no.15 '95.05
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのKー1三兄弟（当時）インタビュー
50%OFF
780yen⇒390yen

『ハッスル』公式読本!!
ハッスルMAGAZINE vol.1
三大特別ふろく（❶高田総統のありがたいお言葉CD ❷インリン様のM字固め特大ポスター ❸マンガ『ハッスル物語』特製豆本）／高田総統×高田統括本部長／高田総統×綾小路翔／インリン様洗脳グラビア／『ハッスル』ポスターコレクション 他
1600yen（税込み）

---

no.57 表紙 高山善廣 '02.11／840yen
一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤＆船木 '03.01／880yen
新春特大号!!「明日、また生きるぞ！」な対談の大連発!!
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02／880yen
吹けよ！呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器 中村和裕
- UWFの再興と再考 田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03／880yen
英雄、変貌好む!! 『PRIDE』RE・BORN!!
- ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04／880yen
5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
- 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05／880yen
誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- 藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06／880yen
吉田秀彦が大英断！ ミドル級GP出陣!
- 「お前は男だ」劇場炸裂！ 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭＆田村 '03.07／900yen
灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!
- "異次元格闘技戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08／880yen
ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!
- "最後の皇帝"燃え上がる！ ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る！ 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲！ イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09／880yen
ミルコ、『武士道』電撃出陣！ もはや誰にも止められない!!
- 緊急独占インタビュー！ ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- "天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- 『東スポ』とは何か？ 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ＆吉田 '03.10／880yen
吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(キ)は赤く染まるか!?
- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー！ ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田＆桜庭＆曙＆猪木 他 '03.11／880yen
人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!
- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 高田延彦
- 横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
- "野良犬"『紙プロ』初登場！ 小林 聡

no.70 表紙 ミルコ '04.01／880yen
年末格闘技大戦＆1・4プロレス戦争大総括!! OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?
- PRIDE征服宣言！ ミルコ
- シウバに宣戦布告！ 近藤有己
- ド真ん中の真実を語る！ 佐々木健介＆北斗晶
- 発表！ 紙プロ大賞＆マット界語録2003

no.72 表紙 ミルコ＆ヒョードル＆ノゲイラ '04.03／840yen
最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!
- GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- 第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- 全て見せます!!『突撃！佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04／880yen
暴走王が忘れたころにやってきた! PRIDE・GPでハッスルするぞ!!
- GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也
- PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
- キックの名伯楽登場！ 伊原信一
- 魔界のニューリーダー 村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05／880yen
シュート？ ワーク？ くだらねえ、次元が違うよ! いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!
- PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也
- リベンジロード発進!! 桜庭和志
- "ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場！
- 鶯圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川＆桜庭＆吉田 '04.06／880yen
英雄、奇蹟の揃い踏み！ 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!
- シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也with藤井軍鶏侍
- 奇蹟の独占インタビュー！ 高田総統
- インド狂虎登場！ タイガー・ジェット・シン
- 年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.77 表紙 小川直也 '04.08／880yen
『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集! 小川、史上最大の査定試合へ!!
- 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也
- 狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ
- サンボの神様降臨!! ビクトル古賀
- ロシアで英雄と再会！ ヴォルク・ハン
- 幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也 '04.09／840yen
『PRIDE・GP』徹底総括! ハッスルとは出直しの連続なり!!
- 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也
- 小川の敗戦をどう見る!? 高田PRIDE統括本部長
- K-1のトップが小川を語る 谷川貞治
- 壮絶インディー人生！ 田中将斗

no.80 表紙 ミルコ・クロコップ '04.10／880yen
『PRIDE.28』直前! 守護神ミルコ、外敵狩りへ――
- 独占ロングインタビュー ミルコ
- ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也
- 新連載！ 佐山サトルの右流タン探訪紀
- 袋とじ企画・女子プロ界の謎に迫る！ グリズリー岩本

no.81 表紙 桜庭和志 '04.10／880yen
サク、4度目のシウバ戦決定! 大晦日格闘技戦争・濃密大特集号
- ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ
- 新日本でハッスル成功！ 小川直也
- スーパーひとし君登場！ 草野仁
- 狂気の天才対談が実現!! 佐山サトル×船木誠勝

no.82 表紙 桜庭和志 '04.12／890yen
大晦日大戦・超直前特集号! 男のSADAME、見に来いやーッ!!
- 「ボクは絶対に諦めない」桜庭和志ロングインタビュー!!
- "道場破り"の全てを激白！ 安生洋二
- WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪
- 伝説の悪徳レフェリー降臨！ 阿部四郎

no.83 表紙 ミルコ '05.01／880yen
打倒ヒョードルに向けミルコが激白! PRIDEヘビー級王座への野望と渇望!!
- 『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括！
- 2005年ハッスル大進撃計画を発表!! 小川直也
- 蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝
- 『シベ超5』公開記念SP対談！ 水野晴郎×サスケ

no.84 表紙 セルゲイ・ハリトーノフ '05.02／880yen
ロシア人はロシア人が始末する! ハリトーノフがヒョードルに宣戦布告!!
- PRIDE王座へまっしぐら！ ミルコ
- "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ
- "頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司
- "起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か？ 前田日明復活大特集!!

no.85 表紙 前田日明＆高田総統 '05.03／860yen
PRIDE vs HERO'S開戦! どっちが面白いか決めたらええんや!!
- PRIDE GP2005特集！ 桜庭和志、田村潔司、高田延彦
- パンクラス2大王者が揃い踏み！ 高阪剛×近藤有己
- 怒濤の37ページ！『前田イズムとは何か？』
- HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

no.86 表紙 ヴァンダレイ・シウバ '05.04／860yen
出場16選手を徹底分析! PRIDE GP 2005開幕直前号!!
- 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司
- ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!
- 皇帝、いざミルコ鎮圧へ E・ヒョードル
- PRIDE GP&K-1 WORLD MAX 出場全選手パーフェクトガイド

no.87 表紙 吉田秀彦 '05.05／860yen
出場16選手を徹底分析! PRIDE GP 2005開幕直前号!!
- 敗れてなお咲く花あり！ 吉田秀彦
- GP1回戦突破対談！ 桜庭和志×中村和裕
- 船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫
- 蘇れ！ 新日本プロレス学校対談 Part2 金原弘光×池田大輔

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文
②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意 郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

紙のプロレスRadical 常備店

- アイドール新宿店
- 新宿ファイター
- プロレスマニア館
- チャンピオン
- タコシェ
- レッスル池袋
- 書泉ブックマート
- 書泉ブックタワー
- 書泉グランデ
- グレートアントニオ
- 東京イサミ

『ハッスルMAGAZINE』vol.1

3大ふろく

M字固め特大ポスター

総統のありがたいお言葉CD

『ハッスル物語』特製豆本

やっぱり別人だった!? 高田総統×高田統括本部長／夢の頂上対談実現! 高田総統×氣志團團長・綾小路翔／8ページぶっちぎり! インリン様洗脳グラビア／永久保存版! 『ハッスル』ポスターコレクション／ハッスル軍vsモンスター軍、激闘の歴史／総勢約100名! ハッスルキャラクター大名鑑

¥1600(税込)

『ハッスル』のすべてがまるわかり！ 紙プロ通販で絶賛発売中!!

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-5368-1797

【平日15:00～22:00 (株)ダブルクロス】

Radical Back Number

『ハッスルMAGAZINE』と併せてお読み下さい!!

no.69 歴史的1・4『ハッスル1』ド直前! 大荒れとなった開催発表会見を完全再現!!
- ●榊原代表の「プロレスだから」発言に小川ブチ切れ!
- ●OH砲が“泣き虫”高田統括本部長に宣戦布告!!
- ●マット界大激震!『泣き虫』著者・金子達仁登場!!
- ●白黒つけるゼブラ対談!(後編) 橋本真也×哀川翔

'03.12 / 900yen

no.71 ハッスル軍vsモンスター軍の抗争が激化! 高田総統が、ギョロ目もたじろぐ真の姿を初公開!?
- ●デンジャラスKが『紙プロ』初登場! 川田利明
- ●小川直也がDSEを占拠! 社長室で暴走三昧!!
- ●ヤドカリをSTO葬! ハッスル劇場完全再現!!
- ●ロード・トゥ・ハッスル2 小川直也

売り切れ寸前!!

'04.02 / 880yen

no.76 「ハッスルするなら、いましかねえ!!」 キャプテンが『PRIDE GP』準決勝進出!
- ●1・4事変、猪木、長州に言及!! 小川直也
- ●ハッスルポーズを伝授! 破壊王×ホドリゴ・ノゲイラ
- ●壮絶なる女子プロ人生を告白! アジャ・コング
- ●怒れる猛牛登場! ダン“ザ・バッファロー”ボビッシュ

'04.07 / 880yen

no.79 高田総統が『紙プロ』をジャック! “60億分の1”の大魔王が小川に言葉の鉄槌!
- ●高貴なお姿を毎日拝め! 高田総統特製ピンナップ!!
- ●DSEに突撃会社訪問!! ターザン山本!×榊原代表
- ●『ハッスル』の裏情報を激白! 笹原GM×臼杵PR
- ●ビビったか、ボヤいたか!? 金原モンスター軍!!

'04.09 / 840yen

BACK NUMBER

---

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 780yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本“1・4事変”勃発!!
- ●あの“1・4事変”を徹底大検証!!
- ●“前田日明・最後の相手” アレキサンダー・カレリン
- ●引退記念雑談会「語ろうマサ・サイトー!」
- ●S多重アリバイ 佐野雄飛

売り切れ寸前!!

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- ●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- ●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- ●相撲多重アリバイ 石川孝志
- ●マーク・コールマン

売り切れ寸前!!

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- ●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- ●プロレススーパースター列伝 仲野信市
- ●本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- ●TKおかん

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
- ●田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ●ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- ●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- ●“和製カレリン”本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen
『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
- ●UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- ●プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- ●修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
- ●ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施!
徹底検証号
- ●ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- ●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- ●“ノアの怪物”杉浦貴
- ●UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ●ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ●ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- ●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- ●吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- ●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
- ●アブダビコンバット2001一大探検記!
- ●シュート活字×ファンタジー活字
- ●他に類таなきプロレスがWWFにはある!

no.38 表紙 高田(イラスト) '01.05 / 840yen
小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- ●忘れ物の正体は――。高田延彦
- ●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- ●プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- ●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
- ●前田道場新エース・金原弘光
- ●怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- ●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- ●プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen
猪木軍vsK-1に見たいものは“地上最強のプロレス”
- ●蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- ●熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- ●プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- ●グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト? “最後の黒船”WWF襲来!
- ●リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- ●真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- ●W☆INGの真実・茨城清志
- ●毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- ●“ヒャッホーの真実”辻よしなり
- ●蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- ●誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen
サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
- ●ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- ●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- ●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
- ●野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen
サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
- ●その修羅場の数々! シーザー武志
- ●怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- ●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen
「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- ●悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ●ジェラルド・ゴルドー人生相談
- ●プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- ●語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前!
- ●“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
- ●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
- ●第一次リングス閉幕特集
- ●プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- ●奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー
- ●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- ●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- ●WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- ●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- ●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- ●破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ●ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
- ●「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
- ●リングスロシア軍団の軌跡
- ●パンクラス取材解禁! 菊田、“尾崎の野郎”が登場!
- ●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを!
- ●両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- ●『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
- ●天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- ●新・超獣 ザ・プレデター

売り切れ寸前!!

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen
見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!
- ●全身プロレスラー・高山善廣
- ●USAの渡世人ドン・フライ
- ●『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- ●戦慄の『LEGEND』前夜!

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen
世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!
- ●ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- ●独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- ●爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- ●偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen
不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
- ●“首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー
- ●“青い目のケンシロウ”ジョシュ・バーネット
- ●紙プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- ●猪木とは何か? アントン実況・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.56 表紙 Uインター '02.10 / 880yen
愛すべき若気の至り! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- ●田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦
- ●蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山
- ●高田vs田村、観る側の覚悟! 浅草キッド
- ●『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

売り切れ寸前!!

言うちゃ悪いけど今月の直言

今回の社長交代でハッキリした！ “プロレスルールにより真剣勝負”なんて猪木はやるつもりないんだよ!!

サイモン猪木政権樹立！ 新日本社長交代劇をブッタ斬る!!

プロレスマスコミの哲人・I編集長の

喫茶店トーク バードV

PROFILE

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けた人間は数知れない。バード（VTの意）、“殺し”、など、破天荒なI用語を次々と生み出している。

本誌が誇る長寿連載ながら、ここに来て、またまた人気が急上昇中の『喫茶店トーク』。70歳にしてさらに進化を続けるI編集長に、今月は新日本プロレスの社長交代劇をブッタ斬ってもらいました！

聞き手／堀江ガンツ
design by さおとめの事務所

I編集長の喫茶店トークV

――さて、井上さん。今回はまず新日本プロレスの社長交代劇について、ズバリ率直な感想をお伺いしたいんですけど。

井上 あれはまぁ、ハッキリ言うたら新日本プロレス＝猪木王国だということですよ。猪木自身は「猪木商店化？ それは違う！」なんてことを東スポあたりで言うとったようだけど、あれはどう見ても猪木王国。

――まぁ、社長が娘婿のサイモン猪木氏ですからね。

井上 社長はサイモンでもサーモンでもいいんだけれども、俺はいつも「プロレスルールによる真剣勝負、これこそが新日本プロレスが生き残るたったひとつの道だ」と何回も言って来たわな。

――はい。毎月のよう伺っております（笑）。

井上 だから俺は最初、猪木がガチンコというか、本当の真剣勝負をやるために、いままでのようなプロレス慣れした人間はダメだと、それで自分の意向がパーッと伝わるサイモン氏を連れて来たんじゃないかと思ったんだけれども、どうやら違うんだよな。

――違うでしょうね（笑）。

井上 結局猪木がやろうとしていることは何かと言ったら世界戦略なんですよ。世界に出ることであって、国内の興行なんか考えてない。グローバル化を図ってとにかくサイモンを代表に据えとるわけなんだよ。だからこないだのイタリア遠征なんかにしても、決してプロレスルールでの真剣勝負なんかやってない。言うまでもなく純然たるプロレスですよ！

――天山vsノートンですからね（笑）。

新日本に「裏原宿プロレス」は無理 あれは「表参道プロレス」ですよ！

井上 とにかくまるっきり俺が言ってるような方向ではないんだよな！ これではミラノでやろうが北京でやろうが大きな収益は望めませんよ。本当の意味での新日本プロレス復興を考えるならね、そういった小手先のことではなく、俺はなんべんも言うてるけど、目の前にあるものを、全部目をつぶってたたき壊せと！ これを残そう、あれを修正しよう、じゃなくてね。まるっきりたたき壊してしまって、ゼロにしてしまって、もう何にもないと、そういうことになったら必ずね、次のものが出てくるのよ。

――破壊なくして創造なし！ ということですね（笑）。

井上 それを強く感じたのが裏原宿の職人たちですよ。あの連中というのは、小さなアパートかなんかを借りて、そこでひとりがデザインし、ひとりがミシンをかけてショルダーバックとか革ジャンとか一生懸命作っとるんだよな。そういった手作りでたったひとつしかない、自分だけのショルダーバッグやらジャケットやらにすごく人気が集中しとる。そういったものが裏原宿にはあるんですよ。ハッキリ言うたら、大量生産で同じモノが何百個もあるようなものはダメ。そういったことを裏原宿を歩いとったとき非常に強く感じたんだよな。

――え⁉ 井上さんがホントに若者に混じって裏原宿を歩かれたんですか？

井上 そりゃ俺だって裏原宿くらい歩きますよ！

――失礼しました！ でも、70歳でそれだけ裏原宿に興味があるのは井上さんぐらいだと思います（笑）。

井上 俺は裏原宿を歩きながらプロレスのことを考えとるからね。それで歩きながら「これだ！」と思ったんだよ。だから「裏原宿プロレス」という言葉も自然と生まれてきたわけやけど、いまのいまの新日本プロレスは俺が望む「裏原宿プロレス」ではありまへん。将来も実現することはない！

――新日本プロレスは裏原宿プロレスになれない！ となると、何になるんですか？

井上 いまの新日本が目指してるのは「表参道プロレス」ですよ！

――表参道プロレス！（笑）。またしても新しい井上用語が登場しましたけど、わかりやすく説明していただけますか？

井上 それが、いま言ったようなこととはまったく逆の、ありふれた、万人向けの、いわゆるメジャーですよ、ということを目指そうというプロレスですよ。だからそういったことを目指している猪木をバックアップする起業家というのも当然おるんで、経営上はなんとかなるかもしれんけれど、結局はうまくいかんと思うのね。

――うまくいきませんか。

井上 世界戦略で打倒WWE！ってね、口で言うのは簡単だけれどもやね、あのWWEというのは、もうジーっと見とったらわかるけど、ハッキリ言ってもの凄いよ！

――あ、WWEには井上さんも一目置いているわけですか。

井上 そりゃそうですよ、アンタ！ あの組織力、資金力、これまで培ってきた力。もう親父の代からいろんなところで権力、癒着を巡らしてやってるからね！

――ビンス・シニアもそんな力があったんですか。

井上 もうハッキリ言うて、あれはマジソン・スクエア・ガーデンの顔役ですよ。それを息子が受け継いでさらに大きくしたと。もうとにかくハッキリ言えば、やくざの暴力団がのし上がったようにね、計算ずくで競争相手を倒し、えげつないことをやり、そしてのし上がってきとるわけだから。それと同じことはできませんよ！

――それは相手が悪いですね（笑）。

井上 レスラーだってあそこで生き残るには、凄い身体ををつくらないかん。もうドーピングもへったくれもあったもんじゃないんだよ！

――ドーピングもへったくれもない（笑）。

井上 ダイナマイト・キッドがいい例じゃないか。極端に話をすれば、朝ホテルの部屋を開けたら死んどったというね。アメリカのレスラーが亡くなるのは、みんなコレですよ！ だからそういったものすごい命と引き換えにね、レスラーたちは金を得てるわけですよ。それと同じことが新日本のレスラーにできるかと言うんだよ！ そりゃあそこまでやれないぜ～。またやるだけの根性がある者を集められないし、もうはっきり言って少なくとも5000万円ぐらいの年俸を積まんと乗ってこんからね。

――長者番付にほとんど登場しない日本のプロレスラーのギャラじゃダメだと。

井上 だからとにかく猪木の世界戦略というのも非常に甘いんだな！ ちょっと前まで猪木が言っとった北京がどうの、上海がどうの、ソウルがどうのっていうのはみんな反日感情持ってしまって、アジアンリーグというものが飛んでしまっている。それ以前にこの間のミラノみたいに純プロレスを持って行ったところで上海の連中は「バンザ～イ」とは言わんよと。やっぱりすごいガチンコで「うひゃ～、すごい」と。それがないといけないのよ。

――ガチンコじゃないと「うひゃ～、すごい」とはなりませんか（笑）。

井上 そりゃなりませんよ！ でも、猪木は

I編集長の喫茶店トークV

藤田が天山に突っかかったのとサイモン社長就任は無関係じゃない

やたらとグローバル化グローバル化と言っているにもかかわらず、そこの部分がスコーンと抜け落ちておる。グローバル化をはかるために、とにかくサイモンを代表に据えとるわけだけども。それは俺が言っとる超ストロングスタイルのガチンコのプロレスというのと違うんだよな！　だから今度の9・9ジャングル・ファイトにしたっていよいよ念願のラスベガスに向けて出ていくんだけどやね、はっきりいって目に見えとるわ。だからこれはブロック・レスナーを引き入れるか引き入れないかという話と違うのよ。初めから規模が小さくて、もうせいぜいはっきり言ったらWWEの10分の1ぐらいの規模で、そしてそこで環境衛生がどうのこうのというのでやるということでしょ？

—永久電機とか（笑）。

井上　そして、そういった興行を打つためにIWGPチャンピオンという肩書きが必要と。だから藤田が5・14ドームで天山に噛み付いたわな。あれを見たとき、はっきりいってIWGPを取るつもりだと、猪木命令だと。これはもうピーンときたんだよ。そして、藤田がベルトを取りに来たということは、世界戦略がなんらかの日の目を見たんだと。だから藤田は猪木命令で天山を挑発してやってんだと。だから天山が2、3回防衛したあとで藤田に取られるんじゃないかと思ったけど、案の定や。9・9ジャングル・ファイトっていうのが発表されたからね。

—9・9が発表された時点でもう藤田の戴冠は間違いない（笑）。

井上　9・9が発表される前だったら「大阪のバカがくだらんことを言っとる」と笑ったヤツもおったらしいけども、9・9に藤田が出てくるとなったら誰だってわかる。2×X＝6ということになってきたら、もうXは3なんだ！

—当然そうですよね（笑）。

井上　だからこれはもうはっきりいって、藤田がベルトを取るんですよ。ただ、6・4イタリアでいきなり藤田をチャンピオンにすることはできない。なんぼなんでも天山がかわいそうだしね。

—ようやく取り返したと思ったら、即かませ犬じゃかわいそうすぎますよね（笑）。

社長交代は新日の「猪木商店」化？　それは違う
イタリアの猪木　独占直撃
サイモンに任せたワケを話そう
俺はオーナーでもなくなると思う

アントンの娘婿が社長に就任ということで、「新日本が猪木商店になった」と囁かれるが、アントン総帥はこれを全面的に否定。「俺はオーナーでもなくなるかも」と、新日本から距離を取ることをほのめかしたが……。

井上　だから天山も9・9までにまだ間があることだし、2〜3回制覇して、間に誰か挟むかもしれないけど、9・9には藤田がベルトを巻いていると。だからいずれにしても、天山の負ける相手は藤田じゃないかという「大阪のバカ」の予測というのがやっぱり当たってきとる。だからあの5・14と今度のサイモン猪木社長就任劇と無関係じゃないんだよ。はじめからつながっとったんだよな。だからあのアマレス軍団が結成されたろう？

—チームジャパンですか？

井上　そう。あそこに藤田が加わるのはおかしいんじゃないかと俺は思っとったけども、これもなぜ藤田がそこから抜けないのかというと、やっぱり世界戦略が必要なんだよ。あのチームが。

—チーム・ジャパンは世界戦略要員だと。

井上　そして、そのボスが藤田だと。しかもIWGPというグローバルなベルトも持ってると。そういうことをうたい文句に一生懸命旗にして打って出ようというためにチームジャパンを残しとるんだな。

—なるほど。

井上　俺もはじめはわからんかったけどね。猪木の世界戦略の親分が藤田だというふうに2×X＝6の「6」を藤田と設定するとね。Xはもう間違いなく3なんだなこれ。だからそういうことがわかってきたわけ。これできっちり答えが出た！　やっぱりプロレスというのはそんなに複雑なもんじゃないんだよ。こんなこと言うたら失礼だけど。

—とにかく2×X＝6ぐらいの話だと（笑）。

井上　だから新日本をボロカスに言ったはずの藤田が何のために新日本にチーム・ジャパンにいるのか。新日本がダメならチーム・ジャパンとも「んなもん一緒にやらねーぞ」と言うはずなんだけど、天山にだけ楯突いて、ほかの連中とは肩組んでしますと。これおかしいじゃないかと！　で新日本プロレスの謎というのはそこにあったわけですよ。でも、チーム・ジャパンが世界戦略要員で、藤田がそのボスだとわかると、すべてが読めるんだよね。だからサイモン猪木というのもはっきりいって猪木の操り人形に近い。あの人が猪木の意向を無視してね、俺が超ストロングスタイルの試合を国内でもやるんだと、でその柱というの　は猪木がやった異種格闘技戦なんだと、これはガチンコなんだというようなことは絶対にしないですよ。

—UFOの川村社長ばりに「すべてガチンコで行きます」って言い出したらすごいですけどね（笑）。

井上　それを期待したけどね。やっぱり就任のときに異種格闘技戦がどうのこうの言うたからね。だからその方向かいなと。だけれども、じーっと見とったらすぐわかってきた。猪木の考えは世界戦略なんだから、それにタテついて国内でプロレスルールでの真剣勝負なんかやりませんよ。それらへんがサイモン猪木社長就任の筋書きというか結論ということでしょう。これは井上小説から発想を広げて行って、どうやら現実に近づいてきたということであって、それが決定打じゃないともうけどね。

—いやぁ、それにしてもとてつもない推理力です（笑）。

井上　ただ、サイモンがなにかやりそうな気もするんだよ。というのは猪木が「俺はオーナーでもなんでもなくなる」と言うとるからね。サイモンが「真剣勝負でやります」と言って、猪木が「あ、そう。やってみなさいよ」とならんことも限らないの。だから、俺が言ってることは100%確定事項じゃありませんよと。といったことで、今回はおしまい。

【05年6月6日／電話取材にて収録】

ビッグマウスプロデュース対談実現!?

この二人の意外な接点が明らかに!!

新日本時代の㊙話満載！

柴田勝頼　掟ポルシェ

PK談（仮）

ポルシェ　カツヨリ

『Number』や『週プロ』での前田×船木対談、『ゴング』での前田×北斗対談など、その雑誌にあった企画をプロデュースするのがビッグマウス流。そして今回、ビッグマウス関係者から電話があり話を聞くと、柴田が掟ポルシェとの対談を希望してるという。そんな経緯で実現した異色対談。今回は柴田の得意技にちなんで、ポルシェの“P”と勝頼の“K”で「PK談」ってことでいってみよ～！

構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史

designed by shiraki（TwoThree）

今時、私服で巨人帽を被ってるの俺か三遊亭小遊三ぐらいだからな

――パッと見、どういう組み合わせかよくわからないですけど、今回は掟さんと柴田さんの対談ということで、よろしくお願いします！

掟　読者もサッパリわけわからんでしょうね（笑）。

――なんでも、柴田さんはロマンポルシェ。のことをお好きだとうかがいまして。しかも、いろいろと接点もあるんですよね。

掟　俺と仲良くしても良いことないですよ！　一応プロレス雑誌で連載持ってたけど、プロレスラーの方には疎ましく思われたりもしてますからね。

柴田　ハッハッハッハッハッ！　そうなんですか（笑）。

掟　一番『紙プロ』と近そうなところが一番遠いというか（笑）。

――聞くところによると、お二人には共通の友人がいるんですよね？

柴田　昔、ボクが髪切ってたところが掟さんと同じなんですよ。

掟　そこの美容師が共通の知り合いで。しかも、その弟も柴田選手と仲がいいんですよね？

柴田　そうッスね。最近その美容室にまた行ったんですけど、結構、掟さんとはスレ違いが多くて。新日本の事務所が渋谷にあったときも、2〜3回見かけてるんですよ。

掟　エッ、そうなんですか？

柴田　見かけてましたよ。そのときは掟さんは巨人のキャップ被ってましたね（笑）。

掟　ああ、それ俺だ（笑）。今時私服で巨人帽かぶってるのは俺か三遊亭小遊三ぐらいだからなぁ。あ、でもウチの近所に巨人帽被ってる人、あと2人いるんですよ。

柴田　そうなんですか（笑）。

掟　1人は80歳ぐらいの爺さんで、もう1人がダウン症の子供。爺さんもダウン症の子供も向こうから歩いてくると手を振ってくれるんですよ。

柴田　エライ統一感のない面子ですね（笑）。

掟　ジャイアンツ好きはみんな仲間！　オレも手を振り返して挨拶してね。ま、実際野球はあんまり見てないんですけど（笑）。

――柴田さんはミュージシャンのロマンポルシェ。も把握してるんですよね？

柴田　もちろんッスよ！（キッパリ）。CDとか凄い聞いてて。主に掟さんの説教中心に聞いてるんですけどね。

掟　ありがとうございます！

柴田　なんか、「男とは？」っての が凄い惹かれましたね。男っていうことに対して凄い考えて言ってる人って周りにあんまいなかったんで、凄い勉強になりましたね。

掟　マット界で〝男〟と言えば、前田さんだと思うんですけど、最近は頻繁に会われたりしてるんですか？

柴田　いや、K―1のWORLD MAXの試合会場で一緒に観戦したりとか。会場とかじゃないと、あんまり会う機会はないッスね。

掟　トレーニングを見てもらったり、まだそういう段階ではない？

柴田　まだ道場とかもないわけですし、ボクも村上さんも別で、キックのジム行ったり、ウェイトしに行ったり、別々でやってるんで。いずれは一緒にやっていくと思うんですけど、いまは自分たちで練習場所見つけて、自分たちで練習してっていう感じなんですね。

――予定通りいっていれば、4月23日に長州戦をやっていたはずなんで、体調的には問題ないわけですよね。

柴田　そうッスね。伸び伸びになってるんで、かなり慣れてきた部分もあるっていうか（苦笑）。でもやるんだったら、中途半端に日にちが迫って無理矢理やるっていうよりも、ガッチリしたものをやりたいんで、選手としても会社のフロントとしても「これがプロレスだ」っていうものを見せたいわけですよ。でもやっぱり、最近は掟さんもいまのプロレスは見てないんじゃないんですか？

掟　ドキッ！……いま、ちょっとヒンヤリしましたね（笑）。

柴田　いや、それはボクたちの責任なんですよ。やる側の責任ッスよ。それほどのことをやってないっていうか、掟さんのハートを掴んでないってことなんですよ。

――掟さんも、どっちかというと平成というより昭和のプロレスの方が好きなんですよね。

掟　そうですね。でも実際、俺が一番マジメに会場に通ってプロレス見てたのって90年代でしたから平成も好きですよ。昭和というか子供の頃は、実はどっちかというと全日派で。ロード・ウォリアーズなんかはヒーローものの延長線上として楽しんでましたね。「アニマルってレインボーマンに出てきたエルバンダみたいでかっこいいな」とか。ちゃんと会場に行って見始めたのは女子プロレスからなんですよ。ちょうど俺が上京してきた頃って、新日は『ギブアップまで待てない！』の頃で、方向性を非常に模索してる時期で、ちょっと会場に行くって雰囲気じゃなくて（笑）。

――そんな時期もありましたね（笑）。

掟　で、88年とか89年とかプロレス界の流れはUWFにみんな行っちゃって、もうプロレスっていうものの自体が格闘技寄りにドンドンなっていってて。そっちの流れには意外と付いていけなかったんですよ。チケットもプラチナ化して手に入らないし、テレビじゃ見れないしで、ちょっと自分には敷居が高かったんですね。

――どっちかに分かれる場合が多いですよね。UWFと、反対のFMWに行く人もかなりいましたし。

掟　それで、テレビでその当時月1で放送してた全女をずっと見てたんですけど、91年とか92年ぐらい、ブル中野とアジャ・コングが抗争してたぐらいの時期から、女子プロレスで何かが起きてる、これは会場に行って見ないとまずいぞって感じたわけですよ。それまでのスター選手が引退したことで、残った選手が危機感を持って殺し合い寸前の凄いデスマッチを始めたのを見てショックを受けて。怪物的なルックスの巨漢女子レスラーがぶつかり合ってるのって、ともするとイロモノ的になりがちだと思うんですけど、そんなものを完全に超越してましたね。柴田選手は、女子プロレスはどうですか？　男子レスラーって、女子プロは見ないっていう人が多いですけど。

柴田　見ないッスねぇ。ボクは新日本だけだったんですよ。新日本がプロレスだったんで。

掟　それこそ、全日さえ見ない感じ？

柴田　全日は全否定してましたね（笑）。

掟　あんなのはプロレスじゃない、弱いに決まってる、みたいな感じ？

柴田　そうッスね。もう興味がなかったですね。新日本＝プロレスで、それ以外は認めないぐらいの変な頑固さがあって。それはオヤジがレフェリーだったっていうのもあると思うんですけどね。で、入ってみて、

捉さんとは何度かスレ違ってて、巨人のキャップ被ってましたね（笑）

なんか理想としてたものと、ちょっと違うんじゃないかなって思い始めてきてしまって。自分がやりたい試合っていうか、これがプロレスだって思える試合っていうのは新日本の中にはあまりなかった。意外と、全日本の川田選手だったり、天龍さんだったり、外の選手と当たった時の方が自分の求めていたプロレスを感じることが多かったんで。

捉　毛嫌いしていた全日出身の選手との対戦の方が理想のプロレスが出来たんですね。

柴田　それってどうなんだろうって思って。で、今年の契約の時に飛び出したって形ですね。

捉　川田選手とやったのが柴田選手の中で結構デカかったんですよね。

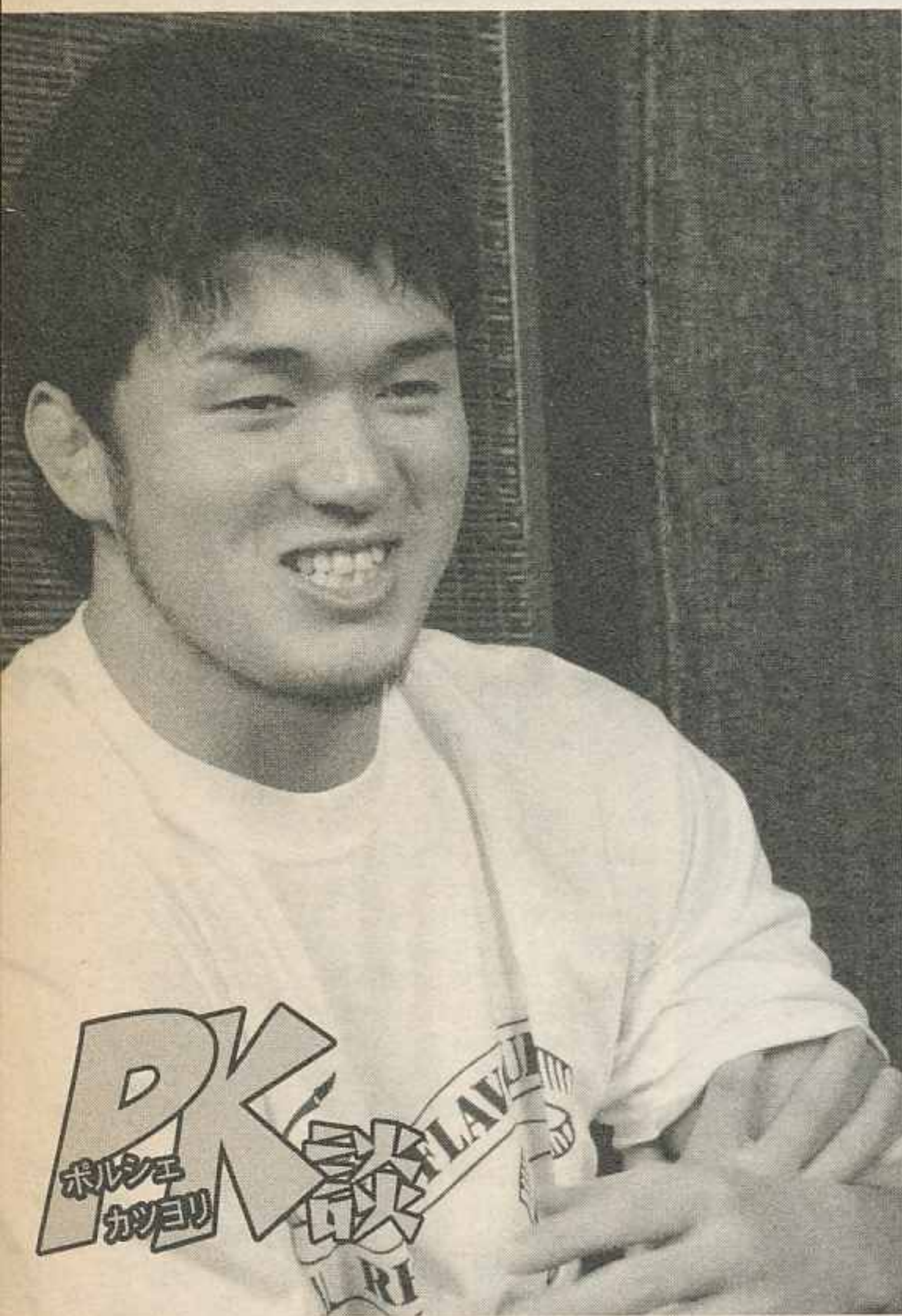
柴田　ホント、デカかったッスね。川田選手とやる前までは、〝明るく楽しく激しく〟の意味がわかんなかったんですけど。

捉　〝明るく楽しく〟って闘いに必要なのかよと。

柴田　そうッスね。だけど、ボクは新日本として、川田選手は全日本としてぶつかった時に、「あれ、これって俺がやりたいプロレスだ」って感覚だったんですよね。新日本って何かっていえば、昔からそうだと思うんですけど、敵と闘ってたと思うんですよ。外人だったり、UWFだったり、Uインターだったり。ボクはUインターとの対抗戦とか凄い好きでしたからね。

捉　ホントに潰し合いでしたよね。

柴田　そうッスね。意地の張り合い、ぶつかり合いで、どっちが勝つんだろうって思って見てて。

捉　負けたら明日がないような状態で試合してるんだから、そりゃ伝わりますよね。

柴田　背水の陣じゃないですけど、凄いそういうのって見てて伝わりますよね。負けたら、看板に泥を塗るわけじゃないですか。それって凄い面白いところだと思うんですよ。で、実際、全日本の選手とやってみて、ホントやらなきゃわかんねぇなって感じて。じゃあ、やれる環境に行こうと思って、飛び出したんですよ。さっきも言ったんですけど、いまのプロレスを見ていない、いわゆる離れてしまった捉さんみたいな昭和のファンを呼び戻したいんですよね。捉さんも基本的にプロレスは好きだと思うんですよ。

捉　はい。まがりなりにもプロレスというものの良い時代を見てた世代ですし。

柴田　プロレスは好きだけど、見たいプロレスがないだけなんですよ。それをやるのがボクたちの宿命だと思ってるんで。是非今度、試合する時には来てもらって、ボクの試合を見てもらいたいですね。

捉　ぜひ観に行かせて下さい！　ちょっと新日本入門当時の話をうかがいますけど、入った頃は道場長は飯塚選手の時代ですか？

柴田　そうッスね。コーチが飯塚さんとか佐々木（健介）さんとかでしたね。

捉　やっぱり新日の練習は厳しかったですか？

柴田　厳しかったッスねぇ。まあでも、そういうもんだと思ってましたけど、いつデビューできんのか全然わかんなくて（苦笑）。こんな練習ずっと続けててデビューできんのかって思いながらやってましたけどね。

捉　練習が厳しくてもオヤジさんがレフェリーやってると、さすがに逃げられないですよね（笑）。

柴田　そういうのもあって、絶対逃げられないと思ってたし、やめるつもりはなかったんですよ。でも結局はやめちゃったんですけど（苦笑）。

捉　ガハハハハ！　7年勤めてやめるのと、練習生の時にやめるのでは違いますからね。メチャメチャなしごきとかってありました？　小便飲まされるような（笑）。

柴田　先輩に便器に手を突っ込んで洗わされたりしましたね（苦笑）。

捉　素手で便所掃除？

柴田　素手じゃないですけど、「便器の底が汚れてる」って言われて、どう考えてもこれ、十何年かからないと溜まらない汚れじゃないかっていう感じで（笑）。コケみたいになってるのを「手突っ込んで洗え」って言われて。まあ洗いましたけどね。

捉　汚れは落ちたんですか？

柴田　スプーンか何かで削りましたね（笑）。まあ、それってプロレスをやる上では無駄なことなわけじゃないですか？

捉　根性トレーニングですよね（笑）。

柴田　無駄だけど、プロレスっていうものの中の必要なもんだと思って、そうボクなりに解釈してやってました。

捉　しごきに対して仕返ししたりとかしなかったですか？

柴田　直接はないですけど、試合とかで返したりはしてると思いますけどね（笑）。

捉　便所掃除の恨みを試合でキッチリ返せたらカッコイイよなぁ（笑）。やっぱり、個人的な恨みがある選手同士って、面白い試合になったりするじゃないですか。

柴田　それはあるでしょうね。

捉　借りを返した試合のビデオ、あったら今度見せて下さい（笑）。道場では、いわゆるしごいてくれる人もいれば、面倒見てくれる人もいたと思うんですけど。昔でいうドン荒川さんみたいに夜の面倒だけ見てくれる人とか（笑）。

柴田　ハッハッハッハッ！

捉　その当時、夜担当の先輩っていました？

柴田　そこまで面倒見てもらったっていう人はいないですけど、真壁さんは一緒の部屋で、いろいろと面倒見てもらいましたね。

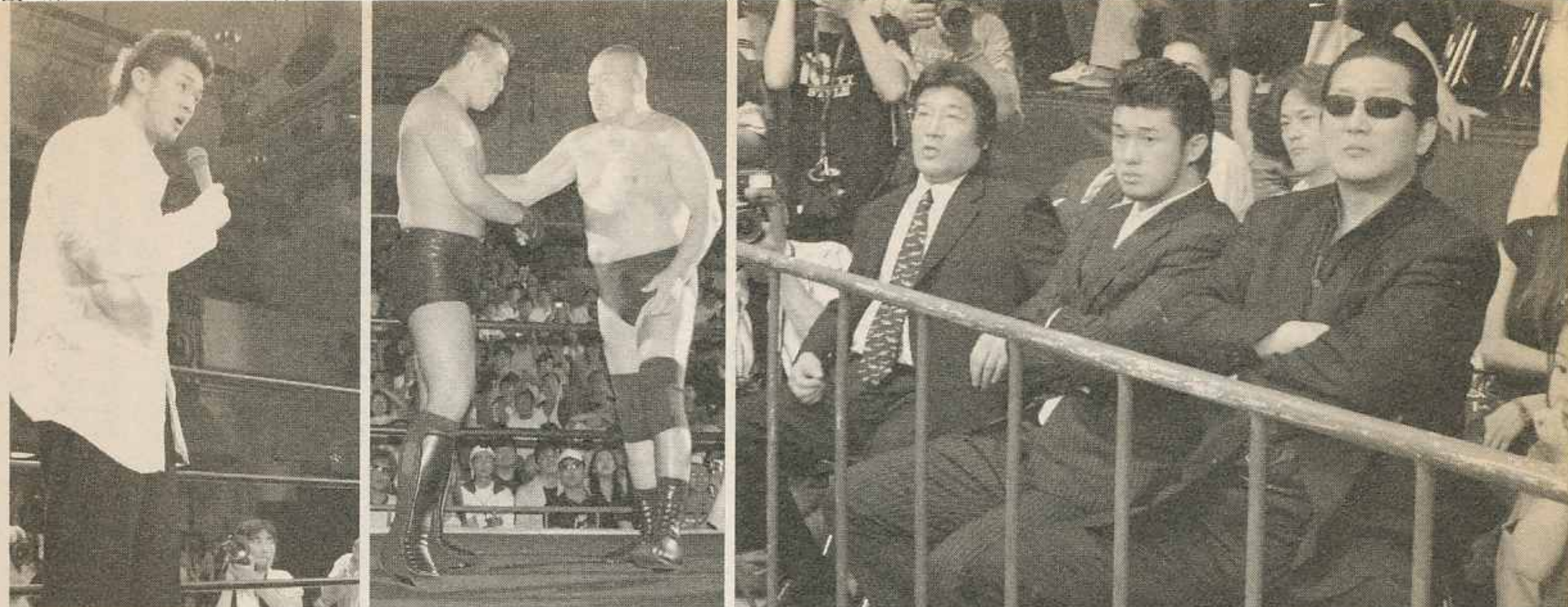
捉　しごきの先輩も殺意を鍛えるっていう意味では必要だし、人生のイロハを教えてくれる先輩がいないと息が詰まるし。そういう意味ではバランス取れてたんでしょうね。

柴田　ちょっと思い出したのが、新日本時代、凄い屈辱を味わったことがあって。1回、試合中にキレさせて、終わった後に土下座させられたことがあるんですよ。生まれて初めてだったんですけど。内容は詳しく言えないんですけどね（苦笑）。

捉　俺なんかしょっちゅう土下座してますけどね。オネエちゃん相手に「やらせてくれ〜」って醜い顔で頼み倒したりとか（笑）。

柴田　ハッハッハッハッ！　でも、今となっては貴重な体験だったなって思いますよ。ボクが土下座すれば済む話……済まなかったんですけどね（苦笑）。まあ、一応形は収まったっていう状況だったんで。

捉　気になるなぁ。書けない話だと思うけど、教えてくださいよ！

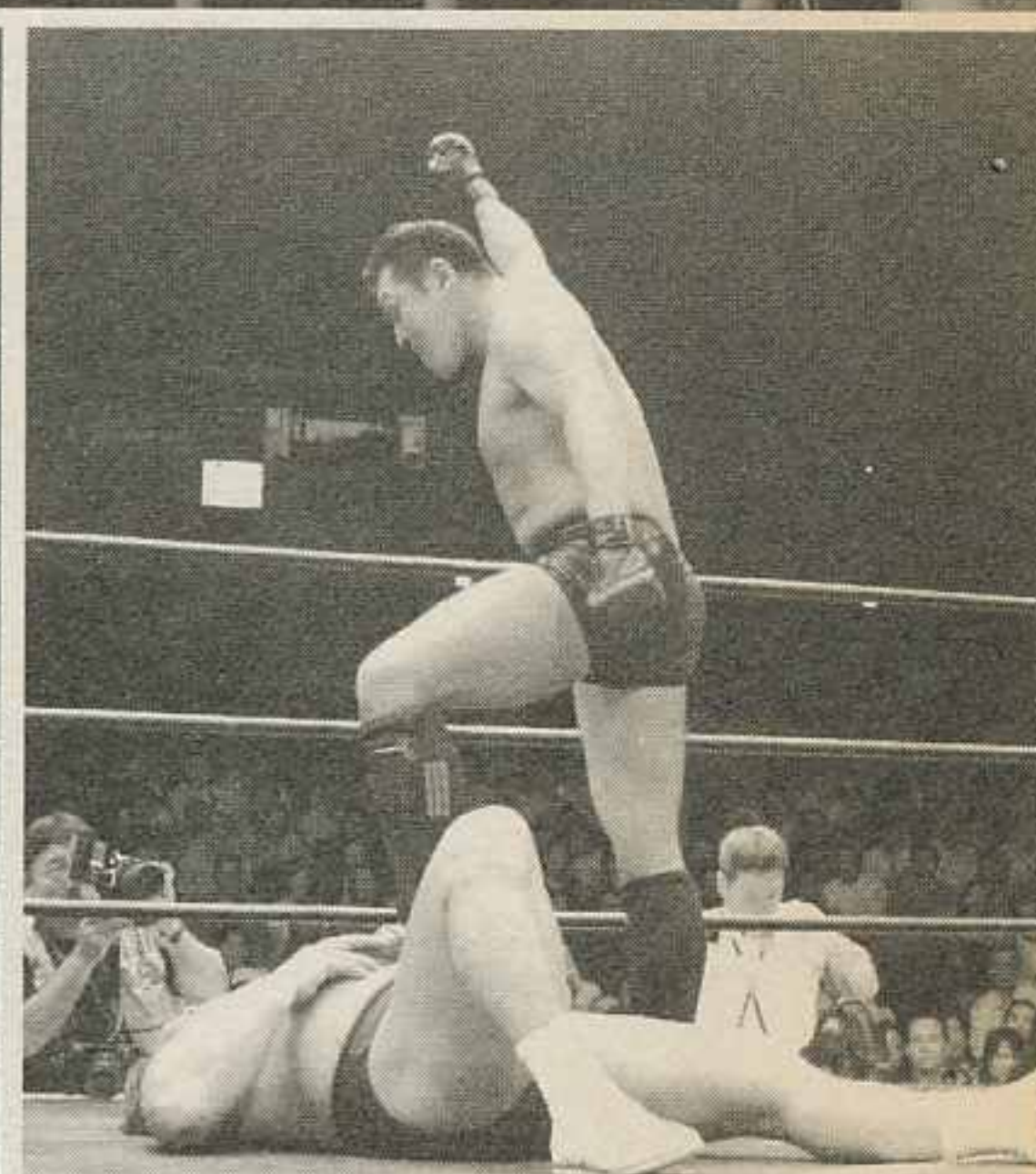
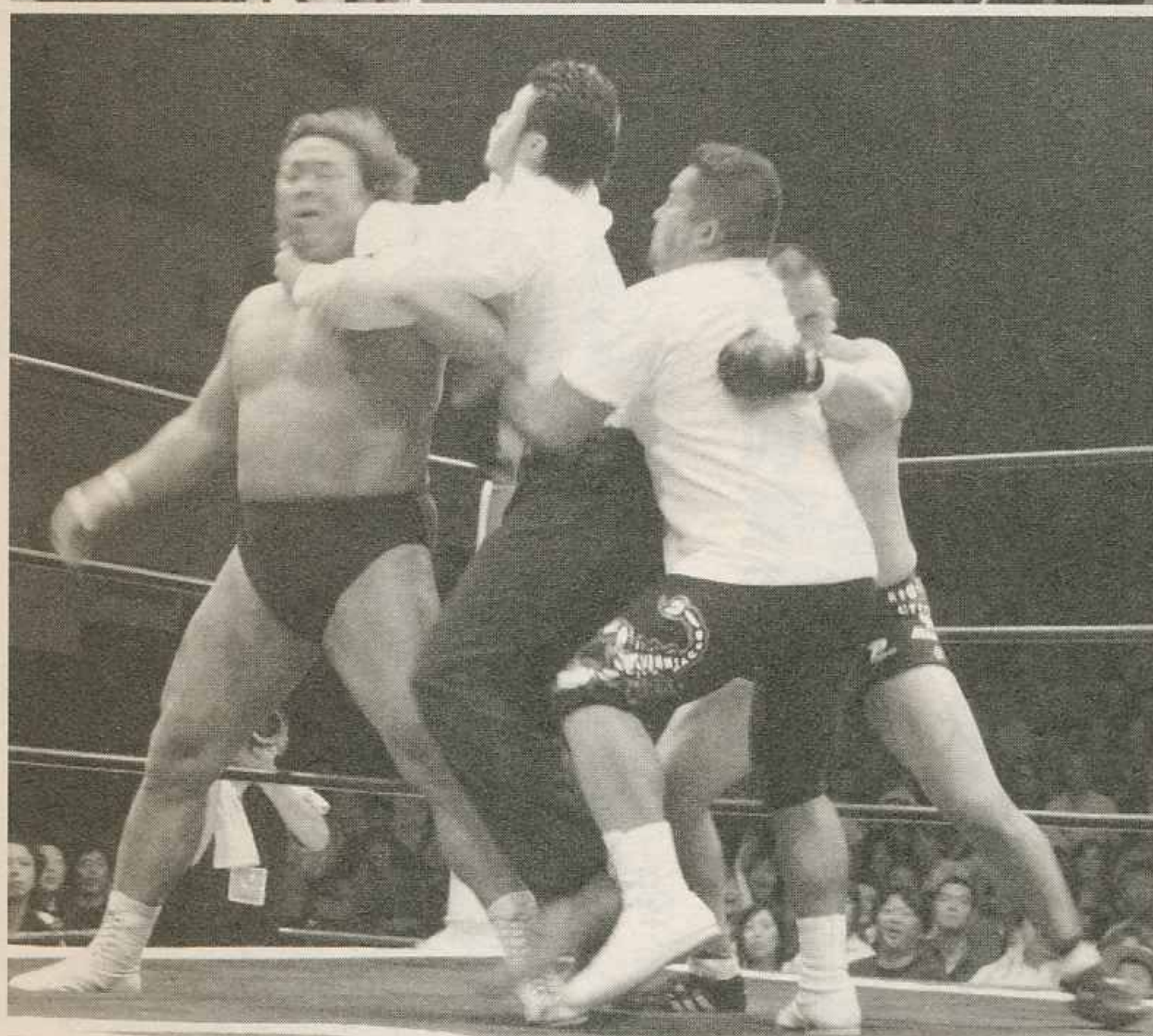
（この後、土下座させられた時の状況を赤裸々に語ってくれた柴田だったが、本人の希望によりやむなく割愛。しかし、あの温厚そうな●●選手がブチギレてあんなことやこんなことまでするなんて……プロレスラーは怖いんです！）

柴田 でも、やっぱレスラーってキレたら怖いですよ。あの人でも怖いと思いましたもん。普段優しい人って、逆に怖いところってあるじゃないですか。

掟 その試合の模様ってお蔵入りになったんですか？

柴田 普通に『週プロ』とか『ゴング』に載ってました（笑）。

掟 やっぱりそういう、通常の形式が壊れる瞬間が雑誌で大きく扱われるっていうのがプロレスっていうものの……。

柴田 （遮って）醍醐味ですよね！

一番面白い話を書けないっていうのが残念ですけど（笑）。

掟 ガハハハハハ！ まあ、温厚な選手相手にやりすぎちゃって怒らせたってことですね。でも、そういう予期せぬトラブルって、滅多にないもんなんですか？

柴田 ないと思いますよ。すっごい珍しかったんじゃないですか。昔、星野さんが若かった頃とかは、しょっちゅうあったと思います。それこそ前田さんがいた時ぐらいまでは。先輩と控室でケンカしたり。いまはそんなことはほとんどないと思いますね。でも、あの時は異常な空気でしたねぇ。試合どころじゃなかったっていうか。

——編集部に戻ったら、その時の専門誌を探してみます。

掟 やっぱり、いま言ってたことの中にヒントがあるわけじゃないですか？ 昔はそういうことが山ほどあったからプロレスそのものにも熱があったと。

柴田 何か、みんな丸くなってるんですよね。誰がっていうわけじゃないと思うんですけど、徐々に年を重ねるごとに丸くなっていったっていうか。

掟 柴田選手自身は丸くなってないんだ。

柴田 そうですね。たまにキレますね。

掟 前田さんから声がかかるのもなんとなくわかりますね（笑）。

柴田 前田さんはボクの試合を多分見たことないと思うんですけど、今度やる試合っていうのはしっかり見てもらいたいですよね。ダメだったらダメで、ボコボコに殴ってもらってもかまわないですし。それは覚悟してるんで。

掟 パイプイスでしばかれるのも辞さないと。

柴田 その映像見ましたけど、凄かったですね（笑）。

——逆に殴られないだけの試合をする自信もあるんでしょうね。

柴田 自信があるって言い切れないですけど、いまの俺のやり方をやるだけなんで。

掟 あえてキレたところを見せなきゃいけない部分もあるから、プロレスって難しいですよね。

柴田 逆に相手をキレさせることは多いかもしれないですね。普通にキレイにやってても面白いと思わないですからね。

掟 川田選手はキレさせるのうまいでしょ？

柴田 うまいッスねぇ。多分、ボクとやった時は川田選手の方がキレましたけどね（笑）。

掟 あのデンジャラスKをキレさせるような試合ぶりだったんですね。新日時代、選手の皆さんとは仲がいい感じだったんですか？

柴田 特に誰とも仲が悪いと思ったことはなかったんですけど、実はそんな仲良くもなかったのかなって、やめてから思いましたね（苦笑）。腹割った話ができる人って村上選手以外に誰もいなかったですから。

掟 村上さんとは話があったと？

柴田 いざ、やめるやめないっていう瀬戸際で悩んでる時に、唯一相談できた人間が新日の外から来た村上さんだけだったんですよ。そう考えたら新日に友達はいなかったんだなって（苦笑）。

掟 実はすっごい浮いてたんでしょうね（笑）。

柴田 まあ、仲いいヤツ同士が闘えないですからね。友達だったら殴れないですから。でも昔の新日とは違って、いまの仲がいい悪いっての は、なんかやらしい感じじゃっていうか。

掟 ちょっと陰湿なんですか？

柴田 「俺はお前、嫌いだ！」って言ってストレートに殴り合えるとかって、そういうんじゃなくて、陰でコソコソ「コイツ嫌だよ」みたいな、女の腐ったような感じで。

掟 男らしくない？

柴田 男らしくないッスね。

——そういう意味では破壊王とか、健介さんのことを「チ●カスだ」とか言ってましたからね（笑）。

4・23『WRESTLE-1』で一度は発表されたものの延期となってしまった柴田vs長州戦。その後、『W-1』は正式開催日が決まらず、柴田の復帰戦は延び延びに。そんな中、行われた6・5RIKIPRO後楽園大会。休憩明けに8・14後楽園大会での柴田vs長州戦が発表され、メインでは村上和成がXを率いて長州＆エンセン組と激突。注目されたXは筑前りょう太と見せかけ藤原組長が登場。村上が、いつものようにやりすぎファイトで長州を追い詰めるも最後はラリアットで撃沈。そこへ、すかさず柴田が乱入、長州相手に大暴れ！

柴田　そういう方が男らしいじゃないですか。

——健介さんはなんで嫌われてるのか理解できないっていう(笑)。

掟　そこはそこで健介さんの面白味でもあるんですけどね。選手として。

柴田　まあ、ボクは理解できますけどね(笑)。

掟　ガハハハハハ!　新日に入った頃、先輩で好きだった選手はいたんですか?

柴田　Uインターとの対抗戦で活躍してた石沢さんや永田さんとか、「この人たち強いんだな」って憧れて新日に入りましたからね。まあ、それは入門して練習でブン殴られて一瞬で考え方変わっちゃいましたけどね(笑)。

掟　ガハハハハハ!

柴田　理想と現実は違いますからね。まあでも尊敬は凄いして……ましたけどね。

掟　過去形ですか(笑)。

柴田　過去形です。でも、猪木さんなんかはファンが1人でもいたら、猪木寛至からアントニオ猪木になるわけじゃないですか。それもプロだなって思いますけど、前田さんは逆に、まんまなんですよ。ボクがイメージしてた人そのまんまで。

掟　前田日明に裏表なし!

柴田　裏表ないッスね。ホントまんまですね。

掟　その辺は多分、見てる人もわかってますよね。猪木さんは裏表があるところまで含めてカッコいいなっていうか(笑)。

柴田　それはそうッスね。

——猪木寛至はダメだけど、プロレスラー・アントニオ猪木は素晴らしいってよく言いますからね。

掟　アントニオ猪木は超人なんですよね。超人っていうことは、良くも悪くも「人間じゃない」ってことで。人間の心を持ってないから、人として付き合ったら疲れるけど、人間じゃないから規格外のものとして憧れることもできる。そういうものまで含めて、プロレスってものを凄く象徴してる人なのかなぁって思うんですけどね。

柴田　レスラーに入場の時にファンが殴られて「嬉しい。俺も!」っていうのは、普通の感覚だとなかなか思えないことじゃないですか?

掟　やっぱ、プロレスラーはそういう理不尽な存在であって欲しいですよね。ただ、最近は教育が変わってきてますからね。強いプロレスラーがなんでできないかっていうと、近年日本の人権教育がちゃんとしてきてるからですよ。日本人は必要以上に「和を以て尊しと成す」を求めるし、他人と平等であることを望むじゃないですか?

柴田　そんな感じありますよね。ボクが新日本をやめる前に新弟子を殴ったら会社から怒られましたからね。「なんで殴ったんだ?」って。

掟　それもおかしな話ですよね。ある意味、人を殴るのも仕事のうちの職業なんだから。

柴田　「なんで殴った?」って聞かれて、この道場はプロレス道場だよって。そこで会社に対して、プロレスラーの魂はどこ行っちゃったんだって思いましたけどね。じゃあ、どうやって教えたらいいんだってなっちゃうじゃないですか?

掟　若い子がナメたことをやったらわからせてあげるのが先輩の役目だし、そのわからせ方が言葉じゃなくて拳の方が親切だったりする時もあるわけじゃないですか。

柴田　絶対そうッスよね。

掟　そういうことを現代の教育自体が教えられなくなったんですよ。人間同士が分かり合うために暴力ではない拳の言葉があるっていうことを、昔の男は知ってた思うんですよ。でもそれが、人権教育が間違って浸透してくるにつれて、殴るということの意味がわからない男が増えてきた。人を殴って教えるからには、憎しみ以外の意味が必要で、拳をあげることにも何十通りの意味がある。それを俺たちは梶原一騎先生の漫画やプロレスから教わってきたと思ってます。ケンカをするなと教えるのが教育じゃなくて、ケンカの美しい収め方までちゃんと教えるのが本当の教育だろうって。人を殴ったことのない人間が「何があっても体罰はいかん!」とか言ったって説得力ありませんよ。そういう意味でも、プロレスってのは人と人が殴り合ったり、拳を通して言葉を交わせるってことを伝える力が残ってるジャンルとしてまだまだ有効だと思うんですよね。……なんか変な話になっちゃいましたね(笑)。

柴田　いえいえ、勉強になります(笑)。

掟　柴田選手は子供の頃に梶原漫画読みました?

柴田　ちっちゃい頃、『タイガーマスク』とかアニメで見てましたね。多分再放送だと思うんですけど。で、プロレスラーになってから、『プロレススーパースター列伝』とか読み返しましたからね。

掟　『スーパースター列伝』好きなんですよね?

柴田　大好きですね!　あれは若者に読ませた方がいいと思うんですよ。プロレスラーが読んでも「スゲー!」って思いますもん(笑)。

掟　こんな無茶をしないとプロレスラーにはなれないんだっていう極端すぎる話ばっかりで(笑)。それは言ってしまえば梶原一騎先生が作ったファンタジーなんだけど、それを信用したがために規格外に強くなるヤツがいるはずですよ。

柴田　絶対いますよね。

掟　「プロレスラーは人間じゃなれない」ってことを教えてくれますからね。人間の力を超えるための努力をしようとするわけじゃないですか。あの頃の若い読者はタイヤの殴りすぎで腕が腫れて、氷水で冷やさなきゃならなくなったヤツきっといっぱいいますよ(笑)。

PK談　ポルシェ カツヨリ

長州襲撃後、久々にマスコミへコメントを残した柴田。「いても立ってもいられなかった。でも、ここは誇りのかけらもないリングなんだろ?だったら誇り持ってこい。前フリはいらないという部分は長州と一緒。早く試合がしたくてウズウズしてる。まあでも、今日は異様な空気があって久々にプロレスで興奮した。あとはやるだけ」

柴田　読んでて純粋に面白いですからね。プロレスの凄さっていうのが凄く伝わるし。やってる側がそう思っちゃうぐらいですから。自分、影響受けた本ってことで『smart』でも紹介したんですけどね(笑)。

——影響受けた音楽ではロマンポルシェ。のCDも紹介してましたけど(笑)。

柴田　そうッスね。かなり影響受けてるんで(笑)。

掟　ありがとうございます(笑)。柴田選手自身は『スーパースター列伝』読んで何か実践とかしました?

柴田　実践できるようなものってなかなかないじゃないですか(笑)。

掟　まぁ確かに現代的なトレーニングが確立されたいま、あれをやってたらトンパチなんですけど(笑)。

——ボクなんかも公園にタイヤとかあったらラリアットしてましたけどね(笑)。

柴田　ボクはラリアットプロレス否定してますから(笑)。

掟　ガハハハハハ!　そこは頑ななんですね(笑)。新日の道場とかでやってる人とかいませんでした?

柴田　みんな読んでないですからね。

掟　え、ウソ!　俺から言わせりゃそんなの不可能ですよ!

柴田　意外に見てないと思いますよ。

掟　それだ!　新日本プロレスがつまらなくなったのは、選手が梶原一騎の『プロレススーパースター列伝』を読んでないからだ!!

柴田　それマジであるかもしれませんね。

掟　じゃあ道場に送りましょうか?　あ、送っちゃいけないのか。それを柴田さんたちに実践してもらえばいいんですね。

柴田　そうッスね。『スーパースタ

I編集長の喫茶店トークV

ー列伝』に載るようなファイトができるように頑張ります（笑）。

掟　とりあえず、読んだからには実践しないと。まあ、そんなことをいって、柴田選手も自宅でこっそり焼けた玉砂利を地獄突きしてるんですよ、きっと！

柴田　ハッハッハッハッ！　まあ、練習ってのは人に見せるもんじゃないですからね。そんなの黙ってやるもんだし、練習メニューを、「これだけやってますよ」って言うのはボクはあまりやりたくないし。プロレスの練習ってリングに現れると思うんですよ。やっぱ、試合って嘘つけないじゃないですか？

掟　チンタラ練習してるだろうなって選手は、試合見れば歴然ですよね。

柴田　練習してるかしてないかが正直に出るのがリングだと思うんで。新弟子の時に藤田（和之）さんにそう言われたんですよ。「練習っていうのは見えないところでやるもんなんだよ」って。「そうなんだ」って思いましたもんね。新日本の時、合同練習っていうのがあったんですけど、それって若手の時はやんなきゃいけないと思うんですけど、「これをずっと続けてプラスになることってなんだろう？」って思いましたもん。だから、新日本にいる時は別メニューで練習してましたしね。

掟　他に新日の中で別メニューをやってた人っていたんですか？

柴田　そんないなかったと思いますね。ただ、ボクの場合はK―1ルールの試合をやるっていうのがあったんで、それで許してもらったとこがあって（笑）でも山ごもりとかホントにしてみたいと思いますけどね。

掟　昔の空手家とかは『空手バカ一代』に憧れてみんなやってますからね。山ごもりをして、その結果強くなったりする人も実際いるわけで。

柴田　根性論って、やっぱ必要だと思いますしね。

掟　絶対必要ですよ。話変わりますけど、柴田選手は酔うとどうなるんですか？

柴田　ボクは酔うと……どうなるかなぁ？

掟　店を破壊したりとか。

柴田　店を破壊とかはないッスけど、楽しい酒だと思うんですよ。絡んだりとかはなくて、笑い出して楽しく飲んでると思います。

掟　酔って失敗したりとかはないんですか？

柴田　覚えてないんですけど、なんかやらかすらしいんですよ。あ、1回、車田正美先生にスピアーしたことがありましたね（笑）。

掟　エッ!?　車田正美にスピアー？（笑）。『リングにかけろ』の漫画家の？

柴田　そうですよ。ボク、すっごい好きだったんですよ。『聖闘士星矢』とか。で、永田さんの結婚式の時にすっごい酔っぱらってて、永田さんの後輩の日体大の学生が吊りパン履いてバーッと出てきて、その中に車田先生が混ざってて、俺は誰でも良かったんで、凄くやりたくなってパンツ一丁になったんですよ。みんな吊りパン履いてるから、どうしても吊りパンが欲しくて、パーッて走って中の一人に「ガンッ！」ってゴールドバーグみたいなスピアーをかましたんですよ。そしたらそれが車田先生で（笑）。

掟　ガハハハハハ！　神輪会の面目丸つぶれじゃないですか！（笑）。

柴田「それ貸せ！」って言ったら「やめろよ、やめろよ！」って言われて。

掟「それ貸せ！」（笑）。ちなみに面識はあったんですか？

柴田　1回仕事したことあったんですよ。

掟　あ、その程度（笑）。

柴田　たまたまそこにいたのが車田先生だったってだけなんですけどね。見事に宙に浮いてましたね。まさか漫画家人生のうちでスピアータックルを食らうとは思ってなかったと思いますよ。

掟　まあ、そうでしょうね（笑）。

柴田　俺、スピアーなんか使ったことないんですよ。たまたま勢いよく走ってスコーンっていって吊りパン引っぺがそうとしたんですけど、海野さんに必死に止められて（笑）。「柴田君、車田先生だよ！」って（笑）。「あ〜？」とか言って、よく見たら「ホントだ」って（笑）。ヤバイと思って違うヤツから吊りパンを引っぺがして、日体大のエッサッサッっていう踊りを全然知らないのに踊ってたらしいですよ。悪気はなかったんですけど。

悪気がなくてもスピアーで宙に浮かせるって、十分タチ悪いです！

掟　悪気がなくても十分タチが悪いです！（笑）。車田先生はその後どうでした？

柴田　いや〜車田先生も酔っぱらってましたから、どうなんでしょうね。でもそれ以来、永田さんの奥さんは自分に冷たいような気がするんですけど（笑）。

掟　ガハハハハハ！　そりゃそうでしょうね（笑）。

柴田　俺が言える酒の上での失敗談はそれぐらいじゃないですか。

掟　言えないことはもっとあるんだ（笑）。

柴田　ボチボチと（笑）。まあでも、服脱いで笑って暴れるぐらいなんで、人を殴ったり物を壊したりとかはしないですけど。多分、楽しい感じの酒になると思うんですけど。

掟　やっぱり、プロレスラーは万事に対して豪快であってほしいですよね。特に昭和新日レスラーは、酒の武勇伝と、ケンカの武勇伝と、あと女の武勇伝と、みんな兼ね備えてましたから（笑）。

柴田　昔、旅館一件ブッ壊したとか言いますからね。

掟　その中には前田さんもいましたよね（笑）。

柴田　ハッハッハッハッ！　でも、そういうのがホント昭和のプロレスラーみたいな感じはありますよね。

掟　まあ、後藤達俊さんがいまだにバリバリの現役だったら、ビジネスホテル一軒ぐらい壊せそうですけど（笑）。後藤さん、酒飲むと凄いみたいですね。

柴田　ホント、酒飲むと目つきが変わりますから（笑）。一緒に酒の場にいたことあったんですけど、目の前にコップがあって、真上からパーン！って叩いたらコップがなくなってるんですよ。

掟　エッ、コップを叩き潰したわけですか？　しかも縦に（笑）。

柴田　そうッス（笑）。

掟　うわ、スゲーー！

柴田　で、コップの形で手が切れてるんですよ。それで「ジョークジョーク」とか言ってて（笑）。

掟　ジョークにしちゃあ笑いどころが皆無なんですけどね（笑）。

柴田　手から凄い血が出てて、みんなで面白いから見てましたけどね（笑）。その時、巡業先だったんですけど、次の日、ホテルの薬箱が置いてある部屋の前で消毒をしてたんで「大丈夫ですか？」って聞いたら「覚えてない」とか言って（笑）。

掟　あ、覚えてないんだ（笑）。

酒での失敗？　車田正美先生をスピアーで宙に浮かせたことが……

PK談　ポルシェカツヨリ

柴田　でもホント、あれは凄かったッスね。

――船木さんとかよく言ってましたけど、後藤さんは飲むと刀を振り回したり酒癖は相当悪かったみたいですからね。

掟　試合に使うわけでもないのに、プライベートで日本刀持ち歩いてる時点でかなりおかしいですけどね（笑）。そういうことをいまだにやってる人とかいないんですか？

柴田　さすがにいないんじゃないですか。みんなで飲むこと自体ほとんどなくなりましたからね。そういったコミュニケーション不足も、ホントの信頼できる仲間が少なくなってる理由かもしれないですけど。

掟　殴り合っても陰湿な関係だけで終わっちゃうっていう。

柴田　そういうのも含めて、いまのレスラーは現代っ子なわけですよ！　年取ってても現代っ子だと思いますね。

――そういう意味では一緒に行動されてる村上さんとかは、いろんな武勇伝を持ってますからね。酒、ケンカ、そして女とネタの宝庫ですし（笑）。

柴田　そうッスね。村上さんとたまたま飲みに行った店の店員かなんかが、昔、村上さんとケンカしたことがあるってヤツを知ってて、話を聞いたら、村上さん、ケンカの時にフェイントをかけながらパンチとかローキックとか入れてたらしいんですよ（笑）。

掟　ガハハハハハ！　格闘技のセオリーだ！

柴田　街のケンカでフェイントかけて闘ってたって凄いですよね（笑）。その相手っていうのは腕相撲が凄い強い人みたいで、地区のチャンピオンとかで。

掟　普通、村上さんの顔を見たらケンカ売らないですけどね。

柴田　売らないッスよね（笑）。拓大時代の話とか凄いですからね。

――村上さんは、拓大に入る前、相撲やってる頃から、プロレスラー並みにちゃんこを鍋で何杯も食わされたとか、一通り経験してるみたいですからね（笑）。

掟　柴田選手は道場のちゃんことか、ノドから具が見えるぐらいまで食べさせられたりとかしました？

柴田　そこまではないッスけど、山本小鉄さんに「立って食え」とか言われたりしましたよ。座ると胃に通らなくなるから、立って空気イスの状態で食えと。そうすると胃にいっぱい入るからって。「嘘だ！」って思いながら食ってましたけどね（笑）。

掟　身体を作りたかったら立ち食いしろと（笑）。

柴田　いまは、ちゃんこもないって聞きましたし。コンビニの弁当とか食ってんじゃないですかね。

掟　だんだん全女化してますよね、それ。コンビニ弁当なんて何個食っても足りないでしょ？

柴田　ボクがいた時に、そういう現状になってきたんで。食うのも仕事なのに、コンビニの弁当食ってるようなレスラーってプロレスラーじゃないッスよ。

掟　会社から、ちゃんこ代とか出てないんですか？

柴田　経費削減とか言ってましたけどね。

掟　身体を作るのに一番重要なちゃんこ代を削っちゃいけないですよね。

柴田　削るとこ間違ってますよね。他に削るとこ、いっぱいあると思いますけどね。言えないような部分ですけど（笑）。

掟　その頃の社長は藤波さんでしたよね？　まあ、藤波さんが何か悪いことやってたわけじゃないでしょうけど（笑）。

柴田　いや、何もやってないのが悪いんじゃないですか（笑）。

掟　何かやってるんじゃなくて、何もやってない（笑）。

柴田　ボク、藤波さんの付き人3年ぐらいやってたんですよ。にも関わらず、藤波的要素は一切ボクにはないですからね（笑）。

掟　ドラゴンイズムは注入されてないですか。

柴田　入ってないッスねぇ。何を学んだんだろう？背中の洗い方は学びましたけどね（笑）。垢すりタオルで、普通にこするだけなんですけどね。

掟　あ、それだけ（笑）。

柴田　棚橋がやたら「藤波さん、藤波さん」って言ってなついてますけどね。

――藤波さんって原因不明の腰痛になってから、教会に行くようになったみたいですけど、いまでも棚橋さんを連れて行ってるみたいですからね。

掟　え、教会行ってるんですか？

柴田　ボクも教会行きましたよ。で、餅つきしてましたね（笑）。

掟　藤波さん、腰が悪いのに餅つきしちゃダメですよ！

柴田　そういえば、いま新日本で引っ越し屋やってるじゃないですか？

掟　やってますよね、「プロレス運輸」（笑）。

柴田　ボク、この間、引っ越ししたばっかりなんですけど、よっぽど引っ越しする時、頼んでやろうかと思いましたよ（笑）。「ドラゴンパックで」って（笑）。

掟　「引っ越しドラゴンパック」の名前の由来はなんだろうって考えてみたんですけど、「ドラゴンパック」って単身者用の引っ越しプランだから、もしかして「スモールパッケージ」ってことなんじゃないかなって。

柴田　あ～、小包固め（笑）。

掟　得意技にかけてるんじゃないかっていう（笑）。

柴田　かもしれないッスね。でも幅広くやってますよね。広く浅くというか。

――そういえば、柴田さんってジャングルファイトに出てましたけど、イズマイウとは接点はあるんですか？

柴田　あ、そこでイズマイウですか（笑）。

――ジャングルファイトといえばイズマイウですから（笑）。

柴田　ジャングルファイトの前にロスで猪木さんの娘さんの寛子さんから「イズマイウと●●●にだけは気をつけなさい」って言われましたよ（笑）。

掟　ガハハハハハ！

柴田　しかも、1人は身内なんですけどね（笑）。

掟　そうですよね。

柴田　「ブラジル行ったらその2人には気をつけなさい」って（笑）。「一番危ないから」って言われて。

掟　しかしイズマイウ話はハズレないですね。

柴田　有名らしいッスね、評判悪くて。●●●●・●●●●的な存在ですかね（笑）。

掟　ガハハハハハ！　新日本プロレスって、そういった評判の悪い選手まで試合に出してたと思えば、度量の広い会社ですよね。イズマイウの場合は勝手に試合会場に来てたケースが多かったですけど（笑）。

柴田さん、今後の活躍期待してますんで、ホント頑張ってください!!

柴田 度量が広いっていうか、そういう意味で面白い人はたくさんいましたね。

掟 試合に興味は湧かなくても、俺も選手自体には興味津々ですよ！ そういえばドラゴンボンバーズつながりで、クロネコさんはいま何してるんですか？

柴田 レフェリーやったりとかしてますね。ネコさんといえば、自分のトレードマークみたいなのがあるんですよ。ネコがダンベル持ってサングラス書けてるヤツ。

掟 あぁ、ありますよね。

柴田 あのTシャツ、みんなに配るんですよ。外人とかにも。で、ノートンとかわけわかんないから着ちゃうんですよ。それ着て街歩いてるから、ネコさんの宣伝になるんですよね（笑）。

掟 ガハハハハハ！ いつのまにかノートンがクロネコ軍団に！（笑）。さすがクロネコ、侮れないですね。この間、「格闘二人祭り」ってイベントで吉田豪に会ったと思うんですけど、あの時に吉田豪が着てた新日のジャージがクロネコさんのヤツなんですよ。背中に「KURONEKO」ってネームが入ってる。

柴田 なんで持ってるんですか？

掟 いや、ヤフーオークションで手に入れたらしいですよね（笑）。

柴田 ハッハッハッハッハッ！

掟 自分の商品、自分で流してるかもしれないですね。

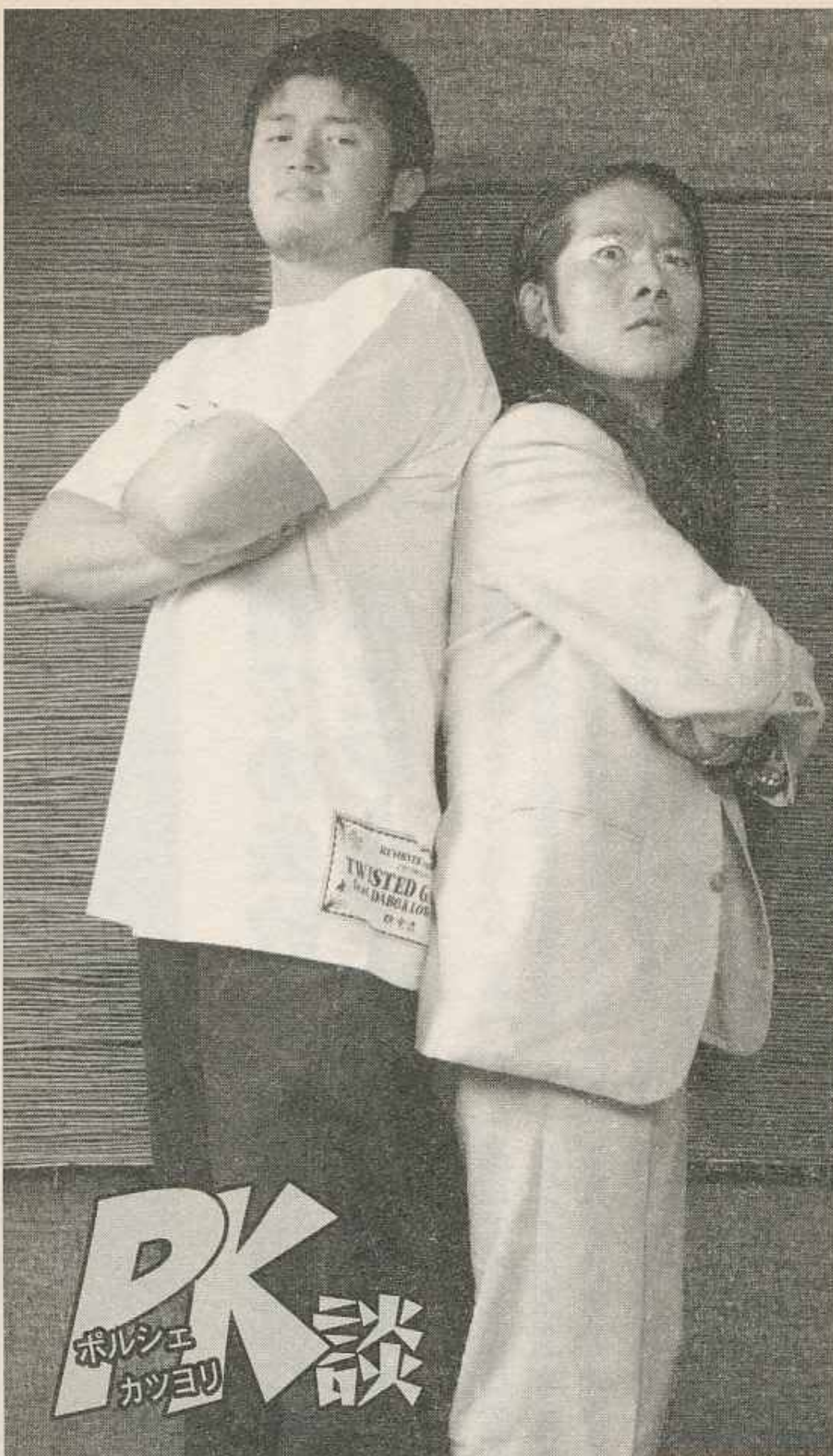
柴田 絶対自分でやってますよ！ やりそうだし（笑）。

掟 やりそうですか（笑）。

柴田 あと、ネコさんはサプリメントも売ってるんですよね。選手とかに安く。海外で買い付けて安く売ってるんですけど、微妙なんですよ（笑）。「領収書くれ」って言ったら、領収書に値段だけ書いてあって、「マル」だけのハンコが押してあって「なんだ、これ？」って（笑）。

――たしか本名が、ビクトル・マヌエル・マルなんですよね。

掟さんに「凄い」って言ってもらえるような試合をするんで、会場まで見に来てください！

PK談 ポルシェ カツヨリ

しばた・かつより■1979・11・17、三重県出身。父はレスラー＆レフェリーとして活躍した柴田勝久。99・10・10後楽園での井上亘戦でデビュー。その後、05年1月、新日本を離脱。現在はビッグマウス所属。183cm、103kg

おきて・ぽるしぇ■ロマン優光との「ロマンポルシェ。」でVOCAL、ALL INSTRUMENTS、そして説教を担当。柴田も絶賛！ 唄モノNew Waveの最高傑作「おうちが火事だよ！ロマンポルシェ。」は全国各地で絶賛発売中です！

掟 まったく領収書として効力なさそうですよね（笑）。

柴田 ないでしょうね（笑）。でもあれはホント、ビックリしましたね。

掟 でも、みんなそうやって内職とかしてるもんなんですか？

柴田 あんま聞かないですね。新日本のレスラーは、やってないんじゃないですか。木戸さんが不動産屋やってたぐらいで（笑）。

掟 あぁ、アパート経営してるって話でしたよね。ヒロ斉藤さんの焼肉屋ってのもありましたけど。昭和のレスラーのその後の生活には興味があるし、店でもやってたら飲みに行って金を落としたいですよね、プロレスファンとしては。プロレスやめたら優雅な生活を送っていて欲しいけど、そうも行かないのが実情ですよね。

柴田 優雅といえば、●●さんって、ボクが入った頃は練習しにくるっていうよりも、道場来て車洗って、風呂入って、メシ食って、マッサージして帰るだけで、すごく優雅でしたね（笑）。

掟 ガハハハハハ！

柴田 ボクたちの間では、健康ランドって言われてましたからね（笑）。

掟 ガハハハハハ！「やべえ！ 健康ランド、また来たよ！」って感じで？（笑）。

柴田 そんな感じでしたね（笑）。

掟 そりゃまた随分優雅でいいですね。道場健康法だ（笑）。

柴田 でも、●●さんってネタは尽きないッスよ。絶対書けない話ばかりで申し訳ないんですけど……。

（※このあと、●●さんちょっとイイ話が大量に飛び出して盛り上がるも、諸事情によりカット。あらゆる方面で膨らみまくる●●さん幻想に乾杯！）

――●●さんって、なかなかインタビューとか出てこないんで、ある意味、ミステリアスなところがありますよね。

柴田 だから、幻想が残ってるんじゃないですか。ホントは強いんじゃないかとか。

掟 〝殺し〟とか持ってそうだし（笑）。でも、きっと強いと信じてますよ！ 今日は素敵な話をたくさんしていただいてありがとうございます！

柴田 いやいや、どこまで載せられるか自分でもよくわかんないッスけど（笑）。

掟 前田さんに怒られない程度にチェックしておきます！（笑）。柴田さん、今後の活躍期待してますんで、ホント頑張ってください！

柴田 まずは掟さんに「凄い」って言ってもらえるような試合をするんで、是非、ボクの試合を見に来てください！

掟 わかりました。楽しみにしてます！

【5月6日／東京・中野『円らく 中野荘』にて収録】

果たして、柴田及びビッグマウス軍団の参戦はあるのか!?
RIKIPRO初の地方シリーズ

「～来るなら来い!～」

6/24(金)福島県・福島市体育館（開始18:30）
6/30(木)宮崎県・都城市体育館（開始18:30）
7/1(金)長崎県・佐世保市体育館（開始18:30）
7/3(日)和歌山県・和歌山県立体育文化館（開始16:00）
7/4(月)大阪府・大阪府立体育会館第二競技場（開始18:30）

そして、8・14RIKIPRO一周年後楽園大会で
柴田勝頼vs長州力正式決定!!
「RIKIPRO一周年興行(仮)」

8月14(日)東京・後楽園ホール（開始12:00）
【席種／料金】S席／7000円、A席／5000円、B席／4000円
【お問合せ】RIKIPRO事務所【TEL】03-3754-6340

7/13・15ハッスル10・11先取り情報！

7月の高田モンスター軍は西日本に侵攻する!!　中部地方、東北地方、北海道と相次いで手中に収めてきた高田総統が次に照準を合わせたのが福岡と大阪だ。復活した"キャプテン・ハッスル"に直接手を下した高田総統はすでに出撃準備を整えて、日本のプロレス界を本格的に壊滅せんとあの手この手で破壊工作を企んでいる。プロレスの未来を左右する真夏の決戦に注目せよ!!

今秋開催のハッスルマニアに向け急展開!!
ハッスルは加速する!!

さあ君たちはどうするのかな…？

構成／坂井ノブ　ジャン斉藤　真下義之
撮影／山口比佐夫　乾晋也　写真提供／DSE

VS 三沢光晴

待ち構える“M”

“ハッスルK”

川田利明

『オレはプロレスしかやらない』

5月のハッスル新潟・札幌両大会で川田利明は、プロ生活で最も大きな屈辱を受けた。いったい誰がインリン様のピンヒールで顔面を踏みにじられてムチで殴打される川田の姿を想像し得ただろうか？　川田自身も、こんなことになるとは考えてもいなかったはずだ。

「インリンごときにここまでやられて黙っているわけにはいかない」という言葉と共に川田は立ち上がった。7月シリーズでインリン様との試合を欲求したのだ。いままでの川田なら徹底的に相手を無視して、相手の自尊心を傷つけるのが常套手段だった。しかも、7月はハッスルと同じ週にノアの東京ドーム大会が控えている。もしインリン様に負ければ、業界的には今夏最大の大一番も一気に盛り下がってしまうだけに、インリン様との試合を回避するという選択肢もあったはず。それでも川田はインリン様を相手に真っ向勝負で挑む。〝プロレスしかやらない〟の一点張りで、インリン様が要求する「M字ビターンマッチ」は受けないつもりだ。

もちろん、インリン様がすんなりとその要望に応じるはずはない。6月6日の記者会見では色仕掛けならぬエロ仕掛け（©デイリースポーツ）で笹原GMの了承を取り付ける寸前までこぎつけた。6月13日現在、この試合がどのようなルールで行われるのかまったく予断を許さない状況が続いている。

とはいえ、インリン様はすでに2月にプロレスの試合で〝キャプテン・ハッスル〟小川直也からM字固めでフォール勝ちを奪っている。プロレスの試合になったところで、川田の強敵となることは間違いない。その他にもM十字固め（アン・ジョー司令長官が腕を骨折）などの技を披露しているが、今回も様々な技を使ってくるに違いない。

本誌では、東京ドームの三沢光晴戦を見越したインリン様があの手この手で川田を追い詰めるのではないかと予想している。たとえば、エルボーならぬMボー。M字開脚で鋭角的に曲がったヒザを川田の頬に叩きつける打撃技だ。試合のペースをつかむのにも使えるし、一撃必殺の破壊力も秘めているはずだ。あるいはMラルド・フロージョン。相手をM字開脚の体勢に捕らえて頭から垂直に落下させる危険な技だ。

……とりとめもない妄想はいくらでも膨らむものだが、この試合、ひょっとしたらすごく面白いのではないだろうか？

もちろん、逆パターンで川田がM字ビターンマッチに挑んだ場合も想定してみたい。いつも川田は試合開始直前と直後にストレッチを欠かさない。おかげで足はかなりの高さまで上がる。コーナーで見せるハイキックの要領で、M字開脚ならぬK字開脚も可能ではないだろうか。回転M字台でバランスさえ失わ

WANTED!!
¥10,000,000

ハッスル10&11先取り情報

VSインリン様

“ハッスルK”川田利明を2つの

“高田モンスター軍”NO.2

インリン様

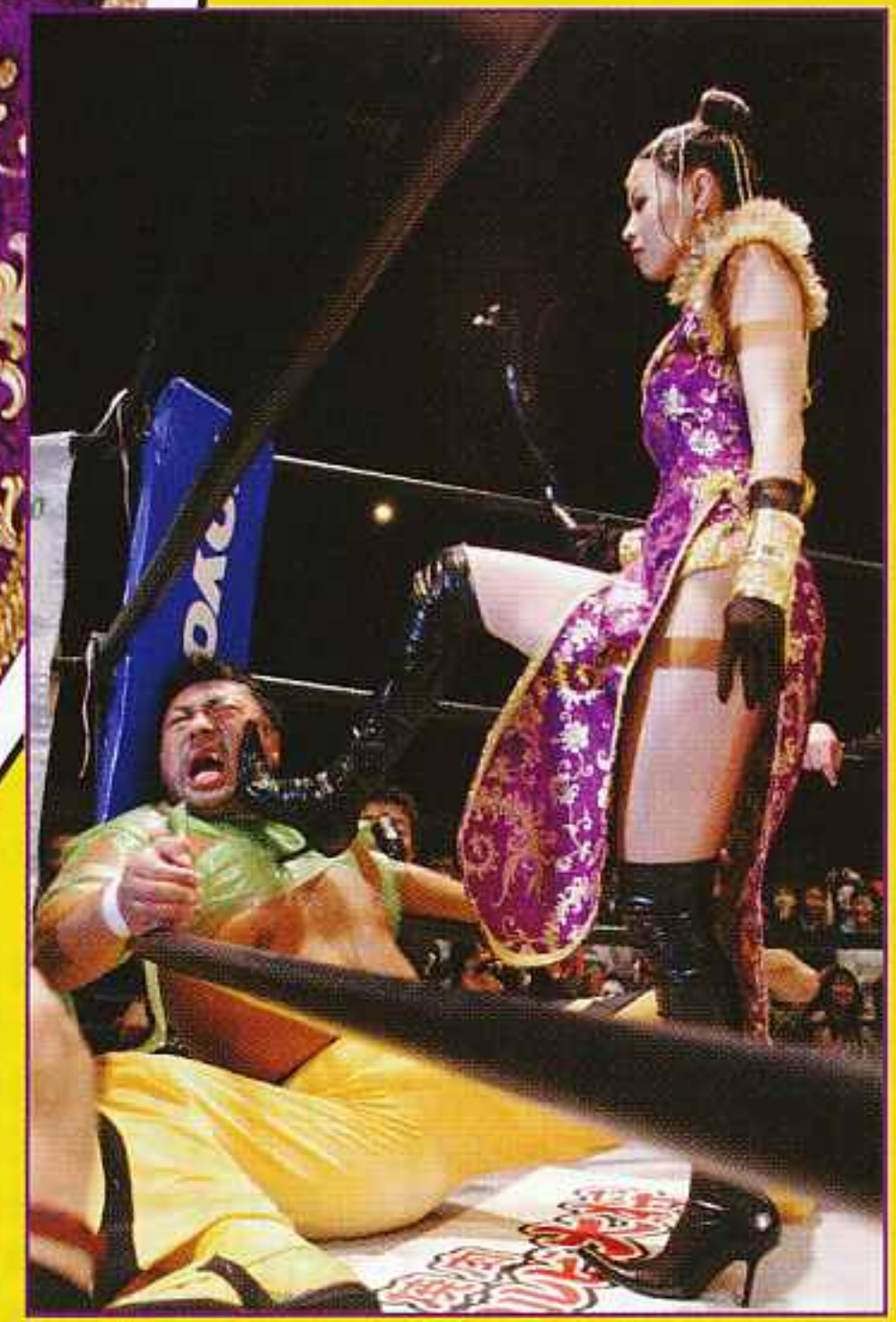
『絶対逃がさないわよ』

なければ、M字よりも大胆な開脚が披露されることになる。勝敗の行方どころか試合展開すらまったく分からない。

東京ドームで行われる川田vs三沢はノアの年間最大行事だけあって、いわゆる往年の2.9プロレスが繰り広げられることになるだろう。勝敗の行方は分からないが、試合展開はある程度の想像ができてしまう。そして、年末の東スポ大賞で年間最高試合を受賞するかもしれない好勝負となることも……。この極端な2つの試合を同じ週に行うとは……川田利明、おそるべし。

13日の福岡大会か、15日の大阪大会で実現する川田vsインリンの対決、そして18日の東京ドームで行われる川田vs三沢の対決。2つの〝M〟を川田はどのように乗り越えるのか!?

2つの“M”

7月13or15日 VSインリン様

6日の会見で川田の弟子・石狩太一は川田の代わりにM字ビターンマッチに挑むことを宣言してインリン様、島田二等兵、アン・ジョー司令長官にリンチされた。川田はインリン様に雪辱出来るのだろうか？

7月18日 VS三沢光晴

4月24日の日本武道館で運命の再会を果たした川田と三沢。「7月18日、その日は空けてあります」と川田が言えば、「ドームで待ってる」と三沢。約5年ぶりにひとつのリングで両者が向かい合う。

でも川田はインリン様を相手に真っ向勝負で

本誌では、東京ドームの三沢光晴戦を見越

いだろうか。回転M字台でバランスさえ失わ

税王vs借金王が実現!!
円マッチ”とは？

『週刊プロレス602号』（ベースボールマガジン社）

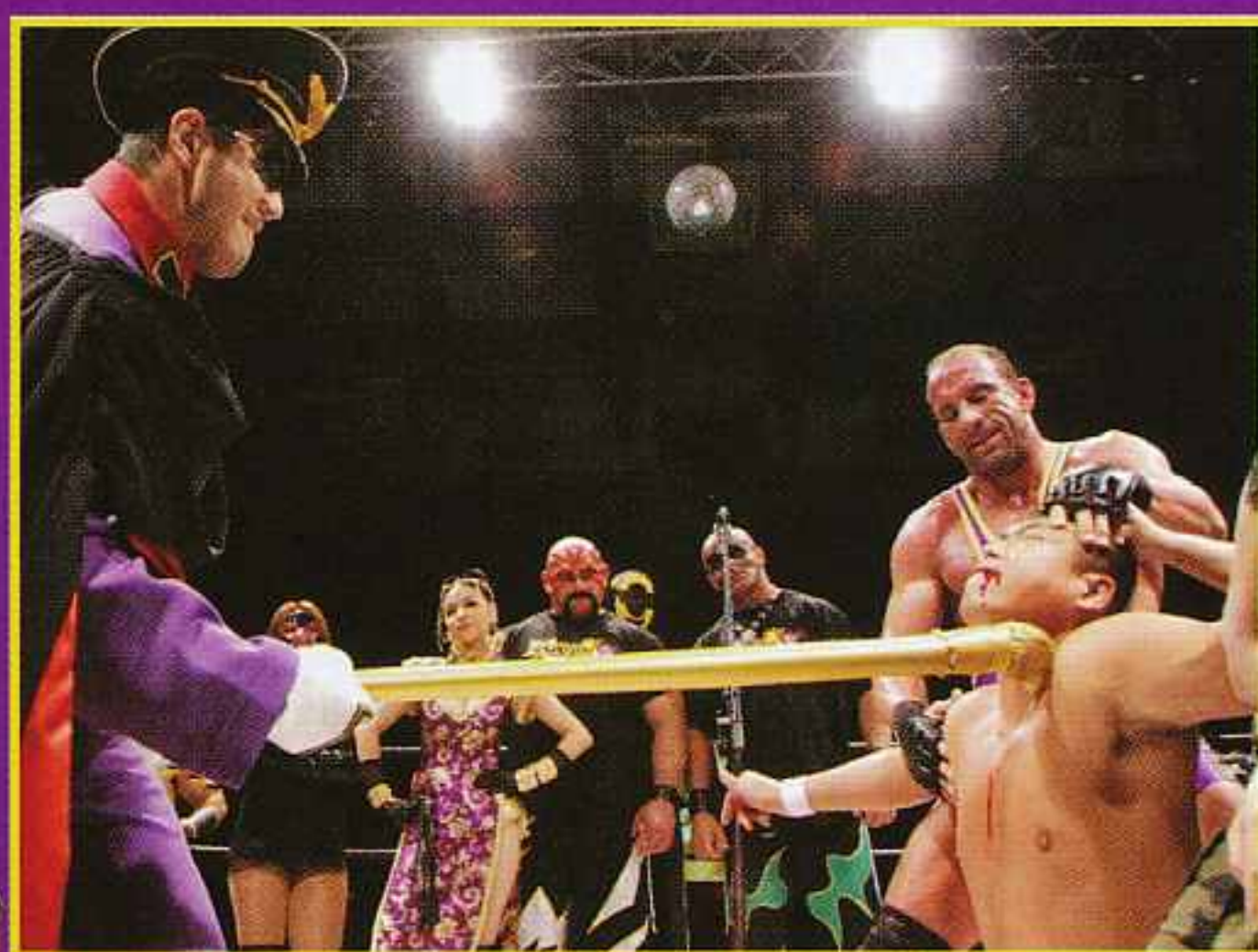
「人の心はお金で買える」

堀江モンスター軍の堀江総統……ではなく、ライブドア堀江社長のお言葉だ。果たして本当にそうなのか？　プロレス界で、いま、この言葉の本当の意味が問われようとしている。

かつて、1試合8000万円のオファーを断ったことで〝銭ゲバ〟と呼ばれた小川直也と、借金ですべてを失った安田忠夫が賞金マッチで闘うことになったのだ。

6月12日の記者会見で高田総統が賞金1000万円を懸けて小川と闘うことを提案。これに安田は飛びついた。借金で家族を失い、猪木祭りですべてを取り戻したかのような絶頂に登り詰めた安田だったが、その代償はカネではなくIWGPヘビー級王座という象徴でしかなかった。すっかり元の生活に転落した安田は、今年2月に新日本プロレスを解雇され、5月にはIWAジャパンに登場したものの統括プロデューサーのスティーブ・ウィリアムスを投げ飛ばしたために浅野社長の怒りを買ってノーギャラに。これ以下はないというドン底生活を味わっていただけに、高田総統のオファーは渡りに船。賞金1000万円と聞いて、「これで2〜3ヶ月はもつな」とニヤリ。この男、いったいギャンブルにいくら使ってるのだろう？

一方、〝銭ゲバ〟小川はそんなはした金には飛びつかなかった。下の囲み記事をご覧頂きたい。2004年度、小川直也の推定収入は約3億8000万円！　月平均で約3000万円だ。今回、高田総統が提案した1000万円は月平均の3分の1ということになる。月給30万円のサラリーマン感覚に換算すると10万円程度ということになる。たしかに、これは安いと言わざるを得ない。そんなお小遣い程度の金額で試合が出来るか、という小川の言い分ももっともだ（まあ、実際には1000万円なわけだが）。

本誌が独自の取材網で高田モンスター軍に接触したところ、高田総統はすでに別の手を打ってい

高田総統の“小川潰し”はいよいよ本格化。直接手を下したことで復活した小川を手荒く歓迎した。そして、今度はカネで心を揺さぶる心理戦。小川の最も不得意な闘いだ。

プロレス&格闘技界 高額納税者ランキング

＜名前＞	＜納税額＞	＜推定収入＞
1. 小川直也	13780万円	37900万円
2. 石井和義	9292万円	25800万円
3. 松井章圭	1708万円	5300万円
4. 魔裟斗	1543万円	4900万円
5. 高田延彦	1188万円	3900万円
6. 蝶野正洋	1021万円	3500万円

（敬称略）

高額納税者リスト、いわゆる長者番付は国税庁が毎年公示している。５月16日に発表された２００４年度の長者番付で、改めて小川が飛び抜けていることが明らかになった。というわけで、以前本誌でコラムを連載していた長者番付評論家・堀越日出夫氏に“銭ゲバ”を自称する小川直也の納税額について解説してもらうと共に、プロレス＆格闘技業界の全体的な傾向をうかがってみた。

「２００４年度の高額納税者番付を見ると、プロレス＆格闘技業界では小川直也選手がダントツ１位ですね。プロレスラーで納税額が１億円を超えたのは初めての快挙ですよ。アントニオ猪木ですら最高納税額が8263万円ですから、この点では師匠を完全に超えてます（笑）。本当にすごいですよ、この小川選手の数字は。スポーツ選手全体でも７位で、プロ野球選手と肩を並べてますからね。おそらくＰＲＩＤＥとハッスルに出場したギャラとＴＶのギャラでしょう。これはどこの報道も触れてなかったですけど、じつは小川選手は2002年度の長者番付にも名前が出てるんです。2605万円の納税額で今回の５分の１なんですけど。その年に何があったかというとＬＥＧＥＮＤでのマット・ガファリ戦なんです（笑）。その次の年は名前が載ってなかったんですけど、『ＯＨ祭り』があったからだと推測できますね。２位の石井和義（元）館長は６年連続で長者番付に載ってますね。今年は一昨年とほぼ同額ですが、去年はガクッと落ちて約２９００万円でした。ちなみに高田延彦さんと松井章圭館長は３年連続で長者番付に載っていて、非常に安定してます。魔裟斗選手は同姓同名の方がいたので２通りの報道があるんですが、この額が正しいです。小川選手に迫る勢いの選手ですか？　見あたりませんねぇ。最近、佐々木健介＆北斗晶がＴＶに出まくってますけど、たぶん長者番付に名前が出るまではいかない思うんですよ。ＴＶのギャラにしてもランク付けがあって、おそらく小川選手はトップランクだと思いますから。小川選手には、相当なお金になるので、またＰＲＩＤＥに出て欲しいと思うんですけどねぇ」【談】

究極の銭闘マッチ 納

高田総統が仕掛ける "賞金1億

ることが明らかになった。小川が1000万円という金額に難色を示していることを聞いた高田総統は、「じゃあ、1億出そう」と即断したという。2001年大みそかの『猪木祭り』でピーター・アーツ戦に石井（元）館長が提示したと言われる8000万円を上回る金額だ。1億円で推定収入3億7000万円の小川の心は動くのか!? 非常に興味深いオファーだ。

これはUインターが1994年に仕掛けた「プロレスリング・ワールドトーナメント」以来の高額賞金マッチでもある。「夢と1億円」という『週刊プロレスNO．602』（写真・タイトル横）のキャッチコピーも秀逸だった。しかし、もうあの頃の無邪気な夢はプロレス界に存在しない。あるのは厳しい現実だけだ。今回の〝銭ゲバ納税王〟vs〝ナマクラ借金王〟の一騎打ちは、あえてキャッチコピーをつけるとすれば「悪夢と1億円」といったところだろうか。

また、この一戦は別の角度からも非常に興味深い一戦と映る。両者は2000年12月の『猪木祭り』で一騎打ち（プロレスルール）を行っているが、このときは小川が勝利した。だが、安田は本誌37号のインタビューでの「デビュー前に練習相手をやったことがあるけど弱いと思った」という暴言をはじめ、小川に対して「弱い」を連発している。「チキン」「銭ゲバ」「しょっぱい」「YAWARAちゃんの方が強いんじゃないか」などと言われることはあっても、小川が「弱い」と言われたのはこのときが最初だろう。

しかも、安田はかねてから小川嫌いを公言しており、試合がまったく噛みあわないものになる可能性もある。お互いに柔道と相撲というバックボーンがあり、プロレスは決してうまい方ではない。感情のほとばしりがとんでもない方向に発展してしまうことだってあり得る。

いわゆる〝管理のずさんなサファリパーク〟を脱却して、〝ウェルメイドなテーマパーク〟としての方向性を模索するハッスルという舞台に、この試合は収まりきらないのではないか？ そんな余計な心配までしたくなるヒリヒリした緊張感の漂う試合になりそうだ。

2000年12月に大阪城ホールで行われた『猪木祭り』、小川直也vs安田忠夫の一戦は小川が勝利。しかし、この試合で見せた安田のストロング・スタイルは高く評価された。

ひと目で分かる 安田忠夫年表

- **1990年** 大相撲名古屋場所で小結に昇進
- **1992年** 大相撲を引退
- **1993年** 新日本プロレスに入門
- **2000年12月** 大みそかの『猪木祭り』で小川と好勝負
- **2001年3月** 『PRIDE.13』で佐竹雅昭に判定勝ち
- **2001年12月** 大みそかの『猪木祭り』でジェロム・レ・バンナに一本勝ち
- **2002年2月** IWGP王座を奪取
- **2002年4月** 同王座から陥落
- **2005年2月** 新日本プロレスを解雇される

2001年12月の『猪木祭り』でジェロム・レ・バンナに一本勝ちした安田は絶頂に上り詰めた。娘とリング上で抱き合うダメ親父が見せた一世一代の晴れ姿はお茶の間を温かい感動で包み込んだ。しかし、これが再転落の始まりでもあった……。

ビターン!!

ついにリングに登場か!?

髙田総統の"Xデー"は11月が濃厚!!

"キャプテン・ハッスル"小川直也率いるハッスル軍に決断を迫る髙田総統。打倒総統に向けてハッスル軍の一致団結は不可欠だ。現在、小川は総統、川田はインリン様、大谷は島田二等兵とFUJIN & RAIJINにターゲットを定めている。

5月シリーズの新潟&札幌大会では、髙田総統が遂にその魔性を全開にして小川潰しを敢行した。新潟では身動きの取れない小川を往復ビンタ6連発から杖で殴打するという非道な攻撃で流血に追い込み、札幌大会の2日目では影武者にアン・ジョー司令長官を使って小川を心理的に揺さぶってみせた。

「私は秋のハッスルマニアに向け、すでに準備を始めている」

この一言が出たということは……!?

「ハッスルマニアがクライマックス!! つまり君達の最期だ」

ようするに髙田総統が、ハッスルマニアでリングに上がり、試合を行うと思って間違いないのだろうか?

大会後、髙田総統は札幌大会後に報道陣を引き連れてススキノの店から店へとを飲み歩き、ひとりひとりに「ビターン!」をほどこしたという証言もある。今後はハッスル軍寄りではなくモンスター軍寄りの報道にするよう記者を洗脳したに違いない。宴は午前8時を過ぎても終わらなかったという。まず情報戦でハッスル軍をリードした形だ。髙田総統、おそるべし!

すでに11月には大会場を押さえたという情報がとある消息筋から漏れてきた。それに伴う大きな仕掛けが用意されているという……。まだ5ヶ月もあるが、いまから仕込みを始めなければならないほど、大仕掛けなのか!? 謎は深まるばかりだ。

髙田総統は自分のことだけではなくモンスター軍全体の補強についても素早く次の一手を打ってきた。次回の7月シリーズから続々と新戦力を投入するのだ。前ページで書いたように安田忠夫をカネで釣ったのを皮切りに、すでに福岡と大阪の名産品に「ビターン!」を施し、モンスターに改造(もしくは洗脳)済みだという。明太子、とんこつラーメン、お好み焼き、タコ焼き、通天閣、横山ノック……等、モンスターになりそうな素材はゴロゴロしている。どんなモンスターが新登場するのか、いまから楽しみだ。

WANTED!!

¥10,000,000

ハッスル10&11 先取り情報

“美獣”Ericaが美女軍団を投入!!

乙女心は連鎖する!!

5月10日の新潟大会のM字ビターンマッチで高田アマゾネス軍のリーダー・インリン様と直接対決した“美獣”Erica。判定2−1で惜しくも敗れたが、存在感では決してインリン様にヒケを取らなかった。札幌大会でも大歓声を集め、ハッスルには欠かせない存在となりつつある。

どんな罵詈雑言にも決して屈しないが、「鼻毛」という単語だけには過敏に反応してしまうのは乙女だから。それを笑い者にするインリン様、アリシンZに対して並々ならぬ復讐心を燃やしている。5月15日の札幌大会でアリシンZにフォール負けを喫したEricaは、「私も美女軍団を作って、お前らアマゾネス軍をぶっ潰してやるからな!!」と逆上。ついにハッスルでも女子の軍団抗争が幕を開けることになった。

自分の容姿に自信たっぷりな、ゆがんだ美意識の持ち主であるEricaが言うところの「美女」とは、果たしていかなるバケモ……いや、美女なのか。じつに興味深い。Ericaの乙女心に共鳴する“マーガレット”なる美女の存在を本誌はキャッチしたが、その正体は一切不明だ。

対する高田アマゾネス軍もアリシンZが仲間を引き連れてくることになりそうだ。そもそも、アリシンZとは「ハッスル・ドリンク」(800円)から生まれたキャラクターだった。6月から『ローソン』を始めとするコンビニで新発売される「ハッスル・ドリンク眠気編・疲れ編」(300円)からアリシンZの仲間が誕生する。これも楽しみだ。

Ericaもインリン様も自分たちの容姿には1ミリの疑問を抱いていない。それぞれ対照的ではあるが、完璧なボディと完璧なコーディネイトと完璧な精神の持ち主であることには異論を挟む余地はないだろう。どちらが好みかは意見が分かれるところだが、それは個人の嗜好に過ぎない。美女と野獣が感情ムキ出しで闘いの先にあるものは、きっと新しい“美の基準”だ。

チンピラ義兄弟はどこへ行く?

“一匹狼”坂田亘に新たなる義兄弟が増える!? 新潟&大阪では村浜武洋と共にリングサイドの女性客に流し目を送って悩殺していたが、新たなる義兄弟が登場するらしい。坂田と組むということは、当然“ワル”であることが条件。群れたりつるんだりしない飢えた野獣のような男である必要もあるだろう。とはいえ、村浜のように坂田の舎弟になるとは限らない。坂田の上をいく大物が登場しても不思議ではない。「坂田亘被害者の会」のメンバーは、誰が来るのか気が気じゃないだろうが、これぱかりは当日になるまで分からない!? 続報を待て!!

チケット情報

ハッスル10
★日時　7月13日(水)18:00開場　19:00開始
★会場　福岡・福岡国際センター
★入場料金　ハッスルVIP(ハッスルグッズ付)¥10,000／S席 ¥5,000／2F自由席 ¥3,000

ハッスル11
★日時　7月15日(金)17:30開場　18:30開始
★会場　大阪・大阪府立体育館
★入場料金　ハッスルVIP(ハッスルグッズ付)¥10,000／S席 ¥5,000／2F自由席 ¥3,000

今回もポスターは金子ナンペイ氏の力作だ！ ハッスル10と11ではイラストが微妙に違う。気付いた人はいるかな？

※両大会ともチケットぴあ、ローソンチケット、イープラス、ハッスルオフィシャルサイト、ハッスル携帯端末オフィシャルサイト(iモードのみ)などにて絶賛発売中!!
★ハッスルオフィシャルサイト　http://www.hustlehustle.com/
★お問い合わせ　DSE　TEL:03-5464-1531

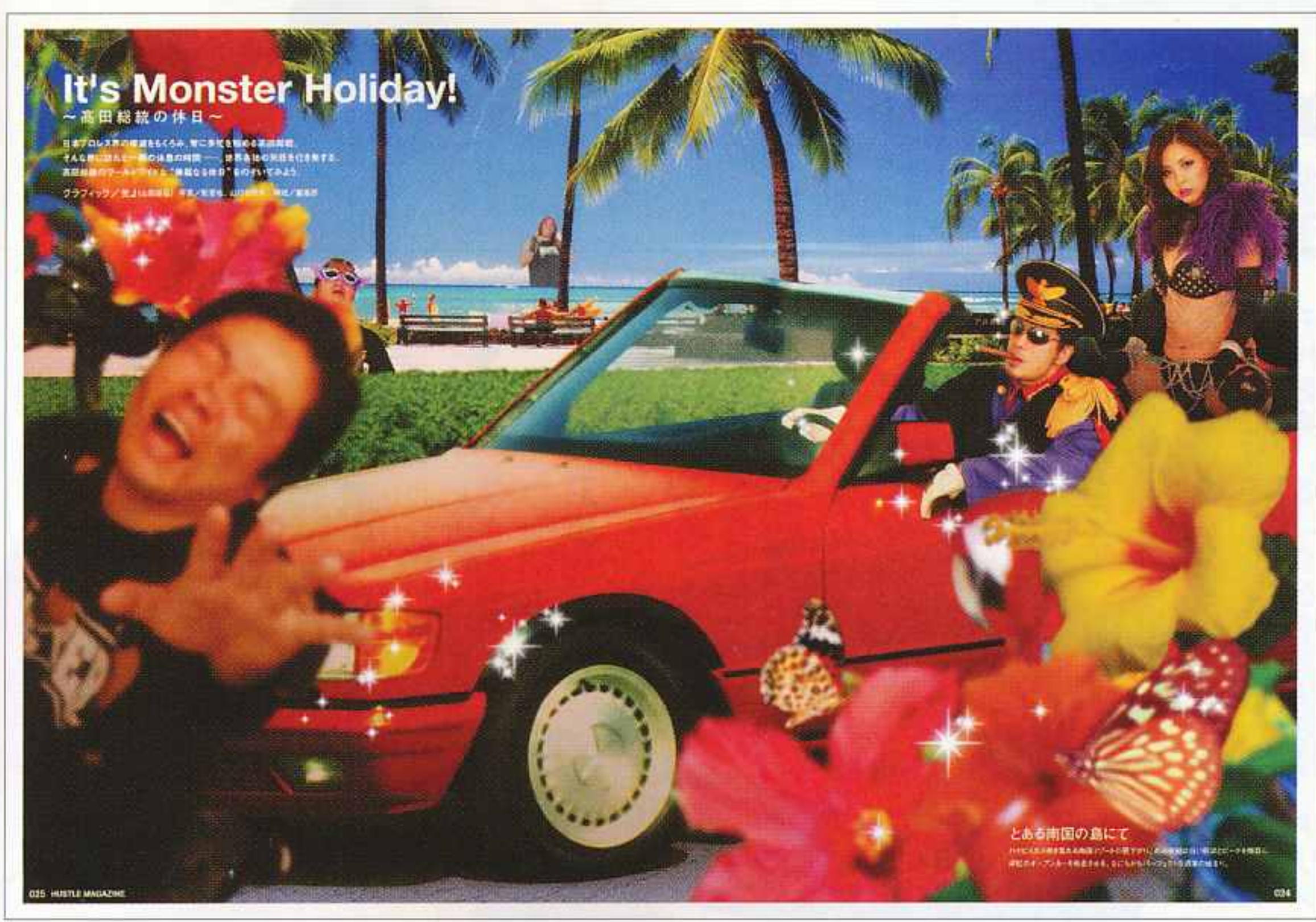
過激なハッスル名物
ハードコア戦線はますます加熱!!

HHH(ハッスル・ハードコア・ヒーロー)王者・田中将斗の身辺が非常に騒々しくなってきた。新潟大会では突如、乱入してきた新モンスター・人狼(じんろう)が試合後の田中を急襲!! 札幌大会ではフォールを奪ってしまった。スクリーンに大写しになった月を見ることで凶暴化する人狼には、さすがの田中も手がつけられなかった。何らかの対策を講じる必要があるだろう。7月13日の福岡大会では田中のHHH王座を狙う人狼も含めた5〜6人でHHH次期挑戦者決定戦が行われ、その勝者が15日の大阪大会で田中とタイトルマッチを行う。もちろん、人狼以外にも様々なモンスターが襲い掛かる。まだカードは決定していないが本誌は鬼蜘蛛をイチオシ! 新潟大会では黒田の自転車アタックを蜘蛛の糸で絡め取るという華麗な糸さばきを見せてくれただけに健闘が期待できそうだ。その他にもWWEを退団した選手の参戦も噂されている。あんな大物やこんなスターが!? と想像を膨らませて7月を待て!

ここでしか見られない髙田総統の貴重なオフショット満載!!

It's Monster Holiday!
～髙田総統の休日～

とある南国の島にて

『ハッスルMAGAZINE』は携帯サイト『紙プロHand』で買えます!!

ハッスル MAGAZINE vol.1
髙田総統
インリン様
ファイティングオペラ
ハッスルのすべてがわかる公式読本!!

『紙プロHand』へのアクセス方法が分からない！　という方は、表2（表紙のすぐ裏）の広告を見てください！

全国津々浦々で夏休みの課題図書に指定されることが確実な『ハッスルMAGAZINE vol.1』。髙田総統の思想と哲学、そして決して真似することが出来ないライフスタイルが凝縮された高貴な誌面に心を打たれる小中学生が続出することは間違いない。新学期にはモンスターの心を持った子供たちが学校を支配するだろう。彼らは旧態依然とした学校教育を根こそぎブチ壊し、ゆとり教育以降の新たなる価値観を築くに違いない。各教室には必ず髙田総統の肖像画が飾られ、朝礼の挨拶は「ウィー・アー・モンスター！　ウィー・アー・モンスター！　ウィー・アー・モンスター！　ドゥ～・ザ・ハッスル！」となり、道徳の時間にはインリン様のM字ビターン映像で洗脳を受ける。こうして、日本はモンスター軍に支配されるのだ。

くだらない仕事ばかりで疲れ果てたサラリーマンの方は、『ハッスルMAGAZINE』に掲載されているグラビア「髙田総統の休日」（写真・左上）を見て、リゾート気分だけを満喫するといい。南の島を真っ赤なスポーツカーでかっ飛ばし、世界権力の中枢で犬と戯れ、果てしない砂漠をラクダに乗ってさまよい、高級調度品で埋め尽くされた別荘でひとりくつろぐ。髙田総統……じつに優雅だ。

あの魔裟斗は雑誌『LEON』に感化されて「かっこいいオヤジを目指す」と宣言したが、まあ世間一般の価値観ならばその程度だろう。世間の一歩、いや十歩先を行きたい諸君は、『ハッスルMAGAZINE』で髙田総統のスタイルを盗んでいただきたい。インリン様のような〝思想〟と〝哲学〟と〝セクシーさ〟を身にまとった絶世の美女が君を待っているはずだ。

このように用途はいろいろだが、『ハッスルMAGAZINE』の真の目的はハッスルの魅力を伝えるということ。いくら言葉で「面白い」「かっこいい」「次はコレがくる！」「マスト！」などと煽ったところで、そのもの自体が〝本物〟でなければ活字が上滑りするだけだ。『ハッスルMAGAZINE』にはそのような言葉は必要がない。ページを開けばハッスルの魅力があふれ出すからだ。ためしに本屋で手にとって見て欲しい。もし、近所の本にないという場合は携帯サイト『紙のプロレスHand』で購入することをオススメしたい。

ハッスル＆紙のプロレス コラボグッズ

第1弾 髙田総統グッズ

「ビビったか？ たじろいだか？」Tシャツ
［S・M・L・XL ブラック／ホワイト］ ￥3990（税込）

「BITAAAAN!」Tシャツ
［S・M・L・XL ホワイト］ ￥3990（税込）

「BITAAAN!」メッシュキャップ
［ブラック／パープル］
￥3150（税込）

「髙田総統」フェイスタオル
￥2100（税込）

第2弾 笹原GM「SHUT UP!」Tシャツ
（ラグラン七分そで）

BACK

［S・M・L・XL ホワイト×レッド］
￥4200（税込）

緊急リリース決定!!
第3弾 「モンスター℃」＆「モンスターJ」Tシャツ

紙プロHandで7月から発売予定!!

The Monster ℃

The Monster J

完成予想図

※デザインが若干変更される場合があります。

日本の夏、モンスターの夏!!

紙プログッズも好評発売中!!

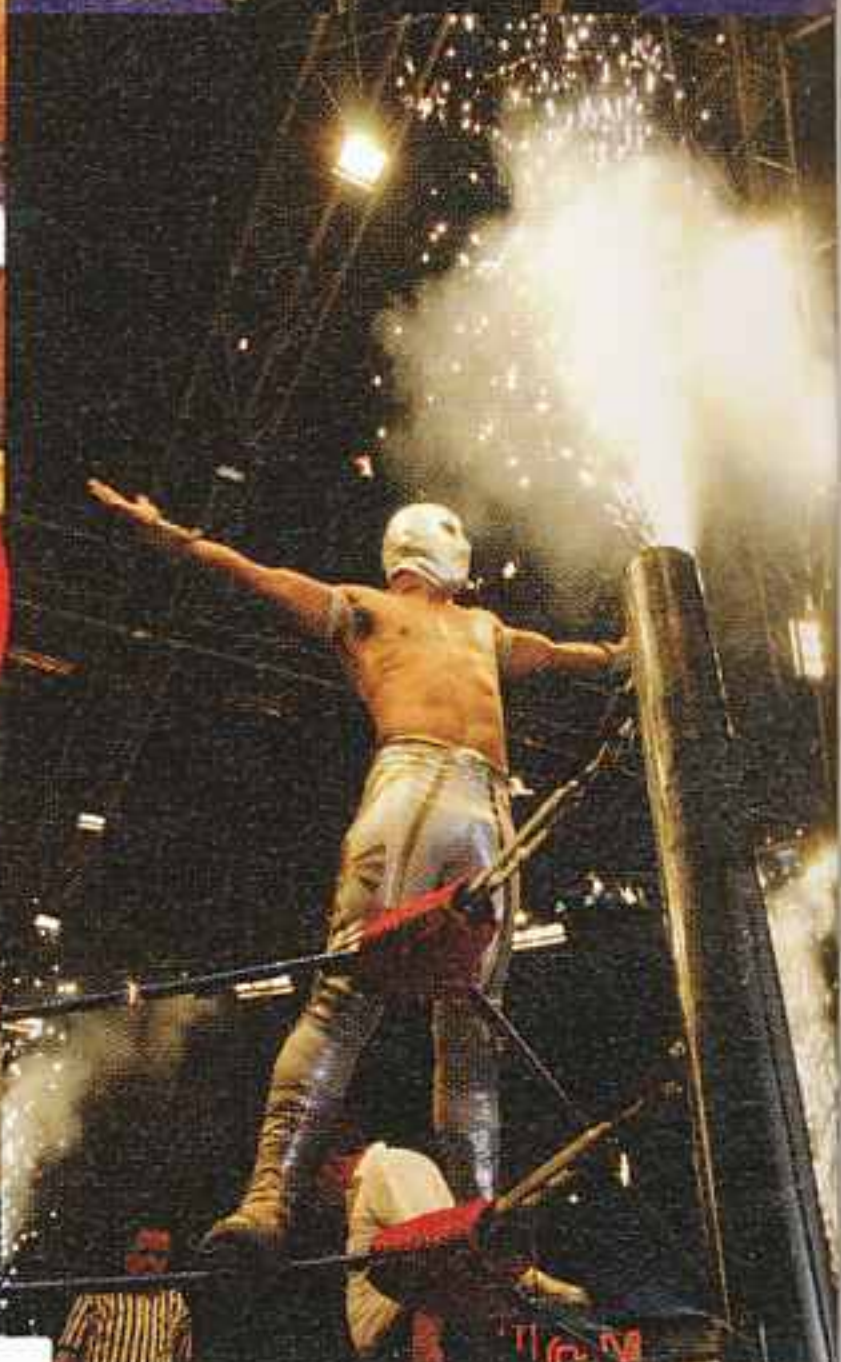
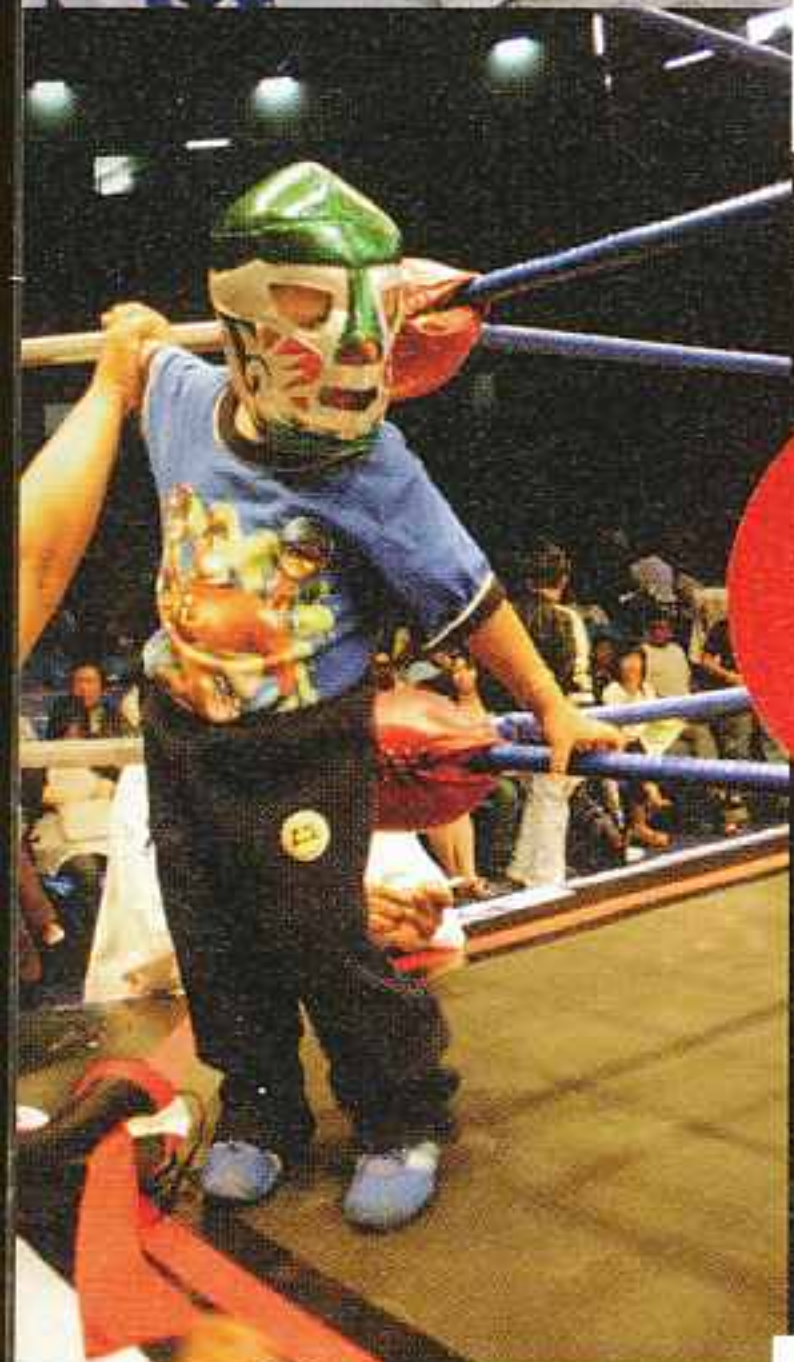
カズ・HTシャツ S・M・L・XL ブラック ￥3465 XS（完売）

COZY BAKATシャツ S・M・L・XL ブラック ￥3465 XS（完売）

マット・ガファリTシャツ S・M・L キナリ ￥3500 XL（完売）

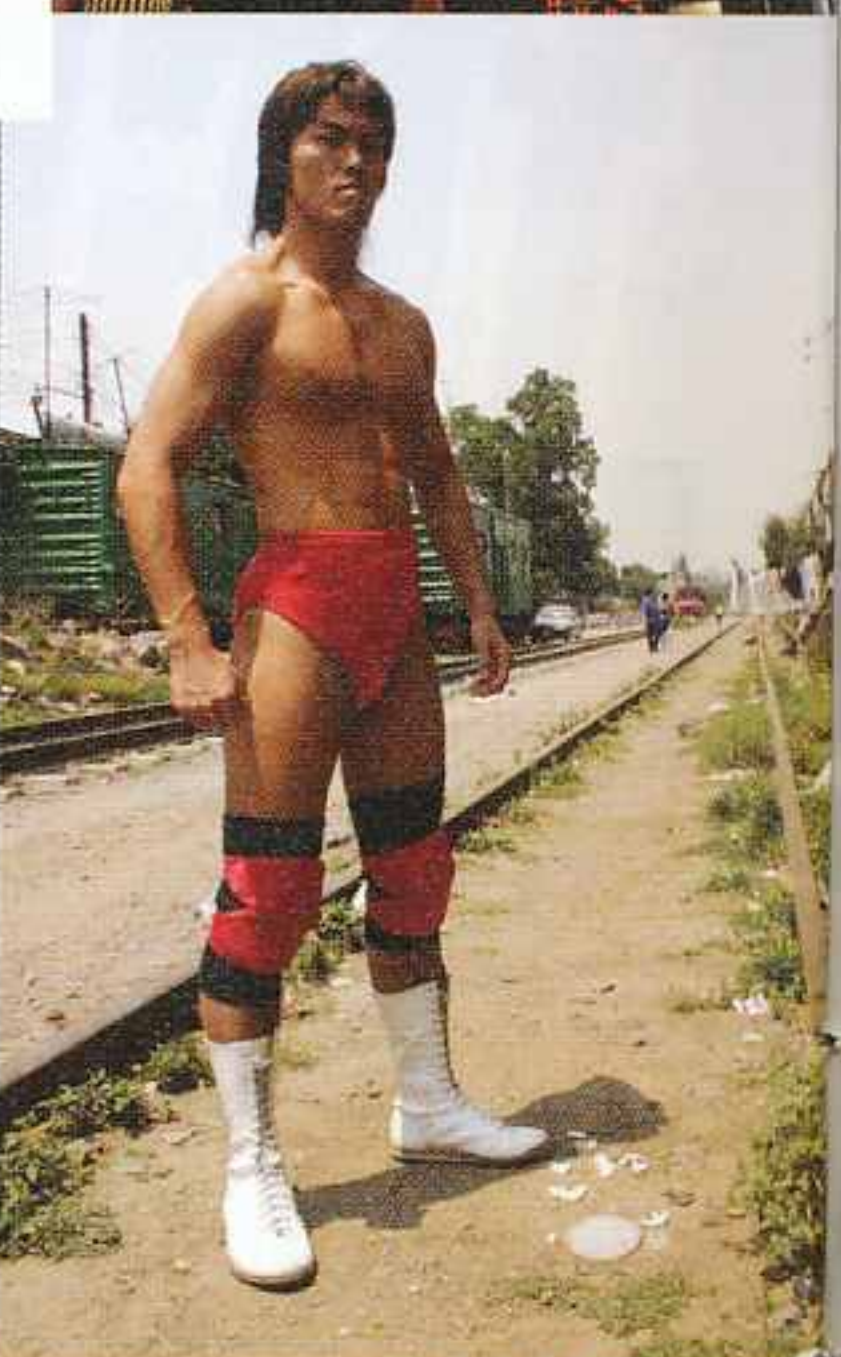
ガファリ・バスターズTシャツ XS・S・M・XL ホワイト ￥3000 L（完売）

赤いキャップの頑固者Tシャツ S・M・L・XL ブラック ￥3800

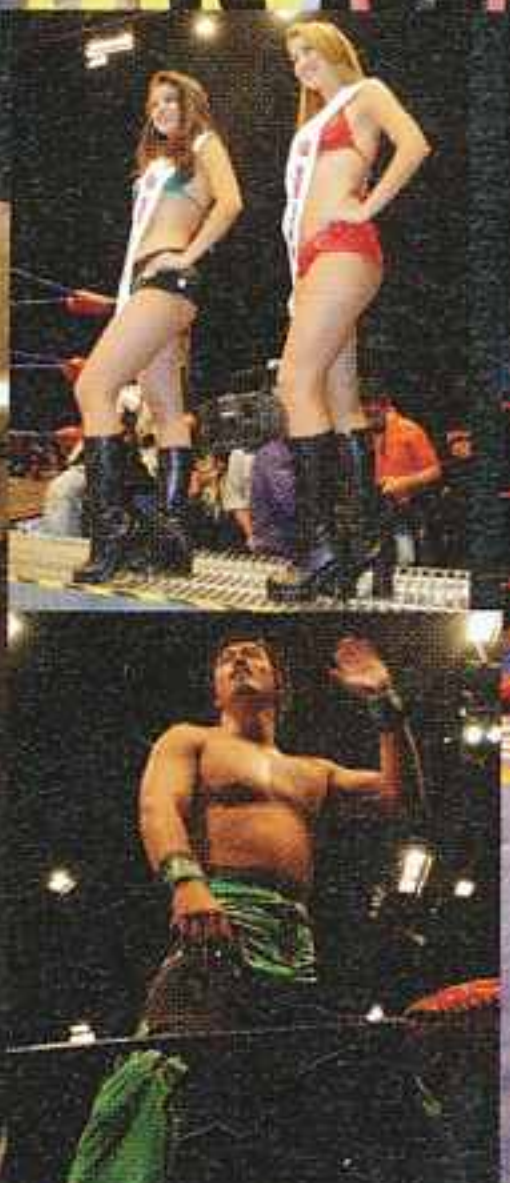
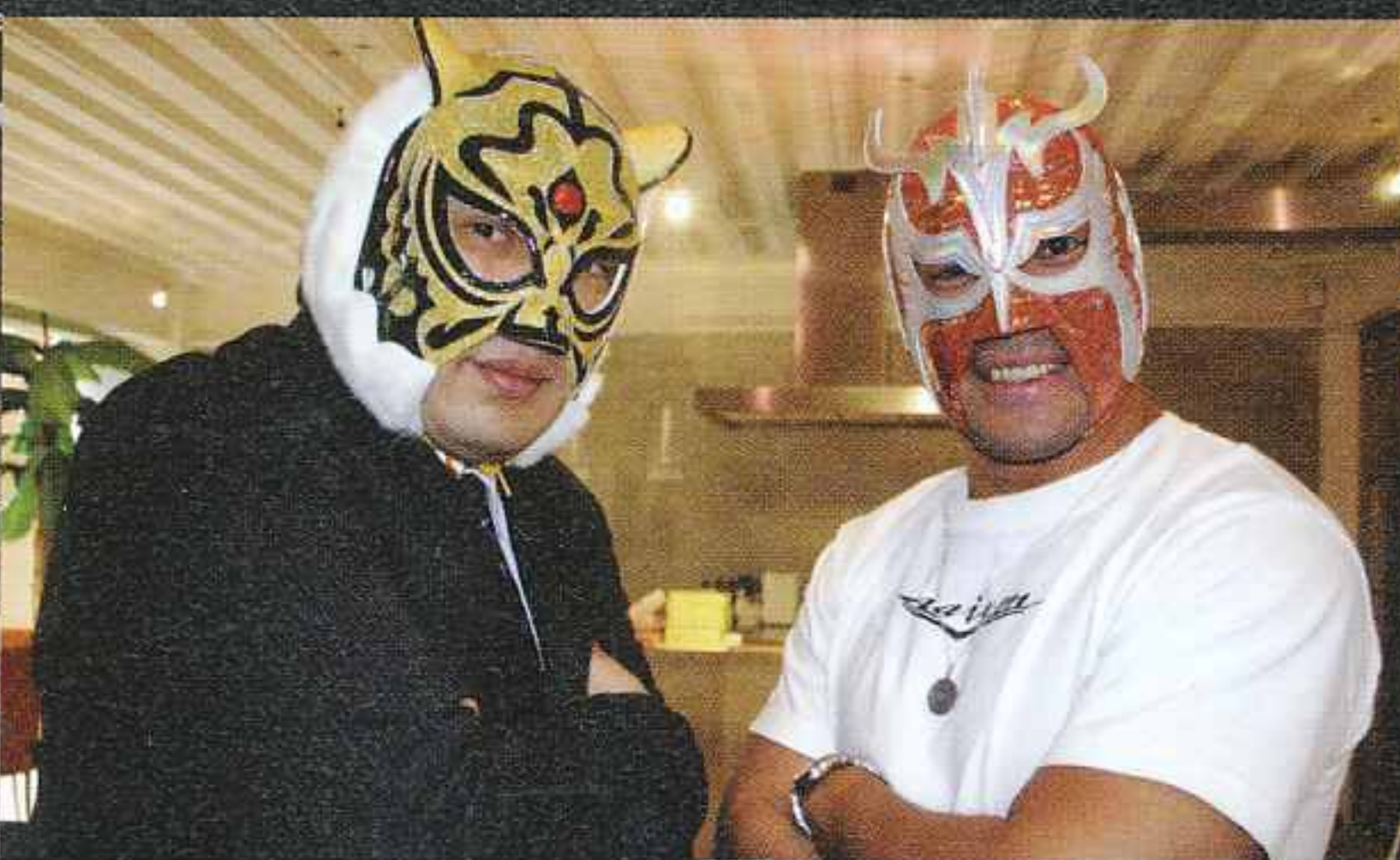
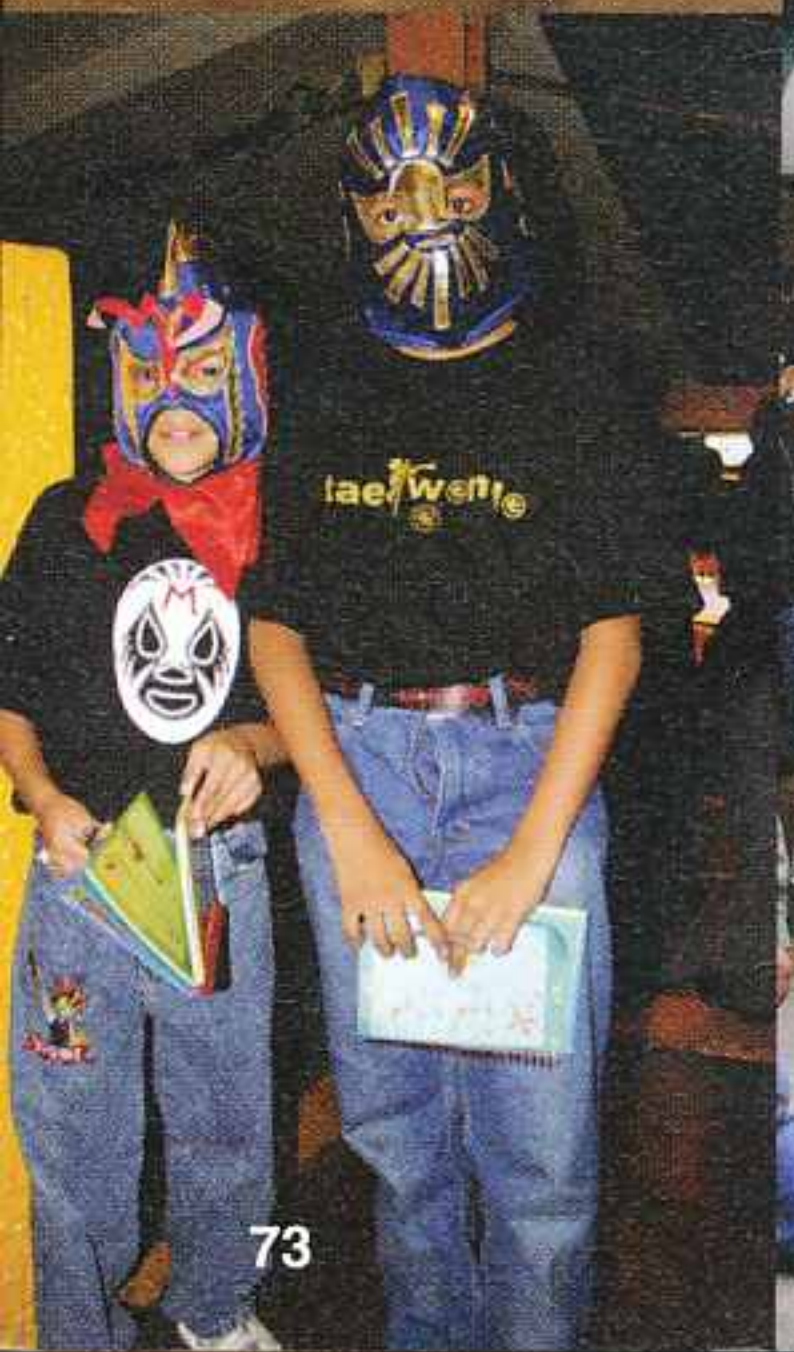
少年の夢、ここに叶う！

ULTIMO・DRAGON GYM

MEXICO

初代タイガーマスク、27年ぶりにメキシコ飛来！
5・14闘龍門8周年記念inアレナメヒコ

16ページ大特集

永遠のプロレス少年、浅井嘉浩の夢がついに実現！ なんとあの飛行機嫌いで有名な我らが皇帝、初代タイガーが27年ぶりにメキシコに飛来。闘龍門8周年記念興行を始め、3大会に出場したのだ！　メヒコで伝説となっている“ティグレ・エンマスカラード”の勇姿がいま蘇る！

構成&撮影／堀江ガンツ

designed by matsu (TwoThree)

ビールいかがですか？

は携帯サイト『紙のプロレスHand』で購入することをオススメしたい。

It's Monster Holiday!
〜高田総統の休日〜

『ハッスルMAGAZINE』は
携帯サイト『紙プロHand』で
買えます!!

ここで
髙田総
貴重な

闘龍門8周年記念 スペシャル対談

TIGRE ENMASCARADO × ULTIMO DRAGON

27年ぶりにメキシコ飛来
初代タイガーマスク

筋金入りのタイガーマスク信者
ウルティモ・ドラゴン

タイガーマスクに多大なるリスペクトがあるウルティモの熱意により実現した、今回のタイガーマスク、メキシコツアー。27年ぶりのメヒコ飛来となったタイガーもかつての戦友と多くの再会をはたし、なつかしさと感動の連続だったようだ。そんな“浅井閣下”と“佐山皇帝”に大会2日後、夢と感動のツアーを振り返ってもらった。

聞き手&撮影/堀江ガンツ
designed by matsu (TwoThree)

自己催眠で飛行機嫌いを克服してまで来たかいがありましたよ（笑）（タイガー）

——浅井さん、一昨日の闘龍門8周年記念興行inアレナ・メヒコは素晴らしい大会でしたね！

ウルティモ　感無量ですね。それ以外の言葉が見つからないですよ。昔、新日本が巡業で泊まってるホテルに会いに行ってた、憧れの人（タイガーマスク）にメキシコで僕の興行に出ていただいたんですから、もうこれ以上のことって一体なにがあるんですか？

——少年時代からの夢がホントに実現したわけですもんね。

ウルティモ　つくづく幸せ者だなって思いますよ。腕のケガとか闘龍門の問題とか、去年はいろいろあったじゃないですか。でもその後、日本でウルティモを封印するときに、たまたま佐山さんに出ていただいて、そこから一緒にお仕事をさせていただくようになったんで、ホントに良かったと思います。

——佐山さんが再びメキシコに来てアレナ・メヒコで試合をするなんて、ちょっと前なら考えられないことでしたよね？

タイガー　私は飛行機がダメだからね～。

——札幌に行くにも鹿児島に行くにも必ず陸路を選ぶ方ですからね（笑）。それを考えるとホントよく来てくださいましたよね。

タイガー　これも催眠術のおかげですね。うふふふ。

——催眠術ですか!?

タイガー　また冗談だと思ってるでしょう？　でも、これは冗談じゃなくて自己催眠で飛行機嫌いを克服できるんだよね。

——ホントにそんなことが可能なんですか？（笑）。

タイガー　まあ私は催眠術師じゃなく、科学的なものでやってるだけだから。「武道とは何か？」って考えたときに、それは精神論だよね。それを実証するために催眠やってるだけの話。ところがコレが効くんだよね～（笑）。

——その甲斐があって、こうしてメキシコでの対面が成功したわけですね（笑）。

ウルティモ　僕が無理なお願いしちゃって。しばらくプロレスを離れていた佐山さんが、リアルジャパン（真日本プロレス）というプロレス団体を本格的に旗揚げするということで、その前に僕の方で佐山さんの原点であるメキシコで試合することをお薦めしたんですよ。

——そして浅井さん自身、プロレスラーになろうと思った原点は佐山さんに憧れたからですもんね。

ウルティモ　もちろんです。さっき昔の『ファイト』を見せましたけど、佐山さんがメキシコでチャンピオンになったとき、子供ながら誌面を通してでもその凄さは伝わったんですね。それ以来、ずっと注目してたんですよ。僕はタイガーマスク時代からのファンじゃないですからね。

——そんじょそこらのタイガーファンとはワケが違うと（笑）。

ウルティモ　もう、そんなもんじゃないですよ。よく猪木信者とかタイガー信者とかいますけど、僕の中ではそういう人たちの半分ぐらいはインチキですね。

——浅井さんの基準だとエセ猪木信者、エセタイガー信者だと（笑）。

ウルティモ　やっぱり有名になってから好きになった人とは違いますよ。そういう意味で言うと、猪木信者としては僕も途中からなんですけどね。だけど佐山信者という部分に関してはホンモノですよ。筋金入りです。

タイガー　閣下はタイガーマスクのことは何でも知ってるからね。私でも知らないこと知ってるんだもん（笑）。一番ビックリしたのが、閣下に「これ俺なんです」ってタイガーマスクと一緒に写ってる写真を見せられたんだけど、それがもう私が知ってる追っかけの子供なんだよね！

ウルティモ　新日本が名古屋近辺に来たときは必ずホテルまで行ってましたから。学校サボって（笑）。

——一昨日の闘龍門興行も、出場メンバーにそんなタイガーマスクファンである浅井さんのこだわりがみえましたもんね。

ウルティモ　僕のこだわりというか、佐山さんがメキシコでの修業時代に対戦した選手とかって、現在はＣＭＬＬでも一線を退いてる方たちなんで、お会いする機会がなかなかないじゃないですか。だからわざわざ遠いところまで来てもらったんですけど、本人たちも凄い喜んでて、逆にアメリコ・ロッカとかリンゴ・メンドーサなんかは「俺のことをちゃんと覚えてくれててありがとう」って言ってくれたし。最後にみんながリング上に集結したじゃないですか。ファンとしてそのシーンが見たかっただけなんですよね。あとで写真を見て楽しもうかなと。

——リンゴ・メンドーサがいて、ウルトラマンがいて、ソラールがいて、あれは感動的なシーンでしたねえ。

ウルティモ　ホントはサングレ・チカナとかもいて欲しかったですよね。

——またマニアックな（笑）。

ウルティモ　だからプロデューサーというか、一ファンとして楽しめましたね。

——プロレスファンの少年が夢のカードを思い描いたことを、本当に実現させてるわけですからね。佐山さんはいかがでした？

タイガー　いやあ、もう感無量ですよ。メキシコに来る前は浅井閣下が、「来て」って言うからしょうがなく来た部分も正直あったし、飛行機には乗りたくないな～とか思ってたんだけど、来てみてホントに良かったですよ。毎日「絶対に大丈夫」って自己催眠かけたかいがありましたね（笑）。

——来るまでは一苦労だったわけですね（笑）。

タイガー　うん。でもいざメキシコに着いたら、すべて閣下のお膳立てなんだけど、いろんな人に会えたんだよね。そしたらもう昔の戦友に会えた感じでさあ。会う度に27年前の記憶がどんどん甦ってきて、昨日のことのような気がして、不思議とスペイン語も戻ってるんだよね。

ウルティモ　佐山さんがスペイン語が上手だって聞いてたんですけど、27年間ほとんど使ってなかったわけじゃないですか。それなのに話す方

5・14闘龍門8周年記念興行inアレナ・メヒコのメインは、初代タイガー、ウルティモ、ラヨ・デ・ハリスコJr.組がウルティモ・ゲレーロ、レイ・ブカネロ、タルサンボーイ組に勝利。最後はウルティモがアサイDDTで決めた！

対談のために浅井閣下の自宅にお邪魔すると、なんと佐山サトルがメキシコでチャンピオンになったときの『ファイト』が大事にスクラップされていた。さすが筋金入りの佐山マニアだ！

It's Monster Holiday!
～高田総統の休日～

『ハッスルMAGAZINE』は
携帯サイト『紙プロHand』で
買えます!!

ここで髙田総
貴重な

昔の〝戦友〟に会うたびに記憶が蘇ってきてスペイン語まで戻ってきたんだよね（タイガー）

は徐々にでしたけど、ヒアリングは完璧なんですよね。ホントにビックリしましたね。

タイガー　スペイン語なんかまったく使ってなかったのに、記憶が戻ると共に喋れちゃったんだよね（笑）。

ウルティモ　僕はこのメキシコ遠征で佐山さんに当時のことを思い出していただければって考えていたんですよ。僕自身も最近、小学校の同窓会があったんですけど、昔の仲間に会うと嫌なこととか忘れますよね。ピュアな頃の自分を凄く思い出して。だから佐山さんにもメキシコでいろんな人に会ってもらいたいなって思って、それで声をかけまくったんですよ。

――で、佐山さんはサトル・サヤマ時代のピュアな気持ちに戻れましたか？

タイガー　戻った戻った、完全に戻りましたよぉ。今回、アレナ・メヒコとかコリセオとか行ったけど、会場の入った瞬間、そのころの思い出が次々と蘇ってくるんだよね。

――車で移動中も「あそこのVIPS（ファミレス）はパクチュー（木村健悟）の彼女がいた店だ」とか言ってましたよね（笑）。

タイガー　そうそう、結婚してるからあまり言えないけど（笑）。

――大会以外にもいろんな人とお会いしたんですか？

タイガー　うん。レフェリーのロベルト・アンヘルっていうおじいさんとかね。なつかしかったな～。

ウルティモ　アンヘルさんは僕がEMLLにいたときに、いつも佐山さんの話をされてたんですよ。あとは、ミスター駒さんの話とか、星野勘太郎さんがヤマモトっていう名前でやってたとか、そういう昔話が多くて、だから佐山さんにももう一回会ってもらいたかったんですよ。

タイガー　アンヘルはとてもいい友達だったからね。

ウルティモ　アンヘルさんは僕にもよくしてくれたんですけど、それは僕と佐山さんの背格好が似てるからだって勝手に解釈してるんですよ。実際ファイトスタイルも僕はマネしてますから。

――やっぱりタイガーマスクという名前の偉大さを、浅井さんもメキシコで改めて感じたんじゃないですか？

ウルティモ　伝説ですよ。控室にいればわかりますけど、レスラーたちがみんな佐山さんと一緒に写真撮っていくんですよ。

タイガー　サトル・サヤマを尊敬してくれてる人と、タイガーマスクを尊敬してくれてる人と両方いて、その気持ちがヒシヒシと伝わってくるんだよね。まあこれも閣下の演出だと思うけど（笑）。

ウルティモ　そんな「佐山さんが来たら、みんな写真撮れよ」とか、僕が仕込んだって言うんですか？（笑）。

タイガー　そうそう（笑）。

ウルティモ　そんなわけないじゃないですか。もう彼らはホント喜んでましたからね。

――アレナ・コリセオのリング上でさんざん挑発してたブラック・タイガーも控室ではサインもらいに来たらしいですね（笑）。

ウルティモ　だから「佐山さんがお前に文句あるらしいよ」って脅しておきましたよ（笑）。

タイガー　凄かったねえ。行く前は飛行機がイヤでしょうがなかったけど、いざ着いてみれば300%感激しましたから。ホントは金曜日のアレナ・メヒコでケガしたから、土曜日の闘龍門は出られないかなと思ったんだけど、これはさすがにやんなきゃマズいと思ってテーピングでガチガチに固めて出たからね。で、翌日のアレナ・コリセオはや～めたって感じで（笑）。

――欠場が発表されてなかったんで、メインイベントに突然スーツ姿で入場してきたときはビックリしましたよ（笑）。

タイガー　申し訳な～い。

ウルティモ　やっぱり6月9日にリアルジャパンの旗揚げを控えてるんで、無理しちゃいけないですよ。

タイガー　そうだね。あそこで出たらケガが長引いちゃって練習ができなくなるから怖いんだよね。

ウルティモ　でも、プロモーターとしてはたくさんの人に佐山さんの姿を見てもらいたいっていう気持ちがあって、言い方はおかしいですけど、昨日のコリセオも今日のプエブラも顔見せみたいな感じじゃないですか。だからとにかく顔だけでも見せてくれれば、もうそれでいいんですよね。

――そういえば、会場では世代的に知らないはずの子供たちも「ティグレ、ティグレ」って寄ってきてましたよね。

タイガー　それも閣下が宣伝してくれてるからだろうけど、サトル・サヤマのファンなんているのかなあ？

ウルティモ　たくさんいますよ。だってタイガーマスクかぶってるのに、みんな「サトル」って呼んでたじゃないですか？

タイガー　ホントまたメキシコに来たい！　そのときは一週間ぐらい先に来て高地トレーニング積んで、それから試合に出たいね。

ウルティモ　僕的には、次回はサトル・サヤマで出て欲しいんですよね。

タイガー　いいですよぉ。でもそれにはやっぱり高地トレーニングが必要だよね。こっちに来て第1戦をコリセオでやったとき、息が切れて頭真っ白になっちゃったから。昔はメキシコでもやれたからタカくくってたよね。まあハッキリ言って私の場合、日本でもキツいんだけど（笑）。でもちゃんとトレーニング積んで、最後の勇姿をメキシコのファンに見せたいなあって思ったメキシコ遠征でしたね。

――じゃあ、佐山さんにとってもかなり有意義な遠征だったんですね。

タイガー　だって昔の友達に会ったり、あの歓声とかを感じたりして、ホントまた来たいっていう気になりますよ。

ウルティモ　佐山さんに会えてみんな喜んでたんですけど、中でもトニー・サラサール（佐山のメキシコ時代のライバル）はもの凄い喜んでて、僕が「タイガーマスクが来るよ」って言ったら、「そのタイガーはホントにサトルなのか？」って何度も聞くんですよ。

――なぜかポスターは4代目の写真が使われてましたからね（笑）。

ウルティモ　だから「佐山さんだよ」って言ったら、ホント嬉しそうでしたからね。だから27年ぶりに来るってことが信じられなかったみたいですよ。

――日本のプロレスファンですら、佐山さんがプロレス界に本格復帰して、メキシコまで遠征するなんて信じられなかったですよ。

ウルティモ　僕は去年の10月に闘龍門Xの興行で佐山さんと試合をさせていただいて、そのとき「これはメ

闘龍門inアレナ・メヒコのメイン終了後、出場全選手がリングに上がり、そこでタイガーマスクとウルトラマンにルチャリブレ功労賞の盾が贈られた。このセレモニーだけでなく、今大会はウルティモの先人へのリスペクトが随所に感じられた。

TIGRE ENMASCARADO
×
ULTIMO DRAGON

It's Monster Holiday!
～高田総統の休日～

『ハッスルMAGAZINE』は
携帯サイト『紙プロHand』で
買えます!!

キシコに連れて行くチャンスだ」って思ったんですよ。メキシコに来ていただいたら、絶対に佐山さんに満足していただけるって自信があったんで、どうやって飛行機嫌いの佐山さんを口説こうか、それが僕のテーマでしたね（笑）。

――メヒコに連れてきちゃえばコッチのもんだと（笑）。

ウルティモ　メキシコの食べ物がダメだっていう人も多いんですけど、佐山さんはたくさん食べられてたんで嬉しかったですね。こうしてメキシコの中にどっぷり溶け込んでる姿を見て、だからサトル・サヤマはメキシコでもチャンピオンになれたんだなってわかりました。自分もそうだし、（グラン）浜田さん、木村さん、ＮＯＳＡＷＡだってそう。結局メキシコに飛び込んだ人じゃないとチャンピオンになれないんですよ。

――そうじゃなきゃメキシコ人のハートを掴めないと。

ウルティモ　そうですね。佐山さんは昔、メキシコのグアダラハラでリンゴ・メンドーサからＮＷＡ世界ミドル級のベルトを取ったじゃないですか。でも、リンゴと言ったら当時グアダラハラの英雄で超ベビーフェース。普通、闘っただけでブーイングですよ。それなのに佐山さんは、そのリンゴからベルトを奪って、ファンの人に肩車されて控室に戻ったって言うんですからね。

――ありえないことですよね。

ウルティモ　ありえないです！　僕がベルトとった時もファンがそうやって祝福してくれたんですけど、相手はヒールですからね。佐山さんの人気って考えられないことですよ。

――そういう歴史があるからこそ、昨日のエンディングでリンゴ・メンドーサと佐山さんが肩を組んでる様子は、ホント感動的でしたよ。佐山さんとウルトラマンを「功労賞」で表彰したのもよかったですね。

ウルティモ　ウルトラマンさんも引退間近らしいんですよ。またいろいろプラン立ててますから、そのうち発表しますよ。

タイガー　みんな呼んであげたいね。死んじゃったクンフーとは、ずっとメキシコで組んでたんだけど、当時彼の息子とよく遊んでて、その子がいまレスラーなんだもんね。写真とか持って来てくれて、嬉しかったなあ。

ウルティモ　生きてたらクンフーも凄く喜んでたと思いますよ。いつも彼は「俺の鼻が曲がってるのは、サトル・サヤマに殴られたからだ」って言ってましたから（笑）。

タイガー　記憶にないなあ（笑）。

ウルティモ　僕も昔ブラソ・デ・オロの家に遊びにいくと、小ちゃい子供がボクにスペイン語を教えてくれたり、ペロ・アグアヨの息子ともよく遊んだりしてたんですよ。でも僕、そのこと全然覚えてなくて、この間アグアヨJr.がこっちをずっと見てて「何で話しかけてくれないんだ？　昔はあんなに遊んでくれたのに」って言われちゃって。テハノの子供ものの凄くデカくなってて、「おまえ、ホントにあの時の子か？」って聞いたら「一緒にサッカーやったよね」だって（笑）。

――佐山さんだったら余計にそういう経験あるんじゃないですか？

タイガー　もう子供たちは30歳とかだもんね（笑）。

ウルティモ　僕もそんな子供の中の一人ですから（笑）。

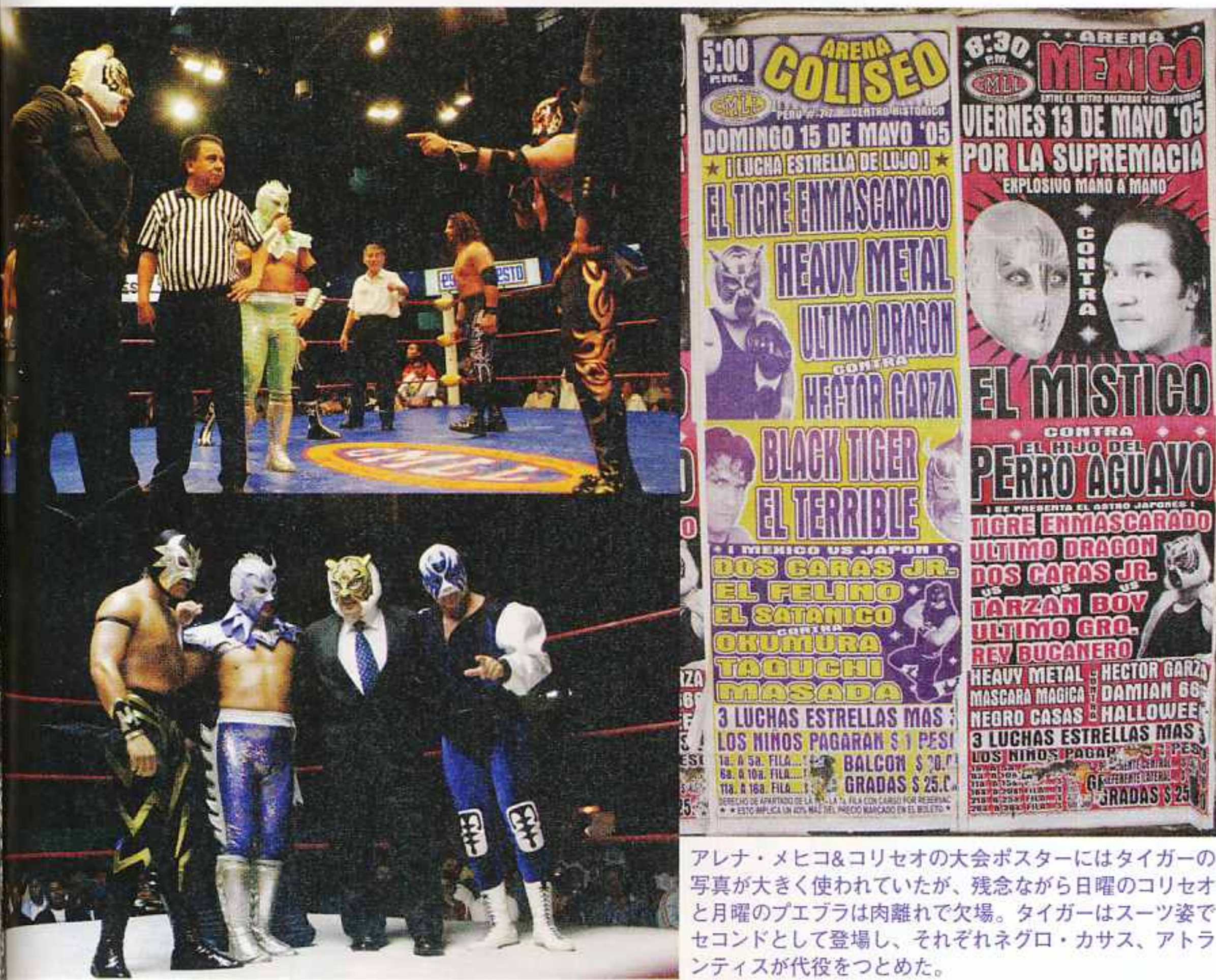
タイガー　そういうのも含めるとメキシコのプロレスって、もの凄く文化があるんですよ。それを見たら日本においてもプロレスの文化を創ってみたいって思いましたね。何て言うかな、文化の上に立ったプロレスというか、ファンも厳しくて、その責任に応えられるレスラーがいてさ。それができたら凄く面白いだろうなあ。

ウルティモ　日本にいると「ルチャ・リブレって何ですか？」ってよく聞かれるんですよ。僕自身の考えでは、まったくジャンルは違いますけど、吉本興行に似てると思うんですよね。何カ所か花月があって、東京の人間は知らなくても地元の人はみんな知ってる芸人がいたりして。あとは歌舞伎に似てると思うんですよ。名前を受け継ぐにしろ、必ず息子だとか。だからそういう意味では完全に文化なんですよ。日本のプロレスと、メキシコのルチャは明らかにポジションが違いますよね。

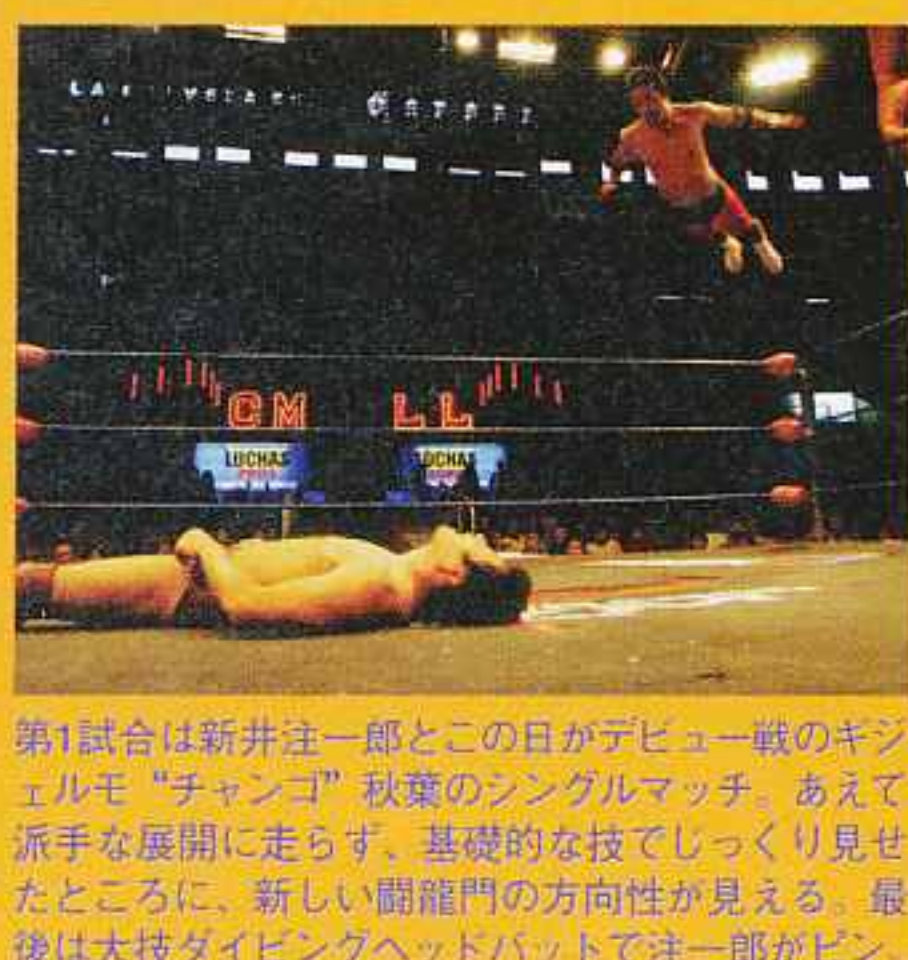
――凄いレベルで大衆に根付いてますよね。

ウルティモ　だからなくならないんですよ。

タイガー　なんかさあ、後楽園ホールとか武道館じゃなくて、もっと安いとこで、もっと安いチケットでやってみたくなったね。

ウルティモ　５００円とかでやって、

アレナ・メヒコ&コリセオの大会ポスターにはタイガーの写真が大きく使われていたが、残念ながら日曜のコリセオと月曜のプエブラは肉離れで欠場。タイガーはスーツ姿でセコンドとして登場し、それぞれネグロ・カサス、アトランティスが代役をつとめた。

5・14 闘龍門8周年記念興行
in アレナメヒコ DIGEST

サトル・サヤマの"戦友"リンゴ・メンドーサとアメリコ・ロッカが第2試合に登場。ネグロ・ナバーロ&ホルヘ・リベラ組とメキシコ版"大王vs委員長"のような試合で観客をディープな世界へ誘った。

第1試合は新井注一郎とこの日がデビュー戦のギジェルモ"チャンゴ"秋葉のシングルマッチ。あえて派手な展開に走らず、基礎的な技でじっくり見せたところに、新しい闘龍門の方向性が見える。最後は大技ダイビングヘッドバットで注一郎がピン。

見てみ、この客入り！　外見はちょっとボロいアレナ・メヒコだが、中に入ると、オーロラビジョンや席の配置、そして入場花道など、日本の横浜アリーナにそっくり。これは試合前の写真だが、最終的には9214人もの観客が集まる大入りだった。

プロレスファンなら一度は足を運びたい会場のひとつである、"ルチャリブレの殿堂"アレナ・メヒコに早くから長蛇の列が！　この日は全席自由席だったからとはいえ、闘龍門の興行でこれだけの観客が集まるのは本当にすごいことだ。

やっぱり佐山さんは伝説ですよ。レスラーが控室でみんな写真撮っていくんです（ドラゴン）

子供たちに夢を与えるようなものをやりたいですね。日本のプロレスって技がもの凄い進化しちゃって、ファンの要求もあるんだろうけど、どんどんエスカレートしてレスラーが身体を酷使してるじゃないですか。でも試合数は減ってる。減ってるから一回の興行の売り上げを上げなきゃいけない。じゃあ8千円のチケットなんて子供が買えるかって言ったら、買えないですよね。

——大人でも結構キツいですよ。

ウルティモ　だからお父さんお母さんが、子供たちを連れて行けるような料金にして、レスラーも人間で限界があるから、昔のスタイルに戻していけばいいと思うんですよね。いまは机を使って場外でパワーボムしたりとか、そんなの毎日できないですよ。生きるか死ぬかみたいなことは3ヶ月に一回とかしかできないですからね。

——一昨日は浅井さんも佐山さんもラヨ・デ・ハリスコJr.も技が少なかったですもんね。

ウルティモ　でもお客さんは沸いてましたよね？　これがいまのプロレスに足りないことなんですよ。特別に凄いことをやってないですからね。

タイガー　いまの日本のプロレスは“闘い”を見せられないんですよ。プロレスは本来“闘い”だし、お客さんはアクロバットを見に来るんじゃなくて、リング上の闘いを見にきてるんだから。いまのプロレスは凄いなんて言われてるけど、飛び技だったら中国雑技団とか体操選手の方が凄いし。それがプロレスだって思うんだったらプロレスファンじゃなくて、サーカスのファンですよ。私は格闘技のマネをしたプロレスには大反対なんだけども、魅せるものをキチッと見せて、その上で闘いを見せて、お客さんの心が沸き上がるようなプロレスを見せなくちゃいけない。それをどうやって演出するかっていうと、レスラーたちがプロレスというものを履き違えないで、全員が心構えをしっかりしてないとね。

——プロレスラーとしての心構えが大事だと。

タイガー　体操選手に一ヶ月ぐらいプロレス教えてたら、いまの選手よりもっと凄いことやらせることできるよ。私だったら一週間で創ってみせるから（笑）。本来プロレスとは、ちゃんとした基礎の練習から始めて、道場でプロレスラーとしての思想を元に育てていって、そしてリングに入っていくというのがプロレスなんだよね。でもいまはプロレスはバカにされるし、それが悔しい。だから若い選手を育ててみたいんだよね。私の本業は格闘技ですよ、でもプロレス界がバカにされてたら許せない。だから選手たちには両方をできるようにしておきたいんですよ。

ウルティモ　いまはいろんなスタイルがあって、何がプロレスなのかっていうのが漠然としてしまったじゃないですか。僕も最初に闘龍門を作ったときは、即席にババッとレスラーを作りましたけど、それはちょっとダメだなってわかりましたね。（昨日の）闘龍門の第一試合は見ました？　いままでの闘龍門とは違ったスタイルだったでしょ？

——極めて技が少ない、昔の新日本の前座みたいなスタイルでしたよね。

ウルティモ　彼らはまだまだ技術的には未熟ですけど、気持ちは出せたし、結構お客さんに伝わったかなって思うんですよ。ああいうふうに変えていきたいですよね。

タイガー　確かにあの試合はまだまだだけど、やり方は素晴らしいんですよ。あのスタイルでお客さんを掴む方法をどんどん覚えていって欲しい。限られた技だからこそ、お客さんの心を掴むタイミングや呼吸を覚えられるんですよ。そしてその上にスペクタクルな技が出てくれれば、どんどん素晴らしいプロレスになっていく。やっぱりその部分から育てていかないとプロレスではないんだよね。そういうベースをしっかり持ってれば、お客さんも一緒になって応援してくれますよ。

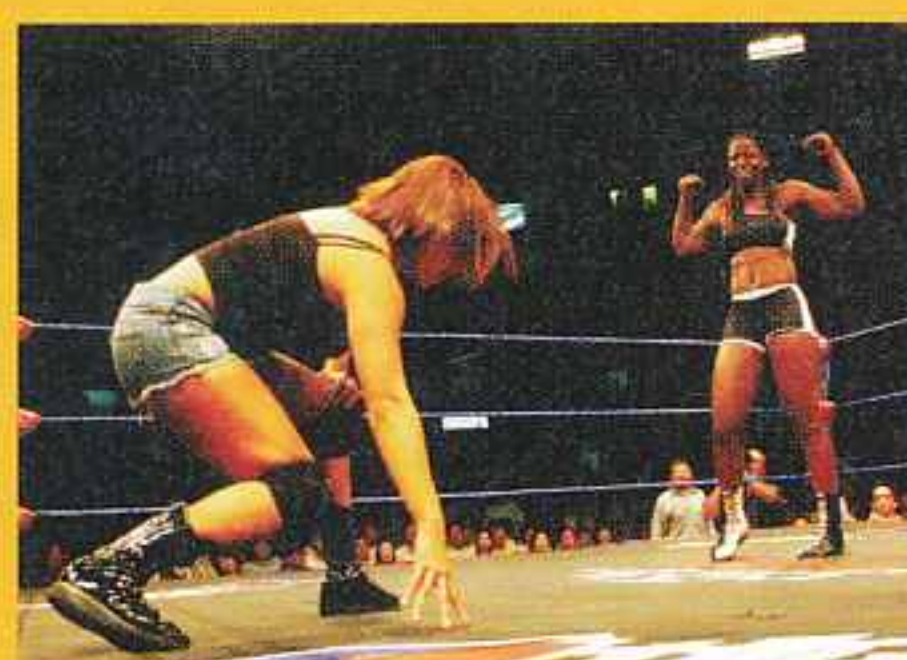
——今回、ボクはアレナ・メヒコとアレナ・コリセオで初めてルチャを見たんですけど、お客さんがちゃんと勝ち負けで熱中してて、タイガーマスク時代の新日本の会場みたいな雰囲気だなと思ったんですよ。

ウルティモ　本来のプロレスってそうじゃないですか。最近はプロレスの記者でも勝敗は関係ないなんて言ってる人もいますからね。関係ありますよ！

タイガー　アレナ・メヒコのお客は見る目が厳しいからね。あたかもタイのラジャナムダンやルンピニーの

とにかく会場入りのたびにファンに囲まれ、サインや記念撮影をせがまれていたタイガー。そのファン層は老若男女問わず実に幅広い。まさに80年代前半のタイガーマスクブームを見るかのようだったのだ。

TIGRE ENMASCARADO × ULTIMO DRAGON

セミは闘龍門名物「ドラゴンスクランブル（時間差バトルロイヤル）」になんと、メキシコでいま人気絶頂のミスティコが参戦！　バトルでもその素晴らしい動きは失われず、ブッチギリで優勝を飾った。7月の日本初登場がいまから楽しみだ！

メヒコでは極めて珍しい外国人同士の女子プロレスも組まれ元WWEのニディアとリンダ・マイルスが対戦。試合は大暴走のリンダがなぜか試合中に控え室に戻ってしまいリングアウト負け。試合後、負けた腹いせに注一郎をムチでしばいていた。

空位となっていたUWA世界6人タッグの王座決定戦がここで実現。普段はみちプロで暴れ回るサルセロスが、ソラール、ウルトラマン、ウルトラマンJr.のレジェンドチームから勝利を挙げ、見事、新王者に輝いた。

この日のベストマッチはなんと言っても、奥村、田口、MAZADAvsブラゾスの6人タッグ。とにかくポルキー（ブラタ）の人気は異常。冗談抜きでK-1 MAXでの魔裟斗、KID以上の大歓声なのだ。最後はマイクをもって「メヒコ、ハポン、トモダチ!」

It's Monster Holiday!
〜高田延彦の休日〜

『ハッスルMAGAZINE』は
携帯サイト『紙プロHand』で
買えます!!

ここで
高田
貴重な

ファンのようなんだよ。だからタイにムエタイがあるように、メキシコにルチャがあるように、こういう文化を築ければ、日本のプロレスも素晴らしいモノになると思うよ。

ウルティモ　いまプロレスが盛んな国と言ったら日本とアメリカとメキシコだけですよね。で、10年ぐらい前、日本が本場を超えて世界一だって言われてたじゃないですか。でもいまは日本が一番ダメですよね。WWEとルチャはもう文化ですから。

タイガー　いまの日本のプロレスには導きがないんだよね。

ウルティモ　マスコミも悪いと思うんですよ。「勝ち負けじゃない。内容が大事だ」とか書いて。プロレスは格闘技とは違う価値観でやってますから内容ももちろん大事なんですけど、やっぱり勝ち負けなんですよ。

——勝ち負けに価値がないからベルトの価値も落ちちゃうんですよね。

タイガー　だから日本のファンを一回切っちゃえばいいんだよ。だって今のプロレスファンはホントのプロレスファンじゃないんだから。

——ホントのプロレスファンじゃない（笑）。

タイガー　ファンを切っちゃうって言うのは違うかもしれないけど、その人たちの思想を切って、そして新しい思想を植え付ければいいんだよね。中には中国雑技団とかサーカスが面白いっていう人もいるけど、ホントは勝負が面白いんだから、絶対ファンの意識を変えていくことはできると思うよ。

ウルティモ　日本のプロレスがこんな風になっちゃったのは、僕らの世代にも責任があると思うんですよ。だからあと何年できるかわからないですけど、もうちょっとちゃんとした状態で次の世代にバトンタッチしてあげたいと思いますね。

またメキシコに来たいな そのときはちゃんと 高地トレーニングやってね

さらに原点に返って 次はサトル・サヤマとして 出てほしいんですよ（笑）

大会翌日はキング・アリババやニディア、リンダもさそってメキシコの観光地ソチミルコへ出かけた。こうした細かい心配りもウルティモのプロデュース能力のひとつだ。

TIGRE ENMASCARADO × ULTIMO DRAGON

——そういう意味でも佐山さんに浅井さんが協力するリアルジャパンには期待してますよ。

タイガー　リアルジャパンは次の世代の人たちが頑張っていく場だから。その中で私が導けることがあるんだったら協力するしね。もちろんタイガーマスクを見にくるお客さんもいるだろうけど、そういった人たちに、若い選手が昔のタイガーより凄いモノを見せれるようにしたいと思うんですよ。

——タイガーマスクが目の前でお手本を見せてくれるんだから、最高の教材ですよね。

タイガー　そういう責任があるから、もの凄く練習しますよぉ。相当凄い試合をお見せするから。6月9日は後楽園ホールにゼヒ見にきてくださ〜い。

——ただ、残念ながらこの対談が載るのは大会後なんですよね（笑）。

タイガー　え〜、そうなの〜？　何だ、言わなきゃよかった（笑）。

ウルティモ　でも気持ちだけでも伝わればいいですよ。

——では佐山さん、次回のメキシコ遠征はいつ頃になりますか？

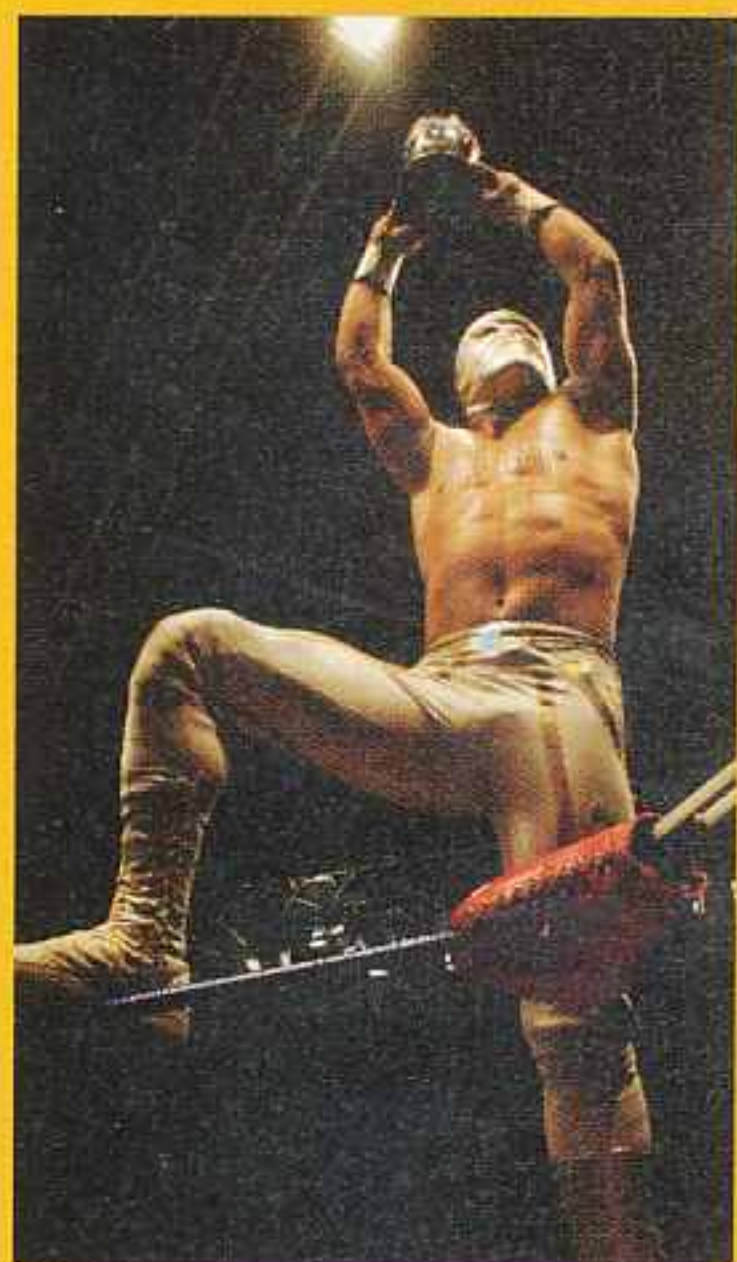
タイガー　次は9月に来てくれって言われました。アレナ・メヒコでデカい大会あるんだよね？　これからはちょくちょくメキシコに行きますよ〜。

ウルティモ　ホントですか？

タイガー　ウソ（笑）。

——ありがとうございました（笑）。

【5月16日／メキシコシティ・浅井嘉浩邸にて収録】

噂のミスティコついに初来日! 7·19 DRAGON DOORは 絶対に見逃せない!

メキシコでいま人気絶頂の"超新星"ミスティコの初来日がついに決定! 闘龍門が主催する新イベント、7・19『DRAGON DOOR』でついにそのベールを脱ぐこととなった。その美しい空中殺法と華麗な姿はとにかく必見! この他にも旧T2P勢の大集結も噂されるこの大会、プロレスファンなら絶対に見逃せない!

■日時　7月19日（火）19:00開始
■場所　東京・後楽園ホール
■料金
特別リングサイド　〈前売り〉7000円〈当日〉8000円
リングサイド　〈前売り〉6000円〈当日〉7000円
指定席A　〈前売り〉5000円〈当日〉6000円
指定席B　〈前売り〉4000円〈当日〉5000円
当日立見　3000円
■問い合わせ　有限会社 闘龍門　03-5683-5022

スーパータイガー、20年ぶりに復活！
『リアルジャパン・プロレス』ついに旗揚げ!!

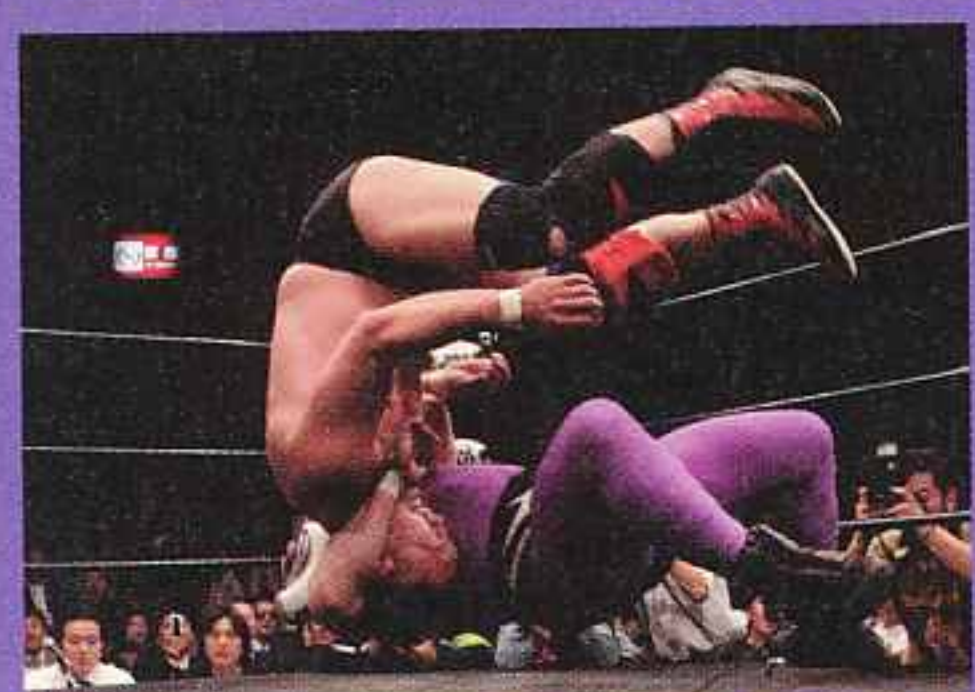
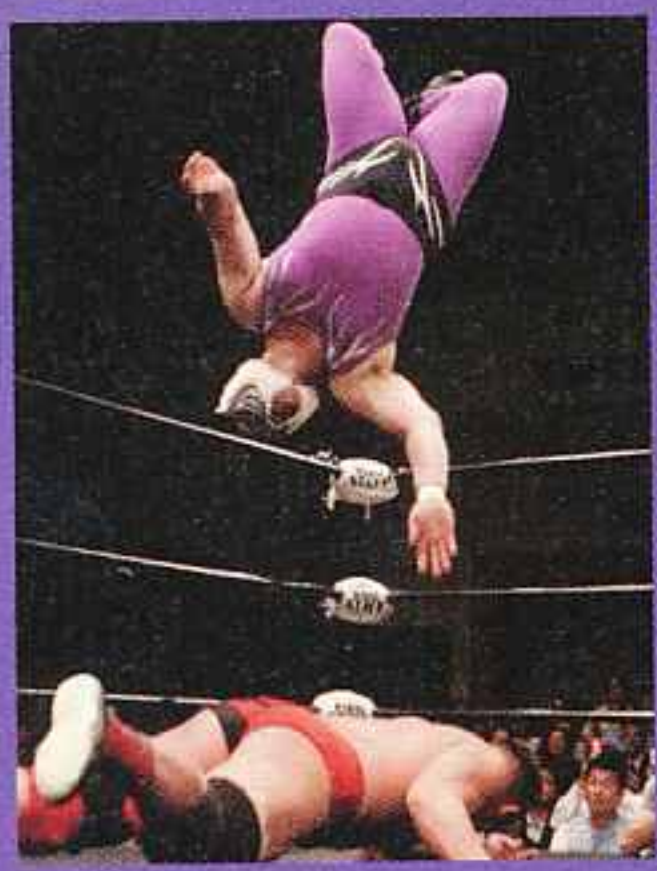
6・9後楽園ホール　DIGEST

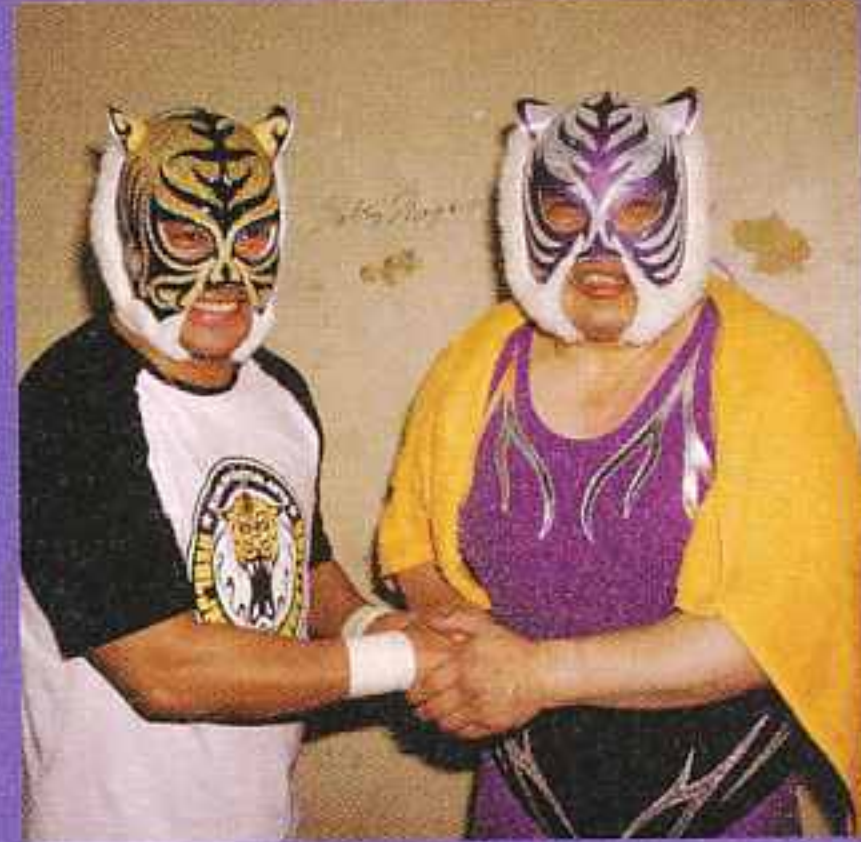
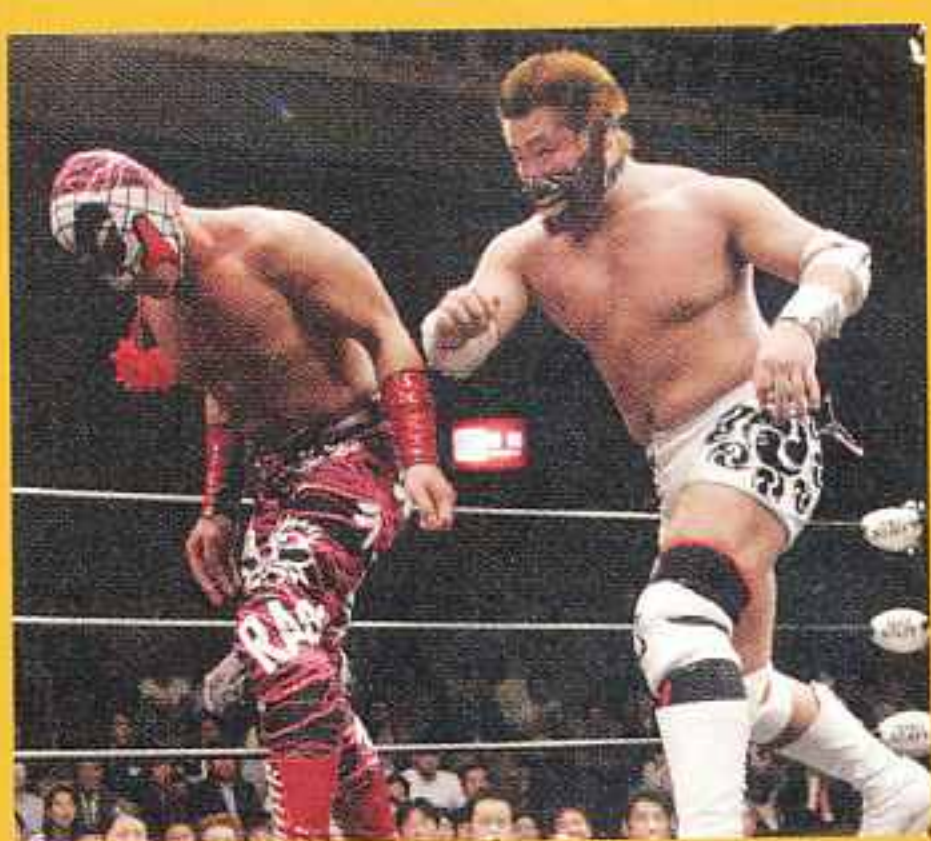
メキシコでプロレス心を取り戻した初代タイガー、佐山サトル皇帝が「本物のストロング・スタイルのプロレスを復活させるために」ついに新団体「リアルジャパンプロレス（真日本プロレス）を旗揚げ！　第1次UWF以来、20年ぶりにスーパータイガーで登場し、メインで大谷晋二郎に敗れるも、タイガーのレパートリーを惜しげもなく披露した！

ここ最近はドラゴン藤波ばりに「飛ぶ振り」ばかりで決して飛ばなかったタイガーが、この日はホントにプランチャを披露！　感激！

全盛期と同じようにコーナー最上段で人差し指を天に突き上げるタイガー。メキシコで負傷した肉離れの影響を感じさせない華麗な姿だ。

「飛べない虎はただの○だ！」とばかりに重量感たっぷりのダイビングヘットバッドでコーナーから舞い降りるスーパータイガー。この日はなんと、3度も空中殺法を繰り出した。完全復活も近いか!?

タイガーの代名詞と言えばやはりなんと言ってもローリング・ソバット。子供の頃、誰もが真似したこの技のキレはいまだに衰えていない！

出た！　三沢のそれとは格好良さが違う"正調"タイガードライバー！　自分の足も浮いてしまう高速ネックチャンスリー、これが本物だ。

なんとなんと、まさかのラウンディングボディプレスまで披露したスーパー・タイガー。しかし、これは大谷にかわされ自爆。

近年にない大奮闘だったタイガーだが、最後はスタミナ切れで大谷のキングコブラホールドに捕まり無念のギブアップ。

試合後、7・19DRAGON DOORで初代タイガー＆2代目ザ・タイガーvsウルトラマン＆ソラールを発表。"佐山信者"2代目ザ・タイガーからは、かつてウルトラマン戦で初公開したスペース・フライング・タイガードロップをリクエストされ苦笑い。

第1試合をつとめたのは、みちのくの地方巡業で佐山がコーチしたラッセと影虎が"ストロングスタイルの第一試合"を見事やってみせた。

プロレスだけでなく、掣圏真陰流のトーナメントも行われた。異常に早いブレイクの中、スーツ型道着で殴り合う姿はまさに掣圏。

掣圏真陰流の血だらけの殴り合いを後に、サルセロスが陽気な音楽と共に踊りながら入場。この硬軟併せ持つのがリアルジャパンだ。

かつてUWF無限大記念日に登場したザ・タイガーが2代目となってUWFの聖地・後楽園ホールに21年ぶりに登場（正体は浅井閣下）。入場テーマが「バーニング・タイガー」（佐山の歌入りバージョン）というところが、浅井閣下ならではのこだわりだ。

It's Monster Holiday!
『ハッスルMAGAZINE』は携帯サイト『紙プロHand』で買えます!!

スクメキシコツアーおっかけ日記

ボクが今回、メキシコに行こうと思ったのは、単なる思いつきだった。闘龍門が8周年記念大会を〝ルチャの総本山〟アレナ・メヒコで開催。そこに現地では〝伝説〟となっている初代タイガーマスク、飛行機嫌いで有名な佐山サトル皇帝が27年ぶりにメキシコに渡り出場する。そんな情報を得たとき、なんとなくプロレスファンとしての嗅覚というか、面白いものが見られるようなカンが働き、思わずメキシコ行きの航空券を押さえしまった。本当にそんな感じだ。

だから今回は、〝出張〟ではなく、あくまで〝遅めのGW休み〟を取ってのメキシコ旅行。とは言え、せっかくメキシコに行くのだから、出発前に浅井さん（ウルティモ・ドラゴン）に「メキシコで佐山さんとの対談をやらせてほしい」旨をメールしてから、5月12日、3年半ぶりメキシコへ旅立ったのだ。

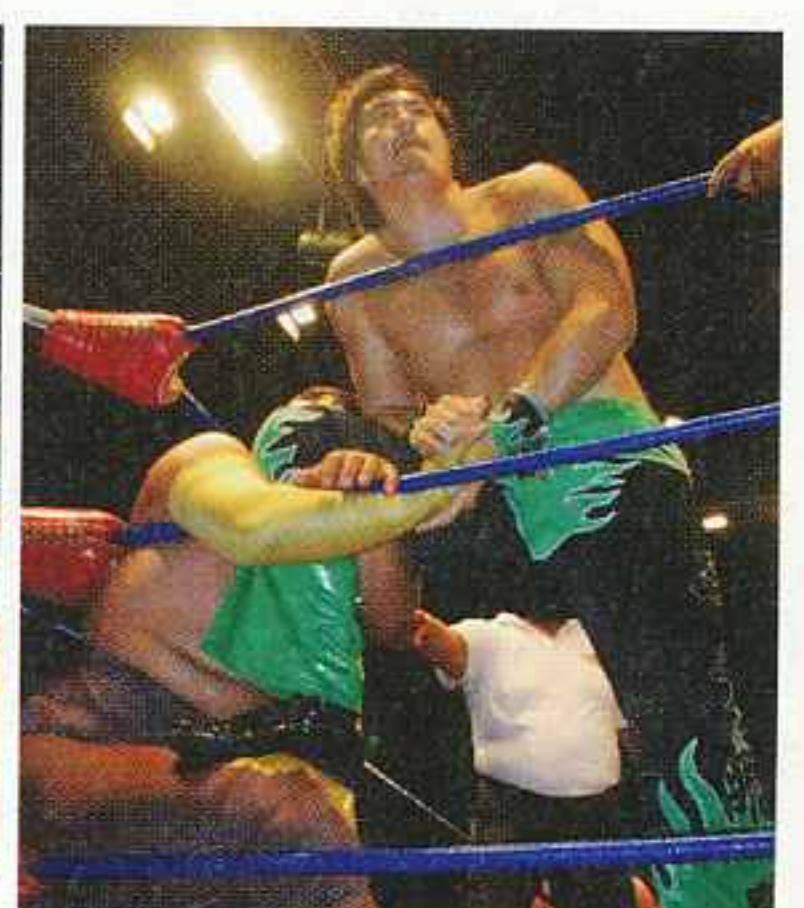
ヒューストンを経由した計17時間にも及ぶフライトを経て現地時間18時、ようやくメキシコシティへ到着。事前に空港ピックアップをお願いしていたので、その車に乗って宿に向かう。ボクがこれから5日間お世話になる宿は、日本人旅行者（バックパッカー）を対象にした、いわゆる日本人宿。シャワー、トイレ共同で一泊12ドルと激安ながら（現地の安宿としては高い）清潔で、しかも日本人以外は泊まれないことから中級ホテルよりはるかに安全ということで、「いつも旅行者でいっぱい」と『地球の歩き方』にも書いてある。

英語すら通じないメキシコでの一人旅。周りに日本人がいれば何かと不自由しないだろうとここを選んだのだが、宿に入ってみたら、宿泊客のくつろぎスペースにタンクトップ姿のやたらガタイのいい男がひとり。そのタンクトップに書かれていた文字は英字で「ドロップキックマスター リュウスケ・タグチ」。なんと新日本プロレスの田口隆祐選手ではないか！

早速、挨拶すると田口選手は今年2月からメキシコ武者修行に来ており、この日本人宿に長期滞在しているのだという。さらに昨年、全日本を退団した奥村茂雄選手も同じく長期滞在中だということも判明。聞けば、ここは日本人旅行者だけでなく、ルチャ修行の日本人レスラーも御用達の宿だったのだ。

部屋に荷物をおいてきたあと、くつろぎスペースで田口選手と長話。内容はプライベートなことが多いので割愛するが、彼の男として置かれた状況を考えると、よくぞ単身メキシコ修行に来ているものだと感心。話した感じも好青年そのもので、すごく応援したくなった。田口選手はメヒコでルチャを身につけ、10月のドームで凱旋帰国を狙っているという。「でも、10月のドーム、ホントにあるんですかね？（笑）」。頑張れ、田口選手！

5月13日（金）

朝食を食べようと、くつろぎスペースに行くと、昨夜は会えなかった奥村選手に遭遇。肩の筋肉が目立つノースリーブシャツに金髪のその姿は、宿でも明らかに異質な存在感を漂わせていたので少々話しかけずらかったが、挨拶すると非常に気さくな人で一安心。無口に見えるその風貌とは裏腹に、話してみるとメヒコでの苦労話や日本のうわさ話など、とにかくしゃべるしゃべる。その話がとても面白かったので、メキシコ滞在中にインタビューさせてもらうことに決定！

昼間、メキシコシティ郊外、ナウカルパンにある闘龍門メキシコの道場に挨拶に行った後、夜はCMLLの定期戦を見にアレナ・メヒコへ。メキシコには日本のような「シリーズ」という形態はなく、CMLLは金曜日にアレナ・メヒコ、日曜日と火曜日にアレナ・コリセオといった形で、週に3回メキシコシティで定期戦が開催されている。会場の規模で言うと、コリセオが後楽園でメヒコが両国といった感じ。同じ団体が毎週、後楽園2回と両国1回やってると思うとすごい。

この日のチケット料金は150ペソ～40ペソ。だいたい日本円にすると1500円～400円ぐらい。日本と比べたらいけないんだろうけど、比べ物にならないくらい安い。だからこそ、日本では〝絶滅の危機〟にさらされているちびっ子ファンが本当にたくさんいるのだろう。でも、これがプロレス会場の本来あるべき姿だと思う。

90ペソのチケットを買って会場内へ。この日はメインで人気絶頂のミスティコvsペロ・アグアヨJr.の一騎打ちという好カードが組まれているからか、広いアレナ・メヒコが超満員！前座から盛り上がりも凄まじい。

そんな中でティグレ・エンマスカラードこと我らが皇帝、初代タイガーはセミに登場。しかもウルティモ・ドラゴン、ドスJr.と組んで、CMLLのトップルード、U・ゲレーロ、ブカネロ、タルサン・ボーイと対戦という豪華カード。しかし、まだルチャの感覚が戻ってないのか、試合には勝ったもののタイガーの動きがやや鈍い。あとで話を聞くと、「ハイスパート失敗してバコーンと蹴りが入っちゃって、そのときプチッて肉離れいっちゃったみたいなんだよね～」とのこと。そう、一歩間違えたら、第2の「小林邦昭失神事件」の再現だったのだ。そしてまたしても肉離れ……。はたして明日の闘龍門は大丈夫なのか？

そしてメイン。ミスティコvsアグアヨJr.はとにかく凄かった！この試合を見たら、「日本のJr.は世界一」なんて絶対に言えないはず。噂のミスティコはまさに噂以上！飛び技が凄いのもそうだが、一つ一つの何気ない動きがいちいち美しく色気があるのだ。例えるならば、それこそ全盛期の初代タイガーマスクのよう。そして対戦相手のアグアヨJr.もまた若いのに初代ブラック・タイガーばりの試合巧者なのだから、いい試合にならないはずがない。20歳そこそこの2人がこれだけの試合をやってのけるのだから、ルチャはすでに新しい時代に突入していると言っていいだろう。若いスターがちゃんとトップを張っているのが素晴らしい。逆に言えばトップが相変わらず30代後半や40代ばかりの日本はやはり異常というか、人気凋落に歯止めが利かないのも当たり前なのだと実感。

ちなみにこの試合、1－1で迎えた3本勝負のラストをミスティコが必殺のミスティカ（高速コルバタで旋回してからの脇固め）でギブアップ勝ち！　場内大興奮！　いや～、ルチャ最高！　ビバ、メヒコ！

5月14日（土）

いよいよこの日は闘龍門メキシコinアレナ・メヒコ。夜6時半開始な

堀江ガンツの初代タイガーマスク

ので、昼間メキシコのピラミッド、テオティワカンを観光した後、5時ごろ会場へ行くと、そこには長蛇の列が。日本からのツアー客や在メキシコ邦人なども多数いたが、ちゃんとメキシコ人のお客さんもたくさん来ている。会場内に入ると、アリーナと1Fスタンドはギッチリ、2Fスタンドも解放し、前日のCMLLに負けないくらいの大入り。これってホントに凄いことだと思う。だいたいルチャの総本山で外国人レスラーが興行を打つなんて、日本で言えば、朝青龍とか外国人力士が両国国技館で相撲の興行を打つのに近いんじゃないだろうか？

だからこそ、大会のオープニングで『闘龍門のテーマ』がアレナ・メヒコに大音量で流れたときは、も〜う鳥肌立った！（高田調）昨年、闘龍門JAPANがドラゴンゲートに変わり、日本では「闘龍門」が消滅したと思っている人もいるかもしれないが、どっこいメキシコでさらに大きく進化していたのだ。

大会自体もウルティモ・ドラゴンこと浅井嘉浩閣下のタイガーマスクや古きよきルチャリブレへのリスペクトに溢れていてすばらしいものだった。特にエンディングでタイガーマスク、リンゴ・メンドーサ、ソラール、ウルトラマンらが紙吹雪が舞う中、一同に会したシーンに感動！

少年時代の憧れであるタイガーマスクとそのライバルたちを呼んで、ルチャの殿堂、アレナ・メヒコで大会を開く。こんな夢を実現させた浅井閣下こそが、最高に幸せなプロレスファンであり、僕らと同じ夢を共有できるプロデューサーだと感じた夜だったのだ。

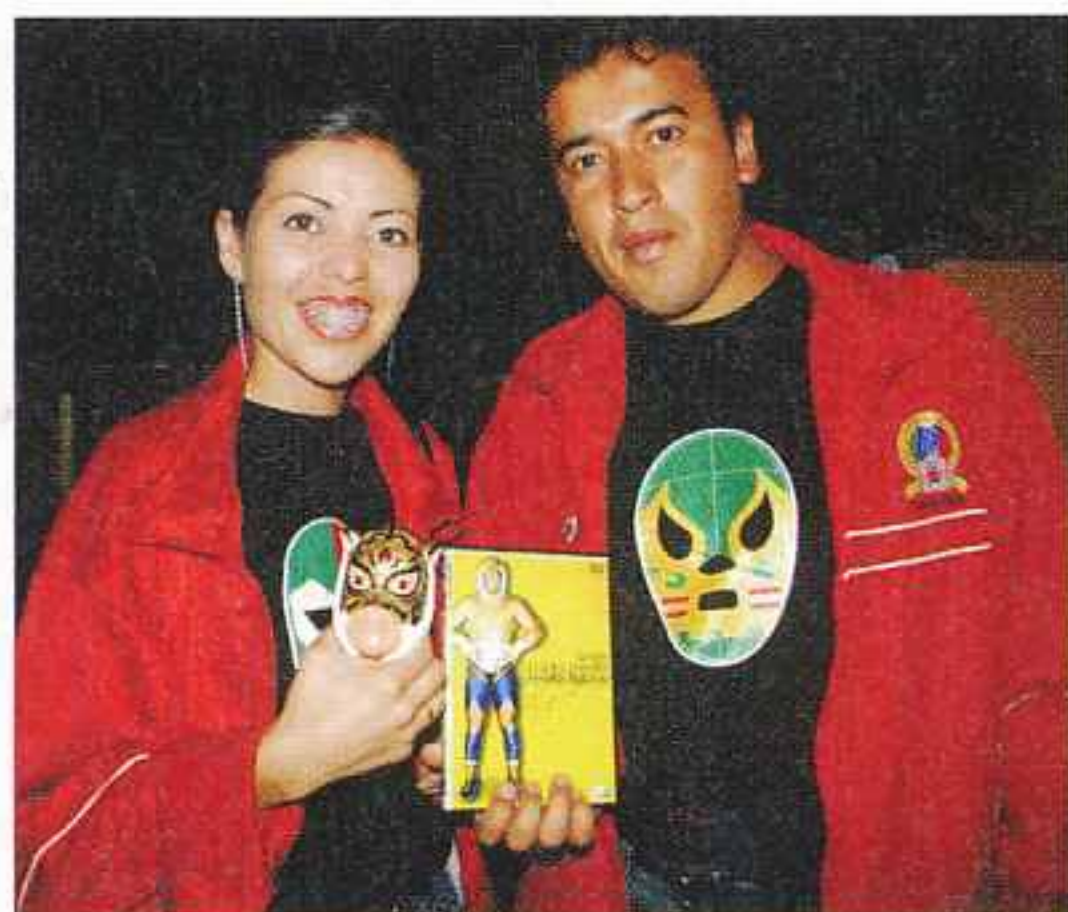
5月15日（日）

朝、宿の近くにある大きな公園で奥村選手をインタビュー。その言葉の端々に日本を捨て単身メキシコで生き抜く男の意地を感じた。「日本にいつ帰るかなんて考えてない」というが、いつか日本でその変身した姿を見せてほしいと思う。

インタビュー後、この日は浅井閣下が昨日出場した外国人選手と我々マスコミをメキシコシティの観光地、ソチミルコにつれて行ってくれるというので、浅井閣下とキング・アリババの車に分乗して出発。大会翌日で疲れているはずなのに、こうしてみんなを観光につれていってくれる浅井閣下に頭が下がる。

ソチミルコはかつてメキシコシティが湖上都市だったことを偲ばせる船上観光地。ド派手な船に乗り、タコスなどを食べながらのんびり過ごしたが、そこで浅井閣下はタイガーマスクのマニアックな話を連発。マスコミはおろか本人である佐山皇帝でも知らないカルトな内容に一同閉口。なんだかんだ言っても、憧れのタイガーを案内する浅井閣下自身が一番楽しんだのかもしれない。

ソチミルコを後にして、車で今日の試合場、アレナ・コリセオへ。会場に着くと、一斉にファンがタイガーマスクに群がる。サインをせがむ子供たちに囲まれ前へ進めない姿は、まさに20数年前のタイガーマスクブームのよう。日本で発売されたタイガーマスクの雑誌やムック持参のマニアも多数いた。メヒコでのタイガー人気は本当だったのだ。

ところが、いざイベントになるとタイガーはなぜかスーツ姿で登場。なんと肉離れにより、欠場だという。

目玉選手の欠場が事前に発表されず、何事もなかったかのようにネグロ・カサスが代役を務めてそれでOKな、ルチャのおおらかさというかいい加減さに、ある意味感動した。

メイン後、佐山皇帝は出待ちのファンをかき分け、車まで片足を引きずりながら移動。そして一言。「こういうのをセールって言うんですよぉ。うふふふ」。さすがだ！

5月16日（月）

朝、例によって宿のくつろぎスペースで朝食。奥村選手の〝荒谷望誉話〟に大爆笑。荒谷選手が全日本の選手間で愛されているのがよくわかる。いつか「荒谷伝説」として誌面にしたい。ある意味、素晴らしい金脈発見だ！　ビバ、荒谷！

朝食後、浅井閣下の自宅で本誌の目玉企画、タイガー×ウルティモ対談inメヒコの収録。初めて行く浅井閣下の自宅は高級住宅地区にあるお金持ちだけが住むマンション。もうオシャレでモダンで、陳腐な表現を承知で使うと、90年代のトレンディドラマに出てくるような部屋。でも、そんな部屋でも飾ってあるのは貴重なマスクや、アントン、ティグレとの記念写真（サイン入り）などであり、さらに部屋の奥から何を出してくるかと思えば、子供の頃から集めたタイガーマスクの本や、サトル・サヤマのプロマイド！　そこに一つ一つサインを入れてもらいご満悦の浅井閣下。もう、呆れるほどの大人のプロレス少年だ。

対談終了後、遅めのランチを食べにアレナ・メヒコの近くにある屋台のタコス屋へ。実はここ、初代タイガーのかつてのライバル、ベビーフェースが引退後にオープンした「ウマい」と評判の店。そしてタイガーとベビーフェースの再会を喜んだあとに出て来た名物のタコスとチャーハンは、これがホントにウマい！　特にチャーハンは味付けに醤油を使った日本人にはたまらない味。しかも、1人前で3人分ぐらいある超大盛り！　アレナ・メヒコすぐ近くにあるので、メキシコに行った際はゼヒ食べに行くことをオススメします。

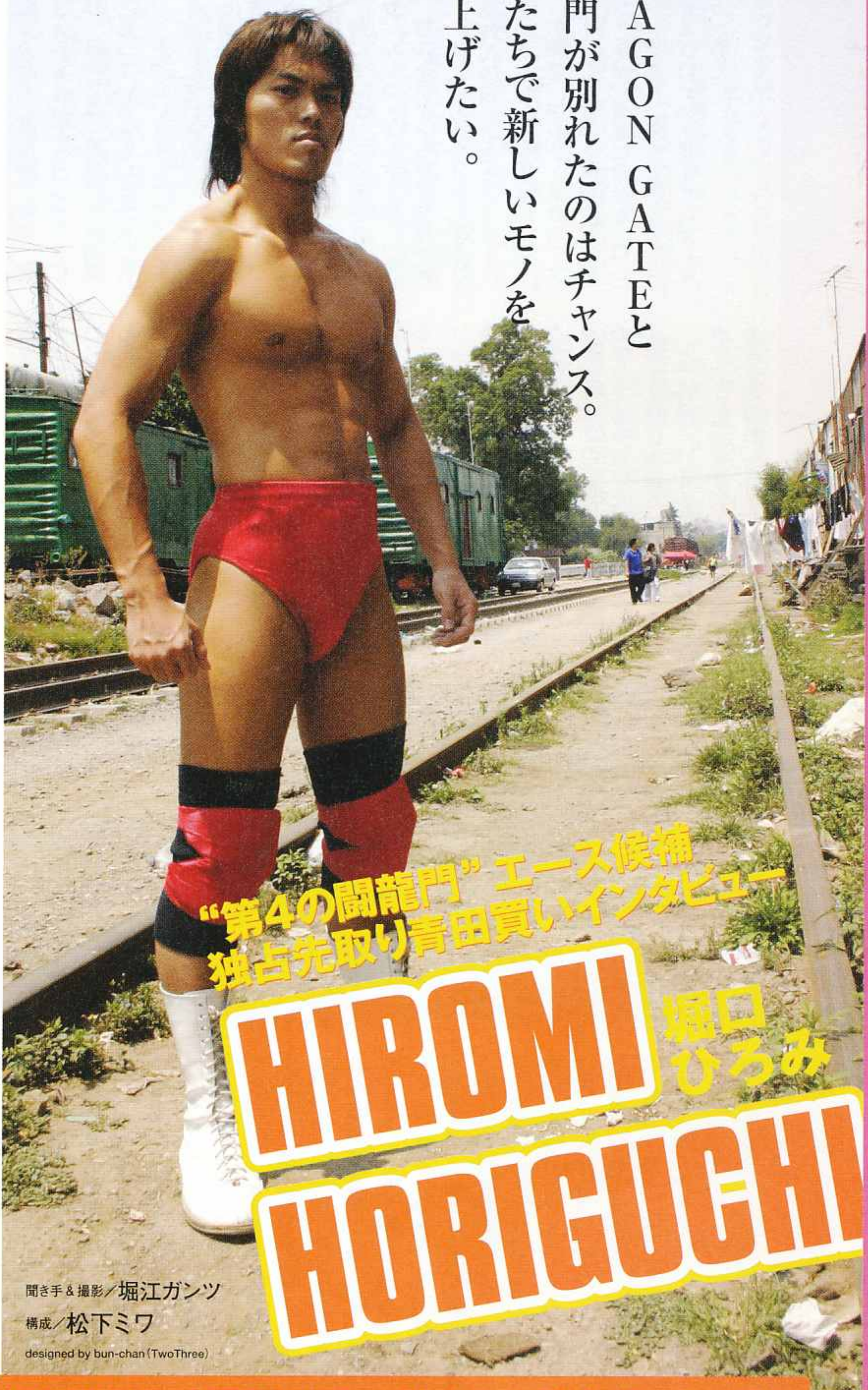
そして、夜はタイガーマスク・メキシコツアー最終日、アレナ・プエブラ大会。タイガーは肉離れでこの日も出場できないが、挨拶だけでもするために、車で2時間走りプエブラの街へ。ここでもタイガーは大人気。試合に出られない代わりに、たくさんの子供に一生懸命サインをしていた。

メキシコの平日興行は夜9時スタートなので、メインが終わったのは12時。浅井閣下の車に乗ってみんなで帰る途中、高台から見るメキシコシティの夜景は実に美しかった――。

こうして思いつきだけで来てしまった、タイガーマスクinメヒコ同行ツアーは終了。終わってみれば、ボクのカンは間違っていなかった。なぜなら、この5日間で忘れかけていたプロレスファンとしての気持ちを完全に思い出させてもらえたから。それは初代タイガー、佐山皇帝も同様だろう。〝戦友〟との再会を喜び合いう中で、メキシコでプロレスに青春を掛けた初代タイガーマスクの原点を思い出したに違いない。

そして、みんなのプロレス心をこうして呼び起こすことこそが、〝永遠のプロレス少年〟ウルティモ・ドラゴンのプロデュースに他ならないのであった。

It's Monster Holiday!
『ハッスルMAGAZINE』は携帯サイト『紙プロHand』で買えます!!

DRAGON GATEと闘龍門が別れたのはチャンス。自分たちで新しいモノを作り上げたい。

"第4の闘龍門"エース候補
独占先取り青田買いインタビュー

HIROMI HORIGUCHI 堀口ひろみ

聞き手＆撮影／堀江ガンツ
構成／松下ミワ
designed by bun-chan（TwoThree）

04年5月のデビュー以来、『闘龍門』の期待の星として走りつづける堀口ひろみ。その"メヒコ修行生活"を現地メキシコにて直撃取材した!

――今回堀口さんには、闘龍門メキシコ勢を代表してお話を伺おうと思っております!

堀口 よろしくお願いします。

――さっそくですが、堀口さんは『闘龍門』では何期生になるんですか?

堀口 13期生ですね。同期に松山勘十郎や岡田和睦、ミラニートコレクションa.t.なんかがいます。12期生になるとGALLARDO、いちばん古株は11期生の3人ですね。いまは事情があって日本に一時帰国してますが。

――堀口さんご自身は今年でデビュー何年目になるんでしょうか?

堀口 丸1年です。04年の5月にデビュー戦をしましたから。

――たしか、ウルティモ・ゲレーロ&レイ・ブカネロ&タルサン・ボーイ&スペル・クレイジー組という、とんでもないメヒコのエストレージャとデビュー戦でいきなり当てられたんですよね。

堀口 相手もすごいんですけど、一緒に組んだのがウルティモ・ドラゴンですからね! それにバンピーロ・カナディエンセと石森太二も。

――これはもう、デビュー戦から大物扱いっていうか、"エース候補"として育てるという証明じゃないですか?

堀口 どうなんですかね（笑）。

――いまはどのぐらいのペースで試合をしてるんですか?

堀口 週に2回ぐらいです。だいたいコアカルコとか、そういう小さい会場でやってます。まあ、日本のファンにはまず知られてないでしょうね。超ローカルなんで（笑）。

――ボクもコアカルコって初めて聞く言葉ですね（笑）。

堀口 まぁ、会場と言っても外にテント張ってるだけですからね（笑）。リング外は土とチリ。ただの空き地にリングとイスを置いてるだけです。

――コアカルコ"特設リング"って感じですね（笑）。でも、日本じゃなかなか味わえないですよね。「こんなところでプロレスするなんて」ってかんじだったんじゃないですか?

堀口 場所自体が日本じゃありえないですから（笑）。

――改めて聞くのもなんですけど、堀口選手って『DRAGON GATE』の堀口元気選手の実の弟なんですよね?

堀口 はい、そうですね。

――やはりプロレスを始めたのはお兄さんの影響もあったんですか?

堀口 ないことはないですけど、特別意識はしてなかったし、「やってみようかな～」っていう気楽な感じでしたよ。プロレスはすごく好きでよく見てましたしね。

――ちなみに髪の毛のほうはどうですか?（笑）。

堀口 ボクは大丈夫です。別に育毛

堀口ひろみが語る 闘龍門メキシコ合宿所メンバー紹介

岡田和睦
まだ17か18ぐらいの若いレスラーですね。普段は本当に少年って感じで、さわやかで非常に好感が持てるヤツです。でも180～190センチくらい背があって。校長は「ジャイアント馬場さんみたいにしよう!」とか言ってはりきってます。闘龍門版ジャイアント馬場!

ミラニートコレクションa.t.
校長が「お前、金髪にしたらミラノに似てるんじゃないか」って言い出して、名前もそうなりました。試合では一番動けて、言葉も一番できる。小さい会場だと、ちょっとしたスターみたいな感じです。でも、周りからは●●ニートって言われてますけどね。なぜか彼の部屋はいつも鍵がかかってるんですよ（笑）。

新井注一郎
じつは彼、闘龍門の寮長なんです。新井兄弟（新井健一郎、新井小一郎）に似てたから「オマエも兄弟の一員だ!」ってことで、"大"と"小"の真ん中で"中"一郎だったんですけど、「アライでチュウなら"荒井注"だろう」ってことでこの名前になりました。だからドリフの"撤収のテーマ"で入場するんですよ。

バナナ千賀
見た感じがバナナっぽいから……、っていうのは冗談です。サルセロスで一番新しい選手ですね。とにかくよく喋りますよ、彼は。やたら独り言が多いし、それになぜか歌もよく歌ってるんですよね。

まは事情があって日本に一時帰国し
て育てるという証明じゃないですか？
ところでプロレスするなんて」って
堀口　ボクは大丈夫です。別に育毛

剤とかも使ってないですし（笑）。

――兄弟でも『HAGE帝国』の国民ではないと（笑）。

堀口　断固として違います！

――でも、その帝国が築かれてた、闘龍門JAPANというリングへの憧れはあったんじゃないですか？

堀口　やっぱりそれありましたね。

――じゃあ去年、闘龍門と『DRAGON GATE』と分離したときは、かなりショックでしたか？

堀口　そういう人も多いとは思いますけど、僕的には「チャンスがきた！」ってかんじでしたよ。また新しいものを作っていけるなって。

――ああ、なるほど。その〝新しいものを作る〟という意味でも意を決してメキシコに飛んだというわけですもんね。

堀口　そうですね。

――率直に言ってメキシコはどうですか？

堀口　ちょっと前まではすごく帰りたかったです！

――やっぱりホームシックになっちゃいましたか（笑）。

堀口　だって無理ですよ！　日本と環境がまるっきりちがいますからね。まず、言葉が通じないから人と話せない。だから、こっちにきてすぐの頃は引きこもり状態でしたから。

――プロレスという華やかな舞台に立ちながら、リングを降りたら引きこもる（笑）。

堀口　当時の楽しみといえばネットぐらいでしたから。でも、最近はこっちにも慣れてきたし、もうちょっといたいと思うようにもなりましたね。

――ということは、楽しみも増えたってことですか？

堀口　喫茶店でコーヒー飲みながら本読んだりもしますよ！

――たしかに増えてはいますね（笑）。では、結構ゆっくりできるお休みなんかもあるんですか？

堀口　一応、練習は土日休みですけどね。でも逆に試合が土日中心なんで、休みという休みはないですけど。

――では、女の子と遊ぶ時間も？

堀口　ないかも（笑）。

――ここだけの話、堀口さん的にメキシコの女性はどうなんですか？

堀口　そっちも最初はぜんぜんダメだったんですよ！「やっぱ日本の女性がいいな」と思ってたんですけど、なぜか最近やたら「メキシコ人、かわいい」と思ったりするんですよね（笑）。

――そのあたりも順応できてきたという（笑）。

堀口　だんだんメキシコ人化してます。

――なるほど。ところで、堀口さんはメキシコに飛び立って以来、日本には一度も戻ってないんですか？

堀口　半年ほど前に私用で帰ったぐらいですね。そのときは日本の変わりように驚きましたよ。でも居心地よかったなぁ。

――では「帰りたくない！」って思ったりも？

堀口　はい（笑）。街歩いてて飛行機が飛んでいくの見ると「ヤダなー。何日か後はあれに乗ってるんだろうな」なんて思ってましたからね。

――日本に帰国する計画もないんですか？

堀口　いまのところはないですね。最近は試合数も増えてきたし、それに8周年大会ではついにアレナ・メヒコにも出させてもらいましたからね。やっぱりあれを一度味わっちゃうと「次もやらせてくれ！」って欲が出ちゃいます。

――アレナ・メヒコにはエスコートガールもいるし（笑）。

堀口　そう！　でも僕、手つなげなかったんですよ〜。ボクはドラゴンスクランブル（時間差バトルロイヤル）だったから。

――あ、ブザーが鳴ったら、勝手に走って入場でしたもんね（笑）。

堀口　だからエスコートガールにエスコートしてもらうのは、ある種憧れですよ（笑）。

――エスコートされるまでは日本に帰れないと。

堀口　こっちではやっぱり、アレナ・メヒコでエスコートされてはじめて、ルチャドールとして一人前だって思ってる部分もありますからね。

――素晴らしくわかりやすい基準です（笑）。ではそういうことも含めて、最後に目標を聞かせてください！

堀口　大きな目標は日本逆上陸ですね。それに向けて、ちゃんとメキシコでルチャを習得したいなと。

――いい意味でのメキシコ人化を進めていこうというわけですね。

堀口　プロレスもプライベートもメキシコ人をめざして頑張りますよ。

――じゃあ、目標はメキシコ人ということで（笑）。

堀口　はい（笑）。

記念すべきアレナ・メヒコデビューとなった5・14闘龍門8周年大会ではドラゴンスクランブルに出場し、あのミスティコとも絡んだ。将来は日本で一騎打ちなども見られるか？

エスコートガールにエスコートされてはじめて一人前だと思ってますから（笑）

PROFILE

S55年12月26日、熊本県出身。04年5月16日、メキシコ・アレナ・コリセオでいきなりメインイベントでデビュー。名前が「ひろみ」というだけで、入場テーマ曲を郷ひろみの「2億4千万の瞳」にされる。堀口元気は実兄。

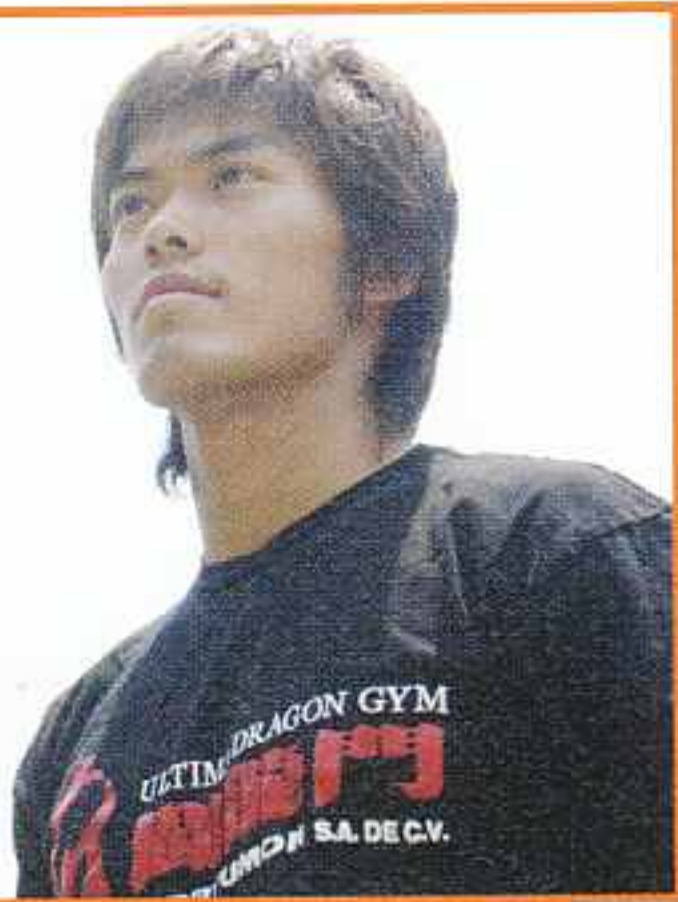
大原はじめ

アイドル好きなんですよ。ちょっとキモイぐらい。ベッドの周りとか、アイドルグッズで大変なことになってます。前に比べるとだいぶ落ち着いたみたいなんですけどね。ヲタ系です完全に。

ギジェルモ・"チャンゴ"秋葉

顔が猿みたいだってことで猿って意味の〝チャンゴ〟っていうのと、校長がひいきにしている旅行会社の秋葉さんに似てて、さらに校長の鞄持ちをしていたギジェルモ・ゲレードさんにも似てるなってことになって。結局この名前になったみたいです。

松山勘十郎

若いわりにちょっと額がヤバイくて本名も渡辺千春だってことで、松山千春から〝松山〟の名を襲名。勘十郎は歌舞伎の中村勘九郎さんにちょっと似てるから「じゃあ、オマエは勘十郎だ！」ってことで。ちなみに、本人的にはあの隈取りが素顔らしいです。

パッション長谷川

彼はサルセロスの一員なんですけど、見たまんまの弱々しい人ですね。よくしゃべりはするんですけど。男なのか女なのか、僕もよく分からないっていう。彼だけは04・9・9「闘龍門X」ファイナルですでに日本デビューしてるんですよ。

それになぜか歌もよく歌ってるんですよね。

It's Monster Holiday!
〜高田総統の休日〜

『ハッスルMAGAZINE』は
携帯サイト『紙プロHand』で
買えます!!

ここで
高田総
貴重な

生き残るのに毎日必死。
日本のこと考える
暇はないですよ。

メヒコに渡って早1年。元全日本・奥村が語る
"もう一つのメジャーリーグ"ルチャリブレの真実

OKUMURA

奥村茂雄

聞き手＆撮影／堀江ガンツ
designed by bun-chan（TwoThree）

今回、メキシコに来て最初に驚いたのは元・全日本の奥村茂雄が同じ宿に泊まっていたことだ。聞けば、ここはこれまでも多数の日本人プロレスラーが長期滞在してメキシコ修行を行った有名な宿らしいが、ボクが泊まったのは、日本人バックパッカーを対象にしたいわゆる安宿。新人レスラーならともかく、メジャー全日本で活躍した10年選手である奥村がそこにいたことは、少なからず驚きだった。
昨年、全日本に退団を申し入れ、単身メキシコに渡って丸1年。これまでのキャリアを捨て、ゼロから必死にルチャに取り組み、メジャーCMLLで確固たるポジションを築きつつある奥村に、日本のファンには知られていない、ルチャリブレの真の姿を語ってもらった。

——いや〜、まさかメキシコに来て奥村選手が同じ宿に泊まってる……というか長期滞在しているとは思いませんでした。

奥村　ボクもまさか『紙プロ』の記者が泊まりにくるとは思いませんでしたよ（笑）。『週プロ』とかはいいとこ泊まってるでしょ？

——『週プロ』さんと『サムライ』さんは佐山さんと同じ高級ホテルに泊まってますね。でも、そこでバックパッカーの宿みたいなところに泊まってるのが『紙プロ』の『紙プロ』たるゆえんというか（笑）。ま、それはいいとして。メキシコに来てどのくらいになるんですか？

奥村　去年の5月14日に来たんで、ちょうど1年ですね。

——そもそもなぜメキシコに来ようと思ったんですか？

奥村　やっぱりプロレスラーとして後悔したくなかったんですよ。僕は全日本を円満に辞めたんですけど、そのあと他団体にお願いしてあちこち出してもらったとしても、結局はいままでと同じように"ひとヤマいくら"の選手になっちゃうなと感じたんで。じゃあ、頭切り替えて本当にゼロからやろうと。で、僕はもともと栗栖ジム出身で、栗栖（正伸）さんにはプロレスに入る前からお世話になってたっていうつながりもあって、それでブラック・キャットさんを紹介してもらってCMLLに話を通してもらったわけです。

——それにしても、思い切りましたね。駆け出しの若手選手ならともかく、全日本というメジャー団体でキャリアがある奥村選手がメキシコでゼロからスタートするっていうのは。

奥村　だから「ここが俺の死に場所だ」っていうぐらいの思いで来ましたよ。中途半端な「いつ日本に帰ろうか」なんていう気持ちじゃ生き残れないと思いましたからね。

——不退転の決意でメヒコに渡ってきたと。

奥村　でも、メキシコに来た時点では就労ビザすらなかったんですよ。だからビザの申請もCMLLにやってもらうことにして。それで最初MASADA君に連れられて会社に挨拶に行ったんですけど、まず言われたのが「とにかく練習に行け」と。CMLLはアレナ・メヒコでルチャのスクールを開いているんですけど、「日本でやってきたスタイルを捨てて、まずそこでメキシコのスタイルを学んでくれ」と。

——日本での10年のキャリアを捨てろ！　厳しいですね〜。

選手層が厚いメキシコではアレナ・メヒコに出るというだけで大変なことなんですよ！

奥村　でも、自分もそのつもりで来ましたからね。だから「はい、わかりました」って言って、必死で練習しに行ったんですけど、やっぱり日本でやってきたことと全然違うから「これはちょっとまいったな」と思いましたね。しかも、ここは富士山の六合目にいるのと一緒ですから、空気が薄いんですよ。

――高度2千メートル以上ありますからね。

奥村　だからすぐに息が上がるし、アレナ・メヒコでの練習は、最初に30分くらい1階から4階まで階段を走るわけですけど、日本で川田さんとやってた階段上り下り30分とは比べモンにならないくらいきつい。でも、そんな練習つづけてるうちにようやくビザがもらえて、地方で試合を入れてもらえるようになったんですよね。テストマッチみたいな感じで2～3試合。そのあといよいよアレナ・メヒコ初登場っていうチャンスをもらえることになって、ブラックタイガー（3代目）とテレビインタビューを受けて、「お前ら来週見とけよ！」と言ったんです。でも、カッコよく言ったはいいけど、あとで会社から「お前、来週なくなった」って言われて（苦笑）。

――え!?　どうしてなくなっちゃったんですか？

奥村　どうやらビザの写真のサイズを間違えてたんです。ビザの写真ってパスポートより微妙に大きいんですけど僕パスポートと同じサイズで出しちゃったんですね。それでストップかかっちゃって。本当に試合なくなっちゃったんです。

――せっかくのアレナ・メヒコデビューが（笑）。

奥村　で、次に決まったのがメキシコシティから遠い遠い会場でね。しかも、その時点ではギャラも決まってないんですよ。査定試合みたいなもんなんで、もう「やったるで！」ってなりますよね。相手がまたネグロ・カサス、サタニコ、フェリーノっていうエストレージャ（スター選手）3人だったんで、死にものぐるいでやりましたよ。その時点ではメキシコらしさとか分からないから、とにかくガンガン前にいって。で、結局反則負けになってブーイングもらって、それからまたしばらく試合待ちだったんですけど、その次の週にやっとアレナ・メヒコに出れたんです。

――長い道のりだったんですね。そのアレナ・メヒコに出るってことは日本で思っている以上に大変なことなんですよね？

奥村　ホント大変ですよ！　例えばボクがいたころの全日本なら、毎シリーズ後楽園、武道館があって、所属選手だったら武道館に出られるのが当たり前になってたじゃないですか。でも、こっちはアレナ・メヒコ、アレナ・コリセオに出るのがまず大変なんです。とにかく選手はいっぱいいるんですから。数えきれないほど。僕1年いてもＣＭＬＬ所属で名前知らない選手いっぱいいますから。

――同じ団体所属選手なのに、「こいつ誰？」っていう選手がいっぱいいるわけですすか（笑）。

奥村　いっぱいいますよ。それに、みんな覆面被ったりしてるじゃないですか。誰が偉い人で誰が偉くない人か分からないんですよ（笑）。すごい風格があって体もデカくて「おう、日本人」みたいな感じの人が、実は全然下の人だったり。逆にすっごいフレンドリーで冗談ばっかり言ってきて、「うるさいな、このオッサン」と思ってた人が覆面被ったら「子供のころテレビで見てました！」みたいな人やったりとかね（笑）。そんな数えきれないほど選手がいて、みんな仕事がほしいわけですよ。だからみんな凄く練習してるし、スクールにも行くんですよ。

――それはプロの選手もみんな？

奥村　もちろんですよ。プロはプロで第1試合の人は第1試合のクラス、真ん中へんの人は真ん中へんのクラスってあるわけだから、クラスのランクが違うだけで、みんな行くんです。だからこそ、そんな中でアレナ・メヒコのセミやメインに出れる人はすごいんですよ。例えば浅井（嘉浩）さん。もう、あの人は本当にすごい！　前からすごい人だと分かってたんですけど、こっちに来て改めてすごさが分かりましたね。だって、ずっとメキシコにいるわけじゃないし、ブランクもかなりあったはずなのに、ブラッと帰って来てアレナ・メヒコ、アレナ・コリセオで必ずメインかセミですからね。こんなことってあり得ないですよ！

――普段いないウルティモが出るってことは、普段メイン、セミに出てる人があぶれるってことですもんね。

奥村　そういう凄さを感じたし、昨日はアレナ・メヒコで闘龍門が自主興行をやりましたけど、外国人がアレナ・メヒコで自前の興行打つなんて聞いたことないですよ！　まして金曜日に通常のＣＭＬＬ定期戦があって、その次の日じゃないですか。それでも満員にするんだから、プロモーターとしての浅井さんの能力がすごいんですよね。

――そういえば、昨日の奥村選手たちの試合、浅井さんがすごく褒めてましたよ。1年ですごく上手くなったって。

奥村　それは嬉しいですね。でも、この1年大変でしたよ。メキシコ来て3ヶ月で下痢で生死の境をさまよったりしましたからね（笑）。

――命を奪うほどの下痢ですか（笑）。

奥村　こっちの下痢はホントしゃれにならないですよ。連戦が続いて忙しい時に、アカプルコのレストランでフルーツと水を混ぜたジュースを飲んだんですよ。そしたら強烈にあたっちゃって。疲れがたまってたのもあって、それから2週間鬼のような下痢に悩まされてたんです。

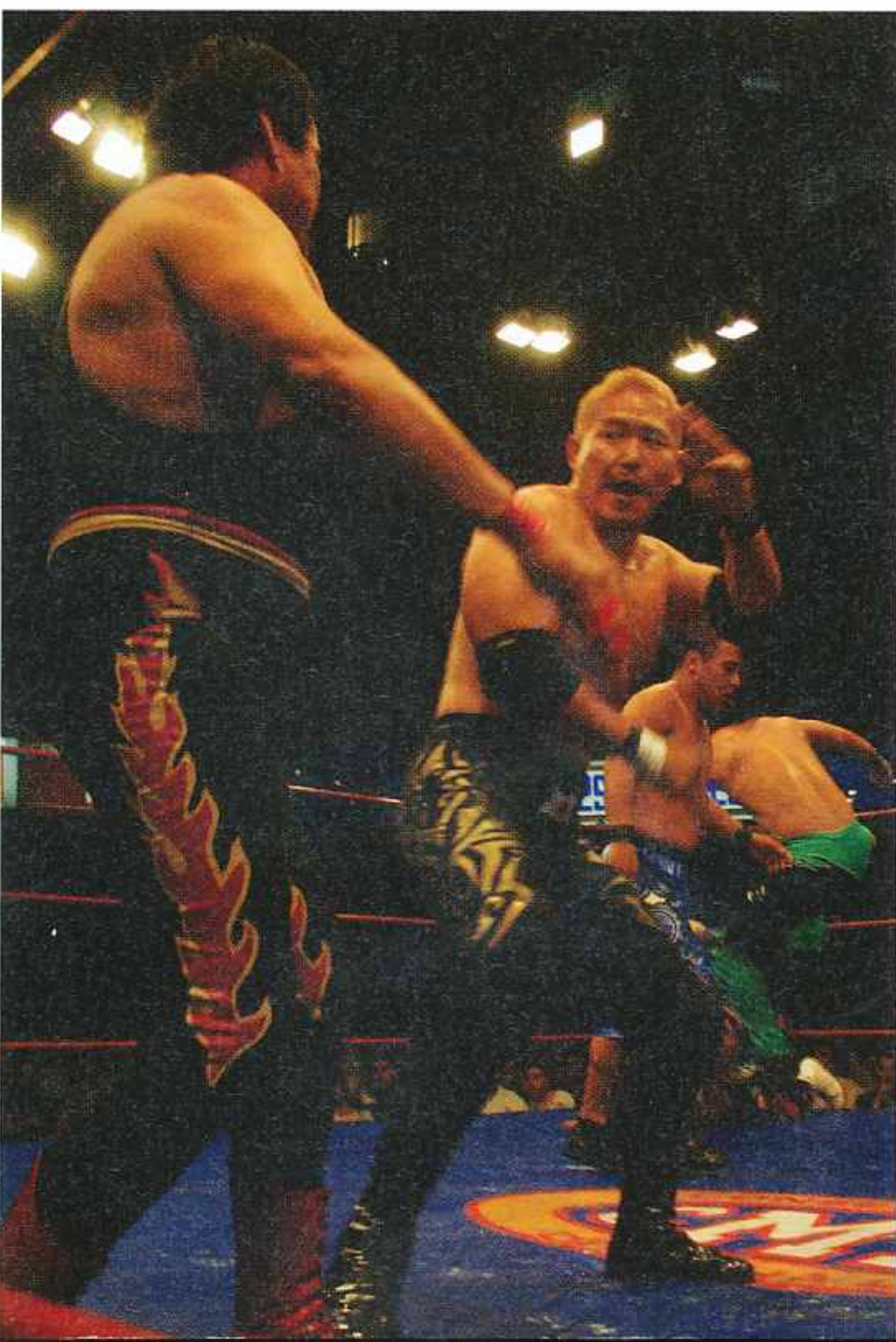
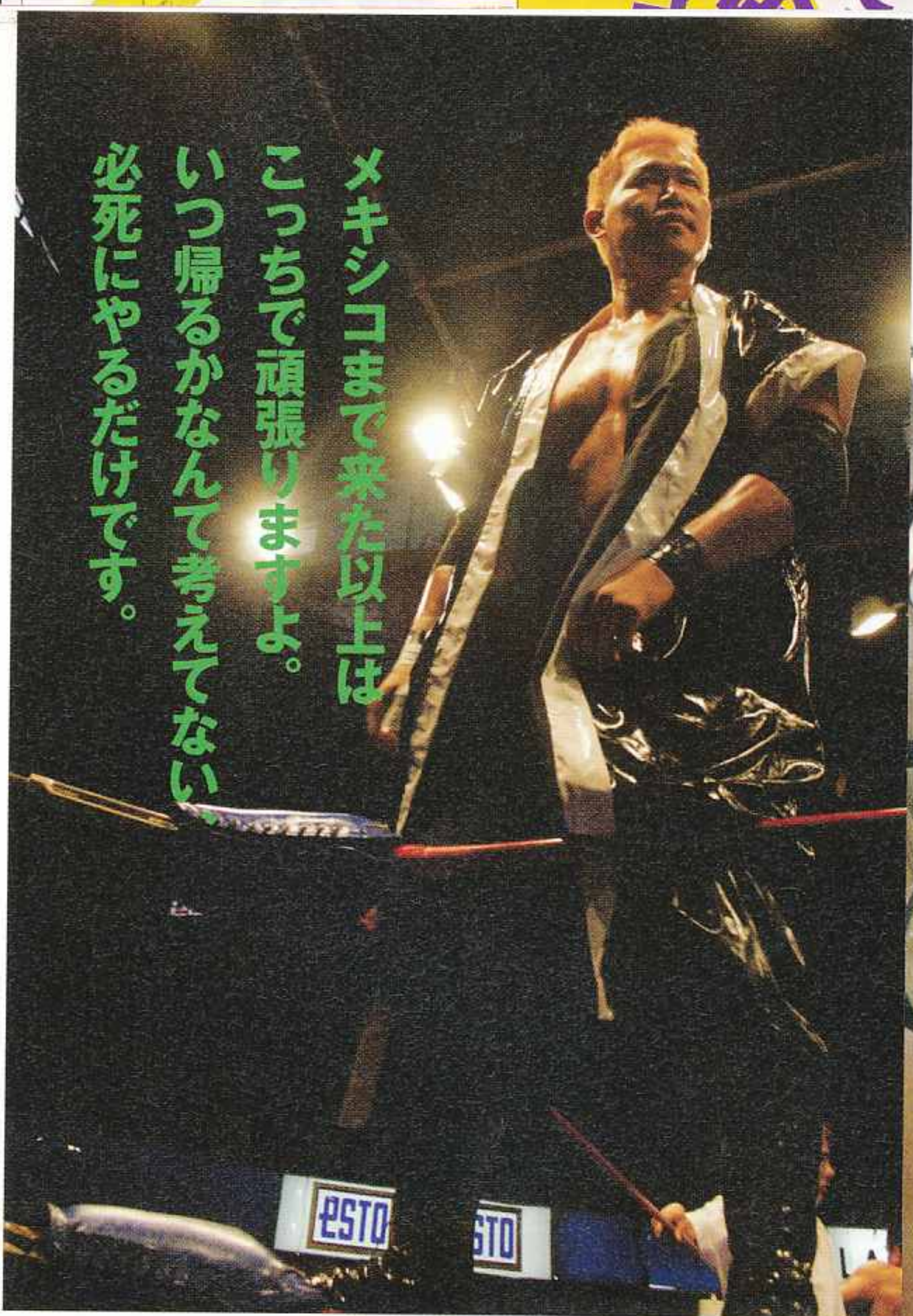
――こっちの下痢って、正露丸とかちっとも効きませんよね？

奥村　全然、効かない。日本の薬じゃまず歯が立たないです！　僕はこ

ＣＭＬＬの日本人トリオとして新日本の田口隆祐、元・無我のMAZADAとタッグを組むことも多い。日本にいた頃とまったく違う3人の表情に注目。いい面構えだ。

It's Monster Holiday!
～髙田総統の休日～

『ハッスルMAGAZINE』は
携帯サイト『紙プロHand』で
買えます!!

メキシコまで来た以上はこっちで頑張りますよ。いつ帰るかなんて考えてない。必死にやるだけです。

っちのウィルスとか殺す強烈な薬を飲んだんですけど、それでも効かないんですよ。体重もどんどん落ちちゃうから、「俺はこのまま骨と皮のガリガリになるんじゃないか」と思いましたね。

──1年経って、もうこっちの食べ物にも慣れましたか?

奥村 メキシコ料理は好きになりましたよ。免疫力がついたいまでも下痢はしますすけど(笑)。いまはもう食事には不自由しませんね。

──じゃあ、メヒコの生活にもずいぶん慣れて。でも、最初は結構悲壮感漂う感じだったんじゃないですか?

奥村 もう大変でしたよ。寝てると銃声とかも聞こえてくるし。

──銃声! その銃声が聞こえるっていうのは、僕らが泊まってるあの宿の周りってことですよね!?

奥村 そうですよ。田口くんも何回も聞いてるから。大家に「いまのはなんですかね」って聞きにいったら「あ、ピストルでしょ」って。

──アッサリ「ピストルでしょ」(笑)。

奥村 最初の頃は、ええ!?ってなったけど、いまは「そうですか」と言えるようになって。その感覚も怖いんですけどね(笑)。

──発砲事件が日常っていうのは怖いですよ(笑)。となると、やっぱり危険な目にも遭ってるんですか?

奥村 遭いましたね。これも宿のすぐ近くですけど、深夜、試合終わって帰って来たら後ろから肩を叩かれて、振り返ったら腹にナイフを突き立てられたんですよ。

──うわっ!

奥村 で、ナイフ見た瞬間にしばき倒しちゃったんですけど、あとで会社から「強盗にあったら絶対抵抗するな」って言われて。「クレイジーな連中だから、複数いたら殺されてる」って。

──うわ~、僕はそんな恐ろしい地区に泊まってたわけですか。

奥村 そうですよ。だからあそこに泊まってる日本人の女の子が夜コンビニ行ったりしてますけど、無事なのは運がいいだけなんですよ。でも、気をつけていればメキシコ人は基本的にフレンドリーだし、「アミーゴ!」の国だから。日本人が平和ボケしてるだけで、いい国ですよ。

──でも、そんな環境にいて、「早く日本に帰りたい」とか思わないんですか?

奥村 最初ね、こっちに詳しい人に「日本のことばかり気にしてたら生き残っていけないよ」って言われたんですよ。で、実際来てみてそうでした。こっちに来たばかりのころは、「全日本客入ってるかな」とかいろんなこと思いましたけど。いまはもう、ジミー大西じゃないけど、「がんばれよ」って言われても、「お前もがんばれよ」って言うしかない世界ですよね(笑)。ただ一つだけ日本で気になることがあるんですよ。

──なんですか?

奥村 セパ交流戦!

──あ、プロ野球が気になる(笑)。

奥村 阪神vsロッテとか阪神vs日ハムとか、ありえないカードが公式戦で実現してるじゃないですか。たまらなくそそられますよ!

──そうですか(笑)。で、メキシコにはどれくらいいるつもりですか?

奥村 来た以上はこっちでがんばりますよ。いま言えるのはそれだけです。例えば「日本で10年やってきた」って言ってそれをこっちで押し通したところで生き残れませんよね。来た以上はこっちのスタイルに順応する。でもこっちのスタイルだけだったら自分より上手い人はいくらでもいるわけですよ。僕にミスティコの動きをやれって言われても無理。だから日本人だということを強調しながら、こっちのスタイルに組み入れた感じでやるしかない。

──ルチャに日本式をまぜていくわけですね。じゃあ、メキシコでのこれからの目標はなんですか?

奥村 去年カベジェラ戦(髪切りマッチ)で負けたネグロ・カサスにリベンジしたいですね。今、あっちはデビュー25周年のアニバーサリーツアーで盛り上がってるんですけど、そこの抗争に食い込みたい。それに、まだチャンピオンシップに挑戦してないんで、やりたいんですけど、そこにたどり着くのが大変なんですよね。

──アレナ・メヒコに出るだけで大変なんだから、タイトル戦なんてなおさらでしょうね。

奥村 僕はルード(ヒール)なんでテクニコ(ベビー)がベルト持ってると挑戦しやすいんですけど、王者がルードにスイッチしたら難しくなるんですよ。ホントは奥村&田口組でCMLL世界タッグを狙ってたんですけど、それがルードにスイッチしたから、しばらくは難しい。6人タッグ選手権を持ってるのはこれまたルードだし。MASADA君を入れて3人で挑戦できたらいいけど、なっかなか。

──みんながタイトル戦狙ってるわけですからね。

奥村 僕と田口くんでいまアレナ・コリセオのセミなんですよね。でも、セミファイナル用の選手はいっぱいいるんですよ。そして、そのセミからメインの壁も厚い。だからもっと頑張らないといけないですね。

──いや~、なんか今日の話を聞いていると、野球のメジャーリーグで頑張ってる日本人とか一緒ですよね。日本じゃレギュラー当たり前の人でも、1軍に試合に出ること自体が難しいみたいな。

奥村 だから僕が一番腹が立つのが、日本の知り合いとかに「機会があったらメキシコ行くよ。アレナ・メヒコは金曜日だっけ?」とか言われることなんですよ。「そこに出れるかわからんのじゃー!」って(笑)。

──なるほど。ではメキシコでの今後の活躍を期待しています!

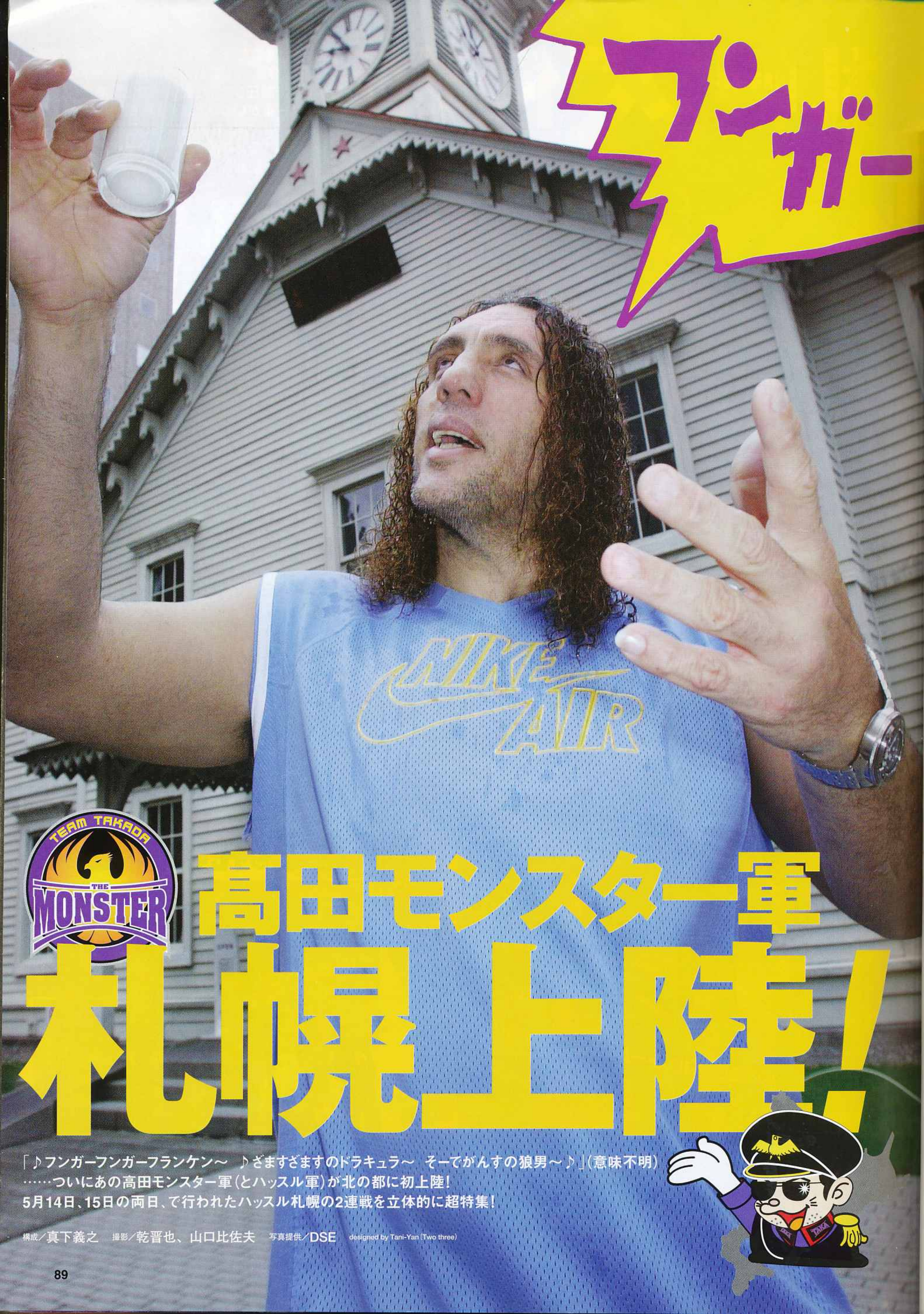
【05年5月15日/メキシコシティにて収録】

リンピオであるウルティモ・ドラゴンと闘うことも多い。5・16アレナ・プエブラ大会では場外でウルティモに追いつめられると、フレアーばりに許しを請う奥村。プロレスの幅が明らかに広がっている。

PROFILE

OKUMURA■本名・奥村茂雄。S47年5月25日、大阪府池田市出身。東京プロ、石川一家、新東京などを経て、H12年に全日本入団。昨年3月に全日本退団後、5月からメキシコに渡る。同年12月、金網カベジェラ戦でネグロ・カサスに敗れ丸坊主に。今年は雪辱を誓う。180cm、106kg。

フンガー

TEAM TAKADA THE MONSTER

高田モンスター軍 札幌上陸！

「♪フンガーフンガーフランケン～ ♪ざますざますのドラキュラ～ そーでがんすの狼男～♪」(意味不明)
……ついにあの高田モンスター軍(とハッスル軍)が北の都に初上陸!
5月14日、15日の両日、で行われたハッスル札幌の2連戦を立体的に超特集!

構成／真下義之　撮影／乾晋也、山口比佐夫　写真提供／DSE　designed by Tani-Yan (Two three)

札幌大侵攻!!

これまで首都・東京はもとより、横浜、名古屋、静岡、そして新潟へと日本各地をつぎつぎに制圧してきた恐怖の軍団、髙田モンスター軍がいよいよ北の都、札幌へ大侵攻！開拓期の歴史的建物や、名所が混在する札幌にモンスターたちが、いま放たれる！

イラスト／加藤遼子

札幌駅

時計台

札幌ドーム

●さっぽろテレビ塔前でたたずむ大巨人（ジャイアント・シルバ）

意気揚々と札幌にくり出した大巨人・シルバは札幌の中心部、緑豊かな大通公園に立つ、高さ147.2mのテレビ塔の前で、ひとやすみ。まさにジャイアント級のカップリング。飲み物は、やっぱり北海道ミルク。これでさらに背が伸びる！

髙田総統が、札幌ドームの始球式に登場！

札幌上陸の6日前、札幌の下見に現れた髙田総統は突如として、札幌ドームに降臨。日本ハム－阪神戦の始球式をつとめる、という予想を超えた弩級のパフォーマンスを披露。交流戦効果で盛り上がる、北の都のプロ野球ファンたちを魔球で完全に洗脳した。

©日刊スポーツ

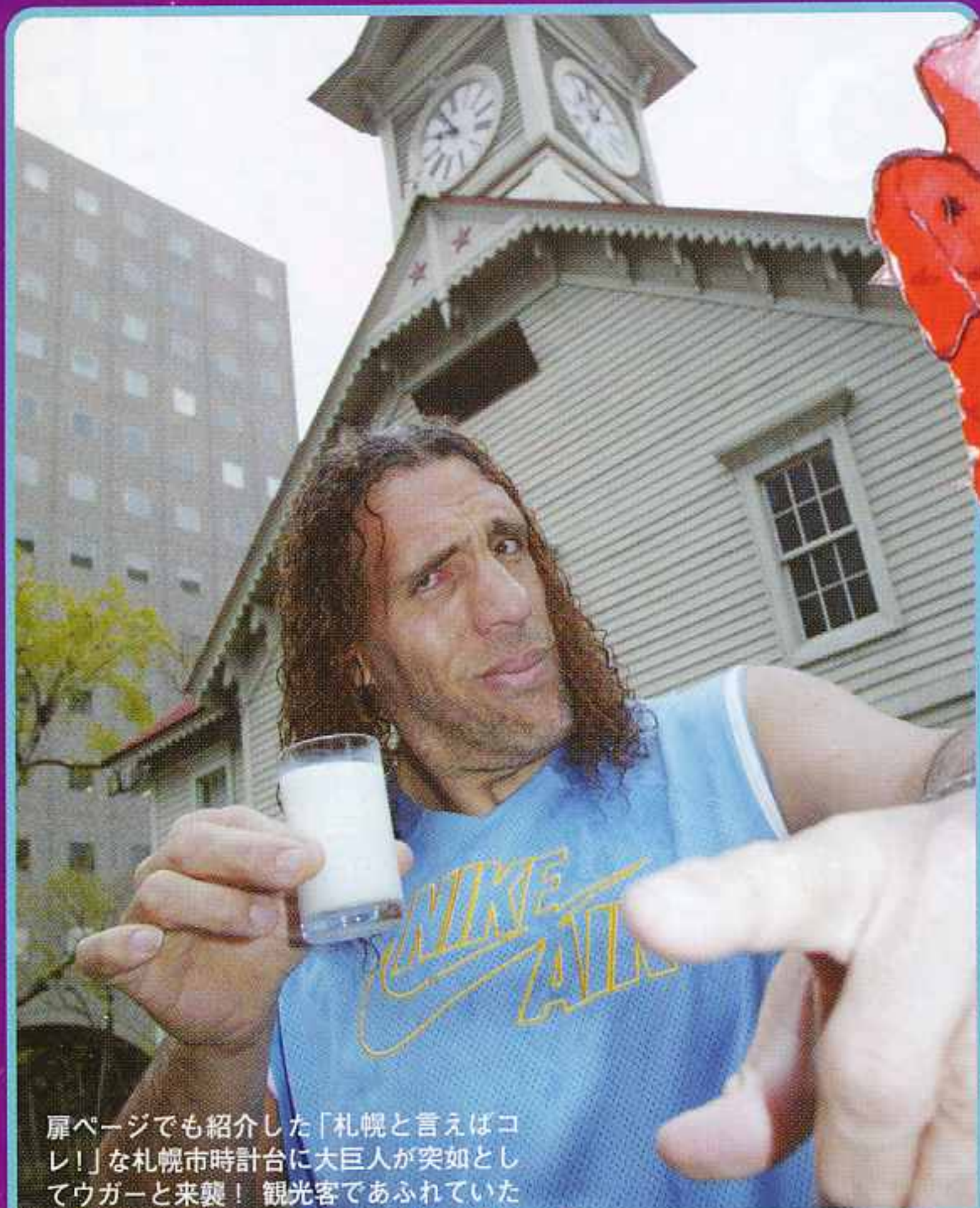
ハッスル軍も札幌大上陸！

●さっぽろ羊ヶ丘展望台

「モンスター軍に遅れをとるなー」（棒読み）とばかり、5月14日にはハッスル軍があのクラーク博士像が立つ、さっぽろ羊ヶ丘展望台に大集結！　小川を中心に「大志を抱け」ポーズを一斉披露し、結束をアピール。その一方……すっかり観光ムードに無茶な記念写真を撮るレスラーが続発。金村、黒田はここでも悪ノリ全開（写真：右上）。良い子はマネしちゃダメ！

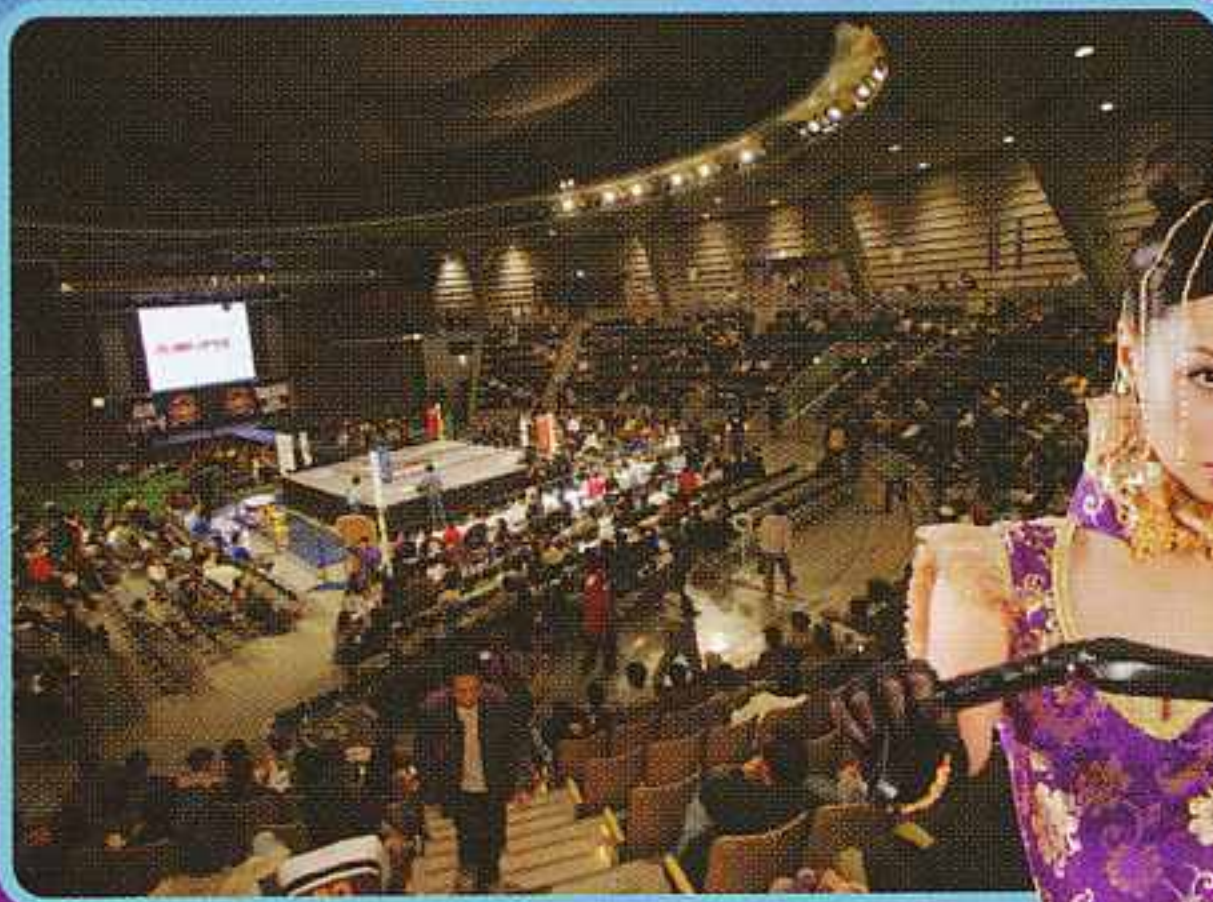
高田モンスター軍
サッポロ上陸！

高田モンスター軍

●時計台での大巨人
（ジャイアント・シルバ）

扉ページでも紹介した「札幌と言えばコレ！」な札幌市時計台に大巨人が突如としてウガーと来襲！ 観光客であふれていた現場は大パニックに。ひとしきり徘徊したシルバは「フンガー！（なんだこれだけか）」と言い残し、二条市場方面に「フガー（いくら丼〜）」と姿を消した……。

道庁
メディアパーク
スピカ
大通公園
二条市場
テレビ塔

●札幌メディアパーク
スピカ

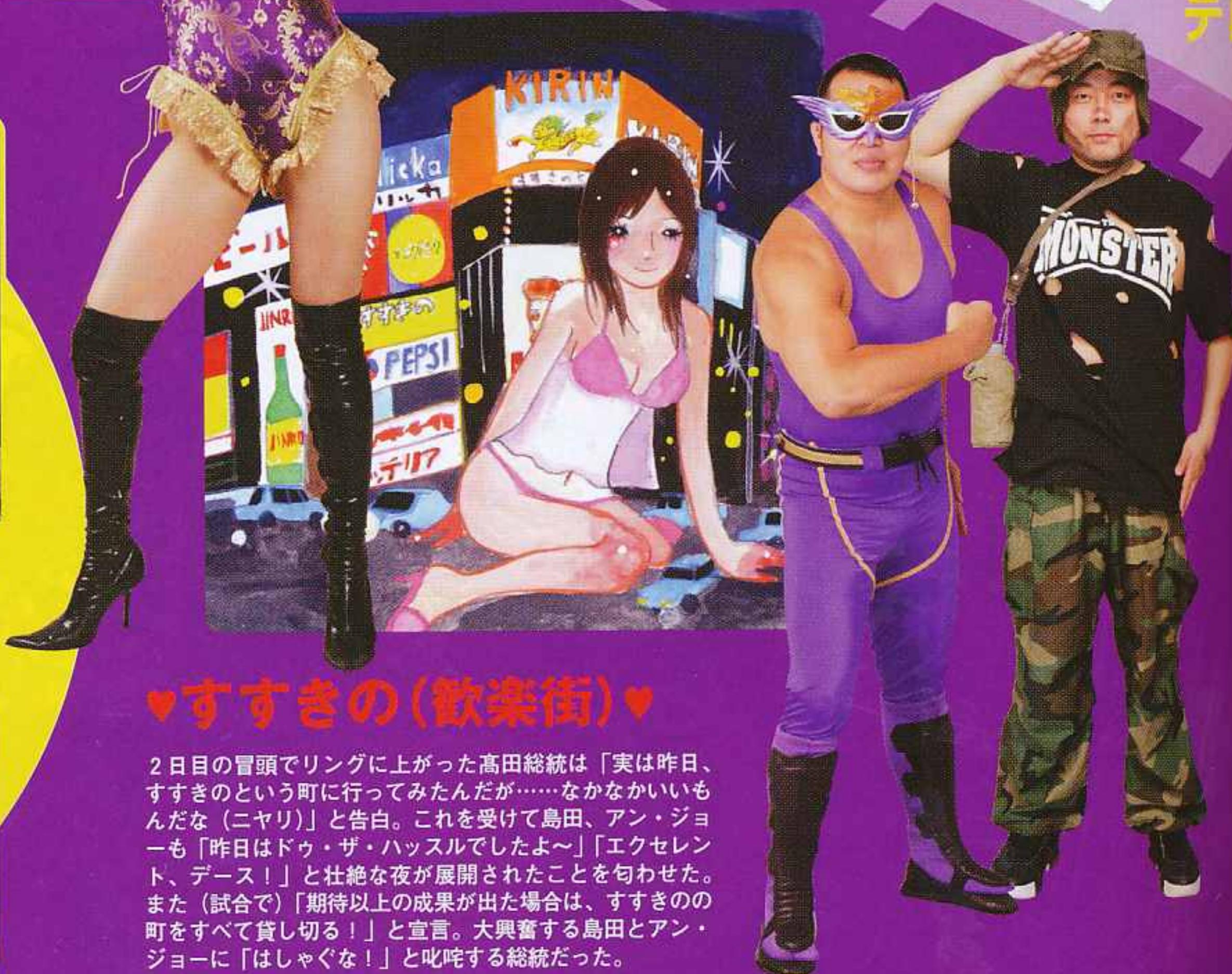
モンスター軍侵攻の舞台となったのが、ここ札幌スピカ。すりばち型で、“どこからでも見やすい”代々木第2体育館をコンパクトにしたような構造はプロレス会場としては本当に最高の環境！ 初日の対抗戦に勝利した高田モンスター軍が、マッチメーク権を掌握し、実質的な支配を行った。

坂田が連日、札幌ギャルのナンパを敢行!?

村浜との硬派タッグで始動した坂田亘が札幌でもナンパを敢行！「おい、そこの女！ 札幌にしてはいい女じゃねえか？ なんて店だ？」と不敵に話し掛けると女性は「◯◯ルレ◯ン！」と店の名前を返答！ 坂田は「今日、行ってやるからな、サービスしろよ」と言い捨て退場。また２日目もナンパを行うも、こちらは最初から坂田にキラキラした目を投げかけ、やや動揺したマイクに終始した。

初日：5月14日

2日目：5月15日

♥すすきの（歓楽街）♥

２日目の冒頭でリングに上がった高田総統は「実は昨日、すすきのという町に行ってみたんだが……なかなかいいもんだな（ニヤリ）」と告白。これを受けて島田、アン・ジョーも「昨日はドゥ・ザ・ハッスルでしたよ〜」「エクセレント、デース！」と壮絶な夜が展開されたことを匂わせた。また（試合で）「期待以上の成果が出た場合は、すすきのの町をすべて貸し切る！」と宣言。大興奮する島田とアン・ジョーに「はしゃぐな！」と叱咤する総統だった。

を披露、交流戦効果で盛り上がる、北の都のプロ野球ファンたちを魔球で完全に洗脳した。

新しい

髙田モンスター軍 怪物たち MONSTERS

カ～イカイカイ♪　カ～イカイカイ♪
ユカイツ～カイ～♪（くどい）
えーハッスル“死の”地方ロード転戦も新潟大会、そして札幌2連戦でいよいよ中盤戦に突入、ハッスルマニアを見据えて、怒濤の新キャラたちが続々と登場中！　恒例の御当地怪物（モンスター）たちも狂い咲き状態。まぁ「もう会えない奴ら」もたくさんいるけれど……。
よーしそろそろイキますか～
スリー、ツー、ワン、モンスタ～～！（自爆）

イラスト／須田信太郎

●FUJIN & RAIJIN

高田総統“最凶の”親衛隊として新潟で衝撃のデビューを飾ったFUJIN & RAIJINは、80年代の日米を席巻した超名タッグ「ザ・ロードウォリアーズ」のホーク＆アニマル（＝鷹と獣）的な意匠（パンプアップされた筋肉、奇声、リフトアップ、相手の技を受けない、合体攻撃によるフィニッシュ、秒殺……）等々を丁寧に再構築しボビッシュ＆バルバロッサのリニューアルに大成功。意外かもしれないが、本当に格好良い。必見！

たいへん
よく
できました

もうすこし
がんばり
ましょう

●イナゴライダー

「(ハッスル) レンジャーに対抗するにはライダーしかいない！」という理由で登場した、新潟の下々の諸君が最も恐れる害虫の化身＝イナゴライダー。「茶色」という微妙なボディカラーとデザインだが、動き自体は普通にいい。必殺技は「イネカリ！」と叫んでの足払いで、某老舗団体の某野人が使う、某有名テニスプレイヤーの名前がついた技にそっくりだった。

よく
できました

●人狼

ハッスル10（新潟）に乱入し、田中将斗を突如として急襲！　鋭い牙での噛み付き攻撃と、場内が暗転し、ビジョンに満月が写し出されると「突然強くなる」という驚異的なファイトスタイルが謎を呼ぶニューモンスター人狼。札幌では田中将斗から連夜のピンフォールを奪い、因縁が勃発。目指すは、7月のハッスル11でのHHH王座挑戦か？

もうすこし
がんばり
ましょう

●カマキリジャック

イナゴライダーを凌駕する、そのままなデザインと、腕についている痛く無さそうな「カマ」が印象的な新種のモンスター。新潟では、モンスターJとのコンビで、90年代みちプロのお約束ムーブ（S・デルフィン＆愚乱浪花の「腕折りの誤爆」）を復活させたりするも、誰にも「もう現れることはないだろう……」と思わせる壊滅的なモンスター。

MARIMO 00 ×00 TIME

SUPER MARIMO BROS.

よく
できました

●スーパーマリモブラザース（マリモブラザース）:マリモ&ルイーベ

札幌の第1試合に両日とも登場。「あの入場テーマ」がかかった瞬間に観客のすべてがコンセプトを理解（笑）。でんぐりかえし、Bボタンダッシュ＝スピードアップ、（“あのジャンプ”のまま突っ込む）ジャンピングニーなど、アイディア満載の奇抜なファイトスタイルが札幌のファンにも好評！　前日は普通の「マリモ」が破れると、2日目は予想通り「スーパーマリモ」に変身し、期待を裏切らないお約束ぶりを見せつけた。

マリモブラザースのでんぐり返しとは？

1 両手をしっかりついて

2 おもいきりまわろう。ぐるん。

3 しっかりと立ちましょう。

ハッスル軍

続々と新キャラが登場して「おなかいっぱい」な高田モンスター軍に対し、登場キャラクターが完全固定化しつつあるハッスル軍。今回は最狂の乙女としてハッスル軍に仮入団中のEricaと、コスチュームがリニューアルした2人のカントクを紹介。

たいへん
よく
できました

●Erica

ハッスル8（両国）に初登場。ハッスル10（新潟）では、インリン様とのM字ビターンマッチを争い、いちやく中心人物に仲間入りしたEricaが、札幌で初試合を敢行。島田二等兵に「D・B・D」（＝ドブスデブ）となじられても、アン・ジョー指令長官に「鼻毛がハローしてマース♪」とバカにされても、めげない乙女キャラとして、破格の存在感を証明。札幌の観客を完全にコントロールした。

●中村カントク

「ハッスルを一つの芸術作品にしたい」という本人の要望から、野球監督→映画監督にスイッチしてリニューアル。白いシャツにブルーのセーター。手にはカチンコというスタイルで、文字通り監督なのか？と思わせるキャラ設定が絶妙。

よく
できました

もうすこし
がんばり
ましょう

●木原二軍監督

中村カントクから野球監督キャラを引き継ぎデビュー。主にヤングハッスルたちのお目付役として登場。

坂田亘とのチンピラ義兄弟!

中立

●坂田亘

もうすこし
がんばり
ましょう

●村浜武洋

新潟大会でセリフをド忘れ……してしまい、手に書いたアンチョコが発覚！　という「ファイティング・オペラ」史上に残る迷登場シーンを引きずってしまったのか？　札幌ではハジケっぷりが今ひとつ足らなかった村浜選手。今後の動向と意地に刮目したい。

あるノアヲタが目撃したハッスル札幌2連戦

8

田総統
日の成
宣言。

初日 5/14 ハッスルハウスVol.7

メインイベントに登場した小川はモンスター軍の乱入から、M・コールマンのジャーマンを受けて敗北。シングル決着を希望した。

最高の盛り上がりを見せたEricaの試合（パートナーは石狩）。安生との役者対決は見事だったが、最後は石狩がフォール負け。

新潟に続いて、この日も大谷と崔を相手に圧倒的な強さを見せつけたFUJINとRAIJINが勝利のキメポーズ。

初日のつかみ、はマリモブラザースのマリモ＆ルイーベ。ネタ満載の試合と細かい演出に北都のファンもすっかり夢中。

開拓以来最大の危機

高田総統率いる高田モンスター軍が北海道にいよいよ大上陸！　その恐ろしい野望と策略がビジョンで明らかにされた。

高田モンスター軍 サッポロ上陸！

ノアにはハッスルが足りなくて ハッスルに足りないのがノア

「ノアが好き」と言うとき、（ほんの0.5秒ほど）言い淀んでしまう、この微妙な感じはなんだろう。やはり猪木イズム原理主義な傾向への卑屈さの表れなのでしょうか……。かっこわる。今日はそんなノアヲタが見たハッスル札幌二連戦の感想文をお届けします。

文／真下義之（ノアヲタ新入社員）

僕がノアが好きな理由……それはその生真面目さ、だと思う。「信頼に値する」試合があり、クオリティが高い。昔からそういう優等生的なカルチャー（手塚治虫とか宮崎駿とか小沢健二とか）が好きだった。だからノアってPTA推薦的な団体なのか？　だが、それは間違っている。なぜなら子供は「馬鹿馬鹿しく、下品で、突き抜けたもの」が好きだから。つまりそれはハッスルだ。そしてその馬鹿馬鹿しさや下品さは、きちんと時間をかけて丁寧かつ念入りに加工されたモノだ。

今回、ハッスルの札幌大会で痛感したのは、その「進行と演出」の素晴らしさだ。初観戦時も衝撃があったが、今回はさらにスキルアップしており（恐ろしいことに）もう隙が見当たらない。冒頭から「ビジョンで見所の説明↓〝狂言まわし〟の笹原GM、島田二等兵、中村カントクの登場↓（北海道ネタ満載の）高田総統のスキット↓大会のタイトルロゴが大写しに」という流れるような展開に、客席は確実に圧倒されていた、と思う。（ちなみにノア武道館大会のオープニングでは約5分間の淡々としたレーザー光線ショウが見れますよ！）。

興行にも一切の無駄が無く「今日はコレ！」という明確なテーマに沿って、ざくざく進むのでストレスがない。（ちなみにノアなら「カードに余った選手たち」の20分超え6人タッグが堪能できますよ！　これも結構、味がある）。この「必要なものしか出さない」という姿勢はかなりの衝撃で、たとえFUJINとRAIJINの試合が秒殺でも「明日につづく」という意図が見えるので、とてもさっぱりした感じ。

一方、最近のノアはどうでしょう？　東京ドーム大会を控え盛り上がってはいます。ただちょっとやばいな〜と思うのはGHC王者・力皇のこと。当時、プロレス界の希望だった〝絶対王者〟小橋建太をチャンプから引きずり下ろすも、その後の何をどうしたいか不明な斎藤彰俊戦、誰も望んでないドームでの棚橋弘至（新日本）戦が決定……という様相からもノアの〝狙い〟が判然としない。一方、エンタメ・プロレス（の最高峰）WWEでは、若手はファンのリアクションを見つつ、巧妙なストーリーライン下で徐々にプッシュされる。日本版WWEこと、ハッスルでもこういった点の〝ぶれ〟はとても少ない。

それからハッスルは舞台装置が完璧なので、役者がもう本当に「舞台映え」する。今回、試合初登場ながらMVP級に会場を沸せたEricaとか川田とか大谷とか〝キャラに殉じる〟ことができる選手は、本当に輝いている。むろん、その頂点は高田総統だろう。そんなことを考えつつ、音の鳴らないチョップをコールマンに叩き込む小川を見ながら、リミッターの外れた〝怒りの化身〟な現在の小橋が、ハッスルのリングで小川と相対したら「おもしろいのかな？　おもしろくないかな？」と考えてみる。

ノアにいまのような「勢い」が出たのは、やはり丸藤正道やKENTAやSUWA（フリー）ら（みな、本当に素晴らしい！）が興行の中核として完全に認知された昨年末あたり。先日、見たECWのドキュメントDVD『ECW ライズ・アンド・フォール』の中でも「団体が勢いづく」のは中堅や若手選手が充実してゆくときだ……。そうハッスルの弱味は試合だ。試合内容で観客を十分に圧倒できる選手はまだいない。それではやはり物足りない。だから（すごく乱暴にいえば）ハッスルは丸藤とKENTAを引き抜けばいい。やったら怒るけど。それで今秋開催予定のハッスル・マニアのセミ前あたりで丸藤、KENTA組が試合をしたら、興行はきっと爆発する。おそらくビンスなら確実にやるだろう。やっぱりハッスルにはノアの長所（試合内容）が足りないし、ノアにはハッスルの長所（仕掛け）が足りない、と思う。

それから僕が最も感心したのは札幌大会2日目のエンディングだ。高田総統とのやりとりで、マイクが川田↓大谷↓小川とまわってくるのだが、マイクが苦手な小川用にセリフが非常に短くて、簡潔なものになっていた。しかもそれはとても「自然な感じ」に見えたのだ。

ここで連想したのは、またもや小橋のことで。まだ絶対王者だった今年1月のノア武道館のこと。この日は年明け一発目の興行なのに、三沢光晴社長も誰も年頭の挨拶をしないので「そういうものなのかな？」と不思議な気分で眺めていた。その後メインイベントの激闘を倒した小橋がマイクを握って、最初に発した言葉、それは……「明けましておめでとう！」だった。すごすぎる。大爆発する館内。演出がアレなノア的には（小橋の朴訥さ含め）至極の出来。正直、心から感動した。

そう実はメッセージはシンプルでもいい。このへんに今後の小川の方向性のヒントがある……ような気もする。

「札幌応援ありがとう！絶対に高田のヤローをリングに引きずり出して、ギッタンギッタンにやってやります。そして絶対また札幌に戻ってくるからな！」札幌2連戦を絞めた小川のマイクはごくごくシンプルなものだったが、メッセージは観客にもきちんと届いた。

2日目 5/15 ハッスルハウスVol.8

ハッスル初の試み、試合後の記者会見。小川は高田総統、川田はインリン様、大谷がFUJINとRAIJINと今後の標的を表明した。

小川、川田、大谷の3トップがそろい踏み。ようやくハッスルポーズを披露したハッスル軍。観客も総立ちでエンディングを迎えた。

休憩明けに札幌へ降臨したインリン様は、インラン様が観覧する試合＝「イン覧試合」鑑賞。試合後には川田に屈辱の鞭攻撃を浴びせた。

前日に人気爆発したEricaは、この日は金村をパートナーに登場。仲良くブリブラダンスを披露し、試合中にはキスする場面も！

2日目のマッチメイク権を強奪した高田総統はオープニングでリング上に登場。この日の成果によっては「すすきのを貸し切る！」と宣言。

メインイベン…
一軍の乱入か…
ンを受けて敗…

素敵なパパ

“ハッスルI”の石狩パパ（牧憲夫）緊急＆独占インタビュー！

「ハッスルには、私も出たかったんですよ！」

“非常識”かつ“お調子者”キャラで人気上昇中の「ハッスルI」こと石狩太一はその名が表す通り北海道石狩市出身。今回、はからずも凱旋興行となった。そんな中「雰囲気が石狩にそっくり」という師匠、川田の証言を得て、会場に駆け付けていた「石狩パパ」こと、牧憲夫氏の緊急インタビューを敢行！ した。

―お父さん！ 本日はよろしくお願いいたします！

パパ はい！ よろしくお願いします。

―“ハッスルI”の鮮やかな青いシャツが素敵ですね。さて、早速なんですが、石狩選手の師匠の川田選手は、お父さんを見て「この人もお調子者だな……」と直感したらしいんです。

パパ いやー、ははは！ たしかに性格は似てるかもしれない（笑）。まあ、ウチは普通の親子では考えられないくらい仲がいいですから。それこそ息子の「女性問題」も話し合うくらいね（笑）。とにかくウチの家族は「隠しごとはいかん！」という主義なんです。

―その石狩選手がハッスルですっかり人気者ですが、お父さんから見ていかがですか？

パパ いや息子は昔から喧嘩もしない、おとなしい子で。そんな子がプロレスラーとして地元に凱旋するなんて……もう夢のようですねえ。

―なるほど。石狩選手はいつ頃からプロレスに興味を持ったんですか？

パパ 中学1年生位に、友達の影響でプロレスが好きになって、それで本人が「本気プロレスラーになりたい！」と。それで岩見沢高等農業学校というレスリングの名門校に入るんですが……これが本当に厳しいところで。

―それは大変でしょうね。

パパ とくに上下関係などでえらく苦労してました。あとは合宿所で、先輩のパンツの洗濯、飯炊き、道場のふき掃除。もう、つらくてつらくて。

―突然、石狩選手が乗り移ったようです（笑）。

石狩 それで高校2年生の時に、ついに合宿所の窓から自転車で夜逃げしてしまうんです。約3日間、行方不明になってしまって……。じつはその前日にも息子から「レスリングをやめたい」という相談があったんですが。私はここで息子を許すと「中途半端な人間になってしまう」と思いまして、もう涙を飲んで、合宿所に戻したんです。そしたら、その夜に逃げたんですよ！

―戻したら、逃げちゃった！

パパ それで、もう3日間も行方不明でね。最後は「もう自殺してるかな？」とまで思って……。

―うわ、それは本当に大騒動ですね。

パパ 学校の先生、部の先輩後輩も総出で探してくれまして。……で、ようやく出てきたんです。それからは、もうレスリングでこんなに辛いのにプロレスなんて無理だろうと。その後は大学に行かしたんですが……やっぱりプロレスラーになる夢を諦めきれず、全日本プロレスの体験合宿キャンプに応募して、合格するんです。

―そこでついに夢がかなったと。

パパ でも、私はその時に「プロレス入り」には反対したんですよ。やはり現実的に考えて、プロレスラーは怪我も多いですし、ウチはひとり息子ですし……。ただそれも最終的にはウチの女房の「ひとこと」で決まったんです！

―それはどんな「ひとこと」ですか？

パパ 「子供は親の所有物じゃない」と。「プロレスラーの何が悪いの？ 素晴らしい職業だよ」と。それで「行かせなさい!!」という、そのひとことで決まったんですね（遠い目）。

―いい話だな〜。

パパ それで息子がいよいよ札幌から上京する時には、私からも「ひとこと」を……。

―お父さんからもひとこと！

パパ 「いいか、怪我とかでどうしようもない場合はウチの家に入れる！ でも苦しいとか、つらいとかで帰ってきた場合、ウチの敷居はまたがせない！」と。

―「またぐな！」と（笑）。

パパ そういう約束をしましたね。で、最後には息子からも「ひとこと」ありまして（笑）。

―石狩選手からもひとこと！

パパ 「今日限り、息子はいないと思ってくれ！」と。生意気なヤローだよね（ニッコリ）。

―いちいち素敵な家族だな〜。なんかお父さんもプロレスしてますね。

パパ （急に真剣な顔で）いや最近、私もプロレス技を考えてるんです。実は絵も描いたりして、息子にいくつも考案してるんですよ！ それで「これはどうだ！」と聞くと「効き目ないよ……」と相手にしてくれないんですけど。

―ちなみにそれは、どんな技なんでしょう？

パパ いやこれがいろいろあるんですよ〜（笑）。でも言えません。盗まれると困るから！（キッパリ）。

―そんなに凄い技なんですね？ 最後に、お父さんはいまの「ハッスル」というものをどう見てますか？

パパ 私はすごくいい！ と思うんです。いままでのプロレスとは違ったイメージを打ち出して、中途半端なことではなく、針を振り切ってる。ハッスルは普通の若い女性が見ても面白いと思うし、ウチの孫もハッスルレンジャー見て、大喜びしてます。だから、この方向性は大賛成です！ いや〜〜本当は私も出たいですよ!!（炎上）

―今日、リングに上がるという話もあるみたい……なんですが（オープニング・ハッスルで実現）。

パパ えっ！ そうなの!?（嬉しそうに）いやぁ、そうか。どうですか？ 一緒に上がりませんか？

―い、いや、僕は結構です！（笑）。今日は本当にありがとうございました。今後は是非、本編の方でもハッスルしてください！

【05年5月14日／メディアパーク スピカ2F カフェサルーテにて収録】

まきのりお ■1946年生まれ。北海道出身。“ハッスルI”石狩太一の実父であり、石狩市内で内装業を営む。有限会社「進勢社」代表取締役でもある。

5月14日のオープニング・ハッスルでは、父、母、姉、甥、そして本人の「石狩ファミリー」がリング上に勢ぞろいしてハッスルポーズを披露した。

“素敵なパパ”牧憲夫さん（右）インタビューに同席頂いた“素敵なママ”牧博子さん（左）。石狩選手の思い出トークを補足する絶妙なおしどり夫婦ぶりが素晴らしい。

爆弾投下!?

この男は00年代の「プロレスの味方」か!?

“運命の”紙のプロレス初登場!

「サイコロジカル・ボディ・ブルース 解凍
僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった」著者

菊地成孔

KIKUCHI NARUYOSHI

聞き手／坂井ノブ・真下義之　撮影／松本崇　designed by bun-chan (Two Three)

菊地成孔

君は菊地成孔をまだ知らないのか？（そろそろ知らなければならないだろう）。あるときは複数のバンドを（同時に）主宰する「音楽家」であり、あるときは「音楽講師」であり、「文筆家」として文壇の注目を浴びる。昨年から東大の非常勤講師も勤め、自身の公式サイトでは溢れんばかりの濃密な日記が日々更新される……もう全方位的に過剰すぎる活動を続け、各業界にも多くの熱狂的なファンを持つ00年代のカルトスター、それが菊地成孔だ。

そんな菊地氏が、この5月に突如として〝プロレス・格闘技の批評本〟『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍　僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった』を出版した。実は熱狂的な格闘技ファンだった菊地氏が、ある日を境に5年間だけプロレス・格闘技に関する情報をシャットアウト（＝切断・凍結）し、その5年後の世界である2004年末のPRIDE男祭りから突如、活動を再開（＝解凍）し、様々な団体の観戦を重ねてゆく様が描かれていく。氏のエッジが効いた美文調かつ分析的なスタイルは、活字プロレスの世界に安住する輩たちを突き崩すような衝撃に満ち満ちており、その存在意義や意味からも、2005年版の『私、プロレスの味方です』の登場、と言っても過言では無い。これはまったく新しく文学的な格闘技評論だ。しかも文中では『紙のプロレス』そして本誌鬼畜編集長、山口日昇に関してもたっぷりと語られている……。この「噂の本」を読み解く為、ヒルトン東京で菊地成孔氏に緊急インタビューを敢行した。

——今回、この本を数人に（菊地氏のファンやプロレスファン）に読んでもらって、感想を集めたんですが「非常に文学的」あるいは「哲学的」、それから「心理学的」だったりして……とにかく一様に「凄くおもしろい」と。あとプロレスや格闘技に対してあまりエレガントさを感じていない人たちも、今回、菊地さんが書かれたことで「見た方がいいのかな？」と反応しているんです。ここ数年はいわゆる暴露本の出版ブームがあったんですが……。そういった中でこの本は全然違う角度の切り口ですよね。

菊地　読んで頂ければわかるんですけど、僕は昨年の大みそかまで5年間だけ、プロレスや格闘技を観ていなかったんです。それで、その間にどうやら〝シュート活字〟というものが出てきて、そこにアゲインストする形で〝ファンタジー活字〟という考え方が確立されたと。そこで両者が拮抗して、一方では「夢のようなこと」を言い続け、もう一方は「ひたすら暴露しまくる」と。その二項対立が完全に安定的な状態に入ったらしいと。というか……僕はその時はそんな状況はわかってなかった。で、いわゆる〝ミスター高橋本〟というのも『陽気のなんたら』いう類の本だとばかり思っていて（笑）。

——『ミスター高橋のプロレスラー陽気な裸のギャングたち』ですか（笑）。

菊地　（笑）そうです。で、風評を聞くに、カムアウト本だという。そりゃ大変だ、と（笑）。そのときは実際に読んで、どんな内容か調べたわけじゃないんですが。でも書店に行くとそれを皮切りにひたすらレスラー側の暴露本が出てる、ざっと立ち読みしても、冬眠中の僕にはとってはものすごく強烈で、もの凄いシュートなことが書いてあるんですよ。咄嗟に感じたのは二項対立の息苦しさでした。それで僕はファンタジー活字でもなく、シュート活字でもない活字を、まあ呼び名は〝エレガント活字〟でも〝アカデミズム活字〟なんでもいいんですが、とにかく第三項になる物があればいいなと。

——確かにそうですね。

菊地　そのときは漠然と「そもそもプロレスの批評ってどうだったかな？」と考えてて。ま、この本のあとがきにあるようにプロレス批評に関しては「80年問題」（『私、プロレスの味方です／村松友視』（註1）の出版と雑誌『Ｎｕｍｂｅｒ』の創刊）と暫定的ですけど「95年問題」（インターネットの爆発的な普及と定着）というものがあって……とにかくインターネットには、日本人が「ワープロでネットに文章を書く」ということを総て「批評」に変えてしまった。だからおそらくプロレス&格闘技もそうだろうと。インターネットは性的だし暴力的なメディアだから。プロレスに合ってるだろうし。僕は『2ちゃんねる』って一切、見ないんですよ。『ミクシィ』というのも入会して無くてですね。入会の誘いは山ほど来るんですが。

——はい。

菊地　だから全て推測なんですが……「きっと凄いことになってるだろう」と。そうなると「批評の枯渇」というか、「批評芸の枯渇」というか、ひたすらマニアックな知識の交換、呼応と、匿名による罵倒と瞬間的で反射的な「萌え」の嵐。それと訴訟覚悟の投げきった暴露。みたいな世界と、あとはもう夢のような活字（笑）。成り行きですからまあ、それはそれで良いんですけど、僕にはちょっと具合が悪くて「このバランスをなんとかしたい」って気分がこの本を書く前の気分としてあったんです。そういう「内的な高まり」があったときに、（編集の）片田さん（白夜書房）からお話を頂いて……ただ1年くらいは僕も他の仕事が忙しくて。

——オファーがあってから書き始めるまでには1年以上のブランクがあったんですね。

菊地　ええ。ただ、オファーを頂いた後も「本を書くかもしれないから、もう一度プロレスや格闘技を見てみよう」とかはせずに。むしろ、あるとき突然、解凍したように、浦島太郎的な形で「タイムスリップしていきなり見た！」という感じが、本としては面白いだろう……という狙いがあったので。ただ、普通に生活をしてても、やっぱり少し見えてきちゃうんですよね。

——解凍前夜（2004年の12月30日）の歌舞伎町のドン・キホーテの店内で……。

菊地　そうそう。ドン・キホーテの薬局スペースで突然アレ（髙田総統による『ハッスルドリンク』のPV）を見てですね。「うわーコレか！」と。

——かなり強烈ですよね。

菊地　もう寝た子が瞬時に起こされるような（笑）。「今日まで我慢して見ないでよかった〜」と思って（笑）、取材初日まで我慢したんです。現代に於いて「何かを中断する」ということは、結構難しいじゃないですか。海外に留学してる人だって、日本のプロレスを見ようと思えば見れるし、ディスカッションも出来ますからね、いまや。

——インターネット環境があれば問題ないですね。

菊地　余程の事情で思い切って辞めるということがないと、再開したときの驚きというのは、プロレスに限らず、あらゆるメディアに於いてないんですよね。それを大切にしようと……。

——編集を担当した片田さんとしては、菊地さんに本をお願いするにあたっての動機とは？

片田　菊地さんとは機会があれば一緒にお仕事したいなと、ずっと思っておりまして……その後、ネット上に書かれていたプロレスコラム（菊地成孔の〈ひとりマニュ穴〉）のことを知って一通り拝読したんです。その後、菊地さんにご連絡したら、その時点でもうほとんど（プロレスと格闘技を）ご覧になってないと……ただ菊地さんから、映像や生観戦で観ることでネット上の原稿を補完しつつ本にできるかもしれないとご提案いただいたんです

『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍　僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった』菊地成孔著（白夜書房）定価2,000円（税込）　音楽家・音楽講師・文筆家である著者が「プロレスと格闘技」にフォーカスした渾身のエッセイ集。5年前にウェブで発表したコラム傑作選と2005年に書かれたPRIDE男祭りをはじめ、「贅沢なキッチュ」としての新日本ドーム、ドラゴン・ゲートとみちのくプロレスの「抗鬱性」、ハッスルにおける山口日昇の「神になること」への恐怖と震え、そして「前田日明原理主義者の復活祭」としてのHERO'Sなど、特濃すぎる観戦記と、対談（安田大サーカス、宮崎正博）で構成。

——菊地さんとしては、オファーがあったとき「来た！」という手応えはあったんですか。

菊地　いや。全くありませんでした。「無理だ」と思って。「5年も見てませんから。ごめんなさい」と。でもそのうちこういうことは「現代人にとっては非常に貴重な経験だろう」と考えが変わってきた。それを自分の力でなく「他人の要請によって戻ったら（見始めたら）どうなるか？」という一種の人体実験みたいなこと。それ自体が「おもしろいんじゃないか？」と。しかも格闘技でね。じつのところ僕が切断してしまったのは、格闘技だけではないんですけど「5年振りでいきなり大みそかのPRIDEの会場にいく」というくらい極端な形で再開したものはないです。

——その劇的な再開のグルーヴ感はひしひし伝わりますよね。

菊地　結局、5年間観なくなった原因が、最後まで明らかにされないので、そこは自分ももどかしいのですが……。

——ご自分の中でもハッキリしていないんですか？

菊地　結局、自分の履歴を話すような形になっちゃうしかないんですけど、僕99年から自分のリーダー・バンドを始めて、DCPRG（註2）とかスパンクハッピー（註3）とか。それで「音楽に身を捧げる」みたいな数年間があって。それで2002年に神経症になって、「神経症の治癒」みたいな形になってくるんです。音楽活動が。でも、バンドやってたって、合間合間に格闘技は見ればいいわけです。でも本当に……全く見なくなったんですよ。精神分析のセッションも2年間受けたんだけど、その間もその話題をずっと考えてました「なんで見ないのか？」と。つまり……これは僕自身の「暴力を巡る問題」というか。僕は飲み屋の倅で、もの凄く治安の悪い港町の歓楽街の生まれなんですよ。

シュート活字とファンタジー活字の二項対立を崩したかったんです

——千葉県の銚子ですね。

菊地　そうです。年端もいかぬ頃から目の前で〝路上の現実〟というのを日常的に見るんです。実際の路上でも見るし、僕の実家の個室の中でも、凄いケンカが毎日起こるんです。極例になるけど、落ちているまぶたや小鼻の破片を拾ったり、母親と一緒に畳の血を拭いていたら、歯が畳に刺さってたとかね（笑）。そういう、強烈な暴力というのを見て育ったんです。で、もの凄く熱狂的なプロレスファンになるんだけど、あるときを境に見たくなくなる。それをプロレスどうこうと言うより、自分の神経症の治癒の問題として、分析医と話したんです。でもやっぱりわからなかった……。じつはまだわからないままなんですが。

——解凍されてからの3ヶ月間は頻繁に会場に行かれて……。しかし日記を拝見していると、毎日、本当に多忙なスケジュールをこなしている方が、何故ここまで過剰なプロレスの本を出したのか、そのへんが謎ですよね。

菊地　一つはやっぱり切断していたので、堰を切ったみたいになったんでしょう。リーディング（読み込む）じゃなくてローディング（詰め込む）というか。もの凄い情報量が一気にローディングされてきて。「この5年間何がありました？」ということを、片田さんと話すわけです。片田さんは凄いマニアで、聞けば何でも答えてくれるから……。「骨法はどうなりましたか？」「IWAジャパンはどうなりましたか？」とか。何を聞いてもスッスッと話が返ってくる。膨大な量の資料……5年分のファイトとか（笑）、5年分の「東スポ」とか（笑）、過去5年間の、あらゆる格闘技関係の出版物がどんどん僕の事務所に運び込まれて（笑）。それで「うわー」って（笑）。いきなり再接続するから、もの凄く脳が活性化するんですね。

治安の悪い港町の〝路上の現実〟に一番近いのが、初期リングス

——この本の中ではプロレスや格闘技を見始めたきっかけには触れられてなかったんですが、そもそものファーストアクセスは？

菊地　最初は覚えてないんです。僕の父親というのは、太平洋戦争に行って、力道山をきちんと見ている世代で。僕は父親との精神的な位置や関係性がすごく強くて、ほとんど一心同体みたいな感じ。で、父の中では〝戦争〟と〝敗戦後の力道山〟というのがすごい強烈なものがあって。さらに眼前には強烈な〝路上の現実〟があって。だって毎日毎日、ヘルマン・レンティング戦。みたいなことになっているんですよ。

——どんな状態ですか？（笑）。

菊地　もうガッチンガッチンに膠着してる。ごろごろアスファルトの上を転がってて（笑）。そのまま失神して、エリック・エデレンボスみたいにピーンと反っちゃったり（笑）。だから「マウント」や「ポジショニング」という言葉がなかったころから「あ、いま上になったヤツが優位なポジションを取ったな」とか思ってたり、父親からの力道山という刷り込みもあって、気がつくとプロレスを見てましたね。「一対一で男同士がやり合う」ということに関して、いつ一番最初にメディアで見たか？というのは記憶の中では曖昧です。ただ明らかに、「いま俺はプロレスを見ている」と認識したのは、……タイガーマスクが登場したあたりで、それ以降は「自分はプロレスファンだ」という意識になった。それにボクシングもキックボクシングも見てた。そこに父親の力道山の話、路上の現実とかが混じっている。具体的に「何歳から」という感じではないんですね。

——キックボクシングを見られてたのというのは、その〝路上の現実〟に近いからですか？

菊地　いや、〝路上の現実〟に一番近いのは、僕の見る限り、初期リングスですね。

——初期リングス！

菊地　あの当時の〝膠着〟ってあるじゃないですか。いわゆるオランダ的膠着というか。僕が見る限り、あれが地方の港町の〝路上の現実〟には一番近いです（笑）。アムステルダムにも行ったことあるんですけど、本当に銚子と似てるなーと思って（笑）。だからやっぱり初期リングスは僕にとってもの凄く大切な団体ですね。KoKがいかに素晴らしいかは、誰にでもわかるじゃないですか。ただ初期リングスがよかったのは、リングス・オランダから来てた人たちが、「実はアスリートじゃなくて、バウンサー」だったり（笑）。そういうとこが、僕個人にとってスペシャルな感じなんですよ。

——本の中でも、ご自分をヘルマン・レンティンギストだと書いてありましたね（笑）。

菊地　ギルバート・アイブリストでもありますし（笑）。だから、キックボクシングは本当に華麗なものと思ってて。プロレスもすごい演舞のあるキレイなものと思ってました。でも〝路上の現実〟はすごく硬質なんですね。血なまぐさい秒殺か、もしくはガチンガチンなんです。人が興奮して全身を硬直させて反っちゃう。一種の焼死体を見てるみたいな感じ。あんな状態から自分の筋肉をコントロールして、脱力・入力を繰り返して、殴ったりね、解いたりというのは……凄いことだと思います。

前田日明には、ポップな試合なんて一つもない

——この本の中では前田日明を絶賛してましたけど、「前田日明に対する想い」というのは初期リングスからあったんですか？

菊地　もっと前ですね。前田日明がヨーロッパから凱旋帰国するくらいの時、ちょうど、そのとき僕は予備校に行って、寮みたいなのに入っていたんですけれども、その隣の部屋のヤツが狂ったようなプロレスマニアで（笑）。もう前田日明が帰って来る！って色めき立ってる。そこ

で初めて前田の名を知るんです。で、そんなに凄い人が帰ってくるのか、と。それで帰国第1試合のポール・オーンドーフ戦があって、その当時、寮ではTV禁止だったので、近所のコインランドリーで見たんですけど（笑）。

――そのときの印象が強烈だったんですか？

菊地　その時点で前田は「大きな体を持て余しててドン臭いな～」と思ってて。なんか佐山の方が、誰でもわかるポップだったんです。ただ僕はその頃から、ポップより鈍い感じの方が好きだったんですね。

――前田日明はポップから一番遠い存在ですからね。

菊地　ポップな試合なんて一度もない人ですよ。その中でも一番ポップ的な試合は、ドン・中矢・ニールセン戦だと思うんですけど。僕は、鮮やかではなく、キレの悪い鈍い重い感じへの憧れがあって。それが前田にはずっとありますね。

――もうひとり、菊地さんが絶賛されているプロレスラーにブルーザー・ブロディがいます。

菊地　ブロディも軽量級の、速度的なポップさはまったくないですね。重くて……。鈍い感じもあるし、あともすごく哀しい感じ、極端な不条理感があった。

――元新聞記者という異色の経歴もありますしね。

菊地　だからものすごく統合不全、というか。まったく統合感がないままドンドン行ってるという。（タッグを組んでいた）スタン・ハンセンって凄くポップじゃないですか？速度性もあって。でも、僕はハンセンなんてまったく眼中になくて。2人のタッグ……いわゆる「超獣コンビ」の場合は、ブロディのことしか見てなかったですね。

――それが悲劇的な亡くなり方をするわけですけど。

菊地　実現しなかったんですが、前田vsブロディというカードが札幌で決まっていたんですよね。僕はもし実現するなら一人で見に行こうと思っていたんです。「前田とブロディがやったら」というのは、未だに夢に出てきますね。でもそれは「試合がどうなるのか？」というより「自分がどうなるんだろう？」という問題として。だからそれが無いっていう、永遠に失われてしまったチャンス……マッチメークされてもいなかったら、ファンタジー活字の空想になるけど、実現しかけて……実現せずに死んで、カードごと消えてしまった。ということに対する、ある種のもの凄い切断感があって。死んだときには、胸に詰まるモノがありましたね、ブロディの写真を見るだけで。そのヤラれ方というのも酷いわけですけど……前代未聞ですよね。同僚に殺られた、というのは。

――そうですね。ホセ・ゴンザレスにシャワールームで刺されて亡くなりました。

菊地　「シャワールームで裸で死んだ」というのは……いろいろ僕好みのギリシャ神話だとかシェークスピアとか、そういうものの記憶を一気に総動員するんですよ。とにかく文学的なレスラーというか。僕の予想では、あの人は東欧系のユダヤ人だと思うんだけど。

――菊地さんは、ブロディが猪木と対戦した試合も絶賛されてますよね。

菊地　見得の切り合いというか……見得を切って終わり（笑）というか。なんかワナワナくるんですよね。で、そのまま終わっちゃうんですけど（笑）。凄い不全感があるんですよね。

――途中、ブロディのヒザから血が流れるというよくわからない展開もあったりして。

菊地　あれも、なんだかわからない（笑）。激闘を物語っていることになっているんだけれども（笑）。でも、試合を観ていくとふたりが響きあってるのを感じるんです。猪木とブロディの中にある〝もの凄く哀しい狂気〟が。試合を通じて完全にわかりあったというか……。どんどん、1秒おきにふたりがわかりあっていく、という感じがあって、それにワナワナしているうちに終わる……。完全なコンビネーションプレイによって観客全員に不全がもたらさせるという。それでやってる二人は「綺麗な手打ち」に終わるというね。

――試合後は殴り合いながら退場していくんですけど……仲良く帰って行くようにも見えますよね（笑）。あの試合を収録したＤＶＤの特典映像で猪木さんはブロディのことを「一番嫌いなタイプ」と言っているんです。

菊地　ま、そうでしょう。近親憎悪ですよね。ほとんど鏡面関係というか、真ん中に鏡があって、同じ人間が写っているようなもので。鏡相手に闘っているみたいで「猪木は嫌だろうな。痺れるな」という気分で見てました。

――一方のアントニオ猪木という存在はどうですか？

菊地　猪木単体はもう「語り尽くされてる」でしょうし、いまさら猪木について新しいことを言うつもりはないというか。でもこれからもっとおもしろくなってくると思いますよ。

――これからですか？

菊地　要するにあの人は完全なヒステリー性ですよね。口からツバ垂らすというのは、もうトランスしてるわけです。成田会見では話す度に言うことが変わる（笑）。嘘をついてるんじゃなくて、主観が平然とどんどん書き変わっている。という。ヒステリー性の症状としては普通の、ごく当たり前のことです。そこに半ボケが入ってくる感じがしました。1月4日の東京ドームでやった「アルティメット・ロワイヤル」というのは初期アルツハイマーの人の脳内映像がそのまま出た、みたいなね。すごい試合だなと思って感動しました。本当に。

1985年、新日本プロレスに突如、移籍した“超獣”ブルーザー・ブロディは、ベートーベンの「運命」が流れる中、スーツ姿でチェーンと花束を持ち、新日本の後楽園ホール大会に登場。写真は、その翌日の記者会見の模様から。（写真：平工幸雄）

――なるほど（笑）。この本が面白かったのは「猪木に言及していない」という点もあるんです。菊地さんの年代の方って、猪木イズムがベーシックな部分に入ってますけど、そこがこの本では本当に薄めですよね。20代～30代前半の人間にとっては、ブロディと言われた方が、「逆に乗りやすい」感じもあるんです。

菊地　村松友視さんが凄く早い段階で、猪木さんに関して、きちんと、しかも文学的に書いたわけです。あれで猪木さんを巡る言説の原型ができて。ちょっと枠にハマらないことをしたり、ヒステリックに表裏一体になることを「猪木イズム」って安直に言う人が増えましたよね。

――そうですね（笑）。

菊地　ローランド・ボックとの試合だとか、鈍い感じの試合もあるじゃないですか。もの凄い鈍痛、腹にズッシリくる。それは好きなんですけど。ただ、猪木を全部好きということではないです。

――なるほど。その〝鈍い感じ〟が大きなテーマになるんですね。

退屈や鈍い時間もあるのが、ある種の健全な状態。「おもしろければいい」という感覚は危ない

菊地　結局、幼少期に観ていたもののフィードバックで観ちゃうから……やっぱり港町に育って、酔っぱらいと遠洋漁業の漁師とヤクザのケンカという風景が僕の見たモノの原型になっているとすると、あんまり猪木ではなくなってしまうんですよね。むしろ初期リングスや、ブロディになってしまう。

――その人が見た「最初の風景が

どこなのか」というのはやはり大きいんですね。

菊地　後に「膠着」という言葉が出てきたときに、悪しきモノとして喧伝される訳ですよ。「膠着がないものがいい」と。つまりポップです。膠着は見ていて嫌だし、苦痛。でも僕は「膠着が嫌だから動け！」って感覚が凄く嫌で。動いて、おもしろければいいのか？と。状況的には今や何でも「とにかくおもしろければいい」という風潮になってるけども。それは完全なるエピキュリアン（享楽主義者・快楽主義者）って意味で……危険ですよね。つまりシャブでボロボロになる、ってことだから。

——ん？　どういうことですか？

菊地　退屈な時間があって、鈍く痛い時間があって……だんだんといい時間が来てというのが、ある種の健全な状態だと思うんですよ。僕はむしろ退屈は全然OKで、だからゴダールの映画も好きなんですけど（笑）。そこで堂々と膠着を見せた初期リングス。あとブロディも「この人、人を殴り殺しかねない……」と期待してると、意外と……大見得切って、ゆっくり大きく跳ねたり。大暴れするんだけど、大して何もしない（笑）。

——技の受け方も凄いですよね。

菊地　パっと見、ブロディにはサディズムが見え隠れするんだけど（笑）。じつは強烈なマゾヒズムというのがあって……猪木vsブロディ戦というのはマゾ対マゾ（笑）。マゾとマゾが攻め手に欠いたまま闘ってしまった、という。「噛み合わないという状態で・しかし完全に噛み合っている」という……もう相互的な放置プレイみたいな（笑）。強烈なセックスを感じますね。杉作J太郎さんが、やっぱりこの試合をベストに挙げていて「俺の魂と一緒に中継カメラが震えていた」と（笑）。それをしかも「後藤真希が初登場したときのモーニング娘。」の話に重ねて書く（笑）。後藤真希の登場が、ブローザー・ブロディの入場に合わさってくるというね。名調子ですよね。

ブルースとブロディに共通するのは、強烈な統合不全感です

——本の中の重要なキーワードとして「ブルース」という言葉が出てきますよね。ブルースというイメージはわかるんですけど、具体的にどういうものなんでしょうか？

菊地　要するに「世界は、常に屈辱と悲しみを産む装置で、そこにどうやって対抗し、順応していくか？」ということなんです。ブルースって音楽の用語の中では、人種差別を受けた人たちが、路上で歌い始めたものでね。もう「歌ってないと発狂する」というレベルの者としての、哀しみをなんとかする行為。それが音楽に定着するわけです。僕の実家は歓楽街のど真ん中のナスティな地域で、もう哀しい人しかいない。いつも女の人がシクシク泣いてて、そこに暴力と性が入ってくる。それで「世の中哀しいもんだ」と思って。でも昼間は昼間で楽しかったりもするんですけど、「基本的に哀しいんだ」という世界観があって……プロレスはその部分に訴えたというか。

——そういう意味で、「一番ブルースを感じるレスラー」というとやはりブロディになるんでしょうか？

菊地　あのド初期の有名なブルースシンガーの音を聴くと、もう完全な「統合不全な人の唸り」なんです。歌じゃない。デタラメで、哀しみと喜びとかが不全な状態で煮えたぎってる。キーも長調と短調でグチャグチャ。言語と叫びがグチャグチャ。でもエネルギーはもの凄い。僕がブロディから感じるのは、そういう感触で、「何が言いたいのか、もうわかんない」みたいな。要するに、キ○○イということです。見てると笑えるような、哀しいような、痛切なような……感じになってて。僕はブロディを見てると、本当に無垢で聖なる天使的な感じというのは、一番病的な人からやっぱり伝わるんだな、と。だから、僕の中ではブロディが一番の頂点なんですけども（笑）。

「無垢で天使的な感じ」は、一番、病的な人から伝わる。それがブロディ

今の「DSE帝国」が持っている万能感というのは、本当に危険だと思う

——それでこの本のクライマックスとしてハッスル、そして『紙プロ』の鬼畜編集長である山口日昇についても言及されているんですが。

菊地　全体的にこの本は「勝ち組批判」の本になっちゃってます。この5年間って、要するに全てのものが沈没してDSEの一人勝ちという状態で、それは勿論構わないんです。誰が勝とうが。書いてる途中に前田が復帰したけれど、書き始めたときには「完全なるDSE帝国」だった。要するに、この世界の両端を握っているというか（と、手を横に広げて両手を握りながら）。つまり彼等はサーカス（ハッスル）も持っているし、ボクシング（PRIDE）も持ってる、要するにこれは「世界の支配」ですね。

——すべてはその範囲内に収まってしまう、と。

菊地　そこで生じる「俺が世界を転がしている」という万能感は、もの凄く危険な気がして。その危険さというのは社会的に危険、というより、作り手の自我が危険じゃないのか、とか、あるいは双方のイベントに出ている人たちが危険じゃないかという直感があったんですよ。

——（頷いて）ほお〜。

菊地　万能感というのはなんにしろ危険ですよね。例えば音楽を例に取ると、この国には宗教がないから、宗教イコン（象徴）がないわけじゃないですか。キリスト教国の人が歌ってトランスしてる最中にマリアが見えたり、仏教国の人が舞踏の間にトランスしてシッダルタを感じたり、というのはいいんです。そこには、共有イメージがあるから。でも、この国はそれがないわけで、降臨とか、トランスして神の領域に入ったような万能の自我があるようなら、凄く危険。それは具体的なイコンの像を持たないから、つまりその人個人のオリジナルの宗教観になるしかない。そういう頂点に上り詰めた人の危険な感じ、というのがあって。「セルフ・パロディ」ってのは、あれは危ないですよ。万能感の中でやると。

——DSEがその領域に達してるんじゃないかという危機感を感じられたんですね。

ハッスルで感じる多幸感は、音楽によるイメージ戦略とノスタルジーだと思う。

菊地　でも、最初はハッスルは学芸会みたいなモノだと思っていたんですよ（笑）。

——前田さんも〝老人ホームの学芸会〟と言ってましたからね（笑）。

菊地　僕も金持ちが税金対策でやってるという程度の感覚だったんです。でもPRIDEも凄いんですけど、実際に見るとある意味ハッスルの方が高く評価できます。もの凄いと思うんです。観客を捉えて放さない力というか。クライマックスに「ちょっと危ないな〜」と思うほどに多幸感があって、だって、あの興行ではなんにもしていないわけですよ、小川は（笑）。

——菊地さんが観戦取材に行かれたのが、2月8日のハッスル・ハウスですよね。

菊地　普通は「何にもしないじゃないか」とか言われる筈なんですけど、それでも「リング上に小川とランデルマンがいれば死んでもいい」という気に最後の数分間でなったんですよね。で、僕がハッスルで感じたのは、あのディスコ・クラシックを使うことによって、もの凄い多幸感がありますよね。

——ヴァン・マッコイの『ハッスル』ですね。

菊地　あの興行は客入れの段階でアース・ウインド&ファイヤーの『セプテンバー』がかかってて。で、エンディングにディスコ・クラシッ

菊地成孔

クの『ハッスル』。音楽によるイメージ戦略というか、音楽が人間の気持ちを揺るがす力、というのは本当に強いんです。この本と同時期に出した『東京大学のアルバート・アイラー：東大ジャズ講義録・歴史編／菊地成孔＋大谷能生』（メディア総合研究所）という本に、第二次世界大戦で何故アメリカが勝って、ベトナム戦争でなんで負けたかというくだりあって……それは「戦意高揚音楽がなかったから」なんだ、と。つまり第二次世界大戦ではアメリカが用意した「Vディスク」（ビクトリーディスク）というのが存在して、それはスウィング・ジャズが「キル・ジャップ」というメッセージを乗せて。

——そんなレコードがあるんですか!?

菊地　いや歌詞とかでは何も言ってはないですよ。ただ音楽的なイメージを乗せて。真珠湾攻撃から3日後のベニー・グッドマン・オーケストラのライブという音源があって、それはかなりいいライブで、もの凄くスウィング感がある。内容は陽気で痛快な音楽なんですけど、もうとにかく焚きつけられるんです。アメリカはそういう音楽を第二次世界大戦の「戦勝のイメージ」として、最前線に投下したんですよ。蓄音機と一緒に。で、そのレコードをウラ面にひっくり返すと、スイートミュージックで「勝って帰ったら、彼女が待ってるよ」というメッセージが入ってる。それでもう現場での士気が断然変わるんです。そういう形でスウィング・ミュージックは、ある種、第二次世界大戦の戦勝に貢献したと。

——へえ〜、知りませんでした。

菊地　反対にベトナム戦争のときは厭戦の音楽（ロック）が流行って、これによってアメリカがズルズルと負けていく。つまり「ロックにやられちゃう」んですね。一回、ジャズの力で勝って、もう一回戦意高揚の音楽を作ることができずヒッピーの逃避的な平和主義に負けていった……という歴史があるんです。で、僕がハッスルで感じたのは、あのディスコ・クラシックを使うことによって、もの凄い多幸感がうまれるということ。それからHERO'Sに行ったらデヴィット・ボウイの「HEROES」が流れてたから、あまりにもそのままじゃないかと思うけど（笑）。

——何のひねりもありませんね（笑）。

菊地　すげえシンプルだなって（笑）。で、僕は『ハッスル』が新譜としてリアルタイムでFEN（在日米軍向けのラジオ放送）でかかって、赤坂のMUGENというディスコでプレイされて、みんな本当にかっとんで盛り上がる……という。それが「今月の新曲」なわけですから（笑）。その極限の多幸感が訪れた状況というのをリアルタイムで経験してるんです。僕の同世代の人、まぁ東京で遊んでいた人は、経験していると思うんです。それが中学1年か、2年かな『セプテンバー』は。『ハッスル』もその頃。で、ハッスルのマッチメイカーとされる山口さんは、僕と同い年だから、おそらく同じことを経験していると思うんです。

——地元でディスコ通いはしてたらしいです（笑）。当時はアフロヘアだったという証言もありますね。

ハッスルはドラッグ……禁断症状でまた観たくなる

菊地　わかるんですよ、ちょっと（笑）。でも、ハッスルを見るときの「気持ちいいんだけど怖い」というドラッグ的な感じがやっぱり消えないんですよね……何回思い出しても。ハッスルは普通に健康な人が行っても楽しいんだけど、見終わると禁断症状が出て「また見たい」となる。近代の商品としては良く出来てて、もの凄く刺激もあっておもしろい。良く考え抜かれてて、毒もあるわけ。それを身体に入れちゃうと、ずーっと中毒みたいに回さなきゃいけない感じ。

——ハッスルと同時に『紙プロ』も非常におもしろい形で批評して頂いたな、と思って。きちんと読み込むと、『紙プロ』やハッスルに愛があるな……と個人的には解釈しました。あといまのハッスルは鬼っ子的な存在で。プロレスマスコミもやや扱いに困っている状態なんですね。だからハッスルをきちんと語れる人って、ほぼいない状態なんです。

菊地　そうなんですか？　まあ、咀嚼できないんだろうな。WWEの日本語訳としても、21世紀のプロレスとしても完成形というような安定した評価を得ているんじゃないですか？

——う〜ん……。まだ試合がショッパイだとか、プロレスを壊すなという声もあるし。そういうレベルなんですよ。

菊地　でも興行的にはひとり勝ちでしょ？

——後楽園では確かにお客さんは入ってるんですけど。それ以外ではまだ苦しい部分があります。だからハッスルを……よくも悪くもここまで熱を込めて書いてらっしゃったのは凄く興味深かったんです。それに、僕はここまで山口を評価したテキストを読んだことがないですし。「もしかして知り合いなんじゃないの？」（笑）というくらい的確で。

菊地　そうですか……まったく面識ないですけど（笑）。

『紙プロ』にも『ハッスル』にも、山口さんの凄いアンビバレンスを感じる。

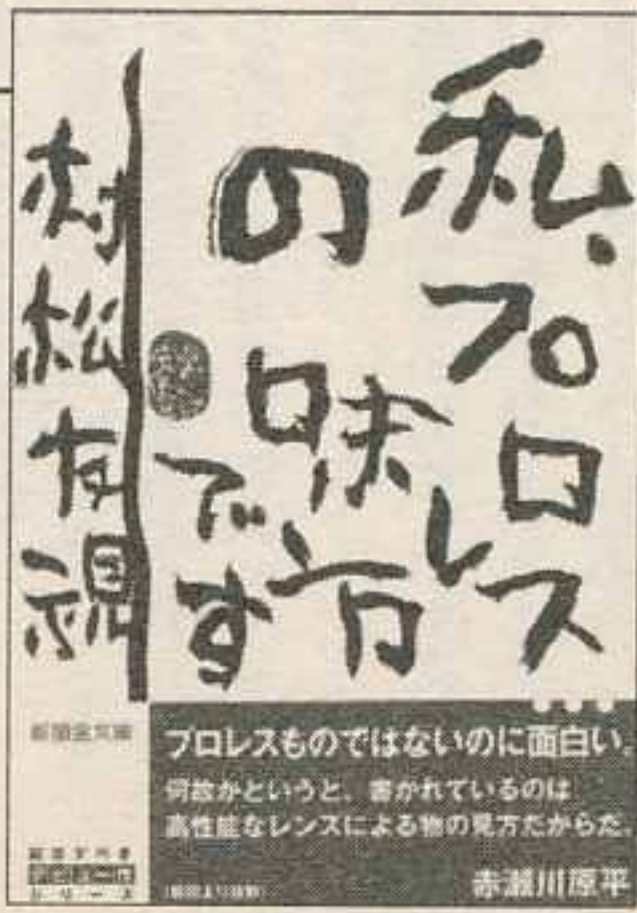
——本の中ではないのですが、『紙プロ』が「健康的な（安定的な）面白さを出すに至って、それを本当は山口さん本人が望んでないのでは」と菊地さんが指摘されていて、それは編集部の人間としてもそう感じる部分があります。

菊地　山口さんのアンビバレンス（同一対象に対し、愛と憎しみのような相反する感情や態度が同時に存在すること）を凄く感じますね。言っちゃえば『紙プロ』って左翼から始まって、Uインターとかをボコボコに攻撃してた時期がありましたよね？　そこから始まって今度は作り手側に回る。という展開は、まさしく『カイエ・デュ・シネマ』（註4）なんだけれど。ものすごく辛口の批評家が創り手に回って業界を席巻しちゃう……というね。で、その業界を代表する人間になってしまうという……自我のあり方とか。あと初期ヌーベルバーグの監督に見られたのは「ものすごくインテリジェンスがあるんだけど、学歴的には高卒や中卒」という経歴なんです。

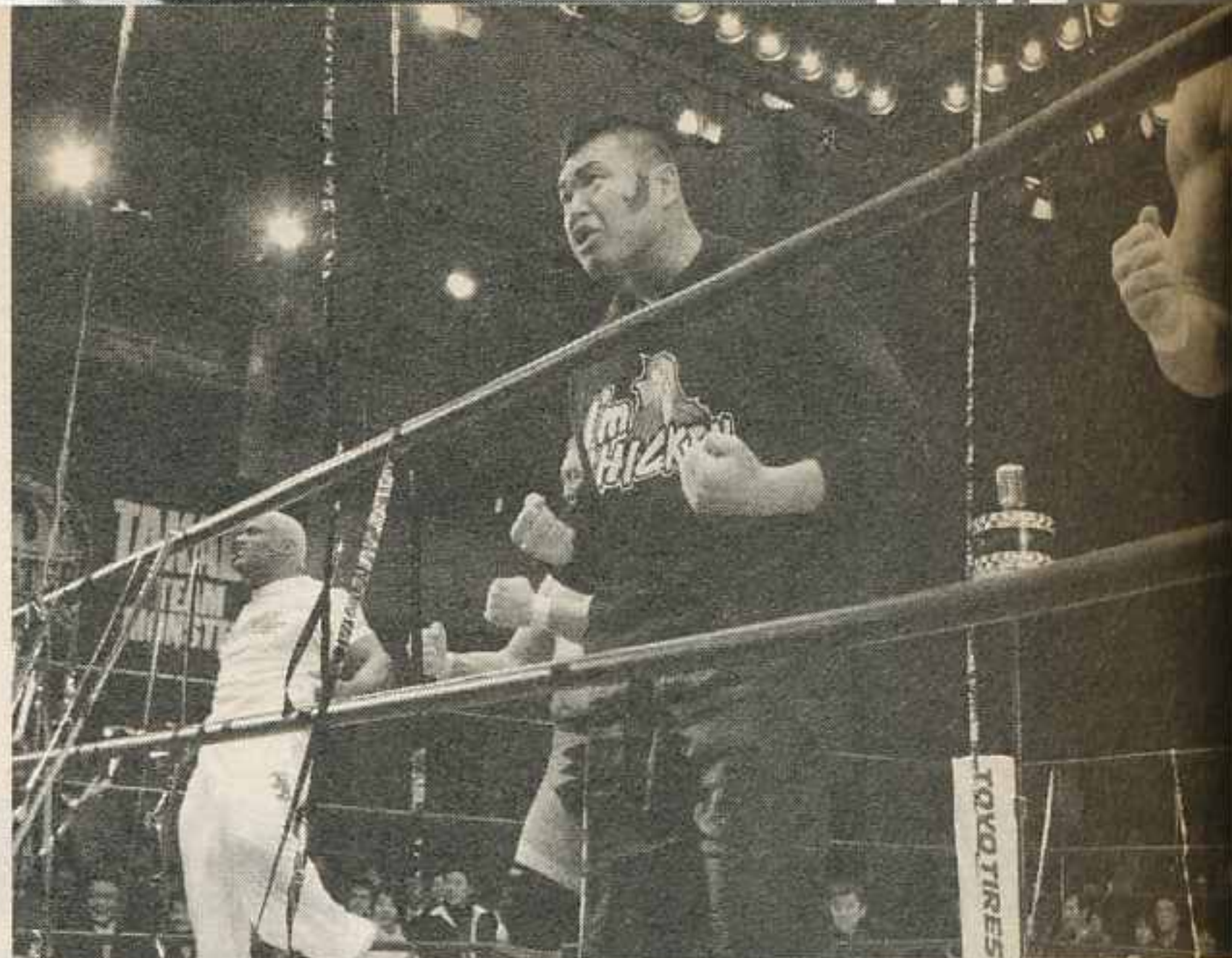
——ちなみに山口は中卒ですね。

注釈

（註1）『私、プロレスの味方です／村松友視』（新風社文庫）
1980年発行。当時、きわもの扱いだったプロレスを文学的かつカルチャー的に引き上げる役割を担い、ターザン山本ら、その後の活字プロレスにも強い影響を与えた重要な一冊。村松氏の理論や思想からプロレスを読み解き、独自のモノの見方、を提示。水面下に潜んでいた多くのプロレスファンに自信を与えた。同時にアントニオ猪木を迎合させ、一方では前田日明を怒らせたもした。だが、その後村松氏はある時期を境にプロレス業界とは距離を置いている。

私、プロレスの味方です
村松友視
プロレスものではないのに面白い。何故かというと、書かれているのは高性能なレンズによる物の見方だからだ。
赤瀬川原平

（註2）DCPRG（DATE COURSE PENTAGON ROYAL GARDEN／デートコースペンタゴン・ロイヤルガーデン）
1999年、菊地成孔氏が「戦争不安に拮抗する為」に、結成したジャズ・ファンク・バンド。70年代のマイルズ・デイヴィスによるエレクトリック・ジャズをモチーフに、変則的なリズムが特徴的なダンスミュージックを展開。菊地氏はCDJやコンタクト（指揮）を担当。長時間に渡る陶酔と熱狂のライブは必見。

（註3）スパンク・ハッピー（SPANK HAPPY）
1994年、菊地成孔氏が結成。その後、休止期間を経て、1998年に新生スパンクハッピーとしてリスタート。ヴォーカルは岩澤瞳。デガダンかつスウィートなハウス風ポップスユニットとして人気を集める。2004年に岩澤瞳が脱退。現在は菊地氏が、パートナーの女性を随時スカウトしながら活動中。

（註4）『カイエ・デュ・シネマ』（CAHIERS du CINEMA）

菊地　反対にベトナム戦争のときは厭戦の音楽（ロック）が流行って、これによってアメリカがズルズルと

とを経験していると思うんです。
――地元でディスコ通いはしてたらしいです（笑）。当時はアフロヘアだ

ですよ。
菊地　でも興行的にはひとり勝ちでしょ？

があるんだけど、学歴的には高卒や中卒」という経歴なんです。
――ちなみに山口は中卒ですね。

菊地成孔

菊地　あらゆるバイトをしながら映画館通いだけして……というような形で上がってきた知性の鍛え方とか。いろんな符合があって。だから山口さんがマッチメイカーになるということがあるとしたら、「それは『カイエ・デュ・シネマ』だな」と思って。ただ実際、『カイエ・デュ・シネマ』は右派には転向せず、未だに左派のままで……そういう立場を取ってるんです。まあ、フランスじゃないとあり得ない感じというか。で、僕は解凍してから『紙プロ』を読んだら……まぁ、簡単に言うと、機関誌（笑）に成ってて（笑）。

――ははははは（苦笑）。良く言われますが、実際には機関誌じゃないです。

菊地　そのことの善し悪しは別にして、まぁ機関誌的だとは思うんです（笑）。優秀な機関誌として素晴らしいなと思ったんです。だけど山口さんの経緯を見ると「どっちも望んでいないんだけど、どっちも望んでいる」し、「ヒーローになりたいんだけど、なりたくない」という。すごく簡単に言うと、ひねくれてる。でも単にひねくれてる、だけではない凄いアンビバレンスを感じたんですよ。で、彼が一瞬だけ本気になったのが、誌面で桜庭を転がそうとしたときだと思うんですね。あのときの自己移入の感じは凄いような気がして。あの『さくぼん』（ワニマガジン社）（註5）という本を企画して、「桜庭を日本人のヒーローだ」という感じにする。で、ちょうどその辺をピークに桜庭が負けが込んでゆくんだよね。

――ちょうど『さくぼん』の発売の直前に、初めてシウバに負けてるんですよね。

菊地　それまで桜庭がセルフプロデュースによって綱渡りしてきたのを、山口さんが転がそうとして……「失敗した」と思ってるんです。僕はね。山口さんの主観でどう思っているかわからないし、PRIDEのファンがどう思ってるかはわかりませんよ。でも僕はそう思ってるということです。

――なるほど。

菊地　山口さんの主観としては、いろんなものを転がしてきた。小さい版型の『紙プロ』（註6）でもいろんなフリークスや、際立った人たちを転がしてましたよね。で、その果てに桜庭に出会って、剣が峰のところでコケてしまった……。で、このまままずるずる泥沼にはまって「もう二度と転がすもんか」とトラウマを抱える人もいますよね。でも、そうではなくてその失敗を回収しようとして、その結果がいま、なんじゃないかなと。山口さんにとって桜庭選手は「自分を投影したヒーロー」だった気がするんです。つまりイケメンじゃなくて、おもしろくて、猪木がいみじくも言ったように「ブサイク」で、いわゆるヒーローの顔じゃない。桜庭は本当にその辺を上手く展開して。モンゴリアンチョップとかね。本当に上手くやって。僕の想定では山口さんとは身の丈もおんなじくらいじゃないか？と思ってて……。山口さんは結構でかいよね。

――そうですね。178センチくらいはあります。

菊地　で、桜庭ってそんなに大きくないじゃないですか。そういう容姿とかも含めた自分の投影で彼が本気になったというか……ちょっと腰が浮いたというか。策士としていままで余裕で転がしてたのが。で、ちょっとグッと力を込めたらコケたっていう……よくあることだけど。

――『さくぼん』はいわゆる往年の『少年マガジン』的なスタイルですよね。

菊地　そうそうそう。だから山口さんは幼少期への憧憬というものが非常にありますよね。それはハッスルを見ていても思う。子供の頃に読んだ『冒険王』や『少年マガジン』とか。僕も世代的に同じ頃に読んでたからね。まぁ、言っちゃえばノスタルジーですよ。ノスタルジーに感覚を全放出しようとしてて……。で、僕だったらその中にインリン様は入ってくるんです。僕はストリップとかがリアルな街で育ったから。インリン投入を巡って、山口さんが反対してる……（『サイゾー』2005年4月号）という話もあったし。

――あれは完全な飛ばし記事で、現実は正反対ですね。むしろ積極的な推進派です。

菊地　そうですか。その時は噂が本当かウソかわからなかったんだけど、すごくリアルに感じたんですよ。そういう少年性の夢の中で、過剰に色っぽいものをはずそうとする潔癖さ……だから山口さんがそういう人なら「外圧によってインリン様を投入させられる」ってことは、非常に健康的でいいなと。なんでも思い通りじゃないってことは……いいことなんじゃないかと。すべては推測ですが。

――今度、本人に確認しておきます（笑）。

菊地　インリン様っていうのはWWE的に考えても、少年マンガとしてもありだし、仮面ライダーに蜂女がいるようなもんで全然オーケー。しかも本人の才能も素晴らしいですよね。……僕、じつはこの人と揉めたことあるんですが……（笑）。

――存じ上げております（笑）。

菊地　いやもう全然この人の優秀さから見たらもうそんなことは遥か彼方、って感じ。すごく素晴らしい仕事で。衣装も、それをまとって自分がどう振る舞えばいいのかっていう勘も素晴らしい。本当に。

山口さんや柳沢さんが、天下を取る可能性というのは……うっすら感じてました。

――菊地さんは昔から『紙プロ』を読んで頂いてたんですか？

菊地　もう創刊から読んでますよ。当時からうっすらと「この人たちがいつか実際の右派になって、天下取っちゃうんじゃないか？」という気はしてましたね。なんかK-1の石井（元）

菊地氏が観戦した2月8日の『ハッスル・ハウスvol.8』（後楽園ホール）の「多幸感」（菊地氏）溢れるクライマックス。この日は新日本ドームの「アルティメット・ロワイヤル」をパロディにした「モンスター・ロワイヤル」が実施。その危険性に関しても著書の中で言及されている。写真：平工幸雄

（註4）『カイエ・デュ・シネマ』（CAHIERS du CINEMA）
フランスの映画研究雑誌。フランスを代表する映画監督、フランソワ・トリュフォーやジャン・リュック・ゴダールらがかつて在籍し、批評家から映画監督になっていった。当時の若いフランスの批評家たちは、膨大な映画知識と感性で映画界への徹底的な批評を展開。やがて「批評を書くものは映画を撮らなくてはならない」という流儀に乗っ取り、前衛的なフランス映画の監督の道に進む。

（註5）『さくぼん』（ワニマガジン社）
2001年発行。『紙のプロレス』鬼畜編集長こと、山口日昇が人気、実力、気運ともに当時大絶好調だった桜庭和志の公式マガジンとして全面編集。70年代の『少年マガジン』風の表紙や装丁まわり（本文はマンガ雑誌と同じザラ紙使用）。紙相撲やステッカーなどの付録もついた、「ノスタルジー」（菊地氏）な構成。

（註6）（小さい版型の）『紙プロ』（世謝出版・ワニマガジン社）
1991年創刊。日本マット界で暗躍する、山口日昇（ハッスルに関係）と柳沢忠之（K-1に関係）がかつて在籍し、批評家からマッチメイカー（？）になっていった。一見デタラメにも見える悪ノリ加減。中～後期はマット界への辛口な批評も展開。また立川談志、ナンシー関、高田文夫、糸井重里など演芸～文化人までゴッタ煮にした誌面展開で、異様な熱量と求心力を放つも96年に休刊。97年に版型が大きな『紙のプロレスRADICAL』（ワニマガジン社）……つまり本誌・としてリスタート。

素敵なパパ

高田モンスター軍

菊地成孔

山口日昇さんとの対談？ おそらく精神分析になると思う

館長が誌面に出始めたあたりから、明らかにそっち側へ向かうんじゃないかという気がしてました。

――いまじゃ考えられないですけど、石井館長（当時）と谷川さんとターザン山本と春一番が一緒にバスケットボールとかやってましたからね（笑）。

菊地 小っちゃい『紙プロ』を作ってたお二人（山口と柳沢忠之）は、今やどっちもマッチメイカーなんでしょ？ すごいことですよね。当時から、この人たちは自分達が作った良質なソフトを提供しないと。という義務感みたいなものに駆られていくんじゃないか、という気はしてました。要するに、無茶に成り上がってるんじゃなくて順当に来たなと。だから解凍してすぐ片田さんに聞いたんですよ。「今、山口さんってどうしてんですか？」って。そしたら「マッチメイカーだ」って聞いて「えっ!?」って（のけぞるポーズ）思ったんだけど、すぐに「なるほどね」って（ゆっくり上体を戻すポーズ）いう風になって（笑）。

――納得されたわけですね。

菊地 で、柳沢さんはK-1の方だと聞いて、「やっぱりそうか」っていう。

今後の業界との距離感は……自分でもまだよくわからないですね。

――その後、解凍されて、継続的にプロレス・格闘技はご覧になってるんですか？

菊地 会場観戦はしてないですが……。時間があったら行きたいですね。でも何を一番見たいかって言ったらドラゲーとハッスルですよ。

――この本にも締切の都合で原稿にならなかった部分があると聞きますし、是非、これからもプロレスや格闘技を見て原稿をガンガン書いて頂きたいですね。

菊地 書くことは大体この本と同じことですよ（笑）。まあ、でも今回の本は大抵の人が「DSE批判の毒舌本」だと思うんでしょうけど（笑）。

――そうなんですよね。読んでると最初にすごい先制パンチが入ってくるんで、そこから先は意見が別れると思うんですよね。菊地さんは意図的にそういうスタイルで書かれたんですか？

菊地 自然に書いたんですけど。なんかやっぱり僕の中にある左派みたいなものはありますよね。「ひとり勝ちしてる人の批判はしていい」というね。健闘してるけど善戦むなしくって感じの人は「上げなきゃ」っていう、僕なりのバランス感覚があって……。いや本当にハッスルが冷遇されてるとは思ってもみなくて、もうハッスルがプロレスのトップに君臨しているのかと思ったんで（笑）。

――今後、プロレス・格闘技の本を書かれる予定はありますか？

菊地 全くないです。書きたいことが書けない状況になったらやる意味ないですし。これはもう「音楽家が突如書いた」という本ですからね。しかも本を出す事情も理由もあった。「切断したものを再開するとどうなるか？」という裏テーマがあって。それはプロレスに限ったことではないから。そういう必然性の中でしか書かなかったと思うんですよ。ただ、このインタビューが『紙プロ』に掲載される段階で少なからず業界に参入してるわけですよね。裏話も知る。そうすると、既に禁句のことも生まれて来てますよね（笑）。だんだん身動き取れなくなってくる。いつでもスーパーフラットでいられるっていう条件下で、好き放題書くということが……最初のワンチャンスだけ許されるわけです。でもこの本が単なる毒舌本と思われたままだと嫌なので。かと言って愛情の裏返しだと思われるのも嫌なんですが（笑）。状況主義的に、「繁栄してるものは叩いてよし、健闘空しくというものは上げてよし」という、ひとつの倫理に基づいているだけなんだ、ということは理解して頂きたいなと思いますが。

――個人的には是非とも今後も書いてほしいですね。

菊地 そうですか（笑）。その辺は……微妙なとこですね。まだ自分の中で決まっていない感じです。

――さらに、僕らとしては是非、山口日昇との対談をセッティングしたいなとも思っているんですが。

菊地 これは山口さん対するネガティブな感情とかでは一切無く単なる予想ですが、あんまりおもしろくならないと思いますよ。山口さんって大きく分けると「糸井重里文化圏」だと思うんですよ。学問領域の用語は使わない……という身の丈に合った80年代的知性。という感じがする。僕はすぐにハードコアに「フロイトの否定についてのテキストで」って行きそうになっちゃうタイプなので、あんま噛み合わないと思います。

――その噛み合わなさも逆に見てみたいですけどね。今日はその意味では僕らは、タイガー・ジェット・シンにやられる山本小鉄というか（笑）、ボックにやられる木村健悟的な意気込みだったんですけども。

菊地 はははは。っていうか、山口さんと対談すると、精神分析みたいになっちゃうと思うんですよね。

――それはすごく読みたいなあ！ 山口が失踪するメカニズムとかを探って頂けると助かります（笑）。

菊地 でも、資格持って無い人間が手慰みで精神分析するって、一番やってはいけないことですから。テレビなんかでも最近多いですけど。ましてやそれが商品となって流通するわけですから危険極まりない。この本も、もうちょっと突っ込んで書けば、本当に素人の精神分析になっちゃうんですよ。あらゆる自伝はパトフィジー（病跡学）として読めば、読めてしまいますし、そこは気をつけて堪えました。そんな感じですね。

――わかりました（笑）。今後のご活躍も期待しております。本日はありがとうございました。

【05年6月4日、ヒルトン東京にて収録】

INFORMATION

○**菊地成孔が、TV番組『情熱大陸』（TBS系）に登場!**
放送は、7月3日（日）夜23時〜。『情熱大陸』の取材班は、本誌の取材にも同行！ チェーンや花束を持って撮影に挑む菊地氏やインタビューの模様が見られるかも。

○**菊地成孔の著書**
・『スペインの宇宙食』（小学館）
・『歌舞伎町のミッドナイト・フットボールー世界の9年間と、新宿コマ劇場裏の6日間』（小学館）

○**菊地成孔の共著書**
・『憂鬱と官能を教えた学校――【バークリー・メソッド】によって俯瞰される20世紀商業音楽史』（河出書房新社）
・『東京大学のアルバート・アイラー――菊地成孔・大谷能生によるジャズ史講義録（上・下）』（メディア総合研究所）

○**菊地成孔オフィシャルサイト**
「fontaine/degustation」
http://park10.wakwak.com/~kikuchic/contents.html
菊地氏の日記が読めるのはオフィシャルサイトだけ！ 濃密かつ赤裸々な日常と全方位的にガチな姿勢からは本当に目が離せない。毎日、絶賛更新中。

きくち・なるよし■ 1963年 千葉県銚子市生まれ。音楽家、文筆家、音楽講師、東京大学教養学部非常勤講師。1984年プロデビュー後、サックス、キーボード、作詞作曲編曲など、膨大なスタジオワークと共に、山下洋輔グループ、ティポグラフィカ、グラウンド・ゼロなどを経て、現在、菊地成孔クインテッド・ライブダブ、DATECOURSE PENTAGON ROYAL GARDEN、SPANK HAPPY、ペペ・トルメント・アズカラールを主宰。ソロ・アルバム第2弾「南米のエリザベス・テーラー」（EWE）をリリース。小説家・菊地秀行の実弟。

ついに明かされた『プロレススーパースター列伝』の真実！

マスカラスだけは「ガチ!!」

白覆面の魔王 ザ・デストロイヤー

昭和の生き証人が宿命のライバルたちを語る！

まだプロレスが“おとぎ話”や“神話”の世界として豊かな幻想溢れていた時代の生き証人ともいえるザ・デストロイヤー。力道山との死闘で驚異的な視聴率を獲得して日本全国にその名を轟かせ、和田アキ子とレギュラー出演していたバラエティ番組でも大活躍。ボブ・サップを超える人気者だった“白覆面の魔王”に、宿敵たちのエピソードや、そしてその己の覆面レスラー人生を大いに語ってもらった。

聞き手／ジャン斉藤　取材協力／東田時雄　designed by Shiraki (TwoThree)

――デストロイヤーさんはもう数え切れないほど来日しているわけですが、来日回数を覚えていたりします？

デストロイヤー　いきなり難しい質問だな（ニッコリ）。具体的な回数はさすがに覚えていないが、まぁ軽く300回は超えているよ。

――300回オーバー!!　よく「日本は第二の故郷」というガイジン選手が多いですけど、それこそデストロイヤーさんに相応しい言葉になりますね。

デストロイヤー　俺は1993年に現役を引退して、それからは頻繁に来日しているわけじゃないけど、いままでも毎年7月には、日米親善少年レスリング大会のオブザーバーとして子供や父兄を引率して、そして8月には麻布十番の納涼夏祭りにチャリティーサイン会のために来日しているんだ。俺はいま地元で子どもたちにスイミングやレスリングを教えているんだよ。

――その少年レスリング大会は、木口（宣昭）先生が関係しているイベントなんですよね。今回はその下準備のための来日なんですか？

デストロイヤー　と言いたいところだが、今回はプライベートな用事で日本に来ているんだ。30年来になる日本の友人の娘さんがこのたび結婚することになって、その結婚披露宴にご招待されてね。もちろん木口さんとも会う予定だよ。ユーのマガジンには、木口さんのところのヤングボーイは載っていないのか？

――五味隆典という格闘家は載っています。

デストロイヤー　ゴミ？　う～ん。残念ながら覚えていないなあ。どれどれ、ユーのマガジンを見せてくれ（と、ヴァンダレイ・シウバ表紙の『紙プロ』をめくる）。……ほう。ユーのマガジンはプロレス以外のファイターたちも取り上げているのか？

――基本的には何でも取りあげますね。いま日本では『PRIDE』やK―1に代表される格闘技イベントの人気がべらぼうに高いんですよ。

デストロイヤー　私も3年ぐらい前からMMAイベントをたまにテレビで見ているよ。とってもタフな闘いだよな。

――デストロイヤーさんの血も騒ぐんじゃないですか？

デストロイヤー　ワッハッハッ！　いやいや、さすがに俺はもう歳だからな。

――ちなみに『PRIDE』やK―1で知っている選手は誰かいますか？

デストロイヤー　ケン・シャムロックのことは知っているぞ。彼はいま何をやっているんだ？

――ケンシャムはいまでもアメリカのMMAのイベントに出場して頑張っています。

デストロイヤー　そうなのか。彼はプロレスラーというよりシューターとしての印象が強いけどな。

――ケンシャムは当時、最強のシューターと呼ばれていましたからね。

デストロイヤー　まぁ、俺はK―1にしても『PRIDE』にしても、プロレスの延長上にあるイベントと認識しているけどな。かつてボクシングからプロレスが派生したように、K―1や『PRIDE』もプロレスから生み落とされたんじゃないかと思っているんだ。

――とくに日本の格闘技界はむかしからプロレスの考え方や、興行的のあり方について大きな影響を受けていますね。

デストロイヤー　そういう意味では、それらは形を変えたプロレスの一種だと思っている。ただし、ひとつだけ言えることは、格闘技はあくまでルールのある競技であって、プロレスはもっともっと大きいものだ。俺の自宅にはプロレスのルールブックがあるんだが、これがまた立派な装丁で分厚い一冊に仕上がっている。ところが、ページをめくってみると、どこもかしこも真っ白だ。意味がわかるかい？

――つまり、"プロレスこそが"何でもあり"のジャンルということですよね。総合格闘技の"何でもあり"とは意味合いは違いますけど。

THE DESTROYER

デストロイヤー　そのとおりだ。マスクマンという発想にしてもプロレスならではのアイデアだろう。俺だって、このマスクを被ったことで人気が出て有名になった。

――自伝（『マスクを脱いだデストロイヤー』）で公開された素顔を見ると、ホント美男子ですよね。なぜマスクを被る必要があるのかと疑問に思うぐらい。

デストロイヤー　ありがとう（笑）。昔からマスコミたちも口を揃えて俺に質問してきたよ。「なぜマスクを被ったのか？」とね。そのたびに俺は「ハンサムな俺が浮気しないようにワイフが無理矢理被せている」と答えているんだ（笑）。

――実際はプロモーターの命令だったそうですね。不満はなかったんですか？

デストロイヤー　もともとヒールをやりたかったんだよ。でも、俺は当時、年に3ヶ月は母校の大学でフットボールのアシスタントコーチをやっていたから、あまりラフなことは控えざろうをえなかったんだ。

――そんな障害がありましたか（笑）。しかし、ヒールをやることには意欲的なところはあったんですね。

デストロイヤー　でも、マスクを被ることに関しては不満だったよ。初めてマスクを被ったのはロサンゼルス地区でビジネスするときだった。プロモーターのジュリアス・ストロンボーが4週間だけの約束ということで「マスクを被れ」と命令してきた。俺はそれに従ったよ。プロモーターの言うことは絶対だ。逆らえば仕事を干されてしまうからな。

――4週間だけの約束がここまで続いたのは？

デストロイヤー　それは簡単な話だ。マスクを被ってファイトしたほうが3、4倍もギャラが違うからだよ。

俺の自宅にはプロレスのルールブックがあるが、ページはどこもかしこも真っ白だ。意味がわかるかい？

——そんなに！

デストロイヤー　何が言いたいかというと、ザ・デストロイヤーというマスクマンとして大ブレイクしたんだよ。そうなると、いまさらマスクを脱げなくなるよな。

——こうなったら絶対に脱いでたまるかと（笑）。

デストロイヤー　ストロンボーが口を酸っぱくして、こう言ってきたもんさ。「ベイヤー、頼むから明日こそマスクを脱いでくれ。デストロイヤーの正体がわかるとなれば、多くの観客が押し寄せてビッグビジネスになるぞ！」ってね。しかし、俺はそのときばかりはプロモーターの要求を突っ張ねたよ。「悪いけど、マスクを脱ぐ日は今日ではない。明日でもない。永遠に脱がない!!」ってな。当時WWAで活躍していたエドワード・カーペンティアにもこうアドバイスされたよ。「マスクを脱がないほうがいい。デストロイヤーの名前は全米で有名になっているから、これからどこの地区にいってもトップになれる。そのマスクが君のアイデンティティなんだ」と。俺もこの言葉に納得した。そうだ、この覆面こそが俺のアインデンティティなんだってね。

——マスクが自分の誇りとまでに昇華したわけですね。自伝で興味深かったのは、その誇りであるマスクの素材が女性の身に着けるガードルだったということなんですけど（笑）。

デストロイヤー　じつはそうなんだよ（笑）。何を素材すれば肌にフェットするのか悩んでいたら、オックス・アンダーソンというレスラーからガードルを勧められた。それで妻を連れてLAのダウンタウンにあった百貨店の下着売り場で一番、肌に合うガードルを探したんだよ。周りからはジロジロ怪しまれたけどな（笑）。

——そんな苦労があったんですね（笑）。それから1963年に初来日されて、力道山との激闘はいまなお記録に残る64％という高視聴率を獲得したわけですが、その力道山の人間性にはどういう印象がありましたか？

デストロイヤー　残念なことに力道山とは直接、会話した機会はあまりないんだよ。力道山の最後の試合になった浜松大会のあとで、力道山から宿舎の日本旅館に招待されて日本料理をご馳走になったことはあったけど。

——力道山の最後の試合で、デストロイヤーさんは6人タッグで肌を合わせたんですよね。

1963年5月24日、力道山とのWWA世界選手権の激闘は、視聴率64％という驚異的な数字を獲得！　高視聴率歴代4位の記録を誇っており、プロレスというジャンルを日本中が固唾を呑んで見守っていた時代だった。語り尽くされた感はあるかもしれないが、力道山という英雄が敗戦に打ちひしがれた日本の国民性を高揚させたマジックがそこにはあった

デストロイヤー　あの日のことはよく覚えているよ。食事をしたあとに夜行列車で東京に帰ってから、力道山から直接ギャラをもらうために彼が飲んでいた料亭に行ったんだよな。そこで力道山と会ったのが最後のエピソードだなあ。そのあと彼はギャングに刺されてしまった。そして入院先の病院で帰らぬ人になってしまった。帰国してすぐ事件を知って大変驚いたよ。あのとき力道山から一緒に飲むように再三誘われていたんだが、俺はアメリカで試合の予定があったんだよな……誘いに応じて一緒に飲みにいったら、もしかしたら力道山は刺されなかったかもしれない。

——日本のプロレスの歴史自体も変わっていたかもしれなかったんですね……。あと自伝では、力道山の出生についても触れられていますよね。

デストロイヤー　力道山の出生のことを聞いたのは、私がまだ素顔のディック・ベイヤー時代のことだよ。力道山がハワイへプロレス修行のために訪れていたときにグレート東郷から聞かされていたんだ。「彼はコリアン・ジャパニーズ」だってね。アメリカは移民の国だから、とくに私は驚きもしなかったんだが、アジアの歴史的背景を考えるとなかなか公にできなかったんだろうな。まぁそんなことはどうだっていい。彼が素晴らしいプロレスラーということに変わりはない。

——それと力道山は非常に怒りっぽい性格だったとよく言われていますが、デストロイヤーさんはどう感じましたか？

デストロイヤー　さっきも言ったように俺はそんなに接する機会がなかったからな。ただ、周りから彼は非常に短気だったとは聞いているし、力道山は控室で非常に厳しい目つきでヤングボーイの試合を見ていたことはよくあったよ。かたわらにヤングボーイたちに円陣を組ませてながらね。

——まさに封建社会的な光景ではありますね（笑）。

デストロイヤー　で、ヤングボーイが良い試合をしたらスクワットをご褒美としてスクワットを1000回やらせていたんだ。

——ご褒美で1000回！　悪い仕事をしたら一体どうなるんですか（笑）。

デストロイヤー　内容が悪かったら、力道山に竹刀でおもいきり叩かれてスクワット2000回だよ。

——倍ですか！（笑）。

デストロイヤー　さらに悪かったら3倍だったみたいだなあ。

——さらに増えた！　そんな過酷なペナルティが待ち受けているとなると、いやがおうにもリング上に緊張感は生まれますよね。

デストロイヤー　力道山の試合自体もアグレッシブだった。リング上で「バカヤロー!!」「コノヤロー！」とか叫びながら、空手チョップを叩き込んできたもんだ。おかげで前歯が4本折れて、俺は差し歯のお世話になるわけさ（笑）。俺もエキサイトして彼の胸板にリングシューズの跡が残るぐらいの蹴りを入れてやったよ！

——だからこそ、弟子たちにも激しい試合を要求したわけですね。デストロイヤーさんは馬場さんや猪木さんのことはどうご覧になっていたんですか？

デストロイヤー　馬場さんのことはアメリカで試合をしたときから、大物になる予感はしていたよ。当時からアメリカでは力道山より有名になっていたからね。馬場さんのアメリカでのギャラは一試合1500ドルだったしな。

——当時でその金額だとトップの扱いですよね。

デストロイヤー　でも、馬場さんとプロモーターの間にあのケチで有名な東郷がいただろう？　馬場さんは東郷から25ドルしかもらえなかったんだ（笑）。

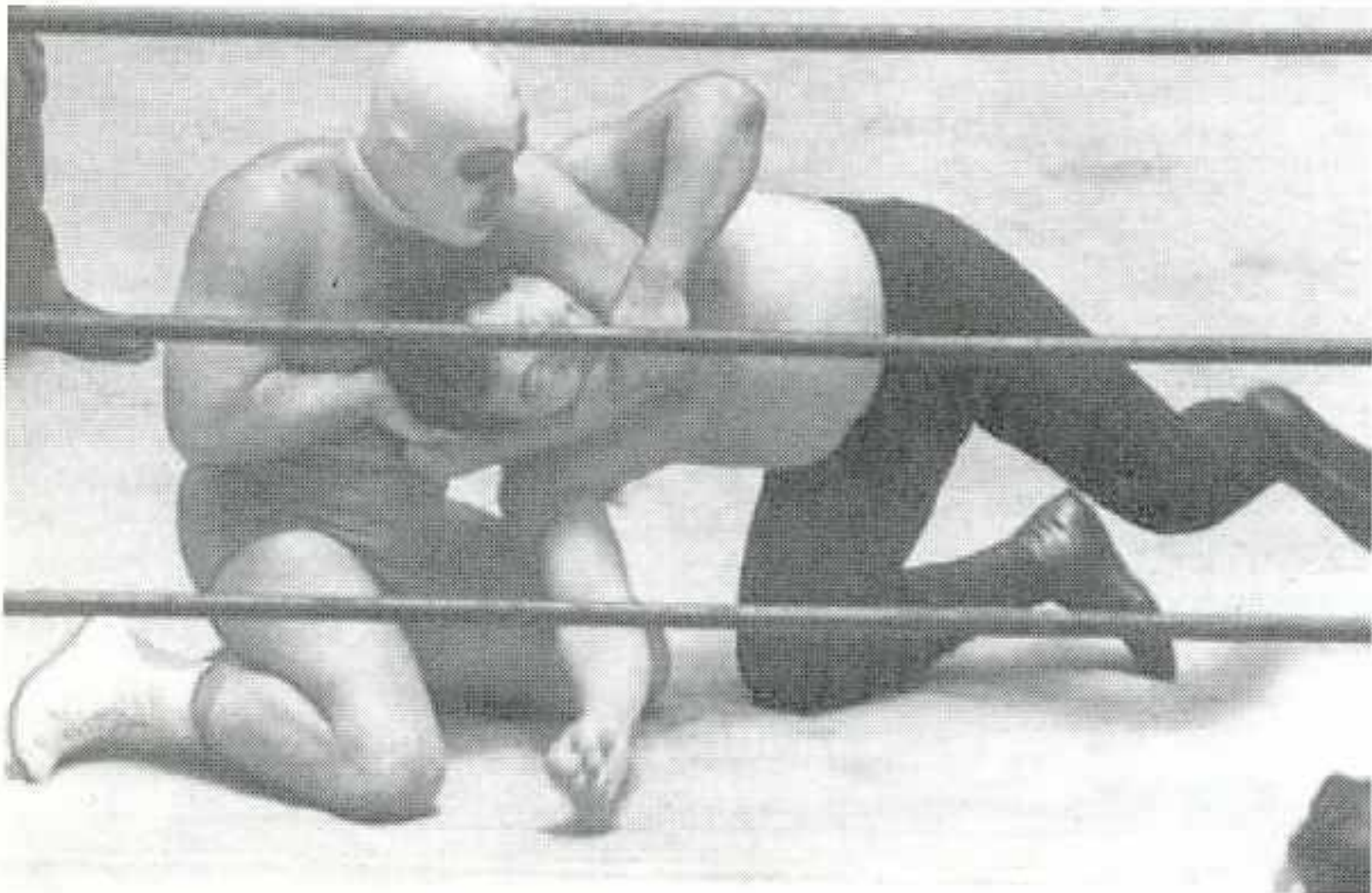
——それはピンハネどころの騒ぎじゃないですね（笑）。

デストロイヤー　とてもメインイベンターのギャラじゃないよ。それで我慢している馬場さんが信じられなかった（笑）。まぁ、ギャラはともかく、馬場さんはアメリカでスーパースターになっていた。凱旋帰国したときの羽田空港での歓迎ぶりは力道山のそれ以上だった。そのフィバー振りに力道山が嫉妬をしてしまったところもあるんだ。

——力道山が嫉妬するぐらいのババフィバーだった、と。

デストロイヤー　嫉妬というのは、日本のプロレスラーにとって当然の感情かもしれないな。日本のプロレスの場合はアメリカのようにテリトリーごとに分かれているわけではなく、団体活動だろう？　そのシステムの中でみんながみんなボスになろうとしている。そうなると嫉妬を抱きやすくなるよな。

——アメリカに比べて選手の入れ替わりは少ないし、格付けの逆転もそうそう起きないですからね。

デストロイヤー　トップレスラーなら嫉妬するのは当たり前。嫉妬するから

こそさらに自分の価値を高めることに励むんだ。馬場さんだっていろいろ周りを気にしていたんだよ。俺がテレビの『金曜10時！うわさのチャンネル』に（和田）アッコさんと一緒に出演して人気者になったときなんて、馬場さんは田舎の興行で絶対に俺とタッグを組んでくれなかった。俺はいつも前座扱いだったんだ。

――自分より大声援を送られることを良しとしなかったんですねえ。話は変わりますが、力道山はプロレス以外のビジネスにもエネルギーを注いでいたことは御存知ですか？

デストロイヤー　もちろん知っているよ。マンション、ボーリング場をつくって、ゴルフ場の建設の計画も推し進めていた。彼はゴルフが大好きだったから、俺はおみやげにゴルフクラブをよくプレゼントしたもんだよ。

――接する機会が少なかったデストロイヤーさんがそんな気を遣うぐらいのゴルフ好き（笑）。

デストロイヤー　そう（笑）。ビジネスに関していえば、力道山はきっとアメリカのレスラーの影響を強く受けていたんじゃないかな。彼は相撲を廃業してプロレスラーの修行を積むためにハワイやアメリカに渡ったけど、現地のレスラーはプロレスで蓄えたお金を他のビジネスに投資していた。アメリカのレスラーなら当たり前の行動だったんだよ。たとえば、ルー・テーズもセントルイスでレストラン経営を手掛けていた。力道山はアメリカのプロアスリートの理念を学んだんだろうな。

――そんな力道山に影響されたのか、弟子の猪木さんの事業欲も凄いんですよ。勢い余って発明にまで手を出してますから（笑）。

デストロイヤー　そうらしいねえ。俺は全日本（プロレス）とビジネスしていたから、そのことはあまりよく知らないんだけど。馬場さんからよく話を聞いていたよ。

――あ、馬場さんからアントン・ハイセルのことを！（笑）。

デストロイヤー　馬場さんから「猪木がレスラーや関係者から事業資金を集めて大損させた」って聞いているよ。ホントかどうかは知らないけど（笑）。

――お金を集めたかどうかは諸説が入り乱れていますけど、「大損」の部分は大正解ですね（笑）。

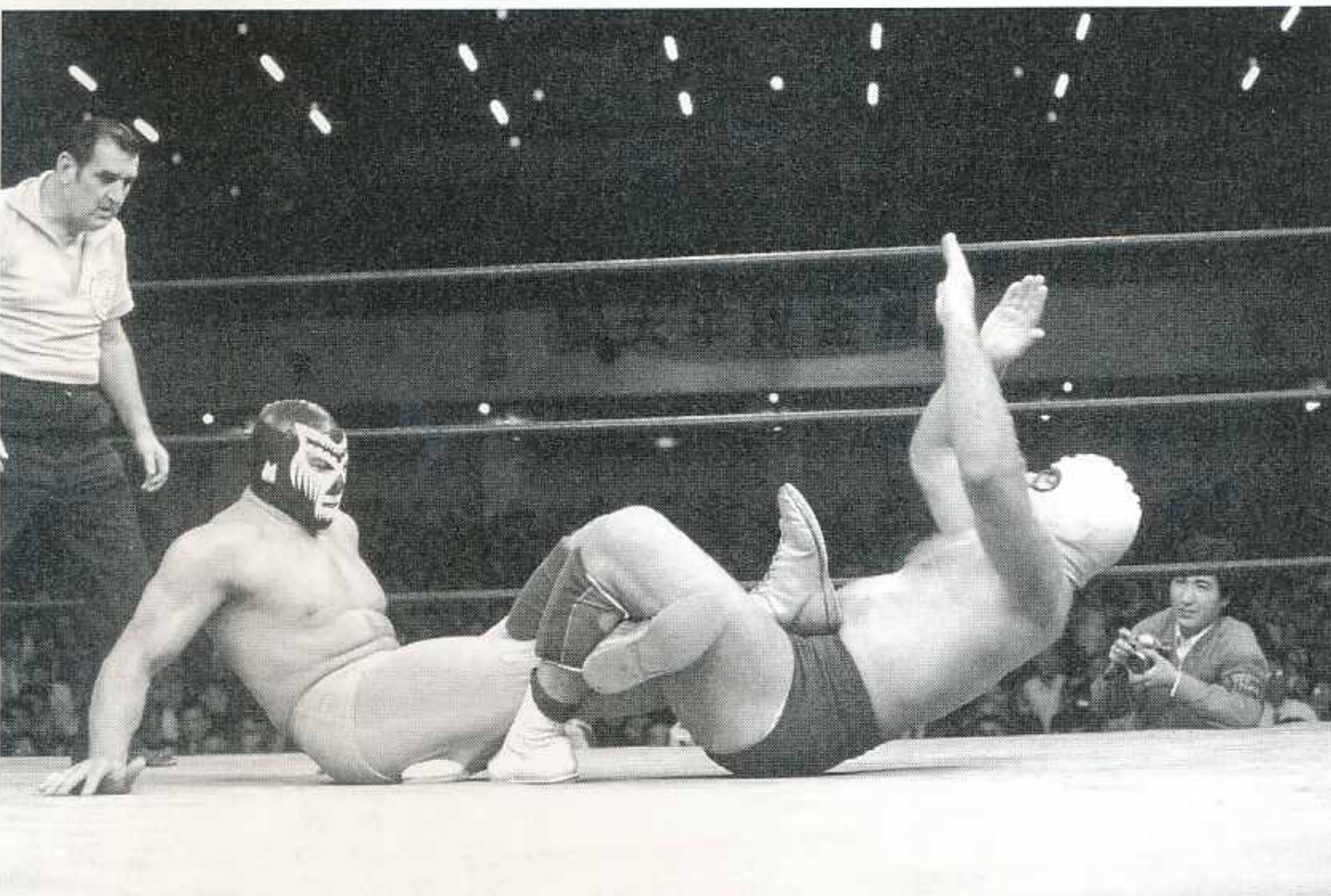
デストロイヤー　ああ、そうなのか。馬場さんは猪木さんのことが大嫌いだったからなあ。わざとそういう話をしているのかと思って、適当に相づちしてたんだけどね（笑）。

――猪木さんと馬場さんの仲はデストロイヤーさんが肌で感じるぐらい悪かったんですか？

デストロイヤー　悪かった。日本プロレス時代も2人はよく口論していたよ。プロレスの歴史でいうと、力道山が亡くなって、日本プロレスは遠藤幸吉、豊登、芳の里、吉村道明の合議制になった。社長だった豊登はギャンブルにのめり込んでしまってフェイドアウトしてしまったけど、2人が揉め始めたのは、第13回ワールド大リーグ戦でどっちが優勝するかってことからだな。その時期から2人はよく口論するようになった記憶はあるよ。

――ちなみにアントニオ猪木というプロレスラーにはどういう評価をしていたんですか？

マスカラスは相手の技をまったく受けない いつも手探りの展開が続いて、やけに緊張感があった

©梶原一騎・原田久仁信／講談社漫画文庫

世の中には梶原一騎が足りない！　ドラマチックなエピソードがたっぷり詰まった梶原先生の不朽のプロレス劇画『プロレススーパースター列伝』。魔王逸話は事実とは異なるらしいが、梶原先生は、仮面貴族のプライドの高さを角度を変えて見事に加工したわけだ。さすが！

デストロイヤー　猪木さんは闘う表情が素晴らしかった。観客の心が躍るような表情で試合を躍動させていたと思うよ。

――それってエンターティナーとしては最高の褒め言葉ですよね。

デストロイヤー　加えてカリスマもある。だからこそ馬場さんと並び立つ存在になったんだろう。

――その張り合いが日本のプロレス界を大きくしてった側面がありますよね。デストロイヤーさんには、嫉妬したり、仲が悪かったレスラーはいなかったんですか？

デストロイヤー　う〜ん。とくにいないなあ。

――梶原一騎先生原作の『プロレススーパースター列伝』という漫画では、デストロイヤーさんはマスカラスの大人気に嫉妬していたことになっているんですけど（笑）。

デストロイヤー　え？　そうなのか？

――はい。本人を目の前にして言うのもなんですが、ちょっと嫌なキャラクターとして描かれていました（笑）。

デストロイヤー　それはデタラメな話だな！　だって、マスカラスは英語がうまくない。仲が悪くなる要素はないんだよ。

――喧嘩以前にコミュニケーションが取れなかった、と。

デストロイヤー　仲が悪いというより、お互いに意地を張り合っていたところはたしかにあるよ。なんたって、マスカラスは普段はジェントルメンだが、試合になると相手の技をまったく受けないタイプだからね。

――その話はよく聞きますね。"仮面貴族"だけあってかなりプライドが高いって。

デストロイヤー　俺だってそんな奴の

技を受けたくない。だから彼と試合をするといつも手探りの展開が続いて、やけに緊張感があったんだ。マスカラスとの試合だけはガチンコに近い内容だったんだよ。

――マスカラスだけはガチ! というかんじですか!

デストロイヤー　そのとおりだ（キッパリ）。東京で彼と試合したときの映像をいまでも保存してある。たまに戸棚から取り出して自宅で鑑賞するけど、プロレスの範疇を超えた動きや技の応酬でいまでも興奮する。彼は素晴らしいプロレスラーだったといえるわけだ。

――他にデストロイヤーさんが認めるプロレスラーは誰かいますか?

デストロイヤー　自伝にも書いたけど、やっぱりルー・テーズ。彼はプロ中のプロだった。

――カール・ゴッチはどうですか? 日本での評価はメチャクチャ高いんですけど。

デストロイヤー　いや、ゴッチとはあまり面識がなくてよく知らないだけなんだが……彼はまだ生きているのかい?

――はい。まだ〝人を殺す〟トレーニングをしていると思います（笑）。

デストロイヤー　彼も素晴らしいプロレスラーだったよ。もしかしたら、一番良いプロレスラーと評価してもいいかもしれない……けど。

――けど?

デストロイヤー　残念ながら、彼がリングで闘う姿からは、ファンを魅了する人間性というものをまったく感じられなかったんだよ。

――だからこそアメリカでは大成しなかったわけですね。

デストロイヤー　たとえば、ゴッチとルー・テーズが闘えば、それはそれは素晴らしい内容の試合になったけど、ハイクオリティなファイトに比例するように観客が集まらなかった。会場はガラガラだったんだよ。全米のプロモーターたちがゴッチを使いたがらなったのはそういう理由さ。

――プロレスはむかしから〝興行ありき〟だった証ですね。

デストロイヤー　その点はいまもむかしも変わりはないさ。まぁ、かなり変わってしまったところも多々あるがね。かつては地区ごとに完全に分割されていて、それぞれがビジネスをしていた。でも、いまはWWEがマーケットを統一してしまって、そのうえWWEのブランドは全世界に浸透している。

――WWEの隆盛についてはどういうお考えがあるんですか?

デストロイヤー　個人的にはWWEのやり方は好きじゃない。見栄えだけのレスラーが多いし、むかしのレスラーのほうが優秀だったと思う。しかし、ビジネスが世界規模に発展したことは認めないといけない。そのきっかけになったのは、ハルク・ホーガンの獲得だろう。なぜホーガンがミネアポリス（AWA）を捨てて、ニューヨーク（WWF）に走ったかといえば、それはマネーのためさ。マネーのためにテリトリーを捨ててWWFに協力した。このことを悪く言う奴もいるかもしれないが、ホーガンの行動はプロとしてまったく正しい（キッパリ）。俺だって全盛期の時代にWWFから誘われたら、間違いなくニューヨークに行っただろう。ビンス（・マクマホン）は人間的に評判が良くないのは事実だけど、ビンスの人柄、性格の悪さを差し引いてもWWEのリングに立つ価値はあるよ。なにしろそれだけマネーを稼げるんだからな。それにWWE以外のリングで喰っていこうにも、いまはWCWがない。AWAもない。もしくは、むかしのように日本のプロレス界に常連ガイジンとして定着できればいいんだが……。

――たとえば、アメリカでそれほどリングに立たずに全日本プロレスを主戦場にしていたスタン・ハンセンのような生き方ですよね。

デストロイヤー　スタンは日本だけでファイトして生計を成り立っていたけど、ところが、いまはそういうビジネス・スタイルがもう成立しない。なぜなら日本のプロモーターたちはガイジンを使っていないし、必要としてないだろう。いまの日本で有名なガイジンレスラーは誰かいるかい?

――たしかに興行の柱となるガイジンレスラーはちょっと見当たらないですね。かつてのスタン・ハンセンやアンドレ・ザ・ジャイアントにあった全国的な知名度という点では、どうしても『PRIDE』やK―1のガイジンファイターのほうに軍配が上がりますし。

デストロイヤー　ボブ・サップなんかが代表例だな。

――その点、デストロイヤーさんはバラティ番組にたびたび起用されて、それが知名度アップに繋がっていたわけですよね。

デストロイヤー　もともとバラエティ・ショーにはぜひ出演したいと思っていたんだよ。最初の出演は紅白ベストテンという番組で、桜田淳子さんが歌を歌っているときだった。悪漢に襲われた桜田さんを助けるのが私の役目。そして私の膝の上の彼女は歌を披露したんだよ。「ようこそここへ、クックック♪」と（笑）。

――「幸せの青い鳥」ですね（笑）。

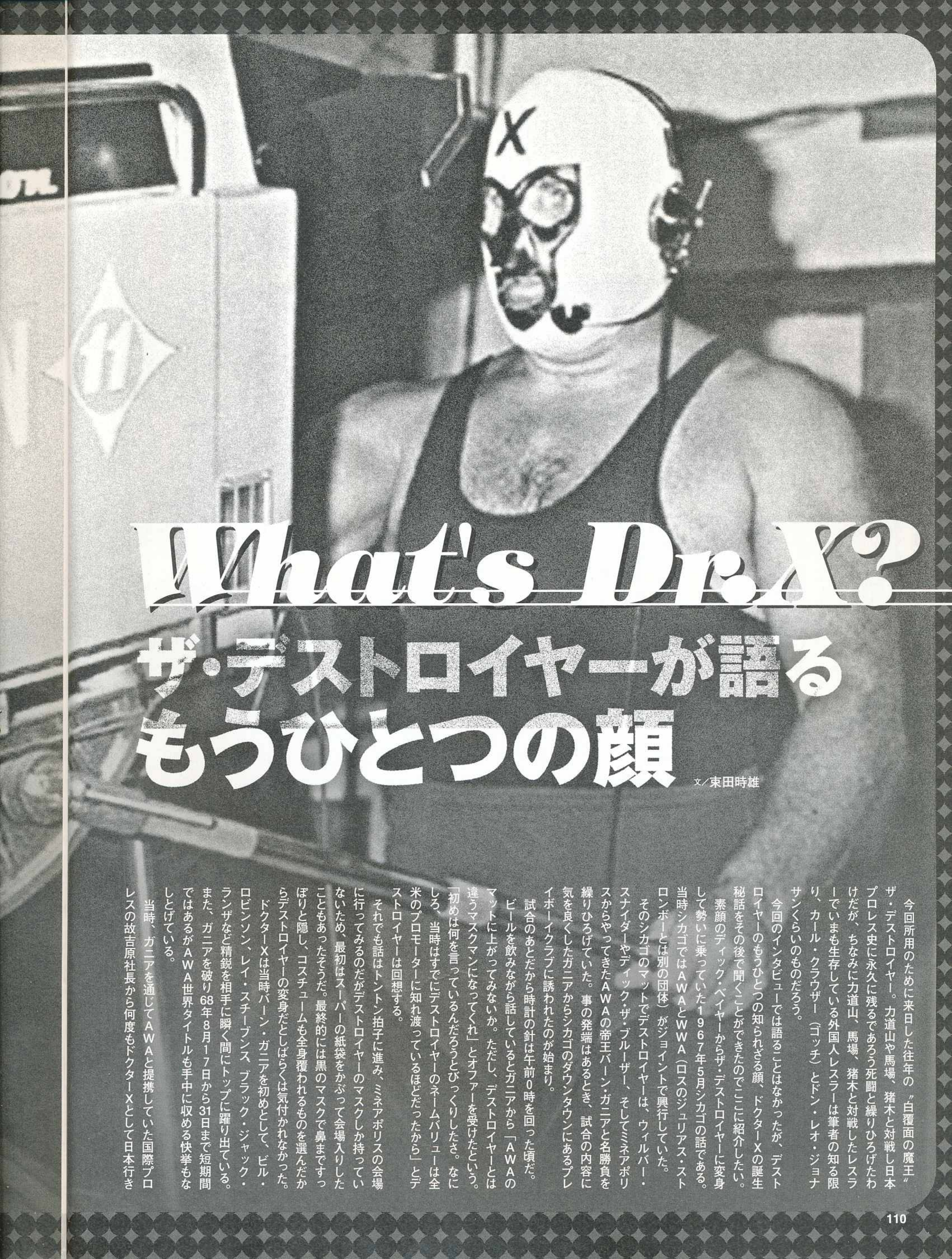
デストロイヤー　それが好評を博したことが『うわさのチャンネル』出演につながっているんだよ。俺の引退試合には『うわさのチャンネル』に出ていたアッコさん、せんだみつおさん、徳光（和夫）さんも駆けつけてくれたんだよな。

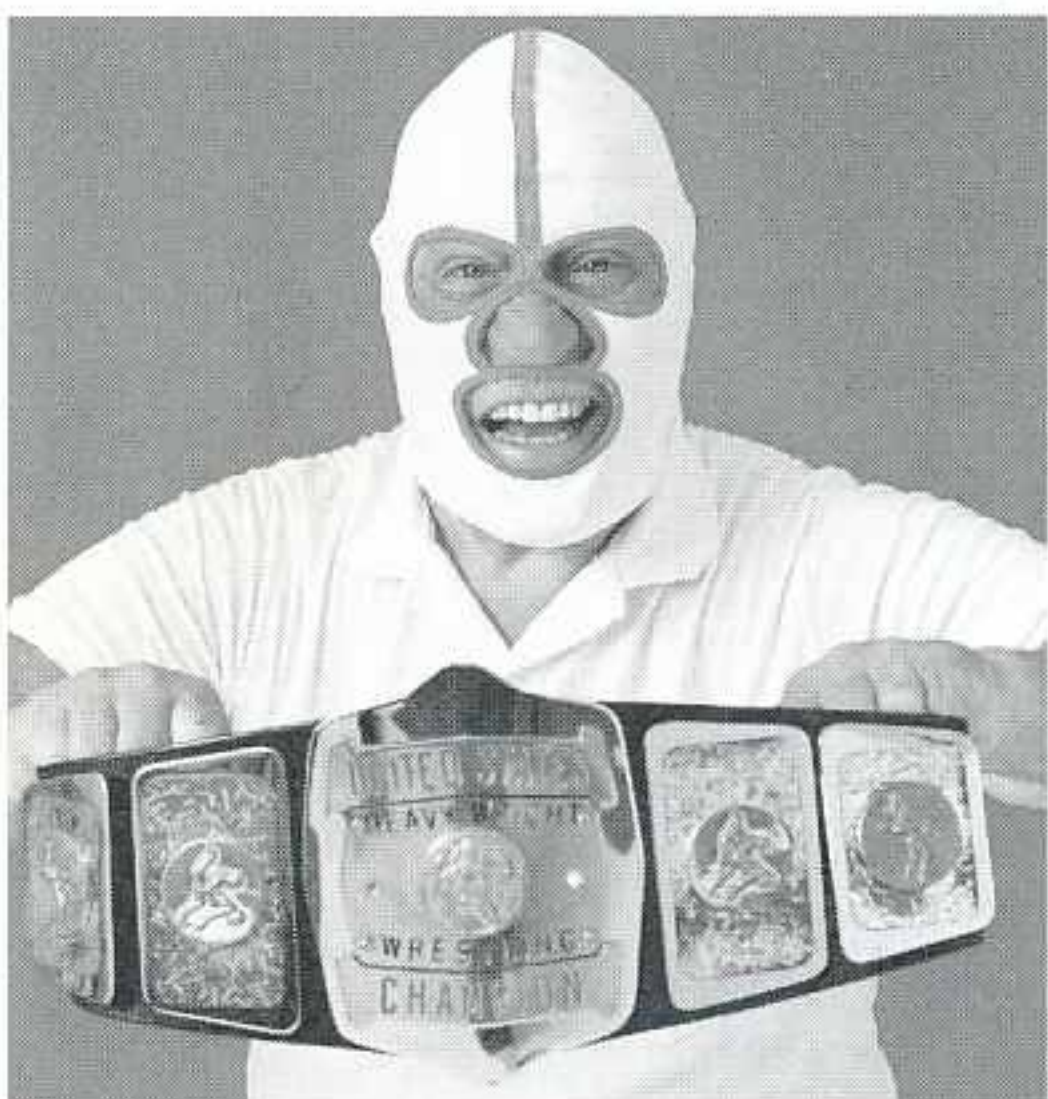
――デストロイヤーさんは先日も『アッコにおまかせ!』にゲスト出演されたんですよね。

デストロイヤー　アッコさんいまもベストタレントだけど、当時もそうだった。いまでもその地位を保ち続けているのは素晴らしいことだよ。

――和田アキ子さんといえば、デストロイヤーさんは浜口京子さんに会ったときに「和田アキ子さんのように美しいね」と言おうとして、息子のカート・ベイヤーさんに止められたそうですね。

デストロイヤー　そうなんだよ（笑）。ちょうど1年前にレスリング大会があったときに出会ったんだけど、京子さんはアッコさんのように美しいと思ったんだ。誤解しないでほしいけど、俺にとって最高の誉め言葉なんだよ（ニッコリ）。

――胸の中に押しとどめておくことを希望します（笑）。今日は長々とありがとうございました!

【05年某日／都内某所にて収録】

芸人魂&人気ぶりはまさに“昭和のボブ・サップ”然としていたデストロイヤー。当たり前のようにレコードデビューもしており、歌唱風景の写真はクリスマスソングをリリースしたときのものと思われる。ちなみにアルバム『デストロイヤーの楽しいクリスマス』にトラックされている『デストロイヤーの日本語教室』は「♪デはデベソのデ　スはすね毛のス　トはトンカチ頭、ロはロープ!ロープ!　イいおとこかな　ヤなおとこかな　アのふくめんを　脱がしてみたい」と「ドレミの歌」のリズムで歌いまくる、クリスマスソングの常識を根こそぎデストロイする歌詞になっている。

【ざ・ですとろいやー】1931年ニューヨーク州出身。“ザ・インテリジェンス・センセーショナル”の異名を持つ。1938年に初来日し、日本プロレスの常連ガイジンに。全日本プロレス時代は日本陣営の助っ人として活躍。必殺の四の字固めはこの男の活躍でプロレス技のパブリックイメージとして定着した。

What's Dr.X?

ザ・デストロイヤーが語る もうひとつの顔

文／東田時雄

今回所用のために来日した往年の〝白覆面の魔王〟ザ・デストロイヤー。力道山や馬場、猪木と対戦し日本プロレス史に永久に残るであろう死闘と繰りひろげたわけだが、ちなみに力道山、馬場、猪木と対戦したレスラーでいまも生存している外国人レスラーは筆者の知る限り、カール・クラウザー（ゴッチ）とドン・レオ・ジョナサンくらいのものだろう。

今回のインタビューでは語ることはなかったが、デストロイヤーのもうひとつの知られざる顔、ドクターXの誕生秘話をその後で聞くことができたのでここに紹介したい。

素顔のディック・ベイヤーからザ・デストロイヤーに変身して勢いに乗っていた1967年5月シカゴの話である。当時シカゴではAWAとWWA（ロスのジュリアス・ストロンボーとは別の団体）がジョイントで興行していた。

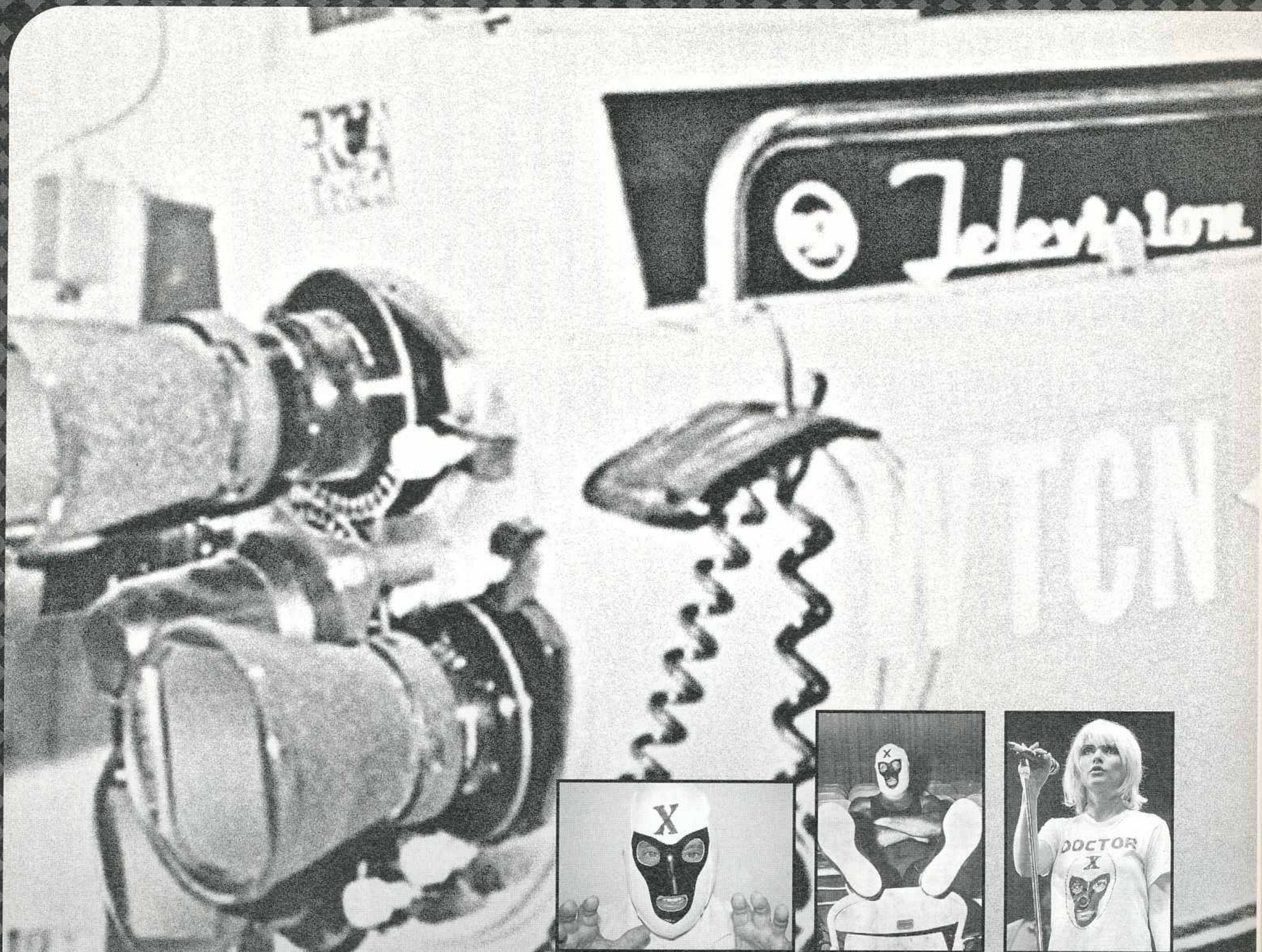
そのシカゴのマットでデストロイヤーは、ウィルバー・スナイダーやディック・ザ・ブルーザー、そしてミネアポリスからやってきたAWAの帝王バーン・ガニアと名勝負を繰りひろげていた。事の発端はあるとき、試合の内容に気を良くしたガニアからシカゴのダウンタウンにあるプレイボーイクラブに誘われたのが始まり。

試合のあとだから時計の針は午前0時を回った頃だ。ビールを飲みながら話しているとガニアから「AWAのマットに上がってみないか。ただし、デストロイヤーとは違うマスクマンになってくれ」とオファーを受けたという。

「初めは何を言っているんだろうとびっくりしたさ。なにしろ、当時はすでにデストロイヤーのネームバリューは全米のプロモーターに知れ渡っているほどだったから」とデストロイヤーは回想する。

それでも話はトントン拍子に進み、ミネアポリスの会場に行ってみるのだがデストロイヤーのマスクしか持っていないため、最初はスーパーの紙袋をかぶって会場入りしたこともあったそうだ。最終的には黒のマスクで鼻まですっぽりと隠し、コスチュームも全身覆われるものを選んだからデストロイヤーの変身だとしばらくは気付かれなかった。

ドクターXは当時バーン・ガニアを初めとして、ビル・ロビンソン、レイ・スチーブンス、ブラック・ジャック・ランザなど精鋭を相手に瞬く間にトップに躍り出ている。また、ガニアを破り68年8月17日から31日まで短期間ではあるがAWA世界タイトルも手中に収める快挙もなしとげている。

当時、ガニアを通じてAWAと提携していた国際プロレスの故吉原社長から何度もドクターXとして日本行き

ドクターXは、プロレスという“魔法”がまだ解けていなかった時代の、伝説なのかもしれない。

のオファーがきた。しかもガニアが驚くほどの高待遇だったが、ドクターX（デストロイヤー）はこれを拒否。

永年の馬場との友情と日本プロレスの恩義に報いるためにも来日する際はデストロイヤーに戻り日本プロレスに参戦していた。日本では圧倒的にデストロイヤーのイメージが強く敢えてリスクを犯してまでドクターXに変身して来日する必然性がなかったのだ。結局は浮気することなくその後も日本プロレス、そして全日本プロレスに来日を続けた。

最後まで日本のファンの前ではドクターXとして来日することは一度もなく、国プロエース陣と闘うことはなかった。実現していれば、ドクターX vs ストロング小林やラッシャー木村戦が見られたはずだ。そうなれば、二つの顔を使い分けて二つの団体を渡り歩くプロレスラーとして、プロレスの歴史にその名を刻み込んでいたかもしれない。

しかし、国際プロレス出身者で意外なレスラーと親交がある。いまをときめく浜口京子の父、アニマル浜口である。国プロ－AWAラインで当時AWA圏に武者修行に来ていたアニマル浜口とは何度も闘った仲だという。昨年、オリンピック・レスリングチームの壮行会で久々に対面した浜口となつかしそうに語り、旧交を温めていたのは印象的だ。

日本のファンにとっては幻のマスクマンに終わってしまったが、じつは前回の来日時に一回だけ本邦初公開、ドクターXのサイン会をプロレスショップで開催している。ドクターXのサイン会では一体どのくらいのファンが集まるのか本人自身も気がかりであったが、蓋を開けてみると会場には幻のマスクマン、ドクターXを一目見ようとデストロイヤーのそれと同じくらいの数のファンに囲まれた。ショップによるとドクターXのマスクを購入するお客さんは意外にも多いとか。

これに気を良くしたデストロイヤーは、一度は日本のファンの前でドクターXとしてファイトしてみたかったとポツリ。

実現していれば日本でもドクターXとしての地位を確立できたのかも知れないが、現地アメリカでは、かつて一世を風靡したブロンディのボーカルがドクターXのTシャツを着るほどのステイタスを誇った。見ていただければおわかりになると思うが、いずれの写真からもプロレスが古き良き時代だった匂いが漂ってくる。ドクターXは、プロレスという〝魔法〟がまだ解けていなかった時代の、伝説なのかもしれない。

"リアルプロレスラー"は、ここにもいる！

7・10横浜大会で超巨漢戦士と激突!!

佐藤光留

いまや"リアルプロレスラー"と言えば、美濃輪育久の専売特許となった感が強いが、どっこいパンクラスにもリアルプロレスラーはいる。その男の名は佐藤光留。入場時には、口にマスクをくわえ、マントをなびかせ颯爽と登場！（メガネ付き）。パンクラス一の変わり者・光留が吼える!!

聞き手／橋本宗洋　designed by hisa (Two Three)

――え～、今日はパンクラスで最近、何かと話題を振りまくことが多い佐藤光留選手に登場していただきました。

光留　試合の中身以外での話題ばっかなんですけどね（笑）。

――もともと、バリバリのプロレスファンなんですよね？

光留　もう気付いたときから。物心つく前ですね。最初は海賊男とか、保育園の頃に見た記憶がありますから。ビッグバン・ベイダーになるともう鮮明に覚えてますよ。

――美濃輪選手がパンクラス入りする前、セミプロ的にプロレスをやってたのも見たことがあるらしいですね。

光留　サムライプロジェクトって団体の興行が、地元の岡山であったんですよ。その第一試合で、美濃輪さんが出ていて。異種格闘技戦の格闘技側で。黒のロングタイツにレガース姿だったんですけど、それ見てU系のカッコよさに目覚めました。それまでパンクラスも嫌いだったんですけど（笑）。

――そうだったんですか（笑）。

光留　テレビでやってなかったんで、雑誌で見てもダウンだエスケープだって分かりにくいじゃないですか。でも美濃輪さん見たら掌底とかレガースつけて蹴る音とか……子供が初めてスポーツカー見たときみたいな感じで。

――「カッコいい！」っていう。

光留　それから美濃輪さんがパンクラス入りして。もうパンクラスしか見なくなりましたね。床屋で「鈴木みのるの髪型にしてくれ」って言ったり。単なる長いスポーツ刈りになっちゃったんですけど。

――で、そのときに美濃輪選手にサインもらったらしいじゃないですか。

光留　美濃輪さんが初めてサインした相手がボクなんですよ（笑）。

――へぇ～！

光留　入門してからそれを言ったら、美濃輪さん驚いてましたけどね。それからはホント、よくしてもらいました。合宿所で同じ部屋だったこともあるし。船木さんの結婚式のときに、ボクが余興用にマスクとコスチュームを注文したんですけど、それが届いたときに美濃輪さんが「これ着ていい？」って言って。それで、それを着て近くの砂場でプロレスやりましたからね。

――美濃輪選手と佐藤選手って何か通じるものがありますよね。いま美濃輪選手もそうですけど、試合のコスチュームが総合格闘技式のスパッツじゃなく、プロレスのタイツだったりとか。そこはやっぱりこだわってますか。

光留　こだわりっていうか、みんな恥ずかしくないのかと思うんですよね。プロレスファンだった頃はプロレスパンツに違和感なかったと思うんで。

――それどころか憧れますよね。

光留　いまは総合が流行ってスパッツがカッコいいってなってますけど、単なる時流じゃないですか。それに倣ってるだけってのが情けないですよね。

――昔、プロレスラーに憧れた自分を忘れたのかと。

光留　ボクはファンだったときの自分と、いまの自分に境目をつけられないんですよね。いまも「カッコいいな」「これいいな」って思うものってプロレスの匂いがするものなんで。

――佐藤選手は昔からそういう熱さみたいなものがありましたよね。DEEPでソラール選手と鈴木選手がやって、ソラールの金的攻撃で乱闘になった試

合があったじゃないですか。あのときも真っ先にリングに飛び込んだのが美濃輪選手と佐藤選手で。「やっぱりこの2人なんだよな」って思いましたよ。

光留　別に目立とうと思ってやったわけじゃないんですけど、結果的にメガネ吹っ飛ばされましたね（笑）。でもあのときはホンット頭にきましたよ。あの中で一人だけだと思うんですけど、ボク、ソラール選手にも思い入れがありましたから。

──そんな人がパンクラス側にいましたか（笑）。

光留　真剣勝負をナメられたとか、鈴木さんがやられたっていうのもあったんですけど、同時に「オレはお前を信じてたのに」っていう気持ちで。

──「裏切られた！」って（笑）。

光留　ソラール選手なんて、ケイブンシャのプロレス大百科で見てた選手ですからね。それがあんなことするんで、余計に腹が立ったっていうか。

──その因縁もあって、DEEPでルチャのエレクトロ・ショックと試合もしましたよね。

光留　そのときにエレクトロ・ショック選手とドス・カラスのお父さんの方に乱闘のときのことを話したんですよ。そしたら「全然気にしなくていい」って言われたのは嬉しかったですね。

──あの大会ってルチャファンとかメキシコ人も多くて、佐藤選手が勝った後は大ブーイングだったじゃないですか。でもそれを制して、マイクで「パンクラスにもルチャを愛している人間がいるのを覚えとけ」って。あれはカッコよかったですよ。

ソラール戦の乱闘はホントに頭にきました。ボク、ソラールにも思い入れがあったんで

光留　ああ、ありがとうございます。でもあの後、「ブーイングしてた者です」ってハガキが来て。「メインで勝った者以外、マイクを持つべきじゃない」って書いてあったんですよね。それはそうかなと（笑）。

──プロレス者としては納得できる部分もありますよね（笑）。

光留　それは別として、エレクトロ・ショック選手には本当に真剣さを感じましたね。ヒールホールドが極まって、絶対に立てないと思ったのに普通に歩いてたし。「こりゃバケモンだ」と思いましたよ。

──さすがプロレスラーだと。

光留　ホントに収穫があった試合でしたね。それに敬意を表してマイクを握ったんですけど。あとはパンクラスに対する先入観というか、誤解を解きたいっていう。

──パンクラスってガチンコ側からはプロレス団体と思われ、プロレス側からは格闘技側と思われる二重に損な部分がありますからね。

光留　なるべく気にしないようにはしてるんですけどね。鈴木さんにも言われたんですけど「外に媚びる必要はないんだ。自分の信じたことをやれ」って。だからみんながレガース外しても、ボクはずっと着けてやろうと思ってますし。特に佐々木恭介戦なんて、絶対に着けなきゃダメじゃないですか。

──お互いU系として。

光留　会社には「掌底ルールでいいですか」とも言ったんですけどね。それはダメって言われました。鈴木さんとやりたいって言ったときも、旗揚げルールでやりたかったんですよ。

──あ〜、なるほど。鈴木さんに対戦表明したときの真意っていうのは、どんな感じだったんですか？

2002年3月10日、DEEP 名古屋大会。日本選抜vsルチャ・バレトド軍団5対5の対抗戦で、鈴木みのるとエル・ソラールが激突した。試合は意図的に金的を蹴り上げたソラールが反則負けとなったが、まるで悪びれることなく観客の声援に応えるソラールにパンクラス勢が激怒。美濃輪と光留がいち早く飛び出し、大乱闘に発展したが、なぜか美濃輪ばかりがクローズアップされてしまった。残念!!

光留　いやもう、言った通り、そのまんまの気持ちでしたよ。

──鈴木選手が純プロレスばっかりやっていることへの憤りみたいなものはあったんですか。

光留　いや、ボクもMISSIONの練習に呼ばれたりもしてるんで、純プロレスとパンクラスの境目ってそんなに感じないんですよね。なんら変わらないんじゃないかって。よくプロレスラーの人が「プロレスは格闘技と違って勝ち負けだけじゃない、内容で魅せるものだ」っていうじゃないですか。でも格闘技でも凄く心が見える、内容のいい試合もありますからね。結局、お客さんが見てるのは人間が必死になって、目をひんむいて殴りあったりしてるところだと思うんですよね。それはプロレスにも格闘技にもあることで。

──じゃあ鈴木さんへの発言っていうのは……。

光留　確かに、鈴木さんが新日本プロレスで活躍して、パンクラスに出てないことに寂しさは感じてたんですけどね。それにみんなが違和感を持ってないことも含めて。でももう、対戦表明したのは鈴木さんとやりたいっていう、それだけですね。NKホールで。

──どっちかっていうと10周年大会のNKホールで第一試合でやりたいっていうことが主眼だったと。だから旗揚げルールでやりたかったということなんでしょうね。

光留　パンクラスの歴史って、NKの鈴木さんと稲垣さんの試合から始まったわけですから。その扉を開けたことの意味合いっていうんですかね……。

──そういうことが頭にあったと。でも、あの対戦表明ってすっかり話ができてるもんだと思ってたんですけど、そうじゃなかったんですね（笑）。結局、試合は実現しないままで。

光留　そうなんですよ（笑）。鈴木さんをよく知っている某大物選手が「あれは絶対、話が決まってる。そうじゃなかったら鈴木みのるにあんなこと言えるわけがない」とかって言ってたらしいんですけど、そうじゃなかったんですよ。ちょっと「ザマーミロ」って思いましたね（笑）。

──そんなチンケな話じゃないんだと（笑）。

光留　●●さんも想像できなかったようなことをできたんだなと（笑）。みんな本気にしてなかったですからね。

──佐藤選手と鈴木選手だけが本気だったと。結局、鈴木選手とは5月の横浜大会のエキシビジョンで急に指名されて手を合わせたわけですけど、いかがでしたか？

光留　何かあるか、激しく無視されるかのどっちかだと思ってたんですけどね。何も準備してなかったっていうのもあるんですけど、無我夢中でやってましたね。時間がたつのが凄く早くて。好きな女の子とデートしてるときって、時間がたつの早いじゃないですか。ああいう感じで。そしたら廣戸先生に「普段より動きがよかった」って（笑）。

──今回の横浜大会も、カード発表会見に試合コスチュームで出てきて『パンクラス チーム玉海力』に対して「なんでパンクラスの冠が、僕たちが必死に守ってきた看板が、こうも簡単に付くのか？　と。パンクラスはマシン軍団じゃないんだから」って言ってましたよね。その辺にも意地を感じました

佐藤光留

大物とやりたいから外に出るんじゃなくて、パンクラスで大物とやれるようになりたい！

よ。

光留　会見だから、他の選手はスーツで来ると思ってたんで、自分もそれじゃ面白くないだろうなって思ったんですよ。笑われたってなんだっていいからコスチュームでいこうって。結果的に、相手の大きさとボクの小ささも際立ってよかったと思いましたけどね。

――相手の小椋選手、ホントにデカいですよね！

光留　横みたら胸でしたからね（笑）。

――佐藤選手は、そういうデカい選手とやっていきたいっていう気持ちが強いんですよね？

光留　そんなこともないんですよ。別にイヤだってわけではないですけど。

――でもほら、近藤選手がジョシュ（バーネット）に負けたとき、いち早く名乗りを挙げたわけじゃないですか。

光留　それは相手がデカいからじゃなかったんですけどね。たまたまウチの無差別級のベルトを取った人がデカかったっていう。

――デカいからやりたいんじゃなくて、ベルトを取り戻したかったと（笑）。

光留　それがなんか“無差別男”とかそういうことになってしまいました（笑）。そう思われてるんならそれでいいですけどね。

――『パンクラス　チーム玉海力』ってネーミングに対してはいかがですか？

光留　ボクを怒らそうとしてんのかなって思いましたね。ウチの坂本常務が「佐藤選手は怒るかもしれないけど」って言ってたんですけど、実際怒ってるよって。会社には会社の考えがあるんでしょうから、いいですけどね。ぽっと出のアイドルが事務所の力で上にいったりするようなもんですよ（笑）。

――チーム玉海力がポッと出のアイドルってのも違和感ありますけどね（笑）。

光留　事情はともあれ、格闘技は自分の力でそれを覆せますからね。ボクはそれをやればいいんだなって思ってます。

――『パンクラス』を名乗っていい基準って、佐藤選手の中ではどこにあるんですか？

光留　難しいですけどねぇ……。まあ、ｉｓｍだけでいいって気はしますけどね。今日も新弟子が入ってきたんですけど、いまの時代に頭丸めて、生活を全部捨てて入ってくるっていう。パンクラスを名乗るのはそういう人間だけでいいって気はするんですよね。でも、そのｉｓｍにも結果がともなってない時期もありましたからね。一概には言えないんですけど。

――佐藤選手は、最近のパンクラスについてどう思ってますか？　船木さんの引退以降、アマチュア出身の選手が増えてどんどん格闘技色が強くなっていったりもしてますよね。正直、出場メンバーだけ見てたら「え、これ修斗？」ってときもあるじゃないですか。だけど同時に『パンクラス　チーム玉海力』もあったりとか。こっちはこっちで「え、これＤＥＥＰ？」みたいな感じもあるんですけど（笑）。

光留　それはボクはまったく気にしてないですね。もちろんボクも含めてｉｓｍの選手が結果を出せないことに危機感はありますけど、郷野選手が何か言ったり、ＳＫ（アブソリュート）の選手が活躍してるって言われても「ふ～ん」って。結局「会場でリング組んだことあるのかよ」ってことですよね。知り合いにチケット買ってもらうことも大事なんでしょうけど、ボクは一般のファンを集める存在になりたいと思ってますし。これは鈴木さんにいつも言われてることなんですけど『ＰＲＩＤＥ』に出たからって、そこにお前のファンが何人いるんだよ」って。

――『ＰＲＩＤＥ』のブランドで来てるお客さんも多いですからね。

光留　それだったら、まずパンクラスで自分のファンを増やさないといけないんじゃないかと。だからボクは外のリングに出る気はまったくないですね。

――でも、より強い相手を求めてパンクラスを離れる選手の気持ちは分かるんじゃないですか。パンクラスでは闘えない大物選手とやりたいっていう。

光留　いや、ボクにとってはエクトロ・ショック選手も大物ですからね。

――見方を変えればそうですね。

光留　「あんな大物とできるんだ！」って思いましたから。だから大物とやりたいから外に出るとかじゃなくて、パンクラスのリングで大物とやれるような存在に自分がなればいいんじゃないかと思いますね。少なくとも、ボクはそうなりたいです。

――おっしゃる通りですね。いや～、今回は佐藤選手にインタビューしてホントによかったです。今後もぜひ、その姿勢のままいってください！

【05年6月9日／パンクラス事務所にて収録】

さとうひかる■1980年7月8日生／174cm／79kg。岡山県岡山市出身。パンクラスism所属。高校時代はフリー&グレコで県3位に入賞。美濃輪育久に憧れパンクラス入団し、00年2月27日、渡辺大介戦でデビューを果たす。
★粘膜キチ●イ日記更新中!『公!!光留塾』HP
http://city.dokyun.jp/DK.php?ci=65401

SEGA SAMMY Presents

『PANCRASE 2005 SPIRAL TOUR』

7月10日（日）開始17:00（開場16:00）
神奈川・横浜文化体育館

［対戦カード］

【ヘビー級戦 5分2R】
高橋義生（パンクラス）vs 桜木裕司（掣圏会館）

【スーパーヘビー級 5分2R】
玉海力剛（パンクラス チーム玉海力）vs 河野真幸（フリー）

【ヘビー級戦 5分2R】
野地竜太（パンクラスMEGATON）vs エルヴィス・シノシック（マチャドブラジリアン柔術）

【フェザー級戦 5分2R】
今泉堅太郎（SKアブソリュート）vs 宮川博孝（初参戦チーム・アライアンス）

【無差別級戦 5分2R】
佐藤光留（パンクラスism）vs 小椋誠志（パンクラス チーム玉海力）

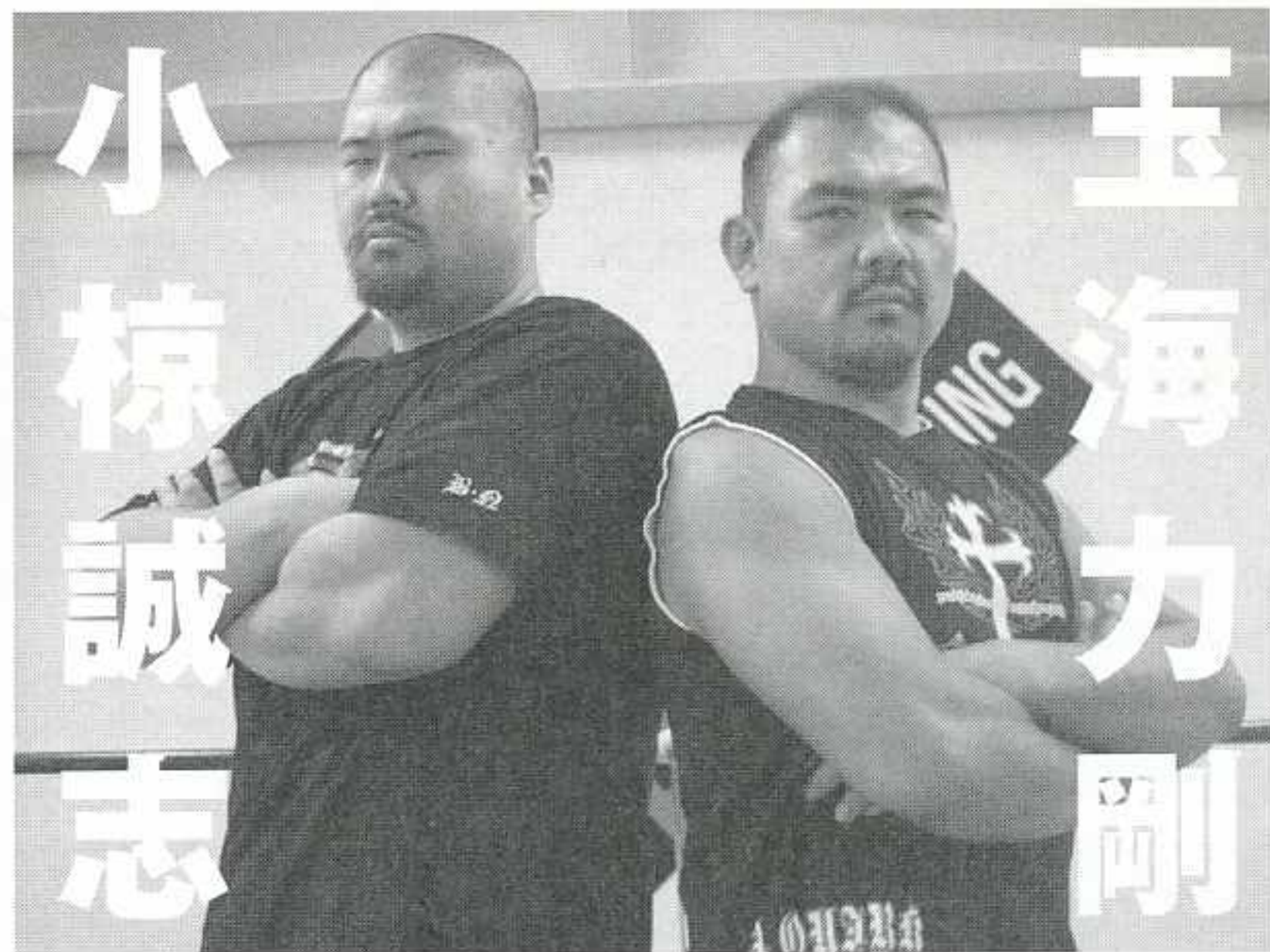
【スーパーヘビー級戦 5分2R】
アレックス・ロバーツ（空柔拳会館/Justiceマネージメント）vs 山岸正裕（YMC長野）

【フェザー級戦 5分2R】
山本篤（KILLER BEE）vs のぶゆき（和術慧舟會RJW/G2）

［出場予定選手］
北岡悟（パンクラスism）

［チケット（当日￥500up）］
VIP席（最前列のみ）￥16000／SS席 ￥13000
RS-A席 ￥8000／RS-B席 ￥6500
2F-A席 ￥10000／2F-B席 ￥6,000／3F席 ￥5000

［お問い合わせ］
パンクラス 03-5792-0815
http://www.pancrase.co.jp/

玉海力剛
小椋誠志

パンクラスに最強相撲軍団登場! その名も、チーム玉海力!!

WARの相撲軍団以来の衝撃! 5月13日、関取の関取による関取のための軍団『パンクラス チーム玉海力』の発足が発表された。K-1、『PRIDE』での相撲取りの度重なる敗戦で、消滅しかかっている相撲幻想。チーム玉海力は総合マットの中心で「相撲は強いんだヨ!」と叫ぶことができるのか? そしてGRABAKAに代わる新勢力となり得るのか? パンクラスデビューが決まった玉海力&小椋を緊急直撃!!

聞き手&構成／松澤チョロ　助手／斎野もみじ

――「チーム玉海力」の皆さんは、正直、強さの面はまだ未知数ですけど、見た目の怖さだけで言えば、すでにマット界でナンバー1ですね（笑）。

玉海力 そんなことないよな?

小椋 どうなんですかね（微笑）。

――小椋さんはもともと総合格闘技に興味はあったんですか?

小椋 興味あったんですけど、元力士って部分で引っかかってたというか。前の職場でも、相撲やってたなんて一言も口にしなかったですからね。そういう質問されたら「卓球やってました」って答えてたんで（笑）。

――デカい卓球選手ですねぇ!（笑）。会見では「技術はともかく腕力には自信がある」って豪語してましたよね。

小椋 もう、それしかないッスからね。

――見るのとやるのとでは、違うと思うんですけど、実際、総合の練習をしてみて相撲との違いを感じました?

小椋 相撲は「よけちゃダメ。逃げちゃダメ」だったけど、総合では2~3発殴られたら終わっちゃいますからね。

玉海力 そういう意味で、自分は前回の試合（vs小路晃）はちょっとナメてましたね。相撲時代は200キロクラスのパンチとか頭突きとかもらってましたけど、来るって構えてるから耐えられるんですよね。ただ、総合の場合は、パンチ出した瞬間にカウンター打たれたたら、まるっきり無防備ですから簡単に倒されちゃうんですよ。そういう面でもディフェンスの重要性は痛感させられましたね。相手もさほど大きな選手じゃなかったし、失礼ですけど負けるイメージはなかったですから。結果は秒殺でしたけど（苦笑）。

――正直、年齢的な部分は気になりませんか?

玉海力 年齢はあまり感じないですね。髪の毛以外は（苦笑）。でもホント、スタミナは結構あると思いますよ。大丈夫だよな、俺?（笑）。

小椋 全然大丈夫ですよ。練習とか怖いッスから。自分もついていけないっていうか、よく泣かされてます（苦笑）。

玉海力 納得するまでやるタチなんですよね。

――小椋さんは対戦相手を聞かされてどう思いました? 佐藤光留選手とは身長で24センチ、体重は約60キロは違うわけですけど。

小椋 最初はビックリしましたね。パンクラスの道場で何回か会ったことがあったし、まさか闘うことはないと思ってたんですよ。「外国人ぐらいしか対戦相手はいないよ」って言われてたし、あそこまで小さい人とはやったことなかったんで。まあ、自分がパワーなら向こうはスピードで、経験値で言ったら向こうは20戦以上やってるし、場慣れもしてるんで、ナメてはいないですね。

玉海力 見る側は小さい人が大きい人を倒すとこを見たいんだと思うんですけど、今回は残念ながら普通にやってれば負けることはないんで。慌てずに、つかまえて殴ればいい話ですからね。

小椋 まあ投げられる心配はないですから。

玉海力 佐藤選手は会見で「投げる」と言ってましたけど、相撲取りを投げるのは無理ですよ。それにリングは丸じゃなくてコーナーがあるんで必ず追いつめられると思うし、ジワッと来られたら向こうは怖いと思いますよ。ホント、鬼みたいな力してますから。この間の記者会見の時も軽トラック引こうかって話もあったんですけど、それぐらいパワーありますからね。

――それは次の会見でゼヒ!

玉海力 プロですから、ある程度見せる闘いも必要だろうし、ただ潰して勝っちゃ、みんな納得しないでしょう。より派手にパンチで勝たないとなあ?

小椋 あ、あまり言われるとプレッシャーに……（汗）。

――将来的な目標はどの辺ですか?

小椋 『PRIDE』さんにも出たいですね。『男祭り』とか。

――期待してます! 玉海力さんの相手はプロレス出身の河野選手に決まったわけですが、自信のほどは?

玉海力 もちろんありますよ。相手は上背はありますけど、身体の芯の太さは感じなかったんで。でもまだ若いですし、油断はしないですけどね。会見で言った通り、激しい試合をしようと。自分はセコいことするつもりはないですし、大きい相手でも正面から闘いを挑もうと思ってます。それで、勝ってパンクラスに恩を返したいですね。

――次の試合はチームのお披露目も兼ねてるわけですから、当然負けられない試合になりますよね?

玉海力 これで負けたら二人で山にでも籠もらなきゃいけないかな（笑）。まあ、内容も大事ですけど、無様な負け方したら潔く辞めますよ。自分の年齢なら、変な負け方したらどこも使ってくれないでしょうし。一戦一戦最後だと思って気合い入れていきますんで、「チーム玉海力」共々期待してください!

【05年6月9日／パンクラス事務所にて収録】

★玉海力剛（たまかいりき・つよし）■1966年7月16日生、東京都出身。183cm、100kg。最高位は前頭8枚目。幕内通算成績43勝75敗2休。04年5月23日『PRIDE武士道-其の参-』の小路晃戦で総合デビュー。わずか18秒でKO負けを喫している。
★小椋誠志（おぐら・せいじ）■1973年8月30日生、大阪府出身。198cm、140kg。大飛翔の四股名活躍し、最高位は前頭10枚目。幕内通算成績は29勝31敗。
★ジミー明成（じみー・あきなり／写真・右）■1973年7月18日生、静岡県出身。190cm、105kg。相撲歴8年。

桜木裕司、元ヘビー級王者高橋義生に挑む!!

6・9リアルジャパン・プロレス旗揚げで、掣圏真陰流型演舞を披露した桜木は「高橋選手に勝てば、タイトルマッチも見えてきます。そして8月には郷野選手に挑戦して、年内に総合とキックの2冠王になり、リアルジャパン、そして掣圏真陰流の強さを証明したいと思います!押忍!（敬礼）」とマイクアピール。

バックステージでは「高橋さんに勝てば、野地君とのヘビー級王者決定戦の可能性も出てくるんじゃないですかね。いまは幼馴染みのアマレス国体チャンプと、レスリングと関節技を、徹底的に練習してます。やるんだったら一番厳しいとこでやりたいと思ったんで、自衛隊の体育学校に行ってます。8月のキックはあくまで予定ですけど、7月のパンクラスと連戦でも問題はないです。秋ぐらいにオランダで試合しないかっていう話もあるし、年末にロシアでタイトルに挑戦できるかもしれないんで、うまくいけば年末には3冠王ですね」と笑顔でコメントした。

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

梅雨のじめじめをブッ飛ばす灼熱興行てんこ盛り!!

遅ればせながら『ラストサムライ』を観ました。ところでこの映画、スペイン語圏では『エル・ウルティモ・サムライ』という題名だとか。なんだか浅井嘉浩と松田納を足したようなビバ・メヒコな感じです。と、こんないらぬ情報も強引に提供するコーナー。担当は斎野です。

Fight & Ticket 試合・大会情報

"ロス疑惑"三浦和義登場! 高須基仁が仕掛けるK-DOJOのビッグマッチ!!

K-DOJOの最強を決める『ST RONGEST-K』の開幕戦は、"ヘアヌードの仕掛人"高須基仁プロデュース興行として開催され、K-DOJOが大会場の横浜文化体育館に進出する。また、この大会で"ロス疑惑"三浦和義と、"怪僧"織田無道がリングアナとしてデビューすることが決定。TAKAが参戦を予告した超大物レスラー、そして今後も続々と発表される予定の高須基仁の新たな仕掛けに注目だ!!

一番左が"ロス疑惑"三浦和義氏。三浦KAZUではない。

『海援隊・大勝負!』
■日時　7月15日(金)　試合開始18:30(開場17:30)
■会場　神奈川・横浜文化体育館
■チケット　アリーナ席 10000円／2階指定席 5000円／自由席 3000円
■試合内容　K-DOJO STRONGEST-K'05開幕戦
■HP　http://www.k-dojo.co.jp/
■問　アルファジャパン・プロモーション 045-243-6400

健介、そして川田が参戦! 7・18 NOAH5周年記念ドーム大会!!

『DESTINY 2005』
■日時　7月18日(月・祝)試合開始15:00　■会場　東京ドーム
■決定対戦カード　◎三沢光晴 vs 川田利明　◎小橋建太 vs 佐々木健介
◎【GHCヘビー級選手権】[王者]力皇猛 vs 棚橋弘至[挑戦者]　◎天龍源一郎 vs 小川良成
■チケット料金　アリーナS席 30000円／アリーナA席 15000円／
1階スタンド:S席 15000円／A席 10000円／B席 7000円
2階スタンド:S席 5000円／A席 3000円
■HP　http://www.noah.co.jp/

6・22ドラゲーでTAKA vs 横須賀! 神戸で王者・望月に挑戦するのはどっちだ!?

■日時　6月22日(水)試合開始18:30(開場17:30)
■会場　東京・後楽園ホール
■決定カード　【次期オープン・ザ・ドリームゲート挑戦者決定戦】◎TAKAみちのく vs 横須賀享
■チケット　特別RS席 7000円(売切)／RS席 6000円／指定席A席 5000円(売切)／指定席B席 4000円(売切)／一般立見 3000円

『プロレスフェスティバルin神戸』
■日時　7月3日(日)　試合開始15:00(開場13:00)
■会場　兵庫・神戸ワールド記念ホール
■決定カード
【オープン・ザ・ドリームゲート選手権】[王者]望月成晃 vs (6・22TAKAvs横須賀の勝者)[挑戦者]
■チケット　ドラゴンVIP 15000円(売切)／特別RS 10000円(売切)／RS 7000円／アリーナ自由席 5000円／スタンドA席 8000円／2F指定席 6000円／3F指定席 5000円／2F自由席 4000円／3F自由席 3000円
■問　DRAGON GATE 078-333-9797
■HP　http://www.gaora.co.jp/dragongate/

滑川vs桜井のノンタイトル戦! 藤原組長も力王セコンドとして来場!!

『DEEP 19th IMPACT』
■日時　7月8日(金)試合開始18:30(開場17:30)　■会場　東京・後楽園ホール
■対戦カード　◎【金子真理引退試合】金子真理(禅道会) vs しなしさとこ(フリー)　◎桜井隆多(R-GYM) vs 滑川康仁(Team MAD)　◎タクミ(パレストラ大阪) vs 長岡弘樹(横須賀総合格闘技DOBUITA)　◎入江秀忠(キングダムエルガイツ) vs 力王(真戦組Team力王)with藤原組長　◎Barbaro44(クラブ・バーバリアン) vs 松下直輝(ALIVE)　◎MAX宮沢(荒武者総合格闘術) vs 佐藤光芳(GRABAKA)　◎アンソニー・辰治・ネツラー(TEAM Boon!) vs 大堀竜二(R-GYM)　◎岩見谷知義(高田道場) vs オ・ウォンジン(CMA-KOREA)　◎帯谷信広(木口道場レスリング教室) vs 長谷川秀彦(SKアブソリュート)　他、佐伯代表が自信をもって送り出すカードを予定!!
■チケット料金　VIP席15000円(最前列)／SRS席10000円／A席8000円
B席6000円／C席5000円
■問　DEEP事務局　052-339-0303　■HP　http://www.deep2001.com/

最後の金ちゃん祭りに ハードコアファイターが大集合!!

『金村キンタロー祭り』ファイナル
■日時　6月19日(日)試合開始16:00(開場15:30)　■会場　千葉・Blue Field
■対戦カード【アカレンジャーズ試練の五番勝負／第3戦】
◎金村キンタロー & ディック東郷 vs 佐々木貴 & GENTARO　◎黒田哲広 vs 関本大介
【ハードコアタッグマッチ】◎伊東竜二 & マンモス佐々木 vs BADBOY非道 & MIYAWAKI
【ハードコアマッチ】◎葛西純 vs ジ・ウィンガー
■チケット　全席指定4000円　■問　キャッシュボックス 03-5385-8285

連続満員記録樹立中! 6・29 DDT後楽園ホール大会!!

地獄の墓場人形ヨシヒコ

DDTが連続満員記録を樹立中! 6・29後楽園大会では「不景気なのは新日本だけ」とキッパリ言い放った高木三四郎が、トーナメントを勝ち上がったKUDOを迎え撃つ。他にも謎のキューバ軍団、教祖からDDTの新人へ転落したポイズン澤田、驚異の新人・飯伏、脅威の変態・ディーノ、そして最強のダッチワイフ・ヨシヒコなど見所満載! 最高の盛り上がり必至のDDT後楽園大会から目が離せない!!

『AUDIENCE 2005』
■日時　6月29日(水)試合開始19:00(開場18:00)　■会場　東京・後楽園ホール
■決定カード　【KOD無差別級選手権】(王者)高木三四郎 vs KUDO(挑戦者)
■チケット　スーパーシート 6000円／特別リングサイド 5000円(当日6000円)／リングサイド 4000円(当日5000円)／レディースシート 3000円／立ち見 3000円(当日のみ)／小中高生(要身分証)1000円(当日のみ)
■問　DDT 03-5360-6653　■HP　http://www.ddtpro.com/5

熱いヤツ、集まれ! 真夏のリーグ戦『火祭り』開幕!!

『ZERO-1MAX『熱-1 GP 火祭り'05』
★7月29日(金)東京・後楽園ホール(19:00)　S席5000円、A席4000円、B席3000円
★7月31日(日)東京・後楽園ホール(18:30)　S席5000円、A席4000円、B席3000円
★8月2日(火)福島・いわき市総合体育館(19:00)
特別RS席6000円、RS席4000円、自由席3000円、小・中学生入場無料!
★8月5日(金)大阪・大阪府立体育会館第2競技場(19:00)　S席6000円、A席4000円
★8月7日(日)東京・後楽園ホール(18:30)　S席6000円、A席5000円、B席4000円
■問　ファーストオンステージ　03-5730-3966　■HP　http://www.zero-one-max.com/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001 東京都渋谷区東1-25-2 丸携ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■拳圏会館
075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒142-0062 東京都品川区小山4-4-9-2F
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂 03-5464-2806
〒150-0001 東京都渋谷区東2-17-12-404号
http://www.Takayama-do.com

■ドリームステージエンターテインメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048 神奈川県横浜市中区蓬莱町2-247 SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■レッスルエイドプロジェクト
03-5456-2345
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-20-12

■A to Z 03-3678-7777
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最挟通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター
03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）

■SMACK GIRL 実行委員会
03-3324-8790
〒156-0041 東京都世田谷区大原1-63-9 恒心ビル801 株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193-11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW
03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン 03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WMF
049-239-3520
〒350-0812 埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS 0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST 03-5388-0707
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp/

Shop 店舗情報

バカT買うならこんな店！『T-1 GP』入賞作品も完備!!

格闘Tシャツの祭典・第一回『T-1グランプリ』のヘビー級部門で優勝した『雪崩式』では、ジャンルを問わないインディーズTシャツのセレクトショップ『middle』を絶賛展開中！夏に向けて、東京・渋谷店＆大阪・心斎橋店で最新Tシャツを先取りだ!!

middle 渋谷店

●middle渋谷店 渋谷区宇田川町29-8-2F 03-5456-1870
●middle大阪心斎橋店 大阪市中央区西心斎橋1-6-14BIGSTEP 3F 06-6258-5128
■middle HP http://www.middle.jp ■雪崩式HP http://www.nadareshiki.com/
■T-1グランプリHP http://blog.livedoor.jp/t1grandprix/

『雪崩式』が『T-1グランプリ』優勝作品をプレゼント！ 読プレページへ急げ!!

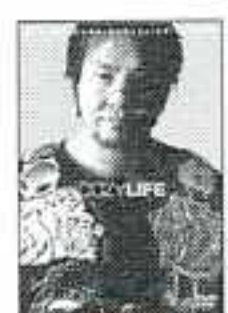
And Others その他情報

聞いちゃうぞ、バカヤロー！『サヨアリ』5回目のゲストは小島聡!!

サムライTV『侍ニュース』『インディーのお仕事』のキャスター三田佐代子のトークイベント『サヨアリ』。第5回のゲストは三冠王・小島聡！下記アドレスにてコジへの質問を絶賛受付中だバカヤロー!!

サヨコアリーナ PLUS VOL.5～三田佐代子のボストンクラブ活動～『言っちゃうぞ！バカヤローナイト』
■日時 2005年6月25日（土）開演19:00（開場18:00）
■会場 ネイキッド・ロフト（東京都新宿区百人町1-5-1 百人町ビル1F）
■出演 三田佐代子 ■ゲスト 小島聡
■料金 2000円（飲食別）
■問 古舘プロジェクト 03-3235-1561
■HP http://www.furutachi-project.co.jp/sayoari/

コジのすべてが丸わかり！小島聡オフィシャルDVD発売決定!!『小島聡 COZY LIFE』

■発売日 6月24日（金） ■価格 5250円（税込）
■収録時間 本編約49分（特典約42分）
■主な内容 全日本への移籍から三冠獲得まで、激動の3年間ダイジェスト／武藤、川田、健介、アニマル浜口、そして家族が語るコジ、コジ・ロングインタビュー、小島聡 vs 川田利明（05.2.16三冠戦）／ラリアット100連発
■ユークスHP http://www.yukes.co.jp/

初期シューターに学べ！田中塾が新体制でスタート!!

田中健一率いる田中塾が、6月から新体制でスタート！修斗初期ライト級王者にして、創始・佐山聡より最高位修士“シューティスト”を認可されたタナケンの指導を受けたい人は下記の連絡先まで。本部に入会登録すれば、船橋、市川、六本木、イラン・テヘラン、ロシア・ハバロフスクの各支部で練習可能!!

■問 格闘結社田中塾本部事務局047-423-2887
■住所 千葉県船橋市本町4-5-16

サクやシウバが大暴れ！『殴者』が9月からロードショー決定!!

クランクアップから実に1年3ヶ月。DSEが満を持して世に送り出す映画『殴者』が遂にロードショー決定！サク、シウバ、ランペイジ、ドン・フライ、高山の活躍に大注目だ!!

■監督 須永秀明 ■製作総指揮 榊原信行
■出演 玉木宏、水川あさみ、陣内孝則、虎牙光輝、桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ、クイントン・ランペイジ・ジャクソン、高山善廣、ドン・フライ他
■上映 9月からテアトル新宿、テアトル池袋他、全国拡大ロードショー
■HP http://www.nagurimono.com/

藤原組長の個展、絶賛開催中！

“芸術家”藤原組長が個展を開き陶器や絵画を披露する。また今号の発売日と同日の18日と19日には『言葉と唄のライブ』（16：00開始／入場無料）も開催し、そのどちらかに村上和成が登場！ 昭和＆平成のテロリストトークは必聴！

『藤原喜明展』 ■期間 6月16日（木）～22日（木）
■時間 12：00～18：00（最終日は17：00）
■会場 リベストギャラリー（東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-19）
■問 （有）ウォーターオリオン ■HP http://www.waterorion.com/

講師はプロ格闘家！リバーサル格闘技ジムで会員募集!!

6月15日、格闘技をテーマにしたブランド「リバーサル」が格闘ジムをオープン！ 6月中に入会すると、特典として入会金無料、さらに道衣がプレゼントされる。初心者、女性も大歓迎！所英男、松根良太らプロの柔術、キック、総合の技術を体感しよう!!

■月謝クラス（カッコ内は入会金） 一般 10000円（15000円）／女子 6000円（5000円）／大学生 9000円（10000円）／高校生 8000円（10000円）／中学生 6000円（8000円） ※ビジターは2000円、事前の連絡が必要
■講師 鶴屋浩、松根良太、所英男、大内敬、弘中邦佳、小野瀬龍也、他
■場所 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-10-B1
■問 03-3481-6521 ■HP http://www.reversal.jp/

紙プロHand 更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、試合結果速報・会見ほかニュースに加え、読み応え十分のコラムを毎日配信中！ 本誌でもおなじみ大人気のI編集長コラムは毎週月曜、ターザンコラムも木曜に毎週更新中!! 写真は今月更新の中川画伯・浪口修待画。『ハッスル』ナンバーシリーズ、『PRIDE』シリーズの特典付きチケット先行予約を実施しているほか、ショッピングコーナーではこれまでの『ハッスル』グッズに加え、『PRIDE』グッズの取り扱いも開始！ メルマガも毎日配信中です!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

▶ 紙プロHand

雨にも台風にも湿気にも負けない読者ページ

紙プロ元気大学

祝、サッカー日本代表ワールドカップ進出！ 時事ネタは取り入れてみたけど、サッカーの知識が小学生の頃読んだ「キャプテン翼」で止まっている読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。オーバーヘッドキックは早々出来るもんじゃないらしいです。気が付けばもう6月、今年も半分終わってしまいました。みなさんの上半期ベストバウト&ワーストバウトは何でしたか？ 『紙プロHand』で投票を行う予定ですが、おハガキやお手紙もじゃんじゃか募集します。私のベストバウトは小林聡vs大月晴明戦でした。さて、今月もはじまりはじまり。

（東京都・仙波久幸）⬇追っかけ、ここに極まれり！ WWEのビンス・マクマホン様との一枚です。WWEに参戦しているスーパースターだってそうそう撮れるもんじゃない、ビンスとのツーショット。……うれしそうだなぁ。金曜発行の某有名週刊誌・敏腕記者の仙波さんからは、3枚のアメリカみやげツーショット写真をいただきました。詳しくは下の「ステキな一枚」コーナーをチェック。

校内巡回

『紙プロ』87号 面白かった記事

【金原弘光×池田大輔対談】
★新日プロレス学校は面白すぎ。ところで「離婚した池田さん」とは、アマレスの山本美憂選手と離婚したJリーガーの池田選手だと思います。上井さんと卒業生を集めて、新日プロレス学校の同窓会をぜひやってほしいで〜す！
（北海道・塚本拓也・34歳・会社員）
⬇池田伸康選手ですね。……どうでしょうか、金原選手。1位は「金原選手の対談にハズレなし！ 大好きです（東京都・川村剛）」ほか、絶賛意見が届いた新日本プロレス学校卒業生対談でした。私は池田大輔選手のZERO・1 MAX参戦決定が心から嬉しいです。以下、順不同でお送りします。

【ZSTガール大特写】
★理由を言えば野暮になる。
（大阪府・千本一博・22歳・職業無記入）
⬇ページが少なくてごめんなさい。それにしても、べっぴんさんでしたねぇ。

【吉田秀彦インタビュー】
★大・大・大ファンなので。
（広島県・中山美穂・32歳・販売員）
⬇中山美穂さんが吉田秀彦選手の大ファン。ハガキを拝見して、一瞬ビックリしました。

【諸岡秀克インタビュー】
★顔と名前が一致する程度で、どういう人物か知らなかったので。
（埼玉県・立石隆洋・36歳・自由業）
⬇いや、顔と名前が一致していただけでも十分スゴイと思います。

【宇野薫×船木誠勝対談】
★ハンセンにKOされたが、宇野君が元気そうなので安心した。
（広島県・寺戸和之・41歳・会社員）
⬇宇野選手は本当に昔からの船木さんファンなので、対談当日はかなりアガってたらしいです。しかし船木さんは当然のごとくマイペース。やりまくれ！

【82ページ・インリン様の後ろ姿】
★これだけで今回、この本を買いました!! グラビアで10ページくらい次回やったほうが……。
（東京都・下山孝一・25歳・会社員）
⬇やりまくれ！ ……あ、間違えました。インリン様写真集『最終闘争』は、なぜか私も1冊持っています。

【ディック東郷インタビュー】
★今回のインタビューを読むまで東郷さんが嫌いでした。ごめんなさい。新日東京ドームのときも上のほうの席からブーイングをしていました。ごめんなさい。次回ご登場の際には、カラーでお願いします。
（茨城県・和田智裕・21歳・学生）
⬇嫌われてこそヒール。ノー問題！ でも、反省する気持ちがあるなら、前号表紙裏のカラー写真をどこかに飾っておいてください。

【K-1 WORLD MAX特集】
★コヒの言葉の殺傷能力に驚きました。
（大阪府・中島一郎・30歳・会社員）
⬇まだ載せたい言葉はたくさんあったんですよ。7月20日横浜アリーナではさらに上を行く言葉が飛び出すんではないかと、いまから期待しています。ユニクロの店頭広告の大きさには驚きました。

『紙プロ』87号 つまらなかった記事

【諸岡秀克インタビュー】
★美濃輪育久のことが大好きなので、ソープランドが趣味っていうのはかなりショックでした。
（大分県・伊藤望美・24歳・美容師）
⬇ごめんねごめんね。ショックだっただろうなぁ。美濃輪選手のいろんな面を認めて、ファンでいてあげてね（好フォロー）。

★つまらないというより、読者ページに自分の名前が出ていてビックリして正視できなかった。プレゼント応募で書いたものも、載っちゃうんですね。廻りの者に知れているのではないかとビクビクしました。
（北海道・ツカモトタクヤ・34歳・料理研究家）
⬇だから毎号、内容によっては載っちゃうこともありますって書いてるじゃないかー。でも、私も初めて自分の名前（写真まで）が載っているのを見たとき、世界中の『紙プロ』を買い占めようかと思ったので、気持ちは分かります。

【PRIDE“変態”待望論】
★ターザンは、さすがに変態ぽい感じがする。
（神奈川県・大類正和・33歳・会社員）
⬇説得力あり。というか、同様意見多数でした。

その他のおたより

★高田総統と本部長は別人？ この写真は合成？ そっくりさん？ 謎は深まるばかりで。
（『紙プロHand』投稿・かねやん）
⬇前号88Pの『ハッスルマガジン』広告を見て、驚きのあまり投稿してくださったのでしょうか。……性格のいい人だなぁ。もちろん総統と本部長は別人ですよ！

★アリスター・オーフレイムと平井堅が似すぎていて、毎日寝られません。
（東京都・寺田純・23歳・豆腐売り）
⬇えっ、どっちがホモなんですか？ ……いや、何でもないです。おあとがよろしいようで。

紙プロ87号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 金原弘光×池田大輔対談
2位 喫茶店トークV
3位 吉田秀彦インタビュー
4位 桜庭和志×中村和裕対談
5位 笹原GM×大仁田厚対談

1位は新日本プロレス学校同窓会対談！ 対談スタート直前には、あのIWGP王者も河原に現れ、談笑していたそうです。2位は井上さんが前田日明と永田裕志を語り尽くした喫茶店トークV。続いて表紙を飾った吉田秀彦インタビュー。4位はホモ話も飛び出した桜庭和志×中村和裕対談。5位は笹原GM×大仁田厚対談。「とにかく大仁田厚が嫌い」という人の票を集め、ワースト部門もぶっちぎり1位。評価もされるが根強く嫌われる邪道に感服。続いてPRIDEのリングを作った男・諸岡秀克インタビュー、ディック東郷インタビューと続きました。

今月のステキな一枚

（東京都・仙波久幸）➡立派な社会人でありながら『レッスルマニア』を見に行っていた仙波さん。「ビンスとの写真は、ロスのヒルトンホテルから、ビンスが出てきたところをリムジンの近くで待機してたんだよ。他のファンと一緒に待ってたら、ツーショット撮るチャンスはないからね。ジミー鈴木にも見せたけど、これはスゴイ価値あるよぉって言ってもらったよ！ もう1枚のアイアンシークとの写真は、打ち上げが行われたシェラトンホテルのロビーで。後ろから『コシロ・バジリー!!』って叫んだら振り向いてくれて（笑）。『トーキョー、ジャパーン!!』って。本人テンション高かったね。だからこれはコシロ・バジリとの写真なんだよ（笑）。もう1枚はホーガンとのツーショット。ホーガンファミリーとの食事の末席に入れさせてもらったんだよ！ ホーガンは『イチバン、ニバン、センバーン！』って、オレのこと覚えててくれたんだよ！」。……ありがとうございました。とりあえず、仙波さんには2005年上半期追っかけ王の称号を授与したいと思います。

今月のタレコミ部？

韓国で発行された格闘技雑誌、「HOLOS」が海を越えて『紙プロ』編集部に届きました。こちらから送本した『紙プロ』も「よく届いた」ようで何よりです（右の手紙参照）。下の創刊号では、いきなり堀江ガンツの特集です。…いや、キム・ミンス特集ですね。その下の第２号ではイム・チビン特集。両方とも文章は分からないものの、幼いころからを振りかえる写真があったりして、なかなか興味深いです。

紙のプロレス 編集長 山口 日昇 様

紙のプロレス ６６号は よく届きました。

ありがとうございます。

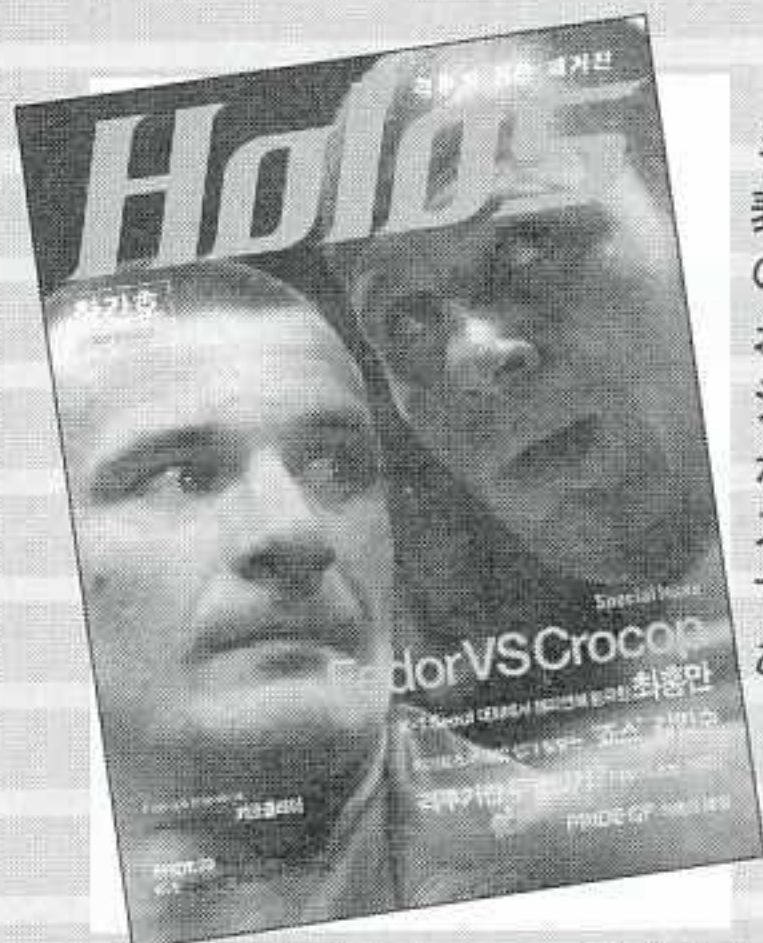
HOLOSは韓国のはじめて発行される格闘技雑誌です。

まだはじめたばかりですので 十分ではないことを理解していただければありがたいと思っております。

これからもお互いに良い関係をつくって行けることをねがいます。

くれぐれも よろしく おねがいいたします。

HOLOS
編集長 Young-hoon, Kim より

E-mail idealism@holos.co.kr

ミルコとヒョードル表紙の創刊号。日本の関係者も多数創刊おめでとうメッセージを寄せているほか、ヒョードルのポスターがついています。武田幸三特集もあり。

フランスと韓国のハーフ、デニス・カーンが表紙の第２号。魔裟斗という名前が漢字でそのままそのまま大きく出てました。名前の意味、どう伝わってるのかなぁ。付録はミルコポスター。

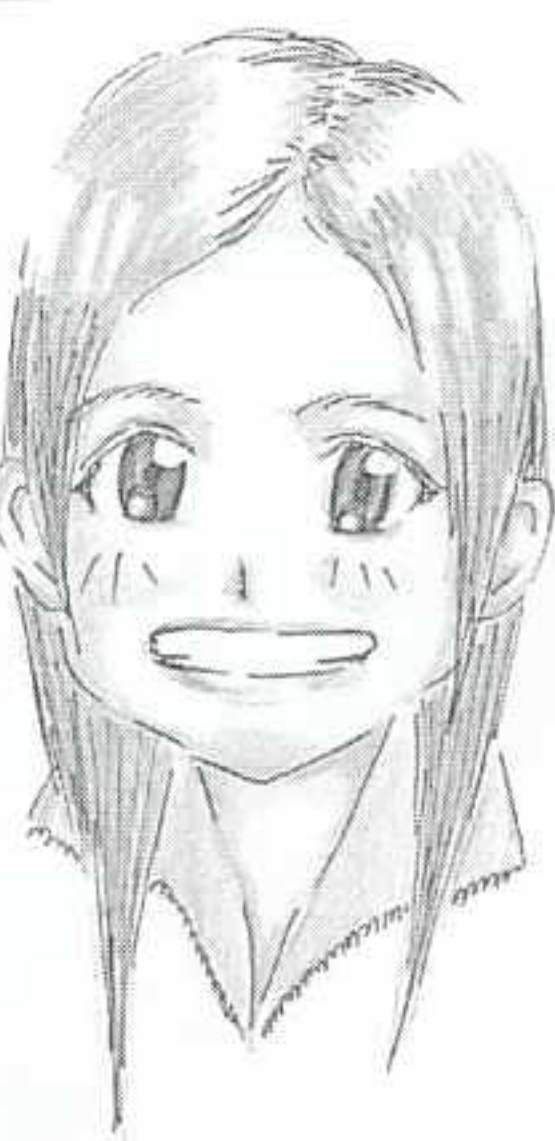
（神奈川県・岡田健生）「完全復活した桜庭とボブチャンチンの再戦を決勝ラウンドで見たい！生き残れ！　ロシアン・ダイエット!!」。➲生まれ変わったボブチャンチンのたくましさが描かれたイラスト。人間、長所を残したままであぁも変われるものかと驚かされました。北の最終兵器、進化！　最小兵器・ナナチャンチンの進化はいつか!?

（東京都・小技）➲ジョシュ・バーネットの嫌いなレスラー（アブダビページ参照）北尾光司。最近、小技さんは某週プロでも活躍中です。「野人注意」は、ぜひうちに送ってほしかったです。

（埼玉県・大﨑洋二）➲４月30日のスマック沼津大会に突如ボンバーヘッドで登場、ジェット・イズミ選手に見事勝利した松本裕美選手。私はまだ映像を見れてないですが、似顔絵になるくらいのインパクトがあったみたいです。後楽園は欠場で残念。

（埼玉県・小川徹）➲パッケージとして完成された、武藤敬司率いる今の全日本プロレス。大会は毎回面白いです。NOSAWA論外も大ブレイク。

（東京都・稲葉聡）➲スマックガールでデビューした、深谷愛ちゃん。「タップしてないのにぃ」…かわいいですね。隣席の松澤チョロさん大推薦のハガキなので、大きく掲載。また試合が見たいです。もう一枚の殺しタッグも同じ稲葉さんの作品。ドンッ。

（北海道・アカツキ）➲蝶野正洋、小川直也の２人から「来て欲しい」と言われたのに「ごめんなさい」してしまった破壊王。いまさらながら「ねるとん紅鯨団」の影響は大きかったな、と思います。このハガキも、30歳前後にしか通じないネタなのかなぁ。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

紙プロ読者ページ『紙プロ元気大学』では、みなさまのお便りをお待ちしています。雑誌『紙プロ』へのご意見、大会の感想、イラスト、ダジャレ、インタビューしてほしい選手のリクエストなど、どしどし送ってきてください。上半期ベストバウト・ワーストバウト、ベスト興行・ワーストバウト、上半期MVP&ワーストMVP、上半期ベスト発言、上半期ベスト外人、上半期は凄かった人などのご意見も募集します。（念のため、6月末までが上半期です。）

すべてのお便り・イラストのあて先は

メールはradical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
「健介夫妻、結婚10周年」係まで。
携帯サイト『紙のプロレスHand』からの投稿もできます！

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によってはこちらに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです！

RADICAL CALENDAR

6 JUNE

18 SAT.
新日本■京都・京都市体育館（18:00）
全日本■福島・白河中央体育館（18:30）
ZERO-1MAX■静岡・アクトシティ浜松（18:00）
みちプロ■青森・名川町B＆G海洋センター（18:30）
DRAGON GATE■岐阜・岐阜商工会議所（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■福井・敦賀市きらめきみなと館（18:30）
IKUSA■東京・Zepp Tokyo（17:30）

19 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
ZERO-1MAX■京都・京都KBSホール（15:00）
みちプロ■宮城・涌谷町B＆G海洋センター（14:00）
DRAGON GATE■静岡・ツインメッセ静岡（15:00）
金村キンタロー祭り■千葉・BlueField（16:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
JWP■東京・キネマ倶楽部（13:00）
NEO■東京・キネマ倶楽部（18:00）
ANGEL'S■東京・伊原道場本部道場（14:00）

20 MON.
DRAGON GATE■栃木・栃木県総合文化センター（18:30）

21 TUE.
CRUISER'S GAME■東京・渋谷culb ATOM（19:00）
NEO■石川・石川産業展示館（18:30）

22 WED.
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）
大日本■茨城・北茨城市民体育館（18:30）

24 FRI.
みちプロ■神奈川・横浜市ラジアントホール（18:30）
リキプロ■福島・福島市体育館（18:30）

25 SAT.
DRAGON GATE■福井・サンピア敦賀（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
北都プロ■北海道・池田町総合体育館（19:00）
NEO■長野・佐久創造館（18:30）
AtoZ■東京・AtoZ江戸川道場（16:00）

26 SUN.
DRAGON GATE■京都・京都KBSホール（17:00）
大日本&DDT■大阪・IMPホール（12:30）
みちプロ■大阪・大阪IMPホール（17:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00&18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ（14:00）
LLPW■埼玉・LLPW川口道場（14:30）
JWP■東京・神6仲良し広場（15:00）
AtoZ■東京・AtoZ江戸川道場（14:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（12:00）
ドレイク森松興行■東京・新木場1st RING（18:30）
OZアカデミー■東京・後楽園ホール（12:00）
PRIDE GP■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）
シュートボクシング■東京・後楽園ホール（18:00）
全日本キック■東京・大森ゴールドジム（14:30）

28 TUE.
スマックガール■東京・後楽園ホール（18:30）

29 WED.
DDT■東京・後楽園ホール（19:00）

30 THU.
新日本■新潟・リージョンプラザ上越（18:30）
リキプロ■宮崎・都城市体育館（18:30）

7 JULY

1 FRI.
WWE■埼玉・スーパーアリーナ（19:00）
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
みちプロ■福島県・霊山町民体育館（18:30）
リキプロ■長崎・佐世保市体育館（18:30）

2 SAT.
WWE■埼玉・スーパーアリーナ（19:00）
ZERO-1MAX■三重・四日市オーストラリア記念館（18:00）
NOAH■東京・ディファ有明（18:00）
みちプロ■岩手・久慈市民体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）

3 SUN.
新日本■千葉・幕張メッセ国際展示場11ホール（15:00）
NOAH■静岡・アクトシティ浜松（17:00）
ZERO-1MAX■長野・駒ヶ根市民体育館（16:00）
みちプロ■宮城県・鳴子町スポーツセンター（15:00）
DRAGON GATE■兵庫・神戸ワールド記念ホール（15:00）
DDT■新潟・新潟フェイズ（17:00）
リキプロ■和歌山・和歌山県立体育文化館（16:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
NEO■東京・後楽園ホール（12:00）
賀川照子引退試合■東京・品川プリンスホテル クラブex（15:00）
修斗■愛知・名古屋吹上ホール（17:00）
新日本キック■東京・後楽園ホール
パンクラス■東京・P'sLAB東京（10:30）

4 MON.
リキプロ■大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18:30）
K-DOJO■東京・後楽園ホール（18:30）

5 TUE.
NOAH■福井・福井市体育館（18:30）

6 WED.
HERO'S■東京・代々木競技場第一体育館（17:00）

7 THU.
NOAH■新潟・ハイブ長岡（18:30）

8 FRI.
新日本■福井・サンピア敦賀（19:00）
NOAH■長野・長野運動公園体育館（18:30）
DRAGON GATE■宮崎・延岡市体育館（18:30）
DEEP■東京・後楽園ホール（18:30）

9 SAT.
新日本■岐阜・岐阜産業会館（18:00）
ZERO-1MAX■新潟・新潟市体育館（18:00）
みちプロ■青森・青森産業会館（18:30）
DRAGON GATE■佐賀・諸富町文化体育館（18:30）
大日本■千葉・佐原市民体育館（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■愛知・テクスポート今治（18:30）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:30）

10 SUN.
新日本■兵庫・兵庫県立武道館（15:00）
NOAH■京都・ＫＢＳホール（17:00）
DRAGON GATE■山口・海峡メッセ下関（17:00）
DDT■千葉・BlueField（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
パンクラス■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
JWP■東京・JWP道場（13:00）
NEO■香川・高松シンボルタワー1階展示場（18:00）
M's Style■東京・新木場1st RING（18:00）
スマックガール■東京・大森ゴールドジム

11 MON.
NOAH■高知・高知県民体育館（18:30）

12 TUE.
NOAH■島根・松江くにびきメッセ（18:30）
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）
G-SHOOTO■東京・北沢タウンホール（18:30）

13 WED.
ハッスル10■福岡・福岡国際センター（19:00）
新日本■山形・山形市総合スポーツセンターサブアリーナ（18:30）
K-DOJO■東京・北沢タウンホール（18:30）

14 THU.
新日本■秋田・秋田県立体育館（18:30）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:00）

15 FRI.
ハッスル11■大阪・大阪府立体育館（18:30）
新日本■青森・三沢市総合体育館（18:30）
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:30）
K-DOJO■神奈川・横浜文化体育館（18:30）

16 SAT.
大日本■東京・新木場1st RING（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）

17 SUN.
新日本■北海道・札幌テイセンホール（18:00）
全日本■石川・石川県産業展示館 3号館（17:00）
みちプロ■岩手・矢巾町民総合体育館（15:00）
大日本■神奈川・あかね台グラウンド
泉州力興行■大阪・アゼリア大正（13:00）
DDT■大阪・アゼリア大正（17:30）
大阪プロ■東京・後楽園ホール（12:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（18:30）
LLPW■鹿児島・奄美体験交流館（15:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:00）
PRIDE武士道-其の八-■愛知・名古屋レインボーホール（16:00）

18 MON.
新日本■北海道・月寒グリーンドーム（15:00）
NOAH■東京・東京ドーム（15:00）
みちプロ■秋田・大仙市大曲体育館（15:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00&16:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
WWS■群馬・伊勢崎市民体育館
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:00）
JWP■東京・新宿シアターモリエール（16:00）
LLPW■鹿児島・伊藤観光ドーム（17:00）
OYAZI BATTLE■東京・後楽園ホール（12:00）

19 TUE.
新日本■北海道・旭川地場産業振興センター（18:30）
dragon door■東京・後楽園ホール（19:00）

20 WED.
全日本■島根・平田体育館（18:30）
K-1 WORLD MAX■神奈川・横浜アリーナ（17:30）

21 THU.
新日本■北海道・釧路市厚生年金体育館（18:30）
全日本■広島・呉市体育館（18:30）

22 FRI.
全日本■大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（19:00）

23 SAT.
全日本■鳥取・鳥取産業体育館（18:00）
みちプロ■宮城・登米市中田町勤労者体育センター（19:00）
IWA JAPAN■神奈川・茅ヶ崎青果地方卸売場（17:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・IMPホール（18:00）

24 SUN.
みちプロ■岩手・釜石市民体育館（15:00）
IWA JAPAN■東京・後楽園ホール（12:30）
666■東京・バトルスフィア東京（17:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
NEO■東京・キネマ倶楽部（13:00）
JWP■東京・キネマ倶楽部（17:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（12:30）
全日本キック■東京・後楽園ホール
SWAT! 02■東京・大森ゴールドジム（16:30）

26 TUE.
全日本■東京・国立代々木競技場第2体育館（19:00）

27 WED.
DDT■東京・後楽園ホール（19:00）

29 FRI.
ZERO-1MAX■東京・後楽園ホール（19:00）

島田裕二レフリーも愛用！タレントの宮内美穂も絶賛！「髪一源（カミイチゲン）」の髪技（カミワザ）

島田裕二プロフィール：1992年藤原組マイアミ大会にてレフェリーデビュー。現在PRIDEチーフレフェリー。テレビ東京「一撃入魂」、ラジオ日本「格闘頂点」パーソナリティー現在出演中。

宮内美穂プロフィール：NHK「土曜スタジオパーク」、テレビ東京「一撃入魂」・「ビジネス維新」、ラジオ日本「お笑い!ネタとこ勝負ハイパー」メインパーソナリティー現在出演中。

石井正能プロフィール：株式会社 鈴正 代表取締役社長。1936年・兵庫県出身、1967年・美容業界に入る、1988年・株式会社 鈴正設立、2005年・現在に至る。

新発想 1,2&NC3μのステップ育毛が髪に効く！

頭皮を清潔に保つことが、健康な頭皮・毛髪を維持するのに大切なことです。

STEP1
髪一源ー1
ヘアー&スキャルプローション
NET 400ml

STEP2
髪一源ー2
ヘアー&スキャルプトリートメント
NET 200ml

フケ・カユミを抑え、不足しがちな水分を補い、頭皮、毛髪をすこやかにします。

このSPG-NC3μスプレーは2μのSTEP-1の成分を噴射して頭皮の奥深く入り、頭皮を柔らかく皮脂を包んで流し出します。
【特許 第1518989号】

for 1&2
SPG NC3μ SPRAY
ナノクラスタースプレー

髪でお悩みの方は是非…
いまなら間に合う！4ヶ月挑戦で解決します。
今まであきらめていた方、ぜひお試しください。
男女兼用・細い毛・抜ける毛・薄い毛・**簡単に解決します。**
100%これであなたも変わります。

髪にコシがなくなった
頭皮が脂っぽい
スプレーするだけで
解決！

たった3ヶ月
2004年7月15日撮影　2004年10月14日撮影

「髪一源（カミイチゲン）」3本セット
●髪一源-1 ●髪一源-2 ●NC3μ
セット価格 **19,650円**（税込）

※2回目以降は単品でもお求め頂けます。詳しくは直接お問い合わせください。

「髪一源」のご注文はお電話・FAX・携帯・インターネットで今スグ

0120-800-417（ヤーヨイナ）
☎092-952-7880
FAX.092-952-7886
受付 9:00～17:30（日祝は休み）
FAXは年中無休24時間受付
インターネット http://www.suzumasa.net
Eメール info@suzumasa.net

ハガキ・FAXの必要事項
50円切手
〒811-1211 福岡県筑紫郡那珂川町今光4の165 株式会社 鈴正 紙のプロレス係

①商品名
②数量
③〒住所
④電話番号
⑤お名前（フリガナ）
⑥生年月日

【商品のお届けについて】●お支払い方法：商品到着時の代金引換のみです（送料は無料）。●商品のお届け：1週間前後となります。●返品：未使用に限り商品到着後8日以内に返品ください（返送料はお客様負担となります）。

SUZUMASA 株式会社 鈴正
〒811-121 福岡県筑紫郡那珂川町今光 4-165

"ささきぃの 極私的立ち技格闘技連載

"STAND BY ME"（仮）

第9回

『K-1 MAX』決勝大会とは何か？

ささきぃです！『STAND BY ME（仮）』が白黒ページに帰ってきたぜぇ～。今回は7・20開催される『K-1 MAX』決勝大会の見どころを紹介！ 興奮度マックス、緊張感マックス、そして面白さはゼロワン・マックス！ ……あれ？ 橋本さん、今月もよろしくお願いしま～す！

橋本宗洋（はしもとむねひろ）

1972年生まれ、茨城県出身。『格闘技通信』を経た後、99年からは『SRS－DX』へ。同誌休刊後はフリーとして本誌でも活躍、今月はロシア取材へも同行。堀江ガンツの酒癖をロシアからささきぃに逐一報告する。85号で橋本氏の似顔絵を募集したところ、多数送られてきました。感謝。今回は安田顔さんによる版画を採用しました。ヒバ時間の無駄遣い。

ささきぃ　スゴイですね～、7・20『K-1 MAX』。チケット即日完売ですよ！ マット界でこういう景気のいい話は嬉しいですね。

橋本　しかも、今回は武田幸三も須藤元気も山本"KID"徳郁も出てないんだよ。それで横アリ完売はホントにスゴイね。

ささきぃ　魔裟斗効果ですかね。

橋本　もちろんそうだし、あとは『MAX』のブランド力だよね。ホント、よくぞここまできたよ。『SRS・DX』はプロレス好き、総合好きばっかだったから、キック担当のオレは肩身が狭くてさぁ。それがいまやねぇ……。

ささきぃ　決勝トーナメントの組み合わせですけど、前回KIDをKOで倒した（マイク・）ザンビディスと魔裟斗をいきなり激突させちゃうんですよね。

橋本　今回のトーナメント表、見る人が見れば分かると思うんだけど、面白そうな試合ブロックと、潰し合いブロックにはっきり分かれてるんだよね。

ささきぃ　そうですねぇ。

橋本　もちろん全員が厳しいんだけど、特に日本人がいないブロックは本当に潰し合い。

ささきぃ　決勝までにどこか怪我しそうですよね。クラウスもジョン・ウェインを相手にしたら怪我しそうですし、ジャダンバ（・ナラントンガラグ）相手にしたらブアカーオ（・ポー・プラムック）も怪我しそうですよね。

橋本　相当なダメージ喰らうよ。で、日本人ブロックは手が合うカードになってるよね。ザンビディスも、この間KIDにいい勝ち方してるから2年前より強くなってるんだろうなとは思うけど、魔裟斗は、ザンビディスみたいなパワー系パンチャーを相手にすると、自分がタイ人みたいな闘い方できるからね。器用だから。

ささきぃ　あぁ、なるほど。

橋本　ミドルとヒザと前蹴りで勝てるから。で、それをやっても許される立場にあるからね。いまさら魔裟斗に「リスク背負っても倒しにいけよ！」とか誰も言わないでしょ。

ささきぃ　一回戦ですしね。

橋本　逆にだから、魔裟斗の幅の広さみたいなところに注目すればいいんじゃないのかなぁ。コヒは……。アンディも闘い方がきれいだから、合わせやすいのかなっていう気はするね。

ささきぃ　攻撃を流されて、最後またコヒのヒザ小僧とかがヒットしたりするのかなっていう気はしますね。

橋本　あとはローキックでコツコツとか、十分ありうるね。アンディも頑張ってほしいんだけどね。こっちのブロックの中で、唯一観客の感情移入がない選手だろうから、オレはそういう選手に肩入れしがちなんだよ。でも魔裟斗vsコヒが準決勝で実現するのも面白いけどね。

ささきぃ　実現すれば視聴率もマックスでしょうしね。

橋本　マックスだろうなぁ。もしくは……。

ささきぃ　魔裟斗vsアンディ・サワー。

橋本　これも手が合うね。となると魔裟斗が決勝進出する可能性が大きいだろうね。

ささきぃ　そうですね。

橋本　逆ブロックは全然読めないなぁ…。準決勝はブアカーオvsジョン・ウェインかな。このトーナメントを組んだ人は、ブアカーオvs魔裟斗の再戦か、それともジョン・ウェインが新しいスターとして上がってくるのか。どっちかを想定してるような気がするんだよね。

ささきぃ　どっちが上がっても怪我してるだろうなぁ。それかボロッボロのクラウスが上がってくるとか。

橋本　クラウスとの再戦っていうのもドラマがあるね。このブロックはどう転んでも面白い。

ささきぃ　ただ5月の開幕戦に比べると、常連選手が多いこともあって「コイツだけには絶対勝ってくれ」とかっていう選手への思い入れは今回薄いですよね。

橋本　それは人気者に興味がないオレらの悪い癖じゃないの（笑）。まぁ、俺はジョン・ウェイン押しだけどね。

ささきぃ　そうですか（笑）。

橋本　当然だよ。ジョン・ウェインとアンディの決勝戦が見たいなぁ。

ささきぃ　見たいですけどね（笑）。

橋本　会場を埋め尽くすおねぇちゃんたちは、決勝を見ずに帰るだろうね（笑）。俺はその光景が見たいよ。

ささきぃ　確実に帰るでしょうね（笑）。でも、ダリウス（・スクリアウディス）と魔裟斗の決勝戦が実現するかもしれないですよ。

橋本　あぁ、リザーブファイトで勝って？ 実際、ここでダリウスがリザーブに抜擢されたっていうことは、評価が高いっていうことなんだ

『IKUSA GP』直前予想番組にささきぃ登場!!

発売日当日に大会を迎える『IKUSA GP』、GAORA系列で放送された直前番組に、なんと当ページ担当のささきぃが登場!! 「全選手インタビューと過去の試合映像を交えて、布施鋼治氏をはじめとする格闘技記者が、IKUSAプロデューサー小澤進剛氏とともに大会の展望を大予想」した内容となった。大予想出席者は山口日昇とともに山田恵一を追いかけてイギリスに行ったこともある布施鋼治さん（フリーライター）、『紙プロ』読者的にはリングス解説でおなじみのクマクマンボこと熊久保英幸さん（格闘WEBマガジンGBR編集長）、そして電気部・ささきぃ（紙のプロレスRADICAL）。……なぜ。緊張して道に迷い、後楽園の駅から収録場所の水道橋・コロッセオに行くのに通常の10倍近い時間をかけてしまったささきぃは、見事収録時間に遅刻。気持ちはチキン、行動は大物。……みなさんご迷惑おかけしました。よりによってささきぃを起用する『IKUSA』のセンスが気になった読者は、発売日当日の大会、そして9月の『IKUSA GP』決勝大会を要チェック!!

エステティックTBC

K-1 WORLD MAX 2005

～世界一決定トーナメント決勝戦～

7月20日（水）
神奈川・横浜アリーナ
試合開始 17:30（開場16:00）

大会に関する問い合わせ先
（株）FEG 03-3796-5060
K-1オフィシャルサイト
http://www.k-1.co.jp
FEGオフィシャルサイト
http://www.feg-jp.com

優勝

魔裟斗（日本／シルバーウルフ）
マイク・ザンビディス（ギリシャ／メガジム）
小比類巻貴之（日本／チームドラゴン）
アンディ・サワー（オランダ／シュートボクシング・オランダ）
アルバート・クラウス（オランダ／ブーリーズジム）
ジョン・ウェイン・パー（オーストラリア／ブンチュージム）
ブアカーオ・ポー.プラムック（タイ／ポー.プラムックジム）
ジャダンバ・ナラントンガラグ（モンゴル／モンゴルプロファイティング協会）

【リザーブファイト】
安廣一哉（日本／正道会館）vsダリウス・スクリアウディス（リトアニア／リングスリトアニア）
【スーパーファイトK-1ルール】
佐藤嘉洋（日本／フルキャスト）vsヴァージル・カラコダ（南アフリカ／スティーブジム）

ろうね。

ささきい　谷川さんも見たかったんでしょうね。

橋本　本領が見たいっていうね。でも安廣（一哉）も相当強いよ。

ささきい　男と男の対決というか、心のきれいな人同士の対決という感じですね。

橋本　これは非常に乗れる試合だよね。お互いがんばれって感じで。心のきれいな人同士って、別にほかの選手が汚いっていうわけじゃないんだけどさ（笑）。

ささきい　もちろんですよ（笑）。

橋本　あと、スーパーファイトで佐藤嘉洋も出るんだよね。この間畑山に「地味でいやらしく強い」って見すかされてたけどさ。ここでどういう試合をするかだね。

ささきい　前回以上に大事な試合ですよね。

橋本　あと『MAX』以外でも、立ち技格闘技界にいろんな盛り上がりが出てるよね。

ささきい　あちこちであり得なかった対抗戦が生まれたりとか、『MAX』との相乗効果みたいなので、活性化してきた感がありますね。

橋本　全部が『MAX』のおかげとは言わないけど、盛り上がりの理由のひとつになってるのは間違いない。この本の発売日に行われる『IKUSA GP』もそうだし。

ささきい　MAX日本大会準優勝の新田明臣も出るし、小次郎も出るし。『MAX』参戦経験のある選手が多数出て、これも前売り完売と。

橋本　24日のシュートボクシングではエースの緒形健一対イム・チビン、宍戸大樹対大野崇が実現するし。これも非常にリスキーなカードだからねぇ。

コヒがコヒワールドを貫けるか今回が正念場になると思う（橋本）

ささきい　イム・チビンはこないだ見たばっかりですから、どうしたって比較されますよね。

橋本　怪我してる魔裟斗があれだけやってるのを見てるからね。緒形はKOしないといけないってハードルを課せられてる。大野も決して弱くないからね。新田のアゴを割ってるし。

ささきい　え、そうなんですか？

橋本　第1回MAXで、新田をハイでKOしたでしょ。アゴの骨がタテに割れたらしいよ。

ささきい　スゴイですね。

橋本　俺は大野、スゴイ好きなんだよ。

ささきい　好きなんですか（笑）。

橋本　大野は、正道の中で屈指の存在だね、俺にとっては。全日本キックで新田に勝ったあと、いろいろ質問してたら「ノーガードの打ち合いなんて、練習しなくても出来るんですよ。それより僕は〝武蔵流〟です」って、武蔵本人よりハラが座ってるんだよ。

ささきい　あ、そんなこと言う人なんですね。

橋本　これまた大好きな宍戸とやるから、けっこう複雑ではあるんだけど、『MAX』から派生した熱を、うまく利用して活性化するのはいいことだね。

5・23、カード発表記者会見に登場した王者33人と、2年連続日本王者の小比類巻貴之。今年の王者に輝くのはいったい誰になるのか？

ささきい　安生洋二さんが、夜の街で「K-1ファイター」って名乗っていたことがあるらしいですけど、そういう利用の仕方ではないということですね。

橋本　完全に違うね（笑）。各団体とも、いい意味で『MAX』を目の敵にすればいいんじゃないかなぁ。あとは……『MAX』で注目しなきゃいけないのはコヒだな。

ささきい　コヒですねぇ。

橋本　正統派の見方をすると、コヒは準決勝止まりだから、決勝進出なるか。世界の一流に囲まれたときに、ホントの底力みたいなのが出るか。それともまた後ろを向いて倒れて、母親に逆ギレしてしまうのか。

ささきい　最近お母さん見ないから、さみしいですけどね。

橋本　まぁお母さんはともかく、去年の後半くらいから、コヒの考える〝かっこいい俺〟みたいなのを全開にしてきたから、ここでかっこ悪い姿は見せられないでしょう。

ささきい　「自分の世界を完成させれば勝てる」、「俺を含めてみんな強い」って言ってましたけど。

橋本　俺を含めて（笑）。べつに否定はしないけど、あえて言わなくてもいいのに。

ささきい　でもそれがコヒ。

橋本　コヒワールドを貫けるかどうか、その正念場ですよ。まあヘタレちゃうコヒっていうのも、それはそれで面白いんだけどさ。

ささきい　ただ、今のコヒは本当にスゴイ運がついてそうなんですよね。だから、サワーが突然戦闘不能になるようなことがありえそうな気がするんですよ。

橋本　あぁ、ありうるな。勝手に怪我しちゃう。

ささきい　パンチで急に耳血がファーッと出たりとか、どうしてそうなるかは全くわからないですけど（笑）、絶対ありえますよ。

橋本　そう考えると、いまのコヒは存在自体がジョーカーなんだな（笑）。

【6月7日、ダブルクロスにて収録】

6・26 SHOOT BOXING

イム・チビン、大野崇、喧嘩女王・篠原光…
そして片腕の豪腕・バクスター・ハンビー参戦ッ!!

『SHOOT BOXING 20th ANNIVERSARY SERIES 3rd』
6月26日（日）東京・後楽園ホール　試合開始 18:00
RS席10000円 / SS席7000円 / S席6000円 /
A席5000円 / B席4000円（当日は各席500円増）
問:シュートボクシング協会　03-3843-1212

【3分×3R フレッシュマンクラスルール】
1.関戸一智（湘南ジム）vs 上田廣満（風吹ジム）
2.大沼慶子（シーザージム）vs 篠原光（チーム南部）
3.今井教行（シーザージム）vs ナグランチューンマーサ・M16（龍生塾）
4.菱田剛気（RIKIGYM）vs 八隅孝平（パレストラ東京）
5.山口太賀（寝屋川ジム）vs 金井健治（ライトニングジム）

【3分×5R エキスパートクラスルール】
6.石川剛司（シーザージム）vs
ラジャサクレック・ソーワラピン（ウィラサクレックジム）
7.バクスター・ハンビー（カナダ）vs コ・ソンジュ（Kpプロモーション）
8.宍戸大樹（シーザージム）vs 大野崇（正道会館）
9.緒形健一（シーザージム）vs イム・チビン（Kpプロモーション）

6・24 MA KICKBOXING

トリプルメインに3団体キック王者、
SB世界ウェルター級王者土井広之参戦!!

「東金ジム27周年記念大会
DETERMINATION 決心5『～戦場の虎～』」
6月24日（金）東京・後楽園ホール
試合開始 17:20（オープニングマッチ14時開始）
SRS席15000円 / RS席10000円 / A席7000円 /
自由席4000円（当日は各席1000円増）
問:マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
055-228-2326

【対戦カード】
●トリプルメイン・63kg契約交流戦（全日本 vs J-NETWORK）
白鳥忍(高橋道場）vs 西山誠人（アクティブJ）
●トリプルメイン・62kg契約交流戦（MA vs 全日本）
木村允（土浦ジム）vs 吉本光志（AJジム）
●トリプルメイン・69kg契約交流戦（MA vs SB）
土井広之（シーザージム）vs
ゲンナロン・ウィラサクレック（タイ）
●MA vs 全日本キック交流戦
山崎通明(東金ジム）vs 三上洋一郎（S.V.G.）

6・18 IKUSA GP

-60kg級の各団体王者・トップランカーが集結!!
新田明臣、HAYATOもスーパファイトに参戦!!

『IKUSA GP[U-60 SUPERSTAR☆Z]
TOURNAMENT OPENING STAGE』
6月18日（土）東京・Zepp Tokyo 試合開始 16:00
当日はスカイパーフェクTV! パーフェクトチョイスにて生中継。
（スカパー問い合わせ/ スカイパーフェクTV! カスタマーセンター 0570-039-888）

【トーナメント組み合わせ】
●［シュートボクシング協会スーパーフェザー級王者］及川知浩（龍生塾）
vs[MAキックボクシング連盟]大高一郎（山木ジム）
●［MAキック連盟スーパーフェザー級王者］小石原 勝（習志野ジム）
vs［全日本キックボクシング連盟フェザー級2位］山本真弘（藤原ジム）
●［シュートボクシング協会スーパーフェザー級2位］歌川暁文（UWFスネークピットジャパン）vs X
●［前NKBフェザー級王者（04年7月タイトル返上、フリー宣言）］TURBO（FUTERE_TRIBEver.OJ）
vs［全日本キックボクシング連盟フェザー級3位］石川直生（青春塾）

【スーパーファイト】
●【戦王タイトルマッチ】
［IKUSA U70初代戦王］新田明臣（バンゲリングベイ）
vs［元WMC世界ウェルター級王者］小次郎（スクランブル渋谷）
●［WPMF世界スーパーウェルター級王者］輝浪（フリー）
vs［UKF世界スーパーウェルター級王者］HAYATO（FUTURE_TRIBE）

深夜だが、"オレ様" エディ・ブラボーがついに地上波に登場！　数分だけの出番だけど、インパクトは残せたんじゃないかな。「レコード契約させてくれるなら、『PRIDE』で五味と闘ってもいい」と言ってたけど、いまの『PRIDE』では、グラウンドいってもすぐブレイクさせられちゃいそうだなと思いながら、新生『武士道』（5・22有明コロシアム）を見てきた。カード的に面白くなってきて、今回なんか日本vs世界やってたころの『バリジャパ』みたいね。

この日の私的MVPは"クレイジー・ホース" ベネット。前田をKOしたことにより、長い入場やあのキャラ作りがすべてプラスになった（前田が73キロでやるのはどうかとおもうが……）。最後は、五味の暴走に血相変えて飛び込んでくる男らしいいいキャラまで見せて、この日はカンペキ。便乗して目立ちたいだけかもしれないけど、あの時は五味よりベネットの方が男らしく感じたね。イズマイウを見なくなった今、前へ前へ出るキャラの位置はベネットが確保？

それとヨアキム・ハンセン登場にはびっくり。でも「なんたらポジション！」「ワン・ツー・フィニッシュ！」と最近特にうるさい『PRIDE』レフェリーに、寝技やらせてもらえるのかな？　あんましレフェリーがうるさいと、ただでさえ寝技を見る目がなくて、しかもすぐ口を出す堪え性のない一部の不快な客が、ますますつけあがって嫌だな。

そして小ノゲイラは『HERO'S』へかぁ。70キロでやるの嫌だなあと思ってたけど、今回は65キロの選手が多くてちと安心。というか宇野が浮きすぎでは？　もう『武士道』と『HERO'S』、どちらか70キロ、もう一方が65キロにしちゃえばいいのにね。選手は自分の階級に行けば、団体で取り合いしなくて済むし。まあ、どっちにしろ選手もってかれる修斗が一番気の毒だが。

話は変わって、5月のMVPはやっぱマルセーロ・ガルシアでしょ！　ネットや『ゴンググラップル』見てるだけでも興奮し、何かを掻き立ててくれる。早く映像が見たい。オレが王子なら、超スーパーファイとして、ガルシアvsジャンジャック組むよ！　王子ッ、頼むよ、そこんとこヨロシク!!

Hanakuma Yusaku
浅ヤンDVD発売うれしい。

中川画伯の絵日記 犬とTvの日々

http://chu-kichi.jp/

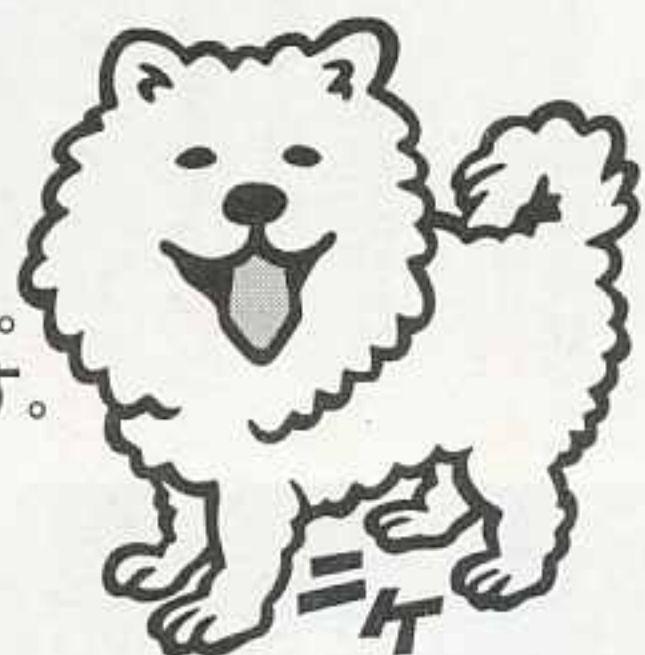
第10回

コンニチハ!中川雅博と申します。「中川画伯」と名乗ったりもします。犬が大好きです。3匹と暮してます。10回目でキリがいいので自己紹介してみました。

5月16日　Jスポーツで『修斗』見たよ。ギルバート・メレンデス強いね。井口摂選手がマイクで喋ってたんだけど、舌がペロペロ出てキモ面白かったよ。

5月17日　お友達のイラストレーター黒田潔の個展『LATENT INSECT』を観たよ。スゴく面白かったよ。黒田最高!!

5月21日　愛犬ニケと市役所主催の「しつけ教室」に行ったよ。全然ダメだったわ。ニケ、頑固なんだもん。ゆとり教育の弊害か……。

5月22日　六本木で『ドリラーズ』観たよ。ダンス観るの好きなんよ。ワクワクしたよ。『ドリラーズ』とはドリル・ダンス日本チャンピオン、世界を経験した女性達によるドリルダンス・カンパニーです。

5月22日　Jスポーツで『スマックガール』を観たよ。近藤有希選手の引退興行。最後まで格好良かったよ。最後までクールファイター。お疲れ様でした。

5月27日　『紙プロ』終身名誉バイザー、吉田豪先生の新刊『元アイドル！』を読んだよ。吉田豪先生は、やっぱり最高ですよぉぉ!! みんな読みましょう。

6月1日　テレビ朝日『愛のエプロン』に保田圭さんが出演。エプロン姿も素敵！

6月5日　後楽園ホールで『リキプロ』観戦。殺伐として面白かったよ。やっぱり日本のプロレスには殺気が必要だと思うよ。前田日明が観に来てたよ。格好良かったよ。前田前田前田ーっ!! 前田最高。

6月6日　新宿で『ユリオカ超特Q』単独ライブを観たよ。軽妙な話術でウキウキ。藤波、前田、テンルー、金本のモノマネをやってたよ。

6月6日　新潟のお友達笹谷モヤシさんにDVDを貰ったよ。大感謝。素敵アイドル、小明（あかり）さんのDVD。

6月11日　ワニブックス社の『ボビー・オロゴンだと思います。』という本に絵を描いたよ。ヨロシクね！

何を書いて良いのか解らず暴走気味。ブレーキの壊れた自転車です。御指導御鞭撻願います。紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。抽選で1名様にステッカー・プレゼント。

ザ・検証 REBORN

今回の『ザ・検証』は、せきしろさんの出番。律儀にも前回の予告通りハリトーノフの強さをロシア（※といってもパブ。しかもランジェリー系）まで渡って検証してきてくれたぞ。そりゃ強いはずだわ。行くぞーッ！　3、2、1、ハラショー、ハラショー!!

【今月の検証　せき詩郎】ハリトーノフの強さ

二人の落下傘兵が同時に飛行機から飛び降りた。

突然、一人が叫んだ。

「助けてくれ！　オレのパラシュートが開かない！」

もう一人が怒鳴り返した。

「大丈夫だ！　これは訓練なんだから」

こんなジョークがあるらしい。いつ、誰が、どこで発表したジョークかはわからない。ただひとつわかるのは、パラシュート部隊にとってパラシュートは命綱であるということだ。

パラシュートの部分を「ジャムの蓋」に置き換えてみてもらいたい。そこにはもう緊迫感と、その落差から生まれるジョークは存在しなくなる。存在するのは大変シュールなものだけだ。パラシュート部隊にとってのパラシュートの重要性がこのジョークから伝わってくる訳がわかるであろう。

パラシュートにのみ自らの命を預けている分だけ、パラシュート部隊は他の部隊よりも過酷かもしれない。パラシュートのトラブルが死に直結している。それはどんなに注意していても起こり得る可能性がある。恐怖が絶えず付きまとっているのだ。

だがそのような状況を耐え、生き抜いてきた者がいる。セルゲイ・ハリトーノフだ。

彼は16歳で挺部隊養成学校に入学。その日からただひたすら軍事訓練に明け暮れてきた。ロシアの厳しい自然の中、壮絶な訓練を続けてきたことだろう。時には死を覚悟したこともあったはずだ。それはやはり命綱であるパラシュート絡みのことだったのではないだろうか。

例えば、パラシュートと間違ってランドセルを背負ってしまった日もあっただろう。どちらも背負うタイプのものであるし、形も似ていなくはない。間違っても仕方ない。

ハリトーノフがパラシュートを開こうとするもなかなか開かない。良く見ると背負っているのはランドセル！　ランドセルの中身が飛び散る。教科書、ノート、プリント、そろばんが宙に舞う。それらを空中に残したまま、一人猛スピードで落下するハリトーノフ。

それでも今、ハリトーノフが健在で、なおかつ『PRIDE』のリングで活躍しているということは、ランドセルを背負ったまま、危機的状況を持ち前の冷静さと不敵な笑みで回避したことに他ならない。

パラシュートと間違えて母親を背負ったこともきっとあっただろう。母親の別名「おっかさん」は「らっかさん」に似ている。間違ったハリトーノフを誰も責められない。

あるいは、それはほんの戯れだったのかもしれない。ハリトーノフが母親を背負う。だが母親のあまりの軽さにハリトーノフは3歩あゆめなかった……。結果、ハリトーノフはヘリまで歩くことはできず、パラシュートを開こうとして

「なんでパラシュートが開かないんだよ！……って、かあさん！」

と目を丸くして驚くこともあったが、大事故に繋がることはなかった。

こんなエピソードもあった。パラシュートと間違えて背負った赤ん坊。その赤ん坊はハリトーノフにしがみつき離れない。やがて赤ん坊は重くなり（50貫、約190kg）、ハリトーノフは動けなくなってしまう。

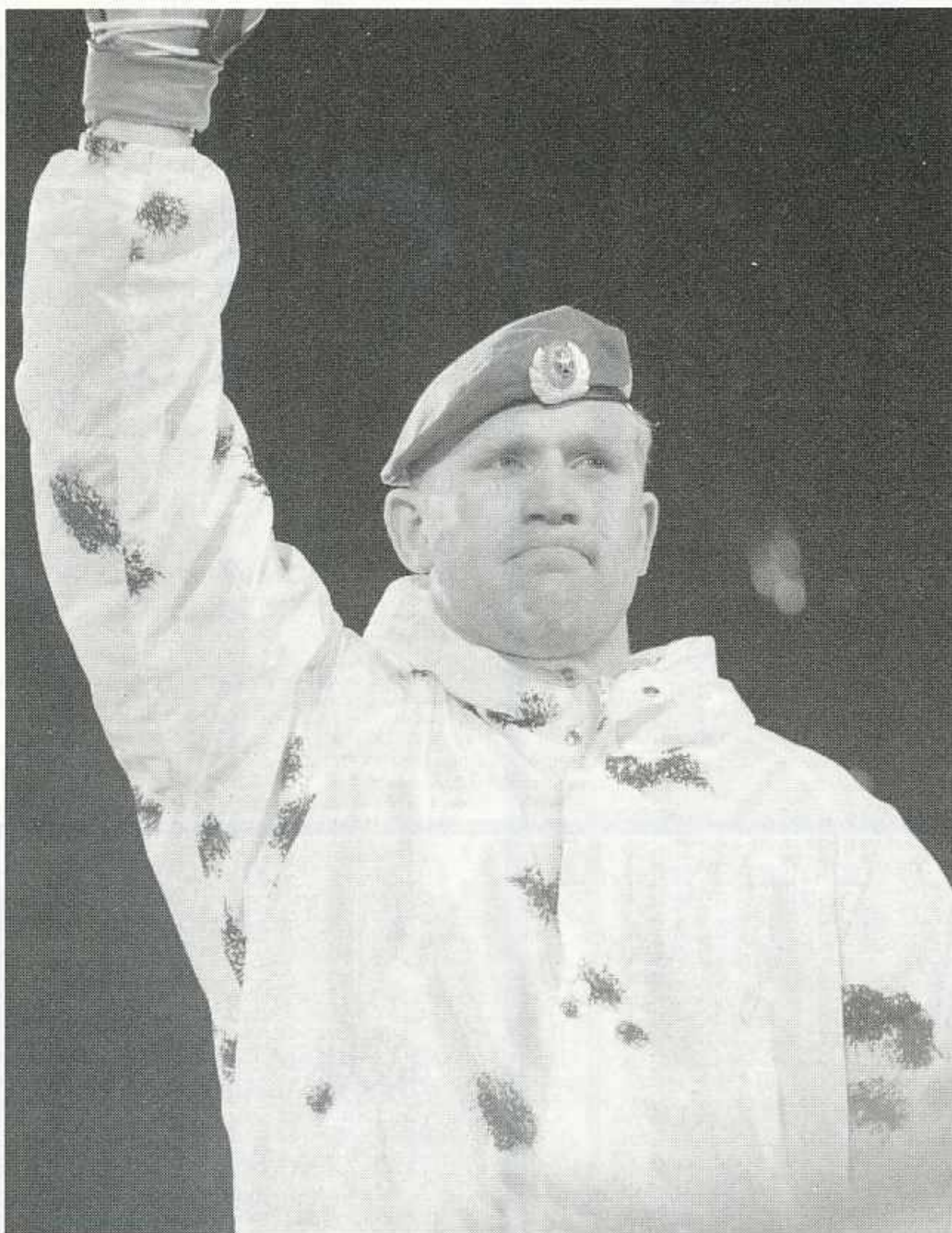
ハリトーノフが間違って背負ったのは「子泣き爺」だったのだ。赤ん坊を背負ったまま飛び降りて大惨事に……！　などということにならずに済んだのだから、ある意味「子泣き爺」に感謝すべきなのかもしれない。

沢田研二の「TOKIO」の衣装を間違って着てしまったこともあっただろう。パラシュートをきちんと背負ったけれど、何らかのトラブルから開かず、傘を使って落下してきたこともあったかもしれない。風呂敷を利用して忍法ムササビで下りてきたこともあっただろうし、タンポポの綿毛に掴まってゆっくりと下りてきたこともあったのではないだろうか。

パラシュートが開かない、しかも代用品もない！　そんな絶体絶命の時すらあったはずだ。しかし、クジラさんの背中から出た潮の上にうまく着地して事なきを得たことも一度や二度ではないはずだ。

このように、ハリトーノフがくぐりぬけてきた修羅場は他の選手たちを圧倒する。それによって培われてきた精神力は並大抵ではない。それだけではない。「クジラさんの背中から出た潮の上にうまく着地」というエピソードからもわかるように、ハリトーノフには運もある。

あらゆるものが備わっている。あらゆるものが味方している。ハリトーノフに死角はない。ペドロ・ヒーゾ戦を難なくこなし、ヘビー級トップ3に食い込むことは間違いない。

6月26日。上空からパラシュートでリングインしてくるハリトーノフを我々はただ見あげていれば良い。我に返り、リングを見た時にはすでにペドロ・ヒーゾは倒れ、コーナーに駆け登ったハリトーノフがベルトを巻くポーズをしていることだろう。

今回、せきしろさんの取材で新たな事実が次々と明らかになったハリトーノフ。今号では表紙&裏表紙にも登場と大活躍。『徹子の部屋』や、いいとも出演もそう遠くはないだろう。

ネタバレ情報密売団F・B・Iプレゼンツ

ネタバレ通信 Vol.24

名古屋＆神戸大会が中止になった真相とは？

何時男　お見事というかお粗末というか、WWEは見事に日本ツアーの6月30日、名古屋大会と神戸大会を中止にしましたね。「すげえ！　前の方のいい席が取れた」って喜んでいた人がたくさんいたのに。

叙似位　逆に言えば、一番前の席は楽勝で取れたということですよ（笑）。日本の団体なら、そう簡単には中止にはできませんけどね。

派乱暴　噂によると中止になった大会はキャパシティの約2割しか売れてなかったらしいですよ……。

叙似位　2割！　やっぱり小さな島国で、同日開催で大会をやろうというコンセプトにも無理があったじゃないですか。じつは2大会の中止が正式発表になる3～4日も前に、www.comには大会の中止が載っていたんです。

派乱暴　でも、日本では誰もそのことを聞いていなかったらしいですよ。5月下旬にWWEから日本側に「名古屋と神戸を中止した場合の損益を計算してくれ」と連絡があって、損益を計算して数字を提出したら、その翌日にはwwe.comから情報が削除されていたんですって（笑）。

何時男　仕事が速いなぁ！（笑）。

派乱暴　でもその時点では、日本のどこにも中止のリリースが送られてきてなくて、wwe.comを見てビックリしたんですよ。日本の受け皿になってる会社に「中止になったんですか?」と聞いたら、「なんで?」って逆に聞かれて（笑）。

叙似位　ありえねえ！（笑）。

派乱暴　ただ、何の理由もなく「中止です」とは簡単にファンには言えないわけですよ。「中止になってどうするの?」って感じですよね。

何時男　日米の感覚の違いでしょうね、その辺は。

派乱暴　日本側は、もともとは名古屋を飛ばして、神戸はやるつもりだったらしいんです。

叙似位　WWEスーパースターは23日に「神戸・名古屋が中止になった」ってことをエージェントから聞かされていたみたいですね。あと、今回は中止になった正式な理由がすごかったですよね。リリースの文面はツッコミどころ満載で。「日本ツアーがスーパーショーになったため、選手が確保できない」って（笑）。

何時男　「チケットが売れないからスーパーショーにしたんだろ」って（笑）。こういうとき日本の団体は「諸般の理由により」って言うじゃないですか。非常にアメリカっぽいやり方ですよね。

派乱暴　とはいえ、対戦カード（左ページ参照）になりましたね。

叙似位　今年からですよね。苦肉の策で「スーパーショー」って奥の手を使うようになったのは。

何時男　要するに、『RAW』や『SMACKDOWN!』単体じゃお客さんが入らなくなったと。

派乱暴　でも、これが去年、一昨年だったとしても同日開催は、無理がありますよ。

何時男　地方までWWEが浸透するのに、まだまだ時間がかかりますよね。

叙似位　WWEそのものが地方にまだ浸透してないんですよね。フジテレビでやってた『スマックダウン！』も関東ネットだったし。ケーブルにしてもBSにしても訴求力はまだまだなかったということですね。

photo／George Napolitano

写真は『WM21』翌朝の曙。カリフォルニアの抜けるような青空の下、WWE参戦の夢を果たして、じつに穏やかな表情だ。曙のこんな顔が見てみたい！

派乱暴　なんだかんだ言っても、さいたまアリーナなら平日でも人が入るんですよ。2月の大会では金曜日もお客さんは入ったじゃないですか。だから、土・日は地方を回ればよかったんですよ。そのへんが、リサーチ不足というか。当然、キョードー東京が助言しているはずなんですけどね。言ってもWWEは聞かないんでしょうね。

叙似位　WWEは大丈夫だと思っているんでしょうね。強気な姿勢なのに、いざとなったら引くのも早いっていう。WWEは、しばらく日本に来ないんじゃないかな?という声もありますね。

派乱暴　来年1月に来日する予定があるらしいですよ。

叙似位　じゃ、そのツアー名は「ROAD TO SUMMERSLAMリベンジツアー」にしましょう（笑）。なぜ、こうなったかを考えないといけないですね。今年2月のTVショーでファンの欲求がある程度は満たされてしまったから、「それ以上を観たい」となってしまったんでしょうね。次はビンスが来るとか、PPVイベントをやるとかしないと。もう「ハウスショーはお呼びじゃない」というレベルまでいってしまった。禁断の果実をかじってしまったという感じですよ。

派乱暴　半年に1度は必ず来るのが定着したから、ファンも安心してしまうんでしょうね。「まあ、今回は行かなくてもいいか」と。そういえば、フジテレビの後追い企画ばっかりやってる某民放放送局がWWEの地上波放映を検討しているという噂は聞きましたか?

叙似位　●●●ですか?　ますますダ

超ド級の対決を見ろ！ 今月の新作DVDを1名様にプレゼント！

昨年最も大化けしたプロレスラーはJBLことジョン・ブラッドショー・レイフィールドだろう。超巨漢ながら単なるパワー殺法だけでなくヒールとしてのマナーを身につけた成金の嫌味な王者である（株式投資のプロでもある）。9ヶ月に渡って長期政権（WWE最長）を築いてきたその王者の絶頂を記録するのが今回のDVDだ。ビッグ・ショーという、これまたプロレス業界で最も巨大な男と有刺鉄線金網デスマッチでWWE選手権をかけて激突したのだ。もはや怪獣大戦争の領域に達している両者血まみれの肉弾戦は見る者の心を熱くさせる。『RAW』所属のバティスタが姿を現して大混乱に！ ここから『WRESTLEMANIA 21』へと雪崩れ込んでいくハイテンションなPPVだ。ジョン・シナとカート・アングルが『WM21』での王座挑戦権をかけて激突すれば、エディ・ゲレロとレイ・ミステリオのラティーノ・タッグが王座に挑戦する。クルーザー級ではフナキvsアキオvsポール・ロンドンvsシャノン・ムーアvsチャボ・ゲレロvsスパイク・ダッドリーが一斉に王座を目指す。特典映像では『NO WAY OUT 2005』のプロモーション映像とスーパースターのインタビュー集を収録！ 6月24日（金）発売のこちらの新作DVDを1名様にプレゼントします。

提供■ユークス

『NO WAY OUT 2005』
￥3990（税込）
本編163分：DVD特典映像20分

1名様に読プレ

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

曙がWWEに戻ってくる！　4月の『WRESTLEMANIA21』でビッグ・ショーとの相撲マッチを制した元横綱が、今度はプロレスラーとしてWWEのリングでデビューするのだ。名古屋と神戸の大会を中止するというネガティブなニュースも、この強引な力技で吹っ飛ばしてしまおうというWWEの思惑は果たして功を奏すのか!?　今回もネタバレ情報と共にディープなネタをお届けします！

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも－）」の略。何時男（なんじお）はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位（じょにー）は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴（ぱらんぼ）は裏方さんとしてWWEに携わる、WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

メになりそうですね。

派乱暴　前から話はあったみたいですけど。

何時男　すでにプロレスのコンテンツがあるのにね。

叙似位　日米レスリングサミットみたいなことをやらせたいんじゃないですか？　別に今さら、●●vsJBLとか見たくないですよ。僕らからすると、まったくおもしろくなさそうだけど、それをやりたがるのがTV局のセンスですよね。

何時男　日本におけるWWEが先細っていくのか、ステップアップするのか。でもステップアップはちょっと難しそうですよね、TV局のバックアップがないと。

叙似位　あるいはPPVをやるべきでしょう。ハウスショーはもう限界ですよ。結果論ですけど、2月にTVショーはやらない方がよかったですね。「TVショー観たい人はアメリカへどうぞ」という姿勢が一番いいですよ。ホントにWWEを堪能するなら、それが一番です！

プロレスデビューする曙はリング上で何をやるのか？

何時男　来日メンバーがガラッと変わってしまったので、そのへんのことを話しましょうか。まず僕らが先月号で「曙が日本大会に出て来るだろう」と言ってたのが本当に実現してしまいました（笑）。

叙似位　WWEの担当者がこのページを読んでるんじゃないか？　と妄想したくなるような展開ですね（笑）。

何時男　何にせよ、新日本のドーム大会で「プロレスデビューか!?」と噂されていた曙がWWEでデビューすることになったのは痛快ですよ。

叙似位　初日がビッグ・ショーのセコンドについて、2日目はビッグ・ショーとタッグを組むんですよね。

派乱暴　あれ？『レッスルマニア21』でデビューしませんでしたっけ？

何時男　いや、あれは相撲マッチですから（笑）。

叙似位　対戦相手にカリート・カリビアン・クールが入ってるんですよね。おそらくカリートは初日に曙の顔面へかじったリンゴを「ブッ！」と吐き出すと思うんですよ。

何時男　リンゴまみれの曙！（笑）。絶対見たい！

叙似位　2日目は曙がビック・カムバックで大団円、と。今からすべての光景が見えるようで怖いんですけど（笑）。

何時男　いやいや、何言ってるんですか!?（怒）。曙はきっと僕らの想像をはるかに超えた凄いことをやってくれるはずですよ！

叙似位　その〝想像をはるかに超えた凄いこと〟って何ですか？

何時男　曙がバンプ取ったらリングに穴が空いて転落するとか（笑）。

派乱暴　それは見たいですね（笑）。

叙似位　その一方でMNM（エムネム）が、今回来ないのは残念ですねぇ。

何時男　でも、MNMはタッグ・チャンピオンなんですよね？　それなのに来ないのはどういうことなんですかね。メリーナのパンチラ・リングインを期待してたんだけどなぁ。

叙似位　とにかく盛り上がるといいですけどね。ただし、ドラフトがあるから、各ブランドの入れ替えがどんな形で落ち着くかで来日メンバーも入れ替わる可能性がありますよ。今回は全然情報が出てこないですね。スタッフには箝口令が出てて、選手にも直前まで言ってないらしいですよ。ECW軍団もPPV『ONE NIGHT STAND』に向けてユニットを結成して、定期的に大会をやっていくという噂もあります。

何時男　いざフタを開けたらWWEの日本ツアーじゃなくてECWの日本ツアーになってたりして（笑）。

叙似位　ボクはむしろそっちの方が見たいです（笑）。

【05年6月某日、都内某所にて収録】

WWEファンクラブはマニアも満足する特典が溢れんばかりに詰まっている

世界で唯一のWWEの公式ファンクラブであるWWEファンクラブは、日本ツアーの際にはWWEスーパースターズのイベントを開催、チケットの優先予約販売、オリジナルグッズの独占販売、ファンクラブ・オフィシャルサイトの会員限定ページへのアクセスなど、様々な特典がついてくる。入れば当然、他のWWEファンとは圧倒的な差を付けられるだけでなく、本当に満足できるサービスが受けられるのだ。日本ツアーの会場でも受付を行っているので、入会するにはまたとないチャンス！

☆**WWEファンクラブの会員特典**

1. メンバーズカードの発行
2. 会報誌「RAW MAGAZINE」日本語版の発行（年6回隔月発行）
3. WWE来日時のチケット最優先予約受付（応募が予定枚数を上回った場合は抽選となる場合がある）
4. 会員限定のWWEグッズ販売
5. スーパースターズ来日時にファンクラブ会員を対象とするイベントの開催
6. メールマガジンの配信（携帯メール不可）

入会案内・手続き・お問い合わせはWWEファンクラブまで。
http://www.wwefanclub.ne.jp/

WWE SUPER SHOW
＜対戦カード＞

▼7/1(金)
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
開場　17:00／開始 19:00

バディスタ&ジョン・シナvsJBL &トリプルH（withリック・フレアー）

ジ・アンダーテイカーvsカート・アングル

レイ・ミステリオvsエディ・ゲレロ

ケインvsエッジ

ショーン・マイケルズ&クリス・ベノワvsモハメド・ハッサン&デバリ

ビッグ・ショー（with 曙）vsカリート・カリビアン・クール（withマット・モーガン）

【インターコンチネンタル選手権】
シェルトン・ベンジャミンvsクリス・ジェリコ

タジリvsオーランド・ジョーダン

ポール・ロンドンvsチャボ・ゲレロ

他、フナキ、ステイシー、トーリー、クリスティ

▼7/2(土)
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
開場　16:00／開始 18:00

【世界ヘビー級選手権】
※ストリートファイトルール
バディスタvsトリプルH（withリック・フレアー）

【WWE選手権】
※ハンディキャップマッチ
ジョン・シナvsJBL &オーランド・ジョーダン

ジ・アンダーテイカー&ケイン&レイ・ミステリオvsエッジ&エディ・ゲレロ&カート・アングル

ショーン・マイケルズvsクリス・ジェリコ

シェルトン・ベンジャミンvsクリス・ベノワ

ビッグ・ショー&曙vsカリート・カリビアン・クール&マット・モーガン

【WWEクルーザー級選手権】
ポール・ロンドンvsチャボ・ゲレロvsフナキ

タジリvsモハメド・ハッサン（withデバリ）

他、ステイシー、トーリー、クリスティ

■入場料金
SS-20000円／S-15000円／A-10000円／B-5000円／C-2000円
キョードー東京、イープラス、チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイドにて発売中。

問：キョードー東京
03-3498-9999

チーム鈴木の明るい未来

KENZO　HIROKO

世界に羽ばたく夫婦対談新連載

構成／長谷川博一

WWE所属の鈴木健想と鈴木浩子が今号から新連載！　現在は健想の負傷で欠場中だが間もなく復帰（すでにOVWでは試合を行っている）予定だ。このコラムでは“明るい未来”を求めてアメリカで奮闘するチーム鈴木がQ&A形式で生の声をお届けします！

Q　ケンゾーさんがWWE復帰間近と聞きホッと安心しています。今回の欠場の理由を詳しく教えて下さい。

ケンゾー（以下**K**）　今回の怪我には本当にやられました（笑）。肺気胸だったんだけど2月の試合（vsブッカーT）の後に息が苦しくなって「やべっ！　まただな……」って。新日本で一度やってたら驚かなかった。それよりこのサバイバルを強いられる環境の中でツアーを休むことが心配だった。手術してすぐに「来週から復帰します！」なんて上司に頼んだもん（笑）。日本にいた頃の俺じゃ考えられない……。俺は精神的に相当メゲたけど、しかしこの人はやっぱり強かった。

ヒロコ（以下**H**）　そうかな？（笑）。でも、こうなった時点で真っ先に「このままじゃ夫婦揃って鬱になる」って感じました。逆に絶対、有意義な経験にしようと思った。私、神様がすることに無意味なことはないって信じてるから（笑）。だからきっとこれは生活を落ち着かせて少しリラックスしなさい、という教えなんだと思いこもうと。

K　まあ確かにそうだ。一年に唯一の去年のクリスマス休暇も、俺はイラクへの慰問で休みなしだったしね。で、続けざまにフロリダへの引っ越しもあって、それまた休みなしで、2カ月経ってもまだ段ボールの上で飯食ってたし。夫婦とも一杯一杯で、とにかく喧嘩ばかりしてたね。この欠場で生活を整えることができたし、精神的にも我に帰ることが出来たかもしれない。

H　タンパはレスラーが沢山住んでたお陰で、物凄く助かったよね！　ダグ・バシャムとゲイル（・キム）が部屋を決めてくれて……。

K　ヒロは誕生日にサプライズ・パーティまでしてもらったじゃん！

H　そうそう。撮影があって来られなかったトーリーは「ゴメンね！　明日行けないからプレゼントだけ先に渡すね」って（笑）。当日私がパーティーの件はトーリーから聞いてちょっと気づいてたことを話したらビリー（・キッドマン：トーリーの夫）達も「あいつは！　またやっちゃったよお！」って（笑）。爆笑だったね。

K　近くに住んでるお陰で色々情報も入るし。それに今回は坂口会長と憲二に会えたのもデカかった！

H　ホント！　欠場のお陰でゆっくり会えた。ケンちゃんは会長に砂をかけて辞めちゃってから大変だったもんね。

K　うん……。WJが潰れるときには、いち早く退団した俺は今まで信じてきた人達からも沢山嫌がらせを受けたよな。考えてみたら俺が新日を辞める際、会長に土下座して謝ったとき、会長は「いつでも戻ってこい！」って言ってくれた。そうして俺がアメリカに行きやすいようにしてくれたのは結局、会長だけだった。それがいまの俺の原動力になってるんだよ。

5月24日（現地時間）、TV番組の収録でフロリダを訪れた坂口征二＆憲二親子と再会したチーム鈴木。みんな晴れやかな笑顔！

Q　5月初旬、トンガ国籍のラグビー日本代表選手（18才）が六本木路上で女子レスラーAKINO選手を暴行するという事件が起きました。よりにもよってレスラーを酔っ払って殴るなんて無謀というか勇敢というか……（笑）。その選手は1年間の日本代表活動停止。元ラガーマン、しかも日本代表のケンゾーさんは如何なる感想を持ってますか。

K　昔の俺なら全然気にしないで笑い飛ばしたと思う。しかし、いまの俺は「辞めちまえ！」と思う。アスリートが女に手を出す？　次元が低すぎるよ、絶対！　しかも日本の代表なんだよ。「バカにするのもいい加減にしろ！」って気持ちだな!!　そういう意識の低いのが代表なんかだったりするからラグビーってもんの人気が落ちる。で、それが1年間の出場停止で済んじゃうなんて。凄いとしか言い様がない（笑）。……

これは俺が外国で働いてるから気づけたことだけどね。もっと国のことも自分達の好きなラグビーのことも大切に思うべきだよ。俺はね、こっちに来てから飲んだりしてるところで絡まれたりすることには物凄く気を遣うようになった。なるべくそうならないように努めてる。昔は喧嘩なんて気にもしなかったけど、今の自分はWWEでの仕事や夢の方が大事だからね。心で天秤にかけても、そっちの方がバリ勝ち！　それだけシビアな環境ってのもある。そんなことしたら「あんたの代わりはいくらでもいる」って言われるよ。そういう意味で日本の社会も、もうちょっと秩序やプロ意識ってものに厳しくあってもいいんじゃないかな。アメリカで外国人がアメリカ代表になって大変なことよ。愛国心が強いから。で、そいつが女を殴ったとしたら……。ありえないよ（笑）。どんな理由でも女相手はマズイ。しかも1年試合を休むだけ？　逆に俺はショックだよ。代表になりたくて頑張ってる選手が沢山いてさ、そいつら全部の代表がその程度の意識っていうのはね！　仮に若さが手伝ったとしても……ん～……。俺はラグビーが大好きだし、こうして外国人として働いてるってのもあるし、だから余計に腹が立つ!!　同時に何か外国への負け意識みたいなものも感じられてスゲー嫌な気分になったよ!!

H　……なんて止まらなくなるケンゾーでした。

Q　プンプン！（©さとう珠緒）。さて記念すべき連載の第一回です。「ボクには明るい未来が見えましぇん！」は3年前のケンゾー選手が新日リングで発したマット界の流行語。控え室での「健想、ナイスコメント！」との蝶野の感想（本誌63号参照）もナイス（笑）。ズバリ、現在のチーム鈴木にとっての「明るい未来」とは？

K　明るい未来ね。何なのかな？　今改めて考えると……。

H　多分、希望を持てる未来のことかもね。「次はこれにチャレンジしたい」とか「こうなりたい」とか、そういう希望を抱ける未来じゃないでしょうか。未来が明るく開けてるから新しく色んな希望も沸いてくる。具体的じゃないけど、だから明るいんじゃない？　選択肢が沢山あって、すぐには形にできないくらいっていう……。

K　上手く逃げたねえ～（笑）。

H　逃げてないって!!　だって例えば「健想の明るい未来とは、～で～していることです」って、それ明るい？

K　うん、確かに分からないのがいいんだよね。だから死ぬ気で頑張れる。また熱く語られたよ！（笑）。

※チーム鈴木に聞きたいこと、相談したいことがある方はドシドシと質問をお送り下さい。radical@kamipro.com「チーム鈴木への質問箱」まで。

リングスという森の中へ──

спортивная фирма
RINGS
sport's company

ロシア・エカテリンブルグでついに完成した“リングスの殿堂”リングス・スポーツ・コンプレックス。まさにリングスネットワークのリアル総本山だ。

スクープ!!
世界に先がけて
本誌独占公開!!

ハラショー、ズーエフ! ビバ、リングス・ロシア!!

リングスの殿堂遂に完成!!

試合会場、ホテル、アミューズメントが一体となった“リングス・エカテリンブルグ”の全貌を見よ!!

文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by hisa (Two Three)

まさにビビッた！　たじろいだ!!

ロシアン・トップチームの重鎮、ニコライ・ズーエフがかねてからロシア・エカテリンブルグに建設中だった〝リングスの殿堂〟がついに完成！　その名も『リングス・エカテリンブルグ・スポーツセンター』！

総面積7000平米の敷地に1000人収容の大ホール、トレーニング場、ホテル、サウナ、レストラン、アミューズメントまでが一体となった複合施設であるこのスポーツセンター。スケールが大きすぎるのと、ロシアでは冬の間は工事ができないこともあって、工期は延長につぐ延長を強いられたが、このたび、5年の歳月を経て、ついに5月28日、プレオープンの日を迎えたのだ。

本誌はこのプレオープンの模様を独占取材。外国メディアとして初めて〝リングスの殿堂〟に足を踏み入れることに成功したので、そのビビッて、たじろぐ巨大施設の内部を世界に先駆けてここに公開させていただこう。

エカテリンブルグ郊外にあるこのセンター。車に乗って到着すると、まっ先に目に飛び込んでくる「RINGS」の輝ける5文字とシンボルマークが誇らし気に輝く外観にまずは感動。リングスファン、格闘技ファンにとっての新たな聖地と呼ぶに相応しい立派な外観である。

そしてメインエントランスから中に入ると、そこは清潔感あふれる広々としたロビー。2階回廊部分にはリングスの激闘を振り返った写真がロビーを取り囲むように飾られている（ちなみに残念ながら、前田日明総帥の写真は飾られていなかった）。

そして左の扉を開けると、夢の常設会場「リングス・ホール」。最大収容人数1000人を誇り、音響、ライティングが完

これが夢の常設会場“リングス・ホール”だ!!

1000人収容を誇る「リングスホール」。その名のとおり、“リングスの聖地”として、今後、名勝負、名選手が次々とここから生まれてくるだろう。ちなみにリングは最下段のボトムロープが赤の正式なリングスのリングだ。

メインロビーを上から見た所。新築ほやほやということを差し引いても、その光り輝く立派な作りに驚かされる。

総合案内のフロントにも「RINGS」の文字が大きく書かれている。もうこれだけでリングスファンは涙ものだろう。

メインロビーの2階の回廊には「ロシアントップチーム」の文字と共に、ロシア勢の激闘写真が所狭しと飾られている。

メインロビーを逆から見たところ。入口から入って右がリングスホール、左がホテル。突き当たりのレストランとなっている。

パンと塩を食べ、ウォッカを一気するのがロシア流「こけら落とし」の祝い方。パコージン代表、ズーエフさんと共に乾杯！

地元テレビ&新聞社を招いてプレオープンの記者会見も行われた。もちろんこの記者会見場も施設に常設されているものだ。

備された、プロ興行で使うのにもってこいのこの会場。総合格闘技のプロ興行はもちろん、空手、サンボ、柔道、レスリング、ボクシング、キックボクシングなどもできるようになっている。

リングス・ホールの反対側には40人以上収容の4つ星ホテル、リングス・ホテルが併設され、遠方からの観客だけでなく、選手の宿泊所としても利用していくという。

また、この施設はプロだけでなく、一般市民の健康のことも考えており、空手やエアロビクスで使用できるトレーニングルームが実に6部屋。もちろん、シャワー、サウナ完備だ。

そしてここからは、まだ建設中ながら、アミューズメントゾーンにはレストラン、カフェ、ボウリング、プールバー、カジノ、そしてストリップバーまでもが設置されるという。こんなスポーツ施設みたことない！　これがズーエフ氏個人の所有物だというのだから驚きだ。

もうリングスファンのみならず、格闘技ファンなら足を踏み入れただけで感動すること間違いなしのこの施設。来る8月13日にはいよいよグラウンドオープンを迎え、当日は除幕式だけでなく、オープンを記念して世界各国から選手を招いての大会を開催することも決定！

その後は2ヶ月に1回のペースで総合格闘技のプロ興行を開催していくというから、まもなくここが「総合格闘技界、北の聖地」と呼ばれることは間違いないだろう。

とにかく、すべての面でスケールが大きいこの殿堂。日本で生まれたリングスは、いま誕生から15年の歳月を経て、ここロシアで大輪の花を咲かせたのだ。

ハラショー、ズーエフ！

ビバ・リングス・エカテリンブルグ！

リングス・ホテルも8月オープン!

さらにレストラン、ボーリング場、プールバー、サウナ、そしてストリップバーも建設中!!

体操、エアロビクス、空手、合気道などが行われるこういった部屋はなんと、6部屋もある。さらに練習用リングをおいて部屋まで作られる予定だ。

エアロビクスは他の施設に先駆けてすでにオープン済み。インストラクターのレイナさんはロシアでも有数の先生だとか。

なんとリングスの殿堂にはホテルも一体となっている。リングスファン、格闘技ファンなら一度は泊まってみたいホテルだ!

この他にもレストラン、サウナ、プールバー、ボーリング場、カジノ、そしてストリップバーと、アミューズメント施設を絶賛建設中。まさに男の夢がすべて詰まっている"男の殿堂"、それがリングス・エカテリンブルグなのだ。

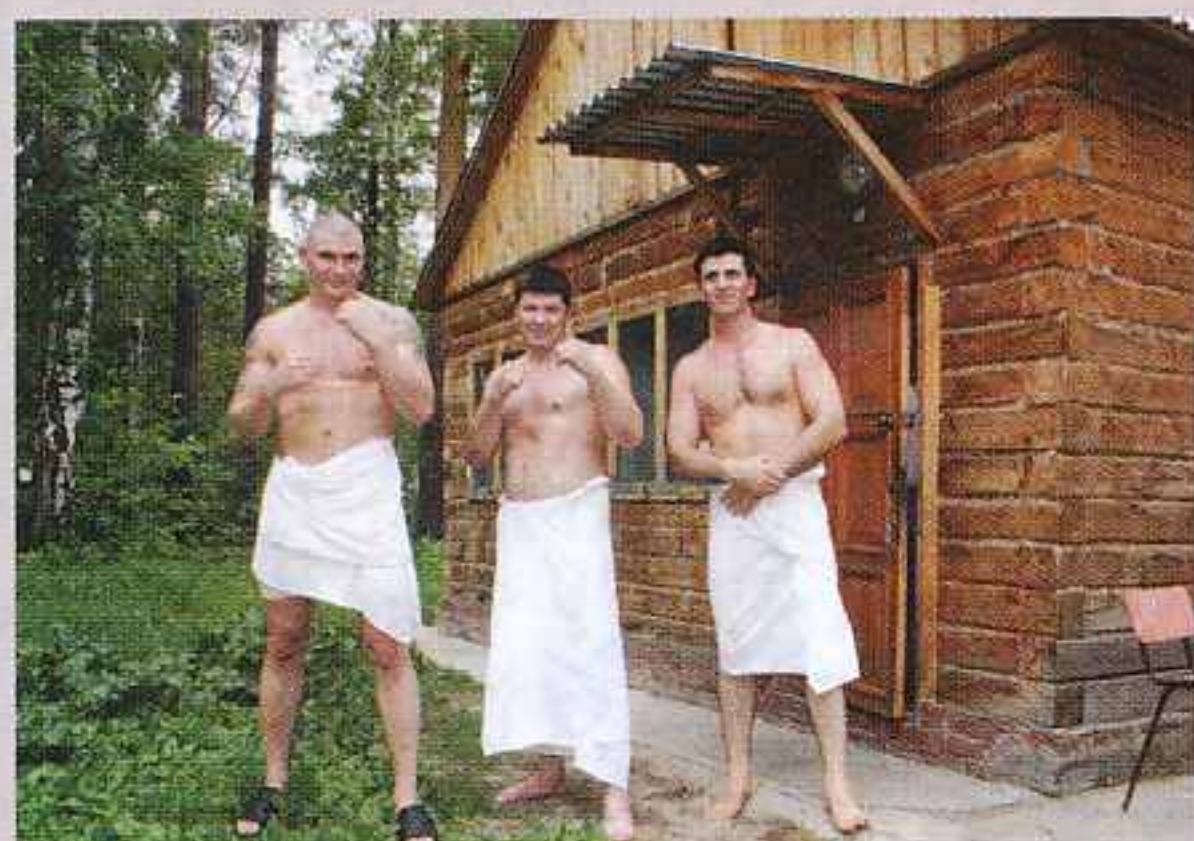
ホテルの廊下にも輝くリングスのシンボルマークが。ある意味ハードロックカフェやディズニーばりのテーマホテルだ。

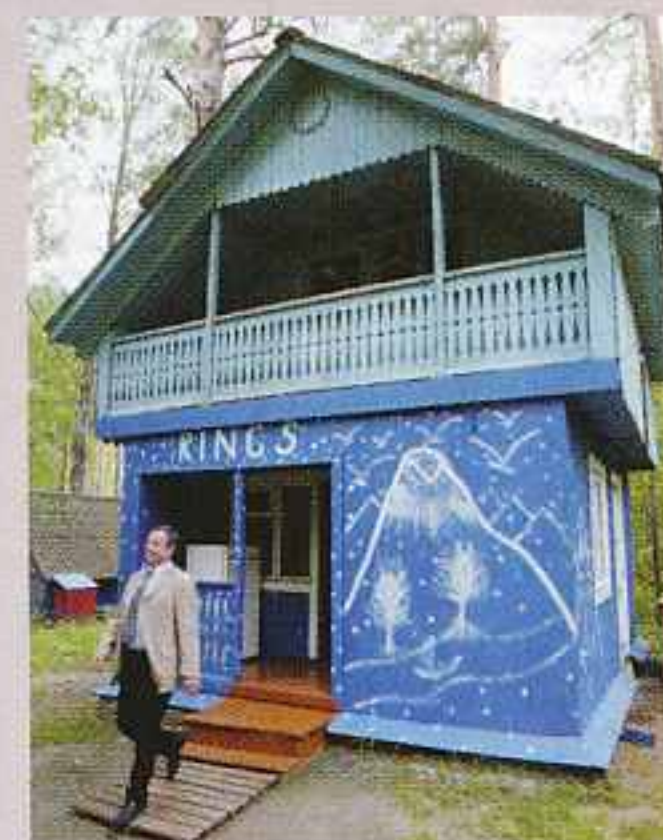
家具が入ったばかりのホテルの部屋。もし泊まったら、石けん、シャンプー等リングスホテルのアメニティグッズすべてを持ち帰りたい!

"殿堂"だけじゃない! リングスの施設は森の中にもあった!!

"殿堂"だけでなく、ズーエフさんは森の中にもリングスの施設を保有! リングスサマーキャンプ、リングス林間学校など、なんでもできるのだ!

"リングスの森"の入口にはもちろん「RINGS」の看板が。この宿泊施設を含めた広大な森もすべてズーエフさん所有というから驚く。

森の宿泊施設の部屋はこんな感じ。こんなロシアの大自然の中で夏をすごしてみたい!

ロシア式のサウナも宿泊施設の目の前にある。これがまた気持ちいい! コーチキンらはなぜかタオル一丁でファイティングポーズ。

屋外でのバーベキューなんかも、もちろんできてしまう。ちなみにこのロシア流バーベキューめちゃくちゃウマかったのだ。

こちらはVIP用に離れの一室。素朴なバンガローにペンキで「RINGS」と書かれているところがまたシビレる。

リングス・エカテリンブルグの偉大なる父に聞く

“殿堂”完成までのプロジェクトX

ニコライ・ズーエフ

リングス・エカテリンブルグ代表

「歴史と伝統のある“リングス”という名前をこの施設を通じてより発展させたいね」

格闘技界では前代未聞のプロジェクトであった、ここリングス・エカテリンブルグ・スポーツセンター。この巨大施設はいかにして計画され出来上がったのか。代表であるズーエフ先生に、リングス殿堂ができるまでと、これから壮大なプランを大いに語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

designed by nogu(Two three)

私が日本のリングスから学んだ集大成がこの複合施設なんだよ

——先ほどリングス・エカテリンブルグの施設を一通り見せてもらったんですけど、とにかく素晴らしくて驚きました！

ズーエフ　ありがとう。私自身、みんなの協力でいいものができたと思っているよ。

——ここまで大規模な施設をつくろうと思ったのはなぜですか？

ズーエフ　話はソ連時代に遡るんだけど、ソ連という国には私たちが利用できるようなスポーツ施設がたくさんあったんだよね。でもそれが、ソ連崩壊と同時に、アルメニアやウクライナのような小国が独立してしまって、国内の練習場が少なくなったんだ。だから、選手が安心して練習できる環境をつくりたかったんだよ。私自身、これまで世界各国いろんな地域を回って試合や練習をしてきたから、施設に関する知識はあるつもりだったし。選手として、それにトレーナーとしても、設備のメリットやデメリットがわかるから、そういう施設をつくることは不可能ではないと思ったんだ。それに、どうせつくるなら国際的なレベルのスポーツ複合施設にしようと思ったんだよ。

——この施設をつくるにあたって、なにかお手本となるものはあったんですか？

ズーエフ　むかし、パコージンさんと一緒に日本に渡って初めてリングスという舞台を見たときに、音響やライティングを始め、使用されていた施設の何から何まで、すべてのことが気に入ってしまったんだ。私にとってはとても斬新なシステムだったんだよ。リングスの試合には6年間出させてもらったけど、本当に参考になった。もちろん、日本の他のスポーツ施設も見て回ったけどね。リングスを見たときは、まさに「こんな施設をつくりたい！」と思ったんだ。一緒に来ていたパコージンさんも、すぐにこのアイデアに賛同してくれた。そして、建設は2000年から始まったんだ。

リングス・エカテリンブルグの社長室では多くの勲章をつけた自身の写真を見せてくれたズーエフ先生。これがズーエフ先生の本来の姿なのだ。

NIKOLAI ZOUEV

——なるほど。ということは、ズーエフさんが日本のリングスで学んだことの集大成というわけですね。

ズーエフ　ここは試合はもちろん、いろんなスポーツの練習もできるようになっているんだ。それに、宿泊施設やシャワールームもある。ここができる以前は、本当に不便だったからね。例えば練習場がここにあるとすると、ホテルはずっと奥地にあって、シャワーを浴びるところも別だったり。だから、選手が練習しやすいように設備を充実させようと、みんなでいろんなアイデアを出し合ったよ。そうして完成したのがこの施設なんだ。近代ロシアにとっては結構革命的なことなんじゃないかな。

——ただ、これだけの設備となると、やはり建設費の方も相当な金額だったんじゃないですか？

ズーエフ　もちろんそうだね。ひとりではとても実現できなかったよ。いろんな人にアドバイスをしてもらったし、いろんな企業とも交渉した。そうして、いまのスポンサーに支えてもらえることになったんだよ。彼らは勉強のために、自費で日本に足を運んでくれたこともあったしね。彼らの能力と資本があって初めて建てることができたんだ。

——実際に、この施設にはどのくらいの人を収容できるんですか？

ズーエフ　かなり広いよ。全体の面積は8000平方メートル、一度に2000人が練習できる収容力はある。それに宿泊施設には40人、併設しているフィットネスクラブも同時に40人の人が利用できるんだ。それだけじゃない。ボウリング、カジノ、プールバーなどがあるエンターテインメントセンターには400人、まだ建設中だけどレストランもあるんだよ。

——ちゃんと利用者からペイバックされるシステムになっているわけですね。

ズーエフ　そうだね。ここを運営していくためには欠かせない資金源だよ。例えば試合を開催することになった場合は、チケットからの収入を望めるし、フィットネスジムを利用する人からも利用料を集めることができる。でも、この施設ができる前、リングス・ロシアというのは13年間存続していて、その間に5つの大きな大会を行ったけれど、やはり興行を打つだけだとどうしても赤字になってしまって、毎回かなりの自腹を切っていたんだよ。

——お客さんは入っていたようですけど、赤字だったんですか!?

ズーエフ　そう。確かに満員にはなったけれど、選手のファイトマネーのほかに、会場を借りるお金がいるし、選手やスタッフが泊まるホテル代、食事代……とにかく出ていくお金が膨大だったんだ。あのときは大変だったなあ。

ノゲイラとの初対決を前にしたヒョードルに関節技対策を授け、王座奪取の力になったように、ズーエフ先生はコーチとしての手腕も抜群。今後、エカテリンブルグから第2、第3のヒョードル、ハリトーノフが育って行くことだろう。

――でも、その経験があるからこそ今回これだけの施設をつくることができたという感じですよね？

ズーエフ　そうだね。宿泊施設もレストランも、失敗から生まれたアイデアだったのかもしれないね。いまはすべての設備がリングスのものだから、心置きなく使えるよ。

――ちょっと見回しても随所にこだわりが現れているのがわかるんですが、例えばリングの高さや客席の位置、ロッカールームの配置なども、全部ズーエフさん自身のこだわりから生まれたものなんですか？

ズーエフ　いや、そこはもちろんほかの専門家にも参加してもらって話し合いながら決めた方がいいと思ってね。実際に、大勢で話しているうちに新しいアイデアがどんどん生まれてきたし。かなり細かいところまで話を詰めてつくったんだけど、もしかしたらまだ改善すべきところもあるかもしれない。それは、おいおい考えるよ。

――ズーエフさんはかなりお忙しいと思いますが、スケジュール的には大丈夫だったんですか？　建設中は大会と現場監督的役割を両立させるのは難しかったんじゃないかと思って。

ズーエフ　建設中の5年間は一度も大会を開かなかったんだ。この施設を完成させるのは片手間じゃできないからね。だから、リングスの活動が止めてた分、新しいリングスの時代が来ることを誰よりも期待しているし責任も感じているよ。それに、せっかく大きな舞台をつくったんだから、これからは海外のクラブとも協力し合えればと思っている。その呼びかけのためにホームページもつくらなきゃね。こっちの情報とか提案とか、いろいろ書きたいし。逆に海外からのリクエストも知りたい。日本だって例外じゃないよ。むしろ一番協力をあおぎたい国のひとつだね。リングス・ジャパンとは13年間の付き合いだし。そういう意味でマエダサン（前田日明）をはじめとして、日本の有名なレスラーたちと一緒に大会の準備をしていければと思っている。もちろん日本でナンバーワンの大会である『PRIDE』もだね。

――その前田さんと『PRIDE』なんですが、じつはいまライバル関係にあるんですよ。そういうことも踏まえて、ズーエフさんはどちらの大会に選手を送り込みたいと思っていますか？

ズーエフ　我々ロシアン・トップチームは、いま『PRIDE』と協力しているし、自分の考えをコロコロ変えるのはあまり好きじゃないから当分はその方向で進んでいければいいかなと思っている。ただ、マエダサンから面白い提案があれば、話を聞く準備はできている。私も魅力的で本当に面白い大会を望んでいるからね。

――日本のリングスは2002年に活動を停止してしまいましたが、それでもズーエフさんがいまだにリングスという名前にこだわるのはなぜですか？

ズーエフ　たしかにリングスジャパンとの関係はなくなってしまった。でも、それ以降もロシアで行った大会は全部リングスの名前で行っているんだよ。ファンの間でも〝リングス〟といのは知名度が高いしね。だから、これまでのリングスの歴史を無視して新しい興行をスタートさせる必要はないと思ったんだよ。それに名前を変えると、いろいろお金もかかるしね（笑）。

――そういうところにも理由がありましたか（笑）。

ズーエフ　まあ、それは冗談だけど、リングスという名前には歴史や伝統がある。それをうまくいまの状況に順応させ、発展させていけばいいと思うよ。今回の例でいえば施設を新しくしたりとかね。

――日本のリングスファンもかなりうれしいと思いますよ。日本では活動を休止してしまったリングスが、ロシアでこれだけ大きくなっているんですからね。

ズーエフ　私も同感だよ。応援してくれるファンは日本をはじめとしてほかの国にもいるからね。その期待に応えるためにも、踏ん張りどきではあるよね。

――そして早速、この施設を利用したオープニング大会が決定したらしいですね？

ズーエフ　8月13日にここリングス・ホールでオープンを記念した大きな大会を開くよ。そのときは、旧リングス・ネットワークの選手を含めた豪華なメンバーで行いたいと思っているから、日本からもゼヒ見に来てほしいね。日本のファンがきてくれたら、選手たちも喜ぶし、私も喜んでおもてなしするよ。リングス・ホテルがあるから、泊まるところの心配もないしね。

93年に前田さんがこの地に来た　すべてはそこから始まったんだ

プレオープンを記念してリングス・エカテリンブルグのスタッフ、選手たちと記念撮影。多くの人々の協力により、“殿堂”は完成したのだという。ちなみに現地在住のコピィロフおじさんは、この日は出張中のため欠席。

NIKOLAI ZOUEV

――それはぜひリングス・エカテリンブルグ観戦ツアーを計画したいですね（笑）。実際に、もう具体的な大会の運びや試合数などは決まっているんですか？

ズーエフ　まずは公式的なセレモニーをしたいと思ってるんだ。そこでは、私たちに協力してくれる海外の団体や選手、トレーナーたちも招待する。それにサンボや柔道、ボクシングというように、いろんなタイプの選手を集めて紹介するんだ。そのセレモニーが終わったあとは、7～8試合ぐらい行う。そこにはハリトーノフやミーシャ、コーチキン・ユーリー、ユーリ・ベキチェフらロシアン・トップチームのメンバーの他、それからロシアの若い選手も出るし、もちろん海外からも招聘したい。私はこういうかたちの大会には、過去に何度も参加しているからね。それを参考にしてつくりたいと思っているよ。ただひとつ違うのは、試合を6時ぐらいからはじめて、そのあとは朝まで宴会をしようと思っているところかな（笑）。それは譲れないね。

――ダハハハ！　宴会までしっかり計画に入っているんですね。素晴らしい（笑）。ところで、ズーエフさんの中では今度の大会はどのようなルールにしようとお考えですか？

ズーエフ　そこは本当にまだ固まってないんだ。でも『PRIDE』のルールは参考にしたいね。できれば『PRIDE』とリングスのルールをミックスできればと思ってるけど。ある意味でそれはテストしていかないといけないね。ただ一番に考えたいのは、レスリングや空手、ボクシングというように、どんなファンにも喜んでもらえるルールにしたいということなんだ。

――先ほどズーエフさんは〝新しいリングス〟という表現をされましたが、ルールだけではなくやはり若手育成ということも気にかけているんですか？

ズーエフ　それはいつも考えてるよ。実際、若い選手の中にはプロのファイターになりたい人がたくさんいるんだ。でも、ロシアではそういうクラブがぜんぜん足りてない。それから、指導者やプロモーターとして手伝ってくれる人も少ないしね。そういう現状を打破するために私ができることは、大会の数を増やすということだと考えているんだよ。そうすれば、自然と選手も増えるし協力してくれるスタッフも増えていくと思うしね。だから私の目的のひとつは、8・13のような大会をどんどんやることなんだ。大会ごとに新しい名前が出てくるのが理想だね。そうすれば、外国のクラブも注目してくれるんじゃないかな。

――いやぁ、それが実現したら、『リングス・エカテリンブルグ』の名前はすぐに世界中に広まりますよ。

ズーエフ　それにソ連時代からここエカテリンブルグはかなりアマチュアスポーツが栄えていたという地盤があるからね。そのスポーツ選手の中でも、総合格闘技向きのいい選手というのは出てくると思うんだよ。実際にプロになりたい人もいるだろうし。私が大会を行うことによって、そういった選手たちにもアドバイスできる。あとは、エカテリングルグは立地的にもすごく恵まれているということもラッキーだね。

――それは、人が集まりやすいということですか？

ズーエフ　そういうことだね。エカテリンブルグはだいたいロシアの真ん中にあるから、モスクワからはもちろん、シベリア全土から集まれるし、アジアにも近い。そういう意味で、ヨーロッパとアジアを結ぶ重要な地域でもあると思っている。ただ、もと

もとエカテリンブルグというのはソ連時代はかなり閉鎖された都市だったんだ。軍の基地や工場がたくさんある〝秘密の都市〟だったんだよね。

——秘密の都市ですか!

ズーエフ だから海外にはほとんど知られていなかったし、外国人は絶対にこの街に入ることはできなかった。そういったこともあって国際的な大会に出るために、ここに住む選手たちはみなモスクワや他の街に行くしかなかったんだ。でも、ソ連解体後は、選手が街にとどまって地元の大会に参加するようになった。外国人選手も呼べるようになったしね。それからだんだんグローバルになってきたんだ。

——そしてこれからはズーエフさんたち自身が、エカテリンブルグから世界に発信していくわけですね。

ズーエフ そうだね。93年にマエダサンが初めてここに来て、そのときから日本との関係がだんだん深まってきた。すべてはあれからはじまったんだ。そういう意味でも今度の試合は日本のファンにぜひ見てもらいたいね。そんなふうに街がオープンになったことが国際交流につながったし、選手たちの名前も世界中で知られるようになった。本当に日本の選手やファンには感謝しているよ。

——ここリングス・スポーツセンターは、エカテリンブルグのスポーツ文化をさらに盛り上げるための役割もあるわけですね。

ズーエフ そう。ここは総合格闘技だけでなく、サンボ、柔道、柔術、空手、ボクシングというように、多くのファイターが利用できる施設にするつもりでいるよ。各国から専門コーチを呼ぶことも考えてる。

——選手だけじゃなく、コーチまで⁉

ズーエフ もちろん! そうやってスポーツを通していろんなつながりを増やしていきたいんだ。日本とロシアだってそうだろ? スポーツには国境みたいな隔たりはないんだ。そして、その文化を運んでくるのは人間だよね。そこでは政治家のように個人同士が無理やり仲良くしないといけないという決まりはない。当然だけどね。

——結局、個人の小さなつながりがあってスポーツ文化が大きくなるわけですもんね。

ズーエフ そういう意味でも、きみたちには今回の訪問を十分楽しんでほしいと思ってるよ。ロシアのエカテリンブルグという土地にリングスセンターがあることを知ってくれた。そして、ここの大自然を感じて、人々の心にふれてくれた。つまりは、何をするにしてもこういう人と人とのつながりが大事になってくるということなんじゃないかな。

——まさにその通りですね。では、まずは8月13日の成功を祈ってます。今日はありがとうございました!

【05年5月27日/ロシア・「リングス・エカテリンブルグ」社長室にて収録】

ニコライ・ズーエフ

Nikolai Zouev■1958年4月20日、ロシア・エカテリンブルグ出身。幼いころから格闘技に目覚め、サンボでは全ソ連選手権優勝の肩書きを持つ。また、師匠アレクサンドル・ヒョードロフ譲りの相手を壊しかねないロシアン・サンボの使い手としても知られ、リングスマットではハン、コピィロフと並ぶ存在だった。98年に引退。リングス・エカテリンブルグ代表としてロシア格闘技界発展につくす。

STARTING OVER RINGS!!

リングス・エカテリンブルグ 8月13日、旗揚げ戦決定!!

本誌独占スクープ!

ハリトーノフ、ミーシャが出場予定! 田村、金原、オーフレイム兄弟にもオファー!!

またまた本誌独占スクープ! 5月27日、リングス・エカテリンブルグ・スポーツコンプレックス内にあるメディアセンターにおいて、地元テレビ局、新聞社、そして本誌を招いた記者会見が行われ、今後ロシア格闘技界の殿堂と呼ばれるであろう、リングス・エカテリンブルグのオープニングイベントが、8月13日に開催されることが正式に発表された。

当日は数多くのゲストを招いた除幕式を行う他、7~8試合を予定。出場選手はロシアン・トップチームのイリューヒン・ミーシャ、セルゲイ・ハリトーノフ、コーチキン・ユーリーを始めとして、グルジア、ブルガリア、オランダ、日本、リトアニアの旧リングス・ネットワークの協力を仰ぎ、アメリカ、ブラジルからも選手を招聘する予定だという。

会見に出席したN・ズーエフ代表は〝参戦してほしい選手〟として、オーフレイム兄弟、リカルド・フィエート、イゴール・ボブチャンチン、レナート・ババル、そして日本の田村潔司、金原弘光らの名をあげ、その他にも世界中から優秀な選手を集めると宣言。ロシア格闘技界の大きな1ページが開かれるにふさわしい豪華メンバーが集結しそうだ。

はたして8・13はいったいどんな大会となるのか。そしてリングス・ジャパン総帥、前田日明は来場するのか。本誌では次号も大会についての続報をお届けする予定だ。

ロシア取材後記

オーチンハラショー！
リングス・ロシア幻想爆発座談会
―あるいは帰国後のヨタ話―

堀江　ロシア特集の最後は、取材に行った人間で編集後記的な座談会をやらせていただこうと思いますが、その前に。え〜、今日は珍しいお客さんが来ております（笑）。
橋本　ククククク。
堀江　現エンターブレイン、ちっちゃい版型の頃の『紙プロ』で毎月キャットフードの食べ比べをしていた男。松林貴、出てこ――い！（笑）。
松林　お久しぶりです（笑）。
堀江　10年ぶりの『紙プロ』登場ということで（笑）。今回はなぜか松林さんも一緒にロシアに行ったという。
松林　『紙プロ』の取材とは別に、ある特命を受けまして。リングスファンは乞うご期待という企画が動いてますんで。旧リングスファンにはね（笑）。
堀江　新リングスファンには関係ないわけですね。アラン・カラエフ自伝が出版されるとかじゃないと（笑）。しかしロシアは充実してましたよね。
橋本　取材も充実してたけど、それと同時に各地でとにかくよく食べたし、よく飲んだし（笑）。
松林　旧ソ連時代も含めてロシアは3回目なんだけど、あんなに食べ物がうまい国だとは思わなかったね。黒パンとボルシチしかないと思ってたから。
堀江　今回は行く先々で、地元の実力者の厚いもてなしを受けたわけですからね。普通の観光客とは食うものも違いますよ。
橋本　モスクワではパコージン、エカテリンブルグではズーエフ、サンクトペテルグルグではレッドデビルのワジム会長と。これ、日本でいえば全柔連の幹部と大手建設会社の社長と孫正義に連続で接待されたようなもんですよ！
松林　ズーエフに名刺もらったときに「これさえ持ってれば、エカテリンブルグではノープロブレム」って言われたからね（笑）。
堀江　パコージンさんと車で移動してるときも、スピード違反で警察に止められたのに、パコージンさんがサンボ連盟副会長のＩＤカード見せたらあっさりＯＫですからね（笑）。
橋本　「お気をつけて」だって（笑）。
堀江　そしてパコージンが一言「これがサンボだ！」（笑）。
松林　格闘技っていうつながりがなかったら、とても会える人たちじゃないよね。
橋本　で、客人のもてなし方としてはやっぱりウォッカになるわけですよ。特にエカテリンブルグが凄かったですよね。1日目は松林さんが潰れて、2日目はガンツ君もやられて（笑）。2夜連続で日本人がズーエフに肩を担がれてホテルに帰ったっていう（笑）。
松林　ズーエフに「エカテリンブルグで酔い潰れた日本人はあなたが2人目だ」って言われたんだけど、ということは1人目は……。
堀江　そりゃあ、あの人しかいないでしょうね（笑）。
橋本　名誉なことですよ（笑）。
堀江　それを言うなら、僕はまさに日本人として初めて『リングス・エカテリンブルグ・スポーツセンター』に足を踏み入れましたからね。「これだけは譲れない」ってカメラマンより先に入っちゃいましたよ（笑）。
橋本　あれはウォッカ以上に酔いしれたね。マジで建設予定図通りのものが出来上がってて。日本に帰ってみんなに写真見せたら「あの話は嘘だと思ってた」って言われたんだけど（笑）。それぐらいの夢物語が実現しているという。
松林　だたちょっと複雑な心境になったのは、「これは本来なら前田日明が作らなきゃいけないものだったよなぁ」って。アキラ兄さんが大好きな身としてはね。
橋本　実際、エカテリンブルグではリングスがメチャクチャ浸透してるわけですからね。
松林　笑ったのがスポーツセンター設

座談会出席者

松林 貴
株式会社エンターブレイン、編集者。ちっちゃい頃の『紙プロ』では、編集次長、工作員、嘘つき等の肩書きを持っていた名物編集者が、なぜかロシアに同行。現地・酒席での暴れっぷりはパコージン氏をして、「サムライ」と呼ばせるほど。

橋本宗洋
フリーライター。自称ハリトーノフ評論家として昨年に引き続き、今年もロシア取材に帯同。各地での厚いもてなしに、周りが次々と胃の不調を訴える中、ただ一人平然と平らげる鋼鉄の胃袋を持つ。なお、一日に食べる量はDEEP佐伯代表と同じとのこと。

堀江ガンツ
本誌・現場監督。リングスへの異常な愛情から今回の取材を企画。トゥーラ、エカテリングルグでは地元ＴＶのインタビューを受ける等、メディアを通じ日本のリングス伝導師ぶりを発揮するが、ひとたび酒が入ると途端に日本の恥と化す迷惑な男。

立記者会見で地元の記者に「日本人に聞きたいことがあるんですが」

堀江 「ヤマモトとナガイは、いまどうしていますか？」だって（笑）。

橋本 まさかロシアでそんな名前を聞くとはねぇ（笑）。でもそれぐらい、エカテリンブルグではリングスの歴史がずっと続いてるってことでしょ。

堀江 前田日明って人は、素晴らしい種を撒いてたんですよ。それなのに収穫はできずに、なぜかポール牧さんの遺産を受け継いでるんだからわけがわからない（笑）。

松林 ハリトーノフもよかったよねぇ。一番感激したのは、ハンとの対談のために車で2時間半かけてモスクワまでわざわざ来てくれたっていう。

橋本 ロシア人にとっては200キロくらいの距離は「近場」らしいですからね（笑）。

松林 オレはハリトーノフがチャンピオンになったら涙流すよ（笑）。

橋本 これは夏にエンターブレインから出る『PRIDEオフィシャル本』でやる予定なんだけど、ハリトーノフのインタビューがまた抜群で。

松林 ロシア取材で思ったのは、昔の『紙プロ』読者に分かりやすいようにいうと『大山倍達とは何か？』、『極真とは何か？』を作ってるときに近い感覚だったんだよね。ハリトーノフには極真魂があるよ。「死ぬ覚悟がない者はリングに上がってはいけない」って言われたときは鳥肌が立ったね。

ズーエフはロシアの力道山。リングス殿堂はリキパレスですよ！

橋本 空挺部隊の養成学校に行ってたときは「5年間、1分たりとも緊張を解いたことはなかった」とか。

松林 寝るときに天井からナイフ吊るしてた竹山晴友の世界だよね。

橋本 あと、好きな言葉を聞いたときも凄かったですよ。コピィロフ的にロシアの格言かなんかを言うのかと思ってたら「好きな言葉は3つあります。『ロシア』、『祖国』、そして『軍隊』」だって（笑）。

松林 100点満点の答え（笑）。やっぱり人殺してる男は違うよね。

堀江 いやいや、本当に殺してるかどうかは定かじゃないんですから（笑）。でも幻想って意味ではホント抜群ですよね。軍隊に入った理由が「男になりたいから」ですから（笑）。

橋本 なんか純粋培養の闘う男って感じで。

松林 そういうのも極真っぽいんだよなぁ。取材の後、パコージンやハリトーノフと食事に行ったじゃない？

橋本 ああ、アゼルバイジャン料理。

とにかくウマかったアゼルバイジャン料理。要はバーベキューなのだが、香草と一緒に食べると最高！ 日本では食べれない味だ。

我々を大歓迎してくれたズーエフさん。一人ずつスピーチをしてからの乾杯（ウォッカ一気）が際限なく続けられ、日本人は次々轟沈。

左端がレッド・デビル代表にして大金持ちのワジムさん。ちなみに真ん中はアメリカのMMAユーフォリアの代表。ネットワークも強い。

調子に乗ってリングでリングスごっこに興じる松林と橋本。恐れ多くもリングス・エカテリンブルグのファーストエスケープは橋本が喫した。

肉がメチャクチャうまくて、ガンツ君が食べすぎで胃を壊したという（笑）。

松林 あそこでさ、パコージンと俺らが食べてる間、ハリトーノフたちは席を外してるんだよね。で、食べ終わった頃にようやく合流して自分も食べるっていう。

橋本 客人とお偉方が食べてる間は入らないわけですよね。

松林 そういう、麗しい縦社会がロシアン・トップチームにはあるなと。

堀江 旧リングスの人たちはいい意味で気持ちのいい土建屋イズムがありますよね（笑）。

松林 パコージンにしてもズーエフにしても、単に偉い人っていうより〝親方〟って感じだったよね。それに対してサンクトペテルブルグのレッド・デビルはまったく逆でね。ワジムさんはいかにも都会的な新興のお金持ちっていう。ロシアの両極端が見られてよかったんじゃない？

橋本 次号で詳しく掲載しますけど、ワジムさんのお金持ちっぷりは凄かったですよね。格闘技で儲けようって気はないんじゃないですか。そういう意味ではアブダビ王子に近いノリかもしれない。

堀江 エメリヤーエンコ兄弟もすっかりなじんでましたよね。

松林 レッド・デビルで新しい友達がいっぱいできて（笑）。

橋本 ジムでもじゃれあってましたね。100キロ以上の大男がヘッドロックかけあったり、ワキ腹小突いたりして（笑）。

堀江 やってることは中学生男子ですよ（笑）。

松林 ヒョードルはいまは国産車に乗ってるらしいけど、次に何に乗るか気になるね。

橋本 弟はもうすでにアウディですからね。

松林 ヒョードルには都会に染まらないでほしいんだけどなぁ。

橋本 「木綿のハンカチーフ」（笑）。こっちは太田裕美の気分ですよ。昔気質なのがロシアン・トップチームで、オランダとも交流してグローバルなのがレッドデビルって感じですか。

松林 琴線に触れるのがロシアン・トップチームだよね。レッドデビルは圧倒される感じで。

堀江 行けば行くほど幻想が膨らむんですよね、ロシアって。まさにＩ編集長が言うところの「底が丸見えの底なし沼」。いまの日本のプロレス界は「底が丸見えの水たまり」みたいになっちゃってますけど。

橋本 モスクワ、エカテリンブルグ、サンクトペテルブルグと、どこ行ってもいいもん見せてもらったなって思いますよ。たぶん、いまのロシアって昭和30年代の日本みたいなもんで、いろんな意味で全てがチャラになったあと、「よーいドン」で実力争いをしてるわけじゃないですか。そこでノシ上がっていく人間たちのバイタリティって凄いですよね。

堀江 ズーエフなんて、地元じゃ力道山みたいな存在でしょう。リングス・スポーツセンターはリキパレスですよ（笑）。

橋本 それが今回の結論（笑）。

松林 建物にはクラブも併設されるんだけど、力道山ばりにそこで刺されないことを祈ろう（笑）。

堀江 あの人たちだったらは刺されても三ツ矢サイダーどころかウォッカ飲んでそうですけどね（笑）。

アブダビコンバット 2005

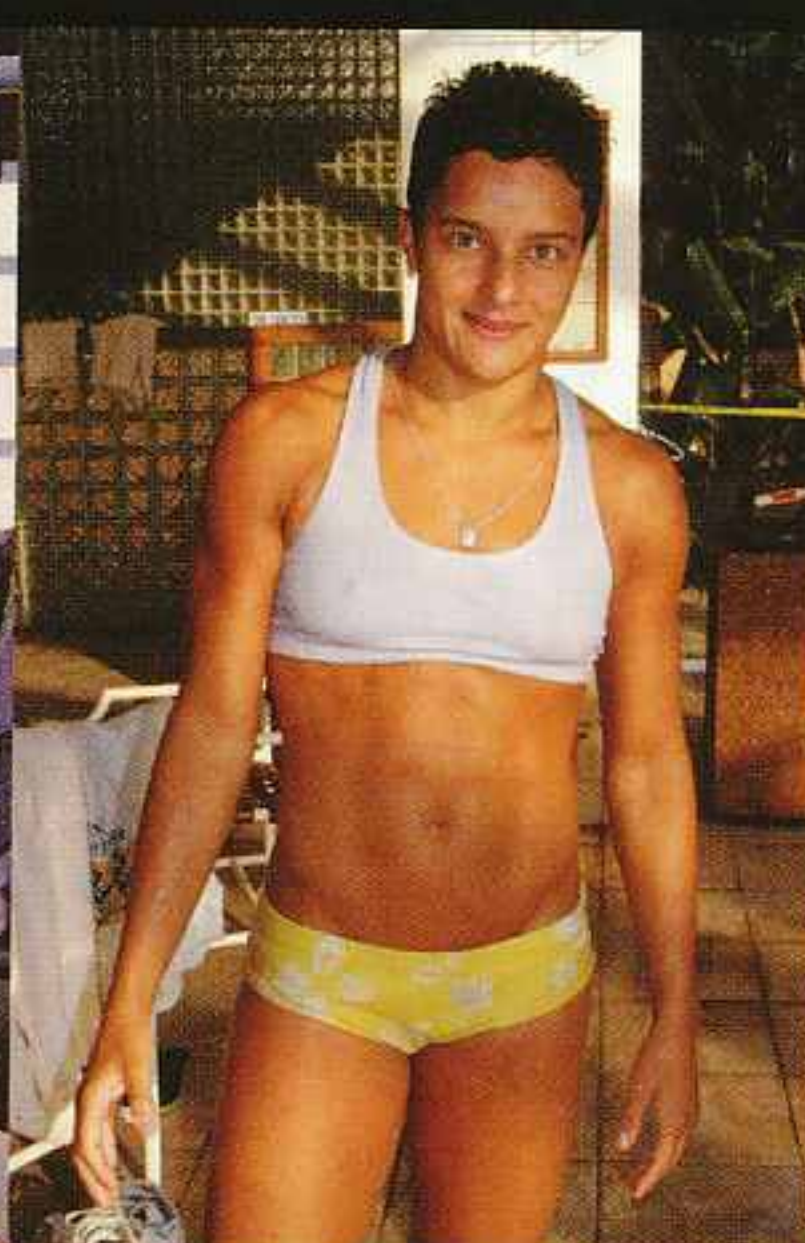
17ページブチ抜き大特集

今年もやってきた寝技世界一決定戦『アブダビコンバット』！　今回は残念ながらアブダビの王子様は姿を見せなかったものの、出場メンバーはいつもながら超大物格闘家ばかり。初の米国カルフォルニアで開催される今年のアブダビでは女子部門もスタート！　藪下、フジメグ、近藤と日本からも有名選手が大挙出場したアブダビを『紙プロ』ではカラー17ページで大特集ッ！　3、2、1、アブダビ、アブダビ!!

（※ちなみに下の水着姿のレカの●●が立ってるのは、ここだけの秘密）

独占ネタ満載!!

『紙プロ』アブダビ探検隊

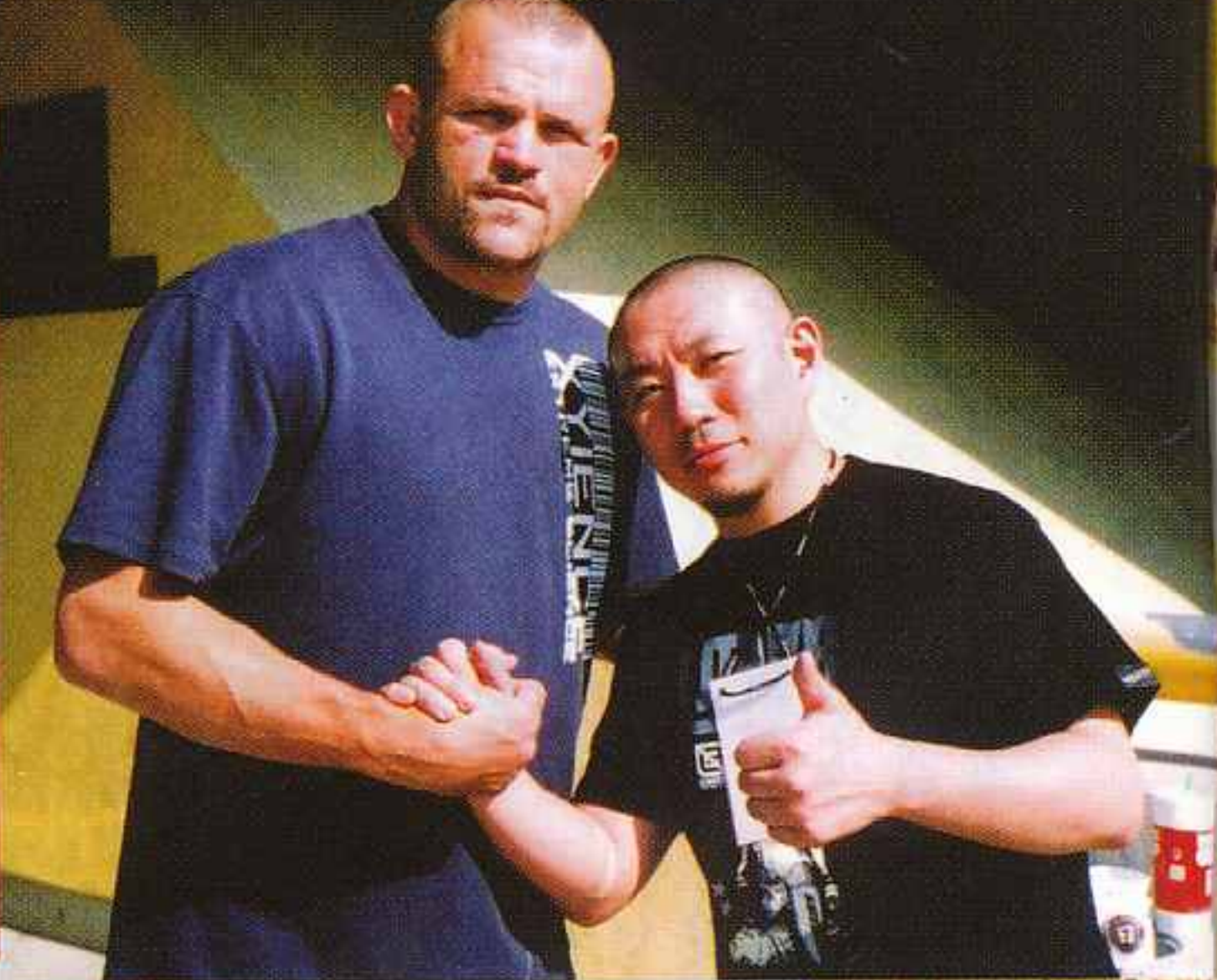
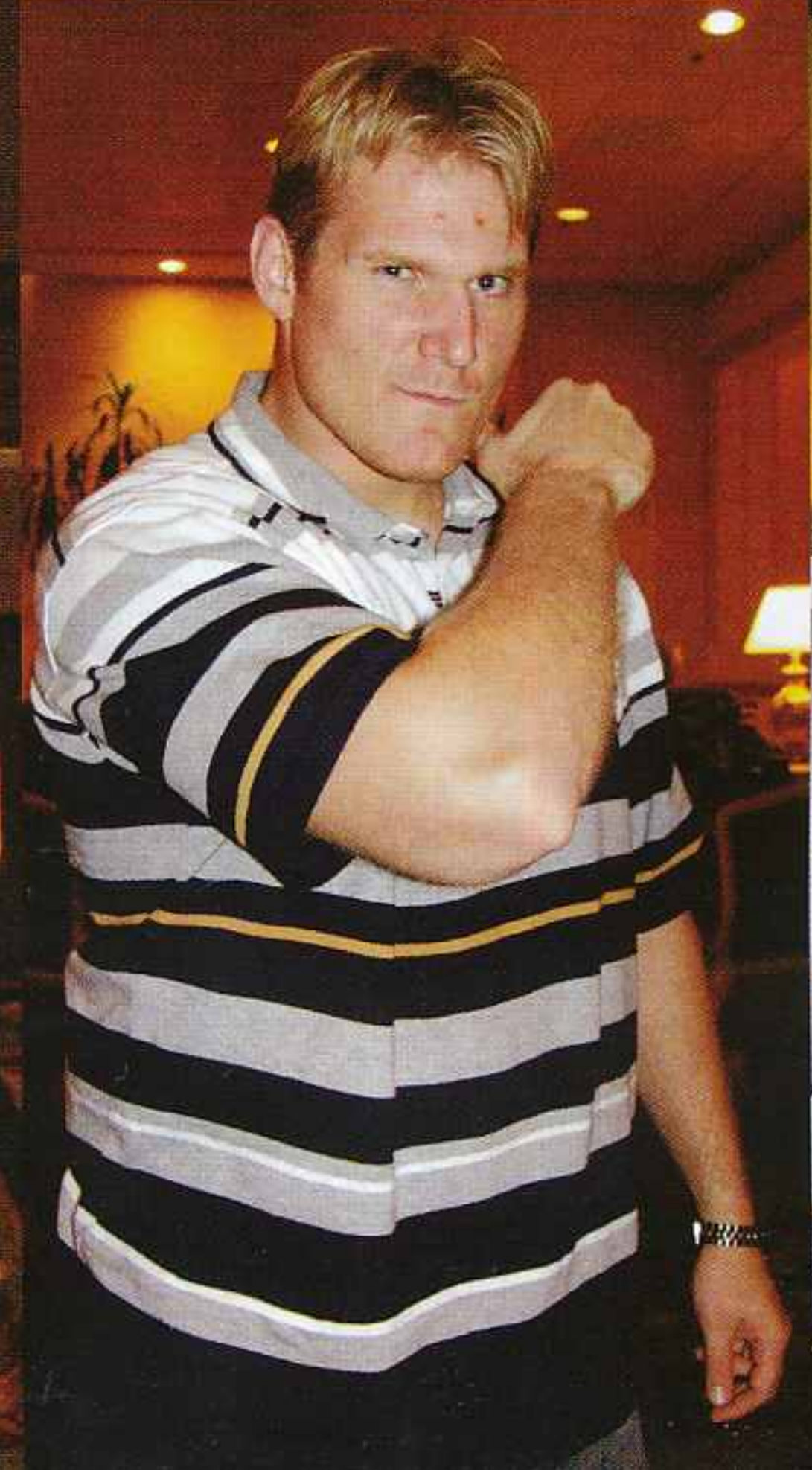
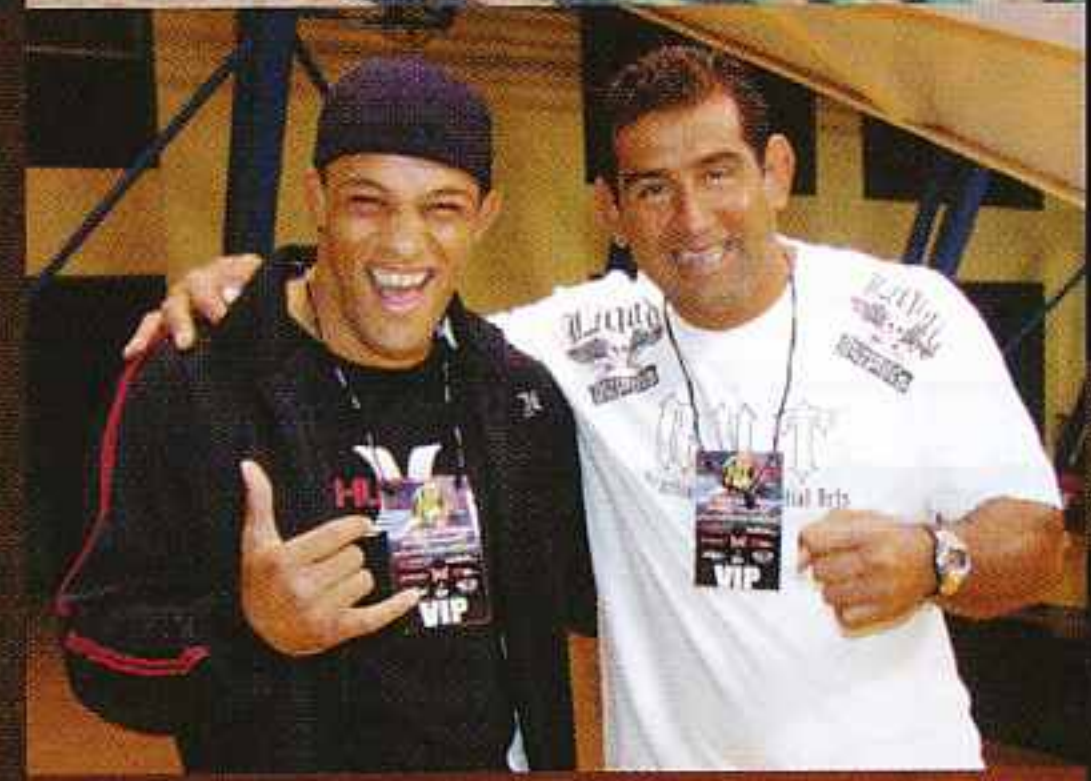
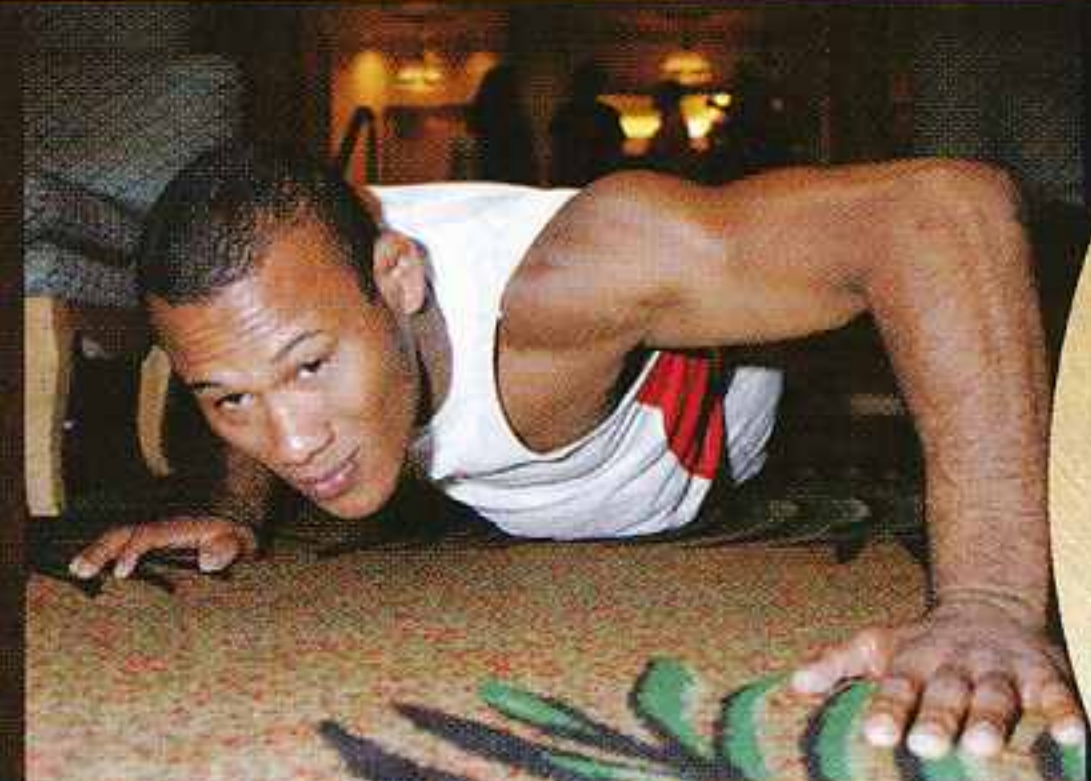
取材／橋本欽也とその仲間たち
構成／松澤チョロ
通訳／石井史彦　撮影／丸山剛史
designed by matsu (TwoThree)

2005年5月28日～29日
アメリカ・カリフォルニア州ロングビーチ
『ザ・ピラミッド』

"2005 ADCC World Submission Wrestling Championship"

Abu Dhabi Combat 2005

これを読めば
今年のADCCが丸わかり!

アブダビ紀行文

Abu Dhabi Combat 2005

はじめまして。今回ADCC観戦記を書かせて頂くことになりました、スマックガール実行委員会の橋本欽也です。僕はスマックで主に外人選手のブッキングと、その選手のケアを担当しております。

僕はもともと多くの格闘技関係者がそうであるようにプロレスファンでインディー団体やルチャが大好きでした。そして『紙プロ』が小さい頃からの読者で、昔は今のようにどこの書店にでもあるような雑誌ではなく、いつ出るかもわからず、またどこで売ってるかもわからないという、容易には手に入らない、探さないと買えないプロレス誌だったのです。でも入手に苦労する分、手にした時の感慨もひとしおでした。その思い入れたっぷりな『紙プロ』に書かせて頂けるのは非常に光栄で感慨深いです。

なんで、そんな僕が観戦記を書くことになったかというと、元々はただ見に行くだけのつもりが、仕事柄、女子格闘技担当の編集チョロさんと縁があり、「行くなら何か書いて下さい」と言われ、かなりプレッシャーだったのですが、「自分に何かできるのなら」と引き受けた次第です。これからは素人の書く駄文にしばらくお付き合い下さい。

はしもと・きんや■48年1月9日生まれ。長い無職生活を過ごし遂に今春、スマックガール実行委員会に名を連ねる。実行委員会では得意の語学力を活かし（英語、スペイン語とポルトガル語少々）主に外人選手のブッキングとケアを担当。自らが所属するパレストラ小岩の女子選手のマネージメントと育成も手がける。格闘技だけでなくアイドル（主にハロプロ系）、ルチャ・リブレ（マスク好き）、ヘヴィメタルなどにも精通する、多趣味な男。

▼5・25（水）

9時間のフライトを経てロスの空港へ到着。いつもブラジルやメキシコに行く時に、乗り換えのためにロスの空港を利用していて毎回感心するのが日本では見られないぐらいの底抜けに明るい青空！　でも今回は空港から出た途端に期待したその青空はなく薄暗い曇天。しかも小雨がパラついてやがる。そして寒い！　いきなり出鼻をくじかれた感じ。

空港からはホテルの迎えの車で行く。ホテルへ向かう車内から灰色の町並みを眺めながら、これからの旅の幸運を祈るのだった。ホテルはトーランスにある「トーランス・プラザ・ホテル」。ここは日系のホテルなのでフロントには日本語の通じるスタッフが常駐しているので何かと便利だ。トーランスにはトヨタやヨネックスなど多くの日系企業があり日本人も多く住んでいるらしい。また、たくさんの柔術、格闘技道場も大小織り交ぜてあることでも有名だ。ホリオン・グレイシーが主宰するグレイシー・アカデミーや、女ヒクソンと言われたレカ・ヴィエイラの女性専門のアカデミー、そして今回のADCCでスーパーファイトをディーン・リスターと闘うジャンジャック・マチャドのアカデミーの支部もある。

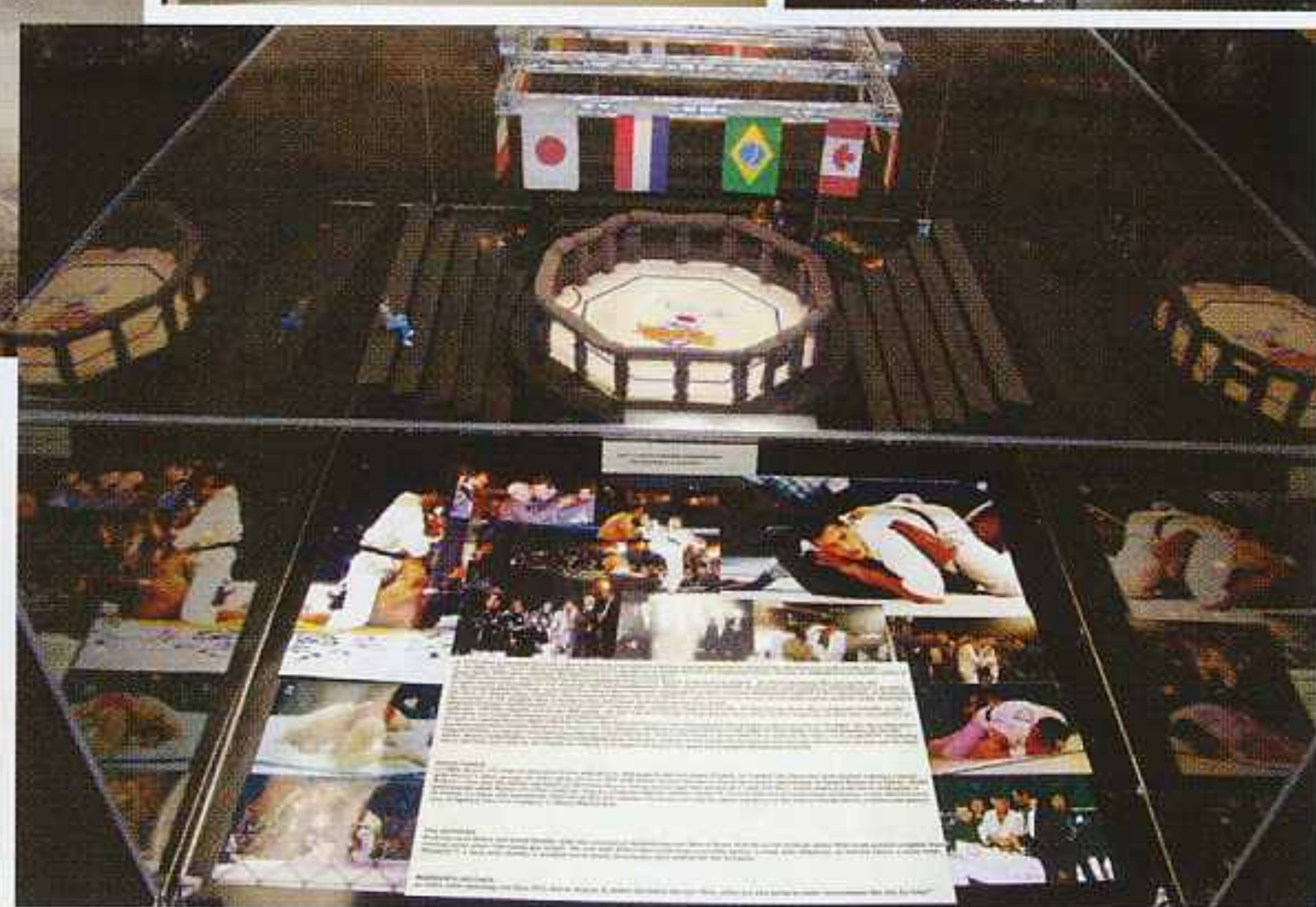
チェックインを済ませ一休みをしてから食事へ。その後、スーパーで軽く買い物をし、歩きでトボトボとホテルへ。時差ボケもあり、いきなり疲れたよ。でもこのまま昼寝などはできない！　なぜなら今回の渡米のもう一つの目的、「スターウォーズ・エピソード3を日本公開前に現地で観る」があったからだ。あらかじめ映画館の場所と時間は調べておいたのでホテルの無料送迎シャトルでレドンドビーチのモールへ。そこでは8つのシアターがあり、その中の4つでスターウォーズを上映していた。値段は8ドル。安い！　日本の半額だ。内容は期待通り。英語がところどころわからない部分もあったが十分に楽しめた。

映画鑑賞が無事に終わり少し買い物してからホテルへ戻り、早速グレイシーアカデミーへ。ここは2Fにグレイシー柔術の歴史の一部を展示している博物館「グレイシー・ミュージアム」が併設されて無料で開放されている。受付の無愛想な姉ちゃんに「見たい」と告げると「2Fだから勝手に行け」とそっけなく言われた。奥の急な階段で2Fに上がると大きなグレイシーのロゴマークが！　いきなりハイテンションになる。やはりこのロゴマークは胸にくるものがあるな。

肝心の博物館は10畳ぐらいの大きさでこじんまりとしていて壁一面にエリオの壁画が書いてある。UFCの金網のミニチュアやヘンゾの実使用グローブ、エリオの実使用柔術衣や銅像、エリオvs木村政彦を報じる新聞などそれなりに見るものはあったけど10分で飽きた。正直、こんなもんかってのが感想。

隣の部屋ではホリオンの息子、ヒロンが

グレイシー柔術総本山、グレイシーミュージアムに突撃——ッ!!

壁に飾られた、エリオvs空飛ぶ柔術家のポスターはエリオのサイン入りで25ドルで売られていた。このアカデミーにはオクタゴンも常設されている。広い!　ちなみにグレイシーアカデミーの横には“女ヒクソン”レカの道場が。残念ながら、この日はレカは留守。残念!

右上がグレイシーアカデミーの入口だ。とにかくデカい。中にはミニチュアながら精巧なオクタゴンの模型とUFC関連グッズが展示されていた。プロレスの父が力道山なら、柔術の父は、やはりエリオ。当然のようにエリオブロンズ像も。壁にはグレイシー系の選手が表紙になった格闘技雑誌の表紙がズラリ。『格通』『ゴン格』など日本の雑誌も何冊かあったが、『紙プロ』はなし。残念!

指導中。クラスの途中でわざわざ出てきて挨拶しに来た。いいヤツ。クラス終了後に中を見せてもらったが、かなり大きなマットスペースがあり、金網も奥に設置されていた。またその横には飛行機内に見立てたスペースが。これは機内でテロが起こった場合の対処の指導で使う物なのだろうか。他には個別の部屋に分かれているプライベートマットが2面、小さめなマットスペース（それでも4組はスパーできる広さ）、事務所とショップと抜群の設備と広さを誇る。さすが一時代を築いたグレイシー柔術総本山だ。

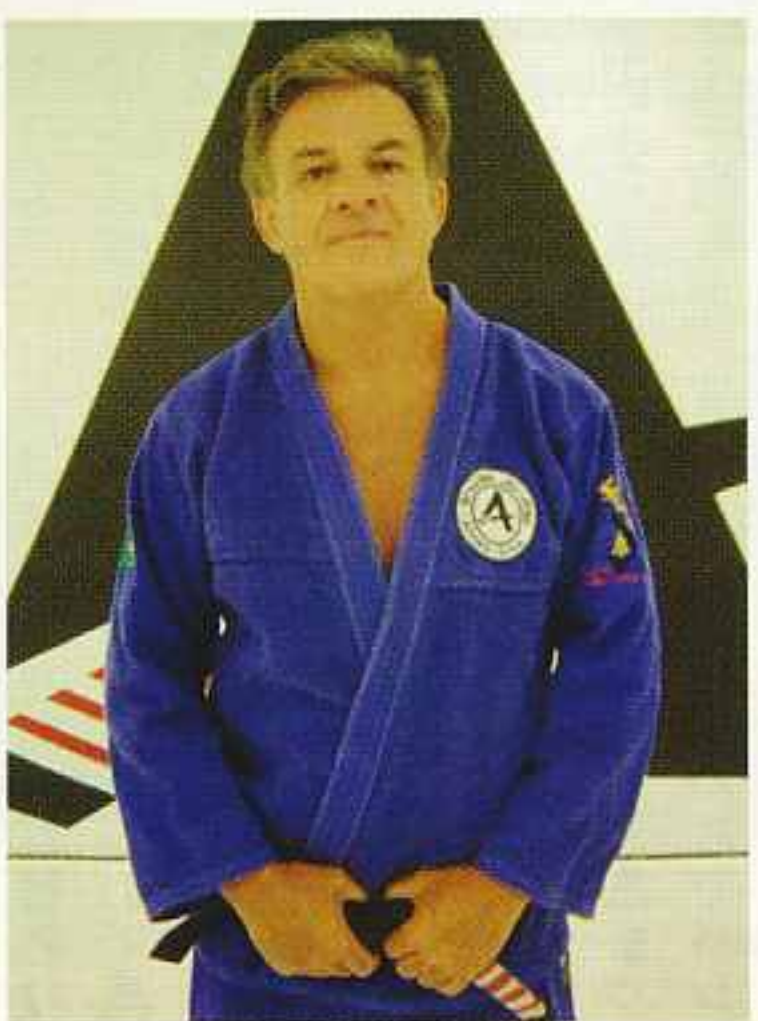
そしてすぐ裏にあるレカのアカデミーへ。レカには着いてすぐに何度も電話したけどつながらなかったから、もしやと思ったが案の定、室内は暗く休みのようだった。残念。ホテルに戻った後は、一気に睡魔が襲ってきてみんなすぐに寝てしまった。

▼5・26（木）

ロス2日目の朝は爽やかに目覚めた。天気もいいようだ。嬉しい。今日は練習と買い物の予定。ロスじゃ車がないと何もできないので友達に車で迎えに来てもらい案内してもらうことにした。その友達とは今年の正月に開催された女子プロ柔術・GI－フェミニーノに来日したフェリシア・オー（柔術黒帯）。フェリシアとは試合後に原宿、明治神宮などを案内して仲良くなったのだ。今回のロスの案内も快諾してくれ本当にありがたい。持つべきものは友達だ。

フェリシアはトヨタのハイブリッドカーでプラダのバッグを抱えてやってきました（もしかして金持ち？）。まず最初に連れてってもらったのがウエスト・ハリウッドにある10thプラネット。ここは前回のADCCであのホイラー・グレイシーを独自に編み出したラバーガードと言われる特殊なガードワークでタップさせたエディー・ブラボーの主宰する裸専門のグラップリング・アカデミーだ。フェリシアはここでグラップリングを、すぐ近くにあるジャンジャック・マチャドのアカデミーでギありの練習をしているのだ。早速、エディの代名詞ツイスターをはじめ、様々なテクニックを教わった。ああいう“俺俺主義”の人は独自の技術理論で凝り固まって、教えるのも「そりゃできねーよ！　アンタしか」みたいなことも多いけどエディの場合は違った。各ポイントを的確に指示しながら何度も実演を交えてちゃんとみんなができるまで教えてくれて非常にわかりやすかった。これでツイスターは完璧だ！（たぶん）。

こちらが、本文中にも出てくる世界限定100着「シウバモデル」の道衣だ。たしかに、これを着ればシウバ気分には浸れるだろうが、正直300ドルもする道衣なんて、金持ちの日本人ぐらいしか買わないって！

この人は、UFCで近藤有己を下したことでも有名なカフェ・ダンテスや、元夫人でもあるレカを育てた元DOJO柔術師範のアロウジオ。一部で死亡説などキナ臭い噂も流れていたが、立派な道場を開設していた

奥に見える女子選手は、ブッカーKおすすめ（？）のアネッチ。大会では残念ながら一回戦負けしてしまったアネッチだったが、話を聞くと日本の有名柔術家・寺島瑠依を下していたりと、興味深い話が聞けました

この後、スパーリングをした後、エディにインタビューをお願いする（P152参照）。エディは身振り手振りを交え面白おかしく話してくれた。やはりエディはナイスなキャラだ。

エディのアカデミーを出てからは少し遅い昼メシ。食事が終わるとトイザラスへ。WWEのフィギュアを買うのが目的だ。入って一目散にWWEコーナーに行くが目当てのミステリオ、ブッカーTは跡形も無い。欲しかったクラシック・シリーズのテリー・ファンク、アイアン・シークも無かった。大量に残っていたのはランディ・オートンとエリック・ビショフ、パイパー&スヌーカの2パックなど。いらねぇ。この後、何軒かのトイ・ショップを回ったがどこにもミステリオはなかった。せっかく来て何も買わないで帰るのもシャクなのでハリケーンのトーキング・プラッシュ（ぬいぐるみ）とトリッシュのフィギュアをお土産用に購入した。

次の目的地はロスで一番有名な格闘技ショップ「JIU-JITSU PRO GEAR」だ。入り口は倉庫のようであるが中に入るとキモノ（海外では柔術衣のことをキモノというのが一般的）、Tシャツ、ラッシュガードなどの格闘技グッズがてんこ盛り！　ここで期待していたザラス・アタックが不発に終わったフラストレーションを吹き飛ばすかのようにジャパンマネーが炸裂した！　日本未発売のアディダスのキモノを奥の棚に発見し、白・青ともに各サイズ即購入。これまた日本ではなかなか買えないアメリカの柔術大会Tシャツも大量に買い、日本ではタワーレコードでしか買えない組技専門誌「グラップリング・マガジン」のバックナンバーも購入。その他、ファイトパンツやお土産用Tシャツ、DVDなど買い漁り、気づいてみれば買い物総額がエラいことに。来月の請求額が恐いなあ。でも僕の信条は「買わないで後悔するより買って後悔しろ！」だからこれでいいのだ。ここでは僕は買わなかったが300ドルもする世界限定100着のコラル・キモノの「ヴァンダレイ・シウバモデル」があって一緒に行った人が悩みに悩んだ末に2着購入。なんでも限定モノらしく1着ずつナンバリングしてあり77番と51番が残ってたのが購入決断の決め手だったようだ。ちなみに、その人は買い物総額1000ドル超えてました。店側からしたら日本人はいいお客だね！

そこで買い物してるといきなりキモノ姿のオッサンがきて「上にオレの道場があるから来い！」とかなりの勢いで話しかけてきた。時間も無いので軽く挨拶程度で済まそうと思いつつ訪問すると結構な広さで黒帯もチラホラいる。話してみると下に来たオッサンは元DOJO柔術師範にして、世界王者カフェ・ダンテス、レカを育て、またそのレカの元ダンナさんのアロウジオ先生だったのだ！　このオッサンはいろんな黒い噂があって、死んだとか占い師になったとか詐欺で捕まったとか言われてたんだけど、こんなに立派な道場を開設してたとは。しかも元妻・レカの住むロサンゼルスで。いろいろ話を聞きたがったがグレイシーアカデミーでの練習時間が迫ってたので適当に話を切り上げて撤収。

余談になるが日本柔術の父、中井祐樹は有名で、この道場でも、わざわざ道場の壁にブラジルのDOJO柔術時代、中井先生が訪問してきた時の写真を貼っていた。アメリカ、ブラジル問わず、海外の柔術道場で日本人とわかるや必ず言われるのが「ナカイの生徒か？」の決まり文句。海外でユーキ・ナカイの名は絶大だ。

部屋に戻りベッドに寝転がると急に疲れと睡魔が襲ってきて、そのまま爆睡。

▼5・27（金）

朝7時に大会中の通訳と運転手をお願いしたカリフォルニア在住の石井さんが、アメリカのグラップリング系情報サイト「On The Mat」のライター、ガンビーと8時間のドライヴを経てトーランスへやってきた。ガンビーも今日の記者会見&公開計量を取材するらしい。部屋で一眠りして午前10時に間に合うように会場であるロングビーチのマリオット・ホテルに向かう。ここからは車で20分程度の距離だ。

会場に着くと、もう日本人選手も勢揃いしており計量も済んだようでリラックスしていた。しかしこの会場の中にいる選手の顔ぶれはホントに凄い！　どこを見ても有名選手ばかり。ここで過去に日本で会ったことのある選手とも多く再会した。GIに来日したアルバート・クレーンとバレット・ヨシダ。スマックガールに来日したエリカ・モントーヤにアマンダ・ブキャナー。そしてついこないだ会ったばかりのマルース・クーネン。マルースには約束していたベアブリックのお土産を渡すと凄く喜んでくれた。今回は彼氏のウーモア・トロンペットも自費で一緒に来ていた。セコンドは自費ってのが、ちとセコいね。どうにかしてやりゃいいのに、王子さま（※今回は会場に現れず）。

そしてこの会場で今回のカメラマンの丸山さんと合流。今後の取材&インタビューの打ち合わせ。とりあえず「女子バーネット」を連載しているチョロさんのリクエスト通りに女子選手の取材をしようということになった。まず最初に目に付いたのが150㎝そこそこの小柄で金髪の選手、サリ。会場を出たとこで声をかけインタビュー交渉すると、すぐにOKが出て早速カフェラウンジでインタビュー開始。この子がまたシャイな子で、チョロさんが用意した40の質問事項があって、それを元にインタビューするんだけど、それには「異性に対する必殺技は？」とか「異性のどんな部分に魅力を感じる？」とかアイドル雑誌みたいな質問が多々あって聞きづらいったらありゃしない。そーゆー質問するとあからさまにイヤな顔するし！　その度に微妙な空気が流れる。やりづらいことこの上なし。最初からこれじゃあ先が思いやられるよ。

なんとかインタビューは終わり屋外で写真撮影へ。やれやれと一息ついてるとそこへ世界のブッカーKこと川崎さんがいらっしゃる。「仕事してんね～。でも、何であの子にインタビューしたの？」と川崎さん。僕は「今回は女子中心で取材してくれって言われたのでパッと目に付いたあの子にしたん

です。僕、小さい子が好きだし」「あの子は、そんなに可愛くないじゃん！　それなら（近くにいたイカついブラジル人女子選手を指差し）ああいうのにインタビューしないと！　俺なんてあの子の方が興味あるなあ」と早くもダメ出し！　世界のブッカーにそんなこと言われたらインタビューせざるを得ない。すぐさま声をかけて取材交渉。これまたすぐにOKで早速インタビュー開始。

またチョロさんが用意した質問をしていると「なんて質問してんの！　くだらないなぁ〜。チョロかこんなの書いてきたのは！　こんな質問は飛ばしていいよ！」とまたもダメ出し！　でもなかなか興味深い話も聞けて川崎さんも「へぇ〜」と聞き入っていた。結果的には面白いインタビューになったと思う。

そして次はかつて〝女ヒクソン〟と呼ばれたレカ・ヴィエイラのインタビュー。レカは名前はそれなりに有名だが詳細はあまり知られていないのでインタビューを通してみんなに紹介したかった選手の1人。今でこそ女子柔術選手は珍しくはないが、レカの活躍していた90年代終盤から2000年初期には女子の選手などほとんどいなかった。ましてや柔術黒帯など数人のみ。その女子柔術創世記を支えたレカも結婚＆離婚、渡米や女子のみの柔術アカデミー開設などドラマティックな時を過ごし今や30歳に手が届こうとしている。レカは、時がそうさせたのか前に話したときよりも幾分丸くなったような印象をもった。世界でも珍しい女子のみの柔術アカデミーということもあり経済的には厳しいようだが、女子柔術の第一人者として、これからも頑張って欲しい。

レカのインタビューも終わり川崎さんとしばし雑談。実は川崎さんとは『PRIDE』初期から面識があり、昔は怖くて話すなど恐れ多い存在だった。でも今はロスで同じテーブルでコーヒーなんか飲みながら選手のあれこれを話してる。実に不思議な感じだ。

そしてルールミーティングをはさみ、まだまだインタビューは続く。次は『紙プロ』たってのリクエスト、ジョシュ・バーネットだ（P154参照）。ジョシュは日本では新日本所属だけど、海外取材ならOKなのだ（たぶん）。その後はマルース＆ウーモアと食事をしてからホテルに戻り取材再開。最後は最近チーム・スカンジナビアを離脱したユノラフ・エイネモ。彼はこちらの質問にひとつひとつ丁寧に言葉を選びながら答えてくれた。まじめな人柄が窺えた。まだ怪我が完治してないらしいが明日は頑張って欲しい。このインタビューを終えた時点で10時過ぎ。もう10時間もホテルのロビーで過ごしている。いい加減疲れるが、入れ替わり立ち代り選手が現れては消えていくので見ていて飽きない。

ここで印象的だったのがヘンゾの子供たち。昼間はプールで、夜はロビーで一日中、遊び回っていた。子供は元気だ。

そして注目のトーナメント組み合わせが壁に張り出され、選手がぞくぞくと集まってきて興味深く見入っていた。ここでバレットに会い1回戦の相手がギルバート・メレンデスだということを告げると「なんてこった！　同じ部屋だよ！　さっきも一緒におやつを分け合って食べてたのに」と言っていた。そう、今回のADCCでは選手2名でツインベッドの部屋をシェアしているのだ（さすがにヘンゾやガルシアなど大物選手は1人で1部屋が与えられていたが）。

この組み合わせ発表の場で一人ふらふらしてたのがフレジソン・アウヴェスだ。このフレジソンは見た目は貧相で上野あたりのガード下にいそうな感じだが、あの中井祐樹にも勝ったことがある柔術の古豪。なぜかいつも一人でいることが多く、記者会見でも計量でもルールミーティングでも、はたまたホテルのロビーでも一人でいる姿を多く目撃している。友達がいないのか一人が好きなのか定かではないが眉毛が繋がったルックスを含め非常に気になる存在だ。応援してるぞ、頑張れ！（応援むなしく1回戦でジョーイ・ギルバートに敗退……）

大会前のホテルのプールで走り回るヘンゾの子供たち。2人はアブダビ試合中も会場中は駆けずり回り、ある意味、どの選手よりも目立っていた

これまでADCCでは三大会連続準優勝の実績を持つバレット・ヨシダ。しかし残念ながら今回は一回戦負け。熱望していた無差別級にもエントリーされず

こちらが、気になる存在、アウヴェス。眉毛が繋がっているところがポイント。残念ながら一回戦敗退となったが、過去には、中井祐樹にも勝利している柔術の古豪なのだ。

▼5・28（土）

今回のADCCの会場まではホテルから10分程度。会場は大きなピラミッドで見た目はユニークだが中に入ると普通の体育館だった。もう試合場はできておりマットは3面。中央に大きなロゴがプリントされており、これからここで始まるであろう好勝負を思うと気分は大いに盛り上がった。スタッフのいない隙に勝手にマットに入って、惜しくも欠場した宇野薫の真似して寝転がったり受身をとったり記念写真を撮ったり好き勝手やらせて頂いた。これは一生の思い出になることだろう。

試合開始時間も近づき観客も集まりだし、徐々に熱気を帯びてくる会場内。試合は最初から注目の試合が目白押し。3面で同時進行なので見逃した試合もあるが印象に残った試合を振り返ってみたい。まずはエリカ・モントーヤvsキーラ・グレイシー。エリカはピンクのコスチュームがギャルっぽい。対するキーラはブルーに黒のスパッツでクールにキメる。年齢はほぼ同じなのにキーラの方が数段、大人っぽい印象。キーラはグレイシーの名のもとに生まれた重圧からか、いつも表情に影があるように見えるのは気のせいか。戦前の予想ではギ無しの試合が初めてのキーラに対し、エリカは数々のギ無し大会で実績がありいくぶん有利か？　と見られていた。しかしキーラは6ヶ月に渡るNYのヘンゾ・アカデミーでの特訓を経て十分にギ無しの試合に対応していた。予想を裏切りキーラの判定勝ち。特に試合序盤に見せたスピニング・チョークはタイミング、決まり具合も素晴らしかった。

密かに注目していた一人ぼっち野郎・フレジソン・アウヴェスとアルバート・クレーンの1回戦はキーラvsエリカと同時進行だったため見逃してしまった。アウヴェス、クレーン共に初戦で敗退してしまったため見逃したのが悔やまれる。

次は同部屋対決・バレット・ヨシダvsギルバート・メレンデス。バレットは過去99年からADCCに出続けており、しかも3回に渡り決勝戦まで進みながら、そこで敗退し、まだ一度も優勝していないという選手。満を持して望んだ今大会の初戦の相手がメレンデス。今大会直前に修斗に来日し、あの植松直哉をボコボコにして勝利した選手だ。いくら百戦錬磨のバレットとはいえ分が悪いかなと思っていたが予想に反して試合序盤はバレットが試合のペースを握る。テイクダウンも許さず、隙をついてバックを奪うとバスターにもめげずにポジションをキープしチョーク狙い。これは凌がれたが常に試合を支配していたのはまぎれもなくバレット。しかし試合後半にテイクダウンを奪われポイントが入るとそのポイントを挽回できず敗退。またもADCC優勝の夢は果たせずに終わった。試合後に声をかけると「明日の無差別にかけるよ！」と言っていた。

そして次は観客の注目を一身に集めてマットに上がったマルセロ・ガルシア、通称マルセリーニョの登場だ。マルセリーニョはクリス・ブレナンを相手に横綱相撲。珍しく腕十字でサクッと一本勝ち！　ブレナンも決して弱い選手じゃないのに何もさせずに完封した。マルセリーニョ、強すぎ！

次は、これまた注目の青木真也の登場だ。青木くんは柔術黒帯で跳びつき腕十字を得意とする極めの強い選手。彼なら強豪と噂されるアヴェランも破ってくれるだろう。試

知名度はないものの、日本予選で小室宏二、村田卓実といった実力者に勝利しADCC出場を決めた鈴木徹（てつ）。結果は一回戦負けながら、強豪レオ・サントス相手に判定まで持ち込んで見せた

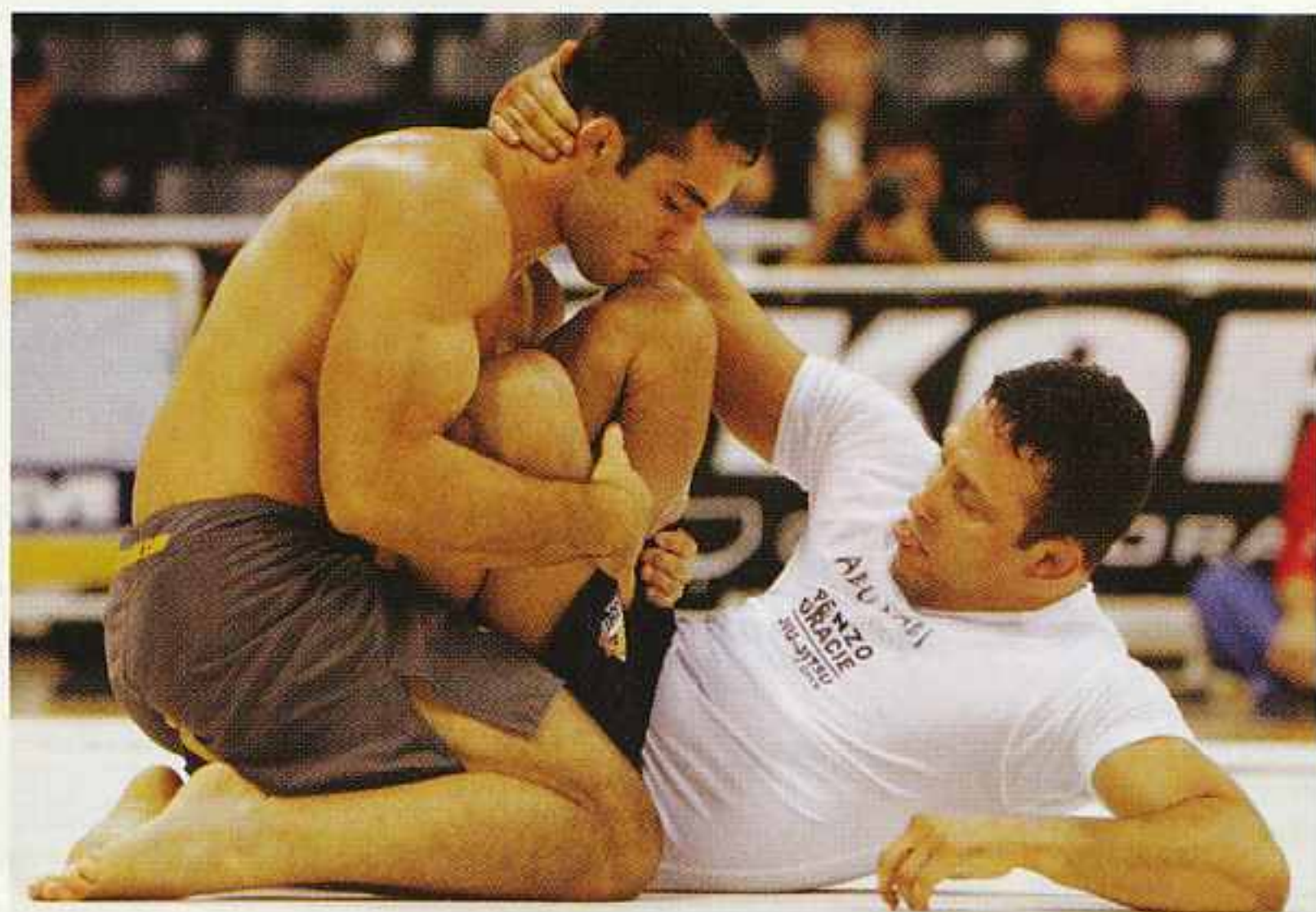
現地でも「フット・ロッカー」として一部では知れ渡っていたツイストの花井。観客の視線を集める闘いぶりを見せた花井だったが、マカコの手堅い攻めの前に一回戦敗退という結果に終わった

日本人男子で唯一勝ち名乗りを上げたのがパレストラ東京の青木。負けた相手も、ガルシア、ホジャーと一流どころばかり。日本では滅多に闘う機会のない大物との対戦は貴重な経験になったはず

エリカはコスチュームや私服を見ると完全にギャル系。今回のADCC一のビジュアル対決は、戦前の予想では、ギ無しのルールに慣れているエリカ有利の声が多かったが、試合はキーラが完勝!

合は立ち技で優位に試合を進めた青木くんの判定勝利！ 素晴らしい！ 勝って何かを叫んでいたようだが遠くにいたため聞き取れなかった。青木くんの2回戦の相手は超強豪・マルセリーニョだ！

もう一人の日本人注目選手、花井選手。大会前からADCC日本予選のことが海外サイトでも紹介されていて「フット・ロッカー」と称されて注目されていたようだ。しかし対戦相手はオールドスクール柔術の使い手・マカコだ。これは厳しい。下から攻める花井選手は相手とある程度、距離があるのが好ましい。でもマカコは上から押さえ込んで攻めるのを得意とする選手。花井選手、幾度となく背を向けながらマカコにフェイントをかけ後転しながら足関節を狙いを繰り返す。途中、肩固めに捕らえられ苦悶する場面も。この異様な試合は3面の一番端で行われ、さらには他のマットでデミアン・マイア、サウロ・ヒベイロの試合が行われていたにもかかわらず、みんなが凝視していた。残念ながら花井選手の再三の仕掛けを完封したマカコが手堅く判定勝ち。花井選手、無念の初戦敗退だ。しかし観客の注目を集めてたからある意味は勝者だろう。

それからは大きなアップセットもなくどんどん試合は進んでいった。個人的にグッときたのが-76kgに出場したヘンゾ・グレイシー。パブロ・ポポヴィッチに判定負けしたんだけど、もう完全に全盛期を過ぎてんのに果敢に若くてイキのいい選手相手に試合をしてる。「勝ち負けより自分がADCCに出ることで大会が盛り上がればいい」ってスタンスもいいね。「グレイシーは負けちゃならん！」みたいな風習もあったけど、グレイシー神話も崩壊した今、肩の力を抜いて試合を楽しんでるように見えた。ヘンゾは大会中ずっと年長者としてグレイシーファミリー＆バッハの選手をキッチリとまとめていた。また家族の前ではいいパパっぷりも見せてたヘンゾ。憧れるなあ。でも、ヘンゾの子供らはちゃんとパパの試合は見たのだろうか？ 相変わらず試合場でも走り回っていたようだが。

結局、日本人男子選手は青木くん以外みな一回戦敗退に終わった。残念！ しかし、女子はフジメグ、藪下ともに1回戦を突破したのだ！ 藪下の初戦の相手はスマックガールに来日して近藤有希選手にヒザ十字で一本勝ちしたアマンダ・ブキャナー。アマンダはギ無し大会でも数々の入賞、優勝歴がある屈指のグラップラー。そのアマンダを豪快に投げ飛ばし完璧にパスガードもしてみせた。序盤はペースをつかめず攻め込まれる場面もみられたが終わってみればポイント8－0と大差をつけて判定勝ち！ 試合前は相変わらず「ルールとかよくわかんないんですけど～」とか言ってたのにキッチリ結果を出すあたりは凄いの一言。フジメグは鮮やかな腕十字でリマ・ハダッドに一本勝ち。歓声が上がってました。女子一回戦で忘れてはならないのはマルースvs近藤有希。この2人はつい先月の4・30に近藤選手の地元・沼津で引退試合を行い、スマックガールルールで対戦したばかり。その試合ではマルースの強烈な打撃の前に2R・KO負けを喫した近藤選手。2人が場所とルールを変え三度相まみえるとはこれも因縁か。試合は満身創痍の近藤選手がマルースの足関節でタップ、またもマルースに勝利することはできなかった。

他に、ジェイク・シールズvsディエゴ・サンチェス（ジェイクの勝利）、オットー・オルソンvsジョルジ・サンピエール（ジョルジの勝利）、マリオ・デルガドvsハニ・ヤヒーラ（ハニ勝利）、デニス・ホールマンvsフランク・トリッグ（ホールマン勝利）、エドゥアルド・テレスvsアントニー・ジャウジ（テレス勝利）など一回戦から個人的に興味深い顔合わせ、対戦が連発！ 本当に来てよかった！

しかし、3面進行だから見逃した試合も数多い。デルガドvsハニも気づいたら終わってた。このデルガドはヘンゾの紫帯で珍しくメキシコで柔術のアカデミーを主宰している選手。実は2年前にメキシコにCMLL70周年記念大会「アニベルサリオ」を見に行った時に、ついでに練習しに行こうと思い、前もってメールを送っていたのだが返事がなく諦めてたんだけど、その返事が帰国当日に来たというスレ違いで行けなかったのだ。それだけにデルガドの試合は見たかったがまたスレ違いでダメだった。デルガドとはこれからも縁がないのかもしれない。

さらに試合は続く。前回大会準優勝のオルソンがサンピエールに判定負けというプチ波乱の後、2回戦屈指の注目カード、青木vsマルセリーニョだ。日本人選手団の悲壮なまの期待を背負いマットに立つ。幾分緊張からか顔がこわばって見える。マルセリーニョはいつも通りリラックスした様子。そしてマルセリーニョの黄金の必勝パターン、引き込みアームドラッグからバックに回りチョーク一閃。また何もさせずに自分のやりたいことだけをやり勝利をモノにしたマルセリーニョ。敗者・青木に「強すぎる！ 何度やっても勝てる気がしない」と言わしめたその強さとテクニック。誰がマルセリーニョを止めるのか、はたまたこの男が2連覇を達成するのか。これからの試合も楽しみだ。

そして勝ち上がった日本人女子選手2人、先に試合をしたのは藪下だ。藪下はATTのジュリアナ・ボルゲスの消極的なファイトに苦戦し、果敢に攻めに行くも逆に自滅し敗退。ジュリアナはこのルールでの勝ち方を十分に研究してきたようだ。一方のフジメグは1回戦のエリカとの柔術ニュージェネレーション対決を制したキーラ・グレイシーと対戦。フジメグは試合開始早々にキーラにガードに引き込まれガッチリとホールドされてしまった。こうなるとフジメグには苦しい展開になる。やはりというかホールドを嫌ったフジメグが腕を伸ばした瞬間、キーラのガードからの電光石火の腕十字炸裂！ キーラの一本勝ちの瞬間、場内が歓声で揺れた。磐石の試合内容で決勝進出を決めたキーラは明日行われる決勝戦を、一方のブロックをこれも危なげなく勝ちあがってきたレカ・ヴィエイラと闘うことになった。この二人の対戦も興味深い。共に柔術をバックボーンとしながらも年齢にして10歳、そしてレカは波乱に満ちた人生を送り、方やキーラはグレイシーの名のもとに勝利を義務付けられた人生を送ってきた。明日の決勝戦は一言では語り尽くせないほどのテーマを持つ重要な一戦であることに間違いない。心して見守りたい。

長かった今日の試合は終わり。明日は各階級の決勝戦、無差別級の試合とジャンジャック・マチャドvsディーン・リスターのスーパーファイトが行われる。まだまだ盛りだくさんだ。今夜は明日の試合のことを思いながら眠りにつくことにしよう。

▼5・27(日)

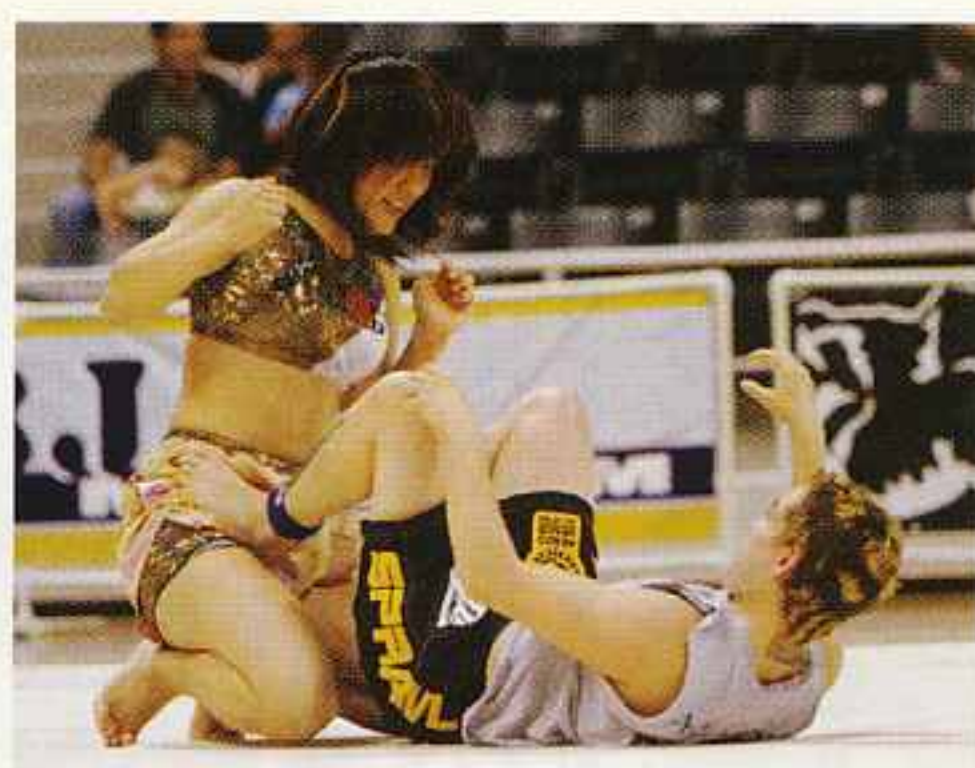
今日はホテルから直接、会場入りするため、いくぶんゆっくりとホテルを出発。会場に着くと昨日に比べセキュリティが厳しくなりパス・チェックも毎回やられる。かったりいなあ。

選手も集まり、試合開始時間が過ぎてもまったく始まる気配がない。なんでだろうと思ってガンビーに聞いてみたら「無差別級に出る選手の受付と選考をしてるからだよ」と教えてくれた。そういや階級別で1回戦負けをしたバレットは無差別に出れるのだろうか？ ちなみに今回は各チームから一人しか無差別級に出場できないらしい。これも今大会から廃止になったフレンドリー・マッチと呼ばれる八百長試合をなくすためか。

試合開始予定時刻を大きく遅れること1時間以上、やっと試合が始まった。いきなり3位決定戦から試合開始だ。この3位決定戦で大きなインパクトを残したのはフジメグとジェイク・シールズだ。フジメグはギャジー・パーマンにアンクルホールドで鮮やかな一本勝ち。フジメグは試合内容もさる

個人的にグッときたのがヘンゾの試合。いままで自分の尊敬する人は寅さんと馬場さんだったが、これからはヘンゾも入れさせてもらいます。ヘンゾはホントにいい人ですから!

近藤の総合デビュー戦、つい先日の引退試合、そしてADCCで3度目の対戦となったマルース・クーネンと近藤有希。ケガなども影響したか、3度目の正直とはならず、近藤がクーネンのヒザ十字で無念のタップ

今回ADCCに出場した日本人選手の中で唯一3位に入賞したのがフジメグこと藤井恵。優勝したキーラには一本負けを喫したが、3位決定戦では鮮やかな足関で勝利。帰国後は吉田万里子興行でプロレスにも挑戦

予想通りというか、ルールを把握しないまま闘っていた藪下だったが、豪快な投げを見せたりと“らしさ”は発揮。しかし残念ながら賞金獲得はならず。セコンドの坂井澄江は、なぜか『紙プロ』に取材拒否宣言!

マルセロ・ガルシア
最激戦区を制覇!
ベストバウトもゲッツ!!

今大会で会場を沸かせまくったのが激戦区77キロ以下級を制したマルセリーニョことマルセロ・ガルシア。前回のADCCでもホイラーからタップを奪うなど大活躍したガルシアだったが、研究されたはずの今回もスタイルを変えずに一本勝ちの山を築いていった。しかも下した相手は、クリス・ブレナン、レオ・サントス、青木ら強豪揃い。決勝でもヘンゾ、ジュカオン、シールズらトップ選手を下したポポビッチを秒殺と、その強さはもはや神の領域。無差別でリコ・ロドリゲスに勝利すると場内は大騒ぎ!

ことながら、3試合に出場し毎回コスチュームを変えるというプロ意識の高さもみせた（1回戦がピンク、2回戦が赤、3位決定戦が白）。この3位入賞は日本人で今大会のＡＤＣＣ戦績最高位となった。

ジェイク・シールズはレオ・サントスを相手に大仕事をやってのけた。ＢＪＪ界の大物選手として知られるレオ・サントスは日本でも早川光由、杉江大輔という2人の黒帯選手をまったく問題にせずともに一本勝ちで下している。柔術の帯で言えばレオ・サントスはバリバリの黒帯のトップ選手、片やジェイクはつい先日、茶帯に昇格したばかり。柔術では帯色の違う2人は対戦することはないがグラップリングの試合に柔術の帯は関係ない。この試合をするにあたりジェイクは予定していた無差別級へのエントリーをキャンセル、一説によると昨日の試合で腕を負傷していた、との情報もあった。とにかく注目のこの試合は一進一退の攻防の末、ジェイクがチョークでレオ・サントスを下した。あのレオ・サントスが一本で負ける姿を見て少なからずショックだった。はっきり言ってブラジル人の柔術世界王者がギなしとはいえアメリカ人選手に、しかも茶帯の選手に一本で負けるなんて思いもしてなかった。自分が考えてる以上にアメリカ人選手とブラジル人選手の差はないのかもしれない。

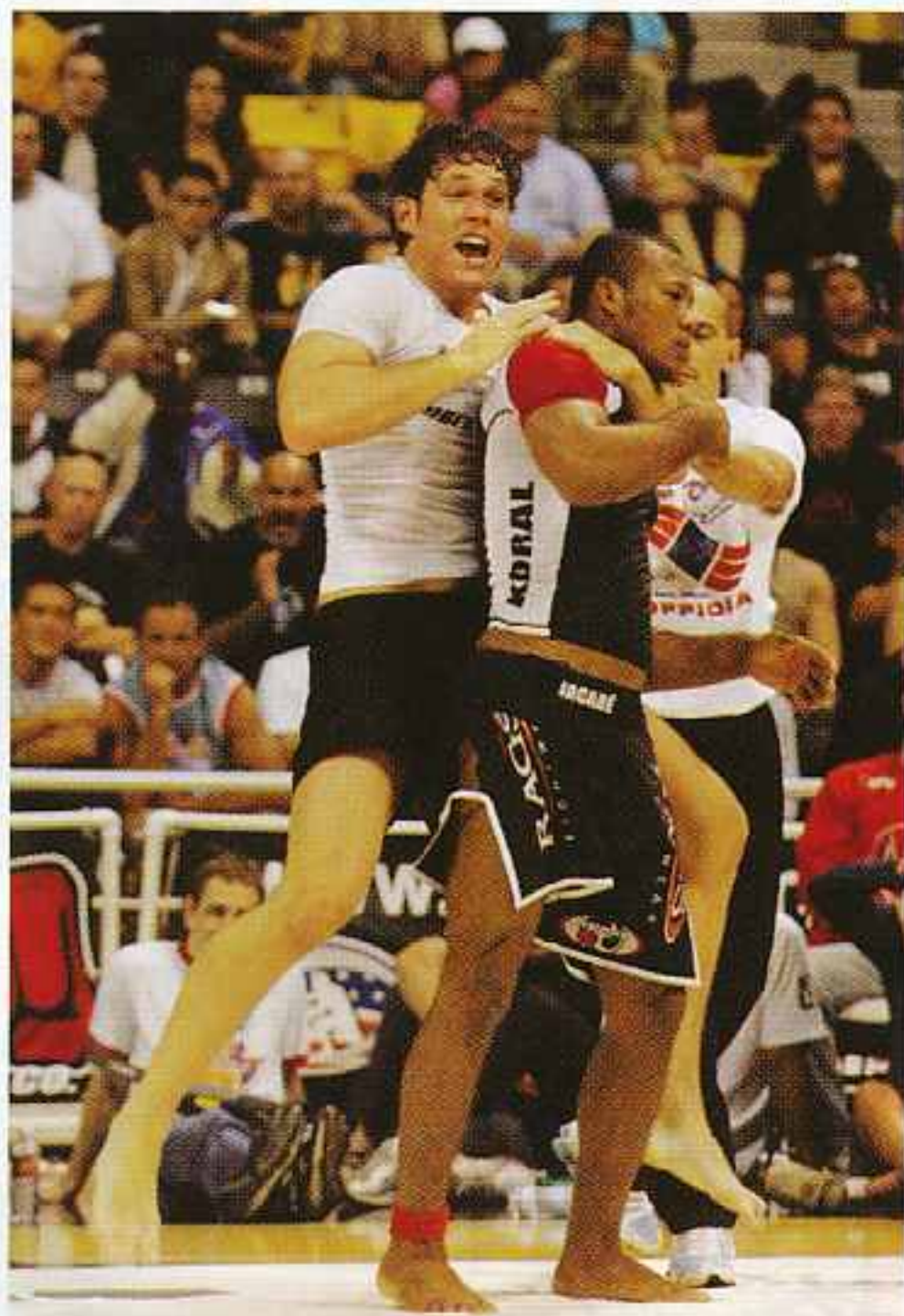
そして3位決定戦の後は各階級の決勝戦だ。まず最初はキーラvsレカの女子-60kg級だ。女子柔術・新旧対決となったこの顔合わせはキーラがテイクダウンを奪い判定勝ちした。レカもテイクダウンに成功しそうになる場面があったが、マット際だったためレフェリーに止められ無念の敗退となった。それにしても今大会のキーラは素晴らしかった。落ち着いた試合運びには貫禄さえ感じられた。またこの大会当日が20歳の誕生日で一生忘れられない誕生日になったことだろう。柔術界にとってもニューヒロインの誕生は明るいニュースといえよう。

続いて行われたのは女子60kg以上の決勝戦、ジュリアナ・ボルゲスvsステイシー・カートライト。ジュリアナはルールにそって闘っているのだが、いかんせん相手のミスを待つような試合振りなので退屈なことこの上ない。対するステイシーは金髪のショートカットが印象的なオーストラリアの選手で、ここまでの2試合を一本勝ちで勝ち上がってきた。マルースにも腕十字で勝っているので極めはかなり強いのだろう。ジュリアナはレスリング、ステイシーは柔術をバックボーンとしている。この試合もジュリアナの戦略は変わらず相手のミスをひたすら待ち、自分からは仕掛けない。一部からはブーイングも出た試合はジュリアナの作戦勝ち。ステイシーはいま一歩及ばなかった。

女子の試合が終わり男子の試合に突入。まず-65kg級はヒクソンがセコンドに付くハニ・ヤヒーラvs前回優勝の天才・レオジーニョ。この試合は延長に次ぐ延長戦で1時間ぐらい試合してた。決勝戦のみ20分に試合時間が長くなるのに加え延長戦が10分ずつ追加されていく。試合してる方もしんどいが見てる方もしんどい。ついつい他のマットに目を向けてしまうこともしばしばだ。再延長戦に入りレオジーニョがキムラで腕を極めるがヒクソンの目の前でタップなんぞできないハニは苦悶の表情を浮かべながら必死に耐える。このキムラをなんとか凌いだハニだったが、ここでレオに次々とポジションを奪われ判定負け。しかし若干20歳のハニの健闘が光った試合だった。

-76kg級決勝はマルセリーニョvsパブロ・ポポヴィッチ。マルセリーニョは予想とおりの決勝進出、対するポポヴィッチはヘンゾ、ジュカオン、ジェイク・シールズを破り堂々の決勝進出。誰がポポヴィッチの決勝進出を予想しただろうか。しかしポポヴィッチもここまでだった。神がかり的なムーヴを連発するマルセリーニョにサイドからアームロック&リストロックの連携でタップアウト。

-87kgは試合当日にアメリカ到着、そのまま試合会場に直行し3試合すべてをほぼ秒殺で決勝に上がってきたジャカレvs地味に強い男、デミアン・マイア。この2人は同門でともにブラサに所属する柔術家。ここまでは一本の山を築いてきたジャカレだったがさすがに同門選手には手が読まれるかなかなか攻め込めず。しかし攻められることもなく優位に試合を進め僅差の判定勝ち。試合後、ジャカレはお馴染みとなったワニのパフォーマンスで場内を沸かせた。

-98kgはエイネモに前大会のリヴェンジを果たしたカカレコと、ここまで3試合すべて一本勝ちの新世代グレイシー、ホジャーの一戦。カカレコとホジャーは身長差が凄い。がっぷり四つに組んだ二人は立ちの攻防に多く時間を割き、延長戦に突入。このインターバル中に戦意喪失したカカレコが棄権しホジャーの優勝が決定！　と同時にマットになだれ込むグレイシーファミリー&バッハ勢！　このシーンは階級別決勝戦のハイライトとなった。

グレイシーな上に強くてビジュアルも良しと、才色兼備のキーラ。文句の付けどころがありません。日本での試合の可能性は本人いわく「カワサキさん次第」とのこと。帰国後、女子レフェリーを気に入ったチョロさんは「この子の特写をしてきて欲しかった」と残念がってました

-99kg超級は伏兵・ナパオンvs常連のジェフ・モンソン。しかしこの試合はホジャーvsカカレコ戦の陰に隠れ大きなインパクトは残せないままモンソンの判定勝ち。これで決勝戦すべてが終わり無差別級に出場する選手のセレクションと組み合わせのため長い休憩に入る。この隙に食事と物販ブースへ。ホットドッグなどを食べ、一通り物販ブースを見終わり選手と談笑。そして観戦にいらしていたレスリングの大御所、太田章さんに試合の感想などミニ・インタビューをする（P150参照）。それでもまだ時間を持て余す。まだ無差別級の試合は始まらないの？　ゆうに一時間は過ぎてるのに。選手も自分が出れるのかそうでないのかわからずイラついている様子。バレットも落ち着きなく本部席の周りでうろうろしてる。「どうだった？」と声をかけると「まだわかんない。出れるといいんだけど……」と不安そうにしていた。

しばらくして無差別にエントリーできた選手の名前がコールされた。ホジャー、青木、ジャカレ、マルセリーニョ。ぞくぞくと呼ばれる選手の名前に残念ながらバレットの名前はなかった。「シット！　しょうがない。また2年後に頑張るよ。次回は予選から出なきゃいけないね」と悲しそうな顔で言っていた。バレット、頑張れ！

この無差別は女子もあり日本からは藪下選手がエントリー。1回戦の相手はG－SHOOTOで対戦経験のあるタラ・ラ・ロサ。試合は寝技で勝るタラが試合を支配し藪下はいいとこなく敗退（タラはこの後、勢いを維持したまま決勝まで駒を進めた）。女子無差別では波乱が続出。まず-60kgで準優勝だったレカが藪下に負けたアマンダにヒザ十字で一本負け、3位決定戦を辞退し無差別に照準を絞ってエントリーしたマルースは60kg超級準優勝のステイシーにフットロックで一本負け、決勝は階級別でも優勝したジュリアナvsタラ・ラ・ロサ。安定した寝技を誇るタラでもジュリアナの牙城は崩せなかった。終始つまらない試合ながら2階級制覇の実績は素晴らしい。

男子の無差別級はマルセリーニョの活躍に尽きるだろう。特にvsリコ・ロドリゲスでは大きなリコに果敢に攻めていき消極的なファイトをするリコに大きなブーイングがあがったほど。そのリコにもキッチリと一本勝ち！　さすがマルセリーニョ。物販ブースのスタッフもマルセリーニョの試合になると店番そっちのけで試合を見に行っていた。万引きされるぞ！　でもそれぐらいマルセリーニョの試合は見るものを惹きつける、何かマジックなような不思議な魅力がある。

日本人を代表してエントリーした青木くんはいきなりホジャーとの対戦。これはさすがに荷が重いか。飛びつきガードから攻めるもホジャーのアキレス腱固めの前にタップアウト。青木くんは今回のADCCではマルセリーニョ、ホジャーとトップ中のトップとの対戦した。その両者にタップを奪われたわけだが、この貴重な経験を糧にさらなる飛躍を期待したい。この負けは決して無駄ではないはずだ。

ここからはジャカレ、ホジャー、マルセリーニョの試合が続く。ジャカレはアヴェラン、カカレコに勝ちリコ、サンチェスに勝ったマルセリーニョと対戦。この両者は昨年、ジャカレの地元マナウスで柔術で対戦しており、その時はマルセリーニョがジャカレをスイープし勝利している。今回はそれ以来の対戦となる。試合のフィニッシュは唐突に訪れた。マルセリーニョより先に引き込んだジャカレがガードからキムラで腕をねじ上げるとマルセリーニョがまさかのタップ！　ジャカレの秒殺勝利だ。

一方のブロックはホジャーが2階級制覇に向け青木、ヴェウドゥム、シャンジを次々と一本で破り順調に決勝戦に勝ち進んでいった。これでジャカレvsホジャーの因縁の対決が決定、期待が高まる。

この決勝の前に今大会のスーパーファイト、ディーン・リスターvsジャンジャック・マチャドの一戦が行われた。試合はパスガードに成功したディーンが、そのままポジションをキープし勝利。内容的にはいまひとつだったが、緊張感のあるいい試合だったのは確か。観客も惜しみない拍手で両者を讃えた。試合後にジャンジャックは大会への礼をいい、ディーンは一部で話題の超グラマーなガールフレンドをマットに呼び込み祝福のキスを受けた。

これに続くのは無差別級3位決定戦、マルセリーニョvsシャンジ。ジャカレに負けたショックは微塵も感じさせずマルセリーニョはシャンジを攻める。シャンジは防戦一方だ。ついには黄金の必勝パターンでバックを奪取、チョークで一本勝ちした。敗れたシャンジはいいとこまでいくのだがホジャー、ジャカレ、マルセリーニョと敗れた試合はすべて一本負け。このままトップになり切れない中堅選手で終わるにはもったいないと思うので奮起を期待したい。

そしていよいよ2年に一度の寝技世界一決定戦とも寝技オリンピックとも称されるADCC最後の最後の大一番、無差別級決勝戦だ。ここまですべての試合を一本勝ちで勝ち上がってきたホジャー、ジャカレは神がかりてきなマルセリーニョの連勝記録を止めて見せた。この両者の一戦はまさにADCCのファイナルにふさわしい顔合わせだ。試合はホジャーの奇襲から始まった。いきなり組み付き大きな身体を躍動させながらギロチン・チョーク！　かなり深く入っているように見えたがこれをはずしたジャカレは立ちで勝負に出る。ここでホジャーはバックを奪うとマルセリーニョばりに背中に飛びつきバック・チョークを狙う。じわじわと腕をねじ込み絞め上げるとジャカレは立ったままタップアウト！　勝利の瞬間、またもホジャーを讃えるファミリー＆軍団がなだれ込む。2階級制覇を達成したホジャーは嬉しさの中に安堵の表情が窺い知れた。

この試合をもって2日間に渡って行われた長い試合は終わった。印象に残った試合は数知れない。ADCCの次回大会は2007年、2年後だ。今大会を見たらまた次回大会も見に行ってしまいそうだ。それぐらいの魅力がADCCには、ある。

ホジャー・グレイシー2階級制覇!!

99キロ級、無差別級の二階級制覇を果たしたホジャー。何が凄いって、99キロ級決勝戦で対戦相手のカカレコが棄権した以外はすべて一本勝ち！　スキルはもちろんハートも凄い。無理して極めに行かなくてもいいのに、とにかく極めに行くその姿勢が素晴らしい。当然、MMA参戦を望む声も高まってくるだろうが、個人的にホジャーにはグラップリングにこだわって欲しい。

大会1ヶ月前に骨折というアクシデントに見舞われたレオジーニョことレオナルド・ヴィエイラ。試合ではケガを感じさせない闘いぶりで勝ち上がり、決勝ではセコンドにヒクソンを付けたヤヒーラと激突。これを下し、二連覇を成し遂げると感極まり涙を溢れさせた

当初はリスターvsアローナで発表されていたスーパーファイトはアローナが『PRIDE GP』を優先したため、代わってジャンジャック・マチャドが登場。試合は体格差を活かしたリスターが勝利。試合後はド派手な彼女と熱いキスを交わしていた。お似合い？

今年から始まった女子部門では、日本でも馴染み深い選手が多数出場したが、結局、優勝したのは、つまらない試合内容ながらも二階級を制覇したジュリアナ・ボルゲス、そしてキーラと総合未経験の選手であった。グラップリングを突き詰めて練習している選手が強かったという当然の結果に。個人的にはキティラーでキックの試合の経験もあるというステイシーにスマックのリングに上がってもらいたいが、本人曰く「MMAをやるには、もっと練習を積まないと」とのこと。

こんな嬉しそうなヒクソン初めて!!

グレイシー最強伝説、復活!

グレイシー・サードジェネレーション、

ホジャー、キーラが寝技世界一決定戦で優勝!!

ホジャー・グレイシー ADCC2005 全対戦結果

【-99kg級】

- 1回戦 vsジャスティン・ガルシア(チョーク)
- 2回戦 vsエドゥアルド・テレス(腕十字)
- 準決勝 vsシャンジ・ヒベイロ(チョーク)
- 決勝 vsアレッシャンドリ・カカレコ(棄権)

【無差別級】

- 1回戦 vs青木真也(アキレス腱固め)
- 2回戦 vsファブリシオ・ヴェウドゥム(チョーク)
- 準決勝 vsシャンジ・ヒベイロ(チョーク)
- 決勝 vsホナウド・ジャカレ(チョーク)

キーラ・グレイシー ADCC2005 全対戦結果

【60kg以下級】

- 1回戦 vsエリカ・モントーヤ(判定)
- 準決勝 vs藤井恵(腕十字)
- 決勝 vsレカ・ヴィエイラ(ポイント8-0)

今大会で最も印象に残った選手はマルセリーニョで間違いないが、それ以外の選手で大きなインパクトを与えたのはホジャーとキーラの両グレイシーだろう。グレイシー神話の崩壊が声高に叫ばれて久しく、グレイシー姓の選手が負けることなど珍しくなくなった昨今、今大会でこの両グレイシーが果たした功績は果てしなく大きいと言ったら言い過ぎか。何せ出場選手全員が優勝候補というまさしく寝技世界一決定戦の名に相応しいADCCで、ホジャーは一試合を除き、すべて一本勝ちで階級別と無差別の2階級制覇という前人未踏の快挙を達成。その一本で葬った選手にはジャカレ、シャンジ、ヴェウドゥム、青木ら錚々たる選手が含まれている。一方のキーラはエリカ・モントーヤ、藤井恵、レカ・ヴィエイラという日米伯を代表する寝業師からキッチリ勝ちきって優勝したのだ。

今までの大会だったらグレイシーびいきのレフェリング、トーナメント組み合わせなど、あからさまにグレイシー姓を持つ者に有利な材料が多く見られたのも事実だが今回ばかりは違う。

ホジャーは一本勝ちという有無を言わせない絶対的な勝利を勝ち取り、キーラも一本勝ちこそ藤井からのみではあるが、他の試合では危ない場面は一度もなく完勝してみせた。

現在、ホジャーはイギリスで自身が主宰する「グレイシーUK」で指導の傍らにADCCに向けての練習を積んでいたのだが、大型選手である自身に見合う体格の練習相手の不足や指導と練習の両立の難しさなど不安材料は多かった。キーラにしてもギを脱いだ試合は初めてで、エリカや藤井などに比べ、ギ無しの経験は明らかに不足していた。また、キーラの柔術での試合はガードからギを掴んで攻めるテクニックを多用するスタイルなので、ギ無しの試合でうまく

ヘンゾファミリーからキーラへの祝福メッセージ

——キーラの優勝は、叔父のヘンゾさんにとっても鼻が高いんじゃないですか?

ヘンゾ　ホントに嬉しい限りだね。叔父として彼女を誇りに思うよ。今日はキーラにとってとても特別な日になったんじゃないかな。まず“ギ無し”のトーナメントは彼女にとって初めてだったし、その上、今日は彼女の誕生日だったからね

——キーラはこの大会の前にヘンゾさんの道場で練習してたということでしたけど、どういった練習内容だったんですか?

ヘンゾ　特に力を入れたのはテイクダウンで、他にもギ無しのテクニックをいろいろと教えたんだ。

——彼女の最も優れてる部分はどこですか?

ヘンゾ　常に冷静なところだね。自分の気持ちを抑えることができて、どんな相手とでも、同じリズムで自分の試合運びができるんだ。今日も試合を完全にコントロールしてたと思うよ。

——もし総合の試合をしたいと言ったらどうしますか?

ヘンゾ　たとえ総合であっても、彼女たち自身が決めた道であるならばサポートしてあげるつもりだよ。彼女たちがそういう道を選んだのなら、それが運命だということだからね。

——話は変わりますが、ヘンゾさんの娘さんやキーラのボーイフレンドは強くないといけないですよね?

ヘンゾ　まず第一にグッドファイターであること。そしてタフじゃないといけないね（笑）。

——それはヘンゾさんが腕だめしをするということですか?

ヘンゾ　もちろん!　私がレッスンしてあげるよ（笑）。

——それでは、これからのキーラに望むことはありますか?

ヘンゾ　とにかく現在やってることを継続してしていくこと。あとは人に教えたりすることで、技術とともに人間的な部分も成長して欲しいということだね。

★　★　★

——フーラちゃんは柔術はやってるの?

ヘンゾの娘・フーラ（恥ずかしそうに）少し。

——キーラみたいになりたい?

フーラ　……うん。なりたい（照）。

“キーラママ”フラビア&キーラ様の喜びのお言葉

——キーラさん、優勝おめでとうございます!

キーラ　ありがとう（ニッコリ）。

——おまけに誕生日ということで、そちらもおめでとうございます（笑）。ところでいくつになったんですか?

キーラ　今日で20歳よ。

——今回の対戦相手の中で一番強いのは誰でした?

キーラ　みんなタフで強かったわ。

——フジメグはどうでした?

キーラ　彼女ももちろん強かったわ。彼女がいろんな試合をしてるのも知ってるし、レッグロックが強いのも研究してたの。その防御を練習してたから勝てたんだと思う。

——今回が初めてのギ無しの大会ですか?

キーラ　そうなの。でもやっぱりギがあった方がいいわ。

——ギ無しの練習はヘンゾのところで練習してたんですか?

キーラ　ヘンゾのところで6ヶ月間集中して練習したの。

——今日の優勝は自分自身にとっての誕生日プレゼントになりましたね。

キーラ　そうね（笑）。

——最後に日本のファンに向けてメッセージをお願いします!

キーラ　いつも応援してくれてありがとう。日本でも試合がしたいわ。アリガトウゴザイマシタ。

★　★　★

——キーラの試合を観た感想をお願いします!

フラビア　今日はキーラの誕生日だし、優勝は彼女にとって最高のプレゼントになったと思うわ。

——大会に向け長い間、家を留守にしてたみたいですが。

フラビア　私たちはいつも一緒だったから離ればなれになって、精神的にツライこともあったけど、この日のために集中してたわけだから、仕方ないわ。

——これからのキーラに望むことはなんですか?

フラビア　いまやってることを、ただの柔術家やアスリートととしてだけではなく、人間として成長して欲しいと思ってます。

——もしキーラが総合をやりたいと言ったらどうしますか?

フラビア　これまでと同じように、もしキーラがやりたいと言うんだったら、みんなでサポートするつもりです。

最終日に顔を出したホイス・グレイシーだったが記念撮影には収まらず途中で席を立った

対応できるのか疑問視されていた。

しかしこのような様々な不安材料を吹き飛ばし、グレイシーの名の下に生まれた重責を見事に果たして優勝という結果を出したのだ。若い2人にとってグレイシーの名は重荷だったかもしれない。試合前の2人は常にナーヴァスな表情で記者や友人の問いかけにも無視するか無言で頷くだけだった。

この快挙には普段はあまり感情を顔に出さないヒクソンですら満面の笑みで2人を褒め称えた。ヒクソンのこんなに嬉しそうな姿を見たのは初めてだ。

しかし唯一、旧世代グレイシーを代表しADCCに出場したヘンゾは1回戦敗退の事実もある。ただヘンゾの場合は長く実戦から遠ざかっており、近年は自らの教え子のサポートに回っていた。そして自身のADCC参戦を「ネームバリューのある自分が出場することで大会が盛り上がるのなら」という粋な心意気での出場で致し方なしか。

ヘンゾは緒戦で敗退したものの、その闘う姿、アティテュードには感動すら覚えた。今回の出場選手の中でも年長者の部類に入る年齢のヘンゾが、若くてイキのいい選手に必死に食らいついていく姿には大きな感銘を受けた。筆者も柔術を嗜んでいるが、年齢と多忙を理由に試合からは遠ざかっている。でも今大会のヘンゾを見て2年振りに試合に出てみたくなったのだった。（橋本欽也）

次号予告

“ノルウェーの大巨人”エイネモがアブダビで衝撃告白!

「紙プロ」アブダビ探検隊はノルウェーの大巨人、ユノラフ・エイネモのコンタクトに成功! ケガの影響もあってか今年のADCCでは3位決定戦で敗れ入賞は逃してしまったエイネモ。そんな彼に話を聞くと、チーム・スカンジナビアからの離脱、そして離婚の事実も告白。今後の動向も含めエイネモのビッグな発言に注目!

レスリングマスター

太田章が見たADCC

Abu Dhabi Combat 2005

——アブダビを観戦してみていかがでしたか？

太田　非常に興味深く試合を見たんですけど、観客はもちろん、選手にもルールが理解しづらいし、手探りな状態で闘ってましたね。最初の方はポイントを無視した闘いで、途中からポイントが重なっていくということに気づいたのが、だいぶ後でしたから。これが昔からのアブダビの試合形式なんでしょうけど、見てる方にとってはインフォメーションもパンフレットもないし、誰と誰がやってるかも知らないという状況ですからね。もうちょっと見てる側にわかりやすくしないと、これ以上お客さんが増えたりステータスが上がるっていうことはないでしょうね。

——ホント不親切だらけですよ（笑）。

太田　だから、そういう部分で大会運営側は、もっとしっかりしなきゃいけないと思いますよ。我々もアマレスというマイナーなスポーツやってますけど、ここよりは大会運営がうまいかなって気がしますね（笑）。どっかに電光掲示板でもあれば、誰と誰がやってるってわかるんですから。しかも3面もマットがあって、その途中経過もない。極まりそうなときアナウンスすることによって、観客の注目が集まるわけですよね。オリンピックのレスリングも同時進行してるんですけど、誰かが教えてあげないとそっちを向かないんですよ。アブダビもそうすれば、もっとお客さんに好感を持たれるんじゃないですかね。でも、やってる選手たちは楽しそうだし、面白い試合の連続だったと思いますよ。試合内容に関しては、かなり高く評価したいですね。

——技術的にレスリングと比べてどうでしたか？

太田　崩し方や片足タックル、手取り、がぶり方、頭の落とし方は完全にレスリングですね。違うのはテイクダウンがポイントになるわけじゃなく、そのあとの闘い方がポイントになると。バックを取ったあとのサイドポジションとかガードポジションとか。倒れたあとのフォローの仕方もまったく違いますね。レスリングの選手もいましたけど、ここで勝つには、サブミッションと柔術をしっかりやった人間がレスリングをやる必要があるんじゃないかなって感じましたね。

——日本人選手にとって厳しい試合が多かったですが、足りないモノってなんだと思います？

太田　選手ごとに違いますから一概には言えませんね。いい試合した選手もいたし、藤井選手は3位に入ってますし。でも、もっとレスリングを学べばテイクダウンできるんじゃないかっていう選手は何人かいましたよ。柔術のテクニックに関しては、日本の選手は他と遜色がないと思うんですけど、ここでやってることは柔術じゃなくサブミッション・レスリングですから。あと、ここで勝つにはルールに慣れる必要があるし、日本でこのルールの大会をもっとやらないとダメでしょうね。

——日本にはまだサブミッション・レスリングの大会って多くないですからね。

太田　このルールだと、最初は消極的でも、後半のポイント制で結果的に勝つ選手がいっぱい出てきますよね。むしろ細かいポイントを無視した方がいいのかなって気もするし、難しいところだと思います。

——もし太田さんがこのルールで闘うなら、どのような闘い方をされますか？

太田　ん～……、レスリングではフォールを狙ってたんで、押さえ込む闘い方になるでしょうね。まあ、僕がやるなら早く終わりたいです（笑）。

——かつては、あの谷津選手もこの大会に出場されましたよね。

太田　当時は山梨学院の選手が手探りのまま出場して、テイクダウンしても、そのあと簡単に関節取られてましたよね。大会を冒涜しないためにも、ルールを学んで予選から出るべきでしょうね。このハイレベルな中では、素人が出てきても勝てる訳がないですから。

——ちなみに今回の渡米は、この大会を見るためだけのモノですか？

太田　そうです（微笑）。やっぱり総合格闘技の草分け的存在の、打撃のない格闘技ですからね。『PRIDE』やK-1と比べても、競技制という部分ではアブダビの方が高いと思うんですよ。もし、オリンピックで総合格闘技が採用されるとしたら、こっちのルールになるんじゃないかなと。パンチ、キックがあるとどうしてもケガ人が増えてしまいますから。もちろん打撃あり、関節技ありの総合格闘技が一番好ましいんでしょうけども、その前の段階としてはこの大会がかなり高い評価を得るんじゃないかなって思いましたね。ちょっと極端すぎるかな？　まあ、適当にまとめておいて下さい（笑）。

——ありがとうございました！

日本人選手団が語るADCC

三原秀美【総合格闘技コブラ会】

（※88kg級1回戦でデビッド・アヴェランにポイント8-2で敗退）

三原　ホントは引き込んで三角絞めとかスイープとか狙おうと思ってたんですけど、固められてなんもできなかったですね。でも相手も固めるだけじゃなくてパスとかも狙ってきてくれたんで楽しかったです。まあ、こんなもんやと思いますよ（笑）。でも凄い楽しかったんで、2年後とかにまたあるんやったら、予選に出て勝てるように頑張ります。

薮下めぐみ【SOD女子格闘技道場】

（※60kg超級1回戦でアマンダ・ブキャナーにポイント7-0で勝利。2回戦はジュリアナ・ボルゲスにポイント負け。無差別級1回戦でタラ・ラ・ロサにポイント9-0で敗退）

薮下　試合は楽しかったです。ルールは相変わらずチンプンカンプンでしたけど（笑）。今回は賞金もらえなかったんで、もらえるまでやります！

近藤有希【ピュアブレッド京都】

（※60kg超級1回戦でマルース・クーネンにヒザ十字固めで敗戦）

近藤　また負けちゃいました（苦笑）。やっぱり気持ちの違いなんですかね。試合へのモチベーションも上がってて、気分も盛り上がって臨んでいたつもりだったんですけど。ケガのせいにはしたくないんですけど、今回も両ヒザともやっちゃってて、集中力も欠けてしまったし、影響はあることはあるでしょうね（苦笑）。でも、クーネンはもうお腹いっぱいですね（笑）。今後については、まだ考えてないんですけど、まず身体を治したいなと。いまは家庭を大事にして、格闘技は趣味程度に頑張ります（笑）。

藤井恵【ガールズファイトAACC】

（※60kg以下級1回戦でリマ・ハダッドに腕十字で勝利。準決勝でキーラ・グレイシーに腕十字で敗戦。3位決定戦でギャジー・パーマンに足首固めで勝利）

藤井　一回戦は様子見ていこうかなと思ってて、組んだら投げれて、練習通りそのままできたので勝てたんだと思います。でも、2回戦はつまらない試合をしてしまって（苦笑）。せっかくアメリカまで試合しに来たんで、もっと動きのある試合をしたかったんですけどね。ホントは日本でも組技の試合をいっぱいやりたいんですけど、なかなか女子の大会はないので。総合の試合も夏ぐらいにっていう話はもらってます。いままでいい選手と試合させてもらってるんで、やっぱり同じぐらいの強い選手とやりたいなって思ってます。

鈴木徹【和術慧舟會 岩手支部】

（※66kg以下級1回戦でレオナルド・ヴィエイラにポイント6-0で敗退）

鈴木　相手はとても強かったですね。手足も長くてポジショニングが巧くて、スピードも僕より1枚も2枚も上手だったと思います。でも極めに関しては意外に弱かったかなとは思いました。最初の5分はわざとバック取らせて疲れさせようかなって思ってたんですよ。それで呼吸が乱れていくのがわかったんで、そこから上になって作戦通り進んでるなって。結局は負けちゃいましたけど（笑）。でも、またやりたいです！

内藤征弥【和術慧舟會A-3】

（※99kg以下級1回戦でアレッシャンドリ・カカレコにポイント8-0で敗戦）

内藤　負けは負けなんですけど、不完全燃

ＡＤＣＣ２００５　全対戦結果

スーパーファイト　○ディーン・リスター（米国／ファビアノ・サントス柔術）［8－-1］ジャンジャック・マチャド（ブラジル／マチャド柔術）

男子無差別級

優勝：ホジャー・グレイシー

- ○アレッシャンドリ・カカレコ（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）　●レオ・サントス（ブラジル／ノヴァウニオン）
- ○ホナウド・ジャカレ（ブラジル／ブラサ）　●デイビッド・アヴェラン（アメリカ／フリースタイル・ファイティングアカデミー）
- ○ディエゴ・サンチェス（アメリカ／ジャクソンズ・サブミッション・ファイティング）　●ダニエル・ヴェランジ（ブラジル／アメリカン・トップチーム）
- ○マルセロ・ガルシア（ブラジル／アリアンシ）　●リコ・ロドリゲス（アメリカ／チーム・パニッシュメント）
- ○シャンジ・ヒベイロ（ブラジル／グレイシー・ウマイタ）　●アントイン・ジャウジ（ブラジル／ファス・バーリトゥード）
- ○ガブリエル・ナパオン（ブラジル／マカコ・ゴールド）　●エドゥアウド・テレス（ブラジル／TTアカデミー）
- ○ファブリシオ・ヴェウドゥム（ブラジル／チーム・クロコップ）　●リーズ・アンディ（アメリカ／AMCパンクレイション）
- ○ホジャー・グレイシー（ブラジル／グレイシー・バッハ）　●青木真也（日本／パレストラ東京）

3位決定戦

男子99kg超級

優勝：ジェフ・モンソン

- ○ガブリエル・ナパオン（ブラジル／マカコ・ゴールドチーム）　●ムスタファ・アルトゥルク（イギリス／ロンドン・シュートファイティング）
- ○リコ・ロドリゲス（アメリカ／チーム・パニッシュメント）　●ハイム・ゴザリ（イスラエル）
- ○ダニエル・グレイシー（ブラジル／グレイシー・バッハ）　●クレイグ・ピュンフェリー（アメリカ／グラップリング・エッジ）
- ○マーシオ・ペジパーノ・クルーズ（ブラジル／グレイシー・バッハ）　●ミオドラグ・ペトコビッチ（セルビアモンテネグロ／セルビアン・バーリトゥードチーム）
- ○ジェイ・ホワイト（アメリカ／ワールド・スレット柔術）　●マーシロ・コウレタ（ブラジル／ウィナー・ペーリンギ柔術）
- ○ファブリシオ・ヴェウドゥム（ブラジル／チーム・クロコップ）　●デニス・ロバーツ（オーストラリア／ペロッシュ&シノシック）
- ○ラハディ・ファーガソン（アメリカ／アメリカン・トップチーム）　●石井 淳（日本／超人クラブ）
- ○ジェフ・モンソン（アメリカ／アメリカン・トップチーム）　●カリーム・バイロン（カナダ／マルコス・ソアレス柔術）

3位決定戦

男子-99kg以下級

優勝：ホジャー・グレイシー

- ○アレッシャンドリ・カカレコ（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）　●内藤征弥（日本／和術慧舟會A-3）
- ○ロバート・ドリスデール（アメリカ／ブラサ）　●アンソニー・ペロッシュ（オーストラリア／ペロッシュ&シノシック）
- ○ユノラフ・エイネモ（ノルウェー／フリー）　●リック・マコウレイ（アメリカ／バランス・スタジオ）
- ○ヴィトー・ヴィアナ（ブラジル／ブラサ）　●マイク・ヴァン・アーステイル（アメリカ／アメリカン・キックボクシング・アカデミー）
- ○ジャマール・パターソン（アメリカ／ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー）　●トラヴィス・ウィウフ（アメリカ／ディープ・メネーズ・コンバットアカデミー）
- ○シャンジ・ヒベイロ（ブラジル／グレイシー・ウマイタ）　●ミカエル・グロテ（スウェーデン／ヒルティ柔術）
- ○エドゥアルド・テレス（ブラジル／TTアカデミー）　●アントニー・ジャウジ（ブラジル／ファス・バーリトゥード）
- ○ホジャー・グレイシー（ブラジル／グレイシー・バッハ）　●ジャスティン・ガルシア（アメリカ／チーム・ジャングルジム）

3位決定戦

男子-88kg以下級

優勝：ホナウド・ジャカレ

- ○デビッド・アヴェラン（アメリカ／フリースタイル・ファイティングアカデミー）　●三原秀美（日本／総合格闘技道場コブラ会）
- ○ダミアン・マイア（ブラジル／ブラサ）　●マルコ・ヘレン（フィンランド／TJJK）
- ○ジョルジュ・パチーユ・マカコ（ブラジル／シュートボクセ・アカデミー）　●花井岳文（日本／ツイスト）
- ○サウロ・ヒベイロ（ブラジル／グレイシー・ウマイタ）　●ラリー・パパドポロス（オーストラリア／ボクシング・ワークス）
- ○デニス・ホールマン（アメリカ／アメリカン・トップチーム）　●フランク・トリッグ（アメリカ／R-1チーム）
- ○リーズ・アンディ（アメリカ／AMCパンクレイション）　●マット・ホーウィック（アメリカ／チーム・クエスト）
- ○ロベルト・ザルスキー（ポーランド／フリー）　●ベント・ヒベイロ（ブラジル／リオデジャネイロ柔術グルービ）
- ○ホナウド・ジャカレ（ブラジル／ブラサ）　●ダービド・ビエルクヘイデン（スウェーデン／ヒルティ柔術）

3位決定戦

男子-77kg級

優勝：マルセロ・ガルシア

- ○マルセロ・ガルシア（ブラジル／アリアンシ）　●クリス・ブレナン（アメリカ／ネクスト・ジェネレーション）
- ○青木真也（日本／パレストラ東京）　●マルコス・アウヴェラン（アメリカ／フロリダFA）
- ○レオ・サントス（ブラジル／ノヴァウニオン）　●ジェイソン・ブラドウィック（アメリカ／ミレニアJJ）
- ○ジョルジュ・サンピエール（アメリカ／TKOマネージメント）　●オットー・オルソン（アメリカ／AMCパンクレーション）
- ○キャメロン・アール（ハウフ・グレイシー柔術アカデミー）　●マーチン・リングヴィスト（スウェーデン／ヒルティ柔術）
- ○ジェイク・シールズ（アメリカ／シーザー・グレイシー柔術アカデミー）　●ディエゴ・サンチェス（アメリカ／ジャクソンズ・サブミッション・ファイティング）
- ○ホアン・ジュカオン・カルネイロ（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）　●ギャビン・カルバー（オーストラリア／スパルタン・ジム）
- ○パブロ・ポポビッチ（ブラジル／アメリカン・トップチーム）　●ヘンゾ・グレイシー（ブラジル／ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー）

3位決定戦

男子-66kg級

優勝：レオナルド・ヴィエイラ

- ○レオナルド・ヴィエイラ（ブラジル／ブラサ）　●鈴木 徹（日本／和術慧舟會岩手支部）
- ○ジョーイ・ギルバート（アメリカ／ギルバート・グラップリング）　●フレジソン・アウヴェス（ブラジル／グレイシー・ウマイタ）
- ○ギルバート・メレンデス（アメリカ／シーザー・グレイシー柔術アカデミー）　●バレット・ヨシダ（アメリカ／バレット・サブミッショングラップリング）
- ○ロブ・ディセンツ（カナダ／トロント柔術）　●アルバート・クレーン（アメリカ／サンタフェ柔術）
- ○マーシオ・フェイトーザ（ブラジル／グレイシー・バッハ）　●トニー・クローゲル（フィンランド／HJJK）
- ○ユライヤ・フェイバー（アメリカ／キャピタルシティ・ファイティング・アカデミー）　●マルコス・パルンビーニャ（ブラジル／アメリカン・トップチーム）
- ○ハニ・ヤヒーラ（ブラジル／ヒクソン・グレイシーアカデミー）　●マリオ・デルガド（メキシコ／ヘンゾ・グレイシー・メキシコ）
- ○ヴァグネイ・ファビアーノ（ブラジル／ノヴァウニオン）　●ヤニ・ラックス（スウェーデン／チーム・スカンジナビア）

3位決定戦

女子無差別級

優勝：ジュリアナ・ボルゲス

- ○ジュリアナ・ボルゲス（ブラジル／アメリカン・トップチーム）　●キズマ・バトゥン（アメリカ／グラウンドゼロ）
- ○アマンダ・ブキャナー（アメリカ／ボウルダー柔術）　●レカ・ヴィエイラ（ブラジル／レカ・ヴィエイラ柔術）
- ○ステイシー・カートライト（オーストラリア／ジョン・ウィル&マチャド柔術オーストラリア）　●マルース・クーネン（オランダ／タッジン・ドージョー）
- ○タラ・ラ・ロサ（アメリカ／チームROC）　●藪下めぐみ（日本／SOD女子格闘技道場）

3位決定戦

女子60kg超級

優勝：ジュリアナ・ボルゲス

キズマ・バトゥン※（アメリカ／グラウンドゼロ）

※クーネンの棄権により補欠戦。勝利したキズマが出場

- ○ジュリアナ・ボルゲス（ブラジル／アメリカン・トップチーム）　●アネッチ・エスタッキ（ブラジル／アンドレ・ネガオン&UGF）
- ○藪下めぐみ（日本／SOD女子格闘技道場）　●アマンダ・ブキャナー（アメリカ／ボウルダー柔術）
- ○マルース・クーネン（オランダ／タッジン・ドージョー）　●近藤有希（日本／ピュアブレッド京都）
- ○ステイシー・カートライト（オーストラリア／ジョン・ウィル&マチャド柔術オーストラリア）　●カミラ・グェルステン（ノルウェー／ノルウェーBJJクラブ）

3位決定戦

女子-60kg級

優勝：キーラ・グレイシー

- ○レカ・ヴィエイラ（ブラジル／レカ・ヴィエイラ柔術）　●ロクサン・モダフェリ（アメリカ／ボストン・ブラジリアン柔術）
- ○ギャジー・パーマン（アメリカ／フリー）　●レティシア・ヒベイロ（ブラジル／グレイシー・ウマイタ）
- ○藤井 惠（日本／ガールズファイトAACC）　●リタ・ハダッド（カナダ／フリースタイル・ファイティングアカデミー）
- ○キーラ・グレイシー（ブラジル／グレイシー・バッハ）　●エリカ・モントーヤ（アメリカ／ネクスト・ジェネレーション）

3位決定戦

焼ですね。もっとルールを研究してれば、いい結果が残せたと思うんですよ。だから、また2年後、日本予選を勝って本戦に出てリベンジしたいと思います！

石井 淳　［超人クラブ］

（※99kg超級1回戦でラハディ・ファーガソンにポイント負け）

石井　試合の感想は前のときもそうでしたけど、まだまだいけたんじゃないかなって感じですね。ルールはだいたい把握できてたとは思うんですけど（苦笑）。もう今回が最後でいいかなって思ったんですけど、また悔しい思いしたんで、もう一回頑張りたいですね。テイクダウンだけじゃなくて、寝技でも勝負できるようにして、2年後もう一回来たいなって。3度目の正直ってことで（笑）。

花井岳文　［ツイスト］

（※88kg級1回戦でジョルジュ・パチーユ・マカコと対戦、判定負け）

花井　試合の感想って言われても別に。相手が何もしないから、なんの感想もないですね。あんまりムカついたんで、「ムーブ！」って言われても、下から「ヒー　ダズント　ムーブでしょ？」って言い返したんですよ。審判も笑ってましたけど（笑）。でも10キロ以上重いのにあんなことされたら動けるわけないじゃないですか。向こうは計量まで減量してきてて、そこから体重が増えてるでしょうから。動かないんだったらアブダビに出る必要ないし、部屋でジッとしてたらいいんじゃないですか？　まあ、ルールはいつも気にしてないから、極まんなきゃ負けでいいんだけど。まあ注目を集めたって言うけど、集めただけで楽しませちゃいないじゃないですか。それに基本的に極めにいくからこの競技が成立してるんであって、テイクダウンだけだったらレスリングやればいいだけですから。……何言っても勝てなかった言い訳ですけどね（苦笑）。次は、もう少し近めの楽しい国でお願いします（笑）。

青木真也　［パレストラ東京］

（※77kg級1回戦でアヴェランに一本勝ち。2回戦でガルシアにチョークで負け。無差別級1回戦でホジャーにアキレス腱固めで一本負け）

――アブダビの感想を聞かせてください！

青木　正直言って、ガルシアが一番強いと思いますよ。やってることは別に大したことないと思うんですけど。普通にバック取って首絞めるだけなんで。でも一つの技術が熟練されてるんじゃないですかね。

――みんな同じパターンにハマっていきますからね。

青木　まあ、また出る機会があったら、今回の経験を活かして頑張ります！

ホイラーをタップさせた“オレ様”はミュージシャン

エディ・ブラボー

日本で試合をしないかって?
5万ドルくれたらやってやるよ。
しかも税抜きだ!!

一部のグラップリング・バカの間では絶大な人気を誇る“オレ様”エディ・ブラボー。昨年のADCCではホイラーをタップさせ一躍脚光を浴びるも今年はワキ腹の負傷により欠場。そんなブラボーの道場へ足を運び、プロレス誌としては初のインタビューを敢行ッ!

取材／『紙プロ』アブダビ探検隊

designed by matsu（TwoThree）

――ちょっと前に『SRS』という日本のTV番組で、あなたが演奏しているのを観ましたよ。

ブラボー　ああ、オレ様はミュージシャンだからな。

――ミュージシャンだったんですか?

ブラボー　そうさ。知らなかったなら、オレのホームページを見てみな。オレ様の作った曲がサイトからダウンロードできるから。

――ちなみに影響を受けたミュージシャンは誰になるんですか?

ブラボー　初めて観たKISSがオレ様の人生を変えたんだ。で、ガキの頃からドラムを7年やって、ギターに持ち替えて、また7年。その間、キーボードもやってたから音楽漬けの人生だね。バンドをやっていた時は自分で曲を書いて、ギターもドラムも、全部1人でやってたよ（笑）。いま使うのはキーボードとCDとノートパソコンだけどな。

――日本のミュージシャンで知っている人はいますか?

ブラボー　EZOと、あとラウドネスは好きだな（と言って、いきなりゴキゲンに歌い始める）。どうだ、わかっただろ?オレ様は音楽家として人生を捧げてるんだよ。だから、柔術は一種の“事故”みたいなもん。やってみたら、結構自分に合ってたから続けてるって感じさ。

――柔術は事故!?　なんでもチャレンジしてみる性格なんですかね?

ブラボー　というか、わからないことは受け入れない性格だね。だから宗教はダメだ。ありゃよくねえよ。自分のことは自分で考えなきゃ。

――では、幽霊とかオバケは信じない?

ブラボー　オバケとかはよくわかんねえけど、宇宙人なら信じてるぜ。知ってるか?　宇宙人は3千6百年に一度、ゴールドを取りに地球に来るのさ。実はオレら地球人は奴隷で、宇宙人に金を掘らされているんだ。オレらは知らぬが仏ってヤツ。オレ様はそれは信じてるんだ。

――へぇ～、そうなんですかぁ。

ブラボー　おい!　オレ様を危ないヤツだと思ったろ?　まあ聞けよ。ヤツらは太陽系の一番外の惑星「ニービルー」の星人なんだよ。「ニービルー」なんてかわいい名前だろ?

――は、はぁ。

ブラボー　だからオレ様の道場の名前も10thプラネット（10番目の惑星）って付けたんだよ。

――わかりました。では、柔術については自分自身どう考えてますか?

ブラボー　見てのとおり、オレ様は身体が小さいし、寝技最強ってわけじゃない。レスラー上がりの選手とかでフィジカル的にオレ様より強い人間はいるしな。ただ、オレ様のファイトスタイルはMMAではベストだよ。間違いない。

――でもMMAの経験はないですよ…。

ブラボー（無視して）まだ認められてないけどな。いま、オレ様は2年間、自分の柔術を生徒に教えてるんだけど、10年後には彼らの多くが頭角を現してくるだろうよ。そしたら、オレ様のスタイルがMMAではベストだということが、頭の固いこの業界のヤツらもわかるだろうな。

――自分以外に誰か好きなファイターはいますか?

ブラボー　ヒクソン・グレイシー。あとミノタウロ（A・R・ノゲイラ）や（エメリヤーエンコ・）ヒョードルも好きだよ。

――ヒクソンはどういうところが好きなんですか?

ブラボー　柔術ではたぶん彼が最強だろ。オレ様の周りの連中はみんなそう言ってるよ。オレ様の先生のジャンジャック（・マチャド）もそう言ってたぜ。

――他に好きなスポーツっていうと?

ブラボー　アメフトだな。ありゃ、もうほとんど戦争だろ。チーム11人がそれぞれの目的を持って動いている。集団バーリ・トゥードって感じだろ。

――WWEとか観たりします?

ブラボー　あ～、嫌いだね。プロレスはガキの頃は観てたけど、いまはMMAしか観ない。オレ様はリアルファイトが好きなんだよ。あ、こんなこと言っちゃいけないか、アンタらプロレス雑誌のインタビューで来てるんだっけ?（と、ワザとらしく口を押さえる）。

――いや、大丈夫ですよ（笑）。でも、TVであなたのツイスターを初めて観た時、「これはコブラツイストじゃないか」と思ったんですけど。

ブラボー　そうだよ（アッサリ）。でも、もともとはレスリングの技なんだ。たしか1900年代の初頭かな、プロレスが始まった時、レスリングの技を使ったのさ。だから、正確に言うと、これはレスリングの技。ハッキリ言っちゃうと、ツイスターはグラウンドじゃないと効かねーって!

――プロレスのようにスタンドで極める

のは難しいと？

ブラボー　そりゃそうだよ。プロレスだとリングの真ん中で立って極めるんだろ。それは無理だろって（笑）。まあ、フェンスとかロープにもたれかかれば、できるかもしれないけどな。

――子供の頃、プロレスを観てた時は誰のファンだったんですか？

ブラボー　オレ様は、ちょっと変わっていて、テクニシャンタイプのレスラーが好きだったんだ。例えば、キラー・ビー・ブライアン・ブレアーとか、あとはボブ・バックランド。ハルク・ホーガンは好きじゃなかったな。デカい男がド突き合っているのはクールじゃねえんだ。いま考えると、オレ様はその頃からリアル・ムーブが好きだったんだろうな。

――ライバルは誰かいますか？

ブラボー　ライバルっていうか、いままで一番強かったのはホイラー・グレイシー。ホイラーは2歳からずっと柔術をやっていて、他の仕事に就いたことは一度もない。それに比べて、オレ様が柔術を始めたのは24歳。他に仕事もしてたしな。だから、オレと闘った時、ホイラーは全然有利だったのさ。それでも勝ったのはオレ様ってわけさ。

――まあそうですよね。ブラボーさんは夜の方もかなりテクニシャンと聞きますが、そちらで何か好きな技はあります？

ブラボー　なんでもいいけど、フ●ラしてもらうのが一番好きだな。特にバキューム・フ●ラは最高だな。くわえて、しゃぶって、吸い尽くすみたいな（笑）。

――具体的には、どういうタイプの女性が好きなんですか？

ブラボー　アメリカで人気のディーダ・ゲラというモデルがいるんだ。インターネットで出てるから、ググってみな。スッゲー、キュートなケツしてっから。大体、アメリカのセレブってのは顔はいいんだけど、身体がイマイチなんだ。でもオレ様にとって大事なのはカラダ。そういう意味で、ディーダ・ゲラはヤバイ！

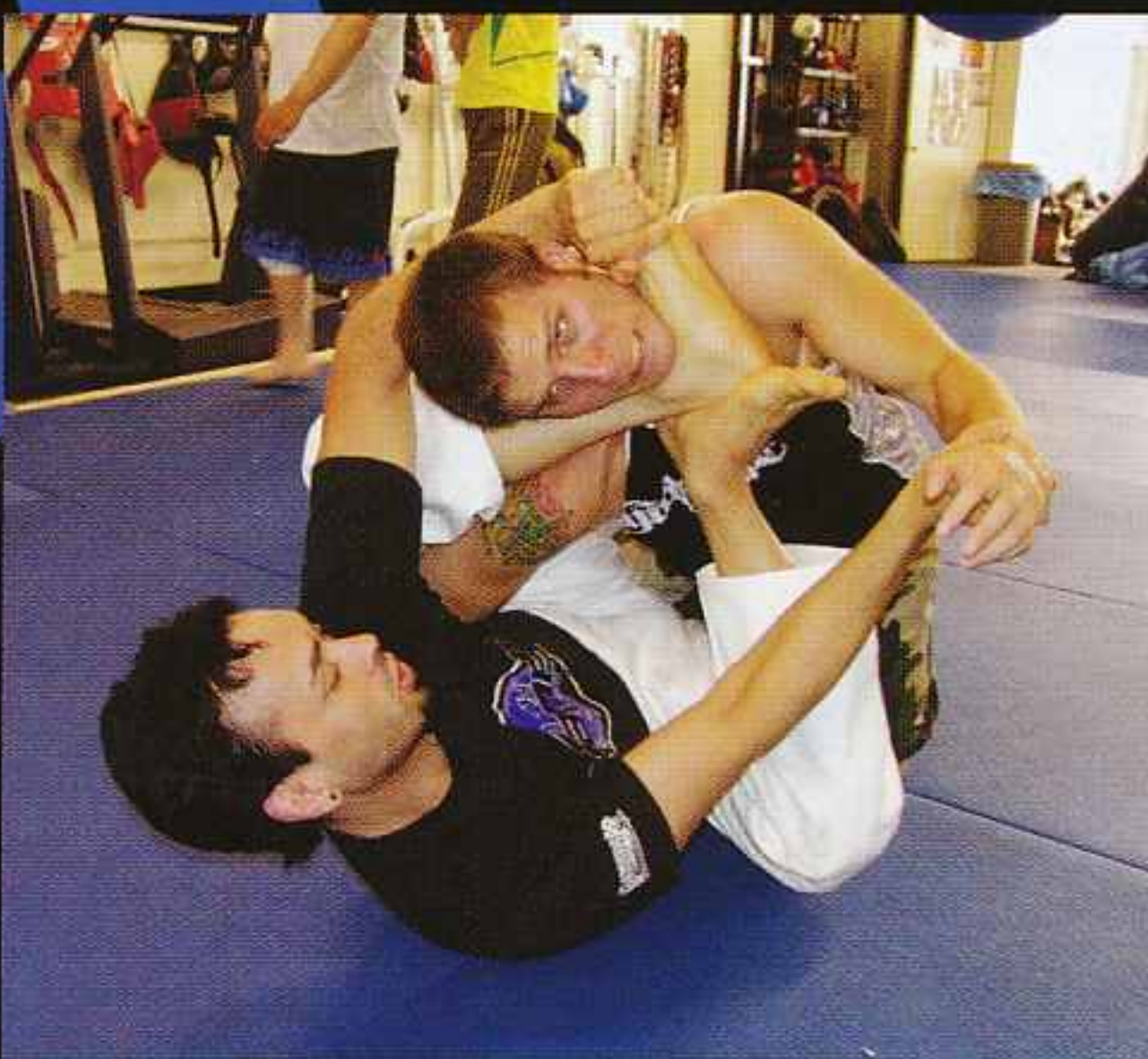
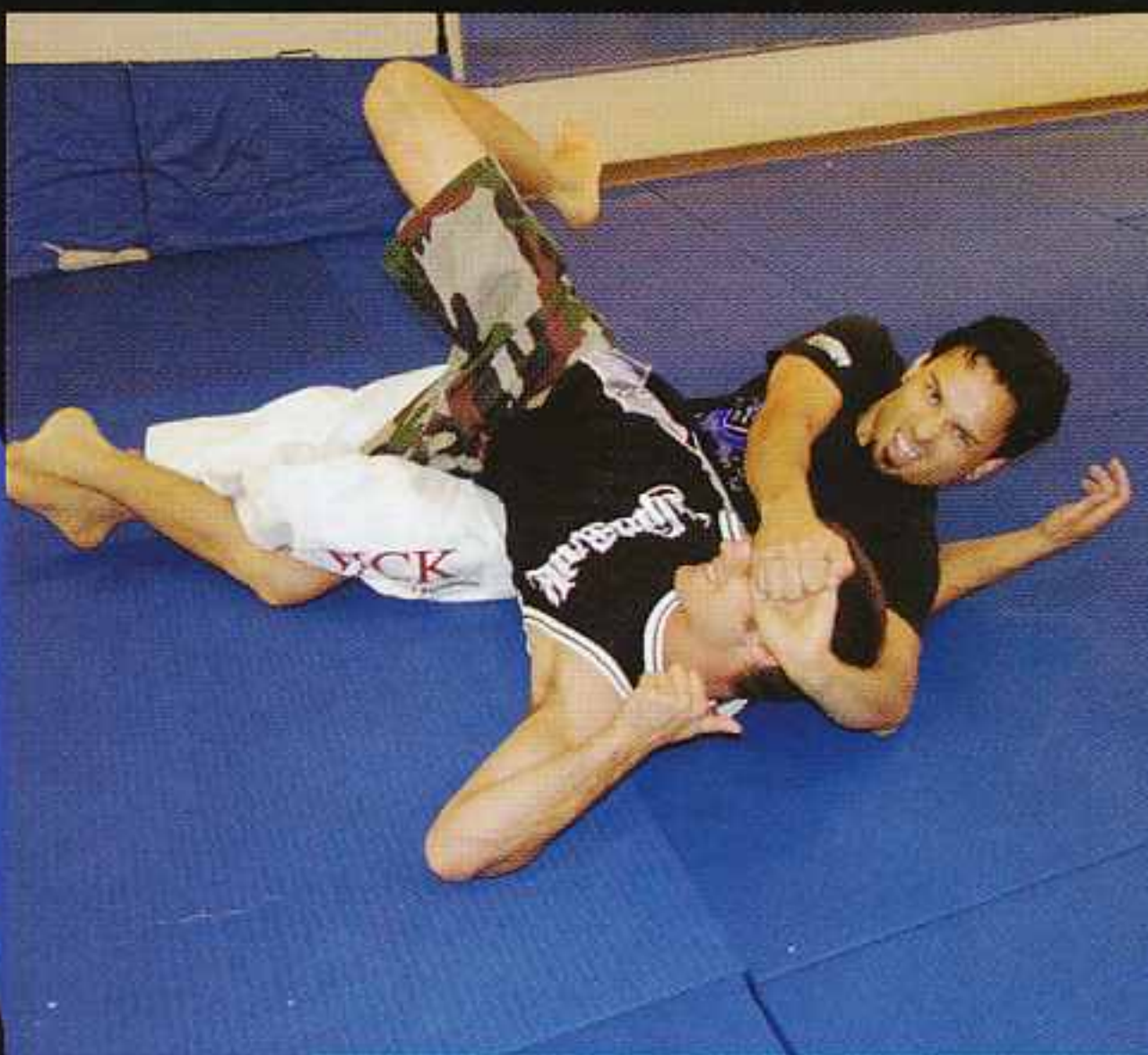
――あとでググってみます（笑）。好きな国はどこですか？

ブラボー　やっぱブラジルかな。なぜって？　ブラジルの女はみんないいケツしてるし、しかもフリフリさせてんだよな～（遠い目）。あと脚も長いし、たまんね～国だな。ホイラーからタップを取った時よりもブラジル娘のトップを取った時の方が快感だったなぁ（再び遠い目）。

――ブラジル娘はすでに経験済みと？

ブラボー　スッゲーぞ、アイツらのフ●ック。「これが人生だー！」みたいな。

コブラツイストはもともとレスリングの技さ。でも、ハッキリ言って立ったまま極めるのは無理だって！

意外（?）と教え上手だったブラボーに得意技のツイスター、ラバーガードを伝授してもらった。ちなみに道場はウエスト・ハリウッドというゲイの皆さんが多い場所にあり、そのヒゲ具合から「も、もしかして?」等と思ったが、ブラボーはかなりの女好きでした

――あ、そうですか（笑）。この辺で話を戻しますけど、日本で試合をしてみたいとは思いますか？

ブラボー　（即座に）金次第だな。

――あ、金ですか（笑）。ちなみに、いくらもらえるなら試合します？

ブラボー　少なくとも、5万ドル！

――ご、5万ドル!?

ブラボー　それも税抜きで5万ドルじゃなきゃヤだね（キッパリ）。それが難しいんだったら、オレ様は音楽でやってくよ。

――税抜き5万ドルっていうのは正直難しいでしょうねぇ。

ブラボー　そんなことねぇよ。ここだけの話、この夏に日本でグラップリングの試合をするかもって話が来てるんだ。

――あ、そうなんですか？

ブラボー　まあ、それもギャラ次第だけどな。前にもコンテンダーズからカオル・ウノとの試合のオファーがあったんだけど、条件が合わなくて断ったんだ。

――その試合は観たかったですけどね。

ブラボー　日本には行きたいんだけど、オレ様にとって柔術はもう趣味じゃなくてビジネスになってるから、その辺は考えてもらいたいね。9時間10時間も飛行機に乗って、セミナーもやって、グラップリングもやるんだから、それなりの条件を提示してくれないと行けね～っての。

――もし、日本で試合をするなら希望するリングはありますか？

ブラボー　やっぱ『PRIDE』かな。ギャラもいいだろうし、それにアメリカでも放映するだろ。自分をアピールするにはちょうどいいよ。でも、もしDEEPがもっと金を払うって言うんなら、そっちに行くけどな。

――もし『PRIDE』に出るとなると、階級的には『武士道』だと思うんですけど、『武士道』って知ってます？

ブラボー　もちろんさ。ブシドーはルールがベストだね。いいファイターも揃ってるしレベルも高い。

――『武士道』のファイターで気になる選手はいます？

ブラボー　ゴミ、リョウ・チョウナン、あと修斗のルミナ・サトー。彼らのテクニックは凄いと思う。特にゴミはスゲー、タフ。スタンドもグラウンドも強いし、戦士のハートを持っている。ジェンス・パルヴァーとの試合はマジ凄かったぜ！

――では、長南選手は？

ブラボー　彼も心が強いな。アウデウソン・シウバに勝った試合は良かったよ。ローでシウバの足を殺しておいて、最後に飛びついてヒールをキレイに極めたろ。興奮したぜ、「ヤリやがった！」って。

――佐藤ルミナ選手は？

ブラボー　実はオレ様が一番好きな選手がルミナなんだ。彼の試合はずっと観てるね。ガードもいいし、三角も十字もうまいしな。

――いま名前を挙げた選手と闘ってみたいとかあります？

ブラボー　グラップリングじゃ大した金にならないからやらないよ。ただ、総合の試合で大金をもらえんならやってやるさ（笑）。

――やっぱり、お金ですか（笑）。

ブラボー　ぶっちゃけ、オレ様は柔術の選手だし、打撃には興味はないよ。だけど、大金がもらえるんなら、キックルールでもやってやるさ（笑）。

――わかりました。では、最後に日本のファンにメッセージをお願いします！

ブラボー　日本人は新しいアイディアに対してオープンだから好きだよ。ブラジル人は最初、旗を振ってくれたりしたんだけど、オレ様がホイラーに勝ったら、もう掌返しでバイバイさ。その点、日本人は偉いよ。ちゃんと試合を観て、いい選手を応援してくれるからな。もし日本に行く機会があったら、その時はよろしく頼むぜ！

――は!?　よろしくって何を？

ブラボー　言わなくても気づけよ。可愛い女の子を紹介してくれってことさ。

――結局、そっちですか（笑）。

【05年5月26日／10thプラネットにて収録】

アブダビでも"U"魂炸裂!

ジョシュ・バーネット

ADCC Submission Wrestling

Abu Dhabi Combat 2005

ジャンルを問わず、これまでのベストバウトはフナキvsナカノタツオだね!

昨年のミルコ戦で負傷してから、試合はご無沙汰状態のジョシュ。ADCCの会場で声を掛けると、「オ〜、カミプロ、久しぶりね!」とニッコリ。そんなジョシュに、ここ最近の日本マット界ネタから、復帰の予定まで、たっぷりと話を聞いてきました。シュワッチ!

取材/『紙プロ』アブダビ探検隊

designed by matsu (TwoThree)

—今回のアブダビコンバットADCCの一番の観戦目的は何ですか?

ジョシュ　練習仲間のリース・アンディ(99キロ級)が出るっていうのもあるし、あとはフジイ・メグミとコンドウ・ユウキの応援に来たんだ。

—その2人は、ジョシュさんのプッシュもあったみたいですからね。それはそうと、ケガの具合はどんな感じですか?

ジョシュ　トレーニングする分にはもう問題ないよ。夏までには試合が出来るんじゃないかな。いまは、シンニホンプロレスでもIWGPをコジマからテンザンが取り返したり、いろいろと動きがあるよね。ボクはネットでそういう情報を調べるだけなんで、実際どうなっているかわからないところはあるんだけど。

—いや、それだけ知ってれば十分だと思います(笑)。アメリカにいても新日本の情報はチェックしてるわけですね。

ジョシュ　基本的にはシンニホンの英語のウェブサイトでチェックしてるんだ。あと「ストロングスタイル・スピリット」や「プロレス・パワー」っていう友達がやってるサイトもチェックしてるよ。

—最近の新日本で何か気になったニュースはありますか?

ジョシュ　やっぱり、社長が代わったということが一番気になってるよ。

—よく知ってるなぁ。まだ昨日か一昨日の話ですよ(笑)。

ジョシュ　サイモンさんが社長になったことと、あとはミサワさんとフジナミさんがタッグを組んだのも気になってるね。

—それは、ちょっと気にしすぎなような気もしますけど(笑)。ちなみに、草間社長とは面識はあったんですか?

ジョシュ　会ったこともあるし、一緒に食事をしたこともあるよ。

—草間社長が新日本を去ることについては何かありますか?

ジョシュ　まだ詳しいことはわからないんだけど、クサマさんがやめるってことは非常に残念だね。彼とは面識はあるんだけど、プロレスラーとして一緒に仕事をすることはできなかったから。いまのボクが言えるのは、新体制になってシンニホンがより良くなって欲しいし、そのために新社長のサイモンさんには期待してるし、ボクにできることがあったらサポートしていきたいと思っている。

—サイモン社長とは面識あります?

ジョシュ　LA道場で何度か会ったことはあるよ。ただ、今度は社長というポジションになったので、いままでとは違った問題も出てくると思うし、今後どうなるかはまだわからない。サイモン社長のもと、シンニホンがいい方向に行くことを望んでいるよ。

—あと、いま前田日明さんがマット界に戻ってきたんですけど……。

ジョシュ　(遮って)知ってるよ。マエダアキラさんが戻ってきたのはとてもいいことだと思う。それにマエダさんはボクのアイドルだからね(ニッコリ)。マエダさんだけじゃなくて、タカダさんも〝ソウトウ〟としてハッスルをサポートしたり、ボクのアイドルがファンの興味を惹くことをやってるのは単純に嬉しいよ。

—ジョシュさんにとって、前田さんの魅力はどういったところですか?

ジョシュ　まず一つは自分のように身体が大きいこと。それと彼はプロレスリングというものがマーシャルアーツの中で最強のものだという位置付けをしたということ。もちろん、試合自体も面白い試合をしていたしね。観ていてエキサイトできるような試合の組み立てをしていたし、それでいて強い。一言では言うのは難しいね(苦笑)。

—前田さんの試合で、いまでも覚えてる試合とかあります?

ジョシュ　そんなのたくさんあるよ。一番印象に残っているのはマエダvsタカダ戦だね。それも武道館でやってタカダさんが勝った試合が一番記憶に残っているよ。

—リングス時代の前田さんの印象は?

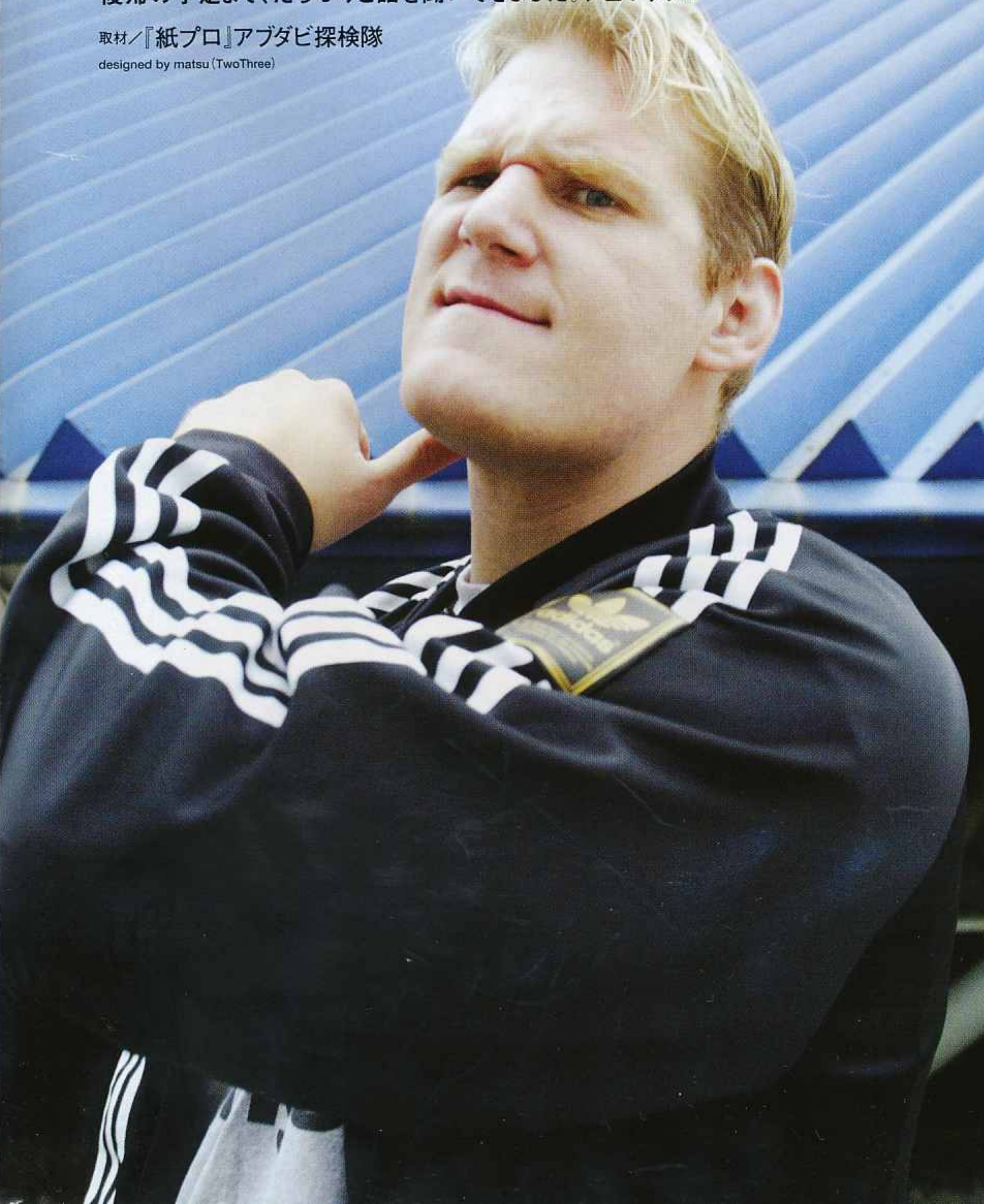
ジョシュ　やっぱりリングス時代はヴォルク・ハンとのレッグロックの取り合いが記憶に残っているね。それと、アレキサンダー・カレリンとの試合は、いろいろ思うことがあるんだけど、ボクはマエダさんを応援していたんだ。

—思うところっていうのは、どういうところなんですか?

ジョシュ　とにかく最初の入場からすべて自分自身その試合に入り込んでいたんだ。試合の展開も凄く興味深く見ていたんだけど、結局、マエダさんは負けてしまった。悲しかったのは負けたっていう結果だけじゃなく、それが最後の試合だったということも大きかったと思う。

—もしもの話ですけど、前田さんがカムバックしたら闘ってみたいですか?

ジョシュ　もちろん! やるんだったらUWFスタイルだね(ニッコリ)。

—UWFはUインターやリングス、藤

原組と分かれたわけですけど、一番好きなのはどの団体なんですか？
ジョシュ　Uインターが一番好きだったね。特にミヤトさんがブッキングしたガイジンファイターは素晴らしかった。ミヤトさんは、いまでもグッドフレンドだけど、マッチメークも凄く良かったしね。ゲーリー・オブライト、ビリー・スコット、スティーブ・ネルソン、ジーン・ライディック、日本人でも、タカダさん、カネハラ、タムラ、タカヤマ、まだたくさんいるけど、みんな素晴らしかった。
――髙田vs北尾戦はどう思います？
ジョシュ　ハッハッハッハッ！　その試合がいろいろと言われているのも知ってるよ（笑）。ボクはキタオのことはヤマザキさんと試合をした当時から、なんか自己中心的な感じがしてあまり好きじゃなかった。だから、タカダさんにハイキックでノックアウトされたときは凄く嬉しかったよ（笑）。
――髙田vsトレバー・バービック戦とかはご存知ですか？
ジョシュ　イエスイエス！　ボクが思うのはプロフェッショナルなファイターだったら、一度リングに上がって闘い始めたら、決められたルールで闘わないといけないと思う。それを、やれヘッドバットはダメだ、やれローキックはダメだとか言うのは尊敬できるファイターではないね。モハメド・アリvsイノキ戦が非常にいい例で、一度プロレスのリングに上がると決断したら、決められたルールに沿って、その中で闘わなければいけないと思う。その結果、つまらない試合になってしまうこともあるけどね。
――もしジョシュさんが、そういうボクサーと不利なルールで闘ったとして、キッチリ倒す自信はありますか？
ジョシュ　もちろん。ボクサーに限らず相手が優れたストライカーだとしても、ボクなら自分の試合をして勝つよ。
――先ほど、Uインターが好きと言ってましたけど、Uインター関係の本をいろんな人が書いているのは知ってますか？
ジョシュ　それも知ってる（笑）。
――もしかして読んでるとか？
ジョシュ　イエス（笑）。タカダさんのことは尊敬してるけど、彼はUインターの秘密の部分を暴露してしまった。それはプロレスラーとしていけないことだと思う。プロレスラーとしてヒーローだったタカダさんだけじゃなく、他のファイターにも影響が出てくる可能性もある。ボクが思うのはヒーローはヒーローでなければならないってこと。その当時、真剣に見ていたファンにしてみれば聞きたくなかったという気持ちになってしまう。プロレスラーに限らず、ヒーローの日常生活を暴露してしまったらガッカリだろ？
――それはありますよね。ちなみに、UWF時代のベストマッチはなんですか？
ジョシュ　（即座に）フナキvsナカノタツオだね（89・7・24）。UWFに限らず、プロレス、MMA含めて、自分が観た中でのベストバウトは、その試合だよ。たしかハカタ・スターレーンでやった試合だったかな。フィニッシュは鼻血まみれのナカノにフナキがモノ凄い逆エビでレフェリーストップで勝ったんだ。
――会場名まで！　ホント良く覚えてますねぇ（笑）。
ジョシュ　Uインターでのオブライトvsタカダ戦もアメージングマッチだった。あとベイダーvsタカダ戦もエキサイトしたし、スティーブ・ネルソンとサクラバやカキハラとの試合も面白かったね。
――パンクラスとかは見てました？
ジョシュ　当然さ。パンクラスは〝U〟の孫みたいな存在で、今日現在、MMAが競技として成り立っているのはパンクラスのおかげでもあると思う。Uの流れを引き継いで、リアルなプロフェッショナルなレスリングを日本だけじゃなくて、世界各国に広めた功績は非常に大きい。パンクラスがあったからこそ、UFCもあると思うし、世界のMMAが成り立っていると思う。その中でキング・オブ・パンクラシストになれたということは、自分にとっても素晴らしいことだと思う。
――いまは無差別級王者ですからね。最近の『PRIDE』とかK-1の動向も全部チェックされてるんですか？
ジョシュ　大体はね。『PRIDE』とは1試合契約が残ってるし、パンクラスに関しては、無差別級のベルトを持っているんで、チャンピオンとして守らなければいけない。もちろん、シンニホンも忘れてはいないし、ボクにはやることがいっぱいあるんだ（笑）。
――その中でも、いま一番闘いたい選手となると誰になりますか？
ジョシュ　（即座に）ミルコ・クロコップ！
――前回の試合は不完全燃焼に終わってますからね。
ジョシュ　そうだね。でも今度闘ったらそうはいかないよ。
――実際のところ、プロレスラーと総合格闘技と、どちらの試合が先になりそうですか？
ジョシュ　ケガは夏ぐらいには良くなると思うけど、あとはどういったマッチメークになるかとか、細かい話を詰めなければいけない。いまはまだ、どちらが先とかは言えない。
――もしケガをしてなかったら、今回のADCCに出たかったですか？
ジョシュ　ケガがなければ出ようと思っていたんだ。だけど、残念ながらケガで出れなくなった。もしボクが出れたなら、フェースロック、逆エビ、スープレックス、あとナガタロックとか見せてやりたかったんだけど（笑）。
――最後に、ちょっと意地悪な質問をしますけど、ADCCの優勝と、PRIDEヘビー級王座、IWGP王座の三つの中で、ジョシュさんにとって一番価値の高いものはどれになりますか？
ジョシュ　（即座に）IWGP！
――やっぱり、そうなんですか。
ジョシュ　ただ、自分の理想はMMAの三冠王者になることなんだ。これまで、UFCとパンクラスの王者になった。あとは『PRIDE』のベルトだけさ。
――リーチがかかってるんですね。
ジョシュ　そう。そのためにも一日も早くカムバックしなきゃね。
――復帰戦を楽しみに待ってます。今日はありがとうございました！
ジョシュ　コチラこそ、アリガトーゴザイマシタ！（ニッコリ）
【5月27日／『マリオネット・ホテル』にて収録】

目標はMMAの三冠王！ これまでUFCとパンクラスの王者になった。あとは『PRIDE』だけさ

スマックで薮下と闘ったシャノン・フーパーと観戦に訪れていたジョシュ。練習仲間のリーズ・アンディ、そしてジョシュのプッシュで出場を決めたフジメグ＆近藤有希に盛んに声援を送っていた。フジメグが足関で一本勝ちを決めると我がことのように喜んでいた

アブダビ記念!? 本家本元 ジョシュの女子バーネット

今回はアブダビ記念というわけで、本家本元「ジョシュの女子バーネット」をお届け! ちなみにジョシュに『紙プロ』を見せたところ「このジョシ・バーネットってチョロのやってるページでしょ」なんて言ってくれたというのだ(実話)。ホント嬉しい限り。それはさておき、今回のアブダビ特集はいかがでしたか? 『紙プロ』アブダビ探検隊の活躍で充実した特集ができたと自負しております。しかし、それだけで満足してもらっては困ります。アブダビ探検隊は世界各国の寝技美女の独占インタビューを大量に仕入れてきてくれたのです。残念ながらページの関係で今回は紹介できなかったので次号でド〜ンとやろう……と思っていたのですが、ページには限度があります。なので読者の皆さんの投票によりインタビューを掲載する選手を決めてもらおうかと。単刀直入に一番投票を獲得した選手のインタビューが次号で読めるってわけです。まあそれだけじゃ、大して応募もないような気がするので、最多得票を獲得した選手へ応募してくれた読者の中から抽選で一名にP158ページで紹介している超豪華アブダビサイン入りTシャツをプレゼントします! 下の5選手の中から気になる選手の名前と番号を書いてドシドシ投票しよう! 宛先はP159参照。6月30日(木)当日消印有効です。3、2、1、アブダビ、アブダビ!!

世界各国の寝技美女の素顔が丸わかり! あなたが気になるのは、どの女の子!?

NO.1 オランダ代表
クーネンさん
日本でもお馴染みのオランダ娘が衝撃事実を告白!?

NO.2 アメリカ代表
レカさん
知る人ぞ知る女ヒクソン。コクのある人生を送ってます

NO.3 オーストラリア代表
サリちゃん
今回ADCC出場選手の中で最小&最軽量のミニモニ戦士

NO.4 オーストラリア代表
ステイシーさん
チョロ一押しのキティラー美女。SEXYショットもあり!?

NO.5 ブラジル代表
アネッチさん
ADCCでは一回戦敗退も、意外な特技の持ち主!?

マァ☆ティンが帰ってきたぜーッ!!
(DVDでだけど)

6月18日発売!

『THE LEGENDS of AX』

[DVD] カラー245分/税込¥5,880/品番SPD-2213

現在の女子総合格闘技を代表する選手達が一堂に会した幻の大会AX。辻結花、久保田有季、藤井恵、しなしさとこ、ジェット・イズミ、WINDY智美、そしてエースとして活躍した星野育蒔。今となっては実現不可能な豪華顔合わせが次々と実現したAXの全5大会を収録。

[主な収録試合]

藤井恵vsしなしさとこ/久保田有希vs星野育蒔(01.10.31北沢)ジェット・イズミvs金子真理/しなしさとこvs亜利弥'/星野育蒔vs辻結花(01.12.26六本木)ドレイク森松vs久保田有希/岡裕美vs星野育蒔/ジェット・イズミvs辻結花(02.5.4後楽園)角田紀子vs岡裕美/桜井亜矢vsエリカ・モントーヤ/ベッタ・ヨンvsジェット・イズミ/アンジェラ・レスタッドvs久保田有希(02.6.26後楽園)藤井恵vsジェット・イズミ/星野育蒔vsウィンディ智美(02.7.26後楽園)

※こちらのDVDを『紙プロ』読者にプレゼント! P159参照です!!

SMACKGIRL2005
〜Road to Dynamic!!〜

■日時　6月28日(火)試合開始18:30(開場18:00)
■会場　東京・後楽園ホール
■対戦カード:
★スマックガール初代ライト級王座決定戦
【SGS公式ルール/5分3R】
辻結花(総合格闘技闇愚羅)vs渡辺久江(フリー)
★スマックガール初代ミドル級王座決定トーナメント1回戦Bブロック
【SGS公式ルール/5分2R】
大向美智子(M's STYLE)vsイ・ヒジン(韓国)
エリカ・モントーヤ(米国/ネクスト・ジェネレーション)vs真武和恵(和術慧舟會東京本部)
★スマックガールライト級王座次期挑戦者決定トーナメント準決勝進出選手
15(所属不明)、おっさん(総合格闘技闇愚羅)、イ・スヨン(韓国)、斉藤"edge"あゆみ(パレストラ小岩)
【SGS公式ルール/-47kg契約 5分2R】
大室奈緒子(和術慧舟會東京本部)vs羽柴まゆみ(BBdoll)
【SGS公式ルール/5分2R】
川畑千秋(フリー)vs関友紀子(SOD女子格闘技道場)

SMACKGIRL-F 2005
〜Next Cinderella Tournament 2005 2nd stage〜

■日時　7月10日(日)試合開始14:00(開場13:30)
※11:30よりアマチュア大会『SG-F13』開催予定
■会場　東京・ゴールドジムサウス東京ANNEX 7F
■対戦カード
【SGS公式ルール/-50kg契約 5分2R】
舞(パレストラ松戸)vs渡邉浩財子(SOD女子格闘技道場)
【SGS公式ルール/-53kg契約 5分2R】
高林恭子(ALIVE)vs堺千陽(S-KEEP)
★The Next Cinderella Tournament 2005/-59kg級 準決勝
【SGS公式ルール/5分2R】
YUKAЯI(パレストラ千葉)vs端貴代(和術慧舟會東京本部)
赤野仁美(ガールファイトAACC)vs佐々木絹加(総合格闘技闇愚羅)

■問　スマックガール実行委員会 03-3324-8790
■HP　http://www.smackgirl.com/

6・28スマック後楽園で女子軽量級頂上決戦、辻結花vs渡辺久江が実現だーーッ!!

辻結花vs渡辺久江という女子格軽量級の頂上決戦が決まると、しばらく女子格から足が遠ざかっていたターザン山本も久々に炎上!『紙プロHand』連載コーナーで辻ちゃん宛に次のようなラブレターを送りつけてきた。

「辻結花様　え、辻さん、6月28日、後楽園のスマックガールで、あの渡辺久江選手とシングルマッチで一騎打ちをするんだって?　これはえらいことだあ。頂上決戦じゃないですか?　勝った方が女子格闘技界の"最強"を名乗ることになるんだよ。どうしよう?　ボクは辻さんとも渡辺選手とも知り合いなんだよね。渡辺選手のお母さんとも会っているんだよ。辻さんはその日、両親を後楽園に呼ぶの?　呼ぶんだったらボクに絶対紹介してね。会ってみたいなあ。でも、この勝負、どうなんだろう。なんだかさあ、こんなこと言ったら変だけど、ボクが個人的に応援した方が勝つような気がするなあ。だってボクは勝つためのまじないをかけることができるんだから……。冗談、冗談ですよ、そんなこと。いずれにしてもこの女の闘いは興味あるなあ。辻さんはクイーンの曲で入場してくるの?　それだったらボクはいやでも君のことを応援するしかないけどね……。ウン」

ここ最近、テーマ曲にクイーンは使っていない辻ちゃんだが、ターザンのラブレターを受け、果たして辻ちゃんはどうする!?　勝敗の行方と共に大注目だぁぁぁ!!

全部で約100名様!!

メヒコだ! ロシアだ!! アブダビだ!!!

RADICAL PRESENT the WORLD

MEXICO

タイガーマスク&ウルティモ・ドラゴンを追いかけてメキシコに潜入! アレナ・メヒコでの闘龍門8周年記念大会を見て、すっかりプロレス少年に戻ってしまった堀江ガンツがメヒコみやげを大量提供! ビバ・メヒコ!! 【堀江ガンツ提供】

各1名様

04 03 02 01

08 07 06 05

01★サント応援マスク
02★ドクトル・ワグナーJr. 応援マスク
03★ミスティコ応援マスク(タイプ1)
04★ミスティコ応援マスク(タイプ2)
05★ブルー・デモン応援マスク
06★マスカラス応援マスク
07★ミステリオJr. 応援マスク
08★迷彩ドクトル・ワグナーJr.応援マスク

03 02 01

06 05 04

01★ソラール・マスクキーホルダー
02★マスカラス・マスクキーホルダー
03★ワグナーJr.・マスクキーホルダー
04★ビジャノ・マスクキーホルダー
05★ミスティコ・マスクキーホルダー
06★サント・マスクキーホルダー

★タイガー&ドラゴン応援マスク

★ルチャめんこ

★ブルー・デモンTシャツ

★ミル・マスカラスTシャツ

★AAAラ・パルカ他サイン入りポスター【編集部提供】

サイン入り!!

★リアル・ジャパン旗揚げポスター(初代タイガー・サイン入り)【掣圏会館提供】

各3名様

★精解 五輪書 ～宮本武蔵の戦闘マニュアル～

兵頭二十八・著/¥1890 軍学者・兵頭二十八が宮本武蔵の『五輪書』を新解を提示。究極の解説本を完成させた! 剣技の写真解説モデルは佐山皇帝を起用!! 【新紀元社提供】

5名様

■HP***http://w3.shinkigensha.co.jp/

サイン入り!!

★闘龍門8周年記念大会Tシャツ(タイガー&ドラゴン・サイン入り)

RUSSIA

ヒョードルのサイン入り国旗や、レッドデビル・グッズ、サンボのエリート集団・サンボ70Tシャツなど、日本では入手困難なお宝をロシア取材で大量ゲッツ!!　ハラショー・ロシア!!　【堀江ガンツ提供】

★ロシアの格闘雑誌セット

★レッドデビル・キャップ

★ロシア国旗
（ヒョードル・サイン入り）

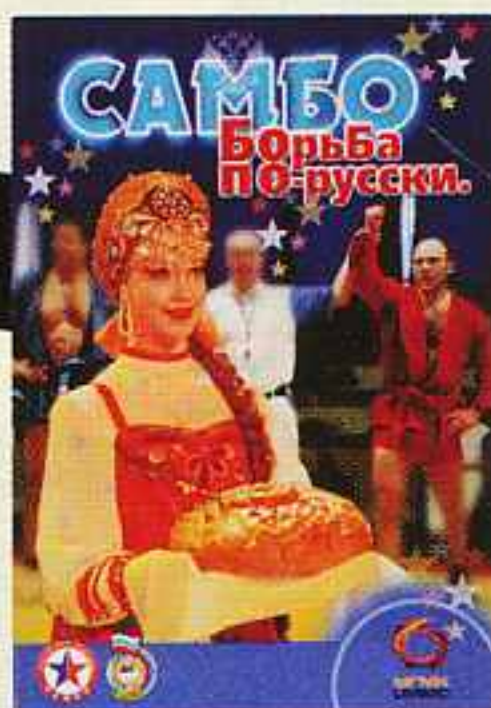
サイン入り!!

★M-1カレンダー

各1名様

★レッドデビルTシャツ

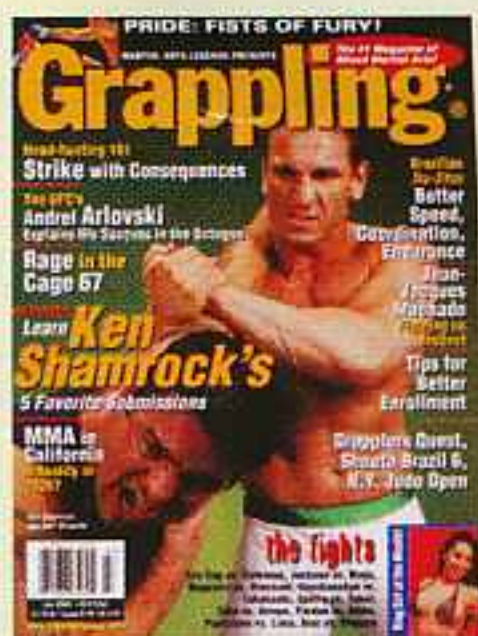
★CCCP Tシャツ

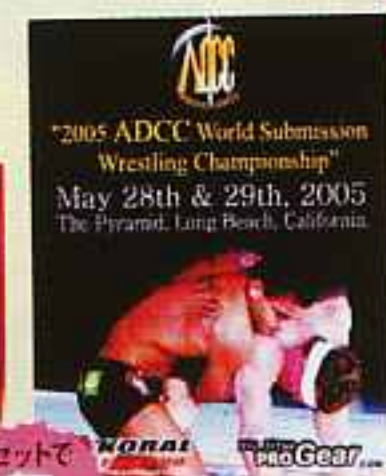
★サンボ70 Tシャツ

★ロシアのサンボ本

ADCC

世界にただ1つのアブダビみやげ!　2階級制覇ホジャー、女子の部優勝キーラ、MVPのマルセロ・ガルシア、ヘンゾ、日本人全選手、さらには出場してないジョシュ、ファスなど著名人がサインしたポロシャツをプレゼント!!
【橋本欽也提供】

各1名様

★アブダビ出場選手&関係者
サイン入りポロシャツ

サイン入り!!

★ADCCパス&
MMAマガジン『Grappling』

セットで1名様

★ADCCポストカード&
クリス・ブレナンブロマイド&
『グラップラーズ・ゲスト』ステッカー

セットで3名様

★HUNTER ハーフパンツ

★ADCCカレンダー&
OTMパッチ

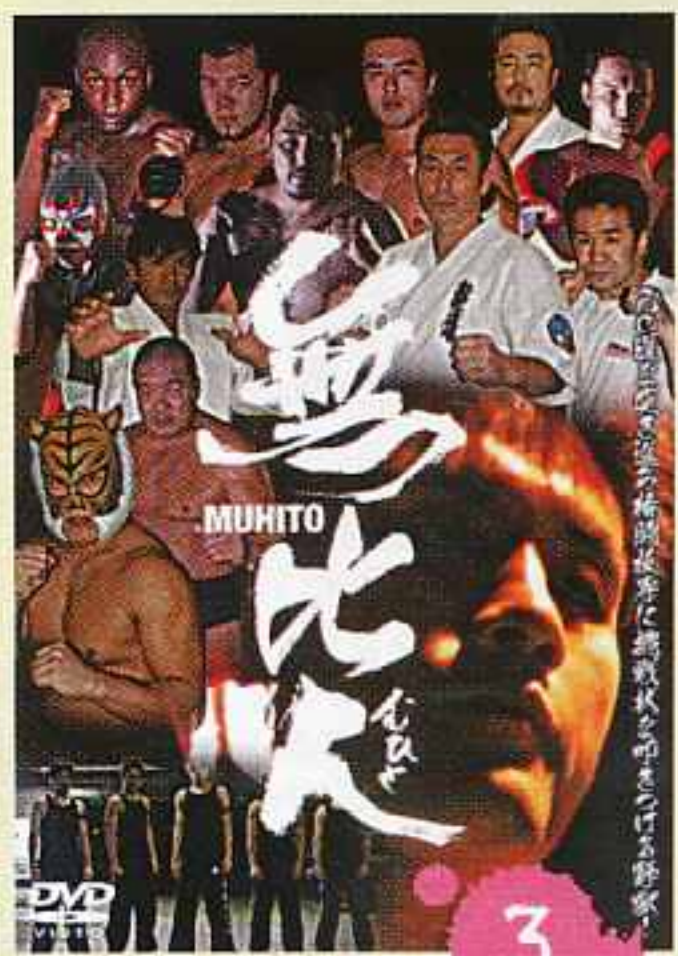
セットで2名様

★ADCC Tシャツ

★HUNTERタンクトップ
（ファブリシオ&コウレタ・サイン入り）

サイン入り!!

★『無比人』

3名様

DVD／カラー／87分／7月25日（月）発売

アブダビ王者・菊田早苗を主演に迎え、『紙プロ』で連載した真樹日佐夫先生の格闘小説『無比人』が遂にDVD化!　船木、エンセン、サスケ、藤原組長、数見肇と脇役も超個性派揃い!　激ヤバSMシーンはどう映像化されたのか!?
【GPミュージアムソフト提供】

■HP***http://www.gp-museum.com/

RADICAL No.88
応募券
5万ドル（税抜）

666

怨霊十執念六六六第八回興行

1名様

★666卒塔婆
5・21の666「怨霊十周年記念興行」での卒塔婆デスマッチで使用された卒塔婆をプレゼント! ダブルクロスまで取りに来ることができる方限定!!【666提供】

■HP***http://www.triplesix.jp/

BATTLE ROYAL

ヴァーッと健介&北斗夫婦のフィギュアが登場! ムタはノーマル&限定バージョンをプレゼント。そして6・26「PRIDE」出場決定の田村のフィギュア(黒Tシャツ Ver.もあり)も発売中!!
【プロ格本舗バトルロイヤル提供】

01★佐々木健介&北斗晶(バトルロイヤル限定Ver.)
¥4200(税込)
02★HAOソフビ グレート・ムタ クモVer.
¥3675(税込)
03★HAOソフビ グレート・ムタ クモVer.(バトルロイヤル限定Ver.)
¥3675(税込)
04★田村潔司 1/6フィギュア
¥8400(税込)

各1名様

■住所***東京都千代田区三崎町2-20-5丸山医院2F(11:00～19:30)
■TEL***03-3556-3223 ■HP***http://www.battleroyal.jp/

NADARESHIKI

★堀内壱
ジュニアLorMorL
カラー:コロニアルグリーン
¥3800(税込)
※プレゼントはL

★最強尻＿光
ジュニアMorジュニアLorSorMorL
コブルストーンorレイク
¥3800円(税込)
※プレゼントはコブルストーンのL

「身体の最も柔らかい部分を武器にする"ヒップアタック"こそ最強!」というモーレツな思い込みが詰まった『最強尻』は、昨年末の格闘技Tシャツフェスティバル T-1GPでチャンピオンを獲得!! 雪崩式製のバカTは下記アドレスor情報ページ(P116～)掲載のショップ『middle』で絶賛発売中! 覇ッ!!【雪崩式提供】

BACK

各2名様

■HP***http://www.nadareshiki.com/

COBRA

各1名様

★鉄人スーパーマン1号
¥3800/SorMorL
★三島フィギュア
¥1500/グレーorブラックorブルーorピンク
フロントはスーパーマン風、バックは鉄人28号風の三島☆ド根性ノ助Tシャツ登場! フィギュアは三島自らがペイント加工してからプレゼント!!
【三島☆ド根性ノ助提供】

■総合格闘技道場コブラ会HP***
http://www.geocities.jp/mishima_cobra/index.htm

RIKIPRO

1名様

★結婚式限定Tシャツ
立石史RIKIPRO代表の結婚式で配られた非売品Tシャツ(イラストは中川画伯)を、招待されたチョロ&ささきぃがゲット!【チョロ&ささきぃ提供】

ART JUNKIE

セットで1名様

★POUND BOBキャップ ¥3150(税込)
★オリジナル・ポストカード
パウンド時代が到来! 多くの格闘家とコラボを実現するART JUNKIEから、殴って殴って殴りまくる、怒りのパウンダーキャップ登場!
【ART JUNKIE TOKYO提供】

■TEL***GROUND COBRA 092-711-1021
■HP***http://www.artjunkie.jp/

KARATE

サイン入り!!

1名様

★小笠原先生が割った板
ZERO-1MAXに怒り心頭の小笠原先生が叩き割った板をプレゼント! 表の字はもちろん先生直筆、そして裏にはサイン入り! チェストーッ!!
【小笠原先生提供】

MEDIA FACTORY

各3名様

★『PRIDE GP 2005 1stROUND』
DVD/約211分/¥5040(税込)/6月24日発売
★『PRIDE武士道-其の六-』
DVD/約156分/¥5040(税込)/6月24日発売
ヒョードルvsTK、美濃輪vsアイブルが実現した「武士道」と、大阪で開幕した「PRIDEミドル級GP」が早くもDVD化!
【メディアファクトリー提供】

■TEL***03-5469-4880〈10:00～18:00/土日、祝日は除く〉
■HP***http://www.mediafactory.co.jp/

BOOKS

各3名様

★『DRAGON GATE オフィシャル・ブック vol.2』
¥1785(税込)
130ページ・オールカラー! 撮り下ろしグラビア、独占インタビュー、対談、グルメ企画、ユニット紹介、そして市川夫妻結婚式レポートなどなど、見どころ企画満載!
【ぴあ提供】
■HP***http://www.pia.co.jp/

★『格闘技 ディープ・インサイド』
¥1470(税込)
伝説の名勝負の裏側や、ストリートファイト列伝、格闘技団体分裂&崩壊の真相に迫る! 前田日明×新間寿×上井文彦、笹原GM×佐伯DEEP代表のスペシャル対談も収録!!【宝島社提供】
■HP***http://www.tkj.jp/

★『元アイドル!』
¥1680(税込)/吉田豪・著
新田恵利、いとうまい子、杉浦幸、中村由真、大西結花、杉田かおる……。総勢22人の元アイドルたちが過去&本音を語りまくる! インタビューは吉田豪! さらに1名様には、入手困難な単行本未収録の小冊子がついてくる!!
【ワニマガジン社提供】
■HP***http://www.wani.com/

5名様

★『大槻ケンヂのプロレス・格闘技世紀の大凡戦』
¥1470(税込)
馬場vsラジャ・ライオン、小川vsガファリ、アルティメットロワイヤル…。プロレス&格闘技の迷勝負・珍勝負を徹底検証! オーケン×吉田豪のスペシャル対談も収録だ!!【洋泉社提供】
■HP***http://www.yosensha.co.jp/

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦2005年上半期MVP&ワーストMVP
⑧2005年上半期ベストマッチ&ワーストマッチ

応募券

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「銭ゲバ・プラボー!!」係まで
※締切は2005年7月23日(土)当日消印有効

QUEST

現在クエストでは20周年大キャンペーンを実施中! 購入した商品に貼付されている「20th Anniversary」のシール3枚を集めると、もれなくクエストのDVD全182作品のハイライトが収録された特製DVD『クエスト全作品 武道&格闘技』(下記参照)をプレゼント!!
【クエスト提供】

各1名様

★『大光明祭'95 薙刀』
カラー/180分
¥5880(税込)

★『武道のすすめ』
カラー/114分
¥5880(税込)

★『大月晴明 豪腕伝説』
カラー/170分
¥5880(税込)

★『THE LEGENDS of AX』
カラー/245分
¥5880(税込)

3名様

★『クエスト全作品 武道&格闘技』
カラー/240分
¥980(税込)

■TEL***03-3360-3810 ■HP***http://www.queststation.com/

PONY CANYON

各2名様

★『K-1 WORLD GP in SEOUL』
DVD/111分/¥5040(税込)
★『HERO'S』オリジナルQUOカード
"踊る韓国の大巨人"チェ・ホンマンvs曙の日韓横綱対決が実現! 角田信朗復活、ガオクライ、ポンヤ出場など見所&衝撃映像盛りだくさん!!
【ポニーキャニオン提供】

■TEL***03-5521-8044
■HP***http://www.ponycanyon.co.jp/

大好評!! ハッスル グッズ!!

俺だけのハッスル
ボクだけのハッスル

ハッスルメッシュキャップ
[ブラック／レッド／イエロー／ピンク／ブルー／グリーン]
¥3150(税込)

ハッスル
ストラップ／キーホルダー
各¥1050(税込)

ハッスルリストバンド
[ホワイト／イエロー／グリーン／ピンク／ブラック／オレンジ]
¥1050(税込)

ハッスルK Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック]
¥3990(税込)

ハッスルI Tシャツ
[S・M・L・XL　ブルー]
¥3990(税込)

ハッスルホログラムステッカー
¥1050(税込)

残りわずか!
ハッスルロゴTシャツ
[XS・S・M・L・XL　ホワイト／ブラック／イエロー／レッド／ピンク／ブルー／グリーン／オレンジ]
¥3990(税込)

インリン様Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック] ¥3990(税込)

髙田モンスター軍Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥3990(税込)

ビターンTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック] ¥3990(税込)

New Jersey Powerful Warrior Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト×パープル]
¥3990(税込)

モンスターJ Tシャツ
[S・M・L・XL　グリーン] ¥3990(税込)

モンスター℃ Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック] ¥3990(税込)

『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい)
★代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00～22:00
(株)ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承下さい)。

紙のプロレス RADICAL
No.88
2005年7月20日発行
No.89は
7月27日(水)発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斎藤
真下義之
松下ミワ(新人)
八木賢太郎
(G1に備えて非番)

電気部
ささきぃ
松澤チョロ
斎野もみじ

ノ部(仮)
坂井ノブ
上杉八等兵

終身名誉バイザー
吉田豪

助っ人
ジャイ子

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
金井ヒサくん
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき (以上TwoThree)

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志 (以上さおとめの事務所)

カメラマン
森鷹博
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島勝儀
菊池茂夫
黒田史夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定&衣料部
林"GOKUTSUMA"一枝

体調
プリン体・入江(TwoThree)

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也
前田昌一

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

遅ればせながら

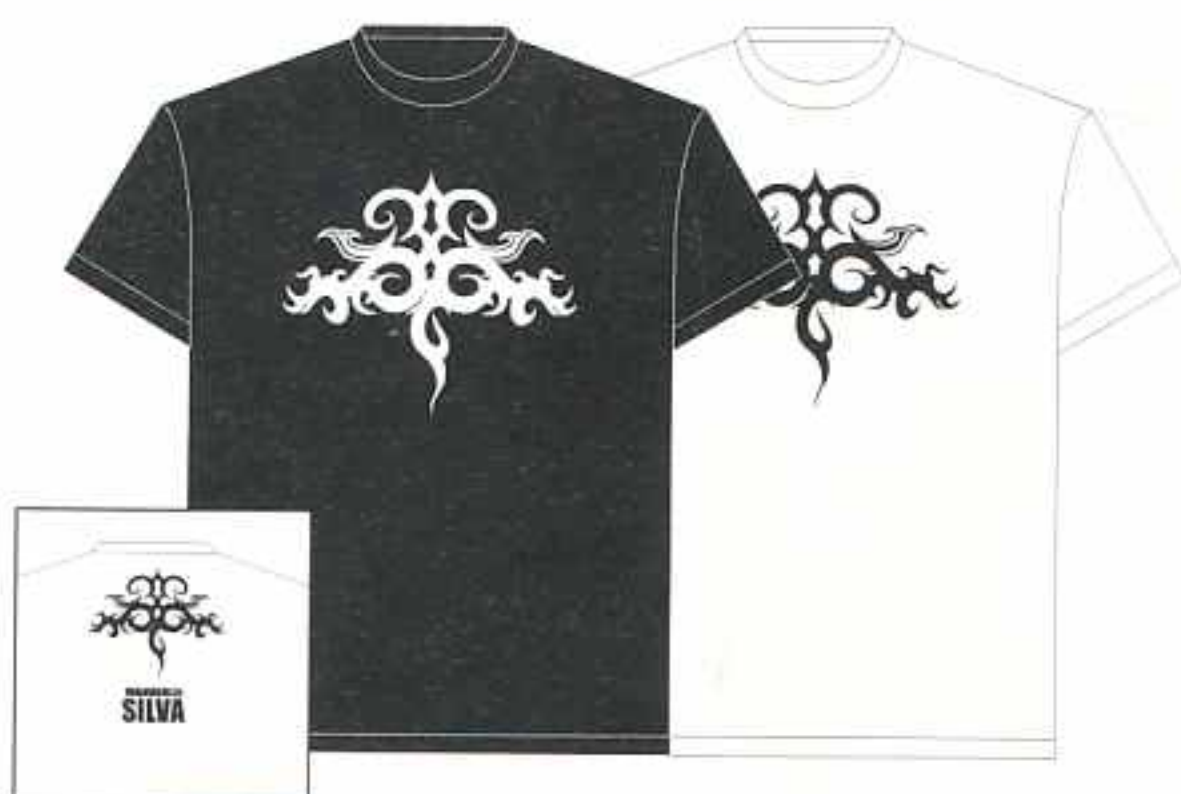
圧倒的なご要望にお応えして……

PRIDE グッズはじめました!!

ブラジリアン・トップチーム・ロゴTシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥4200(税込)

ブラジリアン・トップチームTシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト／ブラウン] ¥4200(税込)

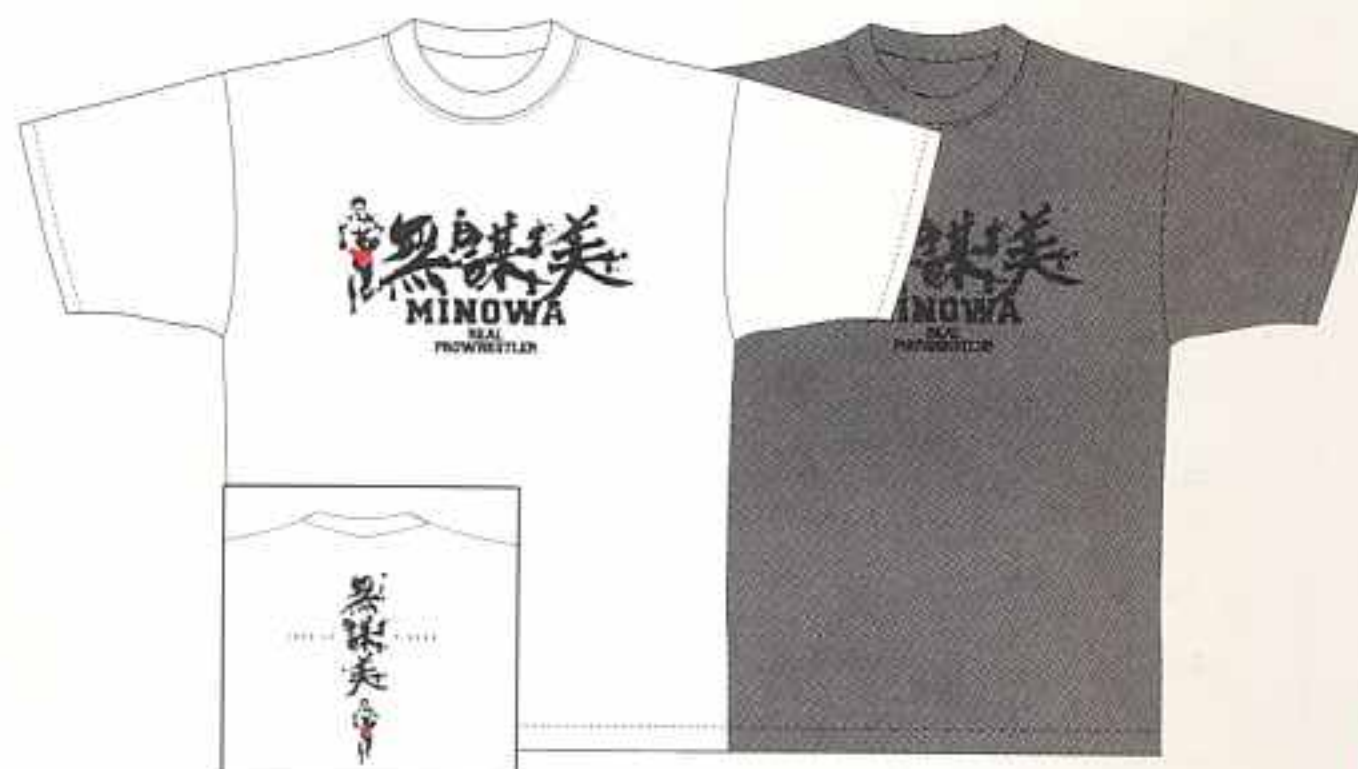
ヒョードル・イーグルTシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト／レッド] ¥4200(税込)

PRIDE.COM Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥3990(税込)

シウバHEAD TATTO Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥3990(税込)

※デザインが若干異なる場合があります。

teamCROCOP Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥4200(税込)

武士道 花札Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥3990(税込)

武士道Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥4200(税込)

美濃輪 無謀美Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック／ホワイト] ¥3990(税込)

ヒョードル・イーグルリストバンド
¥1050(税込)

ヒョードル・イーグルメッシュキャップ
¥3360(税込)

桜庭 炎のコマTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト] ¥3990(税込)

桜庭 炎のコマTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト] ¥3990(税込)

ヒョードル・イーグルスポーツタオル
¥3150(税込)

ヒョードルジャージ
[M・L・XL　レッド] ¥9345(税込)

桜庭ジャージ
[M・L・XL　オレンジ] ¥9345(税込)

シュートボクセ・ジャージ
[M・L・XL　ブラック] ¥9345(税込)

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶

au/TU-KA　トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

vodafone　メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

紙のプロレス Hand ▶ 紙プロ ショッピング